

戦姫絶唱シンフオギア  
×宇宙戦隊キユウレン  
ジャーGX、キユウレン  
ジャーを受け継ぐ戦士  
達

アツホマン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

キュウレンジャー達がドンアルマゲ率いるジャークマターを倒してから7年後、地球を侵攻する新たな脅威、キュータマに共鳴した新たなキュウレンジャー達が装者と共に地球を救う！

# 目次

スペース1、誕生、キュウレンジャーを 受け継ぐ戦士達	1	セラナちゃん！	123
スペース2、和斗と小太郎、リディアン 音楽院転校へ	25	スペース7、2人はハミイ先生の教え 子！	158
スペース3、オオカミブルーを受け継 いだ高校生、青野壮汰！	40	！	192
スペース4、響と未来達にバレた？俺 達の秘密！	67	スペース9、熱海に突然現れたオレン ジの蠍の戦士?!	206
スペース5、ヘビツカイとテンピンを 受け継ぐ2人！	96	スペース10、謎の転校生、桐山裕一！	215
スペース6、カジキを受け継ぐお料理		スペース11、結成、キュウレンジャー を受け継ぐ9人の救世主、2人の装者！	232
		スペース12、和斗リーダーと響先輩	

- と未来先輩のシンフォギアキュウレン  
ジャーファイル特別編！ ————— 250
- スペース13、宇宙ギャンブルカジノ、  
決めろ壮汰のラッキー！ ————— 273
- スペース14、沖繩のサーフィン対決、  
デープVS功太&祐一、シーサー像に  
隠してたキュータマ！ ————— 309
- スペース15、ゼンカイジャークロス、  
ここは何処？ゼンカイジャーの世界？前  
編！ ————— 332
- スペース16、ゼンカイジャークロス、  
ここは何処？ゼンカイジャーの世界？中  
編！ ————— 341
- スペース17、ゼンカイジャークロス、  
ここは何処？ゼンカイジャーの世界、後  
編！ ————— 358
- スペース18、誕生、和斗達専用のバイ  
ク！ ————— 384
- スペース19、専用バイクの隠された  
機能！ ————— 411
- スペース20、襲撃？北海道本部？新  
たな敵、錬金術師！ ————— 427
- スペース21、リベリオン北海道本部  
半壊、悲しみの雨！ ————— 446
- スペース22、間に合え、切歌と調の償  
い！ ————— 459

スペース23、対決オートスコアラ

！  
———  
477

スペース24、イグナイトモジュール

抜剣、覚醒のサイコーキュータマ！

491

スペース25、決着の戦い、和斗&装者

4人VSキャロル！  
———  
517

スペース26、和斗と響と未来の思い

！  
———  
541

スペース27、和斗の1日休暇、響と未

来とのデート！  
———  
564

スペース28、手に入れるアメノハバ

キリキュータマ、和斗の最悪のアンラッ

キー！  
———  
586

スペース29、11人の救世主と4人

の装束のオールスター！  
———  
616

スペース30、鳳ツルギのハウオウソ

ルジャーを受け継ぐ青年スバル！

649

スペース31、和斗VSスバル、2人の

戦い！  
———  
670

スペース32、スバルの決意、覚醒のア

メノハバキリキュータマ！  
———  
683

スペース33、鹿兒島を守れ、発揮のイ

グナイトキュータマ！  
———  
707

スペース34、脅威のダンス対決、乙女

- 座系カロリーのナルシスト! ————— 732
- スペース35、対決、爆走バイクレース ————— 755
- ! ————— 755
- スペース36、千葉のサッカー試合、セ  
レナのシュート! ————— 784
- スペース37、行くぜ木星へ、ネオ  
ジャークマターとの決戦、前編! ————— 816
- スペース38、行くぜ木星へ、ネオ  
ジャークマターとの決戦、後編! ————— 836
- スペース39、ジェミニスとの決戦、ネ  
オジャークマターの最期! ————— 855
- スペース40、和斗と響と未来のプ  
ルデート、和斗が二人?! ————— 881
- スペース41、海での特訓、マリアの強  
くなりたい迷い前編! ————— 901
- スペース42、海での特訓、マリアの強  
くなりたい迷い後編! ————— 917
- スペース43、ザババの犬猿の仲!  
————— 942
- スペース44、仲直りのイグナイトモ  
ジュール! ————— 958
- スペース45、切歌と調とみんなの力  
! ————— 979
- スペース46、襲撃惑星ダグー? ゾ  
————— 979

ディアックの力！

1002

スペース47、防人の流す涙！

1022

スペース48、深淵の竜宮の対決、完

成、キュウレンランチャー！

1043

スペース49、チフオージユシャトー

の真の力、響と洗の勇氣！

1062

スペース50、突入要塞チフオージユ

シャトー、ゾディアックの企み！

1080

スペース51、ゾディアックキャロル

と対決、ピンチをチャンスに？！

1102

スペースファイナル、光輝く未来へ

よっしやラッキー！

11411118

エピソード！

番外編&トーク！

スペーススペシャル、皆様お疲れ様ス

ペシャルトーク（学生）！

1151





# スぺース1、誕生、キユウレンジヤーを受け継ぐ戦士達

7年前の3月、東京の道路

? (ひつく、ひつく!)

道路で泣いてる10歳の黒髪のリボンのポニーテールの少女と黄色い髪のパブヘアの少女。

? (大丈夫だ、響、未来、2人をいじめるアイツらは俺が追っ払ったぜ!)

泣いてる2人の少女の名前を言う、同じ年の黒色の普通のくせのある髪型の少年。

響 (ありがとう!)

未来 (和斗君、優しいね!)

未来は少年の名前を言い。

和斗 (ああ、俺はいつか人々を守る宇宙の救世主になるんだ!)

響・未来 ((宇宙の救世主?!))

響と未来は和斗の言う宇宙の救世主の言葉で驚き。

和斗 (ああ、俺は大人になったら人々の星や命を守るため、それが俺の夢なんだ!)

和斗は宇宙の救世主になる理由を響と未来に教え。

響（すごい、和斗君、大きな夢があるの、じゃあ私は将来、未来と和斗君を守る！）

未来（私は将来、和斗君と響とずっと一緒にいたい！）

響、未来は自分の将来の話を言い。

和斗（叶えるといいな、俺達の夢！）

響（うん、きつと叶えるよ！）

3人（アハハハハ）

3人は同時に笑い合う。

それから7年後、現在。

和斗「よつと、まあ：こんな感じかな?!」

俺の名は獅子野和斗、獅子座生まれの高校生、7年前の3月までは両親と生まれ故郷で暮らし、4月に親父の仕事の都合で両親と埼玉に引っ越し、一度は響と未来とは別れ、そして現在は親父が東京の仕事に戻ることにになり、俺の通った埼玉の高校の春休みをきに埼玉から引っ越し、両親と生まれ故郷の東京に戻り、住んでいた家の整理や荷物ほどこきをしている、ちなみに住んでる家はILDKの一戸建て。

? 「和斗のお父さん、この荷物はどこに置くんですか?!」

父「ああ、そつちに置いてくれ、後は自分でやるから！」

母「小太郎君、手伝ってくれてありがとう！」

小太郎「いえ、春休みで退屈なので和斗の連絡で手伝いに来ただけです！」

こいつは佐久間小太郎、俺と響と未来の小学時代の友達、現在は16歳で、今年で俺と同じ高校二年生、今も弟の次郎と叔父と叔母と一緒に住んでる。

？「小太郎、この荷物はどこに置く?!」

小太郎「それは和斗の私物だから2階だよスティングー兄貴！」

小太郎と話をしてるオレンジの蠍のような尻尾の男はスティングー、今日は小太郎の手伝いで来た。

和斗「しかし驚いたな、小太郎の兄貴分が蠍座系出身の男とは！」

小太郎「ああ、俺が小学生の頃、ジャークマターから俺と次郎を救った恩人だ、兄貴はすごいぞ！」

2時間後、荷物ほどきと整理を終え、俺は両親と小太郎とスティングーさんはリラックスをし、テレビを見る。

小太郎「ツルギ、地球と宇宙の為に頑張ってるな！」

ステインガー「ああ、アイツは地球代表の銀河大統領として皆の為に頑張ってる！」  
そう、7年前、俺が埼玉にいた頃、響と未来のいる東京と地球はジャークマターに占拠され苦難になり、それに対抗すべくシシレッド達リベリオンが戦い続け、遂に首領ドンアルマゲを倒し、現在は鳳ツルギ大統領が地球人と宇宙人の共同宣言をし今も仲良く楽しんでいる。

母「お腹すいたんでしょ？何か買っていくわ、ステインガーさんも小太郎君も手伝ってくれたお礼にご馳走するわ、何がいい?！」

和斗「あつ、母さん、俺が買いに行くよ、牛丼でいいか?！」

父「ああ、それでいいぞ！」

ステインガー「和斗、俺も行くぞ、お前だけじゃ心配だからな！」

和斗「いいんですか？ありがとうございます！」

俺は母さんから昼食代を貰い、ステインガーさんと一緒に牛丼を買いに行つた。

ステインガー「ここが、お前と2人の幼なじみが暮らした街か！」

和斗「はい、埼玉に引つ越す前まで暮らしてたんですよ、あつ、この道路は懐かしい、小学生の頃、響と未来をいじめから助けたんですよ！」

俺は通った道路を見て懐かしみ、すると。

？「未来ー、行くよ！」

未来「待って、響！」

懐かしい声が聞こえ。

和斗「あれは？響？、未来?!」

そう、俺が道路で見たのは黄色い髪でボブヘアにモミアゲにヘアピンと黒髪のショートカットに後ろに白いリボンを着けた2人の女の子、間違いない、俺の幼なじみの立花響と小日向未来だ。

和斗「響、未来ー！」

俺は響と未来に声をかけながら走ると。

ステインガー「はっ、和斗？危ない！」

和斗「へっ？、うわっ?!」

スル！

響「えっ？きやつ！」

未来「きゃっ!」

ドン

バナナの皮が滑った俺は響と未来の所に倒れ、ステインガーさんは駆けつけ。

ステインガー「和斗?大丈夫か?!」

和斗「いてて、大丈夫ですよ?!」

ステインガー「んっ?、和斗お前が両手に持つてるそれは?!」

和斗「んっ?まさかこれは?スカート?、てことは?!」

俺は前を見ると。

響「えっ?私と未来のスカート?えっ?!」

響は見ると。

響「キヤアアア!」

和斗「ごごごゴメンよ、わざとじゃないんだ、バナナの皮が滑って、これ返すよ!」

俺は慌てて響と未来のスカートを返し、走った。

ステインガー「和斗、待ってくれ、すまない2人とも！」  
ステインガーさんは2人に謝って俺の所へ走る。

未来「響？もしかしてさっきの人、私達の幼なじみの和斗君?!」

響「えっ？小学生の頃、私と未来をいじめから助けた和斗君？、とにかく追いかけてみよう！」

私と未来は2人の後を追った。

牛丼屋

店員「ありがとうございます！」

和斗「よし、帰りますか！」

響「はあはあ：： やっぱ和斗君だー、久しぶり！」

響と未来は牛丼屋に行ってる俺とステインガーさんの所へ走って着き、久しぶりと言う。

ステインガー「お前達が和斗の幼なじみの立花響と小日向未来か？、はじめまして、俺はステインガーだ！」

未来「はじめまして、所で和斗君、どうして戻ってきたの?!」

和斗「ああ、3月に親父の埼玉の仕事が変わって、春休みをきに東京に戻ってきた！」

未来は俺に理由を聞き、俺はそれを答える。

響「和斗君？袋に持つてるそれは牛丼?!」

和斗「な…何だよ、これは俺達の昼飯だぞ！」

響「ニヤリ！」

響は俺の持つてる牛丼を見てニヤリする。

獅子野家

ガチャ

和斗「ただいまー！」

母「お帰り和斗、あら？響ちゃん、未来ちゃん、久しぶり?!」

未来「お久しぶりです和斗君のお母さん！」

響「あれ？小太郎君、何で和斗君の家にいるの?!」

小太郎「今日は和斗の家の手伝いに来たんだ！」



母「さあ上がって、整理が終わったばっかで、響ちゃんと未来ちゃん、お昼は?!」

響「私も未来も自分の分、買いましたので大丈夫です!」

俺達はお昼を食べ終わって数十分後、俺は2階に行つて自分の部屋に行き、ゆつくりする。

響「あれ、和斗君は?!」

父「和斗なら2階の自分の部屋にいるぞ、引越しの荷物ほどこきや色々頑張つてたからな!」

未来「響?どこ行くの?!」

響「和斗君の部屋!」

未来「待つて、私も行く!」

響と未来は2階に行つて和斗の部屋に行く。

ステインガー「それじゃ和斗のお母さん、お父さん、俺達も帰ります!」

父「ああ、ステインガー、小太郎君、今日はありがとう、助かったぞ!」

小太郎「いえ、とんでもないよ俺も久しぶりに和斗に会えて良かった!」

ステインガー「それじゃ!」

母「小太郎君、遊びに来てね!」

小太郎「はい、今度は弟の次郎も連れてきます!」

ステインガーさんと小太郎は玄関を出て、帰った。

2階、和斗の部屋

和斗「はあー、疲れた！」

俺は自分の部屋のベッドで寝転がる。

和斗「ラッキーさん、どうしてるのかな?！」

俺は起き上がり自分の勉強机の写真立てに置いてる物を触る、そう、ラッキーさん達が着けたセイザブラスターだ。

ガチャ

響「かーずーと君！」

和斗「えっ? 響? うわあああ、入るんだったらノックしろよ!」

未来「もう響、和斗君ごめんね、驚かして!」

和斗「いや、いいんだよ未来は!」

未来は俺に謝り、俺はセイザブラスターを後ろに隠してベッドの方へカニ走りし、ベッドの下に隠す。

響「わあ、和斗君の部屋、懐かしい、ここで小さい頃、私と未来と和斗君と遊んでたね!」

未来「ホントだね、あれ? 和斗君? この写真は何?！」

未来は勉強机に置いてる写真立てに気づき。

和斗「ああ、写真に写ってる2人はラッキーさんとガルさんという人！」

俺は未来に2人の名前を教え未来は。

未来「あの二人なら知ってる、私と響がリディアンの1年の時、タワーの爆破に落ち  
そうな時に救ってくれたの！」

和斗「えっ？響と未来、ラッキーさんとガルさんに助けてくれたのか?!」

響「うん、その後、私達を守ってくれたよ！」

和斗「ラッキーさん？響と未来を助けてくれたんだ、実は埼玉にいた頃、俺もラッキー  
さんとガルさんに助けてくれたんだ！」

俺はすぐ響と未来に埼玉にいた頃、ラッキーさん達に助けてくれた事を話す。

響「えっ？和斗君もラッキーさんとガルさんに助けてくれたの?!」

和斗「ああ、俺が小学5年生の頃、小さい子供をかばって事故に遭い、ラッキーさん  
とガルさんが病院に駆けつけ、死にそうになった俺を助けたんだ！」

未来「えっ？和斗君、その後は大丈夫だったの?!」

未来は俺に心配し。

和斗「ああ、ラッキーさんが自分の血を俺に輸血し、その後は元気になったよ！」

俺は答えた。

響「あれ、和斗君？そのハンガーに掛けてるジャケットは何?！」

響は俺の部屋に掛けてる赤いジャケットが気になり。

和斗「それは、俺が病院で目覚めた時に置いてあつたんだ！」

未来「でも何だか、後ろの星のマークがカッコいい！」

和斗「そつ、そうかー！」

それから1時間以上に俺は響と未来と話をし、響と未来は 下に降りて玄関に行き、俺は見送る。

未来「じゃあ和斗君、近いうちにまた会いに来るね！」

和斗「そつか、響と未来はリディアンの寮の生活してんだな！」

響「たまには私と未来の所にも泊まりに来てね！」

和斗「ああ、よっしやラッキーにな！」

響・未来「「よっしやラッキー?!」」

和斗「ああ、ラッキーさんが言つたんだ、運を信じて言う言葉！」

俺は響と未来によっしやラッキーを説明した。

ガチャ

響「和斗君またね！」

和斗「ああ、2階の部屋に空き部屋があるからたまには泊まりに来いよ！」

俺は外に出た響と未来に手を振り玄関のカギを閉め、部屋に行つてパソコンを開いて調べた。

和斗「何々？3年前のライブ事変の生存者は立花響？、響、無事だったのか?!」

和斗「次に1年前のルナアタックの日とフロンティア事変、えーとルナアタックは、フィーネが砕いた月を地球に衝突しようとする4人の装者が打ち破る、4人の装者の名は天羽奏、風鳴翼、立花響、雪音クリス、響の名前が書いてある…。次のフロンティア事変、タワーの爆破に落ちそうな立花響と小日向未来を救出、救つたのはラッキーとガル、ドクターウエルのネフィリムを阻止した7人の装者と1人の救世主、ラッキーさん、フロンティア事変の時に響と未来を守つたのか！」

それから1時間後、俺はパソコンを閉じ、ジャンパーを着て出かける用意をし。

和斗「おっと、これも忘れるところだ！」

俺はベッドに隠したセイザブラスターをポーチに入れ、階段を下りて玄関で靴を履き。

父「おつ、和斗？どこに行くんだ?!」

和斗「あつ、親父、俺、今から散歩に行ってくる！」

父「和斗、ノイズに気を付けろよ、最近街ではノイズが発生してるからな！」

和斗「大丈夫、夕方には帰ってくるよ、行つてきます！」

ガチャ

俺は玄関を開け、カギを閉めて出かける。

母「和斗！」

父「母さん、和斗なら心配するな、散歩に出かけるだけだ！」

父は和斗の事を心配する母の肩をポンとたたく。

一方、東京の新宿

響「わーい、限定ドーナツをゲット出来たね未来！」

未来「響、あんまり食べすぎないでね、さつき和斗君の所でお昼を食べたんだからね

！」

響「大丈夫、帰ってから一緒に食べよう！」

未来「もう！」

響「それにしても、宇宙人の人、いっぱいだね！」

未来「そうね、地球に観光や来る人、暮らす人が大勢だからね！」

その時

ウー

アナウンス「新宿にノイズ発生、ノイズ発生、一般の方はシエルターの方へ避難して

ください、繰り返す、シエルターの方へ避難してください！」

ノイズが現れ、市民達の方へ向かう。

市民「ノイズだ！」

市民「助けてくれ！」

市民達の叫び声が聞こえ。

未来「響！」

響「未来、先ずは逃げよう！」

その頃、東京の公園

和斗は公園のベンチに座り。

子供「えーん、風船が木に引っ掛かったー！」

和斗「坊や、俺に任せろ、おりや！」

俺は勢いよく飛んで木に引っ掛かった風船を取り、子供に渡す。

和斗「ほら、もう離すんじゃないぞ！」

子供「お兄ちゃん、ありがとう！」

和斗「どういたしまして！」

ウー

公園のサイレンがなる

アナウンス「新宿にノイズ発生、ノイズ発生、一般の方はシェルターの方へ避難してください、繰り返し、繰り返す、シェルターの方へ避難してください！」

和斗「もう家に帰るんだ、お父さんとお母さんが心配してるぞ！」

子供「うん、バイバイ！」

子供は和斗にバイバイし、家に帰り。

和斗「もしかして、響と未来が危ない！」

俺は新宿に向かって走る。

一方、新宿

ピッピッピッピッ

響のスマホが鳴り、響はそれを出す。

響「もしもし？師匠？どうしたんですか?!」

連絡相手は玄十郎だった。

玄十郎「響君？聞こえるか？今、クリス君が現場に向かっている、それまでは未来君と市民の人たちを安全なところへ避難誘導を頼む！」

響「わかりました！」

ピッ



響「未来、先ずは未来を安全なところへ連れていくよ！」

未来「でも響、市民の人たちはどうするのかするよ」と

和斗「響、未来！」

和斗が響と未来の方へ駆けつける。

響「和斗君、どうしたの?！」

和斗「響と未来の事が心配だから、散歩かから駆けつけたんだ！」

未来「和斗君、市民の人達がまだ避難してるの！」

和斗「よし、それなら俺が市民の人達を安全なところへ移動させる、響は未来を連れて逃げろ！」

響「でも、和斗君は?！」

和斗「心配するな、みんなが避難したら俺もすぐ逃げる！」

響「ごめんね和斗君、気をつけてね、今、私の友達が助けに来るから！」  
響は未来と一緒に安全なところへ逃げる。

和斗「ノイズめ、お前らの好きにはさせない！」

俺はポーチに入ったセイザブラスターを左腕に着け、避難してる人たちの方へ駆けつけ。

地球周辺、バトルオリオンシップ

? 「司令、地球の新宿にノイズが現れました、どういたします?!」

? 「よし、今から小太郎を現場に向かわせる、小太郎、聞こえるか?!」

小太郎 「ああ、聞こえるよ司令!」

? 「新宿にノイズが多数現れた、現場に向かつてくれ!」

? 「市民の人たちの避難の方はまだです、あれ、彼は?!」

ピンクのジャケツトを着た女性アンドロイドがモニターを見てノイズと戦ってる少年に気づき。

? 「あれは?和斗?どうしてここに?!」

オレンジのロングコートを着た男がノイズと戦ってる和斗を見る!

? 「小太郎!」

小太郎 「オツキュウ、すぐ出るよ!」

小太郎はバトルオリオンシップ格納庫の水色のクマの形したマシンに乗って格納庫から発進する、そうキュウタマシン、クマボイジャーだ。

一方、新宿

和斗 「くらえ、ノイズ!」

俺はセイザブラスターのトリガーを押ししてビームを撃ちノイズに命中。

和斗「早く逃げろ！」

市民「ありがとうございます！」

逃げ遅れた人達は無事に避難。

和斗「よし、何とかみんな逃げたな、何だ?!」

俺は空中に現れた謎の物体を見る。

潜水基地

? 「司令、地球上に謎の物体が多数現れました！」

玄十郎「何だと? 数は?!」

? 「およそ数十体です！」

潜水基地の中にはワインレットの服を着た男、司令の風鳴玄十郎と戦艦基地のオペレーターの2人は藤高と友里。

玄十郎「クリス君? 聞こえるか?!」

クリス「ああ、聞こえてるぞおっさん！」

玄十郎「現場までどれぐらいかかる?!」

クリス「後少しかかる！」

玄十郎「なるべく急いでくれ、今、一般人がノイズを倒して逃げ遅れた人たちの避難をしてる！」

クリス「マジかよ？急がねーと！」

赤いのを纏ってる少女、クリスは急いで駆けつける。

一方、公園

響「ここまで来れば大丈夫だね！」

未来「うん、でも和斗君が！」

未来は和斗を心配し。

響「大丈夫だよ、未来、今、クリスちゃんが向かってる！」

未来「和斗君！」

その頃、新宿

俺の前に現れた数十体の黒い戦闘員とデカイ奴が2人。

和斗「お前らは一体誰だ?！」

？「我々はネオジャークマター、ジャークマターの新たな組織、俺はネオツヨインダ  
ベー、そしてコイツらはネオインダベー！」

和斗「ジャークマターの新たな組織だと？ふざけるな！」

俺はセイザブラスターを構え、ビームを敵に命中。

和斗「なっ？効かないだ?！」

ネオツヨインダベー「ハハハ、そんなひ弱な攻撃じゃ俺達には敵わんぞ、やれ！」

ネオインダバー「ダベ！」

数十体のネオインダバーは銃を構え、俺の方を狙い。

和斗「おわっ、ヤバイ！」

俺はその銃弾をすかさず避け、隠れてセイザブラスターを構え撃つ。

和斗「よし、1体倒したぜ、うわっ?!」

俺はその銃弾が右腕に当たった。

ネオツヨインダバー「ガハハハ、こけ落としか?やれ！」

ネオインダバーは銃を再び構え、撃つ準備をし。

和斗（くそっ、俺はまだ死んでたまるかよ、せつかく響と未来と再開出来たのに、こ

こで死ぬるかよ!）

和斗は負傷した右腕を抑えながら立ち上がり。

ラッキー（いいか?和斗、運試しは試すだけじゃなく、大切な人を守る心が大事、だ

から幸運の星がお前を導くからな!）

和斗「俺は絶対に負けない、俺は大切な人やみんながいる地球を守るためにお前らな

んか負けない！」

バトルオリオンシップ

?「和斗！」

？「あつ、司令、大変です、シシキュータマがバトルオリオンシップから飛び出しました！」

？「何だと?!」

バトルオリオンシップにあった赤い玉が地球に向かって大気圏突入。

公園

未来「あれは？赤い獅子座流星群？もしかして?!」

響「あつ？未来？どこ行くんだよ?!」

未来「新宿の方、和斗君が心配！」

未来と響は赤い獅子座流星群に向かって走る。

新宿

ネオツヨインダベー「構え、射てー、何だ?!」

赤い獅子座流星群がネオツヨインダベーとネオインダベーの方へ落ち。

ネオツヨインダベー「うわつ、何で赤い隕石が大量に降ってくるんだ?!」

ドーン

和斗「何だ？あれは?!」

俺は敵に命中した赤い隕石を見る、すると、中から赤い玉が現れ俺の手元に渡る。

和斗「これは、シシキュータマ？何で?!」

ラッキー（和斗、お前なら大好きな響と未来を守る、だから自分を信じて！）

和斗「ラッキーさん、あれ？セイザブラスターが光ってる？俺になれつつのか、キュウレンジャーに?!」

小太郎「和斗？間に合った、あれ？何でシシキュータマが和斗の手元に持ってる?!」

？「恐らく、シシキュータマが和斗に共鳴してバトルオリオンシップから飛び出した  
！」

和斗「そうだ、この力で俺は大切な人を守る、俺は大切な日だまりと太陽を救う、行くぜ、マワースライド！」

シシキュータマ！

俺はシシキュータマをセイザブラスターの真ん中に着け、それを真下に押し。

セイザチェンジ！

和斗「スターチェンジ！」

俺は変身ポーズを構え、トリガーを引き、すると俺の足元に星のマークが現れ俺の体を包み、姿が変わり、最後に顔に獅子のマークをしたヘルメットを装着。

ネオツヨインダバー「なな、何だ貴様は?!」

シシレッド「スーパースター、シシレッド！」

ネオツヨインダバー「なっ？その姿、まさかあの伝説のキュウレンジャー?!」  
シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊キュウレンジャー!」

クリス「よっと、現場に着いたぜ、ななな？何だよアイツは?!」

クリスはシシレッドを見て驚き、響と未来は新宿に着き。

響「えっ？あれって？私と未来を助けたシシレッド?!」

未来（私と響の前に現れた赤い戦士、そう、これが運命の始まり!）

ネオツヨインダバー「おのれキュウレンジャー、かかれー!」

ネオインダバー「ダベ！ダベ!」

シシレッド「お前らの運、試してやるぜ!」

シシレッドになった和斗はネオジャークマターに立ち向かう、そう、ここから救世主を継ぐ新たな戦士達の物語が始まった。

NEW STORY!



## スペース2、和斗と小太郎、リディアン音楽院転校へ

ネオツヨインダバー「かかれー！」

ネオインダバー「ダベ！ダベ！」

シシレッド「お前らの運、試してやるぜ！」

シシレッドに変身した和斗は襲いかかるネオツヨインダバーとネオインダバーの方へ駆けつけ、攻撃を仕掛ける。

二課潜水基地

玄十郎「何なんだ？あの戦士は?!」

友里「司令、どういたしますか?!」

藤? 「でも、あの赤い奴、何だかカッコいいな！」

モニターで藤高はシシレッドを見てカッコいいと尊敬。

友里「司令、シシレッドから聖遺物反応ができました！」

玄十郎「何だと？クリス君、今は赤い戦士と一緒に地球に侵攻する敵を対処だ！」

新宿

クリス「あのライオン野郎を助ける？わかったよ、助けてやるよ」

クリスはシシレッドの方へ駆けつける。

クリス「おい、ライオン野郎、助太刀するぜ！」

シシレッド「ああ、助かるぜ！」

キュウソード

シシレッドは4つのパーツを組み立てて剣の形になり。

小太郎「司令？どうするんだ?！」

?「とにかく、あの赤い女の子と和斗の援護をしてくれ！」

小太郎「オツキュウ！」

小太郎は通信を切り、ズボンのポケットから水色のキュータマを出す。

小太郎「マワースライド！」

コグマキュータマ！セイザチェンジ！

小太郎「スターチェンジ！」

小太郎は水色のキュータマをセイザプラスターに着け、ポーズをし、トリガーを押し  
て変身。

小太郎「ビッグスター、コグマスカイブルー！」

小太郎はコグマスカイブルーになり、シシレッドとクリスの元へ駆けつける。

クリス「てっ、今度は水色のクマ?!」

コグマスカイブルー「クマだけどこれはコグマだよ！」

シシレッド「ノイズめ、また現れたな！」

コグマスカイブルー「だったらこれでカタをつける！」

コグマスカイブルーは現れたノイズの前に立ち、バックルから水色のキュータマをセ  
イザブラスターに着け、後ろに引く。

オオグマキュータマ！セイザアタック！

コグマスカイブルーはオオグマキュータマを使って巨大化し、ノイズに向かって腕を  
ふる。

クリス「てっ？今度はでっかくなりやがるー！」

クリスは巨大化したコグマスカイブルーを見てツツコむ。

シシレッド「おりや、どりや！」

シシレッドはキュウソードを振って次々にネオインダバー供を切り裂く。

シシレッド「後はお前らだ！」

ネオツヨインダバー「こしやくな、くらえ！」

シシレッド（この力で俺は響と未来を守る！）

俺はセイザブラスターに着けてるシシキュータマを外し、キュウソードに装填。

ギヤラクシー！

シシレッド「くられ、レグルスインパクト、横切りバージョン！」

キュウソードの剣先から赤い炎が出て、俺は必殺技を言いながらネオツヨインダベールに向かって走り、横切りをした。

ネオツヨインダベール「ギヤール！！」

ドーン

ネオツヨインダベールは倒れ爆破。

クリス「これでもくらいやがれ！」

ギヤラクシー！

コグマスカイブルー「オールスタークラッシュュー！」

スーパーギヤラクシー！

クリスは赤い2拳銃でノイズに命中し、コグマスカイブルーはセイザプラスターのチャージ攻撃で残りのノイズを命中。

クリス「ふう、終わったな、お前もやるなクマ野郎！」

コグマスカイブルー「へへ、このくらい平気さ！」

ピピピピピ

クリス「おう、おっさん？どうした?!」

玄十郎「クリス君、赤い戦士と水色の戦士を本部に連行してくれ、あの二人から聖遺物反応が出てる！」

クリス「はあ？マジかよ、わかったよ、連行すればいいだろ?!」

ピッ

クリスは通信を切る。

クリス「おい、ライオン野郎、クマ野郎、お前らを本部に連行しろとおっさんに頼まれたからな！」

コグマスカイブルー「えーと、ごめんなさい！」

コグマスカイブルーはクリスに謝り、セイザブラスターに着けてるコグマキュータマを右に倒し、空に構えてトリガーを引いた。

セイザ・ゴー!クマボイジャー!

コグマスカイブルー「和斗、乗って！」

シシレッド「えっ?お前、何で俺の名前を知ってる?!」

コグマスカイブルー「話はバトルオリオンシップで話すからとにかく乗って！」

シシレッド「よくわかんないけど、わかった！」

俺はコグマスカイブルーという奴の言う通りにし、クマボイジャーに乗り、発進。

クリス「てっ?オイ、待てよ、お前らに話したいことがあるだろ?!」

クリスは宇宙へ向かうクマボーイジャーに文句を言う。

響「クリスちゃん、大丈夫?!」

クリス「ああ、大丈夫だ、変な奴らは赤いライオン野郎と水色のクマ野郎が倒したぜ  
!」

未来「ねえ、クリス、和斗君は知らない?!」

クリス「ああ、アタシが現場に着いた頃は赤いライオン野郎しかいないぞ!」

未来「和斗君!」

響「未来、心配しないで、和斗君ならきつとみんなを避難してうまく逃げたんだよ!」  
クリス「じゃあアタシは地球に現れた変な奴らの武器をおっさんの所へ持っていくぞ  
!」

クリスは私服姿に戻り、シシレッドが倒したネオインダバーの武器を回収。

響「クリスちゃん、気をつけてね!」

クリス「おうよ、お前らもな!」

クリスはネオインダバーの武器を持って2課の潜水基地に行き、響と未来はリディア  
ンの寮へ帰る。

一方、クマボーイジャーのコックピットの中

コグマスカイブルー「着いたよ、ここがバトルオリオンシップだ!」

コグマスカイブルーはクマボイジャーをバトルオリオンシップの格納庫まで操縦し収容し降りる。

シシレッド「お前は一体誰なんだ？何で俺の名前を知ってるんだ?!」

コグマスカイブルー「今、姿を見せるよ！」

コグマスカイブルーは変身解除。

シシレッド「ええー？小太郎、お前もキュウレンジャーだったのか?!」

シシレッドも同時に変身解除。

小太郎「驚いた、俺は7年前キュータマに選ばれてラツキー達と一緒に宇宙を救うために戦ってたんだ！」

和斗「マジで?!」

小太郎「ああ、驚くのはまだあるぜ、ブリーフィングルームへ案内するよ、ついてきて！」

和斗「あつ：．． ああ！」

小太郎は和斗をブリーフィングルームまで一緒に案内し中に入る。

ブリーフィングルーム

小太郎「ステインガー司令、ラフタ、連れてきたよ！」

和斗「えっ？ステインガー司令?!」

オレンジのロングコートの方が、後ろを振り向き、和斗を見る。

ステインガー「ご苦労だったな小太郎！」

和斗「えっ、ええー？ステインガーさん？後は誰？、そのロボット?!」

？「誰とは失礼ですか？私はラフタ283、こう見えて私もキュウレンジャーだったのです！」

ピンクのメガネのロボットは俺に怒りながら自己紹介をする。

和斗「ええー？ロボットでもキュウレンジャー?!」

ステインガー「ラフタはロボットじゃない、リベリオンのアンドロイドなんだ、理解してやってくれ、ちなみに俺もキュウレンジャーだったからな！」

ラフタ「こう見えて私は秘書です！」

和斗「そうなんだ！」

一方、木星！

ネオジャークマターの要塞基地

地球の新宿の戦いをモニターで見ると、顔を隠した3人の謎の黒いフード。

？「へー、ネオジャークマターに歯向かう奴が地球にいたのか、確か伝説のキュウレンジャーだったな！」

？「シャ、シャ、シャ、ならば俺が奴をチョン切つてやるぜ！」



? 「まあ、焦るな、次の機会があるさ!」

三人は話しをし。

? 「揃ったか?!」

? 「あつ、ジェミニス、遅かったね?!」

子供そうな声をした黒いフードが白いフードの顔を隠した男の名前を言う。

ジェミニス 「ああ、チフォージュ・シャトーという奴らと話し合いをしてな、しばらく奴らは様子見をすることになった、他の皆はどうした?!」

? 「レオルスならトレーニング、レオンルは千葉県で制圧、ディープなら沖縄を制圧してバカンスに行ってる!」

ジェミニス 「レイ・ヴォルグはどうした?!」

? 「ケケケ、奴なら別行動だぜ!」

ジェミニス 「まあいい、ともかく、リベリオンの動きはどうだ?!」

? 「今のところ新たなメンバーを探してるぜ!」

? 「2課の方のシンフォギアは何か対策をしてるよ!」

ジェミニス 「そうか、引き続き地球の全世界制圧と自由任務を与える、抜かるな!」

? 「[「ギョイサー」]

ジエミニスは三人に自由任務と地球の全世界制圧を与え、その場を離れる。

ジエミニス「まさかキュウレンジャーが動き出すとは、あのシシレッド、ドンアルマゲ閣下を倒した奴なのか？まあいい、今は様子見だ！」

一方、獅子野家の和斗の部屋

和斗「はあゝ!!」

和斗はベッドで寝転がって溜め息をつき。

和斗「俺はキュウレンジャーになるかならないかの覚悟なく！」

和斗はバトルオリオンシップでのステインガー達の言葉を思い出す。

ラフタ（えっ？リベリオンにまだ入らないのですか?!）

和斗（ああ、俺は入るか入らないかの覚悟が足りないんだ、少し考えさせてくれ！）

俺はリベリオンに入るか入らないかの覚悟が足りないから少し考えさせてくれとラフタに伝え。

ラフタ（しかし、今、地球の全世界はネオジャークマターに制圧されます、支配されたら思う壺です！）

ステインガー（ラフタ、俺に任せろ！）

ラフタ（ステインガー司令?!）

ステインガー（和斗、1ヶ月まで考えろ、それまでは俺達の事は秘密だぞ！）

ラフタ（しかし司令！）

ステインガー（アイツはアイツの覚悟を探してる、アイツは小学生の頃、ラッキーに助けられて、大切な人を守る為に！）

小太郎（俺が家まで送ってやるよ！）

和斗（小太郎、ありがとう！）

ステインガー（小太郎、ちよつと話がある！）

小太郎（何だよ兄貴?!）

ステインガー（お前と和斗は4月からリディアン音楽院に通うんだ、手続きはしてる！）

小太郎（ええー？、俺と和斗がリディアン音楽院に?!）

和斗「小太郎の奴、驚いたな、俺と小太郎が4月からリディアン音楽院に通うことになるのかー、それまでは判断を決めないとな、リベリオンに入るかの、響と未来には黙ってよう！」

俺は独り言を言い、ハンガーに掛けてるラッキーさんからもらったキュウレンジャーの赤いジャケットを見る。

宇宙、バトルオリオンシップのブリーフィングルーム

？「そうか、シシキュータマと共鳴した人が見つかったか、それで彼の方は?!」

ステインガー「しばらくは保留だ、シヨウ総司令、1ヶ月までは考えさせた！」  
ステインガーがモニターで話してる龍の顔をした人型人物はシヨウ・ロンポー、かつてラツキー達と共にジャークマターを倒した司令、現在はリベリオンの総司令を続ける。

シヨウ・ロンポー「それで、他にキュータマに共鳴した人はいたのかね?!」

ラフタ「現在の所はオオカミキュータマの方は候補が1人見つめました、名前は青野 壮汰ですが他がまだです！」

シヨウ・ロンポー「引き続き、共鳴する人物探しを頼む、リベリオン日本本部の建築が完成したら僕チンも地球の日本に向かう、それまではシンフォギア装者の護衛もかねて任務だ、いいな?!」

2人「オツキュウー!」

2人はオツキュウをし、通信を切る。

ステインガー「バランスとナーガの方はどうだ?!」

ラフタ「バランスとナーガの方は不動産の仕事で忙しく、ハミイの方は教師生活で、スパーダの方はレストランの経営で忙しいです！」

ステインガー「チャンプの方は?!」

ラフタ「チャンプの方は鹿児島で探しています！」

ステインガー「それまでは小太郎や和斗と壮汰に頼るしかない！」

ラフタ「わかりました、ところでステインガー司令、さつき小太郎が驚いてたりディアン音楽院という学校はどんなところですか?！」

ステインガー「ああ、いわゆる女子が通う音楽の女子高校だ、立花響と小日向未来も通つてゐるからな！」

ラフタ「女子高校?！」

ラフタはリディアン音楽院という学校で妄想。

ラフタ「ははは．．ハレンチです！」

ステインガー「心配するなラフタ、和斗の両親と小太郎の叔父と叔母には伝えてある！」

ラフタ「そういう問題じゃありません！」

そして1ヶ月後の4月

私立リディアン音楽院、2年A組の教室

響「フンフフフーン♪！」

響は自分の席で元気よく鼻歌をする。

未来「響、今日は機嫌がいいね、どうしたの?！」

響「切歌ちゃんと調ちゃんとセレナちゃんがリディアンに入学して嬉しい！」

未来「そうね、切歌ちゃんとかと調ちゃんとかとセレナちゃんの方はクリスがマリアさんに頼まれて見てもらうからね！」

響「私達も見てもらおうよ未来！」

ガラガラ

先生が教室に入り、皆は席につく。

先生「はい、皆さん、席について、それでは授業を始める前に転校生を2人紹介します、リディアン初の男子です！」

女子生徒「えっ？男の子?!」

「誰かな?!」

先生「それでは入ってください！」

響「えっ?!」

響はえっ?と言い、教室に入ってきた2人は。

和斗「獅子野和斗です、よろしくお願いします！」

小太郎「同じく佐久間小太郎です、よろしくお願いします！」

そうリディアンの男子制服を着た和斗と小太郎。

響・未来「「ええええー?!」」

響と未来は和斗と小太郎が転校してきたことで驚いた。

NEW  
STORY!

スペース3、オオカミブルーを受け継いだ高校生、青野壮汰!

リディアン音楽院、2年A組の教室

先生「獅子野君と佐久間君の席は、立花さんと小日向さんの前の席に座って！」  
俺と小太郎は響と未来の前の席に座り。

和斗「よっしゃラツキー、未来と響の前の席に座れて良かったぜ！」

小太郎「ホントだね、よろしく、響、未来！」

未来「よろしくね、和斗君、小太郎君！」

そして授業が終わり、昼休み

女子「へー、獅子野君、立花さんと小日向さんとは知り合いなの?！」

和斗「うん、小さい頃からの幼なじみなんだよ！」

女子「ねえねえ、埼玉から来たの?どんなところ?！」

女子「ねえ?連絡先、教えて?！」

和斗「ごめんね、また後で、小太郎、昼飯行くぞ！」

小太郎「うん、待てよ和斗！」



俺は女子と会話をし、昼食を持って小太郎を連れ、廊下へ。

響「ん？あれは、和斗君と小太郎君？お昼を持ってどこ行くんだろ?!」

廊下で和斗と小太郎を見かけた響と未来。

未来「あつ、二人とも上に上がってるわ響!」

響と未来は上に上がってる和斗と小太郎を追いかける。

リデイアン音楽院、屋上

和斗と小太郎は昼飯を食べてる。

和斗「はあ、女子達との会話は疲れたー!」

小太郎「俺は小学生の頃は女子には慣れたよ!」

和斗「マジか？俺は響と未来にしか慣れたよ!」

小太郎「兄貴の話、気にしてるのか?!」

和斗「ああ、そろそろ言おうと思ってるな!」

すると

ガチャ

響「あー、やっぱり二人とも屋上にいたんだ?!」

未来「お昼、一緒に食べていい?!」

和斗「あつ……ああ、いいよ!」

響「あれ? クリスちゃん、切歌ちゃん、調ちゃん、セレナちゃんも来てたんだ!」

響は屋上で昼食を食べてる切歌と調とクリスとセレナに気づき。

クリス「おう? お前らも来たか? その二人は誰だ?!」

響「紹介するねクリスちゃん、獅子野和斗君、私と未来の幼なじみで、もう一人は佐久間小太郎君、和斗君の友達だよ!」

響と未来は俺の隣に座り、俺と小太郎の事、紹介する。

クリス「何だ転校生かよ、アタシは雪音クリスだ、よろしくな!」

切歌「アタシは暁切歌デス、よろしくお願いしますデス!」

調「私は月読調です!」

セレナ「セレナ・カデンツァヴァナ・イヴです、セレナと呼んでください!」

和斗「ああ、よろしく!」

俺と小太郎に自己紹介したこの四人は、まずは銀髪のハーフの胸がデカイ少女、雪音クリス、イチイバルの装者で、金髪のボーイッシュユにバツテンのヘアピンが特徴の少女、暁切歌、イガリマの装者、黒髪のツインテールの少女、月読調、シユルシエガナの装者、茶色い髪の毛でピンクの花のヘアピンの少女、セレナ・カデンツァヴァナ・イヴだっけ? 確かあの子はネフィリム事件の時に死んだはずじゃ?。

調「実はセレナはマリアの妹ですよ!」

小太郎「そうなんだ、でも、切歌ちゃんと調ちゃんと同じ年齢なんだ?!」

小太郎はセレナがなぜ調と切歌と同じ年齢だと気づき。

セレナ「実は私、ネフィリム事件の時に死にそうになりドクターウエルに回収され、シエンショウシンという聖遺物を無理矢理纏わされました!」

響「実はラツキーさんと私がシエンショウシンを破壊してセレナちゃんを救ったよ!」

切歌「マリア、セレナが生きてて喜んで泣いてたデス!」

調「うん、響さんとラツキーさんにはとても感謝します!」

響「いやー、それほど!」

未来「響、それでセレナちゃん、体の方は大丈夫?!」

セレナ「はい、今は大丈夫です、ギアを纏えない体になりましたが、私も未来さんと一緒にお手伝いをしています!」

クリス「まあ、セレナと切歌と調の事はマリアに頼まれて面倒を見てくれと頼まれたから先輩として!」

和斗「先輩?!」

クリス「おうよ、あたしは高校3年生だからな、間違えるなよバカみたいに!」

響「ひどいよクリスちゃん!」

未来「フフフ、それで和斗君、小太郎君、どうしてリディアン音楽院に転校してきたの?!」

未来は和斗と小太郎にどうしてリディアン音楽院に転校してきたのを話し。

和斗「ああ、実はステインガーさんが手続きしてて、この学校に入るようになったんだよ!」

小太郎「うん、和斗のお父さんとお母さん、喜んでたよ、響ちゃん和未来ちゃんが通ってる高校に通えるわよと言ったよ!」

和斗「小太郎!」

俺は小太郎を追いかけ回り、すると。

? 「賑やかですな、和斗先輩、小太郎先輩!」

和斗「ん、誰だ?!」

俺と小太郎に声掛けたリディアン制服を着てる青い髪の毛の少年。

クリス「ん? 誰だよそいつは?!」

調「あつ、クリス先輩、紹介します、名前は!」

? 「青野壮汰だ、リディアン音楽院の1年生だ、よろしくなクリス先輩!」

切歌「アタシと調とセレナの同じクラスメートデス！」

壮汰「俺も同じ転校生だ！」

クリス「ほえー、切歌と調とセレナのクラスにも男子の転校生がいんのかー、アタシは雪音クリスだ、よろしくな！」

クリスは壮汰の肩をポンと叩き、すると。

壮汰「イヤッホー、テンション上がるぜー！」

クリス「ななな？何でテンション上がってんだアイツ?!」

クリスは壮汰がテンション上がってるのに驚き、すると！

和斗「うわっ、身体能力持ってるな！」

響「すごい、飛び回ってる！」

響と和斗は壮汰の身体能力に驚く。

一方、渋谷

？「ウケケケケ、こんだけ準備があれば後は夕方の楽しみだ！」  
猿の顔をした宇宙生物がなにやら渋谷で企んでた。

? 「サルーン、聞こえてるか?!」

黒いフードを被ったネオジャークマターのカローが通信で名前を呼び。

サルーン「はっ、聞こえております!」

? 「作戦は順調か?!」

サルーン「はっ、後少し完了します!」

? 「そうか、気を緩めるな!」

サルーン「ギョイサー!」

一方その頃、リディアン音楽院

和斗「じゃあ俺は家に帰るよ、じゃあな、響、未来!」

響「うん、バイバーイ!」

切歌「また明日デース!」

俺達は授業を終わり、響たちと別れて家に帰り。

ガチャ

和斗「ただいま!」

母「あら、おかえり和斗、どうだった? リディアン音楽院は?!」

和斗「うん、響と未来に会えて良かったよ!」

母「そう、良かったわね!」

俺は階段に上り、2階の自分の部屋に行く。

2階、和斗の部屋

和斗「はあ、疲れたー！」

俺は私服に着替え、ベッドに寝転がる。

和斗「えーと、テレビ！」

一方、渋谷

一般人「あれ？何でこんなところにバナナがあるんだ？」

一般人がバナナに触れると。

ドカン

一般女子「何？今の音！」

一般男子「バナナが爆発したぞ?!」

一般女子「えっ？きやあ！」

一般男子「何だよあれは?!」

一般人達はビルの上を見ると。

サルーン「ウキキキキ、俺はネオジャークマターのダイカーン、サルーンだ、そのバナナに触れると爆発する仕組みが入ってるぜ！」

一般男子「逃げろー！」

一般女子「きゃあ!」

2課の潜水艦基地

ブルーブルーブルー

司令室にサイレンが鳴り

玄十郎「どうした?!」

友里「渋谷区域にネオジャークマター反応及び、ノイズが発生しました!」

玄十郎「数は?!」

藤高「インダバーが数十体、ノイズも数十体、これはダイカーンが1体です!」

玄十郎「響君とクリス君に出撃を頼む!」

友里「わかりました!」

一方、リディアンの寮

ピピピピピピ

響「はい、友里さん?わかりましたすぐ向かいます!」

ピッ

未来「響!」

響「ごめん未来、私行かなきゃ!」

未来「ううん、気にしないで、人助けでしょ、気をつけてね!」



響「うん、行ってくるね！」

一方、渋谷

サルーン「ウキキキキ、この調子で制圧してやる！」

小太郎「そうはさせない！」

サルーン「てめえはキュウレンジャー?!」

小太郎「これ以上、お前達の好きにはさせない、マワースライド！」

コグマキュータマ！セイザチエンジ

小太郎「スターチェンジ！」

サルーン「やれウキ、キュウレンジャーを倒せ！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

コグマスカイブルー「行くぞ！」

その頃、獅子野家の2階の和斗の部屋

アナウンサー「臨時ニュースです、先ほど渋谷区域にネオジャークマターとノイズが発生し、現場は困難です！」

和斗「小太郎？今行くぞ！」

俺はテレビを消して、ハンガーに掛けてあるラッキースキンからもらったキュウレン

ジャーの隊員ジャケットを着てセイザブラスターを左腕に着け。

和斗「俺、覚悟を決めたよラッキーさん、俺は小太郎達と一緒に地球を守る!」  
俺は階段を下り、玄関に行き靴を履く。

母「あら和斗?どこへ行くの?!」

母さんが俺に声をかけ。

和斗「近くに散歩に行ってくる!」

母「気をつけてね、あまり無理しないでね!」

和斗「大丈夫さ、行つてきます!」

ガチャ

母「和斗!」

一方、渋谷

コグマスカイブルー「くらえ!」

サルーン「ウケケケケ、そんな攻撃、当たるかよ!」

コグマスカイブルー「だったらこれならどうだ!」

コグマスカイブルーは首のスカーフをネオインダバーの体に巻き、サルーンに向かって投げ飛ばす。

ブン

サルーン「ウキヤ、やりやがったな！」

コグマスカイブルー「よし、今がチャンスだ！」

コグマスカイブルーはキューウエポン、キョースピアを構え。

サルーン「いいのかなー？俺に集中して、回りをよくみなよ！」

コグマスカイブルー「何？あれはノイズ？現れたのか！」

コグマスカイブルーは現れたノイズに気づき、すると。

響「どりゃー！」

ギアを纏ったクリスと響がノイズに向かって拳を振り、クリスは両拳銃のクロスボウでノイズを狙い撃った。

クリス「クマ野郎、大丈夫か?！」

響「私達も加勢します！」

コグマスカイブルー「助かるよ、住民の皆は?！」

クリス「大丈夫だ、今、切歌と調とセレナが安全な方へ案内させたぞ！」

コグマスカイブルー「これで心置きなく戦えるよ！」

響「クリスちゃん、コグマスカイブルーさん、行きますよ！」

2人「おう！」

サルーン「ウキキキキ、果たして俺の動きについてこれるかな?！」

和斗「間に合ったか?！」

和斗は響達に気づかれないように隠れて変身する、すると。

? 「おっ? 和斗先輩!」

和斗「お前は確か青野壮汰?！」

壮汰「先輩、その持つてるのまさかキュータマすか?！」

和斗「何でお前がそれを知ってる?！」

壮汰「だって俺もキュータマに共鳴したキュウレンジャーすよ!」

和斗「えっ? えええええ!」

壮汰は俺に青いキュータマを見せ、俺と同じキュウレンジャーだと告ぐ。

壮汰「さあ、行こうぜ兄貴、小太郎先輩と響さんとクリス先輩を援護だ!」

和斗「えっ? 兄貴? 俺が?！」

壮汰「おうよ、和斗先輩と小太郎先輩は俺にとつての兄貴だぜ!」

和斗「へへ、じゃあ行こうぜ壮汰!」

和斗・壮汰「マワースライド!」

シンキョータマ! オオカミキュータマ! セイザチエンジ!

和斗・壮汰「[スターチェンジ!!]」

俺と壮汰は変身ポーズをし、セイザプラスターのトリガーを引き、俺はシシレッドに変身、壮汰はオオカミのような青い戦士に変身。

サルーン「ウキウキ、当てられるかな?!」

クリス「チクシヨウ、避けやがって!」

? 「俺に任せろ!」

響「えっ? 誰?!」

? 「オラ!」

サルーン「えっ? あいたた!」

青いオオカミ戦士はサルーンに飛びかかって蹴り、サルーンは落ちる。

クリス「今度は青いオオカミ野郎?!」

シシレッド「待たせたな!」

響「シシレッドさん、あの人は誰ですか?!」

シシレッド「アイツはオオカミブルー、俺達と同じキュウレンジャーだぜ!」

俺は響とクリスさんにオオカミブルーの事を話す。

サルーン「テメーら、よくも俺を落としやがったな、許さんぞ!」

シシレッド「さて、三人であれ行くぞ!」

オオカミブルー「おうよ、兄貴!」

コグマスカイブルー「ああ、やろう!」

俺と小太郎と壮汰は並んでサルーンの前に向く。

クリス「アイツら、何をするんだ?!」

クリスは並んでる3人を見る。

シシレッド「スーパースター、シシレッド!」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー!」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー!」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊!」

3人「『キユレンジャー!』」

響「おおお、カッコいいですね!」

響は決めポーズをした俺達を見て尊敬し。

クリス「てっ? 決めポーズかよ?!」

クリスは決めポーズをツツコミ。

サルーン「うぬぬ、かかれウキ!」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

オオカミブルー「お前らの運、試してやるぜ！」

シシレッド「あつ、それ俺が言おうと思ったのに、まあいいか！」

キュウソード！

キュウクロー！

俺はキュウソードを組み立て、オオカミブルーの壮汰は2つのパーツを組み立て、クローの形した武器を作り、サルーンとネオインダバーに向かって駆ける。

響「クリスちゃん、私達も行こう！」

クリス「おうよ、アイツらだけにいい格好はさせねーぜ！」

そう言つて響は戦う構えをし、クリスは2拳銃のクロスボウを構え、シシレッドの方へ向かう。

コグマスカイブルー「おりや、とりや！」

コグマスカイブルーはキュウスピアを振りながらネオインダバーを攻撃。

響「どりゃー！」

響はコグマスカイブルーの援護に駆け、右腕のアームドギアでネオインダバーの三体に向けて拳を振り、撃破。

コグマスカイブルー「やるな、君！」

響「コグマスカイブルーさんこそ！」

オオカミブルー「おりや、せいや！」

オオカミブルーはキュウクローを振り、ネオインダバーを攻撃。

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

ドドドドド

クリス「やるじゃん、オオカミ野郎！」

クリスはガトリングを出し、ネオインダバーに向けて乱射。

シシレッド「おりや、くらえ！」

シシレッドになった俺はキュウソードを振り、ネオインダバーを切る。

サルーン「ウキー、テメーぶっ飛ばす！」

シシレッド「絶対に負けるか！」

サルーンは自慢の爪で俺と剣の弾きあいをし。

シシレッド「今だ！」

ギヤラクシー！

シシレッド「レグルスインプクト！」

ドーン



サルーン「ギャー！」

サルーンは俺の攻撃を受け、まだ起き上がり、壮汰と小太郎は俺のところへ並び。

オオカミブルー「兄貴！」

コグマスカイブルー「一気に決めよう、3人で！」

シシレッド「ああ、一気に決めるぞ！」

ギャラクシー！

三人「[[オールスタークラッシュユ！]]」

スーパーギャラクシー！

サルーン「ギャー！」

ドーン

三人「[[グッドラック！]]」

響「いいなー、3人で決めるなんて！」

クリス「ちえ、良いところ取りやがって！」

サルーン「ま… まだまだ、これからだ！」

倒れたサルーンは印籠みたいな物を出し、上にかざし、割れる、すると。

サルーン「控えおろー！」

サルーンは巨大化。

響「えっ?大きくなってる?！」

クリス「あんなの、どう倒すんだ?！」

響とクリスは巨大化になったサルーンを驚き。

コグマスカイブルー「よし、これ使って！」

小太郎は俺に緑をキュータマを渡し。

シシレッド「良くわかんないけど、わかった！」

俺は緑のキュータマをセイザブラスターに装填。

フタゴキュータマ!

コグマスカイブルー「それを使って俺と壮汰に当てて！」

シシレッド「ああ！」

セイザアタック!

俺はトリガーを引き、小太郎と壮汰に当て、すると。

コグマスカイブルー「よし、行くぞ！」

オオカミブルー「俺が2人?!」

シシレッド「ええええええ?2人になった?！」

俺は2人になった小太郎と壮汰に驚き。

コグマスカイブルー「驚いた?これがフタゴキュータマなんだ、さあ行くよ！」

セイザゴー、クマボーイジャー

オオカミブルー「俺達も行くぞ！」

オオカミブルー2「おうよ！」

二人のオオカミブルーはセイザブラスターにつけたままのオオカミキュータマを下に押し、トリガーを引く、すると。

セイザゴー！

オオカミボーイジャー！

オオカミブルー「よし、行くぞ！」

シシレッド「ああいう使い方があるんだ、じゃあ俺も！」

俺は小太郎と壮汰達と同じようにセイザブラスターにつけたままのシシキュータマを下に押し、トリガーを引く。

セイザゴー、シシボーイジャー！

シシレッド「えっ？、うわっ?!」

俺はキュータマに包み、ライオンみたいな赤いマシンと合体。

シシレッド「えっ？なんだよコレ?!」

コグマスカイブルー「そのマシンはキュウボーイジャー、俺達のマシンだよ！」

シシレッド「へー、スゲーな！」

コグマスカイブルー「それだけじゃないよ、和斗、シシキュータマを横に倒して!」

シシレッド「えーと、こうかな?!」

セイザドツキング!

シシレッド「えっ?、何だ?勝手に動く?!」

シシボイジャーが勝手に動き、2つのクマボイジャーと合体し両腕、2つのオオカミボイジャーと合体し両足になり、ロボになった。

キュウレンオー!

シシレッド「スゲー、ロボになってる!」

コグマスカイブルー「和斗、壮汰、行くぞ!」

2人「おうよー!」

サルーン「ウキー、倒してやる!」

キュウレンオーはサルーンと対決。

響「すごいよクリスちゃん、巨大戦の対決だよ!」

切歌「すごいデス!」

調「迫力的!」

クリス「てっ?お前ら、いつの間に?そっちの方はどうした?!」

セレナ「大丈夫です、住民の避難の方はなるべく終わりました!」

サルーン「ならば、コレでもくらえ！」

サルーンはバナナみたいな物を出し、キュウレンオーに攻撃。

ドン、ドン！

シシレッド「うわっ？爆弾か?!」

コグマスカイブルー「「だったらコレだ！」」

コグマボイジャー！

キュウレンオーの両腕からコグマみたいな物を出し、サルーンに突撃。

サルーン「いて、あいたた、テメー、よくもやりやがったな、これでもくらえ！」

サルーンは大量のバナナ爆弾を投げ、キュウレンオーに当てる瞬間。

ドーン

シシレッド「何だ？あれはクリス先輩！」

俺は街のビル周辺を見ると、クリス先輩が援護射撃した。

クリス「援護するぜ！」

シシレッド「助かるぜ！」

サルーン「くそ、くらえ！」

サルーンは怒ってバナナ爆弾を投げようとする。

クリス「させるかよ！」

クリスは大型クロスボウでバナナ爆弾に当て。

ドーン

サルーン「ぎゃー！」

サルーンは爆発に紛れて倒れ。

響「クリスちゃん、すごい！」

切歌「ナイスデス、クリス先輩！」

シシレッド「よし、とどめだ！」

ギャラクシー！

三人「[[キュウレンオー、メテオブレイク!]]」

スーパーギャラクシー！

キュウレンオーのキュータマが光り、ビームになり、サルーンに命中。

サルーン「ギャー、地球を征服したらバナナの地球のしたかった！」

ドーン

サルーンは爆発。

三人「[[地球は俺達が守る!]]」

響「やったー、キュウレンジャーが勝ったー！」

切歌「やったデス！」

調「すごい！」

響「クリスちゃん、キュウレンジャーの援護してありがとう！」

切歌「カッコ良かったデス！」

セレナ「ナイスです！」

ギアを纏った状態の響とリディアンの制服姿の切歌と調とセレナはキュウレンオーの援護したクリスに感謝し。

クリス「おうよ、ついでにアイツらを今度こそ連行に、あれ？また逃げやがった?!」  
クリスは後ろを向くとキュウレンオーがいない。

響（あの、コグマスカイブルーの動きとシシレッドの動き？もしかして？小太郎君と和斗君?!）

響はシシレッドとコグマスカイブルーの正体は和斗と小太郎だと思い。

地球周辺のバトルオリオンシップ

ブリーフィングループ

ステインガー「そのラッキーから託したジャケットを着たつてことは覚悟を決めたのか?!」

和斗「俺は響と未来を守る為に戦います、俺はリペリオンの一員になります！」

和斗は真つ直ぐな目を向き、ステインガーと一緒に戦うことを決意した。

ラフタ「では、和斗さん、よろしくお願いします!」

小太郎「よろしくな和斗」

和斗「ああ、よろしくな小太郎、ラフタ!」

ラフタと小太郎は和斗を歓迎し。

壮汰「よっ、小太郎アニキ、和斗アニキ!」

小太郎「うわー? 壮汰? 何でここに? しかもガルの着たキュウレンジャーのジャケット? まさか?!」

ステインガー「ああ、紹介するぞ、こいつは青野壮汰、オオカミキュータマに共鳴した、ガルの弟子だ!」

小太郎「そうだったんだ、よろしく壮汰!」

和斗「よーし、この調子で地球を守るぜ!」

ラフタ「残りのキュータマに共鳴するメンバーを探しましょう!」

ステインガー「今もチャンプ達も探してるからな、一緒に頑張ろう!」

和斗「よっしやラッキー、運試しでやってやるぜ!」

ステインガー（ラッキー、自分の故郷で頑張ってるか? こっちはお前を受け継いだ和斗達が地球を守るぞ!）

その頃、イギリスのホテル



マリア「セレナ、切歌、調、どうしてるかしら?!」

翼「心配するなマリア、暁達の事は立花と雪音達が見てる!」

イギリスのホテルでコミユニケーションをしてるピンクのロングヘアーの女性、マリア・カデンツァ・ヴナ・イヴ、セレナの姉で、世界に活躍してるスター歌手、フロンティア事変でアガートラムのギアペンダントが破壊、現在は翼と奏と3人で活動中、隣の青い髪のロングヘアーの女性、風鳴翼、アメノハバキリの装者で二課のシンフォギア装者、今年の3月にリディアンを卒業後、現在、イギリスで天羽奏とマリアとアイドル活動、奏とツヴァイウィングとして活動していた。

奏「オイ、翼、マリア、テレビを見ろよ!」

翼とマリアに声を掛けたオレンジの髪のロングヘアーの女性、天羽奏、翼と同じシンフォギア装者でガングニールを纏う、翼と一緒にリディアンを卒業後、同じ活動。

翼「なっ? こいつは?!」

翼とマリアは日本のニュースを見て驚く。

一方、木星のネオジャークマターの要塞のブリーフィング、黒いフードの3人は戦いをモニターで見る。

? 「サルーン、しくじったか!」

? 「ウピャピャピャ、キュウレンジャー、やるな!」

? 「だが、お陰で良いデータがとれそうだよ、レオルスはどうした?!」

? 「ウピヤピヤピヤ、レオルスなら二課の独房のドクターウエルを抹殺して自室で休んでるぜ、ちなみにLincornのチップは俺が持つてるぜ!」

不気味そうな声をしたフードの男が二人にチップを見せ。

「さて、地球制圧、まだまだこれからだぞ!」

NEXTSTORY

## スペース4、響と未来達にバレた？俺達の秘密！

朝、獅子野家のリビング

俺と親父と母さんは朝飯を食べながらテレビを見ていた。

アナウンサー「続いているのニュースです、先月の3月にシャトルを救出した特異災害対策第二課は評価が上がりS・O・N・Gとして編成、なお、突如現れたネオジャークマターについては、私達の前に現れたキュウレンジャー、彼らはシンフォギア装者と一緒に戦いましたが、一体、誰でしょう?!」

父「ほー、和斗、えらいキュウレンジャーの活動を頑張ってるな!」

母「和斗、あまり無茶はしないでね、響ちゃんと未来ちゃんも悲しむから!」

和斗「わかってる、響と未来には秘密にしてるよ!」

そう、先日、ステインガーさんが俺の家に訪ねてきて母さんと親父と話し。

母（えっ?、和斗がキュウレンジャーに?!）

ステインガー（はい、シシキュータマが共鳴し、シシレッドになりました!）

父（うちの息子が皆のいる地球を守るために戦ってるのか?!）

ステインガー（ええ、響と未来を守るためにアイツは覚悟を決めてリベリオンの一員

になります!)

母(実は、和斗がキュウレンジャーになったのは私達のせいです、11年前、あの子  
がまだ小学生の時の秋、響ちゃんの家族と未来ちゃんの家族と一緒に旅行に行つて、和  
斗は響ちゃん和未来ちゃんと外で星を見て、獅子座が写り、和斗の右手が赤く光つて!)  
母さんはステインガーさんに俺がキュウレンジャーになれた理由を話す。

ステインガー(それでバトルオリオンシップに保管されてるラツキーのシシキュータ  
マが共鳴して和斗の所へ飛び出したか!)

父(和斗が小学5年生の頃、私達が埼玉にいた頃、子供をかばつて交通事故にあつた  
んだ、仕事が終わつて駆けつけたが、たすかつたみたいだが?!)

ステインガー(もしかしたら、俺の仲間、ラツキーが自分の血を和斗に輸血して救つ  
たと思います!)

母(それでその人はどこに?!)

ステインガー(今は自分の故郷でいろいろ頑張っています!)

ステインガーさんと母さんと親父は俺の事やラツキーさんの事を色々と話し。

ステインガー(とりあえず、和斗は俺達が見ます、小太郎もいるので心配はありません!  
ん!)

母（そうね、小太郎君がいるからお願いするわ！）

父（ああ、その方がいい！）

と振り返った。

和斗「御馳走様、さて、学校の準備するか！」

2階、和斗の部屋

俺は制服に着替えて学校の準備をし、セイザブラスターとシシキュータマを持つと止まり。

ステインガー（もしもネオジャークマターやノイズが現れたら念のため持っていくんだぞ、響と未来には気づかれないようにな！）

ステインガーさんからの連絡を思い出し、俺はセイザブラスターとシシキュータマをリディアンのカバンに入れた。

和斗「行ってきます！」

母「行ってらっしゃい、気をつけてね！」

一方、S・O・N・G潜水基地

玄十郎「うーん！」

藤高「司令にしては珍しいですね、悩むところ?!」

玄十郎「ああ、響君とクリス君を援護したキュウレンジャーが気になるからな！」

友里「それにしてもあのキュウレンジャーの球から聖遺物反応が気になるわね!」

藤高「ああ、こんな時に翼ちゃんと奏ちゃんと緒川さんがいてくれたら頼りだからな  
!」

玄十郎「仕方ないさ藤高、翼と奏はマリア君とイギリスの仕事が入ってるからな、次に現れたときは響君達に頼んで説得させよう!」

一方、木星のネオジャークマター要塞のブリーフィングルーム

? 「さて、次のダイカーンはマツチョツヨインダベー!」

マツチョツヨインダベー「ははー、お呼びでございますか?!」

マツチョの姿をしたツヨインダベーが黒いフードの前に現れ。

? 「お前に任務だ、リディアン音楽院周辺の街の襲撃と制圧だ、いけるか?!」

マツチョツヨインダベー「ギョイサー、ムツキムツキで行って参ります!」

マツチョツヨインダベーは走って地球に向かう準備をしに行った。

? 「ウピャピャピャ、アイツ、元気良く行ってるな!」

? 「ああ、キュウレンジャーとシンフォギアに対抗するには怪力の奴を選んだからな

!」

? 「でも、アイツだけで任務を任せて良いのか?!」

? 「ウピャピャピャ、仕方がねえ、俺様も手助けしてやるぜ、このシザーズが!」

一方、地球、リディアン音楽院の2年A組教室

和斗「小太郎、ちよつといいか?！」

小太郎「ああ、ごめんね、弓美ちゃん達、和斗に呼ばれたから行くね！」

弓美「佐久間君、今度はいいアニメを教えるからね！」

小太郎と話してゐる女子3人組、ツインテールのアニメ好きな女の子、坂場弓美、ボーイッシュヘアの女性、安堂創世、ロングヘアのお嬢様風の女性、寺嶋志織。

志織「最近小太郎さん、獅子野さんと一緒ですね！」

創世「そうだね、授業の時はちゃんとしてるけど、昼休みになったら二人とも屋上に  
行ってしまうからね！」

響「もしかしたら、2人とも?！」

弓美「あれ?立花さん?どこ行くの?！」

響「ちよつと屋上に行くってくる！」

未来「待つて響、私も行く！」

響と未来は教室を出て屋上に向かおうする。

響「あれ?切歌ちゃんと調ちゃんとセレナちゃん?どうしたの?！」

調「響さん、未来さん、壮汰君は知らないですか?！」

響「知らないけど、どうしたの?！」

切歌「今日のお昼を誘おうとしたんデスヨ!」

セレナ「壮汰君、廊下を出て和斗さんと小太郎さんと一緒に行ってました!」  
未来「もしかしたら?屋上に行ってるのよ、私と響も屋上に行くところなの!」

調「私達も一緒に行つていいですか?気になります!」

響と未来は切歌と調とセレナに屋上に行こうと伝え、調達も屋上に一緒に行き。

リディアン音楽院、屋上

屋上に着いた響と未来と切歌と調とセレナ、屋上のドアをちよつと開け、覗く。

和斗「壮汰、切歌達には気づいてなかったか?!」

壮汰「ああ、でも切歌ちゃんと調ちゃんとセレナちゃんとお昼、行きたかったな!」

小太郎「その件はごめんよ、でも、お前にも話したいことがあるんだよ!」

壮汰「話したいことつてなんだよ兄貴?!」

小太郎「実は!」

ジリリリリ

リディアンのアナウンス「ノイズ及びネオジャークマター発生、繰り返す、ノイズ及びネオジャークマター発生、直ちにシエルターへ避難をしてください!」



和斗「くつ、こんな時に、小太郎、壮汰、セイザブラスターは持つてるか?！」

小太郎「バッチリ、キュータマ持ってきたよ！」

壮汰「俺もだぜ兄貴！」

和斗「よし、皆を避難させるぞ！」

2人「オツキュウー！」

和斗と小太郎と壮汰は屋上のドアに向かって開け、気づくと。

和斗「あれ? 響と未来達? どうしてここに?！」

未来「屋上で和斗君達が気になったの！」

小太郎「ここは危ないよ、早く避難して！」

響「和斗君達は?！」

和斗「俺達は他の皆の避難を見てくる！」

和斗と小太郎と壮汰は外に行つて避難を見てきた。

未来「和斗君? 小太郎君? 壮汰君?！」

響「未来、和斗君達の方は私とクリスちゃんに任せて！」

未来「響お願い、私は切歌ちゃんと調ちゃんとセレナちゃんと一緒に教室の皆の避難誘導をするから！」

響「任せて！」

響は走って外の方へ向かい、未来達は教室の皆の避難誘導をする。

S・O・N・G潜水基地

司令室のサイレンがなり。

玄十郎「どうした?！」

友里「リディアン音楽院周辺の街にノイズ及びネオジャークマター発生しました！」

藤高「響ちゃんとクリスちゃんは今、交戦中です！」

玄十郎「頼んだぞ、響君、クリス君！」

一方、リディアン音楽院校門前

響「どりゃー！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

ギアを纏った響とクリスはリディアン音楽院校門前のネオインダバーとノイズの迎

撃をし。

和斗「よし、避難を完了！」

小太郎「ああ、響達に気づかれないように変身しよう！」

壮汰「切歌ちゃん達が通ってる学校だから、絶対に守るぜ！」

3人「マワースライド！」

シシキュータマ！コグマキュータマ！オオカミキュータマ！セイザチエンジ！

3人「〔スターチェンジ!〕」

俺達は変身ポーズをし、トリガーを引き変身。

シシレッド「よし、行くぞ!」

2人「〔おう!〕」

響「えっ? キュウレンジャー? どうしてここに?!」

シシレッド「援護をするぜ響!」

キュウソード

俺は響の名前を言いながらキュウソードを構え、ノイズとネオインダバーを斬る。

響「あの人、何で私の名前を知ってるの?!」

響は自分の名前を呼んだシシレッドに迷いながら戦い。

オオカミブルー「おりや、どりや!」

コグマスカイブルー「だりや!」

小太郎と壮汰は逃げ遅れた人を守りながら戦い。

コグマスカイブルー「早くシエルターへ!」

リディアンの子「はい、ありがとうございます!」

コグマスカイブルー「ノイズが残ってる、させない!」

小太郎はキュウスピーアーにコグマキュータマを装填。

ギヤラクシー!

コグマスカイブルー「ボラリスインパクト!」

小太郎の大振りでノイズ共が凍り、粉々。

クリス「よし、こっちはクマ野郎とオオカミ野郎と一緒に片付けたぜ!」

シシレッド「ああ、こっちも終わったぞ!」

クリス「ライオン野郎達、リディアンを守ってありがとな、助かったぜ!」

クリスはキュウレンジャーの俺と小太郎と壮汰に感謝し、すると。

響「クリスちゃん?危ない!」

クリス「ん?なんだ?!」

ドーン

マッチョの奴がクリスの所へ飛び込み、クリスはそれを回避。

クリス「危な、まだ残ってたのかよ?!」

マッチョツヨインダバー「俺はネオジャークマターのダイカーン、マッチョツヨイン

ダバー、伝説のキュウレンジャー及びシンフォギア装者を倒して俺はあえて伝説にな、

ギヤ!」

クリスはクロスボウでマッチョツヨインダバーに命中。

クリス「よし、ヒット!」

シシレッド「てっ？オイオイ！」

俺はクリス先輩にツツコミ、すると。

マツチヨツヨインダベー「マツソー、まだ話は終わってないぞー！」

クリス「うわっ？まだ生きてやがる！」

マツチヨツヨインダベーは起き上がり、クリス先輩はそれを驚く。

シシレッド「援護します！」

俺達は武器を構え、攻撃。

マツチヨツヨインダベー「フフフフ、全然効かんぞー！」

シシレッド「何？アイツ、マツチヨの体で防いでやがる！」

響「それなら私に任せて下さい！」

響は自分の右腕のアームドギアを構え、マツチヨツヨインダベーに向かって走り、胸

を殴り。

ドーン

マツチヨツヨインダベー「あいたた、なんていう馬鹿力だ！」

クリス「よし、いいぞバカ、もう一発行け！」

響「うん、クリスちゃん、どりゃ！」

響はもう一度構え、マツチヨツヨインダベーに向かって殴り、すると。

? 「ウピヤピヤピヤ、させるかよ!」

ドーン

クリス 「やったか?!」

響 「えっ? 私の拳を防いだ?!」

黒いフードが突然現れ、響の攻撃を防ぐ。

クリス 「誰だてめえは?!」

? 「ウピヤピヤピヤ、今、姿を見せるぜ!」

バサッ

黒いフードがフードを脱ぎ捨て、すると、不気味なカニの顔で硬い甲羅の鎧で肩にカ

ニのような爪を装備の姿が見えた。

? 「俺は蟹座系カローのシザース、テメーらを泡だらけにしてやるぜ!」

コグマスカイブルー 「ネオジャークマターの幹部が現れたのか?!」

クリス 「上等だ、カニ野郎!」

クリスはそう言いながらアームドギアのボウガンを撃ち。

シザース 「ウピヤピヤピヤ、こんなの効かねえな!」

シザースは体の鎧で受け止め、クリスの放った銃弾を弾く。

クリス 「なっ? なんちゆう固さだコイツ?!」

シシレッド「ならば、これならどうだ！」

ギヤラクシー

シシレッド「レグルスインプクト！」

俺はキュウソードを振り、シザースに攻撃。

シザース「ウピヤピヤピヤ、その程度か？伝説を受け継いだキュウレンジャーって奴は！」

シザースは肩の爪で攻撃を防いだ。

シザース「ウピヤピヤピヤ、今度はこっちの番だ、シザークロー！」

シシレッド「うわっ！」

シザースは肩の爪を動き出し、俺に攻撃。

オオカミブルー「兄貴？野郎！」

コグマスカイブルー「うおー！」

壮汰はキュウクローを構え、小太郎もキュウスピアを構え、シザースに向かって接近しようとした。

シザース「ウピヤピヤピヤ、くらえ、バブルマシンガン！」

ドドドドド

2人「うわっ！」

シザースの肩の爪からマシンガンのような先が出てきて銃弾を放ち、小太郎と壮汰に命中。

クリス「銃弾戦か、だったら負けねえぜ！」

シザース「ウピヤピヤピヤ、返り討ちにしてやるぜ！」

クリスはアームドギアのガトリングを出し、シザースと銃弾戦をし。

クリス「なっ?あたしの銃弾が?!」

クリスの放った銃弾がシザースの銃弾に当たり、クリスの銃弾が溶けた。

シザース「ウピヤピヤピヤ、俺の弾はネオジャークマター製に作られた俺専用のバブルマシンガン弾丸、例えばどんな銃弾でも溶けるんだぜ、くらえシザークロー！」

シザースは説明しながらクリスに向かって走り、シザークローで殴る。

クリス「うわっ！」



クリスはシザースのシザークローを食らい、ギアを解除し制服姿に戻る。

響「クリスちゃん?!」

響はマッチョツヨインダバーと交戦しながらクリスを心配。

マッチョツヨインダバー「マツソー、よそ見をしてるんじゃないよ、マッチョパンチ！」

響「うわっ!」

響はマッチョツヨインダバーのパンチに当たり、クリスの方へ飛ばされる。

シザース「ウピヤピヤピヤ、シンフォギアも大したことないな!」

シザースはギアを纏ったままの響と制服姿の倒れたクリスに向かって歩き、シザークローを構える。

シシレッド「響?クリス先輩、まさか?!」

シザース「お前らを切り刻んでやるぜ、ウピヤピヤピヤ、シザークロー!」

シシレッド「響、危ない、ぐわー!」

俺は響とクリス先輩の方へ走り、2人を庇い、すると、シシレッドのメットが外れ、響は俺の素顔で驚き。

響「えっ?和斗君?、まさか?シシレッドの正体が和斗君なの?!」

未来「響、えっ?和斗君?、その姿、和斗君?、キュウレンジャーなの?!」

未来は響とクリスが心配で、校門に行き、シシレットのメットが外れた俺の素顔を見た。

コグマスカイブルー「和斗?大丈夫か?!」

シシレット「ああ、メットが外れて頭がちよつと怪我しただけだ、平気さ!」

オオカミブルー「兄貴?大丈夫じゃないだろ!」

シザース「お前らまとめて蜂の巣にしてやる、くらえバブルマシンガン!」

シザースは両肩のクロウをまた銃の先が現れ、俺達を撃つ、すると。

コグマスカイブルー「させない!」

タテキュータマ!セイザアタック!

小太郎がタテキュータマを使って俺と響達を銃弾から守る。

シザース「ウピヤピヤピヤ、いつまでもつかない?そのタテは?!」

すると

シザース「ちつ、バブルマシンガンの弾が切れたか、マツチョツヨインダベ、後は任せただ、俺は街周辺にモライマーズを設置して撤退する!」

マツチョツヨインダベ「ギョイサー、お任せであれ!」

シザースは街周辺にモライマーズを設置して撤退、マツチョツヨインダベはリディアン周辺の街へ向かう。

クリス「オイ、待ちやがれ、カニ野郎、マツチヨ野郎、うっ！」

響「クリスちゃん、無理しないで、ここは私達に任せて！」

コグマスカイブルー「リディアン周辺の街を奴らの思惑にさせない！」

シシレッド「俺も行くぜ！」

響「和斗君？無茶しないで！」

オオカミブルー「兄貴、俺がフォローしてやる、無理はしないでくれ！」

シシレッド「ああ、ありがとう、未来はクリス先輩を頼む、俺達はマツチヨツヨイン

ダバーを追う、行くぞ！」

俺は壮汰と小太郎と響に行くぞと言い、リディアン周辺の街へ向かった。

切歌「デデデ？クリス先輩？大丈夫デスか?!」

調「あれ？これって、まさか?!」

切歌はクリスを心配し、調がシシレッドのメットを気づき、それを拾う。

未来「シシレッドのメットなの、シシレッドの正体が私と響の幼なじみの和斗君なの  
！」

セレナ「じゃあ、フロンティア事変の時に私を救ったあのシシレッドは?!」

未来「それはラッキーさんなの！」

切歌「デデデース？、シシレッドが和斗さんデスと?!」

切歌は和斗がシシレッドだともものすごく驚く。

一方、リディアン周辺の街

マツチヨツヨインダバー「マツソー、このまま制圧すればシザース様やジェミニス様に誉められる、マツソー！」

シシレッド「やめろ、ネオジャークマター、それ以上、リディアン周辺の街を荒らすな！」

オオカミブルー「兄貴、兄貴だけメットなしだけど、いける?!」

シシレッド「ああ、じゃあ響もいるからな、あれいくぞ！」

コグマスカイブルー「よし、響もやろう！」

響「あれ、OK！」

俺と小太郎と壮汰と響は並ぶ。

シシレッド「よし、行くぞ！」

3人「「おう！」」（オス！）

シシレッド「スーパースター、シシレッド！」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー！」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー！」

響「ガングニールの装者、立花響！」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊！」

全員「[[[[キュウレンジャー！]]]]」

響「わーい、これやってみたかった、さあ、あなた達の運、試してあげる！」

マッチョツヨインダバー「さあ、来なさい！」

全員「[[[[うおー！]]]]」

俺と小太郎と壮汰と響はマッチョツヨインダバーに向かって駆け、対決。

シシレッド「おりゃ！」

コグマスカイブルー「どりゃ！」

オオカミブルー「おら！」

響「せい！」

マッチョツヨインダバー「やってくれたね、マッチョパワー全開！」

マッチョツヨインダバーは力を溜め、さらにマッチョになる。

コグマスカイブルー「それならどうだ！」

オオグマキュータマ！セイザアタック！

小太郎はオオグマキュータマを使って巨大化し、マッチョツヨインダバーと対決。

マッチョツヨインダバー「マッソー、負けんぞ！」

コグマスカイブルー「おおおおりゃ！」

小太郎は力一杯に振り、マツチヨツヨインダベーをぶつ飛ぶ。

マツチヨツヨインダベー「なっ?力比べで俺が負けるだ?!」

シシレッド「俺達が負けるわけない、響やクリス先輩やリディアンや世界中の皆が俺達の力になる、どんな敵でも苦しいときでも負けられない、俺達は戦う!」

響「和斗君!」

シシレッド「響、決めるぞ!」

響「うん、和斗君!」

俺はキュウソードを構え、響も同じく右腕のアームドギアを構え。

ギヤラクシー!

シシレッド「レグルスインパクト!」

響「ガングニールインパクト!」

俺と響は技を言い、マツチヨツヨインダベーを攻撃。

マツチヨツヨインダベー「そんな?俺がこんな奴らに!」

ドーン!

シシレッド・響「グッドラック!」

オオカミブルー「ナイス、兄貴、響先輩!」

コグマスカイブルー「2人ともいいコンビだよ!」

響「ありがとう、えっ？この声？小太郎君と壮汰君なの?!」

響はコグマスカイブルーとオオカミブルーを小太郎と壮汰だと今頃気づき。

コグマスカイブルー「響、今頃気づくの遅いよもう!」

響「アハハハ、ごめんね!」

オオカミブルー「バカっすか響先輩?!」

響「えーん、ひどいよー!」

すると

マッチョツヨインダベー「控えおろー!」

マッチョツヨインダベーが巨大化。

響「うわっ?大きくなってる?!」

コグマスカイブルー「ラフタ、バトルオリオンシップを、オリオンバトラーで対抗す

る!」

ラフタ「ステインガー司令!」

ステインガー「よし、バトルオリオンシップ、変形許可を得る、小太郎、和斗にオリ

オンキュータマを渡せ!」

コグマスカイブルー「オッキユウ、和斗、これ使って!」

小太郎は俺に金色のキュータマを渡し。

シシレッド「これは?!」

コグマスカイブルー「オリオンキュータマ、それを使うとバトルオリオンシップが変形する!」

シシレッド「よくわかんないけど、わかった!」

俺はオリオンキュータマをセイザブラスターに装填し、レバーを引く。

オリオンキュータマ!セイザゴー!オリオンボイジャー!

バトルオリオンシップが来てロボの形に変形し、最後、オリオンキュータマが俺を包み、ロボの形になったバトルオリオンシップと合体、そして顔を開き、オリオンのような顔。

ウエイクアップオリオン!オリオンバトルラー!

シシレッド「よっしゃラッキー、ロボットに変形した!」

響「すごい!」

シシレッド「てっ?何で響がここに?!」

俺はコックピットの声に振り向くと響が乗ってた。

響「えへへ、一度でいいから乗ってみたかった!」

シシレッド「しょうがないな、しっかり捕まってるよ、動くぞ!」

俺は響にしっかり捕まってるよと言い、レバーを動かす。



オーリオン!

オリオンバトラーが叫びながらマツチョツヨインダバーに攻撃。

マツチョツヨインダバー「ちくしょう、これならどうだ!」

マツチョツヨインダバーはドリンクを出し、飲む、すると、体の筋力が上がる。

マツチョツヨインダバー「くらえ、マツチョラリアット!」

ドン

シシレッド「うわっ、負けるか!」

俺は負けずにレバーを動かし、力比べをする。

響「和斗君だけズルい、私だって動かしたい!」

シシレッド「響? うわっ?!」

響は俺を押してコックピットの椅子に座りレバーを持ち。

シシレッド「響? 何するんだ?!」

響「私だって操縦したいもん、おりゃ!」

響は思いつきりレバーを引き、動かし、マツチョツヨインダバーに向けて攻撃。

マツチョツヨインダバー「バカな? パワードリンクを飲んでも勝てないのか?!」

シシレッド「ナイスだ響、その調子で攻撃だ!」

響「うん!」

響はそう言いながらレバーを引き、マツチヨツヨインダベーに攻撃しまくる。

シシレッド「よし、響、とどめだ、行くぞ!」

響「うん、任せて!」

俺はセイザブラスターに装填したままのオリオンキュータマを後ろに2回押し。

スーパーギャラクシー!

響「オリオンバトラー、響アタック!」

シシレッド「てっ?何でその技?!!」

俺は響の必殺技のセリフにツツコミ、オリオンバトラーのハンマー攻撃をマツチヨツヨインダベーに命中。

ドーン

響「地球は私達を守る!」

コグマスカイブルー「響が決めたんだ!」

響「さて、和斗君、説明していいかな?」

シシレッド「えっ?どういうことなんだ?」

響「フフフ!」

響はニツコリしながら俺に近づき。

そして数十分後、S・O・N・G潜水基地、その隣にはバトルオリオンシップが止ま

り。

バトルオリオンシップ格納庫

切歌「おおお、これがバトルオリオンシップデスカ？カッコいいデス、ボージャーもカッコいいデス！」

切歌はバトルオリオンシップの格納庫のボージャーを見てはしやぐ。

クリス「へー、お前からキュウレンジャーになったんだ！」

小太郎「はい、俺は7年前からなりました！」

セレナ「小学生からなれたんですか小太郎さん、すごいです！」

セレナは小太郎の言葉に尊敬し。

調「あれ？響さんと未来さんはどこですか?！」

ラフタ「あのお二人ならステインガー司令のいるブリーフィングルームにいます！」

和斗「俺達が案内するぜ！」

調「お願いします！」

俺達はクリス先輩達をブリーフィングルームに案内し、すると。

クリス「あれ？オッサン？何でここにいるんだ?！」

玄十郎「ああ、クリス君、調君、切歌君、セレナ君！」

すると。

ピッ

通信が入り、相手はリベリオン星のシヨウ・ロンポー総司令だった。

シヨウ・ロンポー「ハロー、エブリバディ、初めまして、S・O・N・Gの皆さん!

ラフタ「総司令、通信が入ってどうしたんですか?!」

シヨウ・ロンポー「いやはや、玄十郎君はいるかね?!」

ステインガー「いるが、どうした?!」

シヨウ・ロンポー「いやあ、実は2人をお願いがあるんだがいいかな?!」

玄十郎「俺は構わないが?!」

ステインガーさんと玄十郎さんはシヨウ・ロンポー総司令の話聞く。

シヨウ・ロンポー「これよりボクチンの命令、リベリオンはS・O・N・Gと同盟に  
結ぶ事を決定する、まもなくリベリオン日本本部が後少して完成する、それまでは2人  
に司令を任せることにする、完成したらボクチンもすぐ着任するから任せたよ、では!」

シヨウ総司令はステインガーさんと玄十郎さんに命令し、通信を切る。

ステインガー「それでは玄十郎司令、よろしくお願いします!」

玄十郎「うむ、こちらこそ、宜しく頼むよステインガー司令!」

ステインガーさんは玄十郎さんと同盟の握手をし。

切歌「やったデース、和斗さん達とずっと一緒デース!」

クリス「はしゃぐなよ切歌、それよりバカと未来はどこ行ったんだ?!」  
すると

ウイーン!

響「じゃーん!」

扉が開き、響と未来が和斗達に見せびらかす。

和斗「似合ってるな響、未来!」

調「響さん、未来さん、そのジャケットは何ですか?!」

調は響と未来が着ていた和斗と同じ赤のキュウレンジャーのジャケットに気づき。

響「実はこれ、キュウレンジャーの隊員ジャケットだよ!」

未来「ステインガーさんに頼んで和斗君と同じ物を作ったの!」

響と未来は調達にキュウレンジャーの隊員ジャケットの説明をし。

ステインガー「ああ、俺はどんな物も縫うからな!」

ステインガーさんは調達にどんな物も縫うからなと自慢し、蠍の尻尾を見せる。

セレナ「どんな物も縫うなんてスゴいです!」

切歌「アタシ達も隊員ジャケット着たいデース!」

ステインガー「ああ、今度は縫ってやるからな!」

切歌「やったデース!」

調「ありがとうございます!」

響「ねえねえ、未来、リディアンの時はこれを着て登校しようよ!」

未来「駄目よ響、リディアンの時は制服よ!」

響「えー!」

クリス「そりやそうだろ!」

和斗「でも、S. O. N. Gと同盟に結んでラッキー、これからもヨロシクな、響、ク

リス先輩、切歌、調、セレナ、未来!」

響「うん、よろしくね和斗君!」

未来「私はサポートや皆のお料理を作るからよろしくね!」

クリス「まっ、よろしく頼むぜ、和斗!」

切歌「アタシと調もよろしくデース!」

調「壮汰君、皆さん、よろしくお願ひします!」

セレナ「私達もです!」

壮汰「ああ!」

小太郎「よろしくね！」

和斗「へへ、よっしゃラツキー、俺の運に任せておけ！」

切歌「デース！」

一方、東京の不動産BM

？「ひーふーみー、やったー稼いでる！」

ネットで稼いだお金を調べる金色の機械生命体。

ピロロロ

電話がなり、銀髪の青年がそれをでる。

？「はいもしもし？なんだステインガー、どうした?！」

ステインガー「ナーガ、そっちの方はどうだ？共鳴する人は見つかったか?！」

ステインガーが電話で銀色の青年の名前を言い。

ナーガ「ああ、2人が見つかった！」

ナーガが言った2人が見つかったとは。

NEW STORY

# スペース5、ヘビツカイとテンピンを受け継ぐ2人!

リベリオン日本本部の建築

? 「オーライ、オーライ、こつちでーす!」

作業員を指揮してゐる金色の機械生命体。

ナーガ「バランス、そつちの方はどうだ?!」

バランス「OKだよナーガ、設計はバツチりだよ!」

銀色のスーツが特徴のナーガと話してゐる金色の機械生命体のバランス、7年前、ラツキーと同じキュウレンジャーのテンピンゴールドとして頑張り、ヘビツカイシルバーのナーガ達とジャークマターを倒した、胸の青いカラーと左肩のリベリオンエンブレムが特徴だよ。

ナーガ「俺達は今、不動産を建てて稼いでる!」

バランス「そうだね、僕たち地球や惑星が平和になつてから怪盗BM団の活動が暇になり、今は不動産BMを建築して頑張つてるよナーガ!」

すると

小太郎「バランス、ナーガ、久しぶり!」



バランス「小太郎、お久しぶりでーす！」

ナーガ「リベリオンの活動は頑張ってるか?！」

小太郎「うん、色々と頑張ってるよ！」

ナーガ「そうか！」

和斗「よいしょ！」

バランスは牛丼を大量に乗せたりアカーを運ぶ和斗と壮汰に気づき。

バランス「小太郎、この2人は誰?！」

小太郎「ああ、紹介するよ、俺の友達、獅子野和斗と青野壮汰、シシレッドとオオカミブルーを受け継いだんだ！」

バランス「そうだったんだ、初めまして、僕はバランス、キュウレンジャーのテンビンゴールドだった機械生命体だよ！」

ナーガ「俺はナーガ・レイ、バランスと同じキュウレンジャーのヘビツカイシルバーだったヘビツカイ座の人間だ！」

バランスとナーガは和斗と壮汰に自分達の事を軽く紹介した。

和斗「よっしゃラッキー、キュウレンジャーだったんだ、俺は獅子野和斗、小太郎に言われた通りキュウレンジャーのシシレッドだ！」

壮汰「俺は青野壮汰、オオカミブルーだぜ！」

俺と壮汰もナーガさんとバランスさんに挨拶し。

バランス「皆さーん、牛丼が来ましたから休憩しますよ!」

作業員全員「はい、バランス社長、ナーガ社長!」

小太郎「えっ? バランス社長? ナーガ社長?！」

ナーガ「ああ、俺とバランスは不動産BMの社長をやってる!」

ナーガさんは俺達に2人が社長だと話す。

昼食、作業員達とナーガさんは牛丼を食べ、バランスさんはジュースを飲み、俺と小

太郎と壮汰も牛丼をご馳走。

バランス「それでそれで、和斗と小太郎、リディアン音楽院の学生生活は楽しい?！」

小太郎「うん、すっかりなれたよ!」

ナーガ「でも、いいのか? 学校を休んで? 響と未来は心配するぞ?！」

和斗「ああ、その件なら心配しないでください、母さんと小太郎の叔母さんが連絡したんだ、だから今日はバランスさんとナーガさん達の手伝いをしてきてくれとステインガーさんに言われたからな!」

俺はナーガさんに学校休んだ理由を話し。

作業員「おっ? 牛丼がひとつ余ってるぞ?！」

作業員「よっしゃ、俺がもらうぞ!」

和斗「おつ？ 当たりが出た、よっしやラッキー、俺がもらったー！」

俺は食べ終わつた牛丼のからを見ると、そこには当たりが書いてある。

ナーガ「驚いたな？ ラッキーの運試しを受け継ぐとは?!」

バランス「これはゴイスーだね！」

すると。

女子「きゃー、ひつたくりよ助けて！」

女子の叫びが聞こえ。

和斗「今行くぜ！」

？「おっと、その事件はワイらに任せや！」

関西弁をした壮汰と同じ高校1年のオレンジの髪の毛のメガネを掛けた髪を後ろに束ねた男とその隣の銀髪のツンツンヘアの左ほっぺのバツテンキズと赤い服と半ズボンと首に掛けてる双眼鏡と赤い帽子と右手にスケボーが特徴の少年がひつたくり犯を追う。

ひつたくり犯「へへ、楽勝！」

ひつたくり犯は走って逃げると思いきや。

？「逃がさへんで！」

オレンジの髪の毛のメガネの少年がリモコンを出してお掃除ロボみたいな丸い奴を

置き、起動。

ウーーン!

丸い所からエアガンが出てひったくり犯を攻撃。

ひったくり犯「いたたたた、この野郎!」

ひったくり犯は怒ってオレンジの髪の毛のメガネの少年に向けて殴ろうとすると。

? 「うおー!」

銀髪のツンツンヘアの少年がスケボーに乗ってひったくり犯をアタック、ひったくり

犯は氣を失った。

和斗「スゲー、やるなアイツら!」

和斗が駆けつけたところ、ひったくり犯は警察に捕まり、2人の少年は奪った女子のカバンを女子に渡す。

和斗「やるじゃん、お前ら!」

? 「へへへ、いいことしたかいがあったぜ!」

銀髪のツンツンヘアの少年が元氣そうな声をし。

和斗「あつ、そういえばお前らの名前は誰だ?!」

? 「俺は功太、遠堂功太!」

? 「ワイは蓮司、新井蓮司や!」

銀髪のツンツンヘアの少年が功太、オレンジの髪の毛のメガネの少年が蓮司と名乗り。

ナーガ「功太、蓮司、よくやったな！」

和斗「ナーガさん、この二人は?!」

ナーガ「ああ、俺とバランスの弟子なんだ！」

和斗「えっ? ええええ? ナーガさんとバランスさんの弟子?!」

俺はナーガさんの言葉に驚き。

蓮司「おうよ、ワイは機械いじりとたこ焼きが好きや!」

功太「俺はスケボー好きでカレーやらが好きだぜ!」

それから数時間後。

リディアン音楽院の授業を終わった響と未来は切歌と調とクリスとセレナと一緒に帰り。

響「はあ: : 和斗君と小太郎君、欠席だね!」

未来「仕方がないわよ響、和斗君と小太郎君、ステインガーさんの用事で休んでるか  
ら!」

セレナ「壮汰君も一緒ですから!」

響達が通りかかり、すると。

和斗「よし、作業員のおんちゃん、次はこっちを運ぶぜ！」

作業員「ありがとう、助かったよ！」

響「えっ？和斗君?!」

クリス「アイツら、何をやってんだ?!」

響達は工事の作業の手伝いをしてる和斗の声が聞こえ、見る。

和斗「小太郎、壮汰、次はこれを運ぶぞ！」

未来「和斗君達?、何をしてるの?!」

和斗「えっ?未来?響?!」

未来は和斗を見つつけ声を掛け。

響「わーい、和斗君達に会えた、でも何をしてるの?!」

ナーガ「それは俺が説明するぞ、あれはシヨウ総司令が配属するリベリオン日本本部の建築だ！」

ナーガさんは響達にリベリオン日本本部の建築の説明し。

バランス「チョリース、小太郎の友達だね?僕はバランス、しくよろー！」

切歌「デデデ?ロボットデス！」

切歌はバランスを見てロボットだと言い。

バランス「僕はロボットじゃないよ、機械生命体だよ、こう見えて僕は307歳だよ

!

クリス「へー、そうなんだ、てっ？ええええ？307歳?!」  
クリスはバランスの年齢に驚き。

ナーガ「バランスは何でも出来るぞ、パソコンや修理や不動産の稼ぎや色々!」  
ナーガは響達にバランスの説明をし。

小太郎「ちなみにこの二人は俺とラツキーとステインガー兄貴達と一緒に戦ったキュウレンジャーだよ!」

セレナ「ええええ？キュウレンジャーだったんですか?!」

バランス「そうだよ、僕たちも小太郎の言う通りキュウレンジャーだよ!」

セレナは小太郎の言葉で驚き、バランスが説明した。

一方、S・O・N・G潜水艦基地、隣にはバトルオリオンシップが並び。

バトルオリオンシップブリーフィンルーム

座ってコーヒーを飲んでいるステインガーと玄十郎。

玄十郎「このバトルオリオンシップは何でも出来るな!」

ステインガー「はい、ここでは皆、楽しく食事やらコミュニケーションをしています  
!」

ステインガーは玄十郎とバトルオリオンシップでコミュニケーションをしていた。

玄十郎「ところでステインガー君、今のキュウレンジャーのメンバーは何人いるんだ?!」

ステインガー「今のところは和斗と壮汰と小太郎ですが今、俺の仲間がキュータマに共鳴しそうな二人を見つけました!」

ラフタ「ところで玄十郎様、少しお聞きしたいことがありますか? 響ちゃんとかリスちゃんが纏つてるシンフォギアシステムとは何ですか?!」

ラフタは玄十郎にシンフォギアシステムについて聞き。

玄十郎「ああ、説明しよう、シンフォギアシステムとは、元々、聖遺物という物の欠片で作られノイズに対抗出来る唯一の力、その力を使えるのは適合者の可能なんだ!」

ラフタ「はい、ありがとうございます、いい勉強になりました!」

ラフタは玄十郎のシンフォギアシステムの説明を聞き、感謝を告ぎ。

ステインガー「だが、あの切歌とセレナと調はなぜシンフォギアを纏わないんだ?!」

玄十郎「ああ、切歌君と調君の方はL i n c o l nを投与しないとギアからのバックファイアが出るからな、セレナ君の方は1年前のフロンティア事変の時にウエルが密かに隠してた聖遺物、シェンショウシンを無理矢理纏わされて暴走してたが、融合症例だった響君がセレナ君を救ったからな!」

玄十郎はステインガーに切歌と調とセレナがシンフォギアが纏えない説明をし。



玄十郎「だが、あの時、君の仲間のラツキーが響君とセレナ君を救い、ライブ事變の奏を救ってくれてありがとう！」

玄十郎はステインガーに響とセレナ、ライブ事變で天羽奏を救ったことを感謝を告ぎ。

ステインガー「いや、とんでもないよ玄十郎司令、ライブ事變の時は俺の仲間のバランスとナーガが天羽奏と響を救えただけで感謝してるさ！」

一方、リベリオン日本本部の建築

バランス「つまり、このリベリオン日本本部の設計はバトルオリオンシップとS・O・N・Gの潜水艦基地の収容出来たり、後、宴会場や宿泊室や食堂、総司令室、パーティー会場やトレーニングルームやカラオケが入るくらいの建築してたんだ！」

バランスは響と未来達にリベリオン日本本部の設計図を見せて。

響「わーい、完成したら楽しみ！」

調「あの建築費はいくらかかってますか?!」

ナーガ「そうだな、心配するな、建築費は総司令のリベリオン星が出してるからな！」  
バランス「そうだね、値段で言うとぎつと百億円だよ！」

クリス「はあ？百億？建築にどんだけ使うんだあのドラゴンオッサン！」

切歌「百億円あれば何でも買えるデス！」

クリスはバランスの建築費の値段ではあ、と言い。

功太「よっと、作業員のやつさん、頼まれた材料、持ってきたぜ、今からスケボーに乗ってそっちに向かう!」

作業員「ああ、気をつけてな!」

蓮司「よし、この設計は安定やな、えーと次はここやな!」

功太は材料持ちながら元気にスケボーに乗り、蓮司はリベリオン日本本部の設計の安定を確認した。

響「あれ? 見ない顔の2人がいるよ未来!」

未来「ほんとだね、あの二人は誰ですか? ナーガさん!」

ナーガ「ああ、あの二人は銀髪の方は遠堂功太、オレンジの髪の方は新井蓮司、俺とバランスの弟子なんだ!」

ナーガは響達に二人の事を紹介し。

バランス「実は功太には辛い過去があったんだよ、功太の叔父さんはスケートボードの現役スターなんだ、小学生の頃、ノイズに襲われ、シヨックを受けたんだよ!」

ナーガ「だが今は小学生の頃の友達の蓮司のおかげで元気になり、今もスケボーに夢中だ!」

バランス「そして、僕とナーガの弟子になれたんだよ、蓮司は僕の弟子で機械いじり

が得意で功太はナーガの弟子で叔父譲りのスケボーが得意だよ！」

ナーガ「ああ、蓮司の家はたこ焼き屋だからな、食べに行つたときは驚いた、親孝行してるからな、蓮司、たこ焼きマシーンを作つて親と一緒に頑張つてるからな！」  
すると

ドーン

女子「きゃー！」

男子「ノイズだ、逃げろ！」

バトルオリオンシツプブリーフィングルーム

ビービービー

ステインガー「どうした？ラフタ?!」

ラフタ「東京市街地にノイズ発生しました！」

ステインガー「玄十郎司令！」

玄十郎「ああ、響君とクリス君に連絡だ！」

ピピピ

響「もしもし響です、ステインガーさん？わかりました、現場に向かいます！」

和斗「ノイズが現れたのか?!」

響「うん、ステインガーさんに頼まれて！」

和斗「よし、俺達も行くぜ！」

クリス「おうよ！」

響「未来は切歌ちゃんと調ちゃんとセレナちゃんとここで待ってて！」

未来「うん、和斗君達も響も気をつけてね！」

バランス「よし、ナーガ、僕達はここを守ろう！」

ナーガ「ああ、これ以上、奴らの好きにはさせない！」

和斗と響達は現場に向かい、ナーガとバランスは未来達と残る。

一方、S・O・N・G潜水基地

玄十郎は基地に戻り。

玄十郎「状況は?!」

友里「和斗君と小太郎君、壮汰君、響ちゃんとクリスちゃんが現場につきました、現在ノイズと交戦しています！」

藤高「市民の方は避難を完了しました！」

一方、リベリオン日本本部の建築地

作業員「ノイズが現れたぞ！」

ナーガ「未来達は作業員達とここで待ってる！」

未来「ナーガさん達はもうどうするんですか?!」

バランス「僕たちがここを抑える、マワースライド！」

テンビンキュータマ！

ヘビツカイキュータマ！

セイザチエンジ！

2人「スターチエンジ！」

バランスとナーガはセイザブラスターにテンビンキュータマとヘビツカイキュータマを装填してトリガーを引き、変身、テンビンゴールドとヘビツカイシルバー。

テンビンゴールド「ちゃん響達の為にここを守ろうナーガ！」

バランスは素晴らしいながらキュウクロスボウを組み立て、ノイズに攻撃。

ヘビツカイシルバー「ああ、未来達には触れさせない！」

ナーガも言いながら鎌の形した武器、キュウシツクルを組み立てノイズに目掛けて一振り。

一方、東京市街地

シシレット「オリヤ、くらえ！」

クリス「ちよせー！」

響「どりゃー！」

シシレットに変身した俺はギアを纏ってるクリス先輩と響と一緒にノイズを攻撃。

コグマスカイブルー「せいや!」

オオカミブルー「おら!」

小太郎はキュウスピアァでノイズを攻撃、壮汰はキュウクローで攻撃。

ギヤラクシー!

オオカミブルー「ルプスインプクト!」

壮汰のキュウクローの技の攻撃でノイズを一掃。

クリス「これでもくらいやがれ!」

クリス先輩はギアの後ろからミサイルが大量発射し、残りのノイズ供に命中。

クリス「よし、終わったぜ!」

コグマスカイブルー「こっちも終わったよクリス先輩!」

小太郎と壮汰は俺達と合流。

シシレッド「よっしやラツキー、やったぜ!」

すると。

? 「フッフ!」

突如黒いフードが俺達の前にあらわれ

オオカミブルー「ネオジャークマター?!」

? 「さすがだな、私を当てるとは!」

バサツ

黒いフードがフードを脱ぎ捨て姿を見せる、体は肩に天秤のようなものをぶら下が  
り、顔は古代エジプト神のアヌビスで胴体はエジプトのような鎧。

？「私は天秤座系カロー、リブラーン、お前達を肅清する！」

響「ネオジャークマターの幹部?!」

クリス「おもしろい、ぶっ飛ばしてやる！」

クリスはそう言いながらクロスボウでリブラーンに向かって撃ち。

リブラーン「ふっ、天秤破！」

リブラーンは両肩の天秤をぶら下げ、クリスの攻撃を止まり。

クリス「なっ？あたしの攻撃を止めた?!」

コグマスカイブルー「それならこれだ！」

オオグマキュータマ！

セイザアタック！

小太郎はオオグマキュータマで巨大化し、攻撃。

リブラーン「甘いぞ！」

リブラーンは今度は右肩をぶら下げ防御。

リブラーン「次はこれだ！」

次に左肩をぶら下げ、さつき止まったクリスの攻撃を小太郎に命中。

コグマスカイブルー「うわっ?!」

響「小太郎君?!」

シシレット「大丈夫か?!」

クリス「こいつ、今度はあたしの攻撃を小太郎に命中したぞ?どうなってんだ?!」

リブラーン「フフフ、私の両肩の天秤は相手の攻撃を止まったり、防御や相手の攻撃を跳ね返すんだよ!」

一方、リベリオン日本本部建築の街周辺

ヘビツカイシルバー「たあー!」

テンピンゴールド「きりがないよナーガ!」

ヘビツカイシルバー「ああ、これならどうだ!」

イテキュータマ!

セイザアタック!

ナーガは弓矢の絵の黄色いキュータマを装填し、ノイズに向かってトリガーを引き、空から大量の矢が降り、ノイズを一掃。

テンピンゴールド「ナーガ、ナイスだよ!」

ヘビツカイシルバー「ああ、早めに出しとけば良かった!」



すると

ドドドドドド

2人「うわっ!」

マシングンのような銃弾がバランスとナーガに命中、すると。

シザース「ピヤピヤピヤ、あんたらが伝説のキュウレンジャーのバランスとナーガだな?!」

ヘビツカイシルバー「誰なんだお前は?!」

テンビンゴールド「ナーガ、確かこいつはステインガーから聞いた情報でネオジャークマターの蟹座系カロローのシザースだよ!」

バランスはナーガにシザースの名前を教え。

シザース「ウピヤピヤピヤ、よく覚えたな、じゃあお手合わせに対決だ!」

ヘビツカイシルバー「ああ、お前は俺達が倒す!」

テンビンゴールド「僕達をなめないでよね!」

ナーガとバランスはシザースに向かって走り、武器で攻撃。

ガキン

ヘビツカイシルバー「なっ? 防いだ?!」

シザースはナーガの攻撃を自分の体で防ぎ。

シザース「ウピヤピヤピヤ、俺の体と鎧はどんな攻撃も防げるのさ、くらえシザークローー!」

シザースはすかさずシザークローでナーガを攻撃。

ヘビツカイシルバー「うわあああ!」

ナーガは倒れ、変身解除。

テンピンゴールド「ナーガ?このー!」

バランスはキュウクロスボウを構え、シザースに向けて攻撃。

シザース「ウピヤピヤピヤ、無駄無駄、いくら攻撃しても俺の体と鎧は砕けんぞ、くらえバブルマシシガン!」

ドドドドドド

テンピンゴールド「うわっ!」

バランスはバブルマシシガンをくらって倒れ、変身解除。

シザース「ピヤピヤピヤ、伝説のキュウレンジャーの力はその程度か?!」

ナーガ「くっ!」

壮汰「うおおお!」

壮汰はスケボーでシザースに向かって当たり。

蓮司「行くんやラジコンロケット!」

蓮司はラジコンロケットを使ってシザースに向けて発射！

ナーガ「蓮司？功太？何で?!」

シザース「ウピャ？テメーら何をしやがる！」

功太「バランスさん達が建てたりペリオン日本本部の街はやらさねえ、ここには皆が過ごす街だ！」

蓮司「そうや、この街には功太の叔父はんが大切に過ごした思いでの場所やお前らの好きにはさせへんで！」

バランス「蓮司、功太！」

すると

ナーガ「バランス、俺達のキュータマが光ってるぞ！」

バランス「ホントだ、あつ！」

ナーガのキュータマとバランスのキュータマが光り、ヘビツカイキュータマは功太の手元、テンビンキュータマは蓮司の手元に飛び出す。

ナーガ「バランス？もしかして?!」

バランス「キュータマに共鳴したんだ2人とも！」

ナーガ「バランス!」

バランス「OK、蓮司、功太!」

ナーガ「受け取れ!」

バランスとナーガは着けてたセイザブラスターを蓮司と功太のところへ投げ渡し。

功太「蓮司、これって?!」

蓮司「ああ、バランスさん達が着けたあのセイザブラスターや!」

功太「ナーガさんが着けたあの…よし行こうぜ蓮司!」

2人「マワースライド!」

テンピンキュータマ!

ヘビツカイキュータマ!

セイザチェンジ!

2人「スターチェンジ!」

功太と蓮司はキュータマをセイザブラスターに装填し、変身ポーズをし、トリガーを引く、するとヘビツカイ座の光りとテンピン座の光が現れ、功太と蓮司の体を包み、功太はヘビツカイシルバー、蓮司はテンピンゴールドに変身した。

蓮司「トリックスター、テンピンゴールドや!」

功太「サイレントスター、ヘビツカイシルバー!」

ナーガ「バランス！」

バランス「うん、ステインガーに連絡してよかった、二人見つかった！」

ヘビツカイシルバー「お前らの運！」

テンビンゴールド「試してやるで！」

シザース「ウピヤピヤピヤ、おもしれー、ギツチョンしてやるぜ！」

キュウクロスボウ！

キュウシツクル！

蓮司はキュウクロスボウに組み立て、功太はキュウシツクルを組み立て。

ヘビツカイシルバー「行くぞ！」

テンビンゴールド「おうよ！」

功太と蓮司はシザースに向かって走り、すると。

シザース「ピヤピヤピヤ、これでもくらえ、バブルマシガン！」

ドドドドドド

シザースはバブルマシガンを発射。

ヘビツカイシルバー「その攻撃に当たるかよ！」

テンビンゴールド「ワイらをなめんやないで！」

功太と蓮司はバブルマシガンの弾をジャンプして飛ぶ。

ギヤラクシー!

蓮司はテンピンキュータマをキュウクロスボウに装填し、トリガーを引く。

テンピンゴールド「くらえや、リブラインパクト!」

シザース「うわっ? やりやがったな!」

蓮司の必殺の銃弾がシザースに命中し。

ヘビツカイシルバー「今度は俺の番だ!」

ギヤラクシー!

功太はキュウシツクルにヘビツカイキュータマを装填し、落ちてた自分のスケボーに乗ってシザースに近づく。

ヘビツカイシルバー「くらえオフェューカスインパクト!」

ドーン

功太の必殺の鎌攻撃で攻撃。

シザース「ゲホゲホ、畜生、甲羅の鎧が壊れかけてるな、覚えてろよ!」

シザースはワープ装置を使って撤退。

一方、東京市街地

リブライン「シザース? しくじったか?!」

リブラインもワープ装置を使って撤退。

シシレッド「撤退したのか?!」

クリス「でもまあ、市街地が無事でよかったな!」

響「ナーガさん達の所へ戻ろう!」

リブラーンが撤退してから和斗達は私服姿に戻りリオン日本本部建築地へ戻り。

響「おつ? テンビンゴールドとヘビツカイシルバーだ、ナーガさんとバランスさん、未  
来達を守ってありがとうございます!」

バランス「ちゃん響達、僕とナーガはここだよ!」

バランスは響達に手を振り。

響「えっ? バランスさん達? 何で切歌ちゃん達の方へ? じゃあ? あのテンビンゴールドとヘビツカイシルバーは?!」

功太と蓮司は変身解除。

小太郎「えっ? 蓮司? 功太? 二人とも何でキュウレンジャーになれたんだよ?!」

功太「へへへ!」

そして数十分後、バトルオリオンシップのブリーフィングルーム

玄十郎「なるほど、功太君、君の叔父が過ごした街を守るためキュータマが共鳴した  
とは!」

功太「おうよ、ナーガさんとバランスさんが持つてるキュータマが光り出して俺と蓮

司の手元に渡った!」

ラフタ「つまりこれは、キュウエナジーの共鳴です!」

響と未来「「キュウエナジー?!」」

ステインガー「キュウエナジーとは簡単に言うとは簡単に入ってる88の星座の力が入ってる力なんだ!」

ステインガーは響と未来達に簡単にキュウエナジーについて語った。

玄十郎「それで和斗君がシシレッドに変身したときに聖遺物反応があったとは!」

ウイーン

自動ドアが開き、バランスとナーガが入ってくる。

バランス「チョリース、ちゃん響達!」

響「バランスさん、ナーガさん?どうしたんですか?ここに来て!」

ナーガ「功太と蓮司に渡したいものがある!」

功太「俺達に?!」

ナーガは功太と蓮司にたたんだジャケットを渡し、広げると。

功太「これってナーガさん達の着てたキュウレンジャーのジャケット?!」

蓮司「ワイのは金色や!」

バランス「蓮司の方は僕が分析して編んだんだよ!」



功太「いいのかよ？ ナーガさん？ 俺達にこんなのくれて?!」

ナーガ「せつかくお前らはキュウレンジャーになったんだ、着てみる！」

切歌「見たいデス！」

調「私も！」

ナーガ「功太！」

功太「おうよ、着てやるぜ！」

功太と蓮司は着てた服を脱ぎ、ナーガとバランスからもらったキュウレンジャーのジャケットを着る、功太は着てたジャケットの前を開け、首に双眼鏡を掛け、赤い帽子を着ける。

切歌「カッコいいデス！」

功太「ありがとよ切歌、ホントは赤が着たいけど赤い帽子を着けてるだけで我慢だ！」

調「蓮司君、キラキラ！」

蓮司「そうか？ ワイ、モテモテやな、そうや、今度はワイの家でたこ焼き食いに来てや、切歌はんとご馳走するで！」

クリス「案外面白い奴だなあいつらは！」

響「うん、2人とも面白いわクリスちゃん！」

和斗「よっしゃラッキー、残りも見つけようぜ！」

切歌「デース！」

一方、東京のレストラン。

？「スパードアシエフ特製のイタリアンカルボナーラだよ！」

店員「では、持っていきますスパードアシエフ！」

店員がシエフの名前を言い。

スパード「グラッツェ、今頃ステインガー達は頑張ってるかな?!」

机に置いてあるのはラツキー達が写ってる集合写真と黄色いキュータマ、カジキキュータマ。

NEW STORY

スペース6、カジキを受け継ぐお料理セレナちゃん！

とある東京市街地

ドーン

シシレット「うわー！」

響「和斗君？おわっ！」

オオカミブルー「ぐわっ！」

コグマスカイブルー「うわあああ！」

クリス「うわっ！」

俺達はシザースと対決しピンチ。

シザース「ウピャピャピャ、もうおしまいか？ギツチヨンギツチヨンにいたぶつてやるぜ！」

シザースは俺達に向かって歩きシザークローを構えた、すると。

？「お待ちなさい、響さん達はさせません！」

響「その声は？セレナちゃん！」

シザースの前に現れたのはセレナだった。

シザース「ウピヤピヤピヤ? 誰だお前は?!」

セレナ「私はお料理戦士セレナ・カデンツァヴナ・イヴ、あなたの運、お料理しちやいます!」

セレナはフライパンと調味料を出し構えた。

シザース「ウピヤピヤピヤ、おもしろー、来いよ!」

シザースはセレナに挑発し、すると。

セレナ「くらいなさい、必殺コシヨウパウダー、塩フリフリ!」

シザース「ウピヤ? しょっぱいー!」

セレナ「お次に醤油ウオーター、フライパンアタック!」

シザース「ぎゃー、痛い!」

シザースはセレナのお料理攻撃で苦戦しそして。

セレナ「とどめのビッグお鍋、カニ茹で攻撃!」

セレナは空から大きな鍋を出し、沸騰したお湯でシザースに攻撃。

シザース「ウピヤー、熱い、熱い、覚えてろよ!」

シザースは走って逃げる。

シシレッド「すごいぜセレナ!」

響「セレナちゃんありがとう!」

セレナ「はうー、そう言われると照れちゃいます!」

モワーン

リディアン音楽院の寮

セレナ「あれ?!」

気が付くとセレナは切歌と調と同じ部屋で寝ていた。

セレナ「夢だったのかな?!」

セレナは夢を見ていた

そして休日の土曜日、セレナは買い物に出かけ、その隣には和斗が付いてきた。

セレナ「休日なのにすみません、和斗さん!」

和斗「気にすんなよセレナ、俺も暇だったから荷物持ちに十分だぜ!」

和斗とセレナが持つてる袋の中身はスーパーで買った食材ばっか。

セレナ「ステインガーさん達はどうしたのですか?!」

和斗「ああ、ステインガーさんならラフタと一緒にバトルオリオンシップで鹿児島に行ってる、チャンプという牛型ロボットに会いに行ってる、相棒だからな!」

俺はセレナにステインガーさんが鹿児島に行ってる事を話し。

セレナ「S・O・N・Gには玄十郎さんがいるから安心です!」

和斗「そうだな、それにセレナ? 体の方は大丈夫か?!」

俺はセレナに体の事を心配し。

セレナ「それはもう大丈夫です、シエンショウシンはもう響さんのおかげで無くなり、私のギアだったアガートラムはマリア姉さんが持ってたままです、それに切歌さんや調さんと同じリディアンに入学してよかったです！」

和斗「そうだな、それに壮汰や蓮司や功太がいるし、お前らのクラスは俺のクラスと同じ賑やかだな！」

俺はセレナと賑やかな話をし、すると。

女子「きゃー！」

女性の叫び声が聞こえ、駆け付け。

和斗「大丈夫か?!」

女子「私達は大丈夫、ハンバーガーが取られた！」

セレナ「和斗さん、もしかして?!」

和斗「ネオジャークマターだな、どっちに行った?!」

女子「あっち！」

女性があっちと指を指し。

和斗「セレナはこの人達を頼む、俺はネオジャークマターを倒しに行ってくる！」

セレナ「はい、気をつけて下さい！」

俺はあつちに向かい、セレナは女性達を心配する。

？「お腹すいた？君達？良かったら僕のレストランでご馳走つくるよ！」  
帽子をかぶった茶髪の青年が女性達に優しい声を掛ける。

セレナ「えっ?!」

その頃、俺は市民の叫び声が聞こえ、駆け巡り、すると。

？「ブヒヒヒヒ、エビフライと魚のフライ、いただきますブー！」

男子一般人「返してくれ、俺のご飯！」

人の料理をむさぼり食う豚の怪物。

和斗「いたぞ、ネオジャークマター！」

？「ブヒヒヒ？その服はキュウレンジャー?!」

和斗「お前は誰だ?!」

？「ブヒヒヒヒ、俺はネオジャークマターのダイカーン、ブタトーン、この地球の料理をむさぼり食ってやる！」

和斗「人が楽しんで食べる料理を奪って許さねえ！」

シシキユータマ！

セイザチエンジ！

和斗「スターチエンジ！」

S・O・N・G 潜水基地

ビービービー

玄十郎「どうした?!

藤高「レストラン近くにネオジャークマター反応、現在シシレットドが交戦しています  
!」

友里「オオカミブルーも援護に来ました!」

玄十郎「頼むぞ、和斗君、壮汰君!」

レストラン近くの街

オオカミブルー「和斗兄貴、援護に来たぜ!」

シシレットド「来たか壮汰、よし、あいつを倒すぞ!」

オオカミブルー「おう!」

俺と壮汰は武器を構え、ブタトーンに攻撃すると。

ポヨーン

俺とキュウソードと壮汰のキュウクローの攻撃を自分の腹で跳ね返す。

シシレットド「なっ?俺達の攻撃を跳ね返した?!

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、今度はこっちの番だ、くらえ豚汁ビーム!」

ブタトーンは鼻からビームが発射し攻撃。



シシレッド「ぎゃー、熱い！」

オオカミブルー「兄貴、これならどうだ！」

壮汰はバツクルからカニの絵が描いてる赤いキュータマを出しセイザプラスターに装填。

カニキュータマ！

セイザアタック！

壮汰は左腕を敵にかざし、カニの爪の光が現れブタトーンに挟む。

オオカミブルー「なっ？効かない?!」

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、俺の腹はどんな攻撃も跳ね返す弾力があるんだ、これでもくらえ、ボディアアタックブヒ！」

ドーン

ブタトーンは壮汰に向かって走りボディアアタックをする。

オオカミブルー「うわー！」

ボディアアタックをくらった壮汰は倒れる。

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、俺の攻撃を破れんなブヒ！」

シシレッド「壮汰、大丈夫か？…逃げろぞ、これで寝かそう！」

俺はバツクルから羊の模様の黄色いキュータマを出して装填。

オヒツジキュータマ!

セイザアタック!

俺はオヒツジキュータマの力を使ってブタトーンに向かって光を浴び、すると。

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、来ないならこっちから行くぞブヒ。…なんだか眠くなってきたブヒ!」

オヒツジキュータマを浴びたブタトーンは勢い良く倒れ眠りにつき。

シシレッド「よし、壮汰、今の内に退くぞ!」

オオカミブルー「ああ!」

俺は壮汰を連れて退き、ブタトーンは勢いよくイビキをする。

和斗「何とか逃げれたな!」

ピピピピピピ

和斗「なんだ? セレナからの連絡? どうしたんだろ?!」

俺はスマホを出して画面を見ると連絡相手はセレナからだった!

ピッ

和斗「もしもし? セレナどうした?!」

セレナ「和斗さん、そっちはどうですか?!」

和斗「ああ、ちよつと苦戦したがオヒツジキュータマ使つて眠らせたがいつまでもつ

かは！」

セレナ「和斗さん、お願いがありますがいいですか?!」

和斗「ああ、壮汰も一緒にいるけどどうした?!」

そして数分後、小太郎は響と未来とクリス、切歌と調、功太と蓮司と一緒に歩き。

響「ねえねえ未来、皆、お昼にここで食べに行こう、グラッツェというレストラン!」

響はグラッツェという英語が描かれたレストランを見つけ。

未来「こんなところにレストランがあったわね!」

小太郎「ああ、そこには俺の知り合いが経営して繁盛だよ!」

切歌「どんなご馳走があるデス?!」

調「それにしてもセレナ、遅いね、どこに行つたかな?!」

クリス「まあアイツには和斗がいるから心配するな調!」

功太「ああ、それに壮汰が駆け付けてるからな!」

蓮司「よしし入るで!」

響「おー!」

ガランガラン

響達は勢い良くドアを開く、すると。

セレナ「いらっしやいませ!」

和斗「8名様ですね!」

ウエイトレス姿の俺とセレナがお出迎え。

小太郎「あれ?和斗?こんなところに何やってんだよ?!」

小太郎はウエイトレス姿の俺に驚き。

和斗「手伝いだよ、セレナの頼みでグラツツエちよつと人が足らなくてな!」

俺は小太郎達に理由を答え。

功太「あれ?壮汰は何処だ?!」

セレナ「壮汰君ならちよつとお料理を運んでおります!」

響「セレナちゃん、ウエイトレス姿は似合うよ!」

未来「うん、すごく可愛いよ!」

響と未来はウエイトレス姿のセレナを誉める。

セレナ「ありがとうございます、響さん、未来さん、それでは皆様お席をご案内します!」

和斗「セレナ、俺は壮汰の手伝いに行つて来る!」

セレナ「はい、私は響さん達を席につかせたら厨房に向かいます!」

セレナは響達を席に案内し、俺は壮汰の手伝いに行き。

クリス「うわあ、どんだけ客が入つてんだ?!」

切歌「皆さん、美味しく食べてるデス！」

調「スゴいね切ちゃん！」

席についたクリス達はたくさん入ってくる客に驚き。

？「いらつしやいませ、ようこそグラッツェへ！」

コック帽子をかぶった男が席に座ってる響達にメニユーを渡し。

小太郎「スパード、久しぶり！」

小太郎がコック帽子をかぶった男の名前を言い。

スパード「小太郎？久しぶり、大きくなつたね！」

未来「小太郎君？この人の事、知ってるの?!」

小太郎「ああ、7年前、ラツキーや俺達と一緒にジャークマターを倒したキュウレン

ジャーのメンバーだったんだ！」

小太郎は未来達にスパードの事を説明し。

スパード「今、僕はレストラン、グラッツェのコックシェフとして活躍してるよ、9

つ星を取れたからね！」

クリス「スゲー、じゃあさ、どんなものも作れるのか?!」

スパード「勿論、僕は和食と洋食は作れるよ！」

響「すごい、じゃあ私はスパードさん特製カレーセットお願いします！」

響はとっさに注文し。

未来「もう響、じゃあ私は天ぷらセットはお願いできませんか?!」  
未来も注文。

切歌「じゃあアタシはハンバーグセットをお願いデス!」

調「私はオムライスの和風ソースセットをお願いします!」

クリス「よし、あたしはナポリタンセットを頼む!」

功太「?、セレナ特製のセレナスターキ?!」

スパード「それはセレナちゃんが急遽作ったメニューだよ!」

スパードはメニューに書いてあるセレナ特製のセレナスターキの説明し。

功太「じゃあ、俺セレナスターキのセットで頼む!」

蓮司「ワイはタコのパスタセットを頼むで!」

小太郎「俺は魚介フライセットを頼むよ!」

スパード「OK、それじゃ少々待ってね!」

それから25分後、料理が完成して響達のテーブルに置く、響のスパード特製のカレーセットはサラダがつき、未来の天ぷらセットはご飯と味噌汁と漬物、天ぷらは海老や那須、海苔や蓮根やオクラがのつてる、切歌のハンバーグセットはケチャップソースを付けたハンバーグ、セットはライスとトマトとコーンとレタスのサラダがつき、調の

和風オムライスセットはオムライスにスパード特製の和風ソースをかけ、セットはトマトのサラダがつき、クリスのナポリタンセットはナポリタンスパゲッティでセットはモツアレアチーズとトマトのカプレーゼがつき、小太郎の魚介フライセットはエビフライとホタテフライ、シャケフライ、イワシフライにご飯と味噌汁とキャベツのサラダがつき、蓮司のタコの pasta セットはタコの pasta とタコのカルパッチョがつき、最後、功太のセレナ特製のセレナステーキセットはセレナが作ったステーキとライスとレタスのサラダがつき。

スパード「さあポーノ、召し上がれ！」

8人「！！！！「いただきまーす！！！！」」（テース！）」

響達はスプーンや箸やらを使って料理を食べる。

響「うっ、このカレー美味しいよ！」

小太郎「すごいだろ？スパードの料理は宇宙一美味しいよ！」

未来「天ぷら美味しい！」

切歌「ハンバーグ旨いデス！」

調「オムライスの和風ソース美味しいです！」

クリス「すぐくうめーな、オイ！」

蓮司「ワイ、この味は気に入ったで！」

スパイダ「グラッツェ、ありがとう、誉めてくれて僕も嬉しいよ!」

功太「さて俺はセレナ特製のセレナスステーキを食べるか!」

功太はナイフでセレナスステーキの肉を切り、フォークに刺して食べると。

功太「: : : ぎゃー、辛い辛いからーい!」

功太はセレナスステーキを食べて顔を赤くなり口から炎が出た。

響「どんな味かな? うつ: : : からーい!」

響は功太のセレナスステーキを味見し、同じ口から炎が出た。

セレナ「ごめんなさい、ステーキにかけてソース、私が作りました!」

セレナは響と功太に謝り、作ったソースの説明し。

切歌「どんなソースを作ったデスか?!」

セレナ「実はハバネロスーパードイルをベースにソースを作りました!」

クリス「てっ、お前それはかわいそ過ぎだろ!」

調「不気味!」

それから2時間後、全員は料理を食べてお客は全員満腹になり店を出て、準備中と貼り、響達は店に残った。

未来「それでセレナちゃんと和斗君と壮汰君、人手が足りないグラッツェのお手伝いをしてたのね!」



和斗「ああ、セレナから電話で呼ばれて駆け付けたんだ！」

スパード「ネオジャークマターという奴らのせいで皆がお腹をすかせたんだよ！」

小太郎「スパード、ネオジャークマターを知ってるの?!」

スパード「うん、ステインガーとラフタから聞いたんだよ！」

調「それでおそくなったんだね！」

セレナ「あれ?スパードさん、写真台がのってるあれは何ですか?!」

セレナは机の写真台がのってる黄色いキュータマに気づき。

スパード「それはカジキキュータマ、僕のキュータマなんだ、今は飾ってるよ！」

スパードがキュータマの説明をし。

セレナ（でも、私が見てたら光ってました!）

スパード「それにしても僕もちよつと驚いたよ、和斗君達がラツキー達を受け継いだんだね！」

小太郎「うん、今はS・O・N・Gと協力して響とクリス先輩、シンフォギア装者と一緒に戦ってるよ！」

その頃、東京の街

ブタトーン「……ぐおー！」

ブタトーンは勢い良くイビキをし寝ていた。

リブラーン「ブタトーン、貴様はいつまで寝ている、起きろー!」

ゴロゴロ

リブラーンは現れてキレて雷を鳴らし、ブタトーンに命中。

ブタトーン「ブツ? ブヒ、リブラーン様? どうしてここに?!」

リブラーン「貴様が寝ていたから私が起こしてやったんだ!」

ブタトーン「ブヒ? 申し訳ありませんブヒ、キュウレンジャーに眠らせてつい、すぐに倒して参りますブヒ!」

リブラーン「貴様、キュウレンジャーとシンフォギア装者を倒すまで帰ってくるな、ネオツヨインダベ、貴様らも行け!」

ネオツヨインダベ「ギョイサー!」

リブラーンはネオツヨインダベに命令し、巨大戦艦に乗り、帰還。

一方、レストラングラッツェ

セレナと調と未来はスパードさんに料理の味見、未来が作った料理はフレンチトースト、調が作った料理はパンケーキ、セレナが作った料理は変な形のショートケーキだった。

スパード「うーん、未来ちゃんの作ったフレンチトーストは糖分ちよつと控えめだけど工夫してるね、調ちゃんの方はパンケーキの焼き加減はバッチリだよ!」

スパードは未来と調の作った料理を味見して2人を誉めた。  
未来「ありがとうございます！」

響「良かったね未来！」

切歌「調も誉められたデス！」

調「うん、バツチリだよ切ちゃん！」

蓮司「後はセレナやな！」

スパードはセレナの作った変な形のショートケーキを味見すると。

スパード「うっ、これは美味しいよ、セレナちゃんの作ったケーキ、具体的にクリームの飾りはぐちやぐちやだけど、自分なりにアレンジしてるよ！」

セレナ「ありがとうございます、嬉しいです！」

セレナは誉められ。

スパード「でも、セレナちゃんはスイーツを作るのは上手なのにどうして他の料理は不気味なんだ?！」

調「それは私と切ちゃんが教えます！」

調と切歌はスパードにセレナがどうして他の料理が不気味な事を教える。

調「あれは私と切ちゃんとセレナがリディアン音楽院に入学して間もなくの話です、私と切ちゃんとセレナは同じ寮で3人で過ごしてまもなく、晩ごはんの準備をしようと

したが私が厨房を見たらセレナが料理してるところ見ました!」

切歌「セレナが作った料理はアタシの大好物のハンバーグデス、アタシはそれを食べると、コシヨウと間違えて激辛ハバネロペッパーを入れたデス、そのせいでアタシは激辛が苦手デス!」

調「その後、私がケチャップソースで対処して食べれました、それまではセレナを厨房にお手伝いだけさせました!」

クリス「マジかよ?じゃあ晩飯の時は調が担当することになったのか?!」

調「はい、セレナ、スイーツを作る時はちゃんと分量を考えて作りました!」  
切歌「セレナの作るスイーツは美味しいけど変な形だったデス!」

ピピピピ

セイザブラスターから通信がなり、和斗はそれを出る。

和斗「はい、和斗です!」

玄十郎「大変だ、ネオジャークマターが東京市街地でまた食い荒らそつてる、すぐ向かってくれ!」

和斗「オツキユウ、よし、小太郎、響、功太、蓮司、クリス先輩、行くぞ!」

響「ネオジャークマターだね?行くこう!」

功太「よっしゃ、行くぜ!」

壮汰「俺はここに残るよ、セレナと調達を守るよ！」

小太郎「わかった、こっちは任せて！」

壮汰はセレナと調と未来と切歌とスパルダとグラッツェに残り、俺はキュウレンジャーのジャケットを着て現場に向かう。

切歌「デデデス、アタシと調も戦いたいデス！」

調「切ちゃん、私達はLincornが無いと制御出来ないよ！」

セレナ「切歌さん、調さん！」

一方、東京市街地

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、スーパーの惣菜や食べ物をもらうブヒ！」

市街地のスーパーで食い荒らそうとするブタトーン。

和斗「やめろ、ネオジャークマター！」

響「スーパーの食べ物を食い荒らそうとして許さない！」

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、さっきはよくも俺を眠らせてくれたなキュウレンジャー、お返ししないとな！」

クリス「だったらテメーを穴だらけにしてやるぜブタ野郎！」

和斗「みんな行くぞ！」

5人「[[[[[[おう！]]]]]]」

セイザチエンジ!

4人「[[「スターチエンジ!」]]」

俺達は変身し、響とクリス先輩はギアを纏いブタトーンを外におびき寄せる。

ブタトーン「ネオインダベー達、やれブヒ!」

ネオインダベー「ダベ、ダベ!」

シシレッド「うおー!」

一方、グラッツエ

未来「スパードさん、シエフになった理由は小さい頃だったですか?!」

スパード「うん、小さい頃、僕の星のカジキ座惑星がジャークマターに制圧された頃、食料が取られ幸いだったんだ、けどお腹をすかしてる妹と弟達の為に料理を振る舞ったんだ!」

スパードは未来達に小さい頃からシエフになる理由を教え。

スパード「でも今はみんなのためにご馳走を作ってるよ!」

セレナ（スパードさん、お腹をすかしてる皆さんの為に頑張ってたんですか、私だつて皆さんの為に戦います、小さい頃マリア姉さんが私を救ったように!）

キラーン

カジキキュータマがセレナの手元へ飛び、セレナがキャッチ。

切歌「デデデス？カジキキュータマがセレナの所へ飛んだデス?!」

調「もしかして切ちゃん、カジキキュータマがセレナに共鳴して光ったよ!」

スパード「やつぱり、セレナちゃん、カジキキュータマと共鳴したね!」

未来「スパードさん? どういうことですか?!」

スパード「セレナちゃんが料理を運んでる時に写真台がのつてる机に通りがかった時、光りかけて今、光ってたよ!」

セレナ「私が和斗さん達と同じキュウレンジャーに?!」

スパード「セレナちゃん、君は皆を守るために頑張るかね?!」

スパードはセレナに決意を決めさせ。

セレナ「私は：：和斗さんや響さん達の為に地球を守ります、切歌さんと調さんがギアを纏えない代わりにお料理戦士として!」

調「セレナ!」

未来「セレナちゃん!」

スパード「グラッツェ、ありがとうセレナちゃん、セレナちゃんは出来るよ、これを受け取って!」

スパードは机に置いてるセイザブラスターを取り、セレナに渡す。

切歌「セレナ、頑張るデス!」

セレナ「はい、行ってきます、切歌さん、調さん!」

壮汰「俺も行くぜ、セレナ!」

セレナ「壮汰君、行きましょう!」

壮汰「おう!」

一方、東京市街地

ブタトーン「くらえ、鼻息スモック!」

ブタトーンは鼻から大量の煙を出し、俺達を目くらまします。

クリス「くそ、何処にいきやがったブタ野郎!」

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、くらえ、トンカツパンチブヒ!」

ドン

ブタトーンは隙をついてクリスに向かってトンカツパンチした。

響「クリスちゃん?!」

クリス「うわっ、あっちい、アイツの油でベトベトだ!」

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、次はこれブヒ、豚汁ビーム!」

ブタトーンは鼻から豚汁ビームが発射し、響と小太郎に命中。

響「わっ!」



コグマスカイブルー「うわあああ！」

シシレッド「小太郎？響?!」

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、鼻息スモックの中で俺を見つけれられるブヒ?!」

？「それならこれで見えます！」

ミズガメキュータマ！

セイザアタック！

ザー

ブタトーンの上に水をかけ、スモックが消える。

ブタトーン「あれ？鼻息スモックの煙が消えたブヒ？まさか?!」

？「そのまさかだ！」

俺達の所へ駆け付けたのは壮汰とセレナだった。

響「セレナちゃん、壮汰君?!」

クリス「てっ、それはまさか?!」

クリス先輩はセレナの左腕に着けたセイザブラスターに気付き。

セレナ「スパードさんのキュータマが私に共鳴してセイザブラスターを私に託されま

した！」

壮汰「よし、行くぞセレナ！」

セレナ「はい!」

2人「「マワースライド!」」

オオカミキュータマ!

カジキキュータマ!

セイザチエンジ!

二人「「スターチエンジ!」」

(です!)

壮汰とセレナは自分のキュータマをセイザプラスターに装填し、変身ポーズをし、トリガーを引き、チエンジ、そして下の星のエンブレムが現れ、壮汰とセレナが光りに包み、壮汰はオオカミブルー、セレナは黄色いスーツを装着、下は女子のスカート、顔にカジキのヘルメットを装着、そう、カジキイエローだ。

ヘビツカイシルバー「おっ、セレナ、キュウレンジャーになったんだ!」

テンビンゴールド「おっしや、和斗リーダー、あれをやるで!」

シシレッド「よし、響もクリス先輩もやるぞ!」

響「OK、和斗君!」

俺達はブタトーンの前に並ぶ。

シシレッド「スーパースター、シシレッド!」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー！」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー！」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエローです！」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー！」

響「ガングニール、立花響！」

クリス「イチイバル、雪音クリス、ちよせー！」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊！」

全員「キュウレンジャー！」

俺達はポーズを決め。

ブタートーン「かかれブヒー！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

シシレッド「お前らの運！」

カジキイエロー「試してもらいます！」

俺とセレナは決め台詞を決め、全員は武器を構え、響も拳を構え、突撃する。

テンビンゴールド「くらえや！」

ヘビツカイシルバー「おりゃ！」

蓮司と功太達はネオインダバーの相手をし、俺とセレナと響はブタトーンの相手をする。

シシレッド「ブタトーン、お前の相手は俺達だ！」

ブタトーン「こしやくな、やれ、ネオツヨインダバー共！」

ネオツヨインダバーが現れ、足止めをしようとする。

ドドドドド

クリス先輩のギアのガトリングがネオツヨインダバー2体に命中。

クリス「コイツらはあたしに任せろ、お前らはブタ野郎をやれ！」

響「クリスちゃん、ありがとう！」

シシレッド「よし、セレナ、響、行くぞ！」

カジキイエロー「はい、和斗さん！」

響「うん、行こう！」

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、熱くしてやるブヒ、くらえ豚汁ビームブヒ！」

ブタトーンは俺達に向けて豚汁ビームを発射。

シシレッド「させるか！」

タテキュータマ!

セイザアタック!

俺はタテキュータマを使って豚汁ビームを防ぎ。

ブタトーン「ブヒ？防いだだと?!」

シシレッド「今だ、響！」

響「うん、任せて、どりゃー！」

ドーン

ブタトーン「ブヒー、お腹が痛いブヒ！」

響は右腕のアームドギアを起動し、勢い良くブタトーンの腹を殴り、吹き飛ばす。

カジキイエロー「次は私です！」

セレナはバツクルから水色のツボの絵柄のキュータマを出し、装填。

ミズガメキュータマ！

セイザアタック！

カジキイエロー「下ごしらえです！」

セレナはミズガメキュータマを使ってブタトーンに浴びる。

ブタトーン「ハクシヨン、ハクシヨン、風邪引いたブヒ！」

ブタトーンは風邪を引き、咳をする。

シシレッド「よし、ナイスだセレナ、一気に行くぞ、響も一緒に！」

カジキイエロー「はい！」

ギヤラクシー!

シシレッド「レグルスインパクト!」

カジキイエロー「ドラドインパクトです!」

俺とセレナは武器にキュータマを装填し必殺技をいい、ブタトーンを攻撃、そして! 響「どりゃー!」

響は右腕のアームドギアでもう一回ブタトーンの腹を勢い良く殴った。

ドーン

シシレッド「セレナ、2人で決めるぞ!」

カジキイエロー「はい、和斗さん!」

ギヤラクシー!

俺とセレナはセイザブラスターのキュータマを後ろ二回押し、ブタトーンに向ける。

2人「オールスタークラッシュユ!」

スーパーギヤラクシー!

セイザブラスターの必殺ビームをブタトーンに攻撃。

ブタトーン「ブヒー、俺が黄色の女の子に負けたブヒー!」

ドーン

ブタトーンは爆発。

2人「グッドラック！」（です！）

シシレット「決まったな、セレナ、やるな！」

響「セレナちゃん凄いよ！」

カジキイエロー「和斗さん、響さん、ありがとうございました！」

セレナは響と俺に感謝し、すると。

ブタトーン「控えおろーブヒ！」

ブタトーンは巨大化。

ブタトーン「ブヒヒヒヒ、踏み潰してやるブヒ！」

ブタトーンは俺と響とセレナの方へ進む。

オオカミブルー「くらえ、オオカミクロー！」

オオカミボイジャーがブタトーンに爪攻撃。

テンビンゴールド「くらえや、テンビンビームや！」

ヘビツカイシルバー「スネークアタック！」

ブタトーンに向けてビームやアタック攻撃する人形マシン、そう、バランスとナーガが乗ってた金色のボイジャー、テンビンボイジャーと銀色のヘビツカイボイジャーだ。

シシレット「よっしやラッキー、壮汰、蓮司、功太、ナイスタイミングだ、小太郎はどうした?！」

テンビンゴールド「クリス先輩と一緒にネオツヨインダベーと対決してるで!」

ヘビツカイシルバー「和斗先輩、合体行くぞ!」

シシレッド「おうよ、今行くぜ、セレナ、キュウタマを真横に押してトリガーを引いてみるよ!」

カジキイエロー「こうですか?!」

セイザゴー!

シシボーイジャー!

カジキボーイジャー!

俺はシシボーイジャーに乗り、セレナのボーイジャーはかつてスパードさんが乗ってたキュウボーイジャー、カジキボーイジャーだ。

カジキイエロー「はわわわわ、飛ばされちゃいますー!」

シシレッド「よし、行くぞ!」

セイザドツキング!

キュウレンオー

俺達のボーイジャーが合体し、キュウレンオー、今回はカジキが右腕、オオカミが左腕、テンビンが左足、ヘビツカイが右足だ。

シシレッド「よっしゃラッキー、行くぞみんな!」



4人「おう！」（はい！）

キュウレンオーはブタトーンと迫力な戦いをし、響はギアを纏ったまま見る。

響「行けー和斗君、みんな！」

コグマスカイブルー「響！」

小太郎とクリスが駆けつけ。

クリス「こっちは終わったぞ！」

響「クリスちゃん、小太郎君、今ね巨大戦だよ！」

ブタトーン「くらえブヒ、トンカツパンチブヒ！」

ブタトーンはトンカツパンチでキュウレンオーに攻撃。

カジキイエロー「お返しです！」

セレナはレバーを引いて右腕を動かし攻撃。

オオカミブルー「俺も行くぜ！」

壮汰もレバーを引いて左腕を動かして左ストレート攻撃。

ヘビツカイシルバー「次は俺だ、ヘビツカイキック！」

テンビンゴールド「今度はテンビンキックや！」

ドン

ブタトーン「ブヒー！」

ブタトーンは床につき。

シシレッド「よし、とどめだ!」

ギヤラクシー!

5人「キュウレンオー、メテオブレイク!」

スーパージヤラクシー!

ブタトーン「ブヒー、地球を支配して大量に食べたかったブヒー!」

ドーン

キュウレンオーの攻撃を受けたブタトーンは倒れて爆発。

5人「地球は俺達を守る!」

数時間後、レストラングラツエ

テーブルに大量の料理が並べてあり、飾りもつけてある。

和斗「よし皆、セレナのキュウレンジャーを祝して!」

全員「乾杯!」(デース!)

セレナ「皆さん、ありがとうございます!」

スパード「これは僕からのプレゼントだよ!」

スパードはセレナにプレゼント袋を渡し、開けると。

セレナ「これって、スパードさんが着てたキュウレンジャーのジャケット?!」

そう俺達が着てるキュウレンジャーのジャケット、色は黄色だ。

スパーダ「君はキュウレンジャーになれたんだ、バトルオリオンシップの厨房で料理の練習が出来るよ！」

切歌「セレナ、着てみるデス！」

セレナ「はい！」

セレナはスパーダから貰ったジャケットを着た。

未来「セレナちゃん、似合うわ！」

響「私達と同じだね！」

響と未来はキュウレンジャーのジャケットを着たセレナを誉め。

セレナ「ありがとうございます、これからもよろしくお願いします、皆さん！」

和斗「ああ、よろしくなセレナ！」

セレナ「はい、お料理もキュウレンジャーもS・O・N・Gも頑張ります！」

調「私も未来さんも料理を手伝うね！」

ガララン

ステインガーさんとラフタと紫のソフトモヒカンの少年がグラッツェに入ってきた。

切歌「デデデス？ステインガーさん、何処に行ったデスカ?!」

ステインガー「ああ、すまない、ラフタと一緒に鹿児島に行ってきたんだ！」

小太郎「チャンプに会えた?!」

ステインガー「ああ、相棒は鹿児島で畑の手伝いをしながらロボレスを頑張ってる!」

ラフタ「おまけにオウシブブラックを受け継ぐ人物も見つけました!」

クリス「もしかして、連れてきたそいつか?!」

クリスは切歌と調と同じ身長の高いキュウレンジャーのジャケットを着た紫のソフトモヒカンの少年に気付き。

? 「おいどんの名は南野剛でござす、よろしくでござす、クリス先輩殿方!」

紫のソフトモヒカンの少年がクリス達に景気良く鹿児島弁で挨拶をした。

ステインガー「剛は高校一年生でリディアンに転入だ、皆、仲良く頼む!」

壮汰「よろしく、剛!」

蓮司「よろしくや!」

功太「よろしくな!」

剛「うむ、よろしくでござす!」

剛は壮汰と蓮司と功太によるしくの握手をした。

和斗「へへへ、よっしゃラッキー、残りも運試しだ!」

剛「ござす!」

スパード「久しぶり、ステインガー、賑やかになったね、新しいキュウレンジャーは

！  
」

STEIN GARDNER 「ああ、シンフォギア装者達がいるから頼もしくなったからな！」

NEWS TORY

# スペース7、2人はハミイ先生の教え子!

S. O. N. G 潜水艦基地のシミュレーション室

シミュレーション室には剛とクリスがいる。

玄十郎「クリス君、今から剛君と模擬戦だ、手荒に頼むぞ!」

クリス「おうよ、任せとけよおっさん、さて、お前の戦いを見せて貰うぞ後輩、手加減は無しだぜ!」

剛「うむ、クリス先輩殿、マワースライドでござす!」

オウシキュータマ!

剛はオウシキュータマをマワースライドし、左腕のセイザブラスターに装填。

セイザチェンジ!

剛「スターチェンジでござす!」

剛はスターチェンジを言い、変身ポーズしてトリガーを引く、すると牛座の光が剛の体を包み、体は巨漢の体型の黒いスーツを装着し、最後に牛のエンブレムの顔を装着、そう、チャンプが変身したオウシブラックだ。

剛「リングスター、オウシブラックでござす!」

剛はオウシブラックに変身してポーズを決める。

クリス「へー、こいつがオウシブラックかー、てかお前、何で変身してる時にこの体型かよ?!」

ギアを纏ったクリスはオウシブラックの体型になった剛に気付き。

オウシブラック「チャンプ殿の時はいつもこの体型でござす!」

功太「へー、剛の奴、変身する時はこの体型になるのかー!」

蓮司「案外、タフやな!」

シミュレーション室の窓から二人を見る玄十郎と蓮司と功太達。

クリス「まあいいか、とにかくやるぞ!」

オウシブラック「おうでござす!」

キュウアックス

剛は武器を組み立て、斧の形の武器、キュウアックスにし、構え、それと同じくクリスはアームドギアのクロスボウの2拳銃を構えた。

玄十郎「では、始め!」

クリス「行くぜ!」

ドドドドド

クリスはアームドギアのクロスボウを剛に向かって放ち。

キンキン

剛はクリスの銃弾をキュウアックスで振って弾いた。

オウシブラック「甘いでごわす、今度はこっちの番でごわす!」

剛はキュウアックスを持ったままクリスに向かって走り、攻撃。

ドン

クリスは剛の攻撃を飛んで避ける。

クリス「うわーなんちゆう力を持ってんだアイツ、それならこれはどうだ!」

クリスはすかさずアームドギアの全弾ミサイルを構え、発射。

オウシブラック「ごわす!」

剛はクリスの放った全弾ミサイルをキュウアックスで振りまくり切り、爆破。

クリス「あたしの全弾ミサイルを振りまくって切りやがる?!」

オウシブラック「行くでごわす!」

ギヤラクシー!

オウシブラック「アルデバランインパクトでごわす!」

剛はキュウアックスにキュータマを装填し必殺技を言い衝撃波を放つ。

ドドド

クリス「うわっ!」



クリスは剛の必殺技を受け、倒れ。

ピピー

玄十郎「それまで、模擬戦を終了する！」

玄十郎の号令で二人は止まり、変身解除とギアを解除し、私服姿に戻る。

クリス「やるな、剛、お前、どうやったら怪力になってんだ?!」

剛「それはだな、おいどんの故郷の鹿兒島で父ちゃんも母ちゃんも畑の手伝いやニンコロ星人の手伝いで力をつけたでござす、例えば重い荷物を5コ持てるでござす！」

クリス「マジかよ?!」

クリスは剛の怪力話を聞いてちよつと驚く。

一方、木星のネオジャークマター本部のブリーフィングルーム

ブリーフィングルームではシザースとリブラーンと黒いフードが座っていた。

「おやつ? キュウレンジャーがまた一人増えたよ、今度は黄色い女の子だね！」

モニターでカジキイエローを見る黒いフード。

リブラーン「ああ、ブタトーンとの対決の時にモライマーズが写した情報だ！」

シザース「ウピャピャピャ、こいつはギッチョンギッチョンしたいぜ！」

「まあ、焦るなよシザース、獲物は逃げないよ、さて次のダイカーンはこいつだよ

！」

ウイン

扉を開けると鶏の怪物がブリーフィングルームに入ってくる。

? 「我輩はダイカーンのコツケコー、空を飛んで奴らを倒して来ますコケ!」

? 「よし、コツケコー君に任せるよ、僕も後から地球にに来るからね!」

コツケコー「ギョイサー、では、行つてきますコケー!」

コツケコーはブリーフィングルームを出て、地球に向かう準備をし。

? 「さて、僕もフードを脱ごう、後から地球に来てキュウレンジャーとシンフォギア装者の力を見ていくからね!」

バサツ

黒いフードがフードを脱ぐと姿は黒がモチーフの熊で体は銀色のサイボーグのような体型をしてる。

シザース「ウピヤ? フードを脱いだということは行くのかグリズラー!」

シザースがその名前を言い。

グリズラー「ああ、ネオジャークマターのオオグマ座系カロエのエリートとして試すときだよ、ふふふふ!」

次の日、リディアン音楽院の1年A組

一番窓際の席に座ってるのは切歌と調、前には蓮司と功太、後ろには壮汰とセレナが

座り、蓮司と功太の前には剛が座っていた。

切歌「フフフフーンデス！」

喜びそうに機嫌をしてる切歌。

功太「おつ？どうした切歌？何か良いことでもあるのか?!」

調「今日は新しい担任の先生と2人の転校生が来るんだよ！」

剛「転校生つつても、おいどんがおるでござすよ！」

セレナ「そうですね、壮汰君はどう思いますか?!」

壮汰「ああ、気になるよな！」

ガラガラガラ

調「先生が入ってきたよ！」

先生が入ってきたとたんに生徒達は席に戻って座る、入ってきたのは髪を後ろに束ねた黒髪の女性で緑がモチーフの私服姿の教師。

？「みんなー、始めまして、今日から私がこのリディアン音楽院の1年の担任になったハミイだよ、キタコレ！」

ハイテンションに自己紹介したハミイ。

切歌「おお、ハイテンションな先生でデース！」

蓮司「ええ先生や！」

調「楽しそう!」

切歌達はハミイ先生で喜び。

ハミイ「私だけじゃないよ、2人の転校生も紹介するよ、入ってきて!」

教室に入ってきたのは切歌と同じ身長と体型の2人の女子が入ってきて、黒髪のセミロングの女子とピンクのポニーテールの女子だ。

? 「み… 皆さん初めまして、神奈川から来ました緑川アミです、よろしくお願ひします!」

セミロングの女子が恥ずかしく自己紹介し。

? 「同じく神奈川から来ました織野エリです、よろしくお願ひします!」

ピンクのポニーテールの女子は元気良く自己紹介した。

パチパチパチパチ

切歌達は拍手をし。

ハミイ「それじゃ、緑川さんと織野さんの席は、暁さんと月読さんの隣の席に座つてね!

エリ「ありがとうございます先生!」

アミ「あ… ありがとうございます!」

エリとアミは言われたとおりに切歌と調の隣の席までいき、席につく。

セレナ「お二人かわいいですね！」

壮汰「ああ、実に髪型がかわいいよ！」

功太「おっ？ 壮汰、あの2人に気になったのかー?!」

功太は壮汰をからかう。

壮汰「べ、別にそんな訳じゃないよ！」

それから数時間後、昼休み

ハミイ先生はリディアン生徒達と話をし。

女子「ハミイ先生、カメレオン座系惑星ラコ出身だったんですか?!」

ハミイ「うん、今は地球で夢で憧れた教師として頑張ってるの！」

女子「ハミイ先生、どんな科目が好きですか?!」

ハミイ「そうだね、音楽が大好きよ！」

女子「じゃあ好きな歌手はどんなのですか?!」

ハミイ「うーん、そうね、ホシミナトよ！」

女子「ハミイ先生、ホシミナトさんのファン何ですか？ 私達もファンですよ、風鳴翼

と天羽奏のユニット、ツヴァイウイングは知ってますか?!」

ハミイ「ツヴァイウイング?!」

切歌「ハミイ先生、人気デス調！」

調「うん、そうだね切ちゃん!」

切歌「そうだデス、調!」

調「どうしたの切ちゃん?!」

切歌と調はエリとアミの席まで歩き。

エリ「暁さん? 月読さん? どうしたの?!」

切歌「初めましてデス、アタシは暁切歌デス、大好物はハンバーグデス!」

切歌は2人に自己紹介し。

アミ「わあ… 私もそれ、大好物だよ、暁さん!」

エリ「私も、お母さんが晩御飯に作ってるの!」

エリとアミは切歌の好物に通じ。

調「緑川さん、織野さん、私は月読調、趣味はお料理だよ!」

調も2人に自己紹介した。

アミ「月読さん、お料理が趣味なんだね、私は音楽とかわいいのが趣味なの!」

エリ「私は音楽とスポーツが好きなのよ!」

アミとエリは調に趣味を教え。

功太「俺は遠堂功太、ちなみに俺はスケボーが得意だぜ!」

蓮司「ワイは新井蓮司、趣味は機械いじりと親孝行や!」

剛「おいどんは南野剛でござす、おいどんは親の畑仕事と猫が大好きでござす！」

壮汰「俺は青野壮汰、趣味は人助けと運動が得意だぜ！」

セレナ「私はセレナ・カデン

ツアヴァナ・イヴです、長いですがセレナと呼んで下さい！」

セレナ達もアミとエリに自己紹介した。

一方、バトルオリオンシッブブリーフィングルーム

ウイン

自動ドアが開けて玄十郎が入ってくる。

玄十郎「おっ？ラフタ君はどうした?！」

ステインガー「ラフタならリディアン音楽院に行ってる、仲間会いに！」

ステインガーはラフタがリディアン音楽院に行ってることを玄十郎に話し。

玄十郎「そうか、確かラフタ君の仲間はキュウレンジャーだったな！」

ステインガー「ああ、カメレオングリーンのはみいだ、現在はリディアン音楽院の教師に着任したばかりだから、それより玄十郎司令、昨日の剛の方はどうだ?！」

ステインガーは玄十郎に昨日の剛の事を言い。

玄十郎「ああ、クリス君との模擬戦の時は怪力を持つてるからな、どうやって見つけ

たのかね?!

ステインガー「ああ、鹿児島でチャンプが剛と剛の両親とニャンコロ星人達と畑仕事をしてるのを見てた、その途中にネオジャークマターが畑を襲撃し、チャンプが食い止めたがシザースに苦戦してピンチの時に剛が駆けつけた時にチャンプのオウシキュータマが剛と共鳴してオウシブラックになったぞ!」

ステインガーは鹿児島で剛を見つけた事を玄十郎に話す。

玄十郎「剛君の両親や知り合いのニャンコロ星人達が育てた畑を守るために戦ってたのか!」

一方、新宿市街地

コツケコー「コツコツコツコケ、ここが地球か!」

ビルの屋上で外を眺めてるコツケコー。

ガチャ

屋上のドアを開ける音がして。

会社員「うわっ?なんだあのニワトリの化け物は?!

コツケコー「コケ?見たな、くらえコケッコビーム!」

コツケコーは会社員にビームを浴び、すると。

会社員「コケ?コケッコ?コケ!」



コツケコーのビームをくらった会社員は喋ろうとするとニワトリの声になる。

コツケコー「コツコツコツ、我輩のコケツコビームを浴びた人は喋ろうとするとニワトリの鳴き声しか喋れないぞコケ！」

コツケコーはコケツコビームの説明をし、下へ飛び出す。

一方、リディアン音楽院の廊下

和斗「なあ、響、未来、俺の家で飯食いに行くか？母さんが久しぶりに響と未来と一緒にご飯食べたいからさ！」

俺は響と未来に家で飯を食いに行くと言いついて誘い。

響「行く、和斗君のお母さんの手料理食べたーい！」

未来「じゃあ、お言葉に甘えていただくね！」

和斗「よっしゃラッキー、あれ？切歌と調？何をやってるんだ?!」

俺は学校を案内してる切歌と調の姿を見る。

和斗「おーい、調、切歌、何をやってるんだー！」

俺達は切歌と調の方へ走り。

切歌「和斗さん？どうしたんデスか?!」

和斗「2人とも何をやってんだ？こんなところで?!」

調「今、私と切ちゃんはアミとエリに学院の案内してます！」

和斗「アミとエリ?!」

アミ「あの：初めまして、神奈川から来ました緑川アミです!」

エリ「同じく神奈川から来ました織野エリです!」

切歌「2人は初めて出来たアタシと調の友達です!」

切歌は俺達にアミとエリの友達と自慢し。

和斗「そうだったんだ、俺は獅子野和斗、リディアン音楽院の2年生でお前らのひとつ上の先輩だ、よろしくなこの2人は俺の小学校の頃の幼なじみの響と未来だ!」

響「切歌ちゃんと調ちゃんの初めて出来た友達だね、私は立花響だよ!」

未来「私は小日向未来、和斗君と響と同じリディアンの2年生なの、よろしくね!」

俺達はアミとエリに自己紹介をし。

ラフタ「あっ、いました、和斗君!」

響「あれ?ラフタ?どうしたの?!」

ラフタは俺を見つけ声をかけ。

ラフタ「ハミイはどこですか?!」

未来「ハミイ?!」

切歌「ハミイ先生なら職員室にいるです!」

リディアン音楽院の職員室

ハミイと久しぶりに話をしてる小太郎の姿があった。

小太郎「それでハミイは今日からリディアン音楽院の切歌達の担任に着任したんだ！」

ハミイ「うん、神奈川県の小学校の先生から辞令をもらったの！」

ガラガラガラ

ラフタ「ハミイ、お久しぶりです！」

ハミイ「キタコレ、ラフタ久しぶり、元気だった?！」

ラフタはハミイと再開し抱きしめ。

調「ラフタ?ハミイ先生とどんな関係ですか?!」

調はそれを問う。

小太郎「俺が教えるよ、ハミイも7年前に俺達と一緒にキュウレンジャーなんだ！」

切歌「デデデス?ハミイ先生、キュウレンジャーデスと?!」

切歌は小太郎の言葉で驚き。

アミ「ハ…ハミイ先生、キュウレンジャーだったのですか?!」

エリ「尊敬します!」

ハミイ「ありがとう、アミちゃん、エリちゃん!」

調「あの…ハミイ先生、エリとアミとは知り合いですか?!」

ハミイ「うん、私が神奈川の小学校にいた頃の教え子なの!」  
すると。

ピピピピピピ

響の通信機が鳴り、響はそれを出る。

響「もしもし? 師匠、どうしたのですか?!」

玄十郎「響君、大変だ、新宿市街地にネオジャークマターが現れたとの情報が入った、  
今、壮汰君と剛君が現場に向かつてる、すぐに来てくれ!」

響「分かりました、すぐ行きます!」

ピッ

ラフタ「ネオジャークマターですか?!」

響「うん、師匠からの情報によると新宿市街地に現れたの!」

ハミイ「キタコレ、久しぶりに久しぶりにやるよラフタ!」

ラフタ「はい、行きましょう!」

一方、新宿市街地

コツケコー「コケー、くらえコケッコビーム!」

次々と一般人にコケッコビームを浴びるコツケコー。

オオカミブルー「ひどいな、一般人達の声を喋れなくするなんて!」

現場に着いた壮汰と剛は状況を見る。

コツケコー「コケ？お前達はキュウレンジャー？コケ！」

オウシブラック「許さんでござす！」

壮汰と剛はキュウエポンを構え、コツケコーに向かって走り攻撃を仕掛ける、すると。

コツケコー「コケー、飛びますコケ！」

コツケコーは壮汰と剛の攻撃を飛んで避ける。

オオカミブルー「なっ？飛んだ?!」

コツケコー「今度はこっちの番だコケ！」

コツケコーは飛んで剛達に攻撃を仕掛ける。

オウシブラック「ござす、卑怯でござす！」

コツケコー「コケケケ、うわっ?!」

飛んでるコツケコーに向かってビームが当たる。

？「当たりました！」

コケツコーに攻撃したのは飛んでるピンクの戦士。

オオカミブルー「えっ？誰、あの人?!」

響「ラフタだよ、あのワシピンクは！」

現場に着いた響はギアを纏って壮汰と剛にピンクの戦士を教える。

オウシブラック「ラフタ殿でござるか?!」

シシレッド「ああ、ラフタはキュウレンジャーだぞ!」

? 「キタコレ、私もキュウレンジャーだよ!」

緑の戦士も現場に着く。

コグマスカイブルー「ハミイもキュウレンジャーだよ!」

? 「その通り、私はキュウレンジャーのカメレオングリーンだよ!」

緑の戦士が自分の事を伝え。

オオカミブルー「ハミイ先生なんだ?!」

ピピピ

響のヘッドホンから通信の音が聞こえる。

響「あおいさん? どうしたのですか?!」

友里「響ちゃん、未来ちゃん達が避難誘導してる新宿市街地にノイズが現れたの、す

ぐに向かって!」

響「わかりました、すぐ行きます!」

響は通信を切る。

響「和斗君、私、未来達の所に行ってくる、ノイズが現れたから!」

シシレッド「わかった、こっちは任せてくれ！」

コグマスカイブルー「響、俺も行くよ！」

響「ありがとう小太郎君、じゃあ行ってくるね！」

響と小太郎は未来達のいる所へ行き、俺とハミイさんとラフタと壮汰と剛で、コツケコーと対決。

コツケコー「コケ、空飛ぶ我輩に当てれるかな?！」

シシレッド「それならこれだ！」

俺はバツクルからイテキユータマをだし、装填。

イテキユータマ！

セイザアタック！

ラフタは下がり、イテキユータマの無数の矢がコツケコーに命中。

コツケコー「コケー！」

ドン

コツケコーは空から落ちる。

カメレオングリーン「キタコレ、ラフタ、一気に決めるよ！」

ワシピンク「はい、行きましょう！」

ハミイさんとラフタはキュウウエポンを構えて地上に落ちたコツケコーに向かって

攻撃を仕掛ける、すると。

? 「フフフ、僕の相手もしてもらおうかな?!」

カメレオングリーン「えっ? きやつ!」

ワシピンク「きやつ!」

銀色のサイボーグのような熊が突如現れ、ハミィさんとラフタに攻撃し、姿を現す。

オウシブラック「ネオジャークマターの幹部でござるか?!」

グリズラー「その通り、僕はオオグマ座系カロリーのグリズラー、君達の力を試しても

らおうか?!」

グリズラーは俺達に自己紹介し、挑発をする。

オオカミブルー「なめんなよ俺達を!」

オウシブラック「壮汰殿、挑発にのつては駄目でございます!」

剛の忠告を無視して壮汰はキュウクローを構え、グリズラーに向けて走り攻撃を仕掛  
け。

キーン

オオカミブルー「なっ? 俺の攻撃を防いだ?!」



グリズラー「僕の頭脳は電子頭脳も搭載した機能で解析や分析も出来るよ！」  
グリズラーは壮汰の攻撃を防ぎながら電子頭脳やらの説明をし。

グリズラー「今度はこっちの番だよ、くらえサイバークロー！」

グリズラーの腕から機械の熊の爪が現れ、壮汰に攻撃する。

オオカミブルー「うわあああ！」

シシレット「壮汰?!」

カメレオングリーン「このー！」

ワシピンク「許せません！」

一方、新宿市街地

未来と切歌と調は一般人の避難誘導し、何故かアミとエリも手伝っていた。

一般人「ノイズが来たぞー！」

一般人「早く逃げろー！」

一般人達は慌てて避難。

切歌「皆さん落ち着くデス！」

調「慌てて避難しないで下さい！」

切歌と調は一般人を注意し。

一般人「ひい？ノイズが近づいて来たぞー！」

すると

響「どりゃー!」

コグマスカイブルー「おりゃ!」

響と小太郎は未来達のいる所に着き、数十体のノイズを一掃。

未来「響、小太郎君!」

響「未来? みんな、大丈夫?!」

未来「和斗君達の方は?!」

コグマスカイブルー「大丈夫、和斗達の方はハミイとラフタが付いてる!」

小太郎は未来に和斗達にはハミイとラフタが付いてると伝え。

アミ「ハミイ先生が?!」

エリ「アミ、行ってみよう!」

アミとエリは響達に気づかず行き。

調「ん? 切ちゃん、アミとエリが!」

調はアミとエリが向こうへ行つてることを気づき、切歌に伝え。

切歌「デデデス? 危ないデス、調、行くデスよ!」

切歌と調はアミとエリを追いかける。

響「切歌ちゃん? 調ちゃん? 何処に行くんだよ?!」

コグマスカイブルー「もしかしてハミイとラフタを心配して行ってる、響、ここは俺に任せて響は切歌達の方へ行つて！」

響「でも小太郎君一人じゃ！」

コグマスカイブルー「俺の方は心配するな、俺も終わったらすぐに未来を連れて来るから！」

未来「響、お願い、切歌ちゃん達の方へ行つて！」

未来は響にお願いし。

響「わかったよ、未来：小太郎君、未来をお願い！」

コグマスカイブルー「わかった、任せてよ！」

響は切歌達を追いかけ、小太郎は一人で残りのノイズを一掃しながら未来と一般人を守る。

一方

コツケコー「コケー、飛べなくなってしまうたが、攻撃は出来る、くらえ、羽根ミサイル！」

オウシブラック「ごわっすー！」

コツケコーは羽根のミサイルを発射し、剛に命中。

シシレッド「剛?!」

グリズラー「よそ見をしてる場合じゃないよ！」

カメレオングリーン「このー！」

ワシピンク「やー！」

ハミィさんとラフタはキュウウエポンで攻撃。

グリズラー「分析：サイバークロー、ガードモード！」

グリズラーはサイバークローを盾のような物に変形し攻撃を防ぎ。

ワシピンク「今度は防ぎました?！」

カメレオングリーン「えー、あり得ない！」

グリズラー「もうおしまい? 今度はこつちから行くよ、くらえサイバークロー！」

グリズラーはサイバークローを攻撃用に変形し2人を攻撃。

カメレオングリーン「うわー！」

ワシピンク「きゃっ！」

ハミィさんとラフタはグリズラーの攻撃で飛ばされ変身解除。

グリズラー「なんだ? 伝説のキュウレンジャーの力、この程度だね、あつけないよ！」

グリズラーは倒れてるハミィとラフタに向かってゆっくり歩き。

シシレッド「ラフタ?！」

オオカミブルー「ハミィ先生?！」

すると

グリズラー「ん？、なんだ君達は?!」

アミとエリが駆けつけ、ハミイさんとラフタを守る。

アミ「ハ：ハミイ先生とお友達のラフタさんはやらせません!」

エリ「私とアミはハミイ先生には神奈川で助けられたことがある!」

ハミイ「アミちゃん? エリちゃん? どうして?!」

ラフタ「2人とも危ないです、下がって下さい!」

ラフタは2人に忠告し。

アミ「イヤです、ハミイ先生には救われたことがあります、小学生の頃に私とエリの両親をノイズから救われた事や私が悩んでる時には元気よく声をかけてくれました!」

エリ「それにリディアン音楽院で初めて出来た友達やみんなの大切な地球をあなた達の好きにはさせない!」

切歌「うう：アミ、エリ!」

調「2人とも、ありがとう!」

アミとエリを見つけた切歌と調は隠れてアミとエリの言葉で泣く、すると。

ハミイ「これって? ラフタ!」

ラフタ「ええ、もしかして!」

ハミイ先生のカメレオンキュータマとワシキュータマが突然光だし、アミとエリの手元へ飛ぶ。

エリ「これって?!」

アミ「まさか私達?!」

アミとエリは手元のカメレオンキュータマとワシキュータマを見る。

ハミイ「ラフタ!」

ラフタ「はい、エリ、アミ!」

ハミイ「受け取って!」

ハミイ先生とラフタは左腕につけてたセイザブラスターを外し、アミとエリの所へ投げ、2人は受け取り、左腕につける。

エリ「アミ!」

アミ「うん!」

2人「マワースライド!」

カメレオンキュータマ!

ワシキュータマ!

セイザチエンジ!

2人「スターチェンジ！」

アミはセイザブラスターにカメレオンキュータマ、エリはワシキュータマを装填、変身の掛け声をしポーズを決め、トリガーを引く。

グリズラー「な？なんだ？うわっ！」

カメレオンとワシの光が現れ、グリズラーを吹き飛ばし、その光をアミとエリの体に包み、アミはカメレオングリーンになり、エリはワシピンクになった。

オオカミブルー「これは驚いたよ！」

シシレッド「よっしやラツキー、2人共キュウレンジャーだな！」

アミ「シノビスター、カメレオングリーンです！」

エリ「スピードスター、ワシピンク！」

アミとエリは名乗りとポーズを決め。

シシレッド「スーパースター、シシレッド！」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー！」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックでござす！」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊！」

3人「『キュウレンジャー！』」

俺と壮汰と剛はアミとエリに続いて名乗りとポーズを決めた。

カメレオングリーン「貴方達の運！」

ワシピンク「試してあげる！」

キュウレイピア!

キュウシヨット!

アミとエリはキュウレイピアとキュウシヨットを持ち、構える。

グリズラー「へー、僕に挑むのか?面白そうだね！」

グリズラーは立って体勢を構える。

シシレット「おりゃ！」

オオカミブルー「どりゃ！」

オウシブラック「ごわす！」

俺と壮汰と剛は武器を構えコツケコーと対決。

コツケコー「コケー、我輩の攻撃をくらえコケ、羽根ミサイルコケ！」

オオカミブルー「ならば！」

壮汰はバツクルからピンクのウサギの絵のキュータマを出し、装填。

ウサギキュータマ!

セイザアタック!

ピョンピョン



壮汰はウサギキュータマを使って高く飛び。

オオカミブルー「くらえ、キュウクロー、ジャンプアタック！」

すかさずキュウクローを構えてコツケコーに向かつて攻撃。

コツケコー「コケー！」

シシレッド「ナイスだ壮汰、剛、とどめ行くぞ！」

オウシブラック「合点でござす！」

ギヤラクシー！

俺と剛は武器にキュータマを装填し構え。

シシレッド「レグルスインパクト！」

オウシブラック「アルデブランインパクトでござす！」

俺と剛は必殺技を放ち、コツケコーに命中。

コツケコー「コケ？コケー！」

ドーン

コツケコーは攻撃を食らって爆発。

2人「グッドラック！」

ギヤラクシー！

カメレオングリーン「ハミリオンインパクトです！」

ワシピンク「アルタイリンパクト!」

アミとエリは武器にキュータマを装填して必殺技を放ち、グリズラーに攻撃。

グリズラー「サイバークロー、ガードモード!」

グリズラーは2人の攻撃をしのぎ、すると。

ビービービー

グリズラーの分析からサイレンが鳴り。

グリズラー「僕のサイバークローのガードモードがヒビ割れるとは、面白そうだね、ま

た会おう!」

グリズラーは転送装置を使って退いた。

シシレット「やるな、アミ、エリ!」

切歌「やったデス、アミ!」

調「エリもかっこよかったよ!」

カメレオングリーン「切歌ちゃん、調ちゃん、ありがとう!」

すると。

コツケコー「控えおろコケー!」

コツケコーは巨大化し飛び回る。

シシレット「壮汰、剛、ボイジャーを出すぞ!」

オウシブラック「合点でござす！」

オオカミブルー「おうよ、アミとエリは?!」

カメレオングリーン「私、出したことない！」

ワシピンク「私も！」

オオカミブルー「こう、使つて出すんだよ！」

壮汰はアミとエリにボーイジャーの出し方を教え。

シシレッド「よし行くぞ！」

セイザゴー！

シシボーイジャー！

オオカミボーイジャー！

オウシボーイジャー！

カメレオンボーイジャー！

ワシボーイジャー！

剛のキュウボーイジャーは2つのキャタピラがついた牛の形、オウシボーイジャー、アミのキュウボーイジャーは緑のカメレオンがモチーフのカメレオンボーイジャー、エリのキュウボーイジャーはピンクのワシのワシボーイジャーだ。

カメレオングリーン「うわー、飛んでるー！」

ワシピンク「すごく良い!」

コツケコー「コケ、これでもくらえコケ、つつきアタックコケ!」

コツケコーはエリのキュウボーイジャーに向かってつつきアタックすると。

ワシピンク「当たらないわ、これでもくらいなさい!」

ビー

エリはレバーを引いて宙返りで避けてトリガーを押してコツケコーの後ろにビーム攻撃。

コツケコー「コケー!」

シシレッド「よし行くぞ!」

セイザドツキング!

キュウレンオー!

今回のキュウレンオーは足がオウシボーイジャーとオオカミボーイジャー、右腕はワシボーイジャー、左腕はカメレオンボーイジャー。

シシレッド「よっしやラツキー、行くぞ!」

俺達はレバーを押して進み、コツケコーに攻撃すると。

コツケコー「コケー、そんな攻撃当たるかコケ!」

カメレオングリーン「だったらこれです!」

アミはレバーの右のボタンを押し、すると。  
シユル

キュウレンオーの左腕のカメレオンボイジャーの口が開きベロを出しコツケコーの足に引っ付き。

カメレオングリーン「それー！」

アミはレバーを連続に引いて左腕が分回るように動き。

ワシピンク「次は私よ！」

エリはレバーのボタンを押し、ワシボイジャーの連続ビームが発射し。

コツケコー「コケー！」

コツケコーは攻撃を受け、目が回り倒れる。

切歌「行けデス、アミ！」

調「エリ、頑張れ！」

エリとアミを応援する切歌と調。

響「あれ？切歌ちゃん？調ちゃん？大丈夫だった?!」

調「あれ？響さん?!」

響は切歌と調の所へ着き。

切歌「大丈夫デス、アタシと調は隠れてたデス！」

シシレット「よし、とどめだ!」

ギヤラクシー!

5人「[[[[キュウレンオー、メテオブレイク!]]]]」

スーパーギヤラクシー!

キュウレンオーの5つの星座の力を一つにし、コツケコーに攻撃。

コツケコー「コケー、テリヤキチキンになるのは嫌だコケー!」

ドーン

コツケコーは倒れて爆発。

5人「[[[[地球は俺達（私達）が救う!]]]]」

そして数10分後、バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ウイーン

4人「[[[[じゃーん!]]]]」（デス!）

ドアを開けるとアミとエリと切歌と調はキュウレンジャーの隊員ジャケットを着て俺達に見せ、アミと切歌は同じ緑でエリと調は同じピンクだ。

響「アミちゃん、切歌ちゃん似合うよ!」

未来「調ちゃん、エリちゃん、かっこいいね!」

クリス「あたし達に感謝しろよ4人とも、その隊員ジャケットはステインガアのやつ

さんとセレナと蓮司と功太とあたしで作ったからな！」

切歌「クリス先輩ありがとうございます！」

アミ「玄十郎さん、皆さん、今日からよろしくお願いします！」

アミは玄十郎や皆さんに軽くお辞儀をし。

玄十郎「うむ、宜しく頼むぞ、アミ君、エリ君！」

エリ「あれ？ハミイ先生は?！」

ラフタ「ハミイならリディアンに戻りました、やり残した仕事がありますので！」

セレナ「また学校で会えますよ！」

小太郎「兄貴、サソリキュータマとセイザブラスターはどうしたんだよ?！」

小太郎はステインガーの左腕を見てセイザブラスターが着けてないのに気づき！

ステインガー「ああ、俺が共鳴する人物を見つけて渡したんだ、今、別行動中だ！」

和斗「よっしやラツキー、残りの一人は誰だー!！」

切歌「デース！」

一方、熱海の海辺

クリスと同じ身長の高黒髪のメンズショートで前を開いた白いジャンパーの少年が海辺で黄昏、手に持つてるのはサソリキュータマだ。

NEW STORY

## スペース8、仕組まれた宇宙熱海旅館!

熱海の町中

熱海の町

観光客「よお、あんちゃん一人か?!」

? 「はい、人を探してますが何か心当たりはありませんか?!」

少年が観光客に写真を見せる、写真に写ってるのは小学生時代の写真で、銀色の少女に指差し。

観光客「すまん、知らないんだ…。あんちゃん、ネオジャークマターには気を付けろよ、この辺ウロウロしてるかもな!」

? 「すみません、ありがとうございます!」

少年は観光客に軽くお辞儀をし、歩く。

? 「… クリス!」

少年はクリスの名前を小さく言った。

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

クリス「ぶえくしょん!」



壮汰「クリス先輩、風邪引きましたか?!」

壮汰はくしやみをしたクリスを心配。

クリス「いや、大丈夫だ、今あたしの事、誰か噂をしてるのか?!」

蓮司「ワイじゃないでっせ!」

功太「俺じゃないっすよ!」

クリス「まあいいか、それにしても暇だな!」

セレナ「今の所、任務はなさそうですね!」

切歌「響さんと未来さんは和斗さんと両親と旅行に行ってるデス!」

調「宇宙熱海旅館の宿泊旅行券が当たったから帰るのは明日の夕方だね!」

剛「小太郎先輩殿も弟殿と叔父殿と叔母殿と一緒に旅行でござす!」一方、宇宙熱海

### 旅館の部屋

響「わあ、海の景色キレイだよ未来!」

窓を開けて景色を見る響。

未来「ホントだね響!」

和斗の父「ハハハ、なんせ宇宙熱海旅館は温泉も良い、料理は旨いからな!」

響「和斗君のお父さん、お母さん、私達を誘ってありがとうございます!」

和斗の母「良いのよ、和斗が福引きで当たったから2人も誘うと連絡したのよ!」

和斗「か： 母さん！」

そう、俺と母さんと親父と響と未来は何故： 宇宙熱海旅館に行けたのか、そう、先週の土曜日の頃だ。

和斗（母さん？どうしたの?!）

買った物が終わり、母さんがスーパー周辺に急に止まり何かを見つける。

福引き店長（さあ寄ってらっしゃい福引きだよ、何と一等は高級松阪牛の3セットだよー!）

和斗の母（高級松阪牛ですって？：： 和斗お願い、引いてきて!）

和斗（えええ？何で俺なんだ?!）

母さんは何で俺に引かせる。

和斗の母（貴方しか運が良いのよ、ほら引いて!）

和斗（はあー、わかった行くよ!）

俺はため息をついて母さんが福引券を10枚、俺に渡し、福引きに向かい。

福引き店長（へい、いらっしゃい、福引券はお持ちですか?!）

和斗（これでお願います!）

俺は福引き店長に福引券10枚を渡し。

福引き店長（ひーふーみー、合計10枚で1回引けやす!）

和斗の母（絶対に高級松阪牛を当てなさい！）

和斗（わかつてるよ母さん、集中できないって…… どうせ当たらないかもな、おりや  
！）

ガラガラガラ、コトン

俺は福引きを回すと中から金色の玉が出てきた。

福引き店長（こ……これは？おめでとうございます、特等の宇宙熱海旅館の一泊宿泊  
券を授けます！）

福引き店長は俺が特等を当てた玉を見て驚いた。

和斗（あ？当たってしまった、よっしゃラッキー！）

和斗の母（何ですって、あの有名な宇宙熱海旅館の一泊宿泊券を当てたですって、やっ  
たわ…… 和斗ありがとう！）

母さんは俺が特等を当てててめっちゃ喜んでたな。

福引き店長（おめでとう、これが宇宙熱海旅館のチケット5枚だよ！）  
和斗（えっ？5枚?!）

和斗の母（何々？来週の土曜日まで行けるわ、ちようどお父さんと休みが被ったから  
行きましょう、そうだ、響ちゃんと未来ちゃんも誘って！）

というわけで響と未来を誘って5人で行くことになったけどよっしゃラッキー、温泉

にも入れるしご馳走もたっぷり食えるぜ。

和斗の母「みんなー、お茶を入れたわ、こっちにいらっしやい!」

和斗の父「うむ、今行くぞ!」

響・未来「はーい!」

和斗「おう、今行くよ!」

俺は母さんのいる机に向かつて座り、お茶を飲んでゆっくりする、ちなみに席は親父は母さんの隣に座り、俺は響と未来の間の真ん中に座ってる。

和斗の父「和斗、父さんは母さんを連れてお土産屋に行ってくるから響ちゃんと未来ちゃんと一緒に遊びに行つてこい、お金は渡すぞ!」

和斗「えっ? いいのか?!

和斗の母「ええ、和斗も響ちゃんもキュウレンジャーとS・O・N・Gの任務頑張つてるからたまには未来ちゃんとゆっくり楽しんできなさい!」

未来「和斗君のお母さん、ありがとうございます!」

響「わーい、和斗君と未来と一緒に遊びに行ける!」

和斗「よっしやラッキー、2人とも行こうぜ!」

俺は父さんから五千円もらい響と未来を連れて熱海の町中を歩き回りすると。

小太郎「あれ? 和斗? 響と未来? 奇遇だな?!」

未来「あれ？小太郎君？どうしてここに?！」

小太郎「実は叔父さんの会社の人が宇宙熱海旅館のチケットを貰ったから4人で来たんだ、弟も一緒に!」

? 「響姉ちゃん、未来姉ちゃん、こんにちは!」

響「わあ次郎君、大きくなったね!」

次郎「へへへ、もう中学1年生だよ!」

響と未来と挨拶してる少年は小太郎の弟の佐久間次郎、13年前に小太郎の母親が病に亡くなる前に生まれ、叔父と叔母と一緒に住んでる、現在は中学1年生になり、学校を頑張ってる。

和斗「こんにちは次郎君、覚えてるかな?！」

次郎「和斗兄ちゃん!」

和斗「よく覚えてくれたな、元気にしてたか?次郎君!」

次郎「うん、中学生になってから勉強や運動を頑張ってるよ!」

未来「えらいね次郎君は!」

バトルオリオンシップのブリーフィングルーム

ステインガー「みんな、任務だ!」

クリス「おつ、ステインガーのとつつあん、任務か?！」

ラフタ「はい、今回の任務は宇宙熱海旅館の調査をお願いします!」

調「和斗さんとご両親と響さんと未来さんの行ってる宇宙熱海旅館に何かあったのですか?!」

ステインガー「ああ、宇宙熱海旅館にネオジャークマターが潜んでる可能性があるんだ!」

蓮司「それでそいつは何処に潜んでるんや?!」

ラフタ「今、モニターで確認したところ、宇宙熱海旅館の温泉にいる可能性があります!」

ステインガー「よし、今回の任務はクリス、頼めるか?!」

クリス「勿論だ、受けた任務は受けるぜ、とつつあん!」

ステインガー「後の3人は誰が行くんだ?!」

切歌「はいはい、アタシと調が行きたいです!」

切歌は調と一緒に任務に立候補。

ラフタ「切歌と調はダメです、Lincornを投与しないとギアからバックファイアが出ます!」

切歌「むー!」

切歌は顔をちよつと膨らみ

セレナ「切歌さん、我慢してください、それでどうやってメンバー3人を選ぶのですか?!」

ラフタ「出撃メンバーはこれでいきましよう、キュウレット・ザ・チャンス、私達もラッキー達といった頃はこれで選びましたから!」

ステインガー「よし、壮汰達のキュータマをこの中に入れる、入れたら切歌、回してくれ!」

切歌「アタシが? いいデスカ?!」

クリス「お前と調は出撃できないからかわりにキュウレットを回せよ!」

ラフタ「それじゃお願いします、切歌、キュウレット・ザ・チャンス!」

切歌「デース!」

ポン

ポン

ポン

切歌はキュウレットを回して、3つのキュータマが出てきた、出てきたのはヘビツカイとオオカミとカメレオンキュータマ。

ステインガー「今回クリスと一緒に行くメンバーは功太、壮汰、アミの3人だ!」

クリス「よし、行くぞ3人も、すぐに熱海へ行くぞ!」

功太「おうよ、きねくり先輩！」

アミ「待って下さい！」

壮汰「行くぜ！」

クリスは功太とアミと壮汰連れて出撃に行く。

宇宙熱海旅館

俺は響と未来と遊んでから数時間後の夕方、俺達は温泉に入りに行く。

男湯

和斗「小太郎、いい湯加減だな、この温泉！」

小太郎「ああ、ここの宇宙熱海旅館の温泉……まったくだよ！」

次郎「ゆったりー！」

和斗の父「ういー、暖まるなー！」

俺と小太郎と次郎君と親父と小太郎達の叔父はゆったりと温泉に入り。

一方、女湯

響「うーん、ゆったりして気持ちいい！」

未来「ホントね響、銭湯よりいいね！」

和斗の母「でしょ？この温泉はね宇宙一の温泉星人が秘かに手にいれた温泉よ、何と



素肌の体もツヤツヤになるのよ、それにしても響ちゃん和未来ちゃん、大きくなったね、体型も綺麗よ！」

響「やだ、和斗君のお母さんたら！」

男湯

和斗「母さん：響と未来と話して恥ずかしい！」

小太郎「そうだね、何だか顔が赤くなってきたよ俺達！」  
すると

女湯

？「がはははは、湯加減はいかがかな?！」

未来「きゃー、エッチ！」

？「えっ?ギャー！」

未来は女湯に現れた奴に向かってたらいを投げて命中。

和斗「今、未来の叫び声が聞こえてるな！」

小太郎「和斗?もしかして！」

和斗「ああ、行ってみよう！」

俺と小太郎は温泉を上がり、着替えにあるセイザブラスターをつけ女湯の登りすると。

女子「きゃー覗きよ!」

女子「こつちに来ないでー!」

和斗・小太郎「ご…ごめんなさい!」

俺と小太郎は下がる。

和斗「小太郎、スターチェンジしてから登ろう!」

小太郎「そうだね!」

2人「マワースライド!」

シシキュータマ!

コグマキュータマ!

セイザチェンジ!

2人「スターチェンジ!」

俺達は変身し再び女湯に登り。

シシレッド「大丈夫か?!」

未来「和斗君、小太郎君!」

コグマスカイブルー「何だよこいつは?!」

?「オデはネオジャークマターのダイカーン、オンセンインダバードバード!」

シシレッド「こいつ、響達の入ってる温泉に潜みやがって…響、未来達を連れて安

全なところへ行くんだ！」

響「うん、皆さん、未来、逃げよう！」

オンセンインダベー「そうはさせないダベ、ふにやふにやシャワーダベ！」

オンセンインダベーはお腹からシャワーみたいなお湯が流れ、響達に浴び、すると。

響「あれ？何だか体がふにやふにやしてきたよ！」

未来「私も！」

和斗の母「ふにやふにや！」

ふにやふにやのシャワーみたいなお湯を浴びた響達、女子はふにやふにやになる。

シシレット「響？未来？母さん？、どうしたんだ?！」

オンセンインダベー「がはははは、オデのふにやふにやシャワーを浴びた女子は心が

ふにやふにやになり、動けなくなるんだベ！」

コグマスカイブルー「卑怯だぞ！」

オオカミブルー「和斗兄貴、小太郎兄貴！」

クリス「助けに来たぜ！」

クリスと壮汰とアミと功太が駆けつけてきた。

カメレオングリーン「響さん？未来さん？どうしたのですか?！」

シシレット「気を付けろ、そいつのふにやふにやシャワーを浴びた女子は心がふにや

ふにやになって動けなくなるんだ!」

クリス「マジかよ?じゃあとつととぶつ飛ばそうぜ!」

クリス先輩はアームドギアのクロスボウをオンセンインダバーに目掛けて撃とうとすると。

オンセンインダバー「いいのかな?そんなことして、回りをよく考えるダベ!」

クリス「やべ、バカと未来達がいるんだ!」

オンセンインダバー「すきあり、タライブーメランダベ!」

オンセンインダバーはタライをブーメランのようにぶん投げクリス先輩に攻撃。

クリス「うわっ!」

カメレオングリーン「クリス先輩?!」

オンセンインダバー「がはははは、ふにやふにやシャワーの次の餌食はお前さんダベ!」

オンセンインダバーはふにやふにやシャワーを構えてクリスに浴びようと瞬間。

?「そうはさせんぞ!」

オンセンインダバー「えっ?ダベベベ!」

クリスの前に突然現れたオレンジの戦士がオンセンインダバーに攻撃を仕掛け。

?「良かった、クリス、無事だったのか?!」

クリス「えっ？何であたしの名前を知ってる?!」

オレンジの戦士がクリスの名前を言って振り向く。

シシレッド「えっ？アイツもキュウレンジャーなのか？お前は誰なんだ?!」

NEWSTORY

## スペース9、熱海に突然現れたオレンジの蠍の戦士?!

前回までの話、俺達の前に現れたオレンジの蠍の戦士、一体アイツは誰なんだ?!

オンセンインダバー「倒してやるダベ!」

キュウスピア!

? 「行くぞ!」

オレンジの蠍の戦士はキュウスピアを構えてオンセンインダバーと対決する。

クリス「アイツ、何であたしの名前を知ってる?!」

シシレッド「クリス先輩、アイツが戦ってる隙に響達を上がらすぞ!」

クリス「お: : おう、わかった!」

俺達はアイツが戦ってる隙に響達をお姫様だっこして上がらせ、すぐに駆けつけようとする。

オンセンインダバー「くらえダベ、熱湯ウオーターダベ!」

? 「そんなもの、当たるわけにいくか!」

オレンジの蠍の戦士は相手の放つ熱湯攻撃をキュウスピアで割る。

オンセンインダバー「なっ? オデの熱湯ウオーターを割ったダベ?!」

? 「はあー!」

オンセンインダバー「ダバー!」

オンセンインダバーはオレンジの蠍の戦士のキュウスピアの一振りで飛ばされ場外に。

クリス「あいつ、一人でやるなんて!」

ギヤラクシー!

? 「アンタレスインパクト!」

オレンジの蠍の戦士がキュウスピアにキュータマを装填し刃先からオレンジの衝撃波をオンセンインダバーに命中した。

オンセンインダバー「何なんダバー!」

オンセンインダバーはオレンジの蠍の戦士にやられ爆破。

ヘビツカイシルバー「あの人、一人で倒しやがる、すげー!」

クリス「それにしてもあれ? サソリキュータマとセイザブラスターじゃんか? おい、何でお前がそれを持ってんだ?、答える、それに何であたしの名前を知っている?!」

? 「……!」

ブルルル

オレンジの蠍の戦士は置いてあるバイクに乗ってクリス達になにも言わずに去る。

クリス「てっ?おい待てよ?!」  
すると

オンセンインダベー「控えおろーダベー!」

オンセンインダベーが巨大化。

シシレッド「よし、クリス先輩は響達を頼む、俺と小太郎達でオンセンインダベーを倒すぞ!」

4人「[[「オツキュウ!」]]」

クリス「わかった、任せてくれ!」

セイザドツキング!

キュウレンオー!

今回のキュウレンオーは右腕はコグマボーイジャー、左腕はカメレオンボーイジャー、左足はオオカミボーイジャー、右足はヘビツカイボーイジャーだ。

コグマスカイブルー「よーし次郎達が見てるからな、行くぞ!」

男湯

次郎「小太郎兄ちゃん、和斗兄ちゃん、頑張れ!」

和斗の父「負けるなよみんな!」



親父と次郎達はキュウレンオーに乗ってる俺達を応援する。

オンセンインダバー「くらえ、熱湯ファイアーダベ！」

カメレオングリーン「きやー！」

オンセンインダバーの熱湯ファイアーが左腕のカメレオンボイジャーに命中。

バトルオリオンシップブリーフィング

切歌「アミ、功太、負けるなデス！」

セレナ「壮汰君！」

宇宙熱海旅館の山奥

ヘビツカイシルバー「アミ、俺と代われ！」

カメレオングリーン「えっ？功太君?!」

功太はレバーを引いてボイジャーが分離し、左腕のカメレオンボイジャーを右足に移動し、左腕をヘビツカイボイジャーをつける。

キュウレンオー

ヘビツカイシルバー「くらえ、スネークナックル！」

オンセンインダバー「ギヤー、痛いダベ！」

コグマスカイブルー「よくも響と未来と和斗の母さん達をふにやふにやにしてくれた

な、くらくマパンチ！」

小太郎もレバーを引いて右腕を動かしパンチをした。

オンセンインダバー「あべしー！」

シシレッド「よし、止めだ！」

ギヤラクシー！

5人「キュウレンオー、メテオブレイク！」

スーパーギヤラクシー！

キュウレンオーの5つの星座の光を1つにし、オンセンインダバーを攻撃。

オンセンインダバー「女湯にふにやふにやシャワーをしたこと許してくださいダバー

！」

ドーン

オンセンインダバーは倒れて爆発。

5人「地球は俺達が（私達が）守る！」

シシレッド「ハクシヨン、湯冷めしちまうぜ！」

コグマスカイブルー「ああ、俺と和斗、裸のままだからな！」

ヘビツカイシルバー「よーしせっかく宇宙熱海旅館に来たから温泉に入ろうぜ壮汰

！」

オオカミブルー「功太、クリス先輩連れて帰るぞ！」

女湯更衣室

響「うーん、私達？一体ここで何を?!」

女湯の更衣室で目覚めた響達。

クリス「おい、気がついたかバカ?!」

未来「クリス？どうしてここに?!」

クリス「お前らふにやふにやシャワー浴びてふにやふになつてたぞ！」

響「そうだったんだ、そうだ？ネオジャークマターは?!」

クリス「ああ、和斗達が倒したぞ！」

和斗の母「和斗達が、ありがとうねクリスちゃん、助けてくれて！」

カメレオングリーン「クリス先輩、そろそろ戻りますよ！」

クリス「おうよ、今行くぜ、じゃあな、ゆつくりくつろげよ！」

クリス先輩はギアを解除し私服姿に戻り、アミのカメレオンボイジャーに乗る。

ヘビツカイシルバー「ちえっ、熱海の旨い飯が食いたかったのに！」

オオカミブルー「仕方がないだろ、和斗兄貴が福引きで当たったから俺達はまた今度

な！」

クリス「そうだな、今度はあたし達の金で払うぞ、切歌達を連れてな！」

カメレオングリーン「そうですね、それじゃ行きましょう！」

アミ達はボイジャーでバトルオリオンシップに帰投。

数十分後、宇宙熱海旅館の宿泊部屋

和斗「よっしやラッキー、すげーご馳走だ！」

俺達の宿泊部屋に刺身の盛り合わせや旨い料理が並べてる。

女将「ネオジャークマターから宇宙熱海旅館を救っていただいてありがとうございます、これはほんのお礼よ！」

未来「ありがとうございます、助けたのは和斗君達です！」

和斗の父「和斗、皆を助けてありがとう！」

和斗「いいってこんなこと、まあ戦ってたから体を動かして良かったよ！」

和斗の母「じゃあ食べましょうか！」

響「わーい、食べよう、食べよう！」

全員「いただきます！」

俺達はいたできますを言い、料理を食べる。

和斗「んっ、うめー、このマグロ、うめーよ！」

和斗の父「おつ、この酒は旨いな！」

女将「まだまだありますからまたお呼びくださいね！」

響「ありがとうございます、ブリとハマチは美味しいね未来！」

未来「ホントね響！」

和斗の母「でしょ？ここの宇宙熱海旅館のお刺身は漁師さんが朝から大漁に手にいれた物なのよ！」

和斗の父「ひつく、この日本酒は旨いぞ、宇宙一旨いぞー、ひつくー！」

親父は酒を飲んで少し酔った。

和斗「悪いな2人とも、親父は酒癖強いから少し酔うときあるんだ！」

響「でもこのお酒、美味しいかな?！」

未来「響、私達は後3年はダメよ！」

和斗「そうだな、二十歳になったら俺達は大人だな！」

和斗の父「女将さーん、日本酒3本追加を頼むー！」

和斗「わあ、親父、調子に乗るなよー！」

俺は調子に乗ってる日本酒を3本頼もうとした親父を止める。

熱海の外

黒髪のメンズショートの少年が外で電話をしてた。

ピ

? 「さて、俺もあいつのいるリディアンに行くか!」

ブ  
ロ  
ロ  
ロ

黒髪のメンズショートの少年がバイクに乗って行った。

N  
E  
W  
S  
T  
O  
R  
Y

## スペース10、謎の転校生、桐山裕一！

月曜日

リディアン音楽院

3年、クリスのクラス

クリス（土曜日の熱海に現れたアイツ：何であたしの名前を知ってるのか?!）

クリスは自分の席で土曜日の宇宙熱海旅館に現れた蠍のオレンジの戦士が気になった。

ガラガラ

教師「えー、皆さんに嬉しい話です、実はこのクラスに初の男子が転校してきます、では桐山君、入ってきてください！」

入ってきたのはリディアンの男子制服を着た黒髪のメンズショートのクールな性格な少年。

？「桐山裕一だ、よろしく！」

クラスの女子達「キヤー！」

女子「なんかカッコよくない?!」

女子「ええ、髪型と性格がいい!」

クラスの女子達は裕一の事を注目し。

先生「それじゃ桐山君の席は雪音さんの隣の席に座ってくれ!」

裕一「あつ、はい!」

裕一は歩いてクリスの空いてる席につく。

先生「それじゃ、一時間目を始めるぞ、まずは数学だ!」

昼休み

切歌「お昼デス、お弁当デス!」

調「今日はセレナが作ったんだよ切ちゃん!」

セレナ「今日はサンドイッチを作りました!」

エリ「へー、すごいねセレナ、私のはお母さんが作ったお弁当だよ!」

和斗「俺も母さんが作った弁当だぜ!」

アミ「私も!」

昼休みになり俺は小太郎と響と未来と切歌と調と壮汰とセレナとアミとエリとクリス先輩と一緒にリディアンの外で昼飯を食ってる。

調「そういえば蓮司君達はどうしたの壮汰君?!」

壮汰「ああ、蓮司なら功太と剛と一緒に食堂で飯を食ってる、いつもは食堂で飯を食っ



てる！」

クリス「はあああ！」

クリス先輩は大きなため息をつき。

響「クリスちゃん？どうしたの大きなため息について何かあったの?!」

クリス「実はよ、あたしのクラスに男子が転校してきたんだぜ！」

切歌「デデデス？クリス先輩のクラスにも男子の転校生デスと?!」

調「気になります、教えて下さい！」

クリス「ああ、確か名前は桐山裕一だったぞ！」

未来「その人は教室にいるのクリス?!」

クリス「ああ、あたしが昼休みの時に声をかけたんだけどよ！」

10分前の昼休み、リディアン音楽院のクリスのクラス

クリス（桐山、昼飯行くのか？、一緒に行こうぜ?!）

裕一（……!）

クリスは裕一に昼食の誘い黙る。

クリス（お前、校舎の案内もまだだろ？ついでに授業前にあたしが案内しようか?!）

裕一（悪いが1人で行かせてくれ!）

裕一はクリスの案内を拒否して教室を出た。

クリス「あいつ、あたしの誘いを拒否して教室を出たんだぞ！」

小太郎「クリス先輩、桐山さん、授業はどうなんだ?！」

クリス「数学と社会と体育はアイツがトップになったぞ！」

!」 壮汰「マジで?、俺なんか体育は上だけど数学は平均点の60点で社会は51点です

和斗「もしかしたら?桐山裕一は?！」

未来「どうしたの和斗君?！」

未来は俺にどうしたのと声を掛け。

和斗「なんか予想してたよ、俺達の前に現れたオレンジの蠍の戦士の正体は桐山裕一

かもしれないぞ！」

俺は響達にオレンジの蠍の戦士の正体が桐山裕一だと予想し。

クリス「バカ言え、あの転校生がオレンジの蠍の戦士の正体?、んなわけないだろ！」

調「クリス先輩、これはスクープです！」

切歌「アタシも気になったデス！」

響「よし、皆で予想しよう！」

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ステインガーは玄十郎と座ってコーヒーを飲み。

玄十郎「ステインガー君、土曜日の宇宙熱海旅館に気になりたいことがあるんだが?！」

ステインガー「何だ?玄十郎司令?！」

玄十郎「和斗君達の前に現れた蠍の模様したオレンジの戦士について誰なんだ?！」

玄十郎はステインガーに蠍の模様したオレンジの戦士について言い。

ステインガー「ああ、和斗達の前に現れた奴の事か、アイツは……!」

ビービービー

バトルオリオンシッポのブリーフィングルームからサイレンが鳴り。

ステインガー「どうした?！」

ラフタ「東京市街地にネオジャークマターのシザースが現れました!」

玄十郎「響君達に連絡だ!」

リディアン音楽院の外

和斗「ステインガーさん?どうしたんですか?えっ?東京市街地にシザースが現れたのか……わかりました、すぐ向かいます!」

俺はステインガーさんからの通信を切り。

クリス「ネオジャークマターが来たのか?！」

和斗「ああ、シザースが東京市街地に現れたみたいだ、響、壮汰、小太郎、行くぞ!」

響「うん、セレナちゃんはクリスちゃん達と一緒に残って未来達をお願い!」

セレナ「わかりました、気をつけて下さい!」

クリス「ああ、リディアンはあたし達に任せとけ!」

俺は響と壮汰と小太郎を連れて東京市街地に行き、セレナはクリス先輩とアミとエリは残って未来達を守る。

調「切ちゃん!」

切歌「どうしたデスか調?!」

調「耳かして・・・ゴニヨゴニヨゴニヨゴニヨ!」

切歌「調・・・それはマズイデス?!」

クリス「ん?お前から何処に行くんだ?!」

2人「ギクツ!」

クリスはこっそり行ってる切歌と調に気づき。

調「クリス先輩、私と切ちゃん、お手洗いに行ってください!」

クリス「なんだだったら早く行けよ!」

調「ありがとうございます!」

調はクリスにお手洗いに行ってくださいと誤魔化し切歌と走る。

切歌「調、いいデスカ？クリス先輩達に誤魔化して?!」

調「私達も何か役に立つものをやろう切ちゃん!」

切歌「おお、それはナイスデス調、それじゃ人助けに行くデース!」

切歌と調はリディアンを抜けて東京市街地まで駆けつけ。

裕一「あれ？あの子達は?!」

東京市街地に行ってる切歌と調に気づいた裕一は後を追って駆けつく。

東京市街地

シザース「ウピヤピヤピヤ、残りの奴らはどうした?!」

シシレット「お前なんて4人で十分だ、行くぞ皆!」

3人「!「おう!」」

俺達はキューウエポンを構えて、響は右腕を構えてシザースと対決。

オオカミブルー「どりや!」

響「おりや!」

シザース「ウピヤピヤピヤ、そんな攻撃、効かんぜ!」

シザースは響と壮汰の攻撃を防ぎ。

シザース「ウピヤピヤピヤ、くらえ、シザークロー2!」

響「うわっ!」

オオカミブルー「ぐわっ!」

シシレッド「響? 壮汰!」

コグマスカイブルー「あいつ、今日は何だか調子が変わぞ!」

シザース「ウピヤピヤピヤ、今日の俺様はひと味違うぜ、これを飲んでたんだぜ!」

シザースは俺達に緑の液体が入ったビンを見せびらかす。

調「あれはL i n c o l n?!」

切歌「何でアイツが持つてるデス?!」

市街地に着いた切歌と調は響達に気づかれないように隠れ。

響「それは切歌ちゃんと調ちゃんが使うL i n c o l n? 何で?!」

シザース「ウピヤピヤピヤ、教えてやろうか? 実は二課の牢獄にいたドクターヴェル

を俺の仲間が殺してチツプを手に入れたんだ!」

シザースは俺達にL i n c o l nの開発チツプを見せびらかし。

シシレッド「そいつを開発してパワーアップしやがって!」

シザース「ウピヤピヤピヤ、さてもう一本飲もう!」

シザースはL i n c o l nのチツプを直し、L i n c o l nを飲む、すると。

シザース「ウピヤピヤピヤ、力が更に溜まったぜ!」

コグマスカイブルー「あいつ、もう一本飲んで更にパワーアップした?!」

シシレッド「だったらこれで対抗だ！」

カニキュータマ！

セイザアタック！

シシレッド「くらえ！」

シザース「ウピヤピヤピヤ、そんなもん、俺様の体には効かんぜ！」

響「えっ？カニキュータマの攻撃が破れた?!」

シザースは俺の使ったカニキュータマの攻撃を破れる。

シザース「ウピヤピヤピヤ、今度はこっちから行くぜ、くらえシザーガトリング！」

ドドドドドド

2人「うわあああ！」

響「和斗君?!」

オオカミブルー「小太郎兄貴?!」

俺と小太郎はシザースのガトリング攻撃に倒れ力がつきそうになり。

シザース「ウピヤピヤピヤ、これでお前らを倒せば後はない、終わりにしてやるぜ！」

すると

? 「はあー、せい！」

シザース「ウピヤピヤピヤ？まだいたのかこいつめ！」

シシレット「お前は？ 蠍のオレンジの戦士?!」

響「あれが?!」

俺と小太郎がやられそうになったときにオレンジの蠍の戦士が現れ、キュウスピーアで

シザースに攻撃。

切歌「おっ？ 蠍のオレンジの戦士、来たデスか?!」

調「切ちゃん、あれ!」

子供「えーん、怖いよ!」

切歌「ん？ まだ逃げ遅れてる人がいたデス、調、行くデス!」

調「うん、行こう!」

響「ん？ あれは切歌ちゃんと調ちゃん？ どうしてここに?!」

シシレット「あいつら、逃げ遅れた子供を助けてるぞ!」

シザース「ウピャ？ シンフォギア装者の2人… いい方法を思いついた!」

シザースは逃げ遅れた子供を助けてる切歌と調に気づき何か思いつく。

? 「はあー!」

シザース「シザークローリンググロップ!」

? 「何処を狙ってる？ はっ、まさか?!」

切歌「デース!」



調「きゃっ!」

子供「お姉ちゃん達!」

切歌と調はシザークローリングに捕まりシザースの手元に戻る。

響「切歌ちゃん? 調ちゃん?」

シザース「ウピヤピヤピヤ、この2人は人質として預かるぜ、返してほしければ明日の朝までキュウレンジャー全員と2人のシンフォギア装者を連れて跡地まで来い、来なければこの2人はギツチヨンギツチヨンにしてやるぜ!」

切歌「放すデース!」

調「助けて!」

コグマスカイブルー「卑怯だぞ!」

シザース「ウピヤピヤピヤ、卑怯もあるかよ、じゃあ明日の朝まで連れてこい!」

シザースはそう言って2人を連れビッグモライマーズに乗り、逃げ。

シシレッド「切歌? 調?!」

? 「逃がすか!」

蠍のオレンジの戦士がチェーンを出してビッグモライマーズまで投げ、捕まる。

シシレッド「あいつ、一人でビッグモライマーズに捕まって行っただぞ?!」

響「切歌ちゃん、調ちゃん!」

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ドン

クリス「あいつら、あたし達を誤魔化して行きやがって!」

響「クリスちゃん落ち着いて、切歌ちゃんと調ちゃんは逃げ遅れた子供を助けるために人助けしたんだよ!」

クリス「わかってる……あたしがもつと注意していれば行かさなきや捕まらずにすんだのに!」

クリス先輩は切歌と調に注意されなかった自分を許さなかった。

和斗「クリス先輩!」

未来「クリス!」

アミ「それにしても問題なのは明日の朝までに切歌ちゃんと調ちゃんを助けることを考えないといけません!」

蓮司「そんなシザースの要求はワイらキュウレンジャーと!」

セレナ「シンフォギア装者の響さんとクリスさんを跡地まで連れて来ることですわね!」

功太「ちくしょう、どうしたらいいんだ?!」

玄十郎「皆、聞いてくれ、話したいことがあるんだが!」

一方、ビッグモライマーズ

牢獄

調「切ちゃん、私、ここ怖い！」

切歌「大丈夫デス調、和斗さんと響さん達が何とか助けるデス！」  
すると

裕一「お前らが暁切歌と月読調か?!」

牢獄に裕一が現れ2人の名前を言い。

調「あなたは桐山裕一さん?どうしてここに?!」

裕一「……ほらよ、おにぎりだ!」

裕一は袋に包んだ4つのおにぎりを切歌と調のいる牢獄に投げ。

切歌「何デスか?!」

裕一「安心しろ、毒なんて入ってないぞ!」

切歌と調は渡されたおにぎりを安心して食べ。

裕一「いい食べっぷりだな、暁、クリスに似てるな!」

調「あの……クリス先輩とはどんな関係なんですか?!」

裕一「ああ、アイツとは小さい頃からの幼なじみなんだ!」

裕一は切歌と調にクリスとの関係を告ぎ。

シザース「ウピヤピヤピヤ、誰かと話したと思いきや裕一、お前なぜここに来た?!」

裕一「気になって侵入したからな、それにお前に話したいことがあるんだ?!」

シザース「ウピヤ、なんだ?どんな話だ?言え?!」

裕一「雪音レイを知ってるか?!」

裕一はシザースに雪音レイという人物を教え。

シザース「ウピヤ、知らんな、どんな奴なんだ?!」

裕一「クリスの双子の兄だ!」

切歌「デデデス?クリス先輩にお兄さんがいたデスと?!」

裕一「ああ、アイツとは妹のクリスと一緒に遊んでたからな!」

裕一は目をつぶって昔の事を思い出す。

10年前の東京の森

? (ひっく、ひっく!)

森に迷って泣いてる銀髪の小さい少女。

? (クリス、大丈夫か?!)

? (もう迷うなよ、お父さんとお母さんが心配するぞ!)

クリス(ひっく、レイ兄ちゃん、裕一!)

クリスを見つけた小さな黒髪の少年と小さな銀髪の少年、黒髪は小さい頃の桐山裕一

と銀髪の髪の方はクリスの双子の兄、雪音レイ。

レイ（クリス、俺達の絆の音色はいつか皆に届くんた、だからお前もいつかはその音色が皆に届く！）

クリス（うん！）

裕一（さあ戻ろう、お父さんとお母さんが待つてるよ！）

裕一「あの日から全てが変わった……あの頃から！」

8年後の春

空き家の洋館

裕一（クリス、レイ！）

空き家の洋館の眺めてる裕一は中学3年になり、クリスとレイの名前を言い。

？（裕一！）

裕一（えっ？お前？レイ？無事だったのか?!）

裕一に声を掛けた銀髪のクールショート少年、そう、バルベルデで行方不明になった雪音レイだった。

裕一（お前、無事だったのか？クリスはどうしたんだ?!）

レイ（ああ、アイツとはもう兄妹でもないからな！）

裕一（えっ？どういうことなんだ?!）

パチン

レイは指パッチンを鳴らし、空き家の洋館の中からネオインダバーが多数出現した。

レイ(悪いな裕一、俺はクリスとの兄妹の縁を切る…。そしてお前との絆の縁もな!)

裕一(何でなんだレイ? どうして俺達の縁を切るんだ?!)

レイ(俺はネオジャークマターの間人間になったからな、やれ!)

ネオインダバー(ダベ、ダベ、ダベ!)

ネオインダバーはクリスとレイの家だった空き家の洋館に向けて銃や爆弾を放ち爆破。

裕一(レイ、何をするんだ? あの家はお前とクリスと両親が住んでる家だぞ、どうしてなんだ?!)

レイ(……!)

レイはネオインダバーを連れて黙って去る。

裕一(待てよ、レイ? レーイ!)

裕一「アイツはクリスとの兄妹の縁や俺との絆の縁を切り、ネオジャークマターになっただん!」

シザース「ウピャピャピャ、ネオジャークマターになったぞ! その事は別行動中ではないぜ!」

裕一「そうか、邪魔したな！」

裕一は切歌と調のいる牢獄から去ろうとし。

裕一「だが、これだけは言うぞ、その2人には手荒な事はするな！」

シザース「ウピヤピヤピヤ、心配するな、明日までは手を出さないからな！」

次の日の朝

跡地

十字架を張り付けた切歌と調、ネオインダバーが銃を構え、シザースが切歌達の前に立ち。

シザース「ウピヤ？来たか！」

歩いて現れる和斗達。

さあ切歌達を救えるのか？。

NEW STORY

# スペース11、結成、キュウレンジャーを受け継ぐ9人の救世主、2人の装者!

跡地

俺達はシザースの約束通りに跡地に着く。

和斗「さあ約束通りにキュウレンジャー9人と響とクリス先輩を連れてきたぞ!」

切歌「響さん、和斗さん、アミ来たデスか?!」

調「クリス先輩、セレナ、エリ!」

響「さあ約束通りに切歌ちゃん達を離して!」

シザース「ウピャピャピャ、その前にお前達のキュータマとギアペンダントを地面におけ!」

クリス「おい、卑怯だぞ、その前にあいつらを解放しろよ!」

和斗「クリス先輩、ここは奴の要求に飲み込もう!」

クリス「くっ、わかったよ!」

俺達はキュータマとギアペンダントを地面におく。

シザース「ウピャピャピャ、よくおいでくれたな!」



和斗「約束だ、切歌と調を解放しろ！」

蓮司「そうや！」

シザース「ウピヤ、バーカ、そんな約束したのか?！」

ネオインダバーは十字架に張り付けた切歌と調に向けて銃を構え。

剛「切歌殿達を解放するぞござす！」

シザース「ウピヤピヤピヤ、引っ掛かったなお前らを騙してこいつらをギツチヨンギツチヨンにするからな、やれ！」

すると

? 「はあー、せい！」

オレンジの蠍の戦士が現れ、切歌と調の前にいるネオインダバーに攻撃。

響「あれ? 蠍のオレンジの戦士さん? また来たんだ?！」

? 「せい！」

オレンジの蠍の戦士が切歌と調の十字架の鎖をキュウスピアで切り、解放。

? 「大丈夫か? 2人とも、早く逃げろ！」

切歌「ありがとうございます！」

調「ありがとうございます！」

切歌と調は走って響達の所へ戻り。

シザース「テメー、どういふことだ?ウピヤ?!

? 「あの2人を殺せばあいつが悲しむ、それが許せないんだ!」

オレンジの蠍の戦士がキュウスピアの刃先をシザースに向ける。

シザース「ウピヤピヤピヤ、じゃあテメーは抹殺だ!」

? 「くっ!」

シザースはシザークローを振り、オレンジの蠍の戦士と弾き合いをし。

響「あの人、一人でシザースを相手にすごい!」

功太「けどよ、あの戦いはマジスゲーゼ!」

シザース「ウピヤピヤピヤ、どこまで持つか?これでまた楽しもう!」

クリス「あれはLincoln?!」

壮汰「また投与する気か?!」

? 「させるか!」

オレンジの蠍の戦士が回し蹴りでシザースの左手のLincolnの入ったピンを  
割り。

シザース「ウピヤー俺のLincolnをよくも、シザーガトリング!」

ドドドドドドド

? 「うわあああ!」

オレンジの蠍の戦士がシザースの銃弾を受け、倒れ変身解除。

和斗「やっぱり!」

クリス「えっ? 桐山?!」

クリスは蠍のオレンジの戦士が桐山裕一だと驚き。

シザース「ウピヤピヤピヤ、さつき L i n c o l n を割ったお返しだ!」

裕一「くっ、俺はまだ諦めない!」

すると

クリス「桐山一、一人で突っ走るなー!」

響「一人で戦っては駄目です、皆で戦って地球を救いましょう!」

和斗「お前がずっと一人で戦った事は玄十郎司令とステインガーさんから聞いたぞ

!」

俺と響とクリス先輩は裕一に大きな声をかけ。

昨日のバトルオリオンシッブブリーフィングルーム

ステインガー（あのサソリオレンジの正体は桐山裕一だ!）

響（ええええええ? 桐山裕一さんが蠍のオレンジの戦士の正体ですか?!）

響はステインガーさんの言葉で驚き。

玄十郎（ああ、ステインガー君の言うことは本当だ、友里が調べたところ桐山裕一君は3年前からキュウレンジャーになった、ある人を探して!）

和斗（ある人?!）

ステインガー（ああ、クリスの双子の兄の雪音レイを探るために!）

クリス（アイツ：：何かと思えば思い出したぞ、あたしと桐山は幼なじみだった!）

クリス「お前、あんまりとつつあんやあたしを悲しませるなよ!」

裕一「すまないな、3年前からお前とレイを探してたんだ!」

クリスは裕一の方へ駆けつけ肩を支えた。

クリス「バカ野郎だお前は、あたしのためじゃなく、あたしの後輩を助けてありがと

な、裕一!」

裕一「ああ、お前や皆のためだからな!」

和斗「2人とも、幼なじみなのに恋人のようだな!」

裕一・クリス「「からかうんじゃないぞ!」」（じゃねーぞ!）

裕一とクリス先輩は頬を赤くなり、俺に向かって言われた。

クリス「まつ、お前とあいつらのお陰でこれで戦えるぜ!」

クリス先輩はギアペンダントをシザースに見せびらし。

シザース「「い? いつの間に?!」」

切歌「アタシと調が逃げる時に拾ったデス！」

調「油断大敵！」

シザース「テメーら、卑怯だぞ！」

和斗「卑怯なのはお前らの方だ、クリス先輩や俺達の後輩とアミとエリ達の友達の切歌と調に怖い思いをしやがって、絶対に許さねー！」

シザース「うぬぬぬ！」

和斗「裕一、響、クリス先輩、皆、行くぞ！」

全員「おう！」（はい！）（ごわす！）

全員「マワースライド！」（です！）（ごわす！）

カジキ！

カメレオン！

ワシ！

オウシ！

オオカミ！

ヘビツカイ！

テンビン！

サソリ！

コグマ!

シシキユータマ!

セイザチエンジ!

全員「スターチェンジ!」(です!) (ごわす!)

俺達はセイザブラスタースターにキユータマを装填し変身、それと同時に響とクリス先輩はギアペンダントを構え、歌いギアを装備。

シシレッド「スーパースター、シシレッド!」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ!」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー!」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや!」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックでごわす!」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー!」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーン!」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク!」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエローです!」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー!」

響「ガングニール、立花響!」

クリス「……イチイバル、雪音クリス、ちよせー！」

シシレッド「究極の救世主と装者、宇宙戦隊！」

全員「キュウレンジャー！」

俺達は決めポーズを決めた。

S・O・N・G 潜水基地

藤高「司令！」

玄十郎「ああ、とうとう揃ったな、キュウレンジャーを受け継ぐ戦士達が！」

未来「和斗君、響、カッコいい！」

潜水基地のモニターで見てカッコいいと言った未来。

シザース「うぬぬぬ、かかれウピャ！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

シシレッド「お前らの運、試してもらおうぜ！」

全員「たあー！」

俺達はキューウエポンを構え、響とクリス先輩もアームドギアを構えて一斉にかか  
る。

シシレット「お前の相手は！」

サソリオレンジ「俺達だ！」

シザース「ウピヤピヤピヤ、返り討ちにしてやる、覚悟しやがれ！」

俺と裕一はシザースと対決し火花を散らすながら戦う。

シザース「Lincornが無くては蹴散らしてやるウピヤ、くらえバブルガトリング！」

サソリオレンジ「そうはさせんぞ！」

タテキュータマ!

セイザアタック!

裕一は隙をついてタテキュータマでガード。

シザース「ウピヤ?俺のバブルガトリングを防いだだと?！」

シシレット「今だ、響！」

響「任せて、どりゃー！」

シザース「ウピヤー！」

響はシザースに向かって飛び、奴の腹に右ストレートし、シザースの腹からLincornのチップが飛び出し、響はそれを拾った。

シシレット「ナイスだ響、Lincornのチップを取って！」



シザース「しまったウピヤ！」

ギヤラクシー！

シシレット「くらえ、レグルスインプクト！」

俺のキュウソードの必殺技で油断もせずシザースに攻撃。

シザース「ウピヤー！」

皆は敵を倒した後、俺と裕一と響と合流。

コグマスカイブルー「和斗、一気に決めよう！」

シシレット「ああ、皆、決めるぞ！」

全員「おう！」（はい！）（ごわす！）

ギヤラクシー！

全員「オールスタークラッシュ！」

スーパーギヤラクシー！

俺達はセイザブラスタアのビーム必殺を放ち、シザースに攻撃。

サソリオレンジ「今だ、響、クリス！」

クリス「おうよ、これは切歌と調の分だ、もってけダブルだ！」

クリス先輩はアームドギアの両ガトリングをシザースに向けて撃ちまくり。

シシレット「響、決めろ！」

響「うん、任せて、おりゃー!」

響は右腕のアームドギアを構え、シザースの懐に一撃の拳を振った。  
ドーン

全員「グッドラック!」

切歌「やったデース!」

調「やったね切ちゃん!」

シザース「ゲホゲホ、ウピヤ、やるじゃねえか!」

シザースはまだしぶとく生きてた。

クリス「この野郎、まだ生きてやがる!」

シザース「ウピヤピヤピヤ、こうなったら、あれを使ってやる!」

シザースは背中からボタンを取り出し、スイッチを押す、すると。

ウイーン

東京に設置したモライマーズが人形マシンに変形した。

シザース「ウピヤピヤピヤ、お楽しみはこうでなくちやな、ウピヤ!」

シザースはビッグモライマーズに乗り、俺達に向けてビームを放つ。

S・O・N・G 潜水基地

玄十郎「あのマシンはなんだ?！」

ラフタ「あれは、モライマーズロボ、まだ残ってたですか?！」

シシレッド「あいつ、今度こそ倒してやる、響、クリス先輩、切歌と調を頼む！」

響「うん、気をつけてね和斗君、皆！」

クリス「決めろよ、お前ら！」

響はクリス先輩と一緒に切歌と調の所へ向かい。

シシレッド「よし、行くぞ！」

全員「おう！」（はい！）（ごわす！）

セイザゴー！

俺達はキュウボイジャーを転送し乗り込む。

サソリボイジャー！

裕一のキュウボイジャーはサソリボイジャーだ。

シザース「ウピャピャピャ、地球を粉々にしてやる！」

シザースの乗ってるビッグモライマーズが地球から離れ攻撃しようとする。

シシレッド「先ずはアイツを何とかするぞ、セレナ、エリ、功太、蓮司、行くぞ！」

4人「おう！」（はい！）

コグマスカイブルー「こっちは任せて！」

小太郎達はビッグモライマーズに向かう。

セイザドツキング!

キュウレンオー!

シシレッド「よっしゃラッキー！」

ワシピンク「よし、行くよセレナ！」

カジキイエロー「はい！」

俺達はレバーを動かしてモライマーズロボと対決し、

テンビンゴールド「くらえや、テンビンスピキック！」

ヘビツカイシルバー「もう一つおまけだ、スネークキック！」

蓮司と功太はレバーをおもいつきり動かし、モライマーズロボに向かって強くキック。

切歌「和斗先輩、セレナ、功太、ファイトデース！」

調「エリ、蓮司、頑張れ！」

シシレッド「よし、一気に決めるぞ！」

ギヤラクシー!

5人「キュウレンオー、メテオブレイク！」

スーパーギャラクシー!

必殺のビームを放ち、モライマーズロボを撃破。

シシレット「よし、小太郎達と合流だ!」

キュウレンオーは分離し、俺達は小太郎達のいる宇宙へ向かう。

地球周辺の宇宙

シザース「ウピヤピヤピヤ、そんな物で俺のビッグモライマーズを落とせねえ!」

シシレット「それはどうかな?!」

俺達は小太郎達と合流。

シザース「ウピヤ?モライマーズロボをいつのまに?!」

コグマスカイブルー「和斗、次は俺達と合体だ!」

シシレット「おう、行くぞ!」

セイザドツキング!

キュウレンオー!

次に小太郎達と合体、右腕はサソリボイジャー、左腕はクマボイジャー、両足はオウシボイジャーとオオカミボイジャー。

サソリオレンジ「俺に任せろ!」

裕一はレバーを押してビッグモライマーズに向けてビーム攻撃。

クリス「小太郎、お前もぶっ飛べ！」

コグマスカイブルー「えー、やけくそだー！」

クリス先輩は通信で小太郎に命令し同じくビーム攻撃。

シザース「ウピヤ？右エンジンが破壊？ヤバい！」

シシレッド「よし、皆でとどめだ！」

全員「おう！」（はい！）（ごわす！）

ギヤラクシー！

全員「キュウレンオー、メテオブレイク！」

スーパージヤラクシー！

キュウレンオーの必殺のビームを放ち、ビッグモライマーズに攻撃し、キュウボイジャーも必殺ビームで一緒に攻撃。

シザース「ウピヤピヤピヤ、ネオジャークマター、ばんざーい、ジュミニス、許してくれ！」

シザースはビッグモライマーズと共に爆発。

全員「地球は俺達（私達）が守る！」

バトルオリオンシッブプリーフィングルーム

玄十郎「あれ？裕一君はどこに行ったんだ?!」

和斗「裕一なら家に帰ってますがステインガーさんと玄十郎司令に伝言です、俺はこれからリディアンに通いながらパトロールする、必要な時があったら呼んでくれと俺に伝えました！」

クリス「あいつ、素直じゃねえな！」

ステインガー「仕方ないぞクリス、裕一の家にも隊員ジャケットを送ったからな！」

響「クリスちゃん、オレンジの隊員ジャケットはカッコいいね！」

未来「うん、カッコいい！」

クリス「そっか、ありがとな、誉めてくれて！」

玄十郎「さて、響君達が入れたLincolnのレシピチップだが開発する人がいないが！」

調「大丈夫です司令、それまでは私と切ちゃんはできることをします！」

切歌「それにアミとエリがいるから平気デス！」

クリス「もうあたし達を心配させるなよ、けど今回は助かったぞ！」

切歌・調「エヘヘ！」(デス！)

和斗「よし、シザースを倒して次は地球に侵攻するネオジャークマターを何とかしないとな、全世界を救うために！」

小太郎「ああ、これ以上、奴らの思い通りにさせないよ！」

響「うん、世界中の皆の平和と自由の為にやろうね!」

未来「和斗君、響、小太郎君!」

壮汰「俺は和斗兄貴と響先輩達に従うぜ頼りになる兄貴だからな!」

功太「おうよ、困ってる人も助けるのが俺達の役目だからな!」

アミ「私も、皆さんの役に立つために頑張ります!」

エリ「調達が戦えない代わりに頑張ります!」

ラフタ「私はLincolnのチップを解析して開発レシピを調べます!」

ステインガー「ああ、頼むぞラフタ!」

蓮司「よっしゃ、キュウレンジャー揃ったから家でたこ焼きパーティーやろうで!」

切歌「おお、それはグッドアイディアデース!」

セレナ「皆さんで手伝いましょう!」

未来「うん、皆でやると楽しいね!」

和斗「よっしゃ、皆、よろしく頼むぜ!」

剛「ごわすー!」

一方、木星のネオジャークマター要塞

ジェミニス「地球の全日本のカラーに告ぐ、私はドンアルマゲの意思を受け継いだ皇帝ジェミニスだ、たった今、シザースがキュウレンジャーとシンフォギアに討たれ散つ



た、油断はするな！」

ピツ

ジェミニスは日本中のカラーに告ぎ、通信を切った。

グリズラー「皇帝の仕事も大変だねジェミニス！」

ジェミニス「ああ、キュウレンジャーとシンフォギアの対策もせねばな、例の方はどうだ?!」

グリズラー「ああ、生産の方は今から始まったよ、もう1つはまだ少しかかるよ！」

ジェミニス「引き続き、頼むぞ、私は首領室で奴と連絡する！」

ネオジャークマター首領室

? 「そうか、キュウレンジャーという奴らが揃ったのか?!」

ジェミニス「ああ、シンフォギア装者という奴らと組んでシザースがやられた！」

ジェミニスは首領室のモニターで金髪の幼い体型の女の子と話し。

ジェミニス「だが心配するな例の方はグリズラーが今から生産を始めてる！」

? 「そうか、オレもその内そっちに駆けつけるぞ、今は様子見とする！」

ジェミニス「ああ、その時は頼んだぞ、キャロル！」

ジェミニスは最後に金髪の幼い体型の女の子の名前を言った。

NEWSTORY

スペース12、和斗リーダーと響先輩と未来先輩のシンフォギアキュウレンジャーファイル特別編!

S・O・N・Gのシミュレーション室

響&未来「ひびみくと!」

和斗「和斗の!」

3人「シンフォギアキュウレンジャーファイル特別編!」

切歌「イエーイ、デス!」

調「ドンドンパフパフ!」

クリス「てっ?なんじゃこれは?!」

響「クリスちゃん、忘れたの、今回のシンフォギアキュウレンジャーファイルは特別編だよ!」

未来「今回は全員揃ったキュウレンジャーをシミュレーション室で皆様に紹介します!」

和斗「ついでにこのお二人もつれてきたぜ!」

作者「どーも、作者です、響ちゃんも未来ちゃんと和斗君に頼まれて来たからね！」  
？「ついでに俺も派手に参加だ！」

セレナ「あの……どなたですか?!」

？「俺の名はキャプテンマーベラス、人呼んで、海賊戦隊ゴーカイジャーのゴーカイレッドだ、まあいうとお前らスーパージョーの先輩だぜ！」

蓮司「ほえー、ゴーカイジャーのレッドやないか、初めましてや、ワイはテンビンゴールドの新井蓮司や！」

功太「俺はヘビツカイシルバーの遠堂功太！」

マーベラス「お前らがあのキュウレンジャーを受け継いだ奴らか?!」

和斗「ああ、今はシンフォギア装者と一緒にノイズやネオジャークマターと対決してるぜ！」

響「うん、今も私達は和斗君達と一緒に頑張ってるよ！」

マーベラス「そうか、やるじゃねえか、ところでステインガールの奴はどうした?!」

小太郎「ステインガー兄貴なら玄十郎司令とラフタと一緒に司令室で仕事してるよ！」

作者「さて、和斗君達、そろそろお願い！」

和斗「おうよ、シンフォギアキュウレンジャーファイル特別編、始めるぜ、皆？準備  
はいいか?！」

アミ「はい！」

エリ「いつでもいいですよ！」

壮汰「頼むぜ！」

響「よし始めるよ皆、まずは和斗君達キュウレンジャーから紹介するね！」

作者「私のナレーションから言います、ラッキー達リベリオンが宇宙幕府ジャークマ  
ターから宇宙を解放してから七年の歳月が過ぎ、地球は新たな脅威に進行される、そ  
う…ジャークマターを受け継ぐ新たな組織、ネオジャークマター、リベリオン星の  
シヨウロンポー総司令はステインガー司令に命じ、ラッキー達を受け継ぐ新たなキュウ  
レンジャーを探した！」

和斗「先ずはこの俺、獅子野和斗、俺のキュータマはシシキュータマだけ、よつしや  
ラッキー！」

未来「1話の時はちよつと驚いたね、私と響が新宿で和斗君が心配で戻ってみたらシ  
シレッドがいたなんて！」

和斗「ああ、バトルオリオンシップに保管してあるシシキュータマが飛び出していつ

てネオジャークマターに苦戦してる俺を救ってセイザブラスターを使って変身したんだ！」

シシレッド「スーパースター、シシレッド！」

響「シザースから私とクリスちやんを救うところは驚いたよ、ヘルメットが外れて正体が和斗君だなんて！」

和斗「あの時はごめんな、響と未来達に内緒にしてて！」

未来「いいのよそんなことS・O・N・Gもリベリオンと同盟に結んで響達と一緒に戦ってすごいよ！」

和斗「ああ、ありがとな未来、これだけじゃないぜ！」

ギヤラクシー！

シシレッド「レグルスインパクト！」

和斗「キュウソードにキュータマを装填して出す必殺技、レグルスインパクトは炎を出してネオジャークマターとノイズを次々と斬るぜ！」

響「和斗君、すごいよ、これからも私とクリスちやんと一緒に戦おうね！」

和斗「ああ、よろしくな、響！」

作者「さて、次に紹介する人物は?!」

祐一「俺は桐山祐一、俺のキュータマはサソリキュータマだ！」

響「9話の時に和斗君達の前に現れたサソリオレンジ、オンセンインダバーとの戦いの時は1人で倒すなんて!」

クリス「10話の時は驚いたぜ、あたしのところのクラスに転校してきた男がまさかお前だったとはな!」

祐一「ああ、俺はクリスと教室に再開したさ!」

未来「祐一さんは確かクリスとの幼なじみなんですね?!」

祐一「ああ、あいつの双子の兄も一緒だったからな!」

マーベラス「1つ質問するぞ…アイツの双子の兄は誰なんだ?!」

祐一「ああ、クリスの双子の兄の雪音レイだ…3年前、アイツはクリスとの兄妹の縁を切り、俺との友情も縁を切ってネオジャークマターに入ったんだ!」

マーベラス「あのやろう、俺が会ったらボッコボコにしてやるぜ!」

作者「いやいや、マーベラスさんは駄目です、祐一君は祐一君で決着をつけないといけないからね!」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ!」

クリス「あの時は切歌と調を助けてくれてありがとな、あたしもバカ達も嬉しかったぞ!」

祐一「ああ、お前らを悲しませないからな当然のことだ!」

クリス「宇宙熱海旅館のオンセンインダバーとの対決の時にかっこ良かったな、お前の技は！」

ギヤラクシー！

サソリオレンジ「アンタレスインパクト！」

祐一「ああ、キュウスピアにサソリキュータマを装填して出したあの技か… あれはステインガー司令譲りの技だからな！」

切歌「これからもクリス先輩達とよろしくお願いしますデス！」

調「一人で背負って戦うのは駄目です！」

祐一「ああ、リディアンに通いながらパトロールするからな、その時は呼んでくれ！」  
セレナ「わかりました！」

マーベラス「さて、次は誰だ?！」

壮汰「はいはい、俺です、青野壮汰です、俺のキュータマはオオカミキュータマです！」

未来「続いて紹介する人物は青野壮汰君！」

和斗「ああ、青い髪の毛で頭にハチマキのようなバンダナを着けた俺と小太郎の弟分だぜ！」

響「3話の時の身体能力すごいね！」

クリス「ああ、あたしが肩をポンと叩くとテンション上がって飛び回ってやがるな!」  
壮汰「へへ、俺は小学生の頃からガルというオオカミの人に身体能力を学んでたんだ  
ぜ先輩!」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー!」

作者「特に、オオカミブルーの時は野生のような動きだったぞ!」

壮汰「へへへ、ガルさん直伝の戦い方だぜ!」

ギャラクシー!

オオカミブルー「ルプスインパクト!」

壮汰「キュウクローから出す青い衝撃波でネオインダバーとノイズに攻撃!」

作者「さて、次は誰かね?!」

蓮司「ワイや、ワイは新井蓮司、ワイのキュータマはバランスはんから受け継いだテ

ンピンキュータマや!」

調「確か蓮司君は機械いじりとたこ焼きが好きなんだね?!」

蓮司「おうよ、ワイはそれだけやないで、親孝行や機械の修理や設計の他にもリディ

アンの女子にもモテモテやで!」

壮汰「ちくしょう、羨ましいぜ!」

響「確か蓮司君、バランスさんの方で功太君と一緒に弟子をやってたね!」



テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

蓮司「そうや、キュウクロスボウを使ったワイのテクニックは狙った獲物は逃さへんで！」

ギヤラクシー！

テンビンゴールド「くらえやリブラインパクトや！」

クリス「お前、射撃得意なのか?！」

蓮司「はいな、ワイはキュウクロスボウの射撃はブレもなく計算して狙うんや！」

響「さーて、お次はだーれだ?！」

剛「次はおいどん、南野剛、おいどんのキュータマはチャンプ殿から受け継いだオウシキュータマごわす！」

和斗「確か剛はスティンガーさんとラフタが鹿児島から連れてきたんだな！」

剛「そうでごわす、おいどんは鹿児島代表のキュウレンジャーで猫が好きでごわす！」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックでごわす！」

未来「キュウアックスを力一杯に振る腕力はすごいね、どこで鍛えたの?！」

剛「おいどんは父ちゃんと母ちゃんとニャンコロ星人達と一緒に畑仕事や家の手伝いやチャンプ殿との稽古で腕力をいつも鍛えてるでごわす！」

ギヤラクシー!

オウシブラック「アルデバラインパクトごわす!」

小太郎「キュウアックスから放つ衝撃波はノイズやネオインダバーを一撃で倒すんだよ!」

クリス「模擬戦の時はちよつと痛かったぞ!」

剛「すまんでごわす、クリス姉御殿、でもおいどんは皆の住む地球の為に皆で戦ってるでござす!」

マーベラス「やるじゃねえか、怪力やろう、今度は俺と勝負しようぜ!」

剛「望むところでごわす、マーベラス殿!」

未来「さーて、お次は誰?!」

功太「次は俺だ、遠堂功太、俺のキュータマはナーガさんから受け継いだヘビツカイキュータマだ!」

切歌「功太はスケボーが得意デース!」

功太「ああ、俺は小さい頃に叔父さんがスケボーを教えてくれたんだ!」

クリス「お前、良く怪我なくスケボーやってんな、スゲーな!」

功太「ああ、俺は叔父さんからこのスケボーをくれたんだぜ!」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー!」

功太「俺はネオジャークマターからバランスさんとナーガを守ろうとするとキュータマが俺と蓮司に共鳴して変身したんだ！」

調「スケボーに乗りながら戦ってる…危ないよ！」

功太「大丈夫だ、俺はケガなくスケボーが得意だぜ！」

ギャラクシー！

ヘビツカイシルバー「くらえ、オフユークスインパクト！」

切歌「鎌の形した武器キユウシツケルにヘビツカイキュータマを装填して出す必殺技は迫力的デース！」

功太「へへ、俺はナーガさんのような能力は出来ないが俺なりの戦いをしてるぜ！」

蓮司「そうやな、功太なりに戦いをしてるんやな！」

和斗「さて、次は誰だ?！」

エリ「つつ…次は私です、緑川アミです、私のキュータマはハミイ先生から受け継いだカメレオンキュータマです！」

切歌「次はアミの番デース、アミの趣味は音楽とかわいいのが好きでアタシと調の初めての友達デース！」

剛「アミ殿は神奈川の小学校にいた頃はエリ殿と一緒にごわすな！」

アミ「うん、私とエリはハミイ先生の教え子で何度も救われたよ！」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーンです!」

調「グリズラーに襲われそうなハミイ先生をかばおうとカメレオンキュウタマが共鳴してなれたんだね!」

アミ「うん、グリズラーにちよつと苦戦しそうだったけど負けないで頑張ってるよ!」  
ギヤラクシー!

カメレオングリーン「ハミリオンインパクトです!」

作者「へー、キュウレイピアにカメレオンキュウタマを装填した必殺技はハミリオンインパクトかー、まるでフェツシングのようなきだよ!」

アミ「実は私、フェツシングやったことないのでそれは!」

クリス「じゃあさ今度マリアがフェツシングやらを教えてやるから気が向いたら来いよ!」

セレナ「マリア姉さん、フェツシングしてたんですね? 私も来てみます!」

響「さて、次はだーれ?!」

エリ「次は私です響先輩、私は織野エリ、私のキュウタマはラフタから受け継いだワシキュウタマ!」

未来「エリちゃんはアミちゃんと同じく神奈川なんだね?!」

エリ「はい、私は体育や音楽が得意でアミと違って元気です!」

調「私と切ちゃんの初めて出来たもう一人の友達です！」

響「わあ、元気だねエリちゃん、運動が得意なんだね?！」

エリ「はい、神奈川にいた頃ハミイ先生に誉められたことがあります、例えば100メートル走で順位に入れた事やらいっぱい！」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク！」

壮汰「グリズラーとの対決の時はアミとコンピネーション息がすごいな！」

クリス「キュウシヨットで乱れ撃つとはスゲーな！」

ギャラクシー！」

ワシピンク「くらいなさい、アルティルインパクト！」

エリ「キュウシヨットにワシキュータマを装填した必殺技は無数の敵に向かって必殺弾を撃ち続けるのです！」

蓮司「やるもんやな、空も飛べて！」

響「今度は私を掴んで飛ばして！」

エリ「響さんをつかんだら腕がもげるかもしれません！」

響「えーんひどいよー！」

未来「ひ…響?…さて、次はだーれだ?！」

セレナ「お次は私です、私のキュータマはスパードさんから受け継いだカジキキュー

タマです!」

和斗「セレナは確かネフェリム事件で絶唱を使って死んだはずだがフロンティア事変の時に響とラツキーさんに救われたな?!」

セレナ「はい、ドクターウエルが私にシエンシヨウシンという聖遺物を纏わされ暴走したその時、響さんとラツキーさんが私の命を救ってくれました!」

未来「昏睡状態のセレナちゃんは私と玄十郎さん達が見てたから!」

和斗「ああ、ラツキーさんと響がシエンシヨウシンを粉々にしたからな!」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエローです!」

セレナ「スパーダさんが経営してるレストラングラツツエのカジキキユータマが私と共に鳴してキュウレンジャーになりました!」

響「セレナちゃんはお料理戦士になったんだね?!」

セレナ「はい、ブタトーンを和斗さんと一緒にお料理しました!」

ギヤラクシー!

カジキイエロー「ドラドインパクトです!」

未来「キュウスラツシャーにカジキキユータマを装填して出す必殺技、まるで包丁裁きみたい!」

セレナ「はい、スパーダさんからお料理や包丁裁きを習ってましたから！」

功太「俺が食ったセレナステーキセットの味は辛かったな、あの辛さは！」

切歌「ホントデース、セレナの作ったハンバーグはめっちゃ辛かったデース！」

セレナ「でも、味の方はちゃんと分量を考えて作りました！」

調「しばらくセレナは私と未来さんのお料理のお手伝いだよ！」

作者「さて、次は誰だ?!」

ピッ

シヨウ・ロンポー「はいはい、次はボクちんだよー！」

小太郎「シヨウ総司令? モニターから乱入?!」

シヨウ・ロンポー「いやいや、退屈だったからS・O・N・Gは何をやってるか通信

したら小太郎達は何かやってるね！」

和斗「シヨウ総司令、元気かー?!」

シヨウ・ロンポー「あはは、ボクちは元気だよ、それよりキュウレンジャーを受

け継ぐ戦士達は揃ったようだね！」

小太郎「まあね、総司令、皆に紹介してよ！」

シヨウ・ロンポー「ウム、モニターから紹介するよ、私は7年前のジャークマター討

伐は司令、そして今はリベリオン総司令のシヨウ・ロンポーだ！」

リュウコマンダー「ドラゴンマスター、リュウコマンダー!」

響「およよ? ショウさん、キュウレンジャーだったのですか?!」

ショウ・ロンポー「あはは、そうだよ、ボクちゃんはキュウレンジャーなんだよ!」

クリス「てつオイ、ぎっくり腰になってんぞ?!」

ショウ・ロンポー「わあああ、見ないで、このシーンは見ては駄目!」

ギャラクシー!

リュウコマンダー「ドラゴンクラッシュ!」

小太郎「総司令の武器のリュウツエーダのライフルモードの龍のオーラの光弾が炸裂だよ!」

ショウ・ロンポー「ハハハ、ボクちゃんのリュウツエーダは接近戦になり、杖にもなるんだぞ!」

クリス「てつ? やっぱりジジイじゃんかー!」

マーベラス「そんなことより次だ!」

小太郎「次は俺だ、佐久間小太郎、俺のキュータマはコグマキュータマだ!」

響「小太郎君、小学生からキュウレンジャーになったの? すごーい!」

小太郎「へへへ、ジャークマターから宇宙を解放するために頑張ってたよ!」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー!」



和斗「あれ？ステインガーさんとラッキーさん達と一緒に戦ってる！」

小太郎「へへへ、ステインガー兄貴達と一緒に戦ってたんだ！」

オオグマキュータマ！

セイザアタック！

切歌「うわー、大きくなったデース?!」

小太郎「俺のオオグマキュータマは一定時間だけ大きくなって戦う俺専用のキュータマなんだ！」

調「切ちゃん、もし私達があれば使ったらどうなる?!」

切歌「ビッグなレディになれるデース！」

調と切歌はオオグマキュータマを使って大きくなったのを妄想。

クリス「いやいや、お前らはならなくていい！」

シヨウ・ロンポー「あともう一人は鳳ツルギ君を紹介したいが、彼は地球代表の銀河大統領の職で忙しいんだ、ボクちゃんもそろそろ切るね、そうそう、バランスとナーガから連絡でもうすぐリベリオン日本本部が完成するよ、完成したら一緒に戦おう！」

和斗「総司令、期待してるぜ！」

小太郎「俺達も響達と一緒に待ってるよ！」

シヨウ・ロンポー「うむ、それじゃ、ステインガー達にもよろしくと伝えてね！」

ピッ

和斗「さてと、俺達の紹介が終わったから次は響達シンフォギア装者達の紹介するぜ  
！」

響「はいはい、先ずは私、ガングニールの装者の立花響だよー！」

和斗「響は確か1年前にガングニールになったんだな！」

響「うん、ノイズに襲われそうになった時に私の体が光ってガングニールになったの  
！」

小太郎「確か融合体で今は普通の人間に戻れたね！」

響「うん、ラッキーさんが私の胸のガングニールを取り除いてくれたの！」

マーベラス「お前、格闘で戦ってるな！」

響「はい、玄十郎師匠の稽古や特訓で鍛えてノイズやネオインダバーを倒してます！」

和斗「ああ、響のお陰でネオジャークマターのカローの1人、シザースを倒したから  
な、助かったぜ！」

作者「さて、お次はだれだ?！」

響「はいはい、次はクリスちゃんを紹介！」

クリス「てっ? オイ、指名すんじやねえ！」

作者「私が紹介しよう、イチイバルの装者、雪音クリス、クリスちゃんの戦いかたは

射撃系だよ！」

クリス「ああ、あたしはミサイルやガトリングを放ってノイズ共を命中！」

マーベラス「お前、ド派手だな、俺のこのハカセと交換しようぜ？、お前ならどんな敵を撃ちまくりだ！」

切歌「ダメデース、クリス先輩はアタシ達の先輩デース、交換したら仲間が可哀想デス！」

功太「いくらマーベラスさんでも譲らねえぞ！」

マーベラス「悪いな、冗談だ！」

和斗「それより切歌と調はシンフォギア装者なのになんで纏えないんだ?！」

クリス「ああ、あたしが説明するぞ、こいつら二人はLincolnを投与しないとギアからバックフアアアが出る可能性があるからな！」

蓮司「前回、ワイらがシザースからLincolnのレシピチップを手に入れて今はラフタが開発してるんや！」

響「完成するといよいよね！」

小太郎「あれ？俺達の知らない後のシンフォギア装者はどこに行ったんだ?！」

クリス「ああ、風鳴先輩なら奏さんとマリアと一緒にイギリスで歌手活動してる、あの三人は有名アーティストだからな！」

セレナ「マリア姉さんはスターで翼さんと奏さんはツヴァイウィングと一緒に活動を頑張っています!」

和斗「へー、そうなんだ、今度会ってみたいな、翼さん達に!」

響「さて、次に紹介するのはこちら!」

和斗「俺達が乗ってるキュウボイジャーとバトルオリオンシップを紹介するぞ!」

壮汰「俺達の操縦するキュウボイジャーはスゲーぞ、ネオジャークマターの巨体な奴や巨体ノイズを叩けるマシンだ!」

和斗「ああ、セイザプラスターに装填してるキュータマを横に倒してトリガーを引くと!」

セイザゴー!

シンボイジャー!

和斗「ボイジャーを呼び出して乗るんだ!」

未来「なんだか飛んですごいね!」

和斗「それだけじゃないぜ未来、なんと5つのキュウボイジャーが合体するぜ!」

セイザドツキング!

和斗「シンボイジャーを中心に4つのキュウボイジャーと合体し人形ロボットになるんだ、その名は!」

キュウレンオー!

和斗「よっしやラツキー!」

切歌「キュウレンオーカッコいいデース!」

和斗「だろ? 他にも色んなボイジャーとの組み合わせや合体も出来るぞ!」

調「色んな組み合わせが出来るのですか?!」

小太郎「そうだよ、キュウレンオーは出撃ごとに合体し色んな組み合わせが出来るよ!」

クリス「へー、やるじゃんかお前ら!」

和斗「だろ? ネオジャークマターの巨大や巨大ノイズに対抗できるぜ、そして!」

ギヤラクシー!

5人「キュウレンオー、メテオブレイク!」

スーパーギヤラクシー!

和斗「俺達の放つメテオブレイクは5つの星座の力を込めたビームを、敵に命中するだ!」

響「続いてはこれ、私達が乗ってる宇宙戦艦、バトルオリオンシップを紹介!」

小太郎「バトルオリオンシップは7年前の戦いで失ったオリオン号に代わってシヨウ

総司令が用意した新しい戦艦!」

ウエイクアップ、オリオン!

オリオンバトラー!

クリス「うわっ?この戦艦、ロボットに変形すんのかよ?!」

響「うん、このバトルオリオンシップはオリオンキュータマを装填したセイザブラスターを横に倒すと変形してロボットになるんだよ!」

小太郎「このバトルオリオンシップにはオライオンという人の魂が入ってるよ!」

和斗「ああ、4話の時に響がむちゃくちゃ操縦してたから何とか勝てたぜ!」

響「えへへ、ごめんね和斗君、操縦しなかったからつい!」

未来「響、あんまり操縦しないでね、次に操縦する人が困るから!」

クリス「そうだぜ、お前が操縦したらレバーがボロボロで操縦出来なくなるだろ、あたしも操縦したかったぞ!」

響「えーん、ひどいよクリスちゃん!」

切歌「アタシも調と操縦したいデース!」

小太郎「まあ、そうだな、ステインガー兄貴と玄十郎司令に相談してみよう!」

和斗「最後に話で紹介したネオジャークマターのカローを紹介するぜ、まずはシザーズだ!」

作者「私が説明しよう、シザースはネオジャークマターの蟹座系カローで両肩につけてるシザークローが特徴の敵、なんとシザークローは接近や遠距離のバブルマシンガンを発射することが出来るぞ！」

和斗「ああ、10話の時はLincornを投与してマシンガンがガトリングに変形して撃ち続けたな！」

小太郎「でも、今はキュウレンジャーを受け継ぐ戦士を全員揃って響とクリス先輩と一緒に倒せたよ！」

響「うん、和斗君達と私とクリスちゃんがいればどんな敵でも一騎討ち！」

作者「次に紹介するカローは天秤座系カローのリブラーン！」

クリス「あー、あたしと小太郎、こいつに苦戦したぞ！」

小太郎「確か両肩につけてる天秤の飾りを傾けると攻撃を止めたり、防御したりクリス先輩の攻撃を俺に命中するんだ！」

和斗「最後にこいつ、大熊座系カローのグリズラー、クマの顔をしたサイボーグ！」  
エリ「確かハミイ先生とラフタが苦戦した敵！」

アミ「頭脳が電子頭脳を搭載して敵の攻撃を分析や解析し、機械の爪サイバークローは敵を攻撃と防御するガードモードがヤバイね！」

切歌「でも、アミとエリがキュウレンジャーになってハミイ先生とラフタを守ってグ

リズラーが撤退したデス!」

調「あの機械のクマ、一体何を企んでいるのかな切ちゃん!」

クリス「心配すんな、もしあいつが現れたらあたし達がぶっ飛ばしてやるぜ!」

和斗「ああ、これ以上、地球をあいづらの好きにはさせねー!」

作者「さて、和斗君、響ちゃん達、今日は本当にありがとう、楽しかったよ!」

響「いいいえ、私達もすごく嬉しいです!」

マーベラス「ありがとな、お前ら、楽しかったぜ、ゴーカイチェンジ!」

ゴーカイジャー!

ゴーカイレッド「テンゴーカイジャーが11月11日に期間限定上映だ、お前ら、俺

達の派手を見やがれ!」

和斗「ああ、俺達も絶対に見に行きますよマーベラス!」

未来「それじゃ皆、これで!」

全員「バイバイ!」(デース!)

和斗「よっしやラッキー、またな!」

ゴーカイレッド「派手に行くぜ!」

NEWSSTORY



スぺース13、宇宙ギャンブルカジノ、決めろ壮汰のラツ  
キー！

東京市街地

響「おりや！」

へびツカイシルバー「そりや！」

テンビンゴールド「くらえや！」

カジキイエロー「えい！」

シシレッド「どりや！」

俺達は市民を守りながらノイズを討伐。

響「どりやー！」

響は右腕のアームドギアを起動し、ノイズに向かって走って右腕で殴り。

シシレッド「やるな響、じゃあ俺も決めるぜ！」

ギヤラクシー！

シシレッド「くらえ、レグルスインプクト！」

俺はキュウソードの必殺技で残りのノイズを切り裂いた。

全員「グッドラック!」

「ありがとうキュウレンジャー!」

「カッコ良かったわ!」

「シンフォギアのお姉ちゃんもありがとう!」

シシレッド「よっしやラッキー、ありがとう皆!」

響「ありがとうみんな!」

一般人達は俺達に感謝し、俺達は人気者。

バトルオリオンシッブプリーフィングルーム

未来「和斗君、響、カッコ良かったわ!」

切歌「やったデース調、功太達が大活躍デス!」

調「そうだね切ちゃん、セレナも良かったよ!」

壮汰「よし、次は必ず俺も活躍するぜ、絶対に当てるぜ!」

次の日

玄十郎「では未来君、回してくれるか? キュキュキュウのキュ!」

未来「えい!」

ポン

ポン

ポン

ポン

当たーり

しかし当たったのは和斗と小太郎とエリとアミだ。

玄十郎「よし、響君、また頼むぞ！」

響「はい、師匠！」

壮汰「つゝ、次こそ当ててやる！」

また次の日

玄十郎「では切歌君、回してくれ、キュキュキュウのキュ！」

切歌「デース！」

ポン

ポン

ポン

ポン

当たーり

切歌が当てたのは和斗と祐一と剛とセレナだった。

玄十郎「よし、クリス君、頼むぞ！」

クリス「おうよ、任せてくれおっさん！」

壮汰「ぐぬぬぬぬ、次こそは！」

またまた次の日

ステインガー「よし調、次はお前が引くんだ！」

玄十郎「では行くぞ、キュキュキュウのキュ！」

調「えい！」

ポン

ポン

ポン

ポン

当たり

調が当たったのは和斗と蓮司とエリと祐一

ステインガー「よし、響、クリス、行ってくれ！」

響「任せてください、ステインガーさん！」

クリス「任せとけよステインガーのとつつあん！」

壮汰「次こそ必ず！」

次の日

玄十郎「キュ！」

未来「それ！」

ポン

ポン

ポン

ポン

その次の日

玄十郎「キュ！」

切歌「テース！」

ポン

ポン

ポン

ポン

また次の日

玄十郎「キュ！」

調「えい！」

ポン

ポン

ポン

ポン

功太「よっしゃ、当たった!」

蓮司「よっしゃやったで!」

剛「やったでござす!」

壮汰「ちくしょー!」

ハズレ

チーン

壮汰はブリーフィングルームの椅子に座り、白くなる。

セレナ「こんなに壮汰君がキューレット外れるなんて驚きましたよ!」

和斗「俺はアンラッキーになったことは無かったぞ!」

壮汰「はあ、和斗兄貴達はいいよな当てる、俺は運勢最悪だよ、中学生の頃はちよつ

と不幸だったからな!」

東京新宿市街

彼女「美味しかったね、あのレストラン!」

彼氏「ああ、また来ような一緒に!」

夜の街を歩く二人のカップル。

? 「ちよつとそこのお兄さん達? 今はお暇でしょうか?!」

グラサンの黒スーツの男が二人に声をかけ。

彼氏「今は暇じゃないけど何ですか?!」

? 「貴方達の幸せを最高にするカジノ、その名は宇宙ギャンブルカジノ、貴方達が最高の幸せになりたいならこの宇宙ギャンブルカジノでもっと幸運な幸せを目指しましょう、いかがでしょうか?!」

彼女「ねえ? ちよつとやってみよう? 宇宙ギャンブルカジノ、二人でもっと幸運な幸せを目指そう!」

彼氏「まあ: : : そうだな、それじゃやってみるか!」

? 「ありがとうございます、それではご案内いたします、新装開店なので入場料は無料ですがお金は自分でお出しく下さい!」

黒スーツの男が二人のカップルに宇宙ギャンブルカジノまで案内した。

次の日の休日

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ウィーン!

ブリーフィングルームに入ってきたステインガーとラフタと玄十郎。

ステインガー「あれ?響はどうした?!」

調「響さんなら未来さんと一緒に寮で残った課題をやっています!」

和斗「今日は2人のための時間なので!」

小太郎「テストの方は80点ぐらいとったよ俺達!」

クリス「ところでつつあん、任務か?!」

ステインガー「ああ、ラフタ、モニターを頼む!」

ラフタ「了解です!」

ピッ

ラフタは俺達にモニターを見せ。

和斗「ん?なんだあの金ぴかタワーは?!」

玄十郎「ラフタ君が調べた情報によるとこれはネオジャークマターが建設した店、そ

の名は宇宙ギャンブルカジノだ!」

全員「宇宙ギャンブルカジノ?!」(「デスと?!」)

ラフタ「はい、ネオジャークマターが宇宙ギャンブルカジノを開店して人々をギャン

ブルカジノに誘惑しています!」

俺達はギャンブルカジノの会場を見る。

?「ヒヤヒヤヒヤ、お前らの金は全部もらったぜ!」



青年「そんな？ 負けたなんて嫌だ！」

？「俺はネオジャークマターのダイカーン、ギャンブルインダベー、俺はギャンブルとカジノが有利だぜ、お金がないお前は牢獄奴隷として働いてもらうぜ、連れていけ！」

ネオインダベー「ダベ、ダベダベ！」

青年「そんな？ 牢獄奴隷なんて嫌だー、助けてくれ！」

ピッ

和斗「なんて奴だ！」

調「牢獄奴隷にするなんて許さない！」

ラフタ「捕まった人達は情報によるとネオインダベーが別のルートにある牢獄奴隷室に連れていって無理矢理働かせています！」

玄十郎「今回の任務はネオジャークマターが開店した宇宙ギャンブルカジノの破壊と捕まった人達の救出だ！」

壮汰「俺、パス、運動はいいけど今回の任務はまたハズレかもしれない！」

壮汰は今回の任務を却下しようとし。

和斗「壮汰、最後まで運を信じろよ、壮汰にもきつと運が出るさ！」

セレナ「そうですよ壮汰君！」

壮汰「和斗兄貴、セレナ、みんな、よし、俺は運が出るよ！」

小太郎「決まりだね、兄貴！」

ステインガー「よし、今回は別々の任務で行こう、ギアを纏えない切歌と調には潜入操作任務として参加だ！」

調「ステインガーさん？いいのですか?!」

ステインガー「ああ、響が今回は課題で無理だからな、クリス、2人を任せていいか?!」

クリス「ああ、こいつらはあたしに任せな！」

切歌「やったデス、クリス先輩、よろしくお願いしますデス！」

ラフタ「では、残りはキュウレットで決めましょう！」

玄十郎「うむ、そうだな今回は7人で行こう、7人が決まり次第残りのメンバーにはバトルオリオンシップとS・O・N・Gの潜水艦基地に残ってノイズが来るまで待機だ、先ずは捕まった人達の救出を3名、キュウレット、ザ・チャンス！」

玄十郎司令がキュウレットを力一杯回し、出たのは。

ポン

ポン

ポン

当たりー!

当たったのは俺とセレナと小太郎だった。

和斗「よっしゃラッキー！」

セレナ「和斗さん、壮汰君の前でそれを言っちゃ駄目です！」

和斗「あつ、ごめんよ！」

壮汰（気を遣わなくていいよ！）

小太郎「次があるから大丈夫だよ！」

ステインガー「よし、次はクリスと切歌と調と一緒に行動するメンバーだ、玄十郎司令、頼む！」

玄十郎「うむ、キュウレット・ザ・チャンス！」

ポン

当たり

最初に当たったのはアミ。

アミ「ごめんね壮汰君、当てて！」

玄十郎「よし、次だ！」

ポン

ポン

当たり

出たのは功太と蓮司。

蓮司「よっしゃやったでー、あつ!」

功太「悪い壮汰、俺と蓮司が当ててしまったぜ!」

蓮司「まだ一個があるから大丈夫やで!」

壮汰「ぐぬぬぬ!」

玄十郎「よし、残りの1人を回すぞ、キュウレット、ザ、チャンス!」

壮汰「出る、当ててくれ!」

和斗「頼む!」

切歌「当たれデース!」

調「お願い!」

俺達は強く祈りすると。

ポン

クリス「おい、見ろよ壮汰!」

壮汰「えっ?!」

当たーり

奇跡だ壮汰のオオカミキュータマが当たった。

壮汰「やったー、ありがとう、ありがとう皆!」

和斗「良かったな壮汰、よーし皆で宇宙ギャンブルカジノ破壊と捕まった人達の救出任務、成功しようぜ！」

全員「おー！」（デース！）

新宿市街の宇宙ギャンブルカジノの扉前

壮汰達はタキシードの格好をチエツク。

壮汰「よし、身だしなみも完璧、蓮司達はどうか?！」

蓮司「完璧や！」

功太「オツケー！」

アミ「ドレスを着るの初めてね調ちゃん！」

調「うん、私も初めて！」

切歌「おー、調とアミ、よく見たら綺麗デス！」

クリス「よーし行くぞ！」

ウイーン

店員「いらつしやいませ、何名様ですか?！」

壮汰「えーと、これをお願いします！」

壮汰は店員にチケツトを渡し。

店員「えーと、5名様入場とバイトがお二人ですね、かしこまりました！」

クリス「へっ? バイト?!」

切歌「どういうことデスか?!」

宇宙ギャンブルカジノ会場

クリス「あいつらしいとして何であたしと切歌がバニーガールをやらなくちやならねえんだー?!」

クリスはバニーガールの格好したことを文句。

切歌「仕方ないデスよクリス先輩、ステインガーさんが用意したチケットでアタシと先輩がバニーガールのバイトになりすましデース!」

調「切ちゃん、似合うねバニーガールの姿!」

功太「ホント、胸もセクシーで似合うぜ!」

アミ「クリス先輩も似合ってます!」

蓮司「そんじやワイらはちよっくらギャンブル行ってくるで!」

壮汰「切歌、クリス先輩、和斗兄貴達が救出完了次第まで我慢しろよ!」

壮汰達は切歌とクリスと別れてギャンブルに行った。

切歌「功太、壮汰、調、アミ、気を付けるデスよ!」

クリス「えーいやケクソだ、バニーガールでもしてやるー!」

スロット

蓮司「よっしゃ、当たったで！」

功太「ウヒョー、俺も当たったぜ！」

調「当たった！」

壮汰「ちくしよー、外れた！」

アミ「私も！」

ギャンブルランプ

ポーカーに挑戦した壮汰。

壮汰「よっしゃ、4のツーペアと5のツーペアだ！」

一般人「エースのフォーカード、私の勝ちです！」

壮汰「ちくしよー、また負けたー！」

一方、牢獄奴隷の施設前

和斗「こちら和斗、セレナと小太郎と牢獄奴隷の施設前に着いたぜ！」

バトルオリオンシップブリーフィングループ

ステインガー「ああ、見張りの方はどうだ?！」

セレナ「今の所いません！」

玄十郎「よし、クリス君達も任務を開始してる、油断はするな！」

3人「オッキユウ！」（です！）

ピッ

俺達は通信を切り。

小太郎「よし、行くか!」

和斗「ああ、壮汰達も今頃、任務を開始してる!」

セレナ「はい、行きましよう、お二人とも!」

和斗「よし行くぞ!」

一方、宇宙ギャンブルカジノの休憩所

蓮司「よっしゃ、ワイはじゃんじゃん当てたで!」

功太「俺の方はちよつと外れたけど!」

調「私は普通!」

アミ「私も同じだね!」

壮汰「はああああ!」

壮汰は深いため息をつき。

功太「そう気にするな壮汰、お前にも当たる可能性があるぜ!」

蓮司「そうやそうや、チャンスがあるで!」

壮汰「だけども、また外れたら俺のせいで任務失敗するかもしれん!」  
すると



ギャンブルインダバー「レディース・アーンド・ジェントルメン、皆様、楽しんでますか?!」

イエーイ!

お客は全員盛り上がる。

蓮司（どこがやで?!）

ギャンブルインダバー「おや? 不満の方がちよつといますね、それじゃ今からルーレットカジノゴールデンタイムを開始いたします!」

ワアアア

調「皆さん、何だか以上より盛り上がってる?!」

アミ「皆さん、どうしたのですか?!」

ギャンブルインダバー「それでは説明いたしましょう、照明を消してその中からライトを照明した方が私と挑戦です、ルーレットカジノゴールデンタイムはルーレット台の自分の決めた色と数字を決めて予想、勿論賭けはチップです、挑戦する回数は1人1回です、もし決めた色と数字が外れたらチップ全部取り上げ、もし当たったら、私から豪華な景品をプレゼントしよう、こちら!」

ギャンブルインダバーは皆の前でルーレットカジノゴールデンタイムの説明と景品を見せ、すると。

蓮司「ぬぬ? あれは新商品のNEWSサウンドスピーカーセット、ワイが欲しかった奴や!」

功太「おっ? あつちはグリーンとピンクのスペシャルスケートボード? 当たったら切歌と調にプレゼントしよう!」

調「皆、景品で目が浮かんでる!」

アミ「あわわ、当たるかな? 外れるかな?!

壮汰「えーい、こうなればヤケだ、やってやる!」

ギャンブルインダバー「それでは会場を暗くします、ライトが当たった人は私との挑戦です!」

ガチャ

辺りを暗くし。

ギャンブルインダバー「それでは私に挑戦する挑戦者はこの5人です!」

ガチャ

ライトを照らすと壮汰と調とアミと蓮司と功太だ。

蓮司「おっ? ワイヤ!」

功太「よっしゃ、俺も出るぜ!」

アミ「あわわ、私も?!」

切歌「およ？調デス?!」

壮汰「てっ？マジかよ、俺も参加かよ?!」

ギャンブルインダバー「それでは五名の方、ステージへ！」

一方、牢獄奴隷施設の2階

和斗「よし、誰もいないぞ！」

セレナ「ラツキーです、行きましょう！」

同時、ギャンブルカジノのステージ

ギャンブルインダバー「先ずは誰から挑戦するのかね！」

功太「よっしゃ、先ずは俺からだ、俺はグリーンとピンクのスペシャルスケートボー

ドを手に入れるぜ、俺は赤の5番に10枚掛けるぜ！」

ギャンブルインダバー「それじゃ俺は黒の2番に同じ10枚掛ける！」

功太とギャンブルインダバーは色と番号を予想し、10枚掛けた。

ギャンブルインダバー「それではルーレットカジノゴールデンタイム、スタート！」

ルーレットが回り、玉が回る。

功太「こいこい、赤の5番、当たれよ！」

蓮司「当たるんや！」

すると

調「やった、赤の5番に入った!」

牢獄奴隷施設の2階

和斗「案外楽だな!」

セレナ「そうですね、警備も隙だらけです!」

小太郎「よし、このまま牢獄室まで一気にいきましょう!」

すると

ガトン

セレナ（あれ?床が開いてます?!）

小太郎（これってもしかして?!）

和斗（落ちる?!）

3人「うわああ!」（キヤー!）

牢獄奴隷施設の前

3人「うわああ、目が回るー!」

俺達はなにも見ずに開いた床に落ち、転がって牢獄奴隷施設の前まで戻った。

小太郎「いてて、セレナ大丈夫?!」

セレナ「はい、大丈夫です!」

和斗「いてて、どうなってんだよ?これ?!」

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ラフタ「調べてみます…。これは、どうやら調達がやつてる宇宙ギャンブルカジノの会場のルーレットとリンクしてます、牢獄奴隷室の鍵の解除の色は青の1です!」

牢獄奴隷施設の前

和斗「マジかよ? それじゃ調達が青の1を当たらないと鍵が開かないのかよ? よっしゃラッキー、調達が当たる運命だ!」

ネオインダバー「ダベ、ダベダベ!」

小太郎「和斗、バレたみたいだぞ!」

和斗「よし、こいつらを倒してもう一回行くぞ!」

セレナ「はい!」

セイザチェンジ!

3人「スターチェンジ!」

宇宙ギャンブルカジノの会場ステージ

調「えっ? 青の1を当たったら牢獄奴隷室の鍵が開くの? わかりました、何とか当ててみます!」

ギャンブルインダバー「さあ、次は誰かな?!」

調「はい、私です!」

切歌「調フアイトデス!」

クリス「あいつ、当てるの大丈夫か?!」

ギャンブルインダバー「次の挑戦者は君かな?!」

蓮司「調、頑張るんや!」

功太「落ち着いて予想しろよ!」

調「大丈夫、落ち着いて予想したら何とか…。私は青の1番に12枚掛けます!」

ギャンブルインダバー（ククク、青の1を予想か、確か青の1を当てたら牢獄奴隷室の鍵が開くのか、そうはいくかよ、このルーレットには仕組みが入ってる、青の1を当てるわけないだろ?!）

ギャンブルインダバーは小さい声でルーレットの仕組みを言い。

ギャンブルインダバー「青の1か。それじゃ俺は黒の6番に同じ12枚掛けるぞ、それじゃルーレットスタート!」

ルーレットを回し。

クリス「当てる、当てる!」

切歌「調の予想を当てるデス!」

ルーレットが止まり、落ちる、落ちた色は青の5番だった。

アミ「あー、惜しいね調ちゃん！」

牢獄奴隷施設の3階

和斗「よし、何とかいけたな！」

セレナ「はい、後は調さん達が青の1を当たったら成功です！」  
すると

3人「えっ?!」

小太郎「またハズレだー！」

俺達はまた落ちて牢獄奴隷施設の前まで戻った。

和斗「いてて、調がハズレるとは！」

セレナ「今度は当たることを祈りましょう！」

宇宙ギャンブルカジノのステージ

ギャンブルインダバー「くっそー、同時にハズレだなんて、次の人は誰だ?!」

蓮司「はい、ワイじゃなく壮汰が行くで！」

蓮司は壮汰を指名。

壮汰「てっ? 蓮司、何で俺を指名するんだ?!」

功太「壮汰、耳を貸せ、ゴニョゴニョ！」

功太は壮汰の耳元を誰も聞こえないように言い。

壮汰「なるほど、よし、わかったやってみるぞ!」

壮汰は椅子に座ってルーレット準備を構え。

牢獄奴隷施設の3階

和斗「ん?ラフタ?どうした?!

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ラフタ「和斗、次は壮汰がルーレットをします!」

玄十郎「ああ、当てればいいんだが!」

宇宙ギャンブルカジノの会場ステージ

ギャンブルインダバー「俺は赤の4番に10枚掛ける、そつちはどうする?!

壮汰「俺は...青の1に同じ10枚掛ける!」

ギャンブルインダバー「それではルーレットスタート!」

ルーレットが回り、集中する二人。

蓮司「頼む、青の1を当たるんや!」

切歌「当たるデース!」

調「お願い!」

ルーレットが止まり、玉が青の6に落ちた。

すると



牢獄奴隷施設3階

ガトン

和斗「えっ?!」

セレナ「また落ちますー!」

すると

小太郎「同じ手は引つ掛からない、セレナ、先に登って!」

セレナ「はい、和斗さん、小太郎さん!」

落ちそうなき俺と小太郎が柱を支えセレナが登り、手を捕まって俺達を引つ張つた。

宇宙ギャンブルカジノの会場ステージ

ギャンブルインダバー「ぐぬぬぬぬ、またハズレだ、もう一回君とルーレットだ、俺

は赤の1に全てを掛けるぞ!」

壮汰「全てを掛ける、そんな、俺には無理だよ当てれるなんて!」

和斗「諦めんな壮汰、諦めなければ運がお前に当たる、だから自分を信じろ!」

壮汰「和斗兄貴……わかった、俺は青の1に全てを掛けるぜ!」

ギャンブルインダバー「よし、のつたな、それじゃルーレットスタート!」

ルーレットが激しく回り。

クリス「頼む、当てろよ!」

調「お願い、青の1を当たって!」

切歌「当ててるデース? あっ!」

切歌は何かのテーブルに引つ掛かり、コンセントが外れた。

アミ「切歌ちゃん?大丈夫?!」

切歌「いてて、このコンセントに引つ掛かったデース!」

壮汰「当てろ、当てろ、当てろ!」

ギャンブルインダバー(ククク、赤の1の所に止まり掛けてきた、これで俺の勝ちだ

!)

ゴトン

蓮司「ん?!」

功太「おっ?!」

調「まさか?!」

壮汰「えっ?!」

壮汰が見ると止まったところは予想した青の1だ。

壮汰「やったー、当たったぞ、当たったぞ、俺は!」

同時、牢獄奴隷施設3階の牢獄室

牢獄室の鍵が開き、俺達は牢獄室に着きドアを開けた。

セレナ「皆さん、助けに来ました、逃げてください！」

小太郎「和斗、壮汰の奴、やったな！」

和斗「ああ、やったな壮汰！」

バトルオリオンシッブプリーフィングルーム

ステインガー「作戦成功だな！」

玄十郎「ああ、よくやったぞ壮汰君！」

宇宙ギャンブルカジノの会場ステージ

ギャンブルインダバー「バカな？青の1を当たらないように仕組んだはずなのになぜ

当たった?！」

切歌「もしかして？これデスカ?！」

ギャンブル「あー、それは！」

切歌は外れたケーブルコンセントを見てギャンブルインダバーはそれで驚き。

調「やっぱり、これが原因だよ、切ちゃん、ナイス！」

ギャンブルインダバー「うぬぬ、お前達は何者だ?！」

壮汰「教えてやるぜ、俺達は！」

バサツ

壮汰と蓮司と功太はタキシードを脱ぎ捨て、いつものキュウレンジャーの隊員ジャケットを羽織った私服に。

ギャンブルインダバー「貴様らはキュウレンジャー?!」

蓮司「ほな、この景品はもらっていくで！」

壮汰「人の金を奪って牢獄奴隷施設で無理矢理働かせるなんて許さねえ！」

ギャンブルインダバー「うぬぬ、ネオインダバー達、やれー！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ、ダベ！」

功太「調達は皆を安全な所へ、クリス先輩、頼む！」

クリス「おうよ、任せとけ！」

クリス達は功太達と別れて皆を避難誘導する。

蓮司「そりや、おりや！」

功太「どりや、うおおお！」

壮汰「せい、どりや！」

壮汰と蓮司と功太はネオインダバー達にパンチやキック。

ギャンブルインダバー「ぐぬぬぬ、ここは逃げる！」

## 新宿市街地

ギャンブルインダバー「ここまで来れば安心、金さえあれば俺の人生は！」

和斗「見つけたぞ、ネオジャークマター！」

ギャンブルインダバー「げげ？キュウレンジャー？どうして?!」

小太郎「捕まった人達を脱出して牢獄奴隷施設を破壊した！」

セレナ「後は皆さんのお金を返してもらいます！」

ギャンブルインダバー「ぐぬぬぬぬ、バカな！」

壮汰「和斗兄貴、皆！」

壮汰達も俺達と合流。

和斗「壮汰、運があつてよかったな！」

壮汰「ああ、俺にも運があつて良かったよ兄貴！」

功太「よし後は皆であいつを倒すぞ！」

和斗「よし、皆、行くぞ！」

6人「マワースライド！」

オオカミキュータマ！

セイザチエンジ！

6人「スターチエンジ！」

俺達はキュウレンジャーに変身。

シシレッド「スーパースター、シシレッド!」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー!」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや!」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー!」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエロー!」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー!」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊!」

6人「キュウレンジャー!」

ギャンブルインダバー「なな、何だと?!」

オオカミブルー「お前の運、試してやる!」

6人「うおー!」

ギャンブルインダバー「かかれー!」

ネオインダバー「ダベ、ダベ!」

俺と壮汰はギャンブルインダバーと対決し、功太達はネオインダバーと対決。

ギャンブルインダバー「くらえ、小銭バルカン!」

シシレッド「おわっと、危な、当たったら痛そう!」

ドドドドド

ギャンブルインダバー「あいたたた！」

銃弾がギャンブルインダバーに命中して金が入ってる袋を放し。

カメレオングリーン「キャッチ！」

クリス「ナイスだアミ！」

アミはギャンブルインダバーから放した金が入ってる袋をキャッチし、クリス先輩と俺達と合流。

オオカミブルー「クリス先輩、他の皆は?!」

クリス「ああ、残りは切歌と調に任せてるから心配ねえ、それにしてもやるな壮汰！」

ギャンブルインダバー「おのれー、ならばモライマーズロボ起動！」

ギャンブルインダバーはスイッチを押してモライマーズがロボに変形。

シシレッド「よし、小太郎、蓮司、アミ、功太、俺達はモライマーズロボを倒すぞ、壮汰はクリス先輩とセレナと一緒にギャンブルインダバーを頼む！」

4人「オツキュウ！」

オオカミブルー「ああ、こっちは任せてくれ兄貴！」

クリス「頼んだぜお前ら!」

セイザドツキング!

キュウレンオー!

シシレット「よっしゃやラッキー、このまま宇宙ギャンブルカジノまとめて破壊だ!」

テンビンゴールド「おっしゃ行くで!」

俺達はレバーを動かしモライマーズロボと対決。

コグマスカイブルー「切歌、調、他の皆の避難の方はどう?!」

宇宙ギャンブルカジノの中

切歌「問題なしデース!」

調「他の皆さんの方は全員避難出来ました!」

へびツカイシルバー「よっしゃ、これで心置きなく戦えるぜ!」

クリス「くらえ、金野郎!」

カジキイエロー「えい!」

オオカミブルー「どりゃ!」

壮汰とセレナとクリスは武器でギャンブルインダベーに攻撃。

ギャンブルインダベー「あいたー、このやろう、よくも!」



クリス「よっしゃ、2人とも一気に決めるぞ！」  
ギヤラクシー！」

2人「オールスタークラッシュュ！」

クリス「くらえ、ガトリングのもってけダブルだ！」

ギャンブルインダバー「ちよつと待てー、そのクリスちゃんのバニーガール姿をおっぱいを揉ませてくれ、頼むー！」

オオカミブルー「……お前は破廉恥すぎるぞ！」

スーパーギヤラクシー！」

ギャンブルインダバー「ギヤー、やっぱりー！」

忠告を無視して壮汰達は容赦なくギャンブルインダバーに必殺技を放ち爆発。

シシレッド「よし、こつちもとどめさすぞ！」

ギヤラクシー！」

5人「キュウレンオー、メテオブレイク！」

スーパーギヤラクシー！」

俺達もキュウレンオーの必殺ビームでモライマーズロボと宇宙ギャンブルカジノに向けて放ち、撃破。

全員「地球は俺達が（私達が）救う！」

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

蓮司「よっしゃ、NEWSサウンドスピーカーセットの音は本物や、迫力あっていいで！」

功太「調、切歌、これをやるよ、俺が当てたスケートボード！」

切歌「いい德斯か？ありがとう德斯！」

和斗「良かったな2人とも！」

夕方

獅子野家

和斗「さーて、任務も終わったことだし、疲れたな、ただいまー！」

母「あら？お帰り和斗、帰ってきたのねお疲れ様！」

和斗「ああ、ちよつと部屋に行ってくる！」

2階、和斗の部屋

ガチャ

響&未来「「お帰りー、和斗君!!」」

和斗「響？未来？何で俺の部屋にいるんだ?！」

響「だって課題が終わって退屈だから和斗君の家に泊まりに来たよ！」

未来「ごめんね和斗君、響が和斗君の家に泊まりに行きたい言ったからお母さんに連絡してお願いしたの！」

和斗「母さんめー！」

それから数時間後、俺達は晩飯を食べ、風呂に入り、響と未来をお泊まり用の部屋に連れていき、自分の部屋に戻ろうとする。

響「和斗君、お願い、一緒に寝て！」

和斗「えっ？えええ！」

仕方なく俺は響と未来と一緒に寝る、俺は響と未来の真ん中に寝転がり。

未来「ねえ、和斗君、響がいない間にどうだった？任務！」

和斗「ああ、俺と小太郎とセレナと一緒に牢獄奴隷施設の破壊と救出をしてたんだ、俺と小太郎とセレナ、ちよつと苦労したんだ！」

響「そうなんだ、何か苦労したの?!」

和斗「ああ、実は牢獄奴隷施設の牢獄室のカギが壮汰達がやってるルーレットとリンクしてな、調と功太がルーレットにハズレて俺達は床が開いて落ちて最初の方に戻って苦労した、でも壮汰が青の1を当てて鍵が開いて捕まった人達を脱出させたんだ！」

未来「良かったね、皆が脱出して！」

和斗「ああ、最後は取られたお金を取り返して宇宙ギャンブルカジノを破壊したんだ！」

響「和斗君、ありがとう、私がない間に皆を支えて！」

未来「でも、あんまり無理しないでね、私も響も心配するから！」

和斗「わかってる、じゃあ寝ようか、おやすみ！」

響&未来「「おやすみ！」」

俺達は目をつぶって睡眠に入った、響と未来は手を繋いで寝た。

NEW STORY!

スペース14、沖縄のサーフィン対決、デュープVS功太  
&祐一、シーサー像に隠してたキュータマ!

バトルオリオンシッププリーフィングルーム

玄十郎「皆に任務だ、沖縄に行つてもらうぞ!」

全員「沖縄?!」

ラフタ「はい、調べた情報によると沖縄がネオジャークマターに占領され、海が乗つ取られてます、映像を写します!」

俺達は映像を見る。

?「HEYユー達、ミーのサーフィングランプリへようこそ、ミーに挑戦する人はユー達かな?!」

一般人達にサーフィングランプリの挑戦をさせるカジキの顔をしたジャークマター。

10分後

?「ハハハハ、ミーの勝ちだよ、負けたユーはミー達ネオジャークマターの為にバカンスになって働いて貰うヨー!」

ネオインダバー「ダベ、ダベ、ダベ!」

男子「えっ? 何処へ連れていく気だ? 助けてくれー!」

ピッ

ラフタ「映像が以上です、皆様には沖縄を占領したネオジャークマターの退治です!」

響「沖縄と言ったらソーキソバとサーターアンダギー、豚足やゴーヤチャンプルが出るよ!」

未来「響、よだれが出てるよ!」

クリス「こいつ、食い意地はってんな!」

ステインガー「よし、今回は響、クリス、行つてくれるな?!」

響「はいはい、任せてください、ネオジャークマターを倒して沖縄料理食べるぞー!」

玄十郎「よし、響君とクリス君と一緒にメンバーをキュウレットで決めるぞ、行くぞ  
キュウレット・ザ・チャンス!」

ポン

ポン

ポン

ポン

ポン

出たのは俺と祐一と功太とアミとエリだ。

和斗「よっしやラッキー、沖繩へレッツゴーだ！」

響「行ってくるね未来！」

未来「行つてらっしやい響、和斗君！」

アミ「それじゃ行ってくるね切歌ちゃん、調ちゃん！」

エリ「お土産も買ってくるね！」

切歌「気をつけるデース！」

調「楽しみ！」

バトルオリオンシップ格納庫

和斗「よっしや、響、しっかり捕まれよ、発進するぞ！」

響「うん、安全にね！」

和斗「よっしや行くぜ！」

俺達は格納庫からキュウボイジャーを発進し沖繩へ向かった。

沖繩

1時間半後に沖繩についた俺達は街を出歩き。

響「おわー、沖繩のお店がいっぱいだよ和斗君！」

和斗「そうだな皆、占領されてるのに何で賑やかなんだ?!」

功太「そういえばそうだな、何でだろ?!」

バトルオリオンシッププリーフィングルーム

未来「調ちゃん、お料理作るうか?そろそろお昼だからね!」

調「はい、何を作りましょうか?!」

セレナ「それじゃ私もお料理手伝います、スパードキサンから料理を少し学びました!」  
未来とセレナと調は厨房に行ってお昼の用意をしに行き。

切歌「セレナと調の料理は楽しみデース!」

ラフタ「大丈夫ですかね和斗達は?!」

小太郎「心配するな、沖縄を救ったらお土産を買って帰ってくるよラフタ!」

沖縄の町

クリス「あつちいな沖縄の暑さ、南国だなまるで!」

響「もうすぐ4月も終わりだから、そういうと思って未来が私の水着を入れてくれたんだよ、スクール水着をね!」



クリス「たく、遊びに来たんじゃねえぞ、そういうと思ってあたしも自分の持つてきたぜ！」

功太「実は俺も持つてきたぜ、銀と赤の合わせた色をな！」

アミ「実は私も一応持つてきました！」

祐一「さて、海に行くぞ、ネオジャークマターを倒しに！」

俺達は海まで歩こうとすると。

一般男子「あんたら、サーフィングランプリに出るのか？あそこはやめといた方がいいぞ、負けたらネオジャークマターの為に働かせるからな！」

和斗「心配するなよ、こつちにはスケボーの功太がいるからな沖繩の皆の海は俺達が救うぜ、よし行こうぜ皆！」

一般男子「止めても知らんぞ！」

沖繩の海

俺と功太と祐一は男子更衣室で水着に着替え、俺達は砂浜で響達を待った。

響「お待ちせ、和斗君、2人とも！」

和斗「おー、響、リディアンスクール水着は似合ってるな！」

クリス「たく、遊びに来たんじゃねえのによ、けどよ服が濡れたら嫌だから着替えた

んだぜ!」

エリ「お待たせ!」

アミ「似合いますかな?!」

クリス先輩とアミとエリもスクール水着に着替え、俺達と合流。

和斗「よし、昼飯前に遊びまкруうぜ!」

響「おー!」

数時間後、俺達は海辺で泳ぎまкруり楽しんでる。

響「和斗君、何処に行くの?!」

和斗「ああ、海辺の所へ歩いてく!」

響「待って、私も行く、クリスちゃん、アミちゃん達をお願い!」

クリス「てっ? おい、早く戻ってこいよ!」

響は俺の後を追った。

沖繩の海のシーサーの像

和斗「懐かしいな、ここに来るのは、12年ぶりだな!」

響「かーずとくん、何をしてるの?!」

和斗「うわっ? 何だ響か? 驚かすなよ!」

響「和斗君? 何を見てたの?!」

和斗「ああ、沖繩の海のシーサー像を見てたんだ、実は俺と響と未来が5歳の時に俺は家族で沖繩に行つてたんだ！」

12年前の沖繩の海のシーサー像

5歳の頃の和斗（あつ、ライオンさんだ、ライオンさんだよ、お父さん！）

父（惜しいな和斗、それはライオンじゃなく沖繩の守り神のシーサーだよ！）

5歳の頃の和斗（シーサー?!）

母（そうよ、このシーサー像はね、長年の間に沖繩の海の守る神様の像なのよ！）

そうだ俺は5歳の頃はシーサーをライオンと言つたなー。

?（ねえ、あなた誰?!）

後、俺に声を掛けたあの少女は誰なんだろうな?。

響「それで和斗君は声を掛けた少女と遊んでたよね?!」

和斗「ああ、その後、別れを言おうとするど振り向いたらいなかったんだ！」

すると

響「ん?和斗君?あれつてもしかして?あの子?!」

響が見かけたのは俺が5歳の頃に海で遊んだ少女だった。

和斗「ん?君はまさか?あの時の少女?でも何故ここにいるんだ?!」

?「……!」

少女は俺達の前に消える。

和斗「あの子、何で喋ってくれないんだ? 久しぶりに声を掛けたのに?!」

響「和斗君? シーサー像の口を見て!」

和斗「これはキュータマ? 何でここにキュータマがあるんだ?!」

響はシーサー像に置いてるキュータマに気づき、それを見る。

響「このキュータマのエンブレム、クリスちゃんが纏ったギアが描かれてるよ!」  
すると

?「ハハハハ、カジキキャッチロープ!」

ロープみたいなのがシーサー像に置いてるキュータマをキャッチ。

響「えっ? ネオジャークマター?!」

和斗「お前は一体誰だ?!」

?「ミーはカジキ座系カロアのディープだよ、ユー達はキュウレンジャーとシン  
フォギア装者、これは好都合だエイ!」

カジキの顔をしたネオジャークマターが名を名乗り、キュータマを手にする。

和斗「それをどうするつもりだ?!」

デイーブ「ハハハハ、これはミー達が貰うよ、返して欲しければミーのサーフィングランプリ対決で勝負ヨー！」

響「よーし、だったら勝負だ、相手は私達じゃないよ！」

海のサーフィングランプリ対決

デイーブ「さあ、これを掛けたサーフィングランプリ対決の始まりだヨー！」

ネオインダバー「ドンドンパフパフ！」

クリス「功太、絶対に勝てよ！」

アミ「フアイトー！」

エリ「頑張れ！」

デイーブ「さて、もう一人、参加させるヨー、ユード！」

デイーブは砂浜にいる祐一に指を指し指名する。

祐一「なっ？俺も参加だと？どういうことだ?!」

デイーブ「だって一人じゃつまらないからユーも特別に参加ヨー！」

響「祐一さん、決めひやってください！」

クリス「てっ？お前は何サーターアンダギーを頬張りながら応援してんだ！」

クリス先輩はサーターアンダギーを頬張りながら食ってる響にツツコミをいれる。

バトルオリオンシッププリーフィングルーム

未来「響、恥ずかしい!」

剛「面白いでござす!」

沖縄の海のサーフィングランプリ対決場所

功太「祐一さん、一丁頼むぜ!」

祐一「仕方ない、やってやる!」

祐一と功太はそういつて置いてあるサーフィンを持ち、海で構える。

ディーブ「ハハハハ、さあサーフィングランプリの始まりだー、先ずはミーから行く

ヨー、ネオインダベー、波オーブンヨー!」

ネオインダベー「ダベ、ダベ!」

ネオインダベーは海に設置してある波マシーンを起動し、波が発生。

ディーブ「よっしゃ行くヨー、ビツクウエーブヨー!」

ディーブは波に乗りながらサーフィンをうまく慣れ、落ちずに乗ってた。

ディーブ「まだまだ、ミーのアクロバットサーフィンを見るヨー、バックスピンサー

フ!」

ディーブはさらに波に乗りながら宙返りしながらバックスピンをし、波が止まる。

ディーブ「ハハハハ、決まったヨー、さあ判定はどうだヨー!」

ネオジャークマターが用意した点数マシンでディープの判定を分析、点数は85点だった。

ディープ「ハハハハ、次はユー達だヨー、最高の波を見せてくれヨー！」

功太「よーし、やってやる、行くぜ祐一さん！」

祐一「おい、俺はあんまりサーフィンはやったことがないぞ！」

さあ次は功太と祐一の番だぜ。

ディープ「さあネオインダバー、波オープンヨー！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

さあ波マシーンが起動し、波が再び出る。

功太「よーし、行くぜ祐一さん！」

祐一「えーい、もうどうにもやってやる！」

功太と祐一はサーフィンで波にのってサーフィンを始めるが祐一の動きがなんか変だぞ。

バトルオリオンシッップブリーフィングルーム

切歌「おつ、功太、頑張れデース！」

調「プププ、祐一さんのサーフィンの動きが何だか可笑しくて笑うよ！」

蓮司「プハハハ、祐一はんの動きが変で笑いすぎて腹が痛いぞ！」

蓮司と調はモニターで祐一のサーフィンの動きが可笑しくて笑っていた。

沖縄の海のサーフィングランプリ

祐一「くっ、バイクの運転は慣れてるがサーフィンは初めてであんまり!」

クリス「ププ、祐一、あまり変な動きをすんなよ、しちやつたらあたしも何だか笑ってきたぞ、プハハ!」

功太「祐一さん? くっ、あんまりやったことがサーフィンなら俺のスケボーテクニクならば!」

功太は波に乗りながら宙返りを二回し、祐一は滑ってサーフィンから落ちてしまった。

功太「よっしゃ、終了だ、点数はどうだ?!」

ネオインダバーが点数マシンで判定、点数は二人合わせて68点だった。

功太「なっ? 68点だと? 畜生!」

祐一「すまん、俺が変な動きをしたせいであんまりサーフィンはやったことがないからな!」

ディーブ「ハハハハ、ユー達の負けだヨ、負けたユー達キュウレンジャーはミー達ネオジャークマターの為にバカンスになって働かせるヨ、と思いきや、ユー達二人に



チャンスやるヨ一、次は今日の夕方勝負ヨ一、それまでは昼食や練習で腕を磨くんだヨ一、ハハハハ!

デイープはネオインダバーを連れて海の店に行った。

祐一「くっ!」

クリス「祐一!」

沖縄料理の店

俺達は私服に着替えて昼飯でソーキソバや豚足やゴーヤチャンプルやらを食べながら作戦会議をしていた。

和斗「まさか祐一がサーフィンが初めてとはな!」

アミ「功太君の方はスケボー感覚にやりましたよ!」

エリ「私は運動は得意だけどあんまりサーフィンはやったことがないの!」

響「サーフィンかー、私がやったら下手だよ、すみません、ゴーヤチャンプルひとつ追加お願いします!」

クリス「てっ? おい、まだ食べるのかよ? さつきサーターアンダギーを頬張りながら食ってたろ、それより祐一と功太はどうしたんだ、昼飯食い終わって見かけねえが?!」

和斗「もしかして?!」

一方、沖縄の海

功太と祐一は2人でサーフィン練習をした。

祐一「よっ、うわっ!」

功太「バランス感覚がまだ慣れてないな祐一さん、もうちょいスケボーテクニクのような感覚を感じてやるんだ!」

祐一「こっつ、こうか?!」

功太「よしよし、ちよつとは慣れてきたな、よし対決まで時間がまだあるけどアクロバットサーフィン練習やろうぜ!」

クリス「祐一の奴、真面目にサーフィンやってやがるな!」

アミ「ほんとですね、功太君としっかり頑張っています!」

20分後、俺達は、昼飯を終え祐一と功太の練習してる海に行き、2人の練習を声をかけずに見ていた。

和斗「ん?君はまたあの時の?!」

俺の隣にいるのはさつき見かけたあの時の少女だ。

和斗「心配するな、お前や皆の海や沖縄は俺達が絶対に救うぜ!」

少女「…こく！」

俺は少女の前にしゃがんで頭をさすり、少女はこくつと首を振って口ペタをし、また消える。

数時間後の夕方、沖縄の海のサーフィングランプリ対決場所

ディープ「ハハハハ、逃げずに来たなユー達、さあミーの85点に追いつけるかヨー！」

祐一「俺達を甘く見るな！」

功太「ああ、見せてやるぜ、特訓の成果を！」

祐一と功太はすぐにサーフィンの構えをし、セットする。

ディープ「ハハハ、ユー達の成果は何度やつても同じヨー、波マシーン、オープン！  
ネオインダバーがすぐに波マシーンを起動。

功太「よし行くぜ、祐一さん！」

祐一「ああ、下手だった俺達を見せてやる！」

功太と祐一はすかさず波について行ってサーフィン。

エリ「祐一さん、波についてすごいわ！」

アミ「功太君も同じちゃんについてすごいです！」

クリス「ああ、あいつら、上手くなりやがるな、前の下手な動きよりは！」

ディーブ「ハハハハ、それなら次はこれならどうだヨー!」

ディーブは二人に向けてカジキスピアを発射した。

響「あっ?危ない!」

少女「: : : ?!」

少女は発射したカジキスピアを念力で止め、カジキスピアを破壊した。

ディーブ「ヌヌヌ、ミーの邪魔をしたのは誰ヨー?!」

和斗「祐一達の邪魔はさせねえ!」

セイザチエンジ!

3人「スターチエンジ!」

俺達は変身してディーブと対決。

功太「よし、祐一さん、最後のフィニッシュを決めようぜ!」

祐一「ああ、一気に決めるぞ!」

功太と祐一は最後のフィニッシュにクロスするような動きをし。

2人「行くぜ、フィニッシュ、クロスバックスピン!」

最後に交互にクロスするような動きで波にのってバックスピ宇宙返りをした。

響「あっ、二人のサーフィン終わったよ！」

さあ判定は95点、功太と祐一の勝ちだー。

シシレッド「よっしやラッキー、やったなお前ら！」

ディープ「ヌヌヌ、バカな、ミーのアクロバットサーフィンに勝つとはやるヨー！」

功太「どうだ？ネオジャークマター、これが俺達の特別なサーフィンだ！」  
すると

少女「……はあ！」

少女が光になり、景品になってたキュータマのなかに入り、祐一の所へ飛び出す。

響「えっ？あの女の子？キュータマの中に入ったよ?!」

ディープ「ノー、ミーの景品がユー達に取られたヨー！」

シシレッド「もしかして？祐一、スターチェンジしてみろ?!」

祐一「あっ、ああ、やってみよう！」

イチイバルキュータマ！

セイザチェンジ！

祐一「スターチェンジ！」

祐一は手に入れたイチイバルキュータマを装填し、スターチェンジ、すると、サソリオレンジの体にクリスの装着したギア、イチイバルの腰部部分のパーツとヘッドパーツを装着し最後、2拳銃の赤い銃を手に待ちポーズを決める、その名は。

サソリオレンジ「バレットスター、サソリオレンジイチイバル!」

十郎「なっ? サソリオレンジがクリス君のイチイバルを装着しただと?!」

ステインガー「何なんだ? あのキュータマは?!」

バトルオリオンシップのブリーフィングルームでイチイバルを装着したサソリオレンジに驚く二人。

ディーブ「HEYユー、そんなもので俺に勝てるかヨー?!」

サソリオレンジ「ふっ、お前など乱れ撃ちで終わらせてやる!」

祐一は銃をディーブに向かって構え、宣告を言う。

ディーブ「ハハハ、おっ、ちょうどノイズが現れたからまとめて相手にしてやるヨー、ネオインダバー達は残りのキュウレンジャーを倒すヨー!」

ネオインダバー「ダバ、ダバ!」

シシレッド「よし、功太は響とクリス先輩と一緒に捕まった人達の救出を頼む、ネオ

インダバーは俺とエリとアミでやる！」

功太「よっしゃ、任せてくれ和斗さん、響さん、クリス先輩！」

響「和斗君、お願いね！」

クリス「とにかく頼むぜ！」

功太と響とクリス先輩は捕まった人達の救出に向かう。

シシレッド「よし、行くぞ、アミ、エリ！」

カメレオングリーン「はい！」

ワシピンク「ネオジャークマターを倒してお土産を早く買いに行きましょう、切歌と

調達が楽しみにしてますから！」

サソリオレンジ「ふっ、はっ！」

サソリオレンジイチイバルになった祐一は2拳銃を振りながらノイズとディープの相手をし、激しい動きをする。

ディープ「ハハハ、ユー、やるじゃないか、それならこれならどうだヨー、サーフィンアタッカー！」

ディープはサーフィンを出して祐一に向かってアタックする。

サソリオレンジ「ならばこれでもくらえ!」

祐一はディープの攻撃を避けてすぐに反撃する、腰からミサイルを出しノイズやディープに向けて発射した。

ディープ「えっ?、ノー!」

ギヤラクシー!?

シシレッド「レグルスインパクト!」

カメレオングリーン「ハミリオインパクトです!」

ワシピンク「アルマイルインパクト!」

俺達はキューウエポンの技で残りのネオインダバーを一掃。

シシレッド「よし、モライマーズに攻撃だ!」

ギヤラクシー!

3人「オールスタークラッシュ!」

スーパーギヤラクシー!

俺達はセイザブラスターの技でモライマーズに向けて攻撃し破壊。



ザ??????  
「よし、とどめだ！」

ギヤラクシー！

サソリオレンジ「フルウエポインパクト！」

スーパージヤラクシー！

祐一はガトリングとミサイルを出し、デ IPP に向けて全弾発射し、ビッグモライ  
マーズもろともふきとばした。

デ IPP「ノー、ネオジャークマター、万歳ヨー、ミーのカーニバルにしたかったヨ  
ー！」

ドーン

サソリオレンジ「グッドラック！」

本星のネオジャークマター要塞の研究室

グリズラー「へー、聖遺物キュータマがあるとはやるねあいつら、まあデ IPP は散つ  
たけど、こつちの開発や 0 号の製造はまもなく完了、フフフ！」

グリズラーが製造してるのは和斗達が着けたセイザブラスターの黒色とチャンプ  
そつくりの白いロボ、0 号だった。

渾縄??????  
渾縄の町

一般人「沖縄を救っていただいてありがとう、感謝するよ!」

和斗「良いってことよ、皆の海や沖縄を取り戻しただけで救えて!」

響「皆の分のお土産も買って良かったね、今度は未来を連れていこう!」

和斗「ああ、そうだな!」

クリス「それにしてもさつきお前が変身したイチイバルキュータマ、何なんだよこいつは?!」

祐一「ああ、もしかしたら聖遺物キュータマかもしれないが帰ってステインガー司令と玄十郎司令にこのキュータマの事調べてみよう!」

響「ねえ和斗君?さつきの子は口ペタしたけど何?!」

和斗「ああ、俺にも聞こえたよ、ありがとうとな!」

功太「祐一さん、ありがとな、今日はサーフィンを慣れて!」

祐一「別に今回はお前にも助かったぞ、あつ?!」

ムニユ

祐一は功太の手を触ろうと間違えてクリスの左胸を揉み。

クリス「おい、間違えてあたしの胸を揉むな!」

パチン

クリスは祐一の右のほっぺにビンタした。

祐一「すまんクリス、間違えたー！」

NEWSSTORY!

# スペース15、ゼンカイジャークロス、ここは何処?ゼンカイジャーの世界?前編!

和斗「待てー、未来達が食べようとした柏餅を返せ!」

? 「やなこつた、俺はネオジャーマターのダイカーン、コイノポリインダベー、この柏餅は俺がいただいた!」

5月になり、そう俺と響と小太郎とクリス先輩は皆で食べようとした柏餅をカシワモチインダベーに取られ、追っていた。

コイノポリインダベー「うひよひよ、捕まったら厄介だ、こうなったらグリズラー様がいざというときに使うこれを!」

コイノポリインダベーは中から黒いリモコンみたいな物を出し、スイッチを押すと、異次元の扉が開いた。

コイノポリインダベー「あーばよ、捕まえるものなら捕まえてみな、じゃあな!」

コイノポリインダベーは異次元の扉に入り逃げた。

和斗「くそ、待ちやがれ!」

響「待って和斗君!」

小太郎「待つてよ2人とも！」

クリス「罾かも知らねえのに？あーもう！」

俺達もコイノボリインダバーの後を追つて異次元の扉に入つて扉が閉じた。

未来「和斗君？響?!」

切歌・調「「クリス先輩?!」

セレナ「小太郎さん?!」

異次元の中

響「和斗君？扉が閉じたよ！」

クリス「だから止めようとしたのに勝手に行くんだお前ら！」

和斗「よっしやラツキー、あいつを倒して柏餅を取り返してついでにあのリモコンも手に入れようぜ！」

小太郎「うわっ？何だか巻き込まれるぞ！」

和斗・響・小太郎・クリス「「「うわああああ！」」」

? 「大丈夫ですか? しつかりしてください? 大丈夫ですか?!」

和斗「うっ、うーん、ここは何処?!」

俺は倒れて目を覚ますと。

和斗「うっ、うわああああ? 顔が機械の人間?!」

? 「うわああああ、びっくりするよ君!」

和斗「何だよここは? 一体なんだよここは?!」

? 「ここは人間の世界とキカイトピアの一部が混ぜ合わした新しい地球なんだよここは!」

和斗「新しい地球? てっ? ここは別次元の地球なのか?!」

響「あつ? 和斗君、無事だったの?!」

和斗「あつ、響、ちよつとすみません、響、無事だったんだ? 小太郎とクリス先輩は何処だ?!」

響「私が生きた時はクリスちゃんと小太郎君と離れ離れになったよ!」

和斗「とにかく、コイノボリインダバーを見つけて柏餅を取り返してリモコンゲットしてクリス先輩と小太郎を見つけ帰ろう!」

一方、クリスと小太郎は。

クリス「何だよここは?!」

小太郎「ここって地球だよね?なんか人の形した機械がいるよ!」

小太郎とクリスは駄菓子屋の近くに目覚め、キカイノイドを見て驚き。

クリス「なあ、それよりバカと和斗を探そうぜ、ちよつと駄菓子屋近くで休んでん?

駄菓子喫茶カラフル?!」

小太郎「そうだね、中に入ったら電話してみよう、すみませーん!」

小太郎とクリスが中に入ると。

?「あつ、いらつしやい、カラフルへ!」

クリス「うわああああ?誰だよこの機械は?!」

?「又又又、なんなんすか?君達は?!」

?「やや?見掛けないお顔ですけど?誰ですかあなた達は?!」

?「あれ?君達の着てるジャケットはまさか?!」

一方、和斗と響は

和斗「何処に行ったんだ?コイノポリインダベーは?!」

響「ん?小太郎君から電話だ、もしもし?小太郎?いまどこに?うん、分かった、和斗君にも伝えるね!」

ピッ

和斗「ん?響、電話してどうしたんだ?!

響「小太郎君から電話で今クリスちゃんと一緒にカラフルという駄菓子喫茶で休んでるみたい!」

和斗「よし、それじゃ二人がいるカラフルに合流してあいつを探さないと!」  
すると

コイノポリインダバー「いやーありがとうね心優しいお兄さん、赤いキカイノイドさん、ちよつと俺、道に迷ってしまつて!」

?「大丈夫?よかつたらカラフルでゆっくりする?!

?「ぶつちやけ、キカイノイドでも人間でもないのに宇宙人だな!」

コイノポリインダバーに親切する青年と赤いキカイノイド。

?「これは?世界初、宇宙人に親切する俺達だ!」  
すると

和斗、響「「あー、見つけた!」」

コイノポリインダバー「うわああああ、助けてくれ、この人達は柏餅を奪おうとした



悪者だよ！」

和斗「いやいやお前の方が悪者だ、俺達が食おうとした柏餅を返せ！」

響「ついでにあの黒いリモコンもね！」

セイザチェンジ！

和斗「スターチェンジ！」

俺は変身し響もギアを纏ってコイノボリインダバーを戦い、すると。

？「こら、宇宙人を傷つけるなんて許さない、行こうジュラン！」

？「OKだ介人、お前から悪者は俺達が許さねえ！」

青年と赤いキカイノイドが名前を言い、鳥の顔をした赤い銃を出し、ギアみたいなものを出して装填し、声を叫ぶ。

介人・ジュラン「「チェンジ全開！」」

レバーみたいなものを回しすると。

《45バーン！》

《16バーン！》

赤い銃からサウンドとBGMが流れ2人はノリで踊り、そしてトリガーを引く。

《ババン！ババン！ババン！ババン！ババババーン！》

《ゼエエエンカイザー！》

《ゼンカイイジユラン!》

シシレッド「ん? 誰だよお前らは?!」

? 「秘密のパワー、ゼンカイザー!」

? 「恐竜パワー、ゼンカイイジユラン!」

ゼンカイザー「二人揃って!」

ゼンカイザー・ゼンカイイジユラン「機界戦隊ゼンカイジャー!」

響「えっ? 誰?!」

俺と響がコイノボリインダベーと戦つてるときに介人とジユランという2人が変身した白い戦士と赤い機械の戦士、ゼンカイジャーと名乗り。

ゼンカイザー「全力全開、コイノボリインダベーを助けようジユラン!」

ゼンカイイジユラン「よし今助けるぜ!」

ゼンカイイジユランという奴が赤い剣を持ち、俺と響に向かって振り。

シシレッド「おい、何するんだ? 俺達はアイツを倒して柏餅を取り返すんだ!」

ゼンカイイジユラン「騙されるかよ、お前ら柏餅を奪って二人じめしようとしたな!」

響「私達はそんなことしないよ!」

ゼンカイザー「とにかく大人しくしてもらおうよ!」

ゼンカイザーとゼンカイジュランは俺と響と対決し。

コイノポリインダバー「ラツキー、あいつらが戦つてる隙に逃げよ！」  
すると

? 「逃がすかよ！」

ドン

コイノポリインダバー「あいたー！」

銃弾がコイノポリインダバーに命中した。

? 「ヨホホイ、ヨホホイ、ヨホホイホイ！」

? 「俺は界賊♪逃げる相手は絶対逃さない♪！」

? 「俺は界賊♪お前の持つてるお宝は何だ?♪」

今度は海賊と思わせるコートを織つた青年がダンスと歌を歌いながら現れた。

ゼンカイザー「あつ、ゾックス来たんだ！」

ゾックス「当たり前だ、こいつの持つてるお宝を奪い取るからな！」

ゾックスは35と掛かれたギアを出し、海賊の舵みたいな物に装填、そして。

《回せ!》

ゾックス「チエンジツーカーイ!」

今度は福引きみたいに回しそして。

《ツーカーイザー!》

ゾックスは曲にノリながら踊り、タンバリンの叩いてトリガーを引く。

《ヨーソロー、ツーカーイにレボリユーション!》

響「あれ?今度は金色の海賊?!」

?「界賊のパワー、ヨホホイ、ツーカーイザー!」

コイノポリインダバー「これは渡さないぞ!」

ツーカーイザー「ツーカーイに行くぜ!」

NEWS STORY

スぺース16、ゼンカイジャークロス、ここは何処？ゼンカイジャーの世界？中編！

ツーカーイザー「ツーカーイに行くぜ！」

ツーカーイザーがコイノポリインダバーに向かってパンチやキックし攻撃。

コイノポリインダバー「あいた、何をしやがる、こうなったらくらえ、鯉のぼりミサイル！」

コイノポリインダバーは鯉のぼりから鯉のぼりの形したミサイルをツーカーイザーに向けて発射。

ツーカーイザー「はっ、よっ！」

コイノポリインダバー「なっ？よけただど?!」

ツーカーイザー「くらえ！」

ドドド

コイノポリインダバー「あいたー！」

コイノポリインダバーはツーカーイザーの銃弾に当たり、柏餅が入った布袋と黒いリモ

コンを手から離し。

シシレット「よっしやラツキー、今だ!」

俺はゼンカイジャーと戦ってる隙にダイビングしてその二つをキャッチした。

シシレット「返してもらうぜ俺達の柏餅を!」

コイノポリインダバー「しまった!」

ツーカーイザー「へー、やるな!」

コイノポリインダバー「うぬぬぬぬ、覚えてろよ!」

コイノポリインダバーはこの場から逃げた。

響「やったね和斗君、取り戻して!」

シシレット「ああ、後はカラフルにいるクリス先輩と小太郎と合流して帰ろう!」

俺と響は変身解除してカラフルに向かおうとすると。

ツーカーイザー「おい、ちよつと待て、その前にお前らの奪ったお宝2つを貰おうか?!」

和斗「なっ? 何だよお前!」

ツーカーイザーが俺と響に向かって銃を向け。

? 「兄貴待ったストツプ!」

ツーカーイザー「フリント? カッター? リツキー?!」

今度は海賊の女の子と小さいロボットの赤色と青色が現れた?。

プリント「こいつらをよく見ろよ、コイツらは宇宙戦隊キュウレンジャーだぞ！」  
ゼンカイザー「えっ？キュウレンジャー?!」

ゼンカイザー・ゼンカイジュラン「「ええええええええ？キュウレンジャー?!」」

介人とジュランも驚いてすぐさま変身解除、ゾックスも変身解除した。

ジュラン「おい、良く見たらこの2人キュウレンジャーのジャケツトを着てたぞ介人！」

介人「ホントだ、世界初の先輩戦隊だよ！」

ゾックス「おい、キュウレンジャーに変身する奴は違うぞ、それにその女が違うのに変身したぞ！」

響「私のはシンフォギアというギアを纏ってるの、歌いながらノイズに対抗します！」

介人「あれ？セツちゃん？うん、わかった、2人をカラフルに連れていくよ、じゃ！」  
ピッ

ジュラン「介人？セツちゃんからか?!」

介人「うん、今から2人をカラフルに連れていくよ！」

和斗「カラフル？俺と響もそっちに行こうと思って、仲間がいるから！」

ジュラン「マジかよ？バイセンの仲間もそっちに?!」

響「うん、小太郎君から連絡が入ってゆっくりしてる!」

介人「あつ、自己紹介を教えるよ?俺は五色田介人、ゼンカイジャーのゼンカイザー  
!」

ジュラン「んでもって俺はゼンカイジュランのジュランだ、ヨロシコ!」

介人「そしてこの人達は!」

ゾックス「ゾックス、ゴールドツイカーだ!」

フリント「あたしはフリント、ゴールドツイカー!」

カッター「俺様はカッターと!」

リッキー「リッキーだ!」

介人「ゾックス達は仲間みたいなものだよ、ゾックス達はこう見えて!」

ゾックス「世界海賊、略して界賊だ!」

ジュラン「界賊のあんちゃん達もカラフル寄ってくか?!」

フリント「そうだな、こいつらの仲間が気になるからな!」

介人「決まり、じゃあ案内するよ!」

数分後



介人「ここが俺達の家、駄菓子喫茶のカラフルだよ！」

和斗「へー、案外良い店だなこは！」

ジュラン「おうよ、子供達やスウさん達も寄って楽しんでるぜ！」

ゾックス「俺達もここで飯を食べに行ってるぜ！」

介人「うん、ゾックス達も楽しんでるよ、ただいま、皆！」

？「おかえり介人、ジュラン！」

？「やや？誰ですか？この人達は?!」

？「又又又？もしかして君達の仲間すか?!」

？「もしかしてクリスちゃん達のお仲間?!」

響「ええー？今度は黄色い機械ですピンクの機械と青い機械ー?!」

響が黄色いキカイノイドと眼鏡をかけた青いキカイノイドとピンクのキカイノイドに驚き。

和斗「小太郎？クリス先輩？ここにいたのか？探してたぞ！」

クリス「おお、和斗とバカ、無事だったのか?!」

小太郎「俺達、ここでゆっくりしてるよ！」

介人「紹介するよ、ガオーンとマジーヌとブルーンだよ！」

ガオーン「なんだ、クリスちゃん達の仲間だったんだ、僕はガオーン、介人とジユラ  
ンと同じゼンカイジャーのゼンカイガオーンだよ!」

マジヌ「自分はマジヌです、自分も同じゼンカイジャーのゼンカイマジヌです  
!」

ブルーン「私はブルーンです、ゼンカイジャーのゼンカイブルーンをやっております  
!」

介人「そしてやつちやんとセツちゃん!」

八津出「介人達の知り合いかい?あたしは祖母の八津出だよ!」

セツちゃん「オイラは介人達の友達のセツちゃんチュン、オイラ五色田博士に作られ  
た鳥形ロボットだチュン!」

響「わあかわいい!」

セツちゃん「いやあオイラかわいいといわれて恥ずかしいチュン、君達の着てるジャ  
ケットはまさか?宇宙戦隊キュウレンジャー?!」

ガオーン「えええ?あのキュウレンジャー?!」

和斗「キュウレンジャーというより俺達はキュウレンジャーを受け継いだ戦士達だぜ  
!」

響「そして私とクリスちゃんはS・O・N・G所属のシンフォギアだよ！」

ゾックス「そもそもこいつらがキュウレンジャーだろうか？見ものだぞ！」

ブルーン「教えてください？キュウレンジャーとシンフォギアとはどういう事でしょうか?!」

ジュラン「まあまあ落ち着け界賊のあんちゃんとブルーン、ここは俺に任せておけ、ブルーン、お前も手伝え！」

ブルーン「はい?!」

辺りを暗くし

ガチャン

一部が証明を照らした。

ジュラン「さーて、お前さんらの故郷は何処だ?!」

響「あの地球です！」

ブルーン「では？地球の何処で暮らしてたのですか?!」

和斗「東京に決まってるだろ？俺達は響達と一緒にノイズやネオジャークマターと戦ってる！」

ジュランとブルーンは俺と響に取り調べ風にやっていた。

ジュラン「じゃあーっただけ聞こうか?俺と介人が親切してる宇宙人を襲って理由があるのか?!

和斗「うっ、それは?!」

ブルーン「まあまあ落ち着いて下さい、さあカツ丼とざるそばです、ガオーンが作ったお料理どうぞ!」

介人「なんか刑事物の取り調べ風なったね!」

クリス「何処がだよ!」

フrint「あたしはカツ丼とざるそばは食べたことあるな!」

リッキー「俺はラーメンが好きだぞ!」

カッター「俺様はうどんや天丼、親子丼だぞ!」

ゾックス「へー、面白そうだから、おっさん、俺も取り調べとやらを参加させてもらうぜ!」

介人「ゾックス?!」

ゼンカイジャー世界の東京市街地

コイノポリインダバー「畜生、俺が食べようとした柏餅をアイツのせいで取られた、絶

対に倒す！」

？「おや？そのチミ？もしかしてゼンカイジャーやらを恨んでるのかい?!」

コイノポリインダバー「誰だよアンタは?!」

？「俺の名はホノオワルド、トジテンドのキカイノイドだぜ！」

コイノポリインダバー「トジテンド?!」

数分後、カラフル

ゾックス「なるほどな、つまりお前らの世界でコイノポリインダバーという奴からお前らが食べようとした柏餅を取り返すために介人達がいる世界に来たということか?!」

和斗「ああ、見つけたら介人達が邪魔してたからな！」

介斗「そうだったんだ、疑ってごめんね、俺達つい！」

響「良いんですよそんなことは、もう取り返せましたから後はこれを使って帰りたいですけどなんか壊れて！」

響は介人達にコイノポリインダバーから手に入れた黒いリモコンを置いて見せ。

フリント「あー、それは異次元スイッチリモコン?!」

和斗「これを知ってるのか?!」

セツちゃん「それならオイラが教えるチュン、異次元スイッチリモコンはトジテンドが最初に作った試作品型だチュン、これを使った人は壊れて二度と帰れなくなるチュン！」

響「そんな?それじゃ未来達の所へは帰れないの?!」

介人「大丈夫だよ、セツちゃんが解析して完璧に直してあげるよ！」

フリント「あたしもいるから任せておけ！」

ゾックス「ああフリントの技術ならこんなのチョロいぜ！」

キカイノイド市民「うわあ助けてくれ！」

ジュラン「どうしたんだ?急に走ってきて?!」

一般人「ト、トジテンドと宇宙人が街を荒らしてる！」

介人「よし皆、全力に行こう！」

ジュラン「よし来た！」

ゾックス「フリント、こいつらのために異次元スイッチリモコンの修理を頼むぞ！」

フリント「あいよ、任せとけ兄貴！」

介人達はカラフルを出て現場に行き。

和斗「響、小太郎、クリス先輩、俺達も行くぞ！」

響「うん、行こう、八津出さん、ご飯ありがとうございました、ガオーンの料理、美

味しかったと伝えて下さい！」

クリス「ああ、駄菓子もご馳走してくれてありがとうございます！」

小太郎「よし急げ！」

俺達もカラフルを出て介斗達を追った。

八津出「ありがとね、またいらっしやい！」

セツちゃん「フリント、オイラ達はこれを修理するチュン！」

フリント「よーしやろうぜ！」

東京市街地

コイノボリインダバー「出てきやがれキュウレンジャー、ゼンカイジャー、ツーカー  
ザー！」

ホノオワルド「今日はこいつとコンビを組んで燃やしまくるぜ！」

和斗「コイノボリインダバー、後はあの機械の奴らは誰なんだ?!」

ガオーン「僕が説明するよ、あいつらはトジテンドという悪い奴ら、世界を支配しよ

うと企んでるよ!」

クリス「ということはあいつらがお前らが倒してる奴らか?」

ブルー「はい、トジルギアを使って人々を襲っています!」

マジヌ「何だか今日は燃えてるっす?」

ホノオワルド「ヒヤハハ、ホノオギアを使って今日は街を燃やしまくるぜ!」

コイノポリインダバー「いたぞ、ゼンカイジャー、キュウレンジャー、ツーカー  
!」

ジュラン「テメーら街を燃やして暴れるんじやねえ!」

ホノオワルド「うるせえ、今日はいつのため燃えるぜ、ファイヤー!」

ホノオワルドは腕から火炎放射を出して街を燃やし、コイノポリインダバーは人々を襲う。

キカイノイド市民「助けてくれ!」

子供「怖いよ!」

キカイノイド子供「助けて!」

介人「人々の街を燃やして襲うなんて全開に許さない、みんな行くぞ!」

介人達は赤い鳥の顔をした銃を出し同時にゾックスも赤い舵の銃を出す。



和斗「少し気になることがあるんだけど、その赤い銃はなんだ?！」

介人「教えるよ、これはギアトリンガーという変身アイテムだよ!」

ジュラン「ああ、介人の親父さんとお袋さんが作ったトジテンド対抗の武器だぜ!」

ゾックス「俺のはギアダリンガーだ、フリントが造った武器だぜ!」

和斗「へー、すごいな、俺と小太郎の変身アイテムはセイザブラスター!」

響「私とクリスちゃんはギアペンダントです!」

俺達は介人達に変身アイテムの名前の話をし。

介人「よし今日は世界初、先輩戦隊とのタッグ!」

ブルーン「では、よろしく願います、和斗先輩、小太郎先輩!」

和斗「よつしやラッキー、やろうぜ介人、みんな!」

響「ゾックスさん、今回はよろしく願います!」

ゾックス「しようがねえ、やるか!」

和斗「よし、行こうぜみんな!」

全員「おう!」(はい!)(おいつす!)

まずは介人達の変身だ、介人達の変身アイテム、ギアトリンガーに自分達のセンチ  
ギア装填し。

介人・ジュラン・ガオン・マジヌ・ブルーン「[[[[チェンジ全開!]]]]」

次にレバーを回して。

《45バーン!》

《16バーン!》

《25バーン!》

《29バーン!》

《30バーン!》

BGMが流れノリで回りそしてトリガーを引いた。

《ババン!ババン!ババン!ババン!ババン!ババババン!》

《ゼエエンカイザー!》

《ゼンカアイジュラン!》

《ゼンカアイガオン!》

《ゼンカアイマジンヌ!》

《ゼンカアイブルーン!》

介人達はゼンカイジャーに変身。

ゾックス「次は俺だ、チェンジツーカー!」

ゾックスもギアダリングに自分のセンタイギアを装填しレバーを回し、そして。

《ツーカーイザー!》

曲が流れノリでキレの良いダンスしダリングを叩いてトリガーを引いた。

《ヨーソロー、ツーカーイにレポリユーション!》

ゾックスもツーカーイザーに変身。

和斗「よし、次は俺達だ、行くぜ、小太郎、響、クリスマス先輩!」

小太郎「よし行こう!」

和斗・小太郎「マワースライド!」

シシキユータマ!

コグマキユータマ!

セイザチェンジ!

和斗・小太郎「スターチェンジ!」

俺と小太郎もセイザブラスターで変身、響とクリスマス先輩もギアペンダントを構えて歌って変身。

シシレッド「よし、先ずは俺達からだ!」

シシレッド「スーパースター、シシレッド!」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー!」

響「ガングニール、立花響です!」

クリス「イチイバル、雪音クリス、ちよせー!」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊!」

4人「[[「キュウレンジャー!」]]」

俺達はポーズを決め。

ゼンカイジュラン「おおお、流石はバイセン戦隊だな!」

ゼンカイザー「よし、次は俺達だ!」

ゼンカイザー「秘密のパワー、ゼンカイザー!」

ゼンカイジュラン「恐竜パワー、ゼンカイジュラン!」

ゼンカイガオン「百獣パワー、ゼンカイガオン!」

ゼンカイマジヌ「魔法パワー、ゼンカイマジヌ!」

ゼンカイブルー「轟轟パワー、ゼンカイブルー!」

ゼンカイザー「5人揃って!」

5人「[[[[機界戦隊ゼンカイジャー!]]]]」

介人達もポーズを決め。

ツーカーザー「界賊のパワー、ヨホホイ、ツーカーザー!」

シシレッド「行くぜ、俺達!」

全員「スーパージョー!」

全員カッコ良くポーズを決めた。

NEWS STORY

## スペース17、ゼンカイジャークロス、ここは何処?ゼンカイジャーの世界、後編!

シシレッド「お前らの運、試してもらおうぜ!」

ゼンカイザー「全力全開!」

ツーカーカイ「ツーカーカイに行くぜ!」

俺達は一斉にコイノポリインダベールとホノオワールドに向かつてかかり。

ホノオワールド「行け、クダツク!」

コイノポリインダベール「倒してやる!」

ホノオワールドとコイノポリインダベールもクダツク達と共に同時にかかる。

響「おりや、せい!」

響はクダツクにパンチ。

クリス「くらいやがれ!」

クリス先輩はクダツクに向けて2拳銃のクロスボウを撃ち。

ゼンカイザー「ちよいや、せい!」

ゼンカイジュラン「おりや!」

ゼンカイガオーン「それ！」

ゼンカイブルー「とりゃ！」

介人達もクダツクにパンチや専用武器で攻撃。

ゼンカイマジヌ「炎を何とかしないとつす、ヌヌヌ、マジヌ！」

マジヌは魔法で水を出して炎を消した。

シシレッド「やるな、マジヌ！」

ホノオワルド「おのれ、だがこれならどうだ?!」

ホノオワルドは腕の炎を最大に上げ、街周辺をまた燃やした。

シシレッド「あいつ、また燃やしやがって！」

キカイノイド市民「熱い、助けてくれ！」

一般人「助けてくれ！」

女子「助けてー！」

コグマスカイブルー「助けないと！」

カラフルの地下の研究室

「ゼンカイジャー!」

「了解、ブルーン、皆、俺はゾックスと和斗と小太郎と一緒にコイノボリインダバーをやるからホノオワルドの方お願い!」

「介人はバツクルから23のギアをブルーンに向かって投げ、ブルーンはキャッチ。

「ゼンカイブルーン」了解、こっちは任せてください!」

「シシレッド」響とクリス先輩はジュラン達の援護をしてくれ!」

「響」うん、任せて!」

「ゼンカイブルーン」では行きますよ!」

ブルーンは23と書かれたギアをギアトリンガーに装填しレバーを回し、トリガーを引いた。

《23バァン!》

《ババン!ババン!ババン!ババン!ババババン!》

《ゴゴゴファイブ!》

ゴゴゴファイブのオーラが現れ、ジュラン、ガオン、マジヌ、ブルーンの中に入りすると。

「ゼンカイブルーン」人命救助、及び消火作業を開始します!」



3人「了解！」

ブルーン、ジュラン、ガオン、マジーンはゴーゴーフアイブの武器を持ち、消火や人命救助をする。

響「うわー、ジュランさん達すごいねクリスちゃん！」

クリス「ああ、あたし達も負けてられねえな！」

ホノオワルド「お前らー俺を無視するんじゃねえ、炎フア！」

響「させない！」

ホノオワルド「おえええ！」

響はジュラン達の邪魔をしようとしたホノオワルドの腹を殴り。

クリス「てめーらはこれでもくらえ！」

クダツク「クダツク！」

ホノオワルド「あたたたた！」

クリスも同時にギアのガトリングでホノオワルドとクダツクに乱射攻撃。

ゼンカイジュラン「サンキュー！」

ゼンカイガオン「しっかり！」

ゼンカイマジーン「大丈夫か?!」

ゼンカイブルーン「もう安心ですよ！」

キカイノイド市民「ありがとう！」

子供「ありがとう！」

ガ??????  
ラフルの地下研究室

セツちゃん「救急戦隊ゴーゴーファイブのギアは人命救助をする力だチュン！」

シシレッド「おりゃ！」

ゼンカイザー「ちよわ！」

ツーカーザー「はっ！」

コグマスカイブルー「とりゃ！」

全力・全快・ゼンカイジャーの曲に流れ、和斗と介人とゾックスと小太郎は向こうで  
コイノボリインダバーと対決。

コイノボリインダバー「こいつら、よくも俺が独り占めしようとした柏餅を奪ったな

許さんぞ！」

シシレッド「それはこっちのセリフだ、人の柏餅を奪って介人とジユランを騙して許

さねえ！」

ツークイザー「よし、コイノポリ野郎にはこれでやってやる、来いリッキー！」

ゾックスはバツクルからリツキーの絵が掛かれた青色の19のギアを出してダリングーに装填し直す。

《オーレンジャー！》

エジプト風な曲が流れゾックスは踊り出してトリガーを引いた。

《ヨーソロー、超力にレポリューション！》

ツークイザーにリツキーが入り込み、銀色のオーレンジャーの星のエンブレムの物を纏い、そして。

ツークイザー「超力に熱血オーレ！」

シシレッド「うわあ？キヤラが変わってる?!」

ツークイザー「驚いたか？俺がリツキーのギアを使ったフォーム、その名はオーレフォームだ！」

ゼンカイザー「スゴいだろ？ゾックスはリツキーとカッターの絵が掛かれたギアを使つて変わるんだ！」

？「援護するぞコイノポリインダバー！」

コイノポリインダバー「お前らはなんだ?!」

? 「俺達はトジテンドのクダイター、ホノオワルドの命により助太刀する!」

ツーカーイザー「ちようどいい、相手にしてやる!」

ツーカーイザーはクダイターに向かって駆け、連続パンチやキックをし。

ツーカーイザー「行くぜ、超力右アッパー!」

クダイター「ギャー!」

最後に渾身の右アッパーで決めた。

コグマスカイブルー「スゴいや、ツーカーイザーは!」

シシレッド「やるじゃんか、それじゃ俺も行くぜ!」

ギヤラクシー!

シシレッド「くらえ、レグルスインパクト!」

俺も負けずにキュウソードの必殺技でクダイターを切る。

クダイター「ギャー、ゼンカイジャーでもないのに強い!」

ドーン

ツーカーイザー「次はカッター、行くぞ!」

ツーカーイザーはバックルから33と掛かれた赤いギアを出してダリングガーの青いギ

アを抜いて装填して回す。

《シーンケンジャー!》

和風のような曲が流れそれによって侍の切るように腕を振りながら踊り、トリガーを引いた。

《ヨーソーロー!》

《真剣にレボリユーション!》

ツーカーイザーからリツキーが離れ、カッターが入り込み、赤い侍のようなコートを装備。

ツーカーイザー「クールに侍、シンケンフォーム、いざ参る!」

コグマスカイブルー「今度はクールな侍になったよ?!」

リツキー「へへ、シンケンジャーの力を宿ったカッターが入り込むと兄貴がシンケンフォームになるぜ!」

ツーカーイザー「はあああ!」

シン

コイノポリインダバー「あいた、いて、あいたた!」

シンケンフォームになったゾックスはギアダリングガーを剣になり、素早い動きや剣技でコイノポリインダバーを切り裂く。

コイノポリインダバー「このままやられるか、くらえコイノポリミサイル!」

ツーカーイザー「ふっ、はあ、そりゃ、へいお待ち、コイノポリミサイルの刺身盛り合  
わせだ!」

コイノポリインダバー「お?俺のコイノポリミサイルが刺身にされた?!」  
ゼンカイザー「いいぞ、ゾックスー!」

市街地

ゼンカイジユラン「よし、消火&人命救助完了だぜ!」

ゼンカイガオーン「響ちゃん、クリスちゃん、援護をありがとう助かったよ!」

響「ガオーンさん達もスゴかったですよ!」

クリス「まあ、助かって良かったぜ!」

ゼンカイマジヌ「ありがとうっす、自分達も感謝されて嬉しいっす!」

ゼンカイブルーン「さあ、残りはホノオワールドですよ!」

ホノオワールド「ヒヤハハ、また燃やしてやるぜ!」

ゼンカイマジヌ「今度はさせないっす、ヌヌヌマジヌ!」

マジーンが魔法でホノオワルドの上に大きな給水タンクみたいなものを出し。

ゼンカイジュラン 「ちよいマジかよ?!」

ゼンカイガオーン 「でかすぎるよ?!」

ゼンカイマジーン 「水、発射っす!」

ザー

ホノオワルド 「ヒヤハハ、蒸発してやるぜ、あれ? 出ないぞ!」

ゼンカイブルーン 「むむ、なるほど水を大量に出せば蒸発せずに炎が消えるのか? マ

ジーン流石です!」

ゼンカイジュラン 「よーし、これで心置きなくやれるぜ!」

響 「私達も加勢します!」

ゼンカイガオーン 「よーし行こうか響ちゃん、クリスちゃん!」

ゼンカイブルーン 「ブルーンピッカー!」

ゼンカイマジーン 「マジーンステイック!」

クリス 「くらいやがれ!」

ゼンカイガオーン 「ガオーンクロー、とどめは響ちゃん、ジュラン、決めて!」

響 「ジュランさん!」

ゼンカイジュラン「OK、よし決めるぜ！」

全員ホノオワルドに一齐に攻撃し、響とジュランが武器やパンチで決め、ホノオワルドが倒れ。

ゼンカイジュラン「よっしゃ、響ちゃん、クリスちゃん、最後は俺達に任せろ！」

《バンバーン、ダイゼンカイ!》

4人「[[[ゼンカイファイニッシュバスター!]]]」

ホノオワルド「火をつけるときは回りに気を付けろ！」

ドーン

ゼンカイジュラン「やったぜ、サンキューな二人とも！」

響「えへへ、それでもないですよ〜！」

ツーカーイザー「ふー、はっ！」

ゼンカイザー「ちよわ、せい！」



シシレッド「おりや！」

コグマスカイブルー「どりや！」

コイノポリインダベー「うわああああ！」

ゼンカイザー「ゾックス、あれを使おう！」

ツーカーイザー「ああ、やるか！」

ゾックスはシンケンフォームを解除し、介人と一緒にバツクルから4-1と掛かれたギアを出した。

シシレッド「それって？まさか?!」

ゼンカイザー「うん、和斗君達キュウレンジャーの力が入ったギアだよ！」

介人は俺にキュウレンジャーのギアを見せ、2人はギアトリンガーとギアダリンガーに装填し回してトリガーを引いた。

《4-1バアン！》

《セエエンタイジャー！》

《ババン！ババン！ババン！ババン！ババババン！キュウレンジャー！》

ゼンカイザー「よっしゃラツキー、キュウソードだ！」

シシレッド「一緒に決めようぜ介人！」

ツーカーイザー「俺のはホウオウソードか！」

コグマスカイブルー「ツルギが使った同じ武器だよ!」

コイノポリインダバー「まずい、やられるのか?!」

シシレッド「よし、一気に決めるぞ!」

3人「["おう!"]」

ギヤラクシー!

コグマスカイブルー「先ずは俺からだ、ボラリスインパクト!」

コイノポリインダバー「さっむい、足が凍って動けん!」

ツーカイザー「次は俺だ、ツーカイにフェニックスエンド!」

コイノポリインダバー「熱いい、燃える!」

シシレッド「最後は!」

ゼンカイザー「俺達が全開に決める!」

シシレッド・ゼンカイザー「["ダブルレグルスインパクト!"]」

コイノポリインダバー「最後はダブル主人公にやられたー!」

ドーン

シシレッド・コグマスカイブルー「["グッドラック!"]」

響「和斗君、やったね!」

クリス「それにしても小太郎、金びかの海賊野郎との戦いは良かったな!」

ツーカー「まあな、お前らと一緒に戦っても悪くないな！」

？「まだ終わらなくて、ファイヤーダンスだ！」

響「えっ？何ですかあの大きいロボットは?!」

ゼンカイジュラン「あのロボはトジテンドのキカイノイド、クダイテストだ！」

ホノオワルド「もーえろよ♪もえろーよ♪炎よ燃えろろろ！」

クリス「あつつ、燃えるだろ?!」

ゼンカイブルーン「トジルギアを踏むと力が発揮するのです！」

コイノポリインダバー「控えオロー！」

シシレッド「コイノポリインダバーも巨大化になりやがる、よし、キュウレンオーで  
行くぞ！」

響「和斗君、他の皆はいないよ！」

シシレッド「あー、そうだった！」

ゼンカイジュラン「よし、今度は俺達の番だ、行くぞガオーン！」

ゼンカイガオーン「OK、ジュラン、ギアを裏返してトリガーを引く！」

《ドドンドーン！》

ゼンカイジュラン「機界変形、ジュランティラノ!」

ゼンカイガオーン「ガオーンライオン!」

響「えええ?ジュランさんとガオーンさんが大きくなったよ?!」

ゼンカイザー「これだけじゃないよ、全開合体!」

ガオーンライオン「さあ、クリスちゃんと響ちゃんの前でカッコ良く決めるよ!」

ジュランティラノ「おうよ、やってやるぜ!」

《ガッシーン!》

《ゼンカイジュラン!》

《ゼンカイガオーン!》

?「ゼンカイオー、ジュラガオーン!」

シシレッド「スゲー、2人合体してロボになった?!」

ゼンカイザー「行ってきまーす!」

ヒュン

響「えっ?介人さん?!」

ゼンカイオージュラガオーンのコックピットの中

ゼンカイザー「よし行こうジュラン、ガオーン!」

ゼンカイオー ジュラガオン 「おう、行こうぜ！」

ツーカーザー 「よし、こっちも行くぜ、カッター、リッキー！」

カッター 「よっしゃ！」

リッキー 「行こうぜ兄貴！」

響 「えっ？今度は空からワニの船?！」

ツーカーザー 「俺達ゴールドツイカーの船、クロコダイオーだ、よっと！」

クロコダイオーの中

ツーカーザー 「よしリッキー、行くぞ！」

リッキー 「おうよ、任せとけよ兄貴！」

《回せ！》

ツーカーザー 「界賊合体！」

クロコダイオーがリッキーを飲み込み、ロボに変形し、ボディは銀色のオーレンジャーのエンブレムに回し、カッターの頭にガトリングみたいなのを付け、右部分に付け最後にスフィンクスみたいな顔になる、これが。

《ツーカーオーリッキー！》

クリス「はあ?今度はワニの船が小さいあいつらと合体してロボになった?!

ツーカーイザー「行くぜ、リッキー!」

ツーカーイオーリッキー「あいよ、兄貴!」

コイノポリインダバー「来い、俺達のコンピを見せてやる!」

ホノオワルド「くらえ、メラメラミサイル!」

ゼンカイオーージュラガオーン(ジユラン)「そんなもん、俺達の剣で切り裂いてやるぜ!」

ゼンカイオーージュラガオーンがジユランソードでホノオワルドのメラメラミサイルを切り、すると。

ゼンカイオーージュラガオーン(ジユラン)「うわっ?あっちい、火の粉が入ってやがるぞ!」

ゼンカイオーージュラガオーン(ガオーン)「熱い、熱いよこれ!」

コイノポリインダバー「次は俺だ、コイノポリミサイル発射!」

ツーカーイザー「リツキー、ミサイルを飲み込め！」

ツーカーイオーリツキー「任せとけ兄貴！」

パクつと！

ゴックン

コイノポリインダバー「お？俺のコイノポリミサイルを食べやがった?!」

ツーカーイザー「生臭い味がするよな！」

ツーカーイオーリツキー「焼いたり刺身にして食べたい！」

ホノオワルド「だったらお望み通りに焼いてやるぜ、くらえメラメラミサイル！」

ゼンカイザー「ゾックス、気を付けて火の粉が出るよ！」

シシレッド「それなら俺達も援護するぜ！」

セイザゴー！

シシボイジャー！

クマボイジャー！

ドドドドド

俺と小太郎はキュウボイジャーを使ってメラメラミサイルを撃ち落とすとした。

ゼンカイザー「和斗君達ありがとう！」

ツーカーイザー「サンキュー、助かったぜ、これでもくらえ!」

ドドドドド

ホノオワルド・コイノボリインダベー「あたたたたたたた!」

ゼンカイマジヌ「ブルーン、自分達も行くっす!」

ゼンカイブルーン「ええ、こっちも負けてはいられません!」

ブルーンとマジヌもギアトリンガーを使って巨大化して変形。

ゼンカイマジヌ「機界変形、マジヌドラゴン!」

ゼンカイブルーン「機界変形、ブルーンダンプ!」

ゼンカイザー「よし、マジヌ、ブルーンと全開合体だ!」

《ゼンカーイ!》

ブルーンダンプ「今日の私達は真面目です!」

マジヌドラゴン「ファイトっす自分達!」

《ガツシーン!》

ヒュン

響「えっ?ここまさか?!」

シシレッド「えー?響が乗ってるー?!」



《ゼンカイマジーンヌ!》

《ゼンカイブルーン!》

? 「ゼンカイオー、ブルマジーン!」

ゼンカイザー「えー? 響ちゃんが乗ってる?!」

ゼンカイオージュラガオーン(ジュラン)「こりや驚いたぜ!」

ツーカーイザー「へー案外面白そうだな、次はカッター、行くぞ!」

《回せ!》

ツーカーイオーの上半身が回って変形、すると左腕の方にリツキーを着けた刀の形の剣に胸の炎の文字に顔の赤い兜のモチーフ。

《ツーカーイオーカッター!》

クリス「バカがあれの中にいるのと今度は上半身回して変わったぞ?!」

ゼンカイオーブルマジーン(ブルーン)「響さん、しっかり捕まって下さいね!」

ゼンカイザー「よし行くぞ皆!」

ホノオワルド「よし、コイノポリインダベー、ダブルミサイルで行くぞ!」

コイノポリインダベー「よし、行くぞ!」

2人「ダブルミサイル!」

ツーカーイザー「おっと、そのミサイルは!」

ツーカーイオーカッター「俺と兄貴に任せろ!」

ツーカーイオーカッターは高速で2人が放ったミサイルを切り刻んだ。

ホノオワルド「なっ?俺達のダブルミサイルがー?!」

コイノポリインダバー「ならばこれでもくらえ、カプトブーメラン!」

ゼンカイオーブルマジーン(マジーン)「それなら跳ね返しつす、ヌヌヌマジーン!」  
防御いたしまーす&響パンチ

コイノポリインダバー「あいて!」

ゼンカイオーブルマジーンは魔法でコイノポリインダバーの攻撃を防御し反撃で響のパンチで吹き飛んだ。

シシレッド「案外マジーンの魔法で響のパンチが出てきたとは!」

響「えへへ、私も少し手伝いました!」

ホノオワルド「ちくしょう、ファイヤーダンスで倒してやる!」

ゼンカイザー「そんなファイヤーダンスは皆に迷惑だ、トドメ全開！」

ゼンカイオージュラガオン「ジュランソード円月スラッシュ！」

ゼンカイオーブルマジン「ブルーンピッカーアクセルストライク！」

ツーカーイザー「カッター刀、烈火大斬！」

シシレッド、コグマスカイブルー「ダブルボイジャー、メテオブレイク！」

スーパージョウラクスー！

俺達全員は必殺を決める。

コイノポリインダベ「ちくしょう、今日でお前とのコンビは解散だー！」

ホノオワルド「トジテンドキャンプファイヤーがやりたかったー！」

ドーン

ゼンカイザー「世界全開、オールOK！」

ツーカーイザー「ヨホホイ！」

シシレッド、コグマスカイブルー「地球は俺達を守る！」

和斗「ありがとな、コイノポリインダベと一緒に倒して！」

介人「いいんだよ、こちらこそ、トジテンドを倒してありがとう！」

ジユラン「しっかし驚いたぜ、介人と和斗、案外いいコンビになりそうだな!」

フリント「ほれ、和斗、忘れ物だぞ!」

フリントは俺に柏餅の入った布袋と異次元スイッチリモコンを渡し。

響「ありがとうございますフリントさん!」

フリント「良いつてことよ、完璧に直しておいたぞ!」

ゾックス「もう一つ、お前らにやるよ!」

ゾックスは俺にキュータマを渡す、絵を見ると響の纏ったガングニールが描かれた

キュータマだった。

和斗「えええええ?これって聖遺物キュータマ?何でお前が持つてるんだ?!」

リツキー「宇宙ワールドに行ったときに兄貴が見つけて手に入れたんだ!」

ゾックス「まっ、俺には似合わないけどお前らが使ってくれ!」

和斗「よっしゃラツキー、ありがとなゾックス!」

ガオーン「あとこれ、和斗君達にプレゼントの駄菓子詰め合わせセットだよ、皆で食べてね!」

響「わあ、ありがとうございますガオーンさん!」

ブルーン「あの、すみません、元の世界に帰る前にサインを貰ってもいいですか?!」

マジヌ「後、皆さんで写真を撮ってもいいつつか?!」

和斗「ああ、良いぜ、その代わりにお前らのサインと交換な!」

俺と響とクリス先輩と小太郎はブルーン達に色紙にサインをし、介人達もサインをし  
て交換し、集合写真を撮った。

ブルーン「ありがとうございます、大事にしておきます!」

クリス「ああ、ゾックス、お前もサインをありがとな、後輩たちにも書いてくれて!」  
ゾックス「気にすんな、礼だ!」

介人「またいつか来てね!」

和斗「ああ、今度は未来を連れてくるぜ、お前らもたまには遊びに来いよ!」

響「翼さんとマリアさんと奏さんのCDも買ってみたい、トップアーティストで  
すよ!」

ジュラン「マジかよ?じゃあ来たら買ってみるか!」

小太郎「和斗、そろそろ帰ろうか?!」

和斗「おっと、そうだな!」

ポチ

ボタンを押して異次元の扉が開き。

和斗「じゃあな、介人、皆、楽しかったぜ!」

介人「ああ、俺達もすごく楽しかったよ！」

ゾックス「たまには俺達も来るぞ！」

クリス「ああ、後輩たちにも紹介するぞ、お前らの事！」

介人「よっしやラッキーに！」

和斗「全力全開に！」

俺は介人と握手をし、小太郎とクリス先輩と響と異次元の扉の中には入り、扉が閉じた。

ジュラン「行っちゃったな、あいつら！」

フリント「なーに、今度はあたし達が行こうぜ、ほら介人達にもプレゼントだ！」

フリントが介人達に渡したものは和斗達が持つてる同じ異次元スイッチリモコンだった。

ブルーイン「やや?いつの間に?!」

フリント「セツちゃんと修理してる時に同じものを製造したんだ！」

ゾックス「フリントの才能は良いもんだぜ！」

介人「ありがとうフリント、じゃあ今日はゾックス達も夕御飯食べに来てよ、ガオーンが作った料理沢山出すよ！」

ゾックス「ああ、サンキュー！」

NEWSSTORY

## スペース18、誕生、和斗達専用のバイク!

俺達がゼンカイジャーの世界に行ってから1ヶ月が過ぎ6月になり、季節は夏になりかけていた。

リディアン音楽院の校門

リディアン女子「今日の課題てさやった?!」

響「クーリスちゃん、あいた!」

和斗「うわー、大丈夫か? 響?!」

クリス「あたしは年上で学校では先輩、こいつらの前で示しがつかないだろ!」

未来「おはよう調ちゃん、切歌ちゃん、セレナちゃん!」

セレナ「おはようございます、和斗さん、響さん、未来さん!」

調「おはようございます!」

切歌「ごきげんようデース!」

未来「暑いのに相変わらずね!」

和斗「ん?!」

響「やー、暑いのに相変わらず手を握ってるねー!」



切歌「いやー、それがですね調の手がひんやりしててつい繋ぎたくなるんデスよー！」  
調「そういう切ちゃんのおぷにとした体もひんやりしてて癖になる！」

未来「それ、本当なの?!」  
ぷに

未来はすぐさま響の左腕を軽くぷにとし。

和斗「じゃあ俺も！」

ぷに

響「いやー二人ともやめてやめてやめてー！」

クリス「うぬぬぬぬ！」

クリス先輩は顔が真っ赤になり。

バコン

響「うわっ?!」

クリス「そういう事は家でやれ！」

リディアン音楽院プール

俺達2年生は授業でプールに泳いでた。

創世「それでさ進路相談は誰が来るの?!」

詩織「私の方はお父さんが来ます!」

弓美「私の方はお母さんが来るのよ、やだなー!」

和斗「響の方は誰が来るんだ?!」

響「私の方はお父さんはいないけどお母さんが仕事でおばあちゃんが来るんだ!」

未来「うちも同じよ、和斗君の方は誰が来るの?!」

和斗「俺の方は母さんが来るけど、実は俺と小太郎達は学校が終わったら宇宙に行かなくちゃ行けないんだ!」

詩織「どうしてですか?!」

和斗「実はステインガーさんからオウシ座系惑星ダカオのリベリオン生産工場でシヨウ総司令に会いに行くんだ!」

創世「キュウレンジャーも大変なんだね!」

弓美「流石はヒーローだね!」

響「いいなー、和斗君達は宇宙に行けて、私達も行きたかったな!」

和斗「まあ進路相談には帰ってくるから心配するなよ、先生にはなるべく早く言ったから!」

小太郎「ああ、1ヶ月間、全国に設置してあるモライマーズを破壊してネオジャーク

マターも何か対策してくるかもしれないよ！」

和斗「ああ、それに手に入れた聖遺物キュータマの事も調べないといけないからな！」  
未来「あまり無茶はしないでね和斗君、小太郎君！」

小太郎「大丈夫だよ、皆がいるから！」

響「よし今日は和斗君達の分まで翼さん達のライブを見るぞー！」

小太郎「そういえば今日は翼さんと奏さんとマリアさんのライブだったね！」

未来「和斗君達の方はバトルオリオンシップで見るの?!」

和斗「ああ、リベリオン生産工場にもモニターがあるから念のため家に録画もした  
ぜー！」

創世「やること早いよ、カツズーは！」

和斗「そりや俺だつて見てみたいんだよ、3人のライブは！」

響「和斗君はスゴいね、さて和斗君、一緒に泳ごう、未来も一緒に！」

和斗「ああ、今行くぜ、じゃあ俺と未来は泳いでくるぜ！」

未来「待つてよ2人とも！」

創世「元気だな2人とも！」

詩織「そうですね、よっしやラッキーな感じですよ！」

リディアン教室2年A組

響「ぐくかぐくかぐく!」

響は自分の席でいびきをかいて寝ていた。

先生「で?夜のお楽しみみの為に寝て、私の授業がそんなにつまらないのですか?立花さん、起きなさい、授業中ですよ!」

未来「はあく!」

和斗「あいつ、頑張りすぎて寝たな!」

夕方、獅子野家の2階の和斗の部屋

和斗「よし、荷物の準備万端、行くか!」

俺は学校が終わって部屋で私服に着替えて隊員ジャケットを纏い宇宙に行く軽い荷物の準備をして階段を降りて家を出る。

ガチャ

母「和斗、気を付けてね!」

和斗「ああ、ちゃんとステインガーさんの言うことを聞いて気を付けるよ！」

母「あまり無茶はしないでね！」

和斗「わかつてるよ、進路相談には帰ってくるから、じゃあ行ってくる、親父には伝えてくれ！」

母「行つてらっしゃい！」

バタン

S・O・N・G 潜水艦基地の止めた場所

和斗「あれ？響？未来？皆、来てたんだ?！」

響「和斗君達が宇宙に行くから見送りに来たよ！」

クリス「ああ、お前らが宇宙に行つてる間はあたしとバカが地球や未来達を守つてやるからな！」

祐一「クリス、ありがとう、無理はするなよ！」

切歌「アミ、功太、気を付けるデース！」

功太「おうよ、ありがとな切歌！」

アミ「頑張つてくるね切歌ちゃん！」

調「エリも蓮司もセレナ達も頑張つて！」

エリ「うん、調達もクリス先輩達の言うことちゃんと聞いてね!」  
蓮司「さーて、どんな物製造してるか楽しみや!」

セレナ「バトルオリオンシップのお料理担当は私がやります!」

壮汰「ああ、セレナの料理は少し腕が上がってるからな!」

剛「おいどんは味は気にしないでござすよ!」

玄十郎「ステインガー君、地球の事は俺達S・O・N・Gに任せてくれ!」

ステインガー「ああ、用事がすませたら戻ってくるぞ!」

藤高「リベリオン生産工場と宇宙カー、俺も行きたかったな!」

友里「仕方がないでしょ、ステインガーさん達は用事で行くわよ!」

ステインガー「よし、皆そろそろバトルオリオンシップに入るぞ!」

全員はバトルオリオンシップの中に入り。

響「待って和斗君!」

和斗「ん? えっ?!」

響と未来が俺を抱いて両方のほっぺにキスをした。

和斗「響、未来!」

未来「和斗君、無事に帰ってきてね!」

和斗「ああ、帰ってくるさ必ず、じゃあ行ってくるよ二人とも！」

小太郎「和斗、そろそろ入るぞ！」

和斗「ああ、すぐ行く、じゃあ！」

響「行つてらっしゃい、和斗君！」

和斗「ああ、行ってくる！」

俺も響達と別れてバトルオリオンシップの中に入った。

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ラフタ「全員揃いましたか?！」

小太郎「ああ、発進できるよラフタ！」

ステインガー「よしバトルオリオンシップ発進！」

ラフタ「オツキュウ、目標、オウシ座系惑星ダカオ、起動します！」

バトルオリオンシップが浮上して宇宙へ向かって飛んだ。

未来「和斗君、必ず帰ってきてね！」

響「大丈夫だよ未来、きっと帰ってくるよ、弓美ちゃん達を連れてさあ翼さん達のライプを見よう！」

一方、チフオージュ・シャトー

キャロル「ほー、キュウレンジャー達が宇宙に行ったか?!

グリズラー「ああ、オウシ座系惑星ダカオに行ったみたいだよ!

キャロル「ならば、こつちもそろそろ動き出すとしよう!」

グリズラー「オートスコアラーを出すのか?!

キャロル「ああ、ガリイとミカはここに待機させて俺とファラとレイアが街を襲撃する、アルカノイズも増援に出すぞ!」

グリズラー「ならこつちはオウシ座系ロボの0号の製造がちょうど完了と例の物も出すよ!」

キャロル「惑星ダカオに襲撃に行くのか?!

グリズラー「リブラーンと一緒にリベリオン生産工場の襲撃に、ちょうどこいつらの実戦を試すときが来たよ、ククク!」

宇宙

バトルオリオンシッププブリーフィングルーム

セレナ「わあ、ここが宇宙ですか?なんだか綺麗ですね!」

ステインガー「ああ、ジャークマターが全ての惑星が制圧した頃、俺達は宇宙や惑星



を救うために戦ってたぞ！」

ラフタ「今は88の星座の惑星も復興が終わって平和になりましたよ！」

小太郎「うん、ネオジャークマターがまた地球襲撃するからね！」

アミ「そのために私達がいいます、和斗さん？何を撮ってるのですか?!」

和斗「ん？ああ、宇宙の写真を撮ってるんだ、後で響と未来に送るんだぜ！」

祐一「奇遇だな、実は俺もクリスに後で送るぞ！」

功太「俺も蓮司達も写真を撮ってるぜ！」

アミ「そうなんだ、じゃあ私も写真を撮って切歌ちゃんに送ろう！」

アミもスマホを出してすぐに宇宙の写真を撮る。

セレナ「皆さん、やることちよつと早すぎです！」

壮汰「そうだね！」

剛「おいどんなんか直ぐ様写真を撮って鹿児島にいる両親とニャンコロ星人の友達に

LINEで送るでござすよ！」

エリ「私なんかハミイ先生に送ってるわ！」

小太郎「そうなんだ！」

ラフタ「皆さん、そろそろ惑星ダカオに着きます！」

惑星ダカオ

リベリオン生産工場

工場事務「シヨウ総司令、バトルオリオンシップが到着しました!」

シヨウ・ロンポー「よし、私が行こう、彼らに自己紹介しないといけないからね!」

工場事務「わかりました!」

和斗「うわー、ここが惑星ダカオのリベリオン生産工場なのか?!」

ステインガー「ああ、ここではセイザブラスターやキュータマの大量生産してるぞ!」

小太郎「あつ、シヨウ総司令!」

シヨウ・ロンポー「おおー小太郎、ステインガー、ラフタ久しぶり!」

ラフタ「お久しぶりです、総司令!」

アミ「えっ?ドラゴンですか?!」

功太「なんかカッコいいな!」

シヨウ・ロンポー「あはは、ありがとう、君達に会うのは初めましてかな?ボクチン

はシヨウ・ロンポー、リベリオンの総司令だ!」

シヨウ総司令が俺達に自己紹介し。

セレナ「初めまして、私はセレナ。カデンツアヴナ。イヴです!」

シヨウ・ロンポー「よろしくねセレナちゃん、さあ皆、リベリオン生産工場の製造を案内しよう、工場長、案内をよろしく！」

リベリオン工場長「わかりました、では中を案内します、皆さんついてきてください！」

蓮司「おつしや、製造を見れるのが楽しみや！」

ラフタ「おほん、あまりはしやがないで下さいね、皆さんの作業の邪魔は迷惑ですので！」

シヨウ・ロンポー「まあまあラフタ、楽しく行こう、真面目すぎは良くないよ！」

リベリオン生産工場の中

蓮司「わあ、すげーやここ、製造する機械がいっぱいあるで！」

シヨウ・ロンポー「あはは、スゴいだろ？ここは？ここでは色々な物を製造してるよ！」

功太「ん？あそこで製造してるのは何だ?！」

工場長「あそこに製造してるのはネオキュータマの製造です、ネオキュータマは全惑星の復興に役立てる物でございます！」

壮汰「へー、復興に役立てる物を作るなんてスゲーな！」

工場長「ありがとうございます、では次はキュータマ保管庫を案内します!」

キュータマ保管庫

和斗「ここって? キュータマがいっぱいあるぞ?!」

工場長「ここはエンプティキュータマの保管庫、ここではエンプティキュータマを多数に保管してあります!」

剛「左の方は何でござす?!」

工場長「左の方はキュータマの製造庫、ここには作業員が製造していたキュータマを嚴重に保管する倉庫でございます!」

エリ「スゴいですねここ、多数にキュータマがあるなんて!」

工場長「ではお次は開発部へ案内します、ついてきてください!」  
リベリオン開発部

アミ「あれ? セイザブラスターやキュウソードやキュウクロスボウが開発してます?!」

工場長「ここ開発部ではセイザブラスターやキュウウエポンの量産の製造や開発をしております!」

セレナ「これは？セイザブラスター？でも私達の色とは違いますこれ?!」  
セレナは手に持つてる色が違うグレーのセイザブラスターに気付き。

工場長「それは量産型セイザブラスター、キュウレンジャー候補生専用のセイザブラスターです！」

和斗「へー、ちなみに候補生は何で変身するんだ?!」

工場長「もちろん、シシからワシまでのエンプティキュータマを使って変身します！」  
シヨウ・ロンポー「工場長、量産型セイザブラスターとキュウウエポンの製造はどうなったのかね?!」

工場長「今のところは順調でございます、完成してリベリオン北海道本部や神奈川、埼玉、全国の本部に輸送しております、今リベリオンの実験場で確認しております、皆様もご案内いたします！」

リベリオン実験場

シヨウ・ロンポー「さあ、ここが実験場だよ、今から量産型セイザブラスターの実験テストを始めるよ！」

シシキュータマ！

セイザチエンジ!

テスト員「スターチエンジ!」

セレナ「わあ、シシレッドに変身しました、けど本当に色がグレーですよ!」

工場長「一般の変身はエンプティキュータマを使つての姿です!」

小太郎「すごいよ、リベリオン生産工場長は!」

和斗「工場長、これ分析できるか?!」

俺は工場長に2つの聖遺物キュータマを見せ。

工場長「やや? 何ですかこのキュータマは?!」

祐一「沖縄で手に入れた最初の聖遺物キュータマのイチイバルと!」

小太郎「俺達がゼンカイジャーの世界に手に入れたガングニールキュータマなんだ  
!」

シヨウ・ロンポー「んー、そうだな、これは分析室で調べよう、その前に和斗君と祐  
一君と小太郎にプレゼントだ、ついてこい!」

リベリオン生産工場のマシン庫

ステインガー「総司令、3人にプレゼントとは一体何だ?!」

シヨウ・ロンポー「フフフ、今から見せるぞ、ラフタ照明を頼む！」  
ラフタ「了解です！」

ガチャ

照明が明るくなって俺達が見えたのは赤いライオンのバイクとオレンジのさそりのバイクと水色のクマのバイクだった。

和斗「シヨウ総司令、このバイクはなんだ?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、教えよう、この3台のバイクの名はシシストライカーとサソリストライカーとクマストライカー、君達専用のバイクだ！」

小太郎「うわー、すごいよこれ！」

工場長「私が説明しましょう、この3台のバイクはあなたが倒したノイズのデータを解析してシヨウ総司令が設計して開発しました！」

和斗「よっしゃラッキー、でも俺と小太郎は免許なんて持ってないぞ?!」

シヨウ・ロンポー「それならシミュレーションバイクルームなら免許はとれるよ、受けてみるか?!」

和斗「よーし、受けてやるぜ！」

小太郎「やってみるよ！」

ステインガー「よく言ったな2人とも、工場長、すぐに開始してくれ!」

工場長「わかりました、ステインガー指令、聖遺物キュータマの分析の方は?!」

ラフタ「それなら私が分析室に行つてすぐに解析してみます!」

シヨウ・ロンポー「うむ、頼むぞラフタ、さあ2人とも行こうか!」

ステインガー「祐一は俺と一緒にサソリストライカーの試運転に行くぞ!」

祐一「ああ、ステインガー指令!」

リベリオン生産工場の食堂

セレナ「皆さん、お待たせしましたセレナとアミとエリ特製の天ぷらそばです!」

功太「うひょー旨そうだな、どうやって調理したんだ?!」

セレナ「食堂のおば様から厨房をお借りして3人で分担で作りました!」

壮汰「そういえば和斗兄貴と小太郎兄貴と祐一さんは何処に行つたんだ?!」

アミ「和斗さんと小太郎さんはシヨウ総司令と一緒にシミュレーションバイクルーム

で免許獲得の練習で祐一さんならステインガー指令と一緒に試運転をしてるよ!」

エリ「和斗さんのスマホはセレナが預かってる!」

セレナ「はい、和斗さんに頼んで響さんと未来さんのLINEに写真を送りました!」



一方、地球、東京、S. O. N. Gのマンションのクリスの部屋

響達はクリスの部屋で弓美達3人と一緒にテレビで翼と奏とマリアさんのイギリスライブを見ていた。

響「翼さんと奏さんとマリアの歌うデュエット曲はすごいね！」

クリス「ああ、先輩の夢が叶えて良かったな！」

未来「ん？和斗君からLINEが来てる！」

響「ん？どれ未来、見せて！」

響達は未来のスマホのLINE写真を見た。

切歌「宇宙の写真は綺麗デース！」

調「切ちゃん、セイザブラスターの生産してるよ！」

クリス「キュータマの製造もしてるな！」

響「いいなく和斗君達は宇宙に行けて、私達も行きたいよ〜！」

未来「ふふ：響、今度は和斗君にお願いして一緒に宇宙に行こう！」

一方、リベリオン実験場のシミュレーションバイクルーム

和斗「ふう、大分なれてきたけどテクニクは少し難しいな!」

ショウ・ロンポー「それでもまあ、良くなったよ合格だよ!」

工場長「合格です、免許獲得でございます!」

和斗「よつしやラッキー、これで俺もバイクに乗れるぜ!」

小太郎「ふう、俺の方はギリギリだったけど慣れるまでの辛抱だよ!」

ショウ・ロンポー「うーん、確かにギリギリだけど小太郎は一応合格だよ!」

小太郎「よし、慣れるまでもっと頑張るぞ俺!」

和斗「あれ? 面白いえば祐一はどうした?!

ショウ・ロンポー「ああ祐一君ならステインガーと一緒に人足先にリベリオン練習場

でサソリストライカカーの試運転に行ってるよ!」

和斗「面白いえば祐一は高校1年からバイクの免許をとってたからな!」

小太郎「楽しみだな、俺達のバイクは!」

ショウ・ロンポー「よかったね君達、実は2人のバイクのデータアップデータがあつ

て少し時間がかかるよ!」

ドーン

突然の爆発音がなり

和斗「なんだ？爆発音が聞こえたぞ?!」

シヨウ・ロンポー「工場長、モニターを！」

工場長「わかりました！」

ピッ

俺達はモニターを見ると生産工場と実験場でグリズラーとリブラーンと白い牛のロボットが襲撃してきた。

小太郎「あいつらはグリズラーとリブラーン、あの2体はまさか?!」

シヨウ・ロンポー「チャンプに似たジャークマターのロボット兵器0号だ！」

和斗「知ってるのか？あの白いロボを?!」

小太郎「ああ、7年前の秋にジャークマターが製造したロボットなんだ！」

シヨウ・ロンポー「だがなぜネオジャークマターが0号を製造したんだ?!」

和斗「よし出撃だ小太郎！」

小太郎「また駄目だよ、アップデートがまだ少しかかるよ！」

シヨウ・ロンポー「よし、ラフタ、ステインガー、他の皆に出撃要請を頼む！」

リベリオン生産工場、実験場の外

リブラーン「0号を2体使ってリベリオン生産工場と実験場を襲撃するとはどうやっ

て製造したんだ?!

グリズラー「ああ、ジャークマターが残した0号の設計データを解析して大量生産したんだよ!」

オオカミブルー「ここは破壊させないぞネオジャークマター!」

リブラーン「来たかキュウレンジャー、待ちかねたぞ!」

グリズラー「今日はこいつらだけじゃなく彼らも相手にしてやるよ、出てきて!」

壮汰達の前に黒服を来た5人の少年と少女が現れ。

ヘビツカイシルバー「なっ?なんだあいつらは?!」

カジキイエロー「あの人達は?まさか?!」

テンビンゴールド「あれは?セイザブラスター?でも色が黒いで?!」

蓮司は黒服の5人のセイザブラスターに気付き。

? 「よし、行くぞ!」

5人「[[[[マワースライド!]]]]」

シシキユータマ!

オオカミキユータマ!

カジキキユータマ!

カメレオンキュータマ!

ワシキュータマ!

ダークチエンジ!

5人「[[[[ダークチエンジ!]]]]」

黒服の5人が変身の掛け声をし、トリガーを引いてチエンジ、するとシシレッドやおカミブルーやカジキイエローやワシピンクやカメレオングリーン<sup>の黒に変身した。</sup>

カメレオングリーン「あれ?私そっくり?!」

ワシピンク「でも?色が黒いわ?!」

オウシブラック「どういうことでごわす?!」

グリズラー「ククク、これも僕が設計して五つ製造したんだ、ダークセイザブラスターを!」

? 「[ダークスター、ダークシシレッド!」

? 「[デビルスター、ダークオオカミブルー!」

? 「[ファントムスター、ダークカメレオングリーン!」

? 「[カオススター、ダークワシピンク!」

? 「[マッドスター、ダークカジキイエロー!」

ダークシシレッド「闇の救世主、邪悪戦隊!」

5人「[[[[ダークキュウレンジャー!]]]]」

ヘビツカイシルバー「なっ?ダークキュウレンジャーだと?!」

ダークシシレッド「お前らの悪運、試してもらうぜ!」

オオカミブルー「望むところだ!」

リベリオン生産工場のバイク庫

シヨウ・ロンポー「何?今度はダークキュウレンジャーだと?!」

ラフタ「はい、セレナからの報告によるとダークキュウレンジャーが5人現れました

!」

ピー

工場長「総司令、2台のアップデートが完了しました!」

シヨウ・ロンポー「よし、今から出撃するぞ、ステインガー、祐一君の方はどうした

?!」

ステインガー「すでに変身してスタンバイしている!」

シヨウ・ロンポー「よし、和斗君、小太郎、バイクの初陣だけどやってみるかね?!」

和斗「ああ、もちろんそのつもりだぜ総司令!」

小太郎「俺も和斗と同じ気持ちだよ！」  
シヨウ・ロンポー「よし、では行こうか！」

リベリオン生産工場と実験場の外

オオカミブルー「くそ、こいつら、めっちゃ強いぜ！」

ワシピンク「まるで歯が立たない！」

カメレオングリーン「諦めては駄目、和斗さん達が来るまで耐えるのです！」

カジキイエロー「はい、アミの言う通りです、絶対に諦めてはいけません！」

グリズラー「ククク、その勇気だけは誉めてあげるよ、だがこれでおしまいだよ、やれ！」

ダークシシレッド「ああ、任せろグリズラー！」

ギヤラクシー！

ダークシシレッド「くらえ、ダークレグルスインパクト！」

？「そうはさせないぜ！」

グリズラー「ん？なんだ?!」

ブーン

コグマスカイブルー「おりゃ、行けー！」

ドン

ダークシシレッド「うわー!」

バイクに乗った小太郎がダークシシレッドをぶつけ吹き飛ばす。

グリズラー「なっ?なんだ?あれは?!」

シシレッド「待たせたな、皆!」

オオカミブルー「和斗兄貴、小太郎兄貴!」

カジキイエロー「遅いですよ!」

サソリオレンジ「すまない、二人のアップデートがあつて遅くなつた!」

カメレオングリーン「何ですか?それは?!」

ワシピンク「でもカッコいいよそれ!」

シシレッド「ああ、こいつはシシストライカーとサソリストライカーとクマストライ

カーだ!」

?「つまりこれは和斗君と小太郎と祐一君専用のバイクだよ!」

カジキイエロー「あなたはまさか?シヨウ総司令さん?!」

?「ご名答だよ、そうボクチンはドラゴンマスター、リュウコマンダー!」

シヨウ総司令がかっこ良く自己紹介し。

へびツカイシルバー「和斗先輩、みんな!」



功太達も俺達と合流。

テンビンゴールド「おわっ？カッコいいバイクやん、羨ましいで！」

コグマスカイブルー「へへ、こいつのアップデートで遅かったからごめんよ！」

オウシブラック「スゴいでごわすよ！」

シシレッド「グリズラー、リブラーン、俺と小太郎と祐一がいない間に好き放題やり

やがって絶対許さねえ！」

リュウコマンダー「さて、今日からボクチンも和斗君達と一緒に戦うよ！」

シシレッド「ああ、皆がいれば戦える、行くぞ皆！」

シシレッド「スーパースター、シシレッド！」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ！」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー！」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックでごわす！」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー！」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーン！」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク！」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエローです！」



## スぺース19、専用バイクの隠された機能！

シシレッド「お前らの運、試してもらおうぜ！」

俺達は一斉にかかり。

ダークシシレッド「行くぜ、テメーら！」

ダークキュウレンジャー達も一斉にかかった。

リュウコマンダー「よし、ダークキュウレンジャー達はボクチンと功太と蓮司とセレナと壮汰で行くぞぞ！」

オウシブラック「合点でござす、おいどんとエリ殿とアミ殿が0号の相手をするでござす！」

シシレッド「よし、行くぜ！」

シヨウ総司令達はダークキュウレンジャーの相手をし、剛達は0号の相手をし、俺と小太郎と祐一はバイクに乗ったままグリズラーとリブラーンに向かって戦う。

リブラーン「ふっ、返り討ちにしてくれる、行けネオインダバー！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

コグマスカイブルー「よーし先ずはネオインダバー達を片付けるぞ！」

サソリオレンジ「よし、和斗、小太郎、右ハンドルにつけてる赤いボタンを押ししてみろ、ガトリングが発射するぞ!」

シシレッド「右ハンドルの赤いボタンを押すんだな? わかった、くらすトライクガトリング!」

ドドドドド

俺達はバイクのガトリング攻撃でネオインダバー達を一掃。

コグマスカイプルー「スゲー、ネオインダバー達を一掃した!」

リブラーン「なっ? なんだと? それなら天秤波!」

サソリオレンジ「させるか!」

祐一は素早く左ハンドルの青いボタンを押す。

リブラーン「フフフ、これじゃ動けまいな!」

すると

グリズラー「ん? リブラーン、気を付けろ、動くぞ!」

キュルルル

リブラーン「何? うわああ!」

祐一のサソリストライカーがリブラーンの天秤波を破れ突撃した。

リブラーン「バカな? 天秤波は動きでも止めれるのになぜ奴のバイクが止まらないん

だ?!」

サソリオレンジ「ふっ、教えてやる、天秤波を出す前に俺は素早く左ハンドルの青いボタンを動いてたんだ!」

シシレッド「すげー、そういう機能もあつたんだ!」

リュウコマンダー「それだけじゃないよ、3人とも、バイクの真ん中のタッチパネルに触れてみるんだ!」

コグマスカイブルー「こうかな?!」

ピツ、セイザドツキングモード起動!

シシレッド「えっ?合体?うわああ!」

俺達3人は光に包み専用バイクが分離して俺達の体に装着し始めた。

リブラーン「なっ?何なんだ?あれは?!」

シシレッド「おっ?よっしやラツキー、何だかカツコいいな俺達!」

カジキイエロー「和斗さん達とバイクが合体しました?!」

ヘビツカイシルバー「すげー、合体まであるのかよ?!」

リュウコマンダー「ハハハ、驚いただろ?セイザドツキングモードを起動すれば合体してパワーアップ、その名は!」

シシレッド「その名はシシレッドストライカーとコグマスカイブルーストライカーとサソリオレンジストライカーだ!」

リュウコマンダー「えええ… それボクチンが決めて言おうと思ったのに!」

グリズラー「へー、合体まであるのか、だったら僕と手合わせ願おうか?!」

シシレッド「行くぜ、グリズラー!」

コグマスカイブルー「おりや、どりや!」

サソリオレンジ「はあー!」

ストライカーと合体した祐一と小太郎はリブラーンと対決し。

リブラーン「やるではないか、ならばもう一度天秤波!」

コグマスカイブルー「今度は俺の番だボラリスマグナム!」

小太郎はストライカーの両腕からマグナムみたいな銃を出しリブラーンに攻撃。

リブラーン「ぐはあ、天秤波が聞かないだ?!」

サソリオレンジ「当たり前だ、同じ技は何度やっても効かないぞ!」

リブラーン「うぬぬぬ!」

リュウコマンダー「ほっ、ほっ、せい！」

カジキイエロー「たー！」

テンビンゴールド「そいや！」

ヘビツカイシルバー「おりや！」

オオカミブルー「どりや！」

シヨウ総司令達はダークキュウレンジャー達と互角に戦い。

ダークシシレッド「やるじゃねえかおっさん、俺の戦いについていくとは！」

リュウコマンダー「ははは、ボクチンの力は伝説だからね、はあ、せい！」

シヨウ総司令は拳法でダークシシレッドに攻撃し吹き飛ばす。

ダークシシレッド「くそ、おっさんに負けるなんて！」

シシレッド「おりや！」

グリズラー「そりや！」

俺はグリズラーと対決し互角に張り合う。

グリズラー「やるじゃないかシシレッド、ならばこれはどうかな？サイバークロー！」

キーン

俺は両腕でグリズラーの攻撃を防いだ。

グリズラー「なっ? 僕のサイバークローが防がれただど?!」

シシレッド「すげー、よし今度はこっちの番だ、レグルスソード!」

ストライカーの両腕から剣を出して反撃。

グリズラー「ぐわあ、がは!」

ギヤラクシー!

シシレッド「くらえ、必殺レグルスブレイカー!」

ドーン

グリズラー「ぐわあああ!」

俺のストライカーの必殺技でグリズラーを吹き飛ばし。

サソリオレンジ「よし、小太郎、決めるぞ!」

コグマスカイブルー「ああ、やろう、祐一さん!」

ギヤラクシー!

サソリオレンジ「アンタレスブレイク!」

コグマスカイブルー「ボラリスストライク!」



ドーン!

リブラーン「ぐはあ!」

小太郎と祐一もストライカーの必殺技でリブラーンを吹き飛ばした。

リブラーン「おのれ、齒が立たん、引き上げだ!」

グリズラー「残念だけど君はここで死んでもらうよ、リブラーン!」

リブラーン「何? どういうことだグリズラー? がは?!」

ダークカジキイエローがダークキュウスラツシャーでリブラーンの体を貫いた。

シシレッド「なっ? あいつ、自分の味方を刺した?!」

リュウコマンダー「何てことを?!」

リブラーン「グリズラー? なぜ?!」

グリズラー「君はキュウレンジャーにやられるからもう用済みだよ!」

リブラーン「私はまだ死ぬわけには!」

グリズラー「だって自分の天稗波をキュウレンジャーに破られてしまったから死にそ

うだったからねハハハハハハ!」

リブラーン「グリズラー、貴様ー!」

ドーン

リブラーンは力を尽きて爆発した。

シシレット「てめえ、リブラーンはお前の為に戦ってたぞ? 何でこんなことをするんだ!」

グリズラー「だからどうした? リブラーンは十分に僕のためにやってくれたからね!」

シシレット「ネオジャークマターはお前の手駒じゃないぞ!」

グリズラー「君に教える権利はないな、シシレット、決着はまたつけよう、ダークキウレンジャー達、引き上げるよ!」

ダークシシレット「おうよ、0号の2人、あとは頼むぜ!」

グリズラーはダークキウレンジャー達を連れてワープで引き上げ、0号の2体が赤いボタンを押して巨大化した。

テンビンゴールド「おわつ? 今度は巨大化したで?!」

リュウコマンダー「0号には赤いボタンを押すと巨大化する機能が入ってるんだ!」  
シシレット「エリと蓮司と功太は工場の人達を守ってくれ、俺とセレナと壮汰と剛と

アミでキュウレンオーで行く！」

テンビンゴールド「よっしや任せときや！」

リュウコマンダー「よし、小太郎、祐一君はボクチンと一緒にあれで行こう！」

シシレッド「よし、行くぜ！」

セイザドツキング！

キュウレンオー！

シシレッド「よっしやラッキー、行くぜ！」

リュウコマンダー「よしボクチンも久しぶりにボイジャーを出すぞ！」

セイザゴー！

シヨウ総司令はリュウツエーダに搭載したままのリュウキュータマに金の所の龍の口を食べるように動かし、そして空から紫のドラゴンが現れた、そうこれがシヨウ総司令のボイジャー。

リュウボイジャー！

リュウコマンダー「よし、久しぶりに張り切って行くよ、それ！」

シヨウ総司令はレバーを動かして0号に体当たり。

リュウコマンダー「よし、小太郎、祐一君、行くよ！」

セイザドツキング！

リュウボイジャーが人形ロボットの形に変形し右の方はクマボイジャーと合体し、左の方はサソリボイジャーと合体し、最後に頭の部分に金の龍の鎧を装備、そうこれが。

リュウテイオー!

リュウコマンドー「龍に翼をえたる如し!」

シシレッド「よっしやラッキー、すげー、総司令のボイジャーが小太郎と祐一と合体してロボットになった!」

リュウコマンドー「さあ行こうか皆!」

シシレッド「おう!」

俺達は左の方の0号の相手をし、シヨウ総司令の方は右の方の相手をした。

カジキイエロー「えい、それ!」

シシレッド「おりゃ!」

俺達はレバーを思いつき動かして0号を攻撃。

ビー

シシレッド「うわ? やりやがったな!」

カメレオングリーン「それならこれです!」

イテキュータマ!

セイザアタック!

アミはイテキュータマを出して左腕のカメレオンボイジャーから多数の矢を放ち、0号に攻撃。

0号「ギギギギ!」

カジキイエロー「動きが鈍くなりました!」

シシレッド「よし、皆決めるぞ!」

ギヤラクシー!

5人「[[[[キウレンオー、メテオブレイク!]]]]」

スーパージヤラクシー!

ドーン

5人「[[[[グッドラック!]]]]」

リュウコマンダー「せいや、そりや!」

コグマスカイブルー「おりや!」

サソリオレンジ「はあ!」

ドドドドドド

0号は指からマシンガン攻撃し、リュウテイオーに命中。

コグマスカイブルー「うわっ?指からマシンガンが発射したぞ!」

サソリオレンジ「よし、だったらこれで動けなくしてやる!」

ミズガメキュータマ!

セイザアタック!

祐一はミズガメキュータマを出して左腕のサソリボイジャーから水を出して0号を攻撃すると。

0号「ビリビリビリビリ!」

0号がショートして動けなくなった。

リュウコマンダー「なるほど、機械は水には弱くて浴びるとショートして動けなくなるのか、さすがだね祐一君!」

コグマスカイブルー「祐一さん、やるな!」

サソリオレンジ「よし、一気に決めるぞ!」

リュウコマンダー「了解、じゃあいくよ!」

ギヤラクシー!

3人「[[リュウテイオー、メテオブレイク!]]」

スーパーギヤラクシー!

リュウテイオーから3つの星座の光が1つになって0号に攻撃。

ドーン

3人「「グッドラック！」」

木星のネオジャークマター研究室

グリズラー「5人とも大変だったな、ゆっくりカプセルで休んでね！」

ウイーン

ジェミニス「リブラーンが散ったか?!」

グリズラー「ああ、キュウレンジャーもさらにパワーアップしてやられたみたいだよ  
!」

?「それで最後にダークキュウレンジャーの奴が用済みとして抹殺したのか?!」

グリズラー「レイヴォルグ? 戻ってきたのか?!」

ジェミニスと一緒に研究室に入ってきた銀色のオオカミの顔をしたネオジャークマターのカロロー、グリズラーがその名前を言う。

レイヴォルグ「ああ、おれもそろそろ自由時間を終わってキュウレンジャーとやらを

討伐だな！」

ジエミニス「ああ、そうだな、リベリオン北海道本部の襲撃だ、奴らはここに来るに  
違いない!」

グリズラー「そうだね、そろそろレオルスにも出てもらおうかな!」

レイヴオルグ「ああ、奴とは俺が連絡した、もうじき来るぞ!」

ジエミニス「そろそろ私もキュウレンジャー達に挨拶だな、フフフ!」

リベリオン生産工場の食堂

工場長「シヨウ総司令、皆様、生産工場と実験場を救っていただきありがとうございます  
ます!」

シヨウ・ロンポー「いやいや、とんでもないよ、みんなのいる生産工場と実験場を破  
壊するわけにはいかないからね!」

壮汰「それにしても、さっきの和斗兄貴達の姿にかっこよかったぜ!」

蓮司「ホンマや、3人ともいないと思ったら練習やってたんかいな?!」

小太郎「はは、シミュレーションバイクルームで練習して免許を取って初めてのバイ  
クなんだ!」

功太「やるもんだな小太郎先輩達は、すげーぜ!」



祐一「俺は初めから免許を取って一足先に練習してたからな！」

和斗「そういうえば総司令、さっきの聖遺物キュータマの解析はどうだった?！」

シヨウ・ロンポー「ああ、ラフタが解析した聖遺物キュータマは実はネオジャークマターを倒す鍵なんだよ！」

和斗「鍵? どういうことなんだ?！」

ラフタ「それでは説明します、聖遺物キュータマにはそれぞれシンフォギアの力が入ってます、1つ目は和斗さんと響達がゼンカイジャーの世界で手に入れたガングニールキュータマ、2つ目は祐一さんが使うイチイバルキュータマ、残り4つを合わせて6つです！」

セレナ「つまり、残り4つを手に入れて6つを集めたらネオジャークマターを倒せるんですね！」

和斗「とにかく残り4つを手に入れて合わせれば良いんだな? よーしこれで地球に帰って響と未来に会うぜー！」

ステインガー「ああ、東京に帰る前に行かなくちゃいけない所があるんだ！」

小太郎「次は何処に行くんだ? 兄貴?！」

シヨウ・ロンポー「ここからはボクチンが教えよう、北海道のリベリオン本部へ行ってある人に会いに行く！」

NEW  
STORY  
全員「ある人?!」

スペース20、襲撃？北海道本部？新たな敵、錬金術師！

次の日の朝

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

和斗「えっ？クリス先輩のギアが破壊されたのか?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、昨日、皆が風呂に入ってる間にボクチンのスマホから玄十

郎司令から連絡がきてね錬金術師という敵が現れて苦戦したみたいだよ!」

そう俺達が昨日、惑星ダカオのリベリオン生産工場に行ってる間、響とクリス先輩がいる地球に新たな敵が現れた、そう錬金術師という謎の敵。

ラフタ「玄十郎司令から映像が送りましたので今から映します!」

ピッ

蓮司「ん？何や人形みたいな奴は?!」

和斗「それに響の前に現れた小さな女の子は誰なんだ？魔法使いな物を着てるぞ!」  
俺と蓮司は魔法使いな物を着ている小さな女の子と人形みたいな奴に気づき。

ステインガー「ああ、解析したところまだ不明だが!」

シヨウ・ロンポー「それとイギリスにも同じ人形みたいな奴が見掛け、ノイズと一緒に襲撃した情報が入ったんだよ!」

セレナ「イギリス、もしかして? マリア姉さんは無事ですか?!」

ラフタ「玄十郎司令からの連絡によると風鳴翼と天羽奏とマリア、カデンツァヴァ、イヴさんの3名は無事ですが翼さんのギアのアメノハバキリが砕けましたが奏さんのガングニールは壊れかけました!」

ステインガー「ああ、クリスの方は切歌と調が助けに駆けつけて引き上げたみたいだ!」

功太「アイツら? Lincornを投与せずギアを纏ってしまったのか?!」

ラフタ「ええ、病院で入院で今日は退院です!」

祐一「アイツら、クリスを助けるために無茶しやがって!」

小太郎「俺達がない間、S・O・N・Gは大丈夫かな?!」

和斗「大丈夫だって、響と未来の方は俺が連絡とってるからなそれにリベリオン北海道本部にある人に会ったら早く東京に帰ろうぜ、響達がいるところへ!」

シヨウ・ロンポー「ウム、そうだね、和斗君のいう通りだね!」

ラフタ「皆さん、間もなくリベリオン北海道本部につきます!」

アミ「北海道と言えば牛さんや美味しいシヤケやかわいい熊さんがおります！」

エリ「アミ、時間があつたら切歌達のお土産たくさん買いに行こう！」

壮汰「どんなリベリオン本部か楽しみだな！」

剛「壮汰殿、もうすぐ東京の方は完成間近でござすよ！」

シヨウ・ロンポー「ハハハ、そうだね、その前に北海道リベリオン本部の見学だよ！」

リベリオン北海道本部

リベリオン一般兵「司令、シヨウ総司令のバトルオリオンシップが到着いたします！」

？「よし、格納庫まで誘導を頼む、私もすぐに行く！」

リベリオン一般兵「了解しました！」

？「シヨウ総司令、久しぶりですね！」

リベリオン北海道本部の格納庫

和斗「すげー、ここが北海道リベリオン本部なのか?!」

？「ようこそ、北海道リベリオン本部へ、ステインガー司令、皆様！」

俺達に挨拶した司令服を纏った水色の若いクマの宇宙人。

アミ「わあ、かわいい熊さん！」

シヨウ・ロンポー「あはは、自己紹介するよ皆に、彼の名はリトルベアー司令、ピッ

グベアー総司令の息子なんだよ!」

小太郎「えええ?ビッグベアー総司令の息子なんだ?!」

リトルベアー「はい、シヨウ総司令、父が生きてた頃はお世話になりました!」

シヨウ・ロンポー「うむ、私が若い頃は君の父親には色々と助けられて感謝するよ!」

リトルベアー「わあ、ステインガー司令、初めまして、あなたに会えて光栄です!」

ステインガー「元氣そうに頑張ってるな司令の仕事は!」

リトルベアー「はい、北海道リベリオン本部の司令に着任してからくじけず頑張つて

います、あれ?シヨウ総司令達の所にいるこの人達はまさか?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、彼らはラッキー達を受け継ぐ新たなキュウレンジャー達だ

!」

和斗「よつしやラッキー、俺は獅子野和斗、よろしくなりトルベアー司令!」

リトルベアー「わあ初めまして、僕はリトルベアー司令、リベリオン北海道本部の司

令を任せております!」

リトルベアー司令は挨拶して俺と握手をし。

リトルベアー「皆さん、ここに来てどうしたのですか?!」

シヨウ・ロンポー「いや、君に会いに来て紹介したかったよ、もうすぐボクチンが

着任するリベリオン東京本部が間もなく完成するからついでに君が勤務してる北海道

本部を皆で見学しにね！」

リトルベアー「そうだったのですか、それじゃ皆さん、ご案内します、ついてきてください、今、貴方達がいるところは格納庫、ここではシヨウ総司令達に乗ってるバトルオリオンシップの修理やチェック、キュウボイジャーの整備を整備員の皆さんがやっております！」

リベリオン北海道本部の中

リトルベアー「次のご案内はメンテナンス室です、ここでは量産型セイザブラスターのメンテやキューウエポンのメンテ確認をおこなっております！」

蓮司「うひょー、メンテ班が色々機械のメンテチェックしてやるもんやな！」

アミ「ホントだね、皆さんプロのようですね！」

シヨウ・ロンポー「ハハハ、凄いだろ？メンテ班の整備やチェックをしてる人はベテランプロだよ！」

小太郎「すげー、エンプティキュータマのチェックや分解して修理してるよ！」  
リトルベアー「それじゃ、次はシミュレーション室へご案内します！」

シミュレーション室

壮汰「おっ？誰かシミュレーション室を使ってるよ！」

リトルベアー「あの人達はキュウレンジャー候補生です、リベリオン生産工場から送られた量産型セイザプラスターとエンプティキュウタマを使って変身します!」

エリ「あの?候補生の皆さんは高校生何ですか?!」

リトルベアー「はい、高校1年から3年までの人達が地球を守るために志願してくれました!」

功太「へー、俺達と一緒に戦う人が多数志願とはすごいな!」

剛「挨拶したいでござす!」

シヨウ・ロンポー「よし皆、候補生に挨拶しよう、リトルベアー司令、候補生達に声をかけてあげて!」

リトルベアー「わかりました、候補生の皆さん、訓練をストップだよ!」

キュウレンジャー候補生達はリトルベアー司令の声で止まり。

候補生1年男子「リトルベアー司令?どうしたんですか?声をかけて!」

候補生2年男子「あつ、シヨウ総司令とスティンガー司令とラフタさんと小太郎だ!」

候補生1年女子「後、シヨウ総司令のとなりにいる9人はまさか?!」

シヨウ・ロンポー「ここからはボクチンが紹介するよ、彼ら9人はラッキー達キュウレンジャーを受け継ぐ戦士達だよ、今日は北海道リベリオン本部の見学ついでに挨拶をしに来たよ!」



候補生2年女子「えっ？ラツキーさん達キュウレンジャーを受け継ぐ戦士達?!」

候補生3年男子「マジかよ？話とかしていいですか総司令?!」

シヨウ・ロンポー「勿論、さあシミュレーション室から出て挨拶をまずしよう!」

候補生全員「オツキュウ!」

木星、ネオジャークマター要塞

ブリーフィングループ

キャロル「邪魔するぞジェミニス!」

ジェミニス「キャロルか?ここに来てどうした?!」

キャロル「お前の予想通りにキュウレンジャー達が北海道リベリオン本部に来たぞ、どうするつもりだ?!」

レイヴオルグ「それは俺が教えるぞ、今日の夜に北海道リベリオン本部に襲撃しに行く、グリズラーとレオルスも準備に取りかかっているがダークキュウレンジャー達はカプセルでしばらく休んでる!」

キャロル「ほう、ならば俺も行くぞ、挨拶代わりにレイアとファアラを連れて!」

ジェミニス「ふっ、ならば私も行くぞ!」

夜、北海道リベリオン本部の宿泊室

俺達は数時間に本部の見学が終わり、自由時間となり響と未来達の北海道のお土産を買いに行き、浴室で風呂に入り、食堂で飯を食べ、宿泊室で響と未来に電話をした。

和斗「響、俺達がない間は大丈夫だったのか?!」

響「うーん、私の方は大丈夫だったけどクリスちゃんのギアが壊れて大変だったよ、切歌ちゃんとかちちゃんは退院してゆっくりしてるよ、あつ、今、未来に変わるね!」

未来「あつ、もしもし和斗君、和斗君達の方は大丈夫だったの?!」

和斗「ああ、俺達の方は惑星ダカオでのリベリオン生産工場がネオジャークマターに襲われて苦戦したけど俺と祐一と小太郎はショウ総司令の設計した専用バイクで何とか撃退できたぜ!」

未来「それで惑星ダカオの方は大丈夫なの?!」

和斗「ああ、工場の方は少し破壊されたけど工場長達が修復作業をして、響達の所へ

帰ろうとするとシヨウ総司令が会いに行く人に会いに北海道リベリオン本部に行つて  
る！」

未来「えっ？北海道?!」

その頃、北海道リベリオン本部の司令室

司令室にはシヨウ総司令とリトルベアー司令、セレナとステインガー司令とラフタが  
話をしていた。

シヨウ・ロンポー「えっ？ダークキュウレンジャー達が君の知り合いだ?!」

セレナ「はい、惑星ダカオでの時に現れた黒服の5人は私やマリア姉さん達がF I S  
にいた頃の人達でした、でも、消息不明や死亡したのに何故?!」

ラフタ「恐らくはネオジャークマターに協力した研究員が血液を手に入れてクローン  
を製造した可能性があります！」

ラフタがセレナ達にダークキュウレンジャーの正体がセレナや切歌達がF I S時代  
にいた頃の少年少女達のクローンと言い。

ステインガー「ああ、ラフタの情報だと君のいた頃のF I Sの子供達はもう！」

セレナ「そんな！」

シヨウ・ロンポー「セレナちゃん、今は響ちゃん達とボクチン達がいるからダーク

キユウレンジャー達が現れたら皆の手で安心させよう!」

シヨウ総司令は落ち込んでるセレナを慰めていた。

セレナ「シヨウ総司令、ありがとうございます慰めてくれて、私はもう迷いません!」

リトルベアー「それともう一つ、総司令にお伝えしたいことがありますか?!」

シヨウ・ロンポー「ん?どうしたんだね?!」

一方、宿泊室は。

俺はまだ未来と電話をしていた。

和斗「北海道リベリオン本部の中はすげーぞ、シミュレーション室やメンテナンス室、

食堂や浴室、宿泊室もあって良いぜ!」

響「いいなく和斗君達は宇宙に続いて北海道に行くなんてずるい!」

未来「仕方がないわよ響、シヨウ総司令さんの知り合いに会いについてきただけよ!」

和斗「あはは。悪かったってでも自由時間で響達のお土産を買ったからな!」

響「わーい、お土産楽しみ、じゃあ和斗君、私と未来からのお願いをついでに聞いて

?!」

和斗「ん？良いけど？どうした?!」

響・未来「和斗君、帰ってきたら私達とデートに行こう!」

響と未来が俺にデートの誘いをお願いし。

和斗「あ…ああ、いいよ、今度の休みにデートに行こうぜ!」

響「やったー、3人でデートだー楽しみ!」

未来「和斗君、待ってるからね!」

響「約束だよ!」

和斗「ああ、じゃあ切るぜ、また時間が空いたら電話するから!」

ピッ

ウイーン

小太郎と蓮司が俺のいる宿泊室に入ってきた。

小太郎「和斗、響から電話?!」

和斗「ああ、俺達が宇宙に行ったことの話やりペリオン北海道本部の見学の話をして

たよ、響と未来がお願いでデートに行く約束もしたからな!」

蓮司「へー、やるもんやな和斗リーダー、羨ましいでオイ!」

和斗「バカいえよ、響と未来は俺にとつての幼なじみで二人は俺にとつての大切な!」

ビービービービー

突然のサイレンがなり。

司令室

シヨウ・ロンポー「どうした?!

通信兵「モニターを見ます、これはネオジャークマター多数とノイズが多数が北海道本部に向かっていきます、及び、カローが3とジェミス、これは?謎の人形2、錬金術師がいます!」

ステインガー「響達の所に現れた奴に違いはない!」

シヨウ・ロンポー「よし、キュウレンジャー出撃だ、ラフタ、和斗君達に出撃要請を!」

ラフタ「オツキュウ!」

リトルベアー「それでは候補生達も援護に向かわせませます、市民の防衛は他の人達に任せます!」

シヨウ・ロンポー「セレナちゃん、頑張れ!」

セレナ「はい！」

ビービービービー

アナウンス「緊急事態発生、緊急事態発生、ネオジャークマターとノイズが多数北海道本部に向かってる模様、キュウレンジャー候補生は出撃せよ！」

和斗「何だ？出撃か?!」

ラフタから通信が入り

ラフタ「ネオジャークマターとノイズが北海道本部に向かっています、総司令達の命令、北海道本部の防衛です！」

蓮司「ノイズ、北海道まで現れたんかいな?!」

和斗「俺と小太郎と祐一はバイクで出撃するからバトルオリオンシップに行ってくる！」

蓮司「よっしゃ、行くで！」

リベリオン北海道本部の外

グリーズラー「楽しみになってきたな、北海道リベリオン本部の襲撃は！」

レイヴオルグ「まあ、あせるな、挨拶かでの襲撃だ！」

フアラ「あらくオオカミちゃん、なんだか素敵ね！」

? 「ガハハハハ、こいつはこいつなりにやってんだ、俺達も好きにしようぜ!」

緑の服のロングスカートのオートスコアラ、フアラ、フアラと話をしてるライオン  
のネオジャークマターのカロ、そうレイヴオルグが言ったレオルスだ。

? 「私のコインで派手に散らしてくれ!」

キャロル 「レイア、手荒にやれよ!」

ジェミニス 「来たか、キュウレンジャー共!」

オオカミブルー (候補生1年男子) 「ネオジャークマター、北海道本部に現れるなんて  
!」

シシレッド (候補生3年男子) 「なんとしてもここを守るぞ!」

コグマスカイブルー 「候補生の皆は無理せずにノイズとネオインダバーの相手にし  
て、他の敵は俺達がやるよ!」

テンビンゴールド (候補生2年) 「わかりました、でも援護だけはさせてください!」

シシレッド 「よし皆、行くぞ!」

全員 「了解!」

サソリオレンジ 「行くぞ!」

俺達は一斉にかかり、攻撃を仕掛ける。



リトルベアー「セイザバリア起動！」

オペレーター「了解、セイザバリア起動します！」

リトルベアー司令はオペレーターにセイザバリア起動し防御。

テンビンゴールド「おりや、くらえや！」

オウシブラック「ごわす！」

ヘビツカイシルバー「どりや！」

オオカミブルー「くそ、キリがないぞ！」

本部の周辺のノイズとネオインダベアの迎撃は壮汰と蓮司と功太と剛と候補生がや

り。

向こうの方は

カメレオングリーン「それ、えい！」

ワシピンク「えい！」

カジキイエロー「それ！」

オウシブラック（候補生3年男子）「どりや！」

アミとセレナとエリと候補生がノイズを迎撃。

ワシピンク「何なの？、このノイズは?!」

カメレオングリーン「今までとは違うノイズだね!」  
カジキイエロー「もしかして?違うノイズ何ですか?!」

ブーン

シシレッド「よし、俺達は一気にストライカーになって倒すぞ!」

コグマスカイブルー「よし、俺は右の相手をするよ!」

サソリオレンジ「なら俺は左をやる!」

シシレッド「よし、行くぞ!」

セイザドツキングモード!

俺と小太郎と祐一はストライカーと合体して敵のところへ向かい。

キヤロル「フアラ、レイア、お前らは本部周辺に行け!」

ジエミニス「レオルス、お前も一緒に行け!」

フアラ「わかりましたマスター!」

レイア「私の派手に散るがいい!」

フアラとレイアとレオルスは本部周辺の所へ行き。

コグマスカイブルー「待て、行かせないぞ!」

グリズラー「何処へ行く気かい?君達の相手は僕たちだよ!」

小太郎はグリズラーの相手をし。

キャロル「初めましてだな？ キュウレンジャー、俺はキャロル。 マールステイーン。ハイム、錬金術師の首謀者で俺は世界を分解する者だ！」

シシレッド「お前が響達を襲ってきた奴だな？ 何故世界を分解しようとする?!」  
ジェミニス「それは私が教えよう！」

バサツ

ネオジャークマターのジェミニスが頭のフードを脱ぎ、ロングヘアの金髪の青年の素顔だ。

シシレッド「お前は？ まさか?!」

ジェミニス「私の名はジェミニス、ドンアルマゲの跡を受け継ぎ、ネオジャークマターの首領だ！」

ショウ・ロンポー「何？ ドンアルマゲを受け継ぐ首領だと?!」  
ステインガー「和斗、駄目だお前では奴らには勝てないぞ！」

シシレッド「そんなのやってみなきゃわからねえぞ、うおー！」  
キャロル「ふっ、バカめ！」

ジエミニス「そんなもので私達には勝てんぞ!」

シシレッド「何?うわあああ!」

和斗はキャロルの魔法攻撃とジエミニスの雷攻撃で苦しみ。

コグマスカイブルー「和斗?!」

サソリオレンジ「今助けるぞ!」

レイヴォルグ「させんぞ祐一!」

サソリオレンジ「くっ、何故俺の邪魔をする?それに何で俺の名前を知ってる?まさか?お前は?!」

レイヴォルグ「そう、俺だよ祐一、ネオジャークマターになった雪音レイだ!」

サソリオレンジ「なっ?レイだと?何故その姿になったんだ?!」

グリズラー「ああ、僕が教えるよ、雪音レイ、彼はジエミニスや僕たちのネオジャークマターを占領しようとしたから僕が人造改造したんだよ!」

コグマスカイブルー「えっ?じゃあ人間には戻らないのか?!」

ジエミニス「さよう、無駄だな!」

一方東京のリディアンの寮の響と未来の部屋

響「フンフフフン♪フフフ、未来、味はこれでいいかな?!」

未来「うん、バッチリね響、もうちよつと味の方を工夫してみよう！」

響「そうだね未来、和斗君が帰ってきたら楽しみだね！」

未来「私と響の手料理、和斗君の大好物のカレー、食べさせたいね♡！」

響と未来は和斗の為に2人でカレーを作っていた。

NEWS STORY

# スペース21、リベリオン北海道本部半壊、悲しみの雨!

一方、北海道リベリオン本部周辺

テンビンゴールド「おりや、くらえや!」

オウシブラック「ごわす!」

ヘビツカイシルバー「どりや!」

シシレッド(候補生3年男子)「そこだー!」

残りのノイズとネオインダバーを一掃した。

オオカミブルー「よし、大分倒したな!」

オウシブラック「よし次はセレナ殿達の援護に向かうでごわす!」

すると

ファラ「オホホ、援護には行かせないわ!」

レオルス「第2ラウンドは俺達が相手だ!」

テンビンゴールド「誰やお前らは?!」

ファラ「私はキャロルマスターに使えるオートスコアラのファラ、私の剣はソード

ブレイカーよ!」

レオルス「俺はネオジャークマターのしし座系カロのレオルス、テメーらとのタイマンじゃ！」

ヘビツカイシルバー（候補生2年男子）「おもしろい、やってやるぜ！」

カメレオングリーン（候補生2年女子）「行くわよ！」

オオカミブルー（候補生2年男子）「うおー！」

候補生全員がファラとレオルスの方へ向かって進み。

オオカミブルー「候補生の皆さん、危険です、やられます！」

ファラ「もう遅いわ！」

レオルス「行くぜ！」

シユン

ヘビツカイシルバー（候補生2年男子）「えっ？うわっ！」

カメレオングリーン（候補生2年女子）「きゃあ！」

ワシピンク（候補生3年女子）「きゃああ！」

ファラとレオルスは一瞬でキュウレンジャー候補生達を切り裂く。

テンビンゴールド「なっ？候補生達を一瞬で切り裂きおった?!」

ファラ「フフフ、お次は貴方達よ！」

レオルス「果たして耐えられるか?!」

へびツカイシルバー「くっ!」

一方、セレナ達の方は

カジキイエロー「あれは確か0号ともう一人は?!」

レイア「私はオートスコアラーのレイア、私のコインの派手で散るがいい!」

サソリオレンジ（候補生1年男子）「なめるな!」

カジキイエロー（候補生3年男子）「料理してやる!」

レイア「ふっ、甘い!」

キーン、ドドドドド

サソリオレンジ（候補生1年男子）「うわ!」

カジキイエロー（候補生3年男子）「がは!」

レイアはコインで派手にキュウレンジャー候補生を狙い撃った。

レイア「次はお前達だ、派手にイチイバルの装者のようにやられるがいい!」

カメレオングリーン「もしかしてあのオートスコアラーがクリス先輩のギアを破壊した人?!」

ワシピンク「でも、射撃の方は無理だけど0号の方はやれる!」

カジキイエロー「それならレイアは私とアミに任せて下さい!」



オウシブブラック（候補生2年男子）「俺も援護するぞ後輩！」

ヘビツカイシルバー（候補生3年男子）「後輩だけじゃ心配だからな！」

ワシピンク「ありがとうございます、先輩達、では行きましょう！」

レイア「その隙に今だ！」

ドドドドド

レイアはコインで北海道リベリオン本部のセイザバリアに中心に命中。

北海道リベリオン本部司令室

ビービービー

リトルベアー「どうした?！」

オペレーター「バリア中心の機能が破損して低下していきます?！」

シヨウ・ロンポー「何だと? 原因は?！」

オペレーター「オートスコアラのレイアという奴がなんかコインの射撃でバリア中心を攻撃していきます!」

ステインガー「? 総司令、バリアが破れるぞ!」

シヨウ・ロンポー「くっ、やむを得ないぞ、ラフタ、バリアを解除して防護用シャツ

ターだ!」

ラフタ「しかし総司令、バリアを解除したら本部がもちません!」

リトルベアー「心配ありません、まだ戦える候補生達は負傷者を救出させます!」

ラフタ「:・: わかりました、バリア解除し、防護用シャツターを準備します!」

シヨウ・ロンポー「よし、リトルベアー司令、戦える候補生達に指示をしてくれ!」

リトルベアー「わかりました、戦える候補生の皆、聞こえてるか? セイザバリアが一部が破損して今から解除して防護用シャツターをする、負傷者を本部まで運んで入って!」

ステインガー「壮汰達、聞こえてるか?!」

オオカミブルー「戦える候補生達の援護をするんですね?、了解すぐやります!」

カジキイエロー「わかりました、アミ、エリ!」

壮汰達はステインガー司令の命令で戦える候補生達の負傷者の救出援護に向かい。

フアラ「あら? 何処に行くのかしら?!」

レオルス「俺達の相手をまだしてもらうぞ!」

シシレッド(候補生3年男子)「ここは俺達二人に任せろ!」

ヘビツカイシルバー「けどあんたら二人だけじゃ歯が立たないぞ!」

テンビンゴールド（候補生2年男子）「お前らは希望の鍵だ、早く援護に行け！」  
テンビンゴールド「すまない、恩にきるで！」

レイア「ん？本部の負傷者の救出か？派手に破壊だ！」  
ビー

0号の2体が北海道リベリオン本部の一部が半壊。  
すると和斗達は。

シシレッド「うわー！」

ビービービー！

危険、危険、シシストライカーのエネルギーがダウンします！

キャロル「ハハハハハハ、お前もこれで終わりだ！」

ジェミニス「散るがいい！」

コグマスカイブルー「和斗！」

サソリオレンジ「和斗！」

すると

シシレッド（候補生1年男子）「うおー！」

サソリオレンジ（候補生1年男子）「和斗先輩達はやらせないぞー！」

候補生の二人がキャロルとジェミニスに攻撃した。

キャロル「くっ、貴様ら!」

ジェミニス「死ぬがいい!」

サソリオレンジ「やめろー!」

ジェミニスとキャロルは魔法や雷攻撃で候補生に攻撃して二人は倒れた。

キャロル「目的は果たしたか、引き上げるぞ!」

ジェミニス「フフフ、命拾いしたなキュウレンジャー!」

キャロルは宝石みたいなものを砕け、異次元に逃げ、ジェミニスはワープして撤退し同時にネオジャークマター全員とファラとレイアも撤退した。

サソリオレンジ「待て、レイ、何処へ行く?!」

レイヴォルグ「目的は果たした、次に会うまでは強くなれ祐一!」

レイヴォルグとグリズラーもワープして撤退した。

ラフタ「総司令、司令、ネオジャークマター及び錬金術師は撤退しました!」

ステインガー「ああ、だけど!」

ショウ、ロンポー「北海道リベリオン本部の半壊や候補生の犠牲がやたら少し多かったですぞ!」

シシレッド「ちくしよう、ちくしよう、ちくしよう、ちくしよう、ちくしよう！」  
コグマスカイブルー「和斗！」

次の日

ザー

北海道は最悪な雨となった、小太郎達キュウレンジャーとシヨウ総司令とステインガー司令とラフタ達は北海道リベリオン本部の所に候補生の犠牲者の墓を建ててお参りした、その候補生の犠牲者はおよそ20人だった。

ステインガー「和斗はどうした?!」

小太郎「宿泊室で一人にしてるよ、昨日の犠牲者にショックを受けたみたいだよ兄貴！」

セレナ「和斗さん！」

リベリオン本部宿泊室

和斗「はあー、俺がもつと強くなれば候補生後輩を犠牲にならずにすんだのに、くそ！」

ウイーン

和斗「シヨウ総司令? セレナ、どうしてここに来たんだ?!」

シヨウ・ロンポー「ちよっと君と話したいがいいかな?!」

和斗「ああ、どうしたんだ?!」

北海道リベリオン本部の食堂

シヨウ・ロンポー「まだ昨日の事、落ち込んでるのかね?!」

和斗「あ：ああ、少しな、響や未来に紹介しようとした後輩が俺達を守って犠牲になつてしまった!」

シヨウ・ロンポー「すまなかつたね、こんなことになつてしまつて!」

和斗「シヨウ総司令は悪くない、俺がもつと強くなれば、アイツらを犠牲にならずにすんだのに、俺は俺は!」

シヨウ・ロンポー「：：：：!」

パチン

シヨウ総司令は和斗の右頬にビンタした。

和斗「えっ? 総司令?!」

シヨウ・ロンポー「何でも間でも自分のせいにするんじゃない、確かに救えなかつた

が私や皆だつて同じ気持ちなんだよ！」

和斗「えっ?!」

シヨウ・ロンポー「君と響ちゃんと未来ちゃんがまだ幼稚園の頃、私はまだ司令じゃなかつたが後輩がいたんだよ！」

13年前のリベリオン星

? (シヨウ先輩!)

シヨウ・ロンポー(おお、ジムニー、来たのか?!)

ジムニー(シヨウ先輩、一緒にご飯に行きましょう!)

和斗「シヨウ総司令? 総司令にも後輩がいたのか?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、ジムニーという青年後輩がいたんだよ、彼はワシ座系出身の人間で私やリトルベアー司令の父親だつたピックベアー総司令の手伝いをしてたよ！」

和斗「いい後輩だな、総司令の後輩は！」

シヨウ・ロンポー「ああ、だが彼はイカーゲンとマーダツコにやられて犠牲になつてしまつた！」

12年前のワシ座系惑星

マーダッコ(ハハハ、こんなへボいタコが、あたし達の相手にならない!)

マーダッコ(そうだな、こんな惑星などまた制圧すればいい、行くぞマーダッコ、次の惑星へ!)

ショウ・ロンポー(待つ、待て!)

イカーゲンとマーダッコは宇宙船に乗って次の惑星へ行く。

ショウ・ロンポー(ジムニー?ジムニー?しつかりしろ?!)

ジムニー(ショウ先輩、すみません、ワシ座系惑星を守れなくて!)

ショウ・ロンポー(謝らなくていい、何でこんなことをするんだ?!)

ジムニー(ワシ座系惑星は自分の故郷です、アイツらに制圧されるのが許せなくてついで!)

ショウ・ロンポー(そうだったのか、待ってる、すぐ救護兵にそっち向かわせる!)

ジムニー(ショウ先輩、宇宙、皆の自由を救ってください、自分の最後の言葉です!)

ジムニーは力をつきて死んだ。

ショウ・ロンポー(ジムニー?ジムニー?ジムニー?くっ、ジムニイイイイ!)

ショウ・ロンポー「その後、私とビックベアー総司令は彼の墓を作ってお参りし、そ



の次はビツクベアー総司令がリベリオン星で私を守って犠牲になってしまった、でも今はラツキー達と一緒に戦ってジャークマターに勝って宇宙は平和になったんだよ！」

和斗「総司令、うう、何だか俺は泣いてきたぞ！」

シヨウ・ロンポー「わかるだろ？ 皆の気持ち、だから自分のせいにしちゃダメだよ、わかった?！」

和斗「総司令、ありがとう、大事な事を教えてくれて、俺は大丈夫だ！」

セレナ「和斗さん、ご飯を食べてください、和斗さんの大好物のカレーです！」

セレナは俺とシヨウ総司令の座ってる席にカレーを置いた。

和斗「ありがとうセレナ、どうして俺の好物を知ってるんだ?！」

セレナ「実は昨日、寝る前に響さんと未来さんに電話して相談したら和斗さんの好物はカレーだと教えてシヨウ総司令さんと話してるときに厨房で作りました。

和斗「響と未来、俺の好物を覚えてくれてありがとうな、じゃあいただきます！」

俺はセレナが作ったカレーを食し。

セレナ「どうですか？ お味は?！」

和斗「ああ、よっしやラツキー、バッチリだぜ、ありがとうなセレナ感謝するぜ！」

シヨウ・ロンポー「元気になってよかったよ和斗君！」

セレナ「ありがとうございます、和斗さん、実は昨日、響さんと未来さんも和斗君の

為にカレーを作っていましたよ!」

和斗「響と未来が、じゃあ帰ってきたら食べてみるか!」

和斗の元気が出て外は晴れ、すると

ピピピピピピ

俺のスマホがなり、画面を見ると未来からの連絡があった。

ピッ

和斗「どうした? 未来、俺に電話して?!」

未来「和斗君、響が響が!」

和斗「えっ?!」

NEWS STORY

## スペース22、間に合え、切歌と調の償い！

北海道リベリオン本部司令室

リトルベアー「えっ？明日は東京に戻るのですか?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、今日、和斗君が未来ちゃんと電話して響ちゃんのガングニールのギアがミカというオートスコアラーにコアが砕かれて重症をアッタみたいだよ！」  
ラフタ「えっ？響はその後はどうなったのですか?!」

シヨウ・ロンポー「それは大丈夫だよ、ハウオウソルジャーが未来ちゃんと響ちゃんを守って緒川さんが救出に行っちゃよ！」

ステインガー「それでハウオウソルジャーはツルギなのか?!」

シヨウ・ロンポー「いや、ツルギ君の方を連絡して宇宙連邦本部大統領宮邸にいたよ  
！」

ステインガー「じゃあアイツは誰なんだ?!」

北海道リベリオン本部宿泊室

和斗「響、未来！」

俺は寝て響と未来の名前を言っとうなされた。

和斗の夢の中

和斗（ここは？俺の夢の中?!）

未来（響？すっかりして響、死なないで!）

俺は倒れてる響を呼び掛けてる未来の声が聞こえる。

和斗（未来？響？俺がいるぞ、今助けるぞ!）

未来（いや？助けて和斗君、響!）

ジェミニスが未来と倒れてる響の所へ歩き。

和斗（あれは？ジェミニス？まさか響と未来の方へ向かってる!）

未来（いや、助けて和斗君、小太郎君、皆!）

ジェミニスは未来と響に向かって電撃攻撃を構える。

和斗（やめろ、響と未来を手を出さないでくれ、やめろ、やめてくれ!）

ジェミニスは電撃攻撃で未来と響に攻撃して無惨に倒れた未来の姿が見えた。

和斗（未来？響、うわああああ!）

和斗「響？未来、はあはあ、夢か?!」

北海道リベリオン本部食堂

和斗「はあはあはあはあ、ふう！」

俺は食堂に行ってお茶を飲んでいた。

小太郎「和斗？大丈夫か？さつきうなされた声が聞こえたけど？響と未来の事が心配なのか?！」

和斗「小太郎？聞こえてたのか？ごめん、未来が響を心配して落ち込んでるかもしれないからつい！」

セレナ「響さんの方は治療して今は生命維持装置で昏睡状態です、気持ちはわかりませんが明日は東京に戻りますよ！」

和斗「わかってる、もしノイズや錬金術師、ネオジャークマターが現れたらS.O.N.Gはどうなるんだ?！」

小太郎「和斗、今は寝よう、明日の事は皆で考えよう！」

和斗「あ：ああ、そうだな、それじゃお休み！」

和斗は宿泊室に戻る。

次の日の朝

北海道リベリオン本部の格納庫

シヨウ・ロンポー「よし、皆、忘れ物はないかね?！」

蓮司「バッチリOKやで!」

小太郎「こっちもOK!」

シヨウ・ロンポー「よし、では行こうか?!」

リトルベアー「シヨウ総司令、待ってください、これを持って行ってください!」

リトルベアー司令はシヨウ総司令にアタツシケースを渡し開けると量産型セイザ  
ブラスタターが7つ入ってた。

ステインガー「これは? 量産型セイザブラスタター? いいのか? 俺達に貰って?!」

リトルベアー「はい、シンフォギア装者の人達に使って下さい、きつと何かの役に立  
てます!」

シヨウ・ロンポー「ウム、ありがとう、ではまた様子を見に行くよ!」

リトルベアー「はい、本部が直ったら来て下さい!」

和斗「今度は響と未来を連れてきて墓参りに行くぜ!」

リトルベアー「はい、きつと喜びますよ!」

俺達はリトルベアー司令に別れの挨拶をしてバトルオリオンシップに入り、ラフタが  
すぐ発進した。

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

シヨウ・ロンポー「さて、東京に戻る前に皆に話がある！」  
アミ「どうしたのですか？総司令?!」

ラフタ「実は北海道本部襲撃前にリトルベアー司令からいい情報を手に入れました！」

シヨウ・ロンポー「ああ、君達が手に入れた聖遺物キュータマの残りの情報を見つけ  
たんだよ！」

功太「マジで？何処にあるんだ、残りは?!」

ステインガー「今からモニターを写す、ラフタ！」

ラフタ「わかりました！」

ラフタはすぐにモニターを写し、聖遺物キュータマの残りのある情報を俺達に見せ  
る。

壮汰「残りの4つのあたりかは千葉県、埼玉、兵庫県、博多にあるのか！」

ラフタ「はい、この情報だと千葉県にはアガートラムキュータマ、埼玉にはイガリ  
マキュータマ、兵庫県にはアメノハバキリキュータマ、博多にはシウルシャガナキ  
ュータマのあたりかを見つけました！」

蓮司「よっしゃ、残りの4つをさっさと纏めて手に入れるで！」

小太郎「焦らないで蓮司、その前にやることがあるよ！」

セレナ「そうですね、先に東京に戻らないといけませんから!」

シヨウ・ロンポー「そうだよ、間もなく東京リベリオン本部も完成するからね!」  
ビービー

ラフタ「東京にアルカノイズ反応?これは発電施設に向かっています!」  
ステインガー「何?発電所だど?!」

東京発電施設

自衛隊達がアルカノイズに応戦していた。

隊長「よし、バズーカを撃て!」

兵士「了解、発射!」

ドーン

隊長「よし、やったぞ!」

兵士「なっ?後ろから?うわああ!」

S・O・N・G潜水基地

友里「自衛隊、アルカノイズに苦戦の様です!」

藤高「発電施設の防衛確率20%切りました!」



玄十郎「不味いな、発電施設が破壊されたら電気が失いエネルギーが切れる！」  
未来「このままじゃ響が！」

クリス「それよりギアの改修まだなのかよ?!」

エルフナイン「すみません、残り30分はかかります！」

奏「あれ？マリア、切歌と調がないぞ！」

マリア「えっ？あの子達まさか?!」

発電施設周辺の街

調「切ちゃん、行こう、私達が皆を守ろう！」

切歌「ガッテンデス調、行くデス！」

調と切歌はギアペンダントを出して歌ってギアを纏った。

一方、バトルオリオンシッブブリーフィングループ

ラフタ「これは？切歌と調がギアを纏って戦っています！」

エリ「えっ？切歌と調が?!」

ラフタ「はい、現在、発電施設を守るために戦っています！」

功太「バックファイアが出す前に行くぞ和斗先輩！」

和斗「ラフタ、東京に着く時間は何時だ?!」

ラフタ「最低のところ二時間ぐらいかかります!」

シヨウ・ロンポー「よし、和斗君、君達5人は一足先に東京に行つて切歌ちゃんと調ちゃんの援護に行くんだ、キューレット・ザ・チャンス!」

ポン

ポン

ポン

ポン

ポン

シヨウ総司令が引いたメンバーは俺と祐一と功太と蓮司とセレナだ。

祐一「よし、行くぞ!」

セレナ「切歌さん、調さん、待つててください、私達が今からそつちにいきます!」

発電施設周辺

調「やー!」

切歌「デース!」

切歌と調は歌を歌いながらアームドギアでアルカノイズに攻撃していた。

S・O・N・G 司令室

クリス「戻れバカ、ギアからのバックファイアが出たら体が持たねえぞ！」

クリスは切歌と調に戻れと忠告。

友里「それにしても二人のギアからのバックファイアが出てないわ、しかも安定になってるわ！」

マリア「えっ？あの子達？Lincoln無しでどうやって纏えたの?!」

翼「ああ、私も詳しくはわからんがどうなってるのですか司令?!」

玄十郎「まさか？アイツら医務室からモデルKのLincolnを勝手に持ち出していったな！」

奏「あたしのLincolnをどうしてアイツらが?!」

発電施設の周辺

調「翼さんとクリス先輩の強化型シンフォギアが完成するまでは！」

切歌「ここを守りきるデス！」

一方、和斗達は。

セレナ「ラフタから連絡です、和斗さん、切歌さんと調さんが苦戦していますがLincolnを投与しています！」

和斗「どういうことだ? Lincolnはラフタが開発してるのに?!」

蓮司「とにかく急ぐで、キウボイジャー最大ブーストや!」

功太「ああ、切歌、調、俺達が来るまで生きててくれよ!」

S. O. N. G 司令室

響「調ちゃん? 切歌ちゃん?!」

翼「立花?!」

未来「響!」

未来は響を抱きしめ。

響「心配かけてごめんね未来!」

玄十郎「響君? 大丈夫なのか?!」

響「はい、大丈夫です、状況はどうなんですか?!」

友里「今の所、切歌ちゃんと調ちゃんが発電施設を守りながら戦ってるのよ!」

クリス「奏先輩の Lincoln を持って行ってな!」

発電施設周辺

切歌「調、頑張るデスよ!」

調「私達2人がやらなきや、あの時のようにはいかない！」

そう、切歌と調、マリアには償いがあった、響達を偽善者と言い、響達と対立したことで、それが許される償いだった。

？「おつ、装者ふたりみーつけ！」

切歌と調の前に現れた赤い服を着た子供じみたオートスコアラ、そう響のガンダニールのコアを潰したミカだ。

調「オートスコアラ?!」

切歌「ここは守り抜くデス！」

ミカ「キャハハ、お前らもアイツのようにバラバラにしてやる！」

調「私達を！」

切歌「なめないで欲しいデス！」

2人「たー！」（デース！）

ミカ「キャハハ、先ずは緑からバラバラタイムだ！」

ミカは右腕の爪を構え、切歌の所へ駆けながら攻撃し、切歌はアームドギアの鎌で攻撃を防いだ。

切歌「負けないデース、アタシ達は皆の役にたつために戦ってるデース、アタシ達が変わらなきや何も変わらないデース！」

調「私達の初めての友達のアミとエリ、蓮司達が私達を変えてくれたから私達は皆を守る!」

響「私も守れる拳がもつとあれば皆を救えたのに!」

未来「響!」

藤高「司令?イガリマのLincolnが切れかけてます!」

玄十郎「何だと?切歌君?退くんだ、これ以上は持たないぞ!」

切歌「嫌デス、アタシ達はやることをやるまでは諦めないデース!」

ミカ「ハハハ、バイナラ!」

切歌「うわっ!」

ミカの勢いのよい爪攻撃で切歌のアームドギアごとイガリマのコアを切り裂き倒れる。

調「切ちゃん?!」

ミカ「ヒヤハハ、次はお前の番だゾ！」

切歌「調、早く逃げるデス！」

調「嫌、切ちゃんを置いては行けない、私の命は全部切ちゃんに救われた命、今度は私が助ける番！」

調は頭部のアームドギアとヨーヨー型のアームドギアでアルカノイズを切り裂いた。

ミカ「おつ、なかなかやるなオマエ！」

調「どけー！」

藤高「シユルシヤガナのLincolnも限界が過ぎてきます！」

クリス「もうやめろ調、早く逃げろ、逃げろよ！」

そして

調の右髪のアームドギアが粉々になり、ヨーヨーのアームドギアでアルカノイズに攻

撃すると。

ミカ「オマエもバイナラ!」

調「きゃあ!」

アルカノイズの触手攻撃が調のシウルシャガナのコアを触れ砕け、ギアが解除して倒れる、アルカノイズが調の方へ向かって進む。

未来「調ちゃん、切歌ちゃん、逃げて!」

奏「オイ、翼とクリスのギアの改修はまだか?!」

エルフナイン「まだ少しかかります!」

玄十郎「緒川!」

緒川「はい、今から救出に向かいます!」

切歌「誰か、助けて欲しいデス、調をアタシの大切な友達を救って欲しいデス!」  
アルカノイズが調の所へ歩き出し。



ミカ「ヒヤヒヤヒヤ終わりダゾ！」

調「……?!」

アルカノイズは調に触手攻撃をしようとし。

切歌「誰か調を、誰かー！」

? 「おう、待たせたな2人とも！」

切歌「えっ?!」

ガオー

シシボイジャー達が来て調周辺のアルカノイズに向けてビーム攻撃し、キュータマを射出し俺達の姿を現す。

響・未来「和斗君！」

クリス「祐一！」

翼「えっ?!」

マリア「セレナ? どうしてセレナがここに?!」

奏「旦那、アイツらは誰なんだ? まさか?!」

玄十郎「ああ、奏と翼とマリア君がいない間、俺達S・O・N・Gは同盟に結んだ！」

翼「同盟? 司令? それじゃ彼らは?!」

ウイーン

入ってきたシヨウ総司令。

シヨウ・ロンポー「そう、彼らはラッキー達を受け継ぐキュウレンジャーなのだ!」

功太「切歌?大丈夫か?よつと!」

功太と蓮司は切歌と調をお姫様抱っこで抱え、セレナが2人に隊員ジャケットを着させた。

調「和斗先輩?蓮司?皆、戻って来たのですか?!」

和斗「ああ、俺達がない間、よく頑張ったな2人とも!」

蓮司「後はワイらに任せや、2人とも!」

蓮司と功太はお姫様抱っこした切歌と調をおろして座らし。

ミカ「だ、誰だ?オマエラ、もしかして新たな装者か?!」

和斗「やい、オートスコアラ、良くも俺達がない間に響と切歌と調達を痛めつけたな!」

祐一「貴様ら、たつぷりお礼をさせて貰うぞ!」

祐一は鋭い目でミカを睨む。

響「和斗君！」

和斗「よし、皆、行くぞ！」

4人「『おう！』」（はいな！）（はい！）

5人「『『マワースライド！』』』』』」

セイザチエンジ！

5人「スターチエンジ！」

俺達はすぐにキュウレンジャーに変身した。

ミカ「オ：． オマエらはまさか?!」

シシレッド「スーパースター、シシレッド！」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ！」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー！」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエローです！」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊！」

5人「[[[[「キュウレンジャー!」]]]]」

俺達はかつこよくポーズを決めた。

切歌「やったー、和斗先輩達が帰ってきたデース！」

調「和斗先輩！」

NEWS STORY

## スペース23、対決オートスコアラー！

シシレット「お前らの運、試してやるぜ！」

ミカ「キャキャキャ、お前らもバラバラにしてやるぜ、行け！」

アルカノイズは俺達に向かって進み。

シシレット「行くぜ、皆！」

4人「「おう！」」（行くで！）（はい！）

究極！無敵！！キュウレンジャーの曲が流れて和斗達もキューウエポンを構えて進んで戦闘を開始した。

S. O. N. G潜水司令室

響「行けー和斗君、皆！」

奏「なあ響、アイツ、シシレットをなんか知ってるのか?！」

響「はい、獅子野和斗君は私と未来の幼なじみでラツキーさんを受け継ぐシシレットです！」

響は奏にシシレットが和斗だと答え。

未来「1年前はタワーで私と響を助けたのはラッキーさんとガルさんでした!」

翼「立花と小日向を助けたのはラッキーとガルという人か?!」

マリア「ええ、それにフロンティア事変の時は聖遺物を纏ったセレナと融合症候群の立花響を救い、私達と共にネフィリムを倒したわ!」

翼「けど何故彼がシシレッドなのか?!」

ステインガー「それは俺が教えよう、7年前にアイツが埼玉にいた頃は車にひかれそうになった子供を庇って事故にあい、病院でラッキーが輸血して助かって、今は和斗がシシレッドなんだ!」

マリア「それで私達がいけない間は彼やセレナ達がキュウレンジャーになったのね?!」

玄十郎「ああ、彼らがキュータマに共鳴して選ばれたんだよ、小太郎君とショウ総司令以外!」

ショウ・ロンポー「ウム、今も新たな敵、ネオジャークマターやノイズが現れた時は響ちゃんとクリスちゃんも一緒に戦っていたよ!」

発電施設周辺

シシレッド「おら、どりゃ!」

サソリオレンジ「はあー!」

へびツカイシルバー「おりや！」

テンビンゴールド「くらえや！」

カジキイエロー「えい、それ！」

俺と祐一と功太と蓮司とセレナは切歌と調周辺のアルカノイズをキューウエポンで攻撃。

ミカ「ヒヤヒヤ、面白そうだなオマエら、なら、これならどうだ?!」

ミカはアルカノイズを多数出してきた。

シシレッド「よし、ストライカーモードで行くぞ祐一！」

カジキイエロー「和斗さん、すみません、シシストライカーはラフタがバトルオリオ

ンシップで修理中です！」

シシレッド「えー？早く言ってくれよ！」

シヨウ・ロンポー「よし和斗君、キューバツクルからキュータマを出してみろ！」

シシレッド「こうか?!」

和斗はキューバツクルからキュータマを出し、赤と黄色が混ぜ合わせたキュータマ、

そう太陽と月の合わせたキュータマ、ヒカリキュータマだった。

シシレッド「これか? よーしやってみるぜ!」

ヒカリキュータマ、太陽モード、セイザチエンジ!

すると

シシレッドの頭の部分に赤い太陽のパーツを装着、そうこれが。

シシレッド「太陽スター、シシレッドシャイニング!」

シシレッドシャイニングになった和斗は熱い元気な声を上げた。

響「うわー、和斗君、お日様模様になってるよ未来!」

未来「うん、でもなんだかかわいい!」

響と未来はモニターで和斗がシシレッドシャイニングになったのを見てかわいいと思った。

シヨウ・ロンポー「そう? 和斗君、響ちゃんと未来ちゃん、君の事かわいいと誉めてくれたよ!」



シシレッド「ホントか？よし響と未来のために頑張るぜ、それ！」  
ピカッ

和斗は頭の部分の太陽の形から全体が光り。

響「うわー？まぶしい！」

クリス「照らしすぎだろ?!」

翼「すまん、見えんぞ！」

玄十郎「これがヒカリキュータマの力なのか?!」

シヨウ・ロンポー「はっはー、驚くのはこれからだよ、和斗君、蓮司君に向かって照らしてみて！」

シシレッド「こうか?!」

俺は蓮司に向かって照らし、すると。

ピカッ

テンビンゴールド「おっ、なんだか体が光って気合が入ってきたで！」

蓮司の体がピカピカに光、気合いが入ってきた。

切歌「ツルツルデース！」

調「ピカピカ！」

ヘビツカイシルバー「おっ？蓮司が光ったら気合いが入るのか?！」

シシレッド「スゲー、このままアルカノイズ共に体当たりだー！」

俺が光ながら体当たりをすると次々とアルカノイズ共が消滅。

奏「スゲー、光ながら体当たりしてアルカノイズが消滅してるぞ?！」

翼「ああ、私の時は苦戦したがどんな力なんだ?！」

シヨウ・ロンポー「フフフ、ヒカリキュータマを使って光ながら体当たりするとノイズが消滅することが出来るよ！」

シヨウ総司令は翼と奏にヒカリキュータマの光ながら体当たりを説明。

エルフナイン「スゴいです、キュウレンジャーの皆さんの力は！」

テンビンゴールド「よっしゃ、和斗先輩、祐一さん、ワイと功太はアルカノイズを倒しながら切歌と調を守るで！」

ヘビツカイシルバー「ああ、和斗先輩達はあの人形野郎をぶっ飛ばせ！」  
カジキイエロー「2人だけじゃ心配ですから私も援護します！」

サソリオレンジ「ああ、頼むぞセレナ！」

サソリストライカー！

セイザゴー！

祐一はサソリストライカーキュータマを使って出現し乗り、タッチパネルをした。

セイザドツキングモードオン！

祐一はサソリストライカーと合体してストライカーモードになった。

翼「なっ？今度はバイクと合体しただと?!」

クリス「てっ？なんじゃこりゃ?!」

クリスはバイクと合体した祐一を見てツッコミした。

ステインガー「ああ、真ん中のタッチパネルをタッチするとセイザドツキングモードで合体してストライカーモードになれるぞ！」

奏「何でもやれるなキュウレンジャーは！」

シヨウ・ロンポー「はっはっ、スゴいだろ?ちなみにあのバイクはボクチンが惑星ダカオのリベリオン生産工場で工場長に頼んで設計と開発したんだよ、和斗君と小太郎とあわせて3人分ね！」

響「あの?和斗君達もしかして?!

シヨウ・ロンポー「勿論、同じ合体してストライカーモードになれるよ！」

シシレッド「よっしや、行こうぜ祐一、人形野郎を倒そうぜ！」

サソリオレンジ「ああ、行くぞ和斗！」

2人「うおー！」

俺と祐一はオートスコアラーに向かって進行、アルカノイズを倒しながら進む。

ミカ「キャハハ、オマエラ2人バラバラにしてやる！」

ミカは手から赤い棒が発射し攻撃。

シシレッド「うわっ?危な?だったらこれでもくらえ！」

ピカッ

ミカ「うわっ?眩しくてミエナイゾ?!

サソリオレンジ「よし、今だ！」

俺は光ってミカを目眩まし、その隙に俺と祐一はキューウエポンやストライカーモードのパンチで攻撃した。

ミカ「よくも目眩まししてくれたなオマエ、オマエからやつつけてやるゾ！」

シヨウ・ロンポー「よし和斗君、次は黄色の方へ差し替えて！」

和斗はセイザブラスターにつけてるヒカリキュータマを今度は黄色の方へ裏返してつける。

ヒカリキュータマ、月モード、セイザチェンジ！

今度は和斗の頭の部分に太陽から月が変わる。

シシレッド「ムーデイスター、シシレッドムーン！」

シシレッドムーンになった和斗はクールな性格に変わった。

響「おっ？今度は月の形だよ未来！」

未来「でも、なんだか和斗君、クールになってカッコいい！」

シヨウ・ロンポー「ヒカリキュータマにはもう1つのフォームになれるよ、黄色の方を付け替えたらムーンモードにもなれるよ!」

ミカ「また変わったな?お返しだゾ、くらえ!」

ミカは爪攻撃で和斗に攻撃、すると。

シシレッド「ふっ、はっ、ほっ!」

和斗はミカの爪攻撃を華麗にキレもなく避けていった。

マリア「華麗な避け方ね、それに動きもなんだかキレイね!」

玄十郎「ああ、クールな性格になると華麗になるのか?!」

ギヤラクシー!

テンビンゴールド「くらえやリブラインパクトや!」

ヘビツカイシルバー「オヒューカスインパクト!」

カジキイエロー「ドラドインパクトです!」

セレナ達はキューウエポンの必殺技で残りのアルカノイズを全滅。

へびツカイシルバー「よっしや、倒したぜ！」

カジキエイエロー「後は和斗さんと祐一さんが決めます！」

切歌「セレナ、ありがとうデス！」

調「功太も蓮司もありがとう助けて！」

テンビンゴールド「良かったで無事に！」

シシレッド「ふっ！」

サソリオレンジ「はあー！」

俺と祐一はミカにパンチやキック攻撃し。

ミカ「うわー、ヤバい？ヤメテクレ、許してダゾ！」

サソリオレンジ「悪いな、お前は悪どいから駄目だ！」

ギヤラクシー！

サソリオレンジ「くらえ、アンタレスブレイク！」

祐一は必殺技でミカに向かって放ち。

ミカ「キャハハ、防いだぞ！」

シシレッド「最後は俺が決めるぜ！」

ギヤラクシー！

シシレッド「太陽ヘッドバットー！」

ドーン

シャイニングモードになった俺はミカに向かってヘッドバットを決めた。

ミカ「わああ、覚えてろよオマエラー！」

キラン

2人「グッドラックー！」

シシレッド「決まったな祐一、俺達の連携攻撃は！」

サソリオレンジ「ああ、最後はお前がシャイニングヘッドバットで決めるとは！」

シシレッド「ああ、蓮司達の方に戻ろうぜ、切歌達が待つてるからな！」

すると

シユン

シシレッド「えっ?!」

目にも止まらないビームが和斗の体に直撃。

和斗「ぐは！」

変身解除し、和斗は口から血が吐いて倒れた。

サソリオレンジ「和斗? しっかりしろ? 和斗? ん? お前はジェミスとキャロル?!」

祐一が正面を見たらキャロルとジェミスだった。



カジキイエロー「和斗さん？しっかりしてください？和斗さん?!」

テンビンゴールド「しっかりするんや和斗リーダー?!」

ヘビツカイシルバー「和斗先輩？先輩?!」

セレナ達も切歌と調を連れて合流し、和斗を起こしても起きない。

ジェミニス「フフフ、私のビームを食らって重症をおったな!」

キャロル「さあ？お前達も相手にしてやろうか?!」

サソリオレンジ「ジェミニス、キャロル、貴様ら!」

シヨウ・ロンポー「祐一、皆、ジェミニスとキャロルの相手をしては駄目だ、和斗君達を連れて撤退だ、いいか?!」

サソリオレンジ「くっ、オツキュウ!」

セイザゴー!

祐一達はキュウボイジャーを出して和斗達を乗せて撤退した。

シヨウ・ロンポー「玄十郎君、和斗君の方はS・O・N・Gの医務室で治療を頼む、切歌ちやんと調ちやんの方はLincornの体内洗浄を頼む!」

玄十郎「了解した総司令、緒川、すぐに医療班を手配だ!」

緒川「わかりました!」

響「和斗君? : : 私と未来を残して死なないでよ?!」

未来「和斗君? 嫌、いやああああー!」

未来は和斗が倒れた姿を見て泣き叫んだ。

NEWS STORY

スペース24、イグナイトモジュール抜剣、覚醒のサイ  
コーキキュータマ!

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

ブリーフィングルームにはシヨウ総司令、ステインガー司令、玄十郎司令と翼と奏と  
マリアとエルフナインが座っていた。

玄十郎「何だと?シヨウ総司令の所にもキャロルがいただと?!

シヨウ・ロンポー「ウム、北海道リベリオン本部にジェミニスとキャロルが現れて襲  
撃しに来たんだよ!」

ステインガー「ああ、北海道リベリオン本部が半壊されキュウレンジャー候補生が2  
0人犠牲になってしまった!」

シヨウ・ロンポー「それだけじゃないよ、惑星ダカオでのリベリオン生産工場を襲撃  
しにきたダークキュウレンジャーの正体はセレナちゃんとマリアちゃん達F・I・S  
時代の人達のクローンだよ!」

マリア「それはどういう事ですか?!

ステインガー「セレナからの報告によるとネオジャークマターに協力してる研究者が

F・I・Sの子供の死体の血液を採取してグリズラーが製造して誕生したんだ!」

ステインガー司令はマリアにダークキウレンジャー誕生の事を話す。

奏「ネオジャークマターという奴ら、許さねえぜ!」

シヨウ・ロンポー「そうだね、所で和斗君の容態はどうしたのかね?!」

玄十郎「今の所は無事だがまだ意識不明、響君と未来君が付き添いに行ってる!」

シヨウ・ロンポー「今は安静にさせないと、問題なのは世界を壊そうとしたキャロルとネオジャークマターのジェミニスについて、所で君は誰かね?!」

エルフナイン「あつ、シヨウ総司令、初めまして、僕はエルフナインです、ある目的のためにS・O・N・Gに協力してます!」

エルフナインがシヨウ総司令達に自己紹介。

ステインガー「ある目的とは?!」

一方、S・O・N・Gの医務室

響と未来は病室ベットに寝てる和斗の付き添いした。

響「ひつく、嫌だよ和斗君、目を覚ましてよ、せつかく帰ってきたのに!」

未来「ひつく、ひつく、和斗君?死なないで!」

響と未来は和斗の手を繋ぎながら涙を流す。

S・O・N・G 休憩所

切歌「響さんと未来さん、泣いてたデス、調！」

調「今はそつとしておこう切ちゃん、和斗先輩が重症して付き添ってる！」  
ドン

祐一は強く机を叩き。

祐一「アイツら、よくも響と未来の大切な幼なじみを許さん！」

クリス「祐一、あの時を怒るなよ、許せねえのはお前だけじゃねえぞ！」

祐一「わかってる、けど響と未来の涙を見て悲しませたんだ！」

功太「和斗先輩！」

蓮司「和斗リーダー！」

その頃

シヨウ・ロンポー「何？ギアの改修とプロジェクトイグナイトだと？それはどんな機能なのかね?！」

玄十郎「ああ、エルフナイン君がキャロルの所へ脱走して持ち出した聖遺物、魔剣ダ

インスレイフを使って強化型シンフォギアを開発してる、それがプロジエクトイグナイトだ!」

エルフナイン「それではボクが説明します、プロジエクトイグナイトとはアルカノイズやキャロル達に対抗すべく響さん達7人のシンフォギアの新たな機能です!」

ステインガー「それで今、改修したギアペンダントの方は翼と奏とクリスか?!」

エルフナイン「はい、響さんの方は明日には改修しますが、イグナイトモジュール抜剣すると暴走する可能性があります!」

エルフナインがシヨウ総司令達にイグナイトモジュールの説明を告ぎ。

シヨウ・ロンポー「なるほど君の目的は世界を壊す歌をしようとしたキャロルの野望を止めるためにS・O・N・Gに協力してたんだね?!」

エルフナイン「はい、だから僕は風鳴司令に協力してシンフォギアをイグナイトモジュールに改修しました!」

翼「だが、使ってしまったては私と雪音と奏の体はどうなってしまったのでしょうか?!」

翼と玄十郎司令はイグナイトモジュールに悩み。

シヨウ・ロンポー「よし、もし出撃するならボクチン達も出よう、今はそれしか方法がないからね!」

翼「シヨウ総司令、ありがとうございます！」

シヨウ・ロンポー「なーに、その為にボクチン達は玄十郎司令と同盟に結んで来たからね！」

エルフナイン「それじゃボクは明日までに響さんのギアペンダントの改修をしておきます、切歌さんと調さんのギアペンダントとマリアさんが持ってたセレナさんのギアペンダントの改修も何とかやってみます！」

マリア「ありがとう、エルフナインでも、あまり無理はしないでね、私も皆も心配するからね！」

奏「ああ、そんなことよりマリア、せっかくバトルオリオンシップに入ってるから格納庫とか見に行こうぜ、あたしもキューボーイジャーやら見てみたいからな！」

マリア「そうね、厨房とか見てみたいわ、後、部屋とか色々！」

エルフナイン「あの、本部に戻る前にボクも一緒に行っていいですか？ボクも色々勉強したくて！」

奏「おう、いいぜ、じゃあ旦那、アタシとマリアとエルフナインはバトルオリオンシップの格納庫やら見に行ってくる！」

ウィーン

奏はマリアとエルフナインを連れてバトルオリオンシップの見学に行き。

翼「もう奏、待ちなさい、司令、総司令、ステインガー司令、私も奏達が心配なのでついていってきます！」

ウィーン

翼も出て奏達の後をついていった。

シヨウ・ロンポー「やれやれトップアーティストのツヴァイウィングとスターのマリアちゃんは若いね、ボクチンは疲れるよ！」

玄十郎「まあ我慢してくれシヨウ総司令、翼達も頑張ってるからな！」

ステインガー「そうだな、翼と奏、マリアには自分なりに頑張ってるからな。： 和斗、俺達も響と未来もお前が生きてる事を信じてるからな！」

数時間後の夜

響と未来達が帰った後、和斗はまだS・O・N・Gの医務室のベットでまだ昏睡状態だった。

次の日の朝。

響と未来は和斗のいる医務室のベットに行ってお見舞いに付き添う、今日はリディア



ンの授業が昼過ぎに終わり、なるべく和斗の所へ来ていた。

響「和斗君？聞こえてる？私ね和斗君がいない間、未来と2人で和斗君の大好物のカレーを2人で作ったよ、味の方は私と未来が工夫にしてたから問題ないよ……！」

未来「響?!」

響はまた涙を流した。

響「ひつく、和斗君？起きてよ？帰ってきたら私と未来と一緒にデートに行く約束なのに私と未来を悲しませないでよ、うわーん！」

未来「響！」

未来も響の後ろを抱きしめ一緒に涙を流した。

和斗の意識の中

和斗（あれ？俺は一体？そうか、俺はジェミニスの攻撃で重症になったのか?!）

和斗は意識の中で暗闇にさまよい。

？（うわーん、和斗君！）

？（和斗君？私と響を残して死なないで！）

和斗（今の声？まさか?!）

俺は響と未来が聞こえた声に向かって進み、光景を見ると。

和斗（あれ？響？未来？、何で泣いてるんだ？そうか、俺はジェミニスの攻撃で重症になって2人を悲しませたんだ、待ってる2人とも今起きるぞ！）

和斗は意識の中で響と未来のいる光景に向かおうとすると。

？（和斗、久しぶりだな、よっしやラツキー！）

和斗（えっ？よっしやラツキー？今の掛け声、もしかしてラツキーさん?!）

和斗の意識の中に和斗の前に現れた白いロングコートの獅子のエンブレムの男、7年前、かつてシヨウ・ロンポー達リベリオンと一緒にジャークマターを打ち砕き、宇宙を解放した初代シシレット、ラツキーだった。

和斗（ラツキーさん？どうして俺の意識の中に来てたんだ?!）

ラツキー（そうだな、和斗、お前に俺からの試練を受けてもらおうか?!）

和斗（ラツキーさんからの試練?!）

ラツキー（そうだ、ここを通りたかったら俺と戦ってもらおうぞ、但し、変身して戦う！）

シシキュータマ！

セイザチエンジ！

ラツキー（スターチエンジ！）

ラツキーはシシレットに変身して武器を構える。

シシレッド（ラッキー）（さあ響と未来の所へ行きときや俺の試練を越えてみる！）  
和斗（やるしかないか、やってやる！）

セイザチェンジ！

和斗（スターチェンジ！）

俺もシシレッドに変身して武器を構え。

シシレッド（ラッキー）（よし、やるぞ！）

シシレッド（和斗）（ああ、行くぜラッキーさん、うおー！）

S・O・N・G 司令室

ビービービー

玄十郎「どうした?！」

友里「自衛隊基地にアルカノイズ及び生体反応?これは錬金術師です!」

藤高「モニター写します!」

溯哉がモニターを写すと数十体のアルカノイズとキャロルが見えた。

エルフナイン「あれは?キャロル?！」

翼「あれが首謀者か?！」

クリス「上等だ、強化型シンフォギアの力を見せてやるぜ!」

S・O・N・G 医務室

未来「響?このサイレン、もしかして?!

響「うん、キャロルちゃん達が現れたに違いないよ!」

響は涙を拭いて顔を上げ。

未来「響、和斗君の方は私が見てあげるね!」

響「うん、お願い未来!」

ウイーン

響は医務室を出て司令室に向かい。

未来「気をつけてね響!」

司令室

響「師匠、お待たせしました!」

玄十郎「響君?、未来君は何処に行ったんだ?!

響「未来は医務室で和斗君の付き添いにいます。あれはキャロルちゃん?!

響はモニターを見てキャロルを見つけ。

響「止めなきや、キャロルちゃんの野望を!」

エルフナイン「響さん、これを！」

エルフナインは修復したガングニールのギアペンダントを響に渡し。

響「これは？私のガングニール?!」

エルフナイン「今日まで何とか修復しました、だがイグナイトモジュールを使うときは要注意です！」

奏「響、いけるか?!」

響「はい、行けます！」

ピッ

シヨウ・ロンポー「よし、ボクチン達も響ちゃん達の援護をするよ、出撃メンバーは小太郎、祐一、壮汰、剛、そしてボクチンだ！」

玄十郎「よし、出撃だ！」

全員「オツキュウ！」（はい!）（おうよ!）

玄十郎の掛け声で全員出撃した。

マリア「翼、奏！」

切歌「響さん、クリス先輩！」

調「シヨウ総司令さん、皆さん、気をつけて下さい！」

一方、和斗の意識の中

シシレッド（和斗）（おりゃ!）

シシレッド（ラッキー）（はっ、おりゃ!）

和斗はラッキーの試練で対決していた。

シシレッド（ラッキー）（やるな、和斗、だけどそんな攻撃じゃまだ甘いぜ!）

シシレッド（和斗）（えっ? うわっ!）

ラッキーは隙をつけて和斗の腹にカウンタキック。

シシレッド（和斗）（強い、さすがは伝説のシシレッドの力なのか?!）

シシレッド（ラッキー）（さあ、どうしたんだ? お前の力はそんなもんじゃないだろ?!）

シシレッド（和斗）（くっ、諦めるもんかよ、うおー!）

東京自衛隊基地周辺

キャロルのいる現場についたシヨウ総司令達と響達4人。

シヨウ・ロンポー「キャロル、もうこれ以上はキミの好きにはさせないよ!」

響「キャロルちゃん!」

キャロル「来たか、シンフォギアとキュウレンジャー共、待ちわびたぞ！」

クリス「オメーら、覚悟しやがれ、今日のあたし達は一味ちげーぜ！」

シヨウ・ロンポー「よし、皆、行こう！」

セイザチエンジ！

4人「スターチエンジ！」

シヨウ・ロンポー「ガリヨウテンセイ！」

シヨウ総司令達はキュウレンジャーに変身し、響達4人は歌を歌ってギアを纏った。

リュウコマンダー「ドラゴンマスター、リュウコマンダー！」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ！」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー！」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックでござす！」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー！」

響「ガングニールの装者、立花響！」

クリス「イチイバル、雪音クリス！」

リュウコマンダー「究極の救世主と装者、宇宙戦隊！」

7人「キュウレンジャー！」

シヨウ総司令達7人はかっこ良く決め。

奏「なあ響? キュウレンジャーといる時はいつもポーズを決めてるのか?!」

響「はい、和斗君達といる時は一緒にポーズを決めています!」

クリス「あたしはちよつと恥ずかしいけどな!」

奏「へー、面白そうじゃん、翼、今度はあたし達も一緒にポーズしようぜ!」

翼「もー、奏、私達は恥ずかしい!」

翼は奏と一緒にポーズしようぜの言葉で恥ずかしがり。

キヤロル「キヤハハ、お前らは面白そうだな、ならこつちは本気で行かせてもらおうぞ!」

キヤロルは次元から金色の琴を出し、音を引き、すると、体が光り、大人の女性の姿に変わり、赤い魔法使いな鎧を纏う、そうキヤロルの聖遺物、ダウルダブラだ。

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

蓮司「なっ? なんやアイツ? 大人の女性に変わったで?!」

ステインガー「ラフタ、分析だ!」

ラフタ「はい: : : 分析を完了したところ、キヤロルはあの聖遺物を纏うと大人の女性に変わり能力が上がります!」

功太「シヨウ総司令と壮汰達、アイツに勝てるのか?!」

セレナ「今は祈るしかありません!」



エリ「剛、壮汰！」

アミ「頑張つて！」

リュウコマンダー「よし、小太郎達はアルカノイズ迎撃及び響ちゃん達の援護を頼む、キャロルは私に任せろ！」

コグマスカイプルー「総司令？一人で大丈夫?!」

翼「私も奏が援護します！」

奏「シヨウのおっちゃん、あんたも無理はすんなよ！」

リュウコマンダー「なっ？なににお、でも2人とも、ありがとう、よーし行くぞ！」

全員「うおー！」

シヨウ総司令達9人はアルカノイズとキャロルに向かって進み攻撃。

一方、S・O・N・G 医務室

未来「じゃあ和斗君、私、響の所に行くてくる響達が心配だから、私、信じてるよ和斗君が目覚めることをずっと！」

未来は誰もいない医務室のベットに寝てる和斗の唇を重ねキスをした。

未来「私と響、和斗君の事、ずっと大好きだから！」  
ウーン

未来は医務室を出て玄十郎とマリア達がいる司令室に行った。  
ドクン

和斗の心臓の音がなり。

和斗の意識の中

和斗はラッキーの試練に苦戦し変身が解けた。

シシレッド(ラッキー)(諦めるのか?お前の力はこんなものじゃないぞ?お前は何のために響と未来を守っているんだ?!)

和斗(俺は、俺は諦めない、響と未来やみんなのいる地球をネオジャークマターや世界を壊そうとしたキャロルに支配なんかさせない、俺は何度たつて諦めない!)  
すると

和斗の所に未来が現れ、和斗の顔を近づいてキスをして光りになって和斗の体の中に入った。

和斗(未来?俺のために?、うおー!)

セイザチエンジ!

和斗（スターチェンジ！）

シシレッド（ラッキー）（来い、和斗！）

シシレッド（和斗）（うおー！）

俺はキューソードを持ってラッキーの試練をもう一度受けた。

シシレッド（和斗）（俺はまだ戦える、俺は俺達はキューレンジャーを受け継ぐ戦士達だ！）

シシレッド（ラッキー）（良いぞ和斗、その調子だ、ならばこれはどうだ?!）

ラッキーは隙をついて和斗の腹に左腕のパンチをすると！

ガシツ

シシレッド（ラッキー）（なっ?うわっ?!）

和斗はラッキーの左腕をつかんで背負い投げをした。

シシレッド（ラッキー）（やるじゃんか和斗、ならば!）

ギヤラクシー!

シシレッド（ラッキー）（レグルスインパクト!）

カキン

シシレッド（和斗）（俺だって負けない、俺には響と未来がいるんだ!）

和斗はラッキーのレグルスインパクトをキューソードで見事防いだ。

シシレッド（ラッキー）（よっしやラッキー、試練を合格だ和斗!）

和斗とラッキーは試練を終了し、変身を解除。

和斗（ラッキーさん?もしかして?!）

ラッキー（ああ、俺の負けだ、俺のレグルスインパクトを防いで守れるものを守れたな!）

和斗（そんな…響と未来がいるから俺はまだ戦えたんだ!）

ラッキー（お前ならどんな物でも立ち上がって打ち砕くからな、さすが俺の後を受け継ぐシシレッドだ!）

ラッキーは和斗を認める。

和斗（俺、響と未来や皆のために戦う、ラッキーさんを受け継ぐキュウレンジャーとして、それじゃありがとう!）

和斗はラッキーに別れを告げ、響と未来の方へ向かった。

ラッキー（頑張れよ、和斗!）

?（ガウガウ!）

ラッキーに懐く小型のライオンはラッキーの友達でコジシボイジャーになるコジシ座系サイボーグマスコット、シーザーだ。

ラッキー（シーザー？あいつを助けたいのか?!）

シーザー（ガウ！）

シーザーはコクつと首を振り。

ラッキー（わかった、和斗やショウ総司令達を助けてやってくれ、これを持って！）

ラッキーはシーザーに地球儀のようなキュータマを渡す、そうシシレッドオリオンになるサイコキュータマだ。

シーザー（頑張れよ、シーザー！）

シーザー（ガウー！）

S・O・N・G 医務室

和斗「はっ？やつと目覚めた、痛っ、待ってるよ響、皆！」

キャロル「くらえ！」

キャロルは鋼鉄の弦でショウ総司令達を攻撃。

リュウコマンダー「くっ、能力がアップしていたか？よし、響ちゃん、翼ちゃん、クスちゃん、奏ちゃん、イグナイトモジュールを起動だ！」

翼「しかし、私達は暴走したら?!」

?「俺もフォローするぜ!」

響「えっ? 和斗君?!」

シシレッドの姿の和斗が響達と合流だがまだ怪我の状態だった。

マリア「和斗? 医務室から1人で抜け出したのね!」

未来「和斗君? 駄目、戦わないで!」

未来は和斗に戦わないでと心配し。

シシレッド「嫌だ、俺は響と未来の為、俺は何度たつて諦めない!」

リュウコマンダー「よし、和斗君は私と一緒に響ちゃん達のイグナイトモジュールの援護だ、行こうか和斗君!」

シシレッド「ああ、響、クリス先輩達、絶対に成功してくれ!」

響「和斗君: うん、絶対に成功してみるよ、翼さん、クリスちゃん、奏さん!」

翼「ああ、ちよつとした試練だ承けるさ!」

クリス「よっしゃ、やってやるぜ!」

奏「後輩やマリアにカッコいい所を見せようぜ！」

シシレッド「響、へいきへっちやらだろ?!」

響「うん、ありがとう和斗君、よし行こう！」

未来「響、和斗君！」

響「イグナイトモジュール！」

4人「抜剣！」

響達4人はギア胸ののコアを外してコアが変化、そして胸のを刺すと体から黒いオーラが発生した。

響「ぐっ、がはっ！」

翼「ぐは！」

クリス「がはっ！」

奏「ぐはっ！」

響達はイグナイトの黒いオーラに苦しみながら耐え。

キャロル「シンフォギア？何をするのか？、邪魔はさせてもらおうぞ！」

キャロルはすぐさま鋼鉄の弦を響達に向けて攻撃すると。

キン

シシレット「響達の邪魔はさせねえ!」

リュウコマンダー「それまでは私達が相手になるよ!」

マリア「呪いなんかには負けるな、自分の過去を乗り越えるのよ!」

切歌「勝つんデス!」

調「翼さん、皆さん!」

マリア達はモニターで響達を心配や応援し。

翼「そうだ、己の過去や悲しみを乗り越えてこそ!」

奏「自分を越えて!」

クリス「諦めねえ限り!」

響「未来に言われたんだ、この歌は皆を守る歌なんだ!」

友里「司令、4人のバイタルが上昇してます、これは和斗君が響ちゃんのを支えて



います！」

玄十郎「和斗君？無茶はするな?!」

未来「諦めないで、響、和斗君、皆！」

キャロル「ええーい、これでもくらえ！」

キャロルは響に向かって弦攻撃しようとする。

藤高「ん？司令？空から白い光が和斗君の方へ落ちてきます?!」

玄十郎「何だと?!」

ドーン

白い光がキャロルに命中。

キャロル「うわっ?!」

リュウコマンダー「あの光は？まさか?!」

シヨウ総司令が和斗の前に落ちた白い光の正体はラツキーが使ったキュータマ、サイ  
コーキュータマだ。

リュウコマンダー「サイコーキュータマとそれにシーザー？来てたのか?!」

シシレッド「えっ? 総司令、こいつを知ってるのか?!

リュウコマンダー「ああ、ラツキーの友達で共に戦った相棒だよ!」

ピカッ

サイコーキュータマが光だし、響達に力を与え、和斗の体力を回復した。

響「力が漲る、うおおお!」

響、翼、クリス、奏のギアが黒くなり、ポーズを構える、イグナイトモジュールが成功した。

玄十郎「成功したな、お前達!」

クリス「よっしゃ、力が漲ったぜ、センパイ、奏センパイ!」

奏「ああ、それにしてもあたしのアームドギアの槍がまさか2つになったな!」

翼「ええ、これで対抗できるわ!」

響「和斗君、シヨウ総司令、皆、守ってくれてありがとう!」

シシレッド「ああ、良かったな響、クリス先輩!」

リュウコマンダー「よし、和斗君、サイコーキュータマを使ってパワーアップだ!」

シシレッド「よし、今度は俺もパワーアップだ!」

和斗は直ぐ様サイコーキュータマを持ち、ボタンを押す。

ワツツア、サイコーキュータマ!

スーパーセイザエンジ!

和斗はサイコーキュータマを回転すると、獅子座とオリオン座の光が和斗を包み、白い姿に変わり、白いマントを着け最後に獅子座とオリオン座が合わせたヘルメットに変わる、そうこれがシシレッドオリオンだ。

響「わあー、和斗君がパワーアップした?!」

リュウコマンダー「ハハハ、スゴいだろ?これがシシレッドのパワーアップした姿!」  
シシレッドオリオン「ミラクルスター、シシレッドオリオン!」

和斗はクールにポーズを決め。

玄十郎「シシレッドオリオンだと?!」

マリア「あれがフロンティア事変で私達とネフィリムを倒したシシレッドオリオン?!」

未来「和斗君、カッコいい♡!」

キャロル「何だと?!」

NEWS STORY  
「お前の運、試してもらおうぜ！」

スペース25、決着の戦い、和斗&装者4人VSキャロル

！

シシレッドオリオンになった和斗。

キャロル「ほおー、面白そうな姿だな、ならば？こいつらはどうだ?!」

キャロルは魔法を使って何か出した、0号が4体。

リュウコマンダー「あれは？0号?!」

翼「あのロボットを知ってるのですか?!」

リュウコマンダー「ああ、7年前のジャークマターで開発したチャンプのそっくりロボット、キャロルめ、あんなものまで出したのか?!」

響「大丈夫ですよシヨウ総司令さん、今の私達ならやれます!」

シシレッドオリオン「ああ、俺達の力を見せてやる、シヨウ総司令は小太郎達と一緒にアルカノイズの残りを頼む!」

リュウコマンダー「わかった、でも大丈夫かな?!」

クリス「大丈夫だって、任せときな!」

奏「よーし行くぜ翼、皆!」

全員「おう!」(はい!) (御意!)

ミラクルスターシシレットオリオンの曲が流れて和斗達は戦闘を開始し、シヨウ総司令は小太郎達と合流。

キャロル「何度やつても同じだ、行くぞ!」

キャロルも0号と一緒に戦闘を開始した。

奏「おりや、くらえ!」

イグナイトになった奏は二本の槍で0号と対決。

翼「はあー、せいや!」

翼は剣のアームドギアで0号を切り裂き。

翼「すごい?これがイグナイトの力なのか?!」

クリス「これでもくらいやがれロボット野郎!」

クリスは大量のミサイルを出して命中。

オオカミブルー「すげー、あれが翼さん達のイグナイトの力なのか?!」

リュウコマンダー「そうだよ、イグナイトモジュールを発動するとアームドギアの能力が少しアップするんだよ!」

コグマスカイブルー「シヨウ総司令？和斗の方は大丈夫?!」

リュウコマンダー「それなら大丈夫だよ、響ちゃん達がついてるから、さあ私達は残りのアルカノイズを迎撃だ！」

オウシブラック「合点でござす！」

サソリオレンジ「ああ、響達が百人力だ！」

祐一達はシヨウ総司令と一緒に残りのアルカノイズを迎撃。

キャロル「これでもくらえ！」

キャロルは和斗と響に向かって弦攻撃を放ち。

カキン

キャロル「なっ？何?!」

獅子の赤いエンブレムが現れキャロルの弦攻撃を弾き。

響「すごい？キャロルちゃんの攻撃を弾いた?!」

シシレッドオリオン「ああ、これが？サイコーキュータマの力なのか?!」

和斗はエンブレムに手を刺し伸ばし中からキューソードを持った。

未来「キューソードがエンブレムから出てきてる?!」

切歌「なんか和斗先輩、スゴすぎデス?調!」

調「うん、なんだかカッコいい!」

未来と調と切歌はシシレッドオリオンの和斗を見てちよつと驚き。

シシレッドオリオン「行くぞキャロル!」

響「今度は私達の番だよ!」

2人「うおー!」

和斗と響はキャロルと残りの0号と対決。

シシレッドオリオン「うおー!」

俺はキャロルと剣と弦の対決をし。

キャロル「ほお、なかなかやるな?!」

シシレッドオリオン「当たり前だ、今の俺は一味違うぞ!」

キャロル「ならば?これはどうだ?!」

キャロルは隙を見え和斗に向けて炎の魔法攻撃をすると。

キャロル「なっ?消えただと?!」

?「俺はここだ!」

キャロル「えっ?うわああ!」



和斗は瞬間移動でいつの間にキャロルの後ろに向け、パンチした。

マリア「えっ？いつの間にキャロルの後ろに?!」

調「瞬間移動?!」

調とマリアは瞬間移動した和斗に驚き。

玄十郎「まさかこれがサイコーキュータマを使った和斗君の力なのか?!」

シシレッドオリオン「よし、次はこれだ!」

和斗はホウオウのエンブレムを出してそれを手に取る、そうホウオウソルジャーが使ったホウオウブレードだ。

サソリオレンジ「なっ？他の武器も出せるのか?!」

コグマスカイブルー「スゴいだろ？シシレッドオリオンは、エンブレムから他のキューウエポンも出せるよ!」

シシレッドオリオン「よっしや行くぜ!」

和斗はキューソードとホウオウブレードを持った二刀流でキャロルに攻撃。

キャロル「くっ、奴め、他の武器も出せるとは?!」

響「スゴいよ和斗君、よし私も張り切って行くよ!」

響は勢い良く0号に向かってアームドギアの連続パンチし。

響「おりゃー!」

最後に吹き飛ばすように殴って撃破。

奏「やるな響、あたしも決めるぜ!」

奏もアームドギアの二本の槍の技で0号の2体目を貫き。

翼「はあ!」

翼も両足の剣のアームドギアで0号の鋼鉄の体を真つ二つに切り裂き。

クリス「これでもくらいやがれ!」

クリスはガトリングとミサイルで一気に0号を粉々。

リュウコマンダー「よし、ボクチン達も決めるよ皆!」

ギヤラクシー!

オオカミブルー「くらえ、ルプスインパクト!」

サソリオレンジ「アンタレスインパクト!」

オウシブラック「アルデバラインパクトごわす!」

コグマスカイブルー「ボラリスインパクト!」

リュウコマンダー「ドラゴンインパクト!」

シヨウ総司令もキューウエポンの必殺技で残りのアルカノイズを全滅。

シシレッドオリオン「はっ、とお！」

キャロル「くっ、速い?!」

和斗は高速にキャロルに連続攻撃。

キャロル「ならば、これはどうだ?!」

キャロルは和斗から離れ、炎と風と水と大地の魔法を放ち攻撃しようとする。

シシレッドオリオン「ふっ、はあ！」

和斗は両腕を回転するとシシからハウオウまでの12のエンブレムが現れ、エンブレムからキューウエポンが出た。

キャロル「なっ?全部のキューウエポンだと?!」

シシレッドオリオン「はあ、ほっ！」

和斗は浮かんでるキューウエポンを全てキャロルに向けて突撃や攻撃。

キャロル「ぐっ、うわああ！」

そして全てのキューウエポンがキャロルに攻撃。

キャロル「ぐわあああ！」

キャロルは耐えたがダウルダブラが壊れかけた。

響「和斗君!」

シシレッドオリオン「ああ、決めよう響!」

ギヤラクシー!

シシレッドオリオン「インフィニツシユブラスト!」

和斗はサイコーキュータマを必殺技を放ち攻撃、キャロルがその攻撃を魔法で防ぎ。

キャロル「バカめ、俺はそう簡単にやられるか!」

響「それはどうかな?!」

キャロル「何?!」

響はアームドギアでブーストで一気にキャロルに向かって右ストレートで決めた。

キャロル「ぐわあああ!」

響を攻撃を受けたキャロルは倒れて幼女姿に戻った。

エルフナイン「あのキャロルを2人で決めるなんてすごいです?!」

未来「和斗君と響、すごい!」

バトルオリオンシツプブリーフィングルーム

蓮司「よっしゃ、やったで!」

功太「和斗先輩、響先輩、やったな!」

セレナ「シシレッドオリオンはスゴいです！」

エリ「やったね！」

アミ「うん、お二人ともキタコレです！」

キャラル「ぐっ、ぐは！」

響「キャラルちゃん、もうやめよう、こんなこと！」

シシレッドオリオン「観念してもらおうぞ！」

キャラル「俺はまだ死ねんぞ、俺は世界を奇跡を壊すまでは死ねん！」

異次元の扉が現れジェミニスが現れキャラルを持ち運び。

キャラル「ジェミニス、すまない！」

ジェミニス「気にするな、お前を失うわけにはいけないからな！」

シシレッドオリオン「ジェミニス！」

ジェミニス「シシレッド、復活したのか？まあいい、次は必ず決着をつける！」

キャラル「覚えてろよ、シンフォギアとキュウレンジャー、この借りは必ず倍にして返す！」

ジェミニスはキャラルを持ち運んだまま異次元に入り、扉を閉じ、同時に巨大アルカ

ノイズが現れた。

リユウコマンダー「アルカノイズ? 巨大な奴がいたとは? 和斗君、シーザーを使つて  
!」

シシレッドオリオン「えっ? シーザーって?!」

シーザー「ガウガウ!」

シーザーはジャンプして俺の肩に乗り。

シシレッドオリオン「こいつが?!」

リユウコマンダー「そうだよ、さつきサイコーキュータマと一緒に降った小型のライ  
オンだよ!」

シヨウ総司令は俺にシーザーの事を説明し。

シシレッドオリオン「そういうことか、よし行くぞシーザー!」

シーザー「ガウ!」

シシレッドオリオン「おっと? これを使えとなるほど、任せろ!」

俺はシーザーから77と書かれた赤いキュータマを受け取りセイザプラスターに装  
填。

コジシキュータマ!

セイザゴー!

すると

シーザー「ガオー！」

シーザーが巨大化。

シシレッドオリオン「おわっ？でつかくなりやがった?!」

クリス「あんなのアリかよ?!」

響「でもかわいい！」

シーザー「ガオー！」

シーザーは巨大化になってすぐ巨大アルカノイズに爪攻撃。

奏「よし良いぞシーザー！」

翼「かわいいけど戦うとは！」

リュウコマンダー「フフフ、それだけじゃないよ、和斗君、次は皆で合体だ！」

シシレッドオリオン「よししやってみるぜ、行くぜ皆！」

4人「おう！」

セイザドツキング！

合体はいつものキュウレンオーだが今回はシーザーがいるからキュウレンオーの顔がシーザーの顔でなんとキャノンを装備、そうこれがスーパーキュウレンオーだ。

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、シーザーと合体してパワーアップだ！」

コグマスカイブルー「久しぶりシーザー、また一緒に戦おう!」

シシレットオリオン「よっしゃ行くぜ皆、はっ!」

和斗達は合体してすぐレバーを引き、動かして巨大アルカノイズと対決。

マリア「あんな合体があるなんてすごいわ!」

調「シーザーの時はかわいい!」

切歌「合体の時はキャノンをつけて凄いデス!」

マリア達は司令室のモニターでスーパーキュウレンオーやシーザーの話題を話。

未来「なんだか凄い!」

巨大アルカノイズは口から液体を発射しスーパーキュウレンオーにボディに命中。

オオカミブルー「うわっ?なんだかぬるっと気持ち悪い!」

シシレットオリオン「ならば射撃攻撃だ!」

和斗は直ぐ様レバーを引くとキャノンが発射し、巨大アルカノイズに攻撃した。

コグマスカイブルー「和斗、ナイスだよ!」

サソリオレンジ「よしこの調子で残りの巨大アルカノイズを倒すぞ!」

オウシブラック「合点でござす!」



その時、空からもアルカノイズが襲ってきた。

コグマスカイブルー「和斗？空からも来てるよ！」

リュウコマンダー「空からのアルカノイズはボクチン達に任せろ！」

ドン

シヨウ総司令とクリスは地上から空中のアルカノイズに向けて射撃攻撃をした。

シシレットオリオン「シヨウ総司令、クリス先輩、サンキュー！」

クリス「おうよ、オメーらは気にせずでかい奴らぶつとばせよ！」

リュウコマンダー「さあ、やろうかクリスちゃん！」

クリス「おう、行こうぜシヨウのじいさん！」

2人「そりゃ！」

シヨウ総司令とクリスは連携をして射撃攻撃。

響「うわあ、シヨウ総司令さんとクリスちゃんの射撃攻撃は良いですね翼さん！」

翼「ああ、雪音とシヨウ総司令は実に射撃連携は抜群だ！」

シシレットオリオン「くらえ！」

俺はレバーを思いっきり振って巨大アルカノイズに向けて射撃して撃破し、残りは一

つ。

コグマスカイブルー「よし、和斗、皆、残りは1つだ!」

シシレッドオリオン「よっしゃ、一気に決めるぞ皆!」

ギヤラクシー!

5人「スーパーキュウレンオー、ファイナルブレイク!」

スーパーギヤラクシー!

俺達はスーパーキュウレンオーの砲撃攻撃の必殺技で残り1つのアルカノイズを撃破し。

ギヤラクシー!

リュウコマンダー「ドラゴンインパクト!」

クリス「あたしのガトリングでもくらいやがれ!」

シヨウ総司令のリュウツエーダの射撃必殺技とクリスのアームドギアのガトリング攻撃で残りの飛行のアルカノイズを撃破。

5人「地球は俺達と装者が守る!」

俺達は降りて響達の所へ合流。

和斗「ふう、あー疲れた!」

和斗はシシレッドオリオンのヘルメットを脱いで響達に素顔を見せる。

響「和斗君、さつきはかつこ良かったよ、凄いねシレッドオリオンは！」

和斗「ああ、ありがとう響、それにしても俺との連携攻撃は拔群だな！」

翼「獅子野和斗だね?!」

和斗「そうだけど？あんた達はまさか?!」

翼「私は風鳴翼、あの時は助けてくれてありがとう、君達が来なかつたら暁と月読が危うくノイズに襲われそうだったよ！」

奏「あたしは天羽奏、あたしと翼は！」

和斗「知ってる、ツヴァイウィングというアーティストユニットだろ？響から聞いたぜ！」

翼「立花とはどういう関係なんだ?!」

和斗「ああ、俺と響と未来は幼稚園の頃からの幼なじみだぜ！」

和斗は翼と奏に響と未来との関係を話し。

クリス「それにしても、お前のその姿、めっちゃカッコ良かったぞ、どうやってそのキュータマを使えたんだ?!」

和斗「それはキャロルが俺が響の体を押さえてる所を襲われそうなときにシーザーと一緒に降ったんだ！」

リュウコマンダー「和斗君、もしかすると君が意識の中でラツキーの試練を合格して

サイコーキュータマとシーザーが一緒に行つて惑星カイエンから来たんだよ!」

シヨウ総司令は和斗にその事を話し。

響「和斗君!」

和斗「なんだ? 響? ん?!」

和斗は響の所を振り向くと響が和斗と唇を重ねてキスをした。

翼「なっ?!」

奏「やるな響!」

リュウコマンダー「おやまあ!」

サソリオレンジ「なっ?!」

コグマスカイブルー「和斗?!」

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

全員「ええええええ? キスをした?!」

セレナ達はモニターで和斗と響のキスを見て驚き。

S・O・N・G 司令室

調「切ちゃん? 和斗先輩と響さん?!」

切歌「キキキキスをしたデス?!」

未来「実は私も……ここに来る前に医務室に寝てる和斗君とキスをしたの!」  
未来は頬を赤くなりながら和斗とキスをした事を切歌達に告白し。

切歌「な? なんデスと?!」

マリア「あら? あなたも和斗の事が好きなの?!」

未来「はい、響と一緒に大好きです!」

未来は響と和斗が好きとマリアに伝え。

エルフナイン「あわわわわわ!」

バタン

エルフナインは顔が赤くなりバタンと倒れる。

調「切ちゃん、エルフナインが倒れた?!」

切歌「和斗先輩と響さんのキスを見て赤くなって倒れたデース!」

玄十郎「あはは、和斗君、2人の幼なじみに恋とは青春だな!」

緒川「司令、それを言ってる場合じゃありません!」

緒川は玄十郎にツッコミ。

響「エヘヘ、和斗君とキスしちゃった!」

クリス「お、お前ら、キスは人前でやるんじゃないやねえー!」

クリスは大声でキスをした響と和斗を説教。

夕方、リディアンの寮、響と未来の部屋

和斗は響と未来と一緒に二人が作ったサラダとカレーを食べ、シーザーは和斗の所へ歩き回る。

和斗「よっしゃラッキー、響と未来の作ったカレーはうめー!」

未来「ふふ、ありがとう、実は味の方は響と一緒に調整したの!」

響「うん、隠し味に甘いチョコレートと未来がすりおろしたリングのすりみを入れて調整したよ!」

響は和斗にカレーの隠し味を教え。

和斗「ありがとな響、未来、俺のために好物を作ってくれて!」

響「うん、和斗君が帰って来たら食べさせようと未来と一緒に作ったよ!」

未来「北海道のお土産たくさんありがとう!」

和斗「ああ、今度は響と未来を連れて北海道に連れてきてやるよ!」

響「わーい、和斗君ありがとう！」

シーザー「ガウガウ！」

未来「フフ、シーザーもかわいいね！」

夕飯を食べて数時間後、俺はジャケットを着て、シーザーを肩にのせて玄関に行き。

和斗「じゃあ、俺はそろそろ家に帰るよ、母さん達に会うの久しぶりだから！」

未来「待って、和斗君！」

未来は帰ろうとする和斗の手を握り。

和斗「ん？どうした？未来、俺の手を握って?!」

未来「せっかく私と響の部屋に来たんだから泊まって！」

未来は和斗に泊まってと伝え。

和斗「えっ？、えええええ？、泊まっていいのか俺が？そうだ、親父と母さんに連絡  
！」

未来「和斗君のお母さんには響が連絡したから！」

響「えへへ、ごめんね和斗君！」

和斗「響、でもありがとな親父達に連絡して！」

響「えへへ、あつ、そうだ、せっかく和斗君が泊まるからなんかゲームしよう、ランプとか!」

和斗「ああ、テレビゲームがあるならやろうぜ!」

俺は響と未来の部屋に泊まることになり、テレビゲームやランプして響と未来は先にお風呂に入り、その間に俺はシーザーとゆっくりと過ごす。

シーザー「ガウ!」

和斗「ん?なんだ?シーザー?!」

シーザーが見つけたのは小学1年ぐらいの3人並んでる写真が入った写真立てだった。

和斗「うわあ、懐かしいな、これ、小学生時代の響と未来と俺なんだ!」

シーザー「ガウ?!」

和斗「ああ、シーザーに教えるぜ、左が未来、右が響、真ん中は俺なんだ、でも小学4年の3学期の最後に親父の仕事の都合で埼玉に行くことになり、響と未来とは一旦別れたんだ!」

和斗はシーザーに小学生時代の話をすると。

響「ふー、さっぱり、あつ?和斗君とシーザー?何をしてるの?!」

和斗「ん?よう響、上がったのか?今シーザーに俺と響と未来の小さい頃の話をして



な！」

未来「和斗君、私と響もう上がったから入っていいよ！」

未来が俺に声をかけ。

和斗「お：。おお、入らせていただくぜ、行くぞシーザー！」

和斗はシーザーを連れて浴場に行った。

未来「響、和斗君、シーザー、何を話してたのかな?!」

響「うん、私と未来と和斗君が小さい頃の話をしてたよ！」

浴場

和斗「ふう、風呂はやっぱ気持ちいいな、なあシーザー?!」

シーザー「ガウガウ！」

和斗とシーザーは体を洗って風呂に入りゆったり。

和斗「なあシーザー？俺のところに来る前にラッキーさんに何を言ったんだ?!」

シーザー「ガウガウ、ガウガウ！」

シーザーはガウガウと伝え。

和斗「俺の意識の中で俺やシヨウ総司令達を助けようと叫んだんか、サイコーキュー

タマを持って?!」

シーザー「ガウ！」

シーザーはコクっとし。

和斗「でも、シシレットオリオンになって響達と一緒に戦ってラッキー、シーザーの戦いもスゴかったぞ！」

シーザー「ガウ！」

和斗「でも俺は響と未来がいたから俺達は勝てたんだ、だけどネオジャークマターがキャロル達とまた何かをやるかもしれないがやろうぜ！」

シーザー「ガウ！」

和斗「さっきの響のキスの感触や未来のキスの感触で何だか胸がドキドキする？響と未来？俺の事が好きなのか?！」

数10分後、和斗とシーザーは浴場を上がり、和斗は私服に着替えて響と未来のいるところへ戻って一緒に寝たのだった。

次の日の昼

和斗と小太郎は残った課題の勉強を終わり、和斗の母と小太郎の叔母と一緒に担任の教師の進路相談の話を聞き。

東京リベリオン本部

シヨウ・ロンポー「遂に完成した東京リベリオン本部！」

ラフタ「やりましたね総司令！」

シヨウ総司令とラフタは東京リベリオン本部完成に大喜びし。

玄十郎「うむ、それじゃ休日の日は完成の祝いパーティーをしよう！」

シヨウ・ロンポー「そうだね次いでにリベリオンとS・O・N・Gの同盟も祝おうか?!」

エルフナイン「あのボクも参加して良いのですか?!」

シヨウ・ロンポー「勿論、君はS・O・N・Gに協力して入ってるから仲間だよ！」

エルフナイン「ありがとうございます！」

エルフナインはシヨウ総司令の言葉で喜び。

シヨウ・ロンポー「さて、祝いのパーティーをやる前に荷物整理をしよう、ボクチンはここでゆつくりと！」

ラフタ「総司令もしてくださいー！」

シヨウ・ロンポー「あつ、やっぱり！」

ラフタに怒られてシヨウ総司令は全員と一緒に荷物整理をしていたのだった。



## スペース26、和斗と響と未来の思い！

休日の夕方

東京リベリオン本部の大宴会場

シヨウ・ロンポー「諸君、東京リベリオン本部の完成とS・O・N・Gとの同盟を祝して、乾杯！」

全員「乾杯！」（デース！）

さて今回は東京リベリオン本部の完成とS・O・N・Gとの同盟を祝してのパーティーを大宴会場でおこなった、テーブルには豪華な料理や飲み物がたくさん並んでいた。

和斗「よっしゃラッキー、じゃんじゃん食おうぜ響！」

響「うん、あつ、和斗君、あそこにお寿司があるよ行こう！」

未来「もう響と和斗君たら！」

バランス「まあいいじゃないか、今日は盛り上がるよ！」

ナーガ「そうだな、盛り上がるう！」

バランスとナーガもパーティーに参加していた。

未来「あれ? ナーガさん? バランスさん? 来てたのですか?!」

ナーガ「ああ、完成を祝してパーティーに来たぞ!」

バランス「ついでにシヨウ総司令にお祝いの品と久しぶりに挨拶してくるね!」

ナーガ「ああ、待ってくれバランス!」

ナーガとバランスはシヨウ総司令久しぶりに挨拶に行き。

未来「もう、私は響と和斗君の所に行こう!」

壮汰「あれ? クリス先輩? 祐一さんは何処に行ったんだ?!」

クリス「ああ祐一なら何処か眺めに行ったぞ、アイツ、パーティーに参加しろよなたく!」

剛「祐一殿、クリス先輩達と楽しくなるでござすのに!」

功太「ヤッホー、スケボーのテクニクを見せるぜ!」

調「危ないよ功太!」

切歌「怪我をさせないで欲しいデース!」

切歌と調は功太のスケボーテクニクに注意し。

ハミイ「危ないよ功太、皆を怪我させないでね！」

蓮司「ハミイ先生？来てたんかいな?!」

ハミイ「うん、リベリオン本部の完成をお祝いに来たよ、アミとエリは何処?!」

切歌「アミとエリならセレナとマリアと一緒に座つてご馳走を食べてるデース！」

ハミイ「えっ? マリアつてあのマリア。カデンツァヴァ。イヴ? 来てたの?!」

調「はい、翼さんと奏さんもいます！」

ハミイ「キタコレ、よーし先ずはツヴァイウイングに会いに行こう、ありがとう2人

とも！」

ハミイは翼と奏のいるところに行き。

和斗「よっしやラツキー、まだまだ食べるぜ！」

マリア「君があああのシシレッドの獅子野和斗?!」

和斗「ああ、そうだけど?!」

マリア「紹介してなかったわね、私はマリア。カデンツァヴァ。イヴ、奏と翼や立花響達と同じシンフォギア装者よ！」

マリアは和斗に自己紹介し。

和斗「へー、カデンツァヴナ・イヴってもしかしてセレナの姉か?!

マリア「ええ、そうよ、私達がない間、切歌と調を見てくれてありがとう、感謝するわ!」

マリアは和斗に感謝し。

和斗「良いってことよマリアさん、クリスマス先輩やあんたの妹や切歌と調の友達にも色々助けられたからな!」

マリア「確かセレナはキュウレンジャーになったのね?!

和斗「ああ、カジキイエローになってお料理戦士だぜ!」

セレナ「マリア姉さん!」

マリア「あつ、セレナが呼んでる、じゃあ!」

和斗「俺も料理を運ぶの手伝うぜマリアさん!」

マリア「ありがとう、助かるわ!」

和斗はマリアのもう片方の皿を持ち、セレナ達の席に置き。

エルフナイン「あの?獅子野和斗さんですか?!

和斗「ああ、そうだけど?!

エルフナイン「初めまして僕はエルフナインです!」

マリアとセレナとアミとエリの席にいるエルフナインが俺に自己紹介し。



和斗「ああ、確かある理由で響達に協力してるんだな、俺は獅子野和斗、シシレッドの和斗だ、それにしても響達のギアを強化するなんてスゲーなお前！」

エルフナイン「ありがとうございます、和斗さん達の姿はカッコいいですね、どうやってなれたのですか？教えてください！」

ステインガー「それは俺が教えてやるよ！」

和斗「ステインガーさん?!」

ステインガー「和斗達が左腕につけてる変身アイテム、セイザブラスタター、そのセイザブラスタターにキュータマを装填して押してトリガーを引くとキュウレンジャーになったんだ！」

小太郎「ちなみにこのキュータマの他にスキルキュータマを使ったり、セイザブラスタターのトリガーを引くとビームが発射するんだ！」

ステインガーと小太郎はエルフナインにセイザブラスタターやキュータマの説明をし。エルフナイン「ありがとうございます教えてください！」

ショウ・ロンポー「ハハハ、スゴいだろ？ちなみにボクチンもキュウレンジャーでリュウコマンダーだよ、ひっく！」

和斗「てっ？総司令？酒を飲んで酔ってる?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、これはね、バランスとナーガからお祝いの品としてもらったお酒だよ、美味しいからねつい飲んじゃった、翼ちゃんと奏ちゃんにもお裾分けしようういー!」

シヨウ総司令は酔って翼と奏のいるところに行った。

和斗「さて、俺は響と未来のいる席に戻るよマリアさん、妹の時間をゆつくりな!」

マリア「え、ええ、ありがとう、何だか嫌な予感ね!」

セレナ「和斗さん、ありがとうございます!」

和斗は響と未来のいる席に行き。

奏「翼、このステーキうめーぞ、取ろうぜ!」

翼「奏、私達は子供じゃないからもー!」

すると

シヨウ・ロンポー「ひっく、翼ちゃんと奏ちゃんと、大人ならこれを飲んで、美味しいお酒だよ、奏ちゃんと翼ちゃんも飲めるから!」

シヨウ総司令が酔いながら翼と奏のいるところに着き、飲めるお酒と言い。

翼「あのシヨウ総司令? お気持ちは嬉しいですが私達はまだ飲めない年齢なので!」

シヨウ・ロンポー「ハハハ、ボクチンが飲ませるよ！」

翼「なっ？ゴボ！」

ゴクッ

シヨウ総司令は翼に酒を飲ませすると。

奏「つ、翼?!」

翼「ういー、今日は盛り上がっていくわよ奏、飲むわよ、ひつく！」

奏「ちよ？翼？あたしも飲ますのか？んぐ?!」

翼は酔った勢いで奏に酒を飲ませ。

奏「ひつく、あたしも今日は翼とシヨウのおやっさんと一緒に盛り上がるぜひつく！」

奏も酔った。

緒川「えっ？翼さん？奏さん？シヨウ総司令さん？どうしたのですか?!」

シヨウ・ロンポー「あら、緒川ちゃん、今からボクチンと翼ちゃんと奏ちゃんと一緒にステージに立って歌うよ逆光のフリーゲルをひつく！」

翼「緒川さん、私と奏も今から行きます、ひつく！」

奏「よーし行くぞ、ゴク！」

奏はまた酒を飲んで翼とシヨウ総司令と一緒にステージへ行く。

玄十郎「ん？緒川？どうした?!」

緒川「あわわ、司令、翼さんと奏さんが?!」

和斗「あはは、このハンバーグとカレーはうまいぜ響!」

響「うん、でも未来の作ったご飯も美味しいよ!」

未来「やだ、響たら!」

すると

翼「さあ皆、今から私と奏とシヨウ総司令と一緒に逆光のフリーユーゲルを歌いまーす、

ゴク!」

奏「今日は盛り上がって行くぜー、ひっく!」

シヨウ・ロンポー「さあ行こうか、ひっく!」

翼と奏、シヨウ総司令はステージに立って酒を飲んで酔った勢いでマイクを持った。

響「えっ?翼さん?奏さん?!」

未来「シヨウさん?どうしたのですか?!」

クリス「どうなってんだ?オイ!」

マリア「まさかと思えばあのお酒を翼と奏に飲ませたのね?!」

和斗「ああ、何かと予感したらシヨウ総司令、酔って翼さんと奏さんに酒を飲ませたんだ!」

響 未来「「ええええ？翼さんと奏さんがシヨウ総司令に酒を飲まされて酔った?!」  
響と未来に酒に酔った翼と奏に驚き。

シヨウ・ロンポー「おっ？歌う前に響ちゃん達にも飲ませようか翼ちゃん、奏ちゃん  
！」

翼「ええ、雪音やマリアや緒川さん達にも飲ませましょう！」

奏「さんせーい、ひっく！」

シヨウ総司令達3人は歌う前にステージを降りて響達の方へ向かう。

和斗「やべー、響達はまだ未成年だから飲ませねえ、マリアさん、響達を安全なところへ連れいってくれ！」

マリア「ええ、任せて、和斗はどうするの?!」

和斗「俺は何かシヨウ総司令達を止めてみせる！」

壮汰「兄貴、俺も蓮司も功太と剛も手伝うぜ！」

ステインガー「お前らは駄目だ、俺がやる！」

小太郎「よーし兄貴、助太刀するぞ！」

和斗「アミとエリも切歌達を頼む！」

アミ「わかりました、くれぐれも気をつけて下さい！」

ハミイ「あたしも手伝うわ!」

切歌「ハミイ先生、ありがとうデース!」

調「恩にきます!」

翼「雪音、立花、マリア、小日向、暁と月読も飲むぞー!」

奏「この酒はうまいぞひつく!」

エリ「翼さんと奏さんがこっちに来ました!」

和斗「とにかく安全なところへ逃げろ、ここは俺達に任せてくれ!」

エルフナイン「気をつけて下さい!」

響「和斗君?和斗くん!」

マリア「とにかく安全なところへ行くわよ!」

マリアとクリスとセレナ達は響達を安全なところへ連れていき。

ステインガー「行ったか!」

小太郎「ああ、でも響達を逃がしてる間S・O・N・Gの業務の人達は翼さん達に飲

ませられて酔ってるよ!」

和斗「それでも俺達3人だけやるしかないか!」

その時。

玄十郎「俺も助太刀するぞお前達!」

緒川「あんな翼さんと奏さんとシヨウ総司令を見たら野放しにはさせません、マナー  
ジャーとして！」

玄十郎司令と緒川さんが助つ人に来た。

和斗「玄十郎司令？緒川さん？助太刀して大丈夫か?!」

玄十郎「ああ、俺と緒川は酒を飲んでも酔わない体質だからな！」

緒川「ええ、僕も忍術で皆さんを寝かせます！」

和斗「よし行くぞ！」

全員「おう！」（はい！）

和斗「響と未来の幼なじみ、獅子野和斗！」

ステインガー「リベリオンの司令、元サソリオレンジ、ステインガー！」

小太郎「ステインガーの弟分、佐久間小太郎！」

玄十郎「S・O・N・Gの司令及び翼の叔父、風鳴玄十郎！」

緒川「忍者の末裔、緒川慎司！」

和斗「5人の救世主、男戦隊！」

5人「キュウレンジャー！」

シヨウ・ロンポー「おっ？飲ませるなら対決、面白い受けてたとう！」

奏「行くぞー、ひっく！」

翼「おー!」

翼達酔った全員は一斉にかかり!

ステインガー「よし、傷つけないで寝かせるぞ!」

全員「オツキュウ!」

和斗達もかかる!

酔ったS・O・N・G職員「うおー!」

酔ったS・O・N・Gの職員達はゾンビみたいに歩き襲いかかろうとすると。

緒川「それならこれです、はあ!」

緒川さんは影縫を使って職員達の動きを止め。

小太郎「緒川さん、そのまま押さえて、これで眠らせるよ!」

オヒツジキュータマ!

セイザアタック!

小太郎はオヒツジキュータマを使って職員達を眠らせ。

小太郎「よし、緒川さん、この調子で、えっ?動けない?」

緒川「えっ?どういう事ですか?うっ?動けません!」

ナーガ「ウヘヘヘ、お前らも飲んでもらおうか、ひつく!」

ナーガが能力を使って小太郎と緒川さんの動きを止め。



バランス「ナーガ、ナイスだよ、ひつく！」

バランスとナーガは酔って小太郎と緒川さんの方へ歩き。

小太郎「バランス？ナーガ?!」

緒川「まさか？翼さん達に飲まされて酔ってるかもしれません！」

ナーガ「バランス、まずは緒川から飲ませる！」

バランス「OK、ナーガ！」

小太郎「お、緒川さん?!」

すると

ポン

ナーガ「えっ？消えた?!」

バランス「何処に行っただよ?!」

? 「ここです！」

緒川さんが上にいた。

ナーガ「いつの間に?!」

緒川「今です、忍法、眠りの粉の術！」

緒川さんがバランスとナーガに向けて眠りの粉をかけると。

バランス「ういー、僕も何だか眠くなってきたよ！」

ナーガ「俺もだ!」

バタン

ナーガとバランスは眠りにつき。

小太郎「よし、後は翼さん達だ、緒川さん、和斗にこれを渡してきて!」

小太郎はオヒツジキュータマを緒川さんに和斗に渡してきてと渡し。

緒川「わかりました、任せてください!」

シヨウ・ロンポー「ういー、ボクチン達ので無理やり飲ませるよ!」

和斗達はシヨウ総司令達に苦戦。

和斗「くそ、飲まされてたまるか!」

玄十郎「ああ、翼達を眠らせるしかない!」  
すると

緒川「和斗さん、オヒツジキュータマを使って下さい!」

緒川さんが和斗にオヒツジキュータマを渡し。

和斗「よし、サンキュー緒川さん、眠らせてやる!」

オヒツジキュータマ!

セイザアタック!

和斗はオヒツジキュータマを使って翼達に浴び。

シヨウ・ロンポー「あれ？ボクチン、眠くなつたかな?!」

翼「私もだ、何だか目眩がくらくらするぞ！」

奏「まだあたし達はステージで歌ってないのに眠るとは！」

バタン

翼さん達3人はオヒツジキュータマで眠りにつき。

和斗「ふー、疲れた！」

バタン

和斗も眠りにつき。

和斗「はっ？ここは？そうか、俺達はシヨウ総司令達を眠らせていつの間寝てたんだ、玄十郎司令も小太郎も緒川さんもいない？ステインガーさん？司令室にいるのかな？とりあえず風呂に入って帰るか！」

和斗は大宴会場を出て浴室に行く。

リベリオン東京本部の浴室

和斗「ふー、シーザーを家に置いて正解だったぜ、母さん達に頼んで見てもらつてるからな！」

和斗は服を脱いでかごに入ってる誰の服を見ずに風呂に入り。

和斗「よっしやラッキー、先ずは頭と体を洗ってと!」

和斗は体と頭を洗い、ゆったりと風呂に入る。

和斗「ふー、ここの風呂は貸しきりでよっしやラッキー、気持ちいいぜ!」

ムニユ

俺は両手を広げると何か感触みたいなものを触り。

和斗「ん?何だ?この感触は?ふー!」

俺は湯気を吹くと何と俺が触ったのは響と未来の胸だった。

響「えっ?和斗君?!」

和斗「えっ?響?未来?じゃあ俺が触ってるのはまさか?!」

未来「き、き!」

響・未来「「きやああああ!」」

響と未来は俺が胸を触ったので叫び。

和斗「ひ?響?未来?お前らなんでここににいるんだ?それに帰ったんじゃないのか

?!」

響「和斗君が寝てる間、私と未来は残ってお風呂に入ってる!」

和斗「何で響と未来がここににいるんだ?まさか?!」

未来「実はここ、混浴湯なの、私と響、ここに入ってたみたい！」  
未来はここにいる理由を俺に教え。

和斗「何だ混浴湯か……いやいや、響と未来が入ってるからそういうわけにはいかな  
い、俺は上がる！」

すると

響・未来「「待って和斗君！」」

響と未来が慌てて上がろうとした俺の両腕を掴み。

和斗「ん？響？未来?!」

未来「お願い和斗君せつかく入ってきたんだから、一緒に入って！」

和斗「えっ？ええ？、仕方ないな！」

和斗は響と未来の間に入りゆったりすることになる。

和斗「それにしてもシヨウ総司令達を眠らせるのに疲れたよホントに、あの後、マリ  
アさん達はもうなったんだ?!」

未来「マリアさん達は和斗君が寝てる間に人足先に帰って私と響は残ってお風呂に  
入ってるの！」

響「和斗君と未来と一緒に風呂に入るの久しぶりだね、小学生ぶりかな?!」

和斗「そうだな、幼稚園から入ってるよ、思い出すな！」

和斗は響と未来と一緒に入った頃を思い出す。

幼稚園の頃の和斗（わーい、ひびきとみくと一緒にお風呂だ!）

幼稚園の頃の響（一緒に入ると楽しいね、みく、かずとくん!）

幼稚園の頃の未来（う、うん、なんだかはずかしい!）

和斗「幼稚園の頃の未来は恥ずかしくて赤くなってたな!」

未来「もー、和斗君、やめてよその話、でも嬉しい!」

響「和斗君? この前の怪我は大丈夫?!」

和斗「あ……ああ、サイコーキュータマのおかげで怪我也傷も治って元気だぜ!」  
すると

未来「ひつく、ひつく、良かった、あの時、和斗君が死なないで!」

未来は俺の左腕を握って突然泣き出し。

和斗「み? 未来? 泣くなよそんなところで!」

未来「だって、私と響はあの時、和斗君が死んだらどうなるかなと思って!」

和斗（そっか、未来、俺がジェミニスの攻撃で倒れた姿を見てショックを受けたんだ  
!）

響「ひつく、私も、和斗君が心配して泣いてたんだから!」

響も未来と一緒に泣き出し右腕を握り。

和斗「ごめんな、響、未来、俺の事を心配して、でも俺は大丈夫だよ、この通り響と未来のおかげですっかり良くくなったよ！」

響「和斗君、良かったよ！」

響、未来「「うわーん！」」

響と未来は和斗を抱いて涙を流して泣いた。

和斗「響、未来！」

それから数十分後、俺と響と未来は着替えてリベリオン本部を出て夜の外を歩く。

響「ねえ和斗君、今日、また和斗君の家に泊まっていい?！」

和斗「どうして?！」

未来「何だか私と響、和斗君の事、離れたくない！」

和斗（そっか、さっき俺の事心配して泣いてたんだ、よし!）

和斗「よし、わかった、今日は泊まっていいよ！」

響「やったー、和斗君、大好き！」

響はぎゅつと俺の右腕を抱き。

未来「響ずるい、じゃあ私も！」

未来もすぐに俺の左腕をぎゅつと抱く。

和斗「やれやれ、2人とも、俺の事、好きだよな！」

俺は響と未来に腕を抱かれ、そのまま家に帰って泊まったのだった。

次の日の朝

リベリオン本部司令室

シヨウ・ロンポー「うー、飲み過ぎた、調子に乗って翼ちゃんと奏ちゃんを飲ませてしまったよ!」

翼「だから私と奏は嫌なんですよ飲ませるのを、頭が痛い!」

奏「あー、気持ち悪い!」

緒川「でも良かったですね、ツヴァイウイングのスケジュールが休みになって!」

ステインガー「ああ、今回は2人はゆっくりさせよう!」

マリア「良くないですよ、シヨウ総司令、しばらくは、調子乗って未成年の翼と奏に酒を飲ませるのも禁止です!」

シヨウ・ロンポー「そんな、ボクチンは翼ちゃんと奏ちゃんに美味しいお酒を飲ませよう!」

マリア「わかりました?!」

マリアは鋭い目でシヨウ総司令を睨み。

シヨウ・ロンポー「はい、すみません、反省します!」



シヨウ総司令は正座されて反省。

玄十郎「ハハハ、それより、残りの4つの聖遺物キュータマのありか何だか何かわかったのか?!」

ラフタ「はい、今モニターを写します!」

ラフタはすぐにモニターを写し。

玄十郎「これは?!」

ラフタ「北海道本部のリトルベアー司令からもらった情報だと、アメノハバキリキュータマは兵庫、イガリマキュータマは埼玉、シユルシャガナキュータマは博多、アガートラームキュータマは千葉、それぞれ場所を確認しました!」

マリア「となると、残りの4つを手に入ればネオジャークマターに対抗できるのね!」  
シヨウ・ロンポー「うむ、今のところはガングニールキュータマとイチイバルキュータマを手に入れて2つだがシンフォギア装者達もあれをつけよう、ラフタ、例のものを!」

ラフタ「はい!」

ラフタはすぐにアタツシケースを出し、開けて玄十郎達に量産型セイザブラスターとエンプティキュータマを見せる。

玄十郎「これは?!」

ショウ・ロンポー「北海道本部のリトルベアー司令から託された量産型セイザプラスターだよ、これをつけるとスキルキュータマを使えるよ!」

ステインガー「だが問題なのは調整だが!」

エルフナイン「あの、調整はボクもお手伝いします、ラフタさんだけじゃ心配なので!」

ラフタ「エルフナイン、ありがとうございます、一緒にやりましょう!」

エルフナイン「はい!」

玄十郎「よし、これからは忙しくなるが皆、やるぞ!」

木星のネオジャークマター要塞

グリズラー「へー、キャロルがパワーアップしたシシレッドにやられて苦戦したのか?!」

レオルス「ああ、ジェミニスからの情報によるとシンフォギア装者が更にパワーアップしたぞ、これを見てくれ!」

レオルスはすぐに響達の戦いをモニターを出しグリズラーに見せ。

グリズラー「何だ?、あいつらのギアが黒くなって威力がスゴいぞ?!」

レオルス「ああ、確かエルフナインという奴が奴らのシンフォギアの改修のついでに

聖遺物を加えたみたいだぞ！」

グリズラー「それはどんなものなんだ?!」

レオルス「ああ、魔剣ダインスレイフという物だ！」

グリズラー「へー、そんなものを加えて強化したんだ奴ら、ならばこっちも対抗しよう、フッフ！」

グリズラーは何か企んだ顔をして笑っていた。

NEWSSTORY

## スペース27、和斗の1日休暇、響と未来とのデート!

リベリオン本部研究室

エルフナインはラフタと一緒に量産型セイザブラスターを7つ調整整備していた。

エルフナイン「ラフタさん、ここの調整はどうしますか?!」

ラフタ「そうですね、ここの機械のところの方はチェックしてみましよう!」

ウイーン

マリア「失礼するわ二人とも!」

研究室に入ってきたマリアと翼。

ラフタ「あれ? マリアさん、翼さん、どうしたのですか? ここに来て?!」

翼「私達が使う量産型セイザブラスターの方を見てきたぞ、ここの設備は色々なものを揃ってるな!」

ラフタ「ここの設備は工具や研究開発、整備、あらゆる物を出来ることが可能です!」

ラフタは二人に研究室の説明を軽く教え。

マリア「あら? 和斗は何処に行ったの?!」

エルフナイン「和斗さんなら道場室でS・O・N・Gのスタッフさん達と空手稽古を

して、響さんと奏さんも参加して、」

一方、リベリオン道場室

和斗「おりや、どりや！」

和斗は空手着を着てS・O・N・Gの空手の得意人達を相手に稽古をしていた。

和斗「おりや、せい！」

和斗はパンチや蹴りを使って倒し。

響「うわー和斗君？気合い入りすぎですよ奏さん！」

奏「こりやあたしらじゃ太刀打ちできねえな！」

響は奏を相手に稽古をし。

クリス「あいつ、どんだけやってんだ?!」

切歌「凄すぎデス！」

調「ちよつと怖い！」

クリスと切歌と調は座って和斗達の稽古を見る。

クリス「そういうええいつらはどうした?!」

調「祐一さんはパトロール、功太は壮汰と蓮司と剛と一緒にバトルオリオンシップでキューボイジャーのメンテと機械調整、アミとエリはセレナと一緒に家で勉強していま

す!」

切歌「未来さんはお買い物デース!」

小太郎「兄貴、総司令、玄十郎司令、和斗は気合いが入りすぎだよ!」

ステインガー「ああ、サイコーキュータマを手にしてからやる気がありすぎだ!」

玄十郎「うむ、これ以上は続けたらスタツフ達の体だけじゃなく響君と奏が持たんど  
!」

シヨウ・ロンポー「よし、ボクチンが和斗君を相手にするよ!」

玄十郎「シヨウ総司令、お手柔らかに!」

シヨウ・ロンポー「大丈夫だよ、手荒なことはしないから!」

和斗「やー、おりや!」

シヨウ・ロンポー「和斗君、ボクチンと稽古をしてもらうよ!」

シヨウ総司令が和斗に稽古を受けるように声をかけ。

和斗「よっしゃ、いいぜ総司令、あんたとは一度はやりたかったぜ!」

シヨウ・ロンポー「ウム、ではやろうか!」

シヨウ総司令と和斗は止まって構え。

玄十郎「では、始め！」

和斗「行くぜ、おりゃ！」

玄十郎の掛け声と同時に和斗がシヨウ総司令に向けて正拳すると。

シヨウ・ロンポー「和斗君、気合いを入れすぎじゃダメだよ！」

シヨウ総司令は和斗の放った正拳を右こぶしで防ぎ。

和斗「えっ？防いだ、ならば！」

和斗はすかさず蹴りをすると。

シヨウ・ロンポー「まだまだ甘いよ、はー！」

シヨウ総司令は和斗の蹴りを避けてすぐに正拳ですんどめ。

響「うわあ？シヨウ総司令さん、凄すぎです！」

奏「ああ、和斗の蹴りを避けて正拳ですんどめした?!」

玄十郎「そこまで、今日はここまでだ！」

全員「ありがとうございます！」

全員は更衣室に行つて着替えようとすると。

シヨウ・ロンポー「和斗君、着替えたら司令室に来なさい、ちよつと話があるよ！」

和斗「あ… ああ！」

数分後、和斗はリディアンの制服に着替え、シヨウ総司令と玄十郎司令とステイン

ガー司令がいる司令室に行き。

シヨウ・ロンポー「和斗君? 君は最近何だかやる気ありすぎだよ、どうしたんだね?!」  
和斗「俺はサイコーキュータマを使ってから何だかやる気が入ってきて稽古がしたくなってきたんだ!」

玄十郎「うーん、確かにここところは頑張りすぎだ!」

ステインガー「ああ、お前は大切な人を守るためにやりすぎだと思うぞ!」  
ステインガーさんと玄十郎司令は頑張りすぎて俺を注意し。

和斗「俺は響と未来を守るために頑張つて強くなりたいんだ!」

シヨウ・ロンポー「まあまあ、落ち着いて和斗君、君も頑張りすぎで疲れるよ、そう  
だ、和斗君にこれを渡そう!」

シヨウ総司令は引き出しから遊園地みたいなチケットを3枚、和斗に渡す。

和斗「シヨウ総司令? 何ですか? これ?!」

シヨウ・ロンポー「遊園地のチケットだよ、本当はボクチンと翼ちゃんと奏ちゃんと  
マリアちゃんを誘って行こうとしたけど3人とも急な用事が入って行けなくなつたか  
ら休日に響ちゃんと未来ちゃんを誘って楽しんできて!」

和斗「えつ? でもオートスコアラーやネオジャークマターとアルカノイズが現れた時  
はどうするんだ?!」



ステインガー「その時は心配するな、小太郎達とクリスマスがいるぞ！」  
玄十郎「そうだな、和斗君は頑張りすぎだから休暇にしよう！」

ウーーン

数分後、和斗は司令室での話を終わり、出る。

響「あつ？和斗くん！」

響が和斗を見つけ合流。

和斗「響？帰ったんじゃないのか?!」

響「和斗君と一緒に帰ろうと待ってたよ、師匠達と何を話したの？教えて?!」

和斗「嫌、大したことだよ、じゃあ帰ろうか？家まで送るよ！」

響「うん、ありがとう！」

俺と響は一緒に歩き、リディアンの寮まで歩き。

和斗「なあ響?!」

響「ん？どうしたの和斗君?!」

和斗「休日は何か用事はあるのか?!」

響「うーん、今のところは無いけどどうしたの和斗君？急に聞いて?!」

和斗「実は俺、休日に休暇を貰ったから響と未来と一緒に遊園地デートに行こう、チ

ケツト3つ、シヨウ総司令から貰ったから!」

和斗はポケツトから貰った遊園地のチケツトを見せると。

響「ええええ? 私と未来と一緒にデート? うん、未来と一緒に行く!」

和斗「良かった、じゃあ未来にも渡して伝えて!」

和斗は2枚の遊園地のチケツトを響に渡し。

響「うん、未来にもこの事伝えるね!」

話しながらもうすぐデイアンの寮に着き。

和斗「じゃあ響、休日は楽しみな!」

響「うん、デート楽しみにするね!」

夜、獅子野家、和斗の部屋

和斗「デートって何かを着ればいいんだ?!」

和斗はデートに着る服に迷い。

和斗「そうだ、赤の半袖を着て上に隊員ジャケットを着ていこう... いやいや、響と

未来に言われるかも知れねえ!」

シーザー「ガウ!」

シーザーは和斗をじっと見つめる。

そしてデートの日

和斗「とにかく隊員ジャケットをベースに赤の半袖を着てる！」

とにかく和斗は赤の半袖をベースに隊員ジャケットを着ていき、念のためセイザブラ  
スターをつけてた。

子供「わあ！」

和斗「ん？大丈夫か?!」

俺は転んだ子供に気づき、心配し。

子供「ありがとう、もしかして？キュウレンジャー?!」

和斗「ん？ああ、そうだよ！」

子供「僕と握手してください！」

和斗「ああ、いいぜ！」

俺は子供と握手をし。

子供のお母さん「ありがとうございます、うちの子を心配していただき！」

和斗「いや、怪我がなくて良かったな！」

子供のお父さん「さあ行こうか！」

子供「うん、お兄ちゃん、ありがとう、バイバイ！」

和斗「バイバイ！」

未来「響、和斗君いたよ!」

響「あつ、ほんとだ、お待たせ和斗君!」

響と未来は到着し和斗に会う、今日の響の服装は黄色をベースの動きやすい服装で未来の服装は白い半袖の服に紫のロングスカートで来ていた。

未来「和斗君、またその服を着て大丈夫なの?!」

和斗「良いだろ別に、暑かったら脱ぐからな!」

響「ねえねえ、早く行こう、私、待ちきれないよ!」

未来「あつ、響、待ってー!」

和斗「たく、おい、待ってくれよ2人とも!」

俺と響と未来はチケットを持って入場に向かう。

一方、リベリオン本部の格納庫、格納庫にはバトルオリオンシップとS・O・N・Gの潜水艦基地が収容。

バトルオリオンシップボイジャー格納庫

クリス「よう、祐一、蓮司、手伝いに来たぞ、何をしてんだ?!」

繋ぎ服を着て格納庫に入ってきたクリスと切歌と調は祐一と蓮司の手伝いに来た。

祐一「ああ、これはだな俺と和斗と小太郎のバイクの調整してる！」

切歌「蓮司、アタシ達は何をしたらしいデスカ?!」

蓮司「そうやな、調の方は工具箱からスパナ取ってこつちに渡すんや、切歌はガソリンとマフラーの予備を6つ頼むで！」

調「任せて！」

クリス「ほんじゃあ、あたしは祐一の手伝いするぞ！」

祐一「あ……ああ、めちやくちやにするなよ！」

切歌と調はガソリンとスパナとバイクに使うマフラーを6つを蓮司の方に持っていて、クリスは祐一の方の手伝いをした。

調「それにしても、和斗先輩、休暇をとって何をしてるかな?!」

切歌「気になるデース！」

クリス「おい、あいつのプライベートを気にすんな、あたし達はこつちで楽しむぞ、あれ? あいつらはどうした?!」

蓮司「壮汰と功太は剛はそれぞれ家で勉強中、小太郎先輩は弟とゲーセン、セレナはアミとエリと買い物に行ってるで！」

切歌「響さんと未来さんは何処デスカ?!」

祐一「もしかしたら和斗とデートに行ってるかもしれない!」

クリス「はあ? あいつらとデート?!」

クリスは祐一のデートの言葉にはあとと言い。

切歌「何デスと?!」

一方、遊園地

響「うわあああ!」

未来「きゃあああ!」

和斗「おおお、よっしやラッキー!」

和斗と響と未来は先ずはジェットコースターに乗り。

和斗「おりや、おりや、おりや!」

響「もー、和斗君、回しすぎ!」

未来「もー、やめて!」

次にコーヒーカープに乗り、和斗が調子のもつて回し。

和斗「よっしやラッキー、ゴーカートは最高だ!」

響「和斗君、待ってよー!」

未来「二人とも待って!」

ゴーカートに乗ってノリノリ。

和斗「イヤッホー、パイレーツ最高！」

響「イエーイ！」

未来「キヤー！」

パイレーツでは盛り上がり。

遊園地の飲食店

3人は座ってお昼を食べていた、響はオレンジジュースとハンバーガー、未来は響と同じオレンジジュースとハンバーガー、和斗はコーラとカレーだった。

響「ねえ次は何乗る！」

和斗「そうだな、俺は空中ブランコだ！」

未来「私はメリーゴーランドに乗りたくないな響と一緒に！」

何だか次に乗りたいアトラクションを3人で話をし。

男子供「あつ、キュウレンジャーだ！」

女子供「ホントだキュウレンジャー！」

子供達が俺を見てキュウレンジャーと言い。

和斗「あれ?俺の事、知ってるのか?!

男子供「うん、お父さんとお母さんを助けてくれてありがとう!」

女子供「私のお友達と地球の皆をいつも守ってありがとう!」

和斗「いやあ、響と皆がいたから守れたんだ!」

響「和斗君!」

男子供「あのサイン下さい!」

女子供「私も!」

子供達が俺にサインを書くよう色紙を構え。

和斗「わかった、書いてやるよ!」

和斗は子供達にサインを書き、響も一緒にサインを書いた。

女子供「ありがとう、お兄ちゃん!」

和斗「おうよ、響お姉ちゃんも書いたから大事にしろよ!」

男子供「うん、バイバイ!」

響「バイバイ!」

子供達はサインを貰って親のところに行き、響は子供達にバイバイと手をふる。

未来「和斗君、子供に優しいね!」

和斗「ああ、子供達が俺達を応援してるからな!」



リベリオン本部司令室

ビービービー

シヨウ・ロンポー「ん？どうした?!」

友里「市街地にネオツヨインダバー2体及び数十体のネオインダバー、もう一人はオートスコアララーです！」

翼「司令！」

玄十郎「よし、翼、奏、行ってくれ！」

奏「あいよ旦那！」

シヨウ・ロンポー「よし、ボクチンも援護に行くぞ、小太郎達の代わりに！」

ウイーン

翼、奏、シヨウ総司令は出撃しに行き。

一方、遊園地

和斗「よつしやラッキー、メリーゴーランド、乗れてラッキー！」

響「和斗君が馬に乗って見てたら白馬の王子様に見えるよ！」

未来「うん、良く見たら本当にカッコいい！」

響と未来は一緒に乗るメリーゴーランドの席で馬に乗ってる和斗を見て白馬の王子

様と話し合い。

東京市街地

翼「はあー!」

奏「おりや!」

リュウコマンダー「それ!」

シヨウ総司令と翼と奏は市街地のネオインダバーとアルカノイズを次々と倒し。

フアラ「あー? 剣ちゃんに槍ちゃん、ギアを直ったかしら? じゃあ私の相手にして貰おうかしら!」

フアラはすぐに剣を翼に向けて構え振ろうとすると。

リュウコマンダー「おっと、翼ちゃんのギアをまた壊させるわけにはいかないよ、ボクチンの相手をして貰おう!」

シヨウ総司令はリュウツエーダの接近戦でフアラの振る剣を弾きあいした。

フアラ「あー? やるわねあなた、なかなかの戦いね!」

リュウコマンダー「そっちこそ、なかなかの筋をしてるね!」

「キヤー!」

遊園地で叫び声が聞こえ、和斗が見えたのはネオインダバー数十体とレオルスが現れた。

レオルス「ガハハハ、遊園地を破壊してネオジャークマターの拠点に改造してやるぜ！」

和斗「やめろ、ネオジャークマター！」

レオルス「お前はシシレッド？なぜここに?！」

和斗「今日は響と未来と一緒にデートを楽しんでる、ここは皆が楽しむ場所だ、破壊しようとして許さねえ！」

響「和斗君?！」

和斗「響、未来のところにいてくれ、俺はこいつで戦う！」

和斗が出したキュータマはゼンカイジャー世界でゾックスから貰ったガングニールキュータマ。

和斗「行くぜ、マワースライド！」

ガングニールキュータマ！

セイザチエンジ！

和斗「スターチエンジ！」

和斗はシシレッドに変わりそして両腕に響のアームドギアやメットの部分に響と同

じヘッドフォンを装備し最後にマフラーを首につけた。

未来「えっ? 和斗君? その姿は?!」

響「えっ? 私と同じガングニールになった?!」

響と未来は変わったシシレッドに驚き。

シシレッド「行かぜ、ファイティングスター、シシレッドガングニール!」

レオルス「ええーい、見た目は同じかもしれないが行くぞ!」

ネオインダバー「ダベ、ダベ!」

シシレッド「お前らの運、試してやるぜ!」

レオルスとネオインダバー数十体はすぐにかかり、同時にシシレッドガングニールになつた和斗もすぐにかかり戦闘を開始。

シシレッド「おりや、どりや!」

和斗はネオインダバーに向けて殴ると威力がある力でぶつ飛ばす。

未来「和斗君、すごい威力を持つてる?!」

響「もしかしてあのキュータマのお陰で和斗君はパワーアップしたんだ!」

「シシレッド頑張れ!」

「みんなの遊園地を守ってくれ!」

シシレッド「おうよ、任せてくれ皆!」

レオルス「テメー、北海道本部の候補生のようにしてやるよ！」

シシレッド「あの時のようにはいかない！」

和斗は右こぶしでレオルスの爪攻撃を防いで殴りあいのような戦いをし。

レオルス「ギャハハ、油断したな、くらえ！」

シシレッド「そうはいくか！」

バリン

和斗は左こぶしでレオルス右の爪攻撃を殴ると爪が碎けた。

レオルス「なっ？俺の爪を碎けた?!」

シシレッド「行くぜ、おりやおりやおりやおりや！」

和斗は油断せずレオルスに連続パンチをし、吹き飛ばし。

シシレッド「よし、決めるぞ！」

ギャラクシー！

シシレッド「くらえ、ナックルインパクト！」

スーパーギャラクシー！

最後に右ストレートのアームドギアで決め、レオルスは倒れる。

レオルス「くそ、あんな力があるとは思えんな、一先ず撤退！」

レオルスはワープ機能で撤退。

フアラ「くっ、リュウコマンダーの杖攻撃は厄介ね、一先ずさよなら!」  
フアラはレポートジェムを出して撤退。

翼「待て、くっ、撤退したか!」

リュウコマンダー「とにかく、ここを守れて良かった、さあ本部に戻ろう!」  
ピピピ

玄十郎「シヨウ総司令、遊園地の方にネオジャークマターが現れた!」

リュウコマンダー「なぬ?じゃあ遊園地の方の住民は?!」

玄十郎「和斗君が GANG ニールキュータマを使って食い止めたぞ!」

ピッ

リュウコマンダー「和斗君、覚醒したんだね、良かったよ!」

夕方になり、最後に和斗は響と未来と一緒に観覧車に乗っていた。

和斗「遊園地の最後の定番はやっぱりこれだな!」

響「うん、和斗君と久しぶりに観覧車だ!」

未来「小さい頃、3人で乗ってたね!」

和斗「ああ、埼玉に行く前の三年生の頃は俺が響と未来の真ん中に座ってたな!」

響「ねえ和斗君、真ん中に来て！」

和斗「えっ？ああ！」

和斗はすぐに響と未来のいる真ん中に座り、すると。

響「ねえ和斗君、こっちに向いて！」

和斗「ああ、えっ?!」

和斗はずくに向くと響は和斗と唇を重ねてキスをし。

和斗「響?!」

響「私と未来や皆を救ってありがとう、これはお礼だよ！」

未来「響ずるい、じゃあ私も！」

未来もすぐに和斗と唇を重ねてキスをした。

未来「えへへ、おあいこだね、私達2人は！」

和斗「二人とも、俺の事、好きなのか?!」

響、未来「「うん、世界中や宇宙より和斗君が大好き♡！」」

和斗「ありがとうな二人とも、服装はかわいいぜ！」

3人は観覧車に最後まで外を眺め、終わり、和斗は響と未来をリディアンの際まで歩いて送った。

和斗「じゃあ響、未来、俺は帰るよ!」

未来「送ってくれてありがとう、和斗君!」

響「今日は本当にありがとう、楽しかったよデート!」

和斗「ああ、今度は気が向いたら二人を宇宙とか連れてってあげる!」

響「うん、約束だよ!」

和斗は扉を閉めて、父と母がいる家に向かって歩いて帰る。

和斗（響と未来は可愛いな、俺は2人が好きだな、よし、2人の為に皆でネオジャークマターとキャロルの野望を食い止めるぞ!）

和斗「よっしゃラッキー!」

木星ネオジャークマター要塞

研究室

グリズラー「へー、シシレット、聖遺物キュータマを使ってパワーアップしたんだ!」  
グリズラーは先程のレオルスとシシレットの戦いをモニターで見る。

グリズラー「次に奴らの狙いは聖遺物キュータマのアメノハバキリキュータマ、場所は兵庫にあるのか、ならばダークキュウレンジャー達にそれを奪わせよう、後はやぎ



座系カロリーのアイツも頼ませよう、アイツは蹴りがうまいからな、クククク!」

NEWSSTORY

スペース28、手に入れろアメノハバキリキュータマ、和斗の最悪のアンラッキー！

S. O. N. G、シミュレーション室

シシレッド「行くぜ、おりや、どりや！」

和斗と響と翼はシミュレーション室のアルカノイズを相手にトレーニングをしていた。

翼「獅子野、気合いが入ってるな！」

響「よし私も和斗君に負けないで頑張るぞ！」

響も負けずにアルカノイズにパンチ。

翼「ならばこちらも負けんぞ、はあー！」

翼も剣のアームドギアで切り裂いた。

玄十郎「よし、そこまでだ、明日は土曜と日曜は休日だが任務があるので、明日、リベリオン本部に来るように、解散！」

3人「はい！」

3人は終了して変身やギアを解除。

響「じゃあね和斗君、未来が待ってるから！」

和斗「ああ、また明日な響！」

響はリディアンの寮まで走って行き。

翼「獅子野、さっきの戦いは良かったぞ、明日は頼むぞ！」

和斗「よっしゃラッキー、任せてくれ翼さん！」

次の日の土曜

リベリオン本部休憩室

響「和斗君、師匠とシヨウ総司令さん達が待ってるよ！」

和斗「ああ、すぐに行くよ！」

すると

スルツ

和斗「うわああ！」

響、未来「「えっ? ききゃっ!」」

和斗は下を見ずにバナナの皮に滑って響と未来の方へ転び、すると。

ムニユ、ムニユ

和斗「あっ?!」

和斗は響と未来の胸を揉み。

響「い、いやあああ!」

ベシン

和斗「ごめーん、わざとじゃないよ!」

ドーン

響は和斗をビンタして壁が突き破る威力があつた。

響「あつ、ごめんね和斗君、大丈夫?!」

ラジオアナウンス「88星座占い、今日の最悪の星座は獅子座だよ!」

未来「和斗君、今日は最悪の運勢なのかも!」

和斗「何で?マジかよ?、今日は最悪の運勢かよ?!」

リベリオン本部司令室

和斗と響と未来は着き、全員揃い。

シヨウ・ロンポー「さて、今日の任務は兵庫県の神戸に向かう!」

全員「神戸?!」

玄十郎「ああ、和斗君達が北海道本部のリトルベアー司令の情報によるとアメノハバキリキュータマが神戸にあるとの情報を見つけた!」

ステインガー「ああ、神戸は今、ネオジャークマターに占拠されてアメノハバキリキョータマを探している！」

シヨウ・ロンポー「だからネオジャークマターよりアメノハバキリキョータマを手に入れないやならないんだよ！」

クリス「成る程な、今の所は GANG ニールキョータマとイチイバルキョータマで残り4つを手に入ればネオジャークマターに対抗できるよな?！」

玄十郎「ああ、聖遺物キョータマにはキョーエナジーが発生する効果が発生する！」

切歌「あゝ全員で行ったら探すのに苦労はしないデスカ?！」

切歌は全員で行こうと質問し。

緒川「そうはいかないですよ、シヨウ総司令のルールによると装束2人と5人のメンバーで行くことになりました！」

玄十郎「ああ、本部を空にするわけにはいかないからな、残ったメンバーには留守とアルカノイズが現れるまでの待機だからな！」

シヨウ・ロンポー「よし、ネオジャークマター対抗の為に、エルフナインちゃん、ラフタ、響ちゃん達にあれを渡そう！」

セレナ「あれとは何ですか?！」

エルフナイン「今からお見せします！」

エルフナインとラフタはアタツシユケースを出して開けると中には黄色、青、赤、白、緑、ピンク、オレンジ色のセイザブラスターとシシとカメレオンとワシのエンプティキュータマが入っていた。

蓮司「これは？量産型セイザブラスター？でも色がそれぞれ違うで！」

ラフタ「はい、リトルベアー司令から託された7つの量産型セイザブラスターをエルフナインと一緒に響達に使えるように改造しました！」

ラフタは蓮司達に改造した量産型セイザブラスターの説明し。

エルフナイン「響さんと翼さんとクリスさんと奏さんはこれをつけてギアを纏って下さい、ギアを纏えば腰にキューバツクルを装着します！」

響「わあ、凄くカッコいい！」

クリス「いけるぜこれは！」

奏「翼、あたし達もこれでネオジャークマター達に対抗できるぜ！」

翼「ええ、スキルキュータマが使えるわね！」

調「でも、私と切ちゃんとマリアのギアはまだ修復中！」

シヨウ・ロンポー「それなら安心して、マリアちゃんと調ちゃんと切歌ちゃんのギアが修復するまではこれを使うといい！」

シヨウ総司令はマリアと調と切歌にシシ、カメレオン、ワシのエンプティキュータマ

を渡す。

マリア「これは?!」

シヨウ・ロンポー「エンプティキュータマだよ、それをつければ和斗君達と同じキューレンジャーになれるよ!」

切歌「やったーありがとうデス!」

調「一緒になれるね切ちゃん!」

マリア「ありがとうございます、総司令、ギアが修復するまではこれでいきます!」

玄十郎「よし、今回の任務は翼、クリス君、頼めるか?!」

翼「勿論です司令!」

クリス「おうよ、セイザブラスターを着けたあたし達の力を試してやるぜ!」

シヨウ・ロンポー「よし、残りの5人はキューレットで決めよう、今回はエンプティ

キュータマを持つてるマリアちゃんと調ちゃんと切歌ちゃんも参戦だからね!」

和斗「はっ?もしハズレたら俺は不参加なのか?絶対に当ててくれよ!」

シヨウ・ロンポー「では、エルフナインちゃん、回してくれるかね?!」

エルフナイン「いいんですか?ボクが回しても?!」

シヨウ・ロンポー「勿論、ではいこうか、キューレット・ザ・チャンス!」

エルフナインはシヨウ総司令の掛け声と同時に回し。

調「当たって！」

切歌「アタシに当てるデース！」

和斗（頼む、当ててくれ、出る、出る、出るー！）

エルフナインが当てたのはシシ、サソリ、テンビン、ヘビツカイ、リュウキュータマの5コだった。

シヨウ・ロンポー「あれ？ボクチンも当たったぞ！」

和斗「よっしやラツキー、さて行こうぜ皆！」

シヨウ・ロンポー「ウム、S・O・N・G潜水基地で行こう、玄十郎司令！」

玄十郎「ウム、では行こうか、溯也、あおい君、行こう！」

藤高「了解です司令！」

友里「じゃあ行こうか！」

翼「お願いしますあおいさん！」

シヨウ・ロンポー「ステインガー、ラフタ、ここを頼むよ！」

ステインガー「ああ、ここは任せてくれ！」

ラフタ「皆さんの事は私達に任せてください！」

和斗「じゃあ行ってくるぜ、響、未来！」



響「行ってらっしゃい和斗君、皆、気をつけてね！」

和斗達は玄十郎司令達と一緒に司令室を出て潜水基地へ向かい。

未来「和斗君、運があれば良いのに、ちよつと心配！」

マリア「あら？切歌と調がないわね？どうしたのかしら?!」

S・O・N・G潜水基地司令室

和斗（キューレットは一応当たったけど、大丈夫なのか？、今はそんなことを考えないで任務に集中だ！）

シヨウ・ロンポー「よし、では行こうか、玄十郎司令、頼む！」

玄十郎「ウム、では発進！」

藤高「了解、発進します！」

玄十郎司令の掛け声で潜水基地は浮上し、兵庫県の神戸に向かった。

兵庫県の神戸

和斗「よし、ついたぞ！」

クリス「ここが神戸か、でもよ人がいないぜ先輩！」

翼「ああ、ほとんどネオジャークマターという奴らに占拠されてたぞ！」

切歌「ホントデース！」

和斗「えっ？切歌？調？何でここにいるんだ?!」

調「皆さんに気づかないように一足先に潜水基地に乗り込みました！」

功太「やるもんだな、2人とも！」

祐一「すぐに帰れ、お前らは出撃メンバーに選んでないぞ！」

切歌「いいじゃないデスカケチ！」

シヨウ・ロンポー「全く君達は困ったものだね、良いだろう同行を許可する、だが命

令違反はダメだからね、クリスちゃん、頼むよ！」

クリス「たく、仕方ねーな！」

調「ありがとうございます、総司令！」

調はシヨウ総司令に感謝。

切歌「ありがとうデース、それにしても和斗先輩、今日の祐一さん、アタシと調に厳しいけどどうしたデスカ?!」

和斗「ああ、クリス先輩同様、お前らの事が心配だからな！」

すると

スルッ

和斗「うわー！」

和斗はバナナの皮に滑って転ぼうとすると翼のスカートを掴んでずらした。

クリス「先輩？下を見ろ！」

翼「ん？わああああ、何をする獅子野?!」

パチン

翼は和斗にビンタ。

和斗「いてて、最悪だ！」

調「和斗先輩？今日はどうしたのですか?!」

和斗「今日の運勢を見たらしし座は最悪アンラッキーだよ！」

クリス「おいおい、大丈夫かよ?!」

功太「たく、どうやってアメノハバキリキュータマを見つけてるんだ?!」

シヨウ・ロンポー「それならこれを使おう、翼ちゃん！」

シヨウ総司令は黄色いキュータマを出してそれを翼に使わせる。

翼「これは何ですか総司令?!」

シヨウ・ロンポー「これは聖遺物キュータマ、エルフナインちゃんと蓮司君が開発し

たキュータマ、使うと聖遺物キュータマの場所を発見できるよ！」

蓮司「翼さん、やってみるんや！」

翼「よし使ってみよう！」

聖遺物キュータマ！

セイザアタック！

翼は聖遺物キュータマをセイザブラスターに装填して使うと地図みたいなものが出てきて見ると。

クリス「へー、こりや便利だな、ん？このキュータマ動いてるぞ?!」

シヨウ・ロンポー「ん？まさか?!」

ドドドドド

地中から触手みたいな敵が現れた。

翼「ん？何だ奴は?!」

シヨウ・ロンポー「あれはジャークマターのワーム、もしかするとアメノハバキリキュータマが奴の腹のなかにあるかもしれん！」

同時にネオインダバーが現れ。

功太「来やがったぞ奴ら！」

和斗「よーし、こいつらを倒してアメノハバキリキュータマを手に入れるぞ！」

セイザチェンジ！

全員「スターチェンジ！」（デス！）

シヨウ・ロンポー「ガリョウテンセイ！」

全員、変身し、翼とクリスも歌ってギアを纏い。

シシレッド「よし行くぜ！」

戦闘開始した。

翼「はあー！」

クリス「くらえザコ共！」

テンビンゴールド「よっしや狙い撃ちや！」

ヘビツカイシルバー「どりや！」

功太と蓮司とクリスと翼はアームドギアとキューウエポンで近くのネオインダバー

の相手をし。

シシレッド「おりや！」

サソリオレンジ「はあー！」

リユウコマンダー「それ！」

俺と祐一とシヨウ総司令は別の所のネオインダバーの相手をし。

カメレオングリーン（切歌）「おりや、くらえデース！」

ワシピンク（調）「切ちゃん、油断しないでね！」

調と切歌はキューシツクルとキュークロスボウでネオインダバーに攻撃。

クリス「よっしや、これでまとめて始末してやる！」

カニキュータマ！

セイザアタック！

クリスはカニキュータマを使ってネオインダバーをまとめて挟み。

カメレオングリーン（切歌）「よし、アタシも使うデース！」

ヘラクレスキュータマ！

セイザアタック！

カメレオングリーン（切歌）「おつ、怪力マッチョデース、くらえデース！」

切歌はヘラクレスキュータマを使って怪力になりネオインダバーに向けて右スト

レートし祐一の所へ吹き飛ぶ。

サソリオレンジ「あいつ、何て戦い方を！」

カメレオングリーン（切歌）「やったデース、調やったデース！」

サソリオレンジ「やめろ、戦いをなめるな！」

カメレオングリーン（切歌）「何でデースか？、アタシはネオインダバーを倒したいデス

よ！」

クリス「おい、お前からこんなところでもめんじやねえ！」

ドン

翼「ん？何だ?!」

ダークシシレッド「ヒヤハハ、何かと増えたらシンフォギア装者という奴らか！」  
翼達の前に現れたのはダークキュウレンジャー。

リュウコマンダー「ダークキュウレンジャー？来てたのか?!」

ワシピンク（調）「あのヤギみたいなのは誰?!」

調はヤギのネオジャークマターに気づき。

？「俺は山羊座系カロースレイブ、俺の戦術は足の蹴り、貴様らを俺の蹴り裁きに  
してくれる!」

シシレッド「おもしれー、やってやるぜ、うおー!」

和斗はキューソードをすぐ構えてスレイブに向かって振ると。

スレイブ「バカめ、そんな攻撃で俺には勝てんぞ!」

スレイブは和斗のキューソードを右足で受けとめ、左足で回転蹴りをした。

シシレッド「うわー!」

リュウコマンダー「和斗君?!」

クリス「和斗?!」

ダークワシピンク「あんた達の相手はアタシ達だよ!」

翼「くっ、邪魔をするな、お前達！」

ダークシシレッド「へへへ、一度あんたと戦ってみたかったぜ、ツヴァイウィングの風鳴翼さんよー！」

ダークキューレンジャー達は翼達の相手をする。

カメレオングリーン（切歌）「翼さん？クリス先輩？皆さん?!」

ワシピンク（調）「切ちゃん、私達はあのワームを倒してアメノハバキリキュータマを手に入れよう！」

すると

ドドドドド

ワームは地中にまた潜り。

翼「しまった？奴がまた潜って行ったぞ！」

カメレオングリーン（切歌）「翼さん、アタシと調が追いかけるデース！」

調と切歌はワームが掘った穴に入り。

クリス「切歌？調？、勝手に行くな！」

サソリオレンジ「ここは俺に任せてくれ、あいつらだけじゃ心配だからな、とう！」  
祐一は2人が入った穴にすぐ入る。

翼「桐山、二人の事は頼むぞ！」



ダークシシレット「ちつ、退くぞお前ら！」

ダークオオカミブルー「おうよ！」

ダークキュウレンジャーは翼達の相手をやめ退き。

スレイブ「俺も退くか、ちょうど疲れるからな、はあ！」

同時にスレイブもジャンプして退く。

シシレット「あつ？待て、痛！」

和斗達は変身解除やギアを解除し。

翼「獅子野？大丈夫か？ん？左腕が怪我してるぞ！」

和斗「大丈夫だ、このくらい痛！」

クリス「その怪我じゃ無理だろ？お前はおっさんのところに戻れ！」

和斗「嫌だ、俺はまだ戦える！」

和斗は怪我をおさえながら進み。

翼「獅子野？1人で行くな！」

シヨウ・ロンポー「よし、ボクチン達は切歌ちゃん達の探索をしよう！」

蓮司「それやったらワイが祐一さんに発信器を渡したで！」

功太「ナイスだ蓮司！」

シヨウ・ロンポー「よし、その探知した場所まで行こう、祐一君が2人を連れて地中

から上がってくるかもしれないからね！」

一方、東京リベリオン本部

食堂

響「和斗君、怪我して大丈夫かな?！」

未来「うん、私も心配だね！」

壮汰「ちくしょう、こんなときに俺が当たれば行こうと思つたのに！」

奏「まあ焦んなよ、昼飯食つて落ち着こうぜ！」

セレナ「そうですよ、今は我慢しましょう！」

マリア「そうね心配しないで、アミ、エリ、あの子達は祐一達がいるからね！」

エリ「はい！」

アミ「切歌ちゃん、調ちゃん！」

地中

タキビキュータマ!

セイザアタック!

祐一は切歌と調を見つけ、タキビキュータマを使って焚き火する。

調「わあ、暖かい！」

切歌「便利デース！」

祐一「ちよつと待つてろ、今から魚を用意するぞ！」

調「えっ？でも材料がないですよ?!」

祐一「心配するな、これを使う！」

ウオキユータマ！

セイザアタツク！

祐一「はっ、せい、よつと！」

祐一はウオキユータマを使って魚を出してキユースピアードでさばいて木の棒にさして焚き火で焼く。

切歌「おー、祐一さんは魚を焼くとはスゴいデース！」

調「どうやってやったのですか?!」

祐一「やったというか、小さい頃、父さんに教えてもらったんだ、旅に出てる時でも自分で魚を釣って焼いて食べてる、ほら出来たぞ！」

話してる時に魚が焼け、食べる3人。

調「切ちゃん、魚の骨には気をつけてね！」

切歌「気をつけるデース、調！」

祐一「フフ、2人はいつも仲直りだな、お前らは家族はいるのか?!」

祐一は2人に家族はいるかを質問し。

調「私と切ちゃんは小さい頃、両親はいないですが小さい頃はF・I・Sに命を救われ、シンフォギアを纏う厳しい特訓やら投薬に苦しんでいますますが頑張ってます!」

切歌「でも、今は響さん達と和斗先輩達がいて幸せデース!」

祐一「そうか、俺には父さんと母さんがいて、クリスの両親とクリスとレイがいて楽しい、けどあいつが、レイがネオジャークマターに入ってから俺はクリスの事を一生懸命に探してたんだ!」

祐一は切歌と調に自分の両親やクリスの家族の話をし。

祐一「調の事、好きなんだろ?だから、諦めず一緒に頑張るぞ!」  
すると

ワーム「キシヤアアア!」

ワームが祐一達の前に現れ。

調「あれは?ワーム?!」

祐一「よし、行くぞ2人とも!」

切歌「ガツテンデース!」

一方、地上の方は。

ピピピピピピ

蓮司「ん?切歌達の反応がなかったで?!」

クリス「ん？あいつらの場所、見つけたのか?!」  
すると

ドドドドド

祐一はワームを吹き飛ばして地中から脱出。

シヨウ・ロンポー「おおお、祐一君、切歌ちゃん、調子ちゃん、無事だったのか?!」

切歌「エへへ、心配かけてごめんなさいデース！」

翼「でも、ワームをここまで追尾してくれて助かるぞ！」

クリス「でかしたぞお前ら！」

功太「よし、後はあいつをぶっ飛ばしてアメノハバキリキュータマを手に入れるぜ  
！」

シヨウ・ロンポー「よし、では行こうか、マワースライド！」

セイザチェンジ!

5人「スターチェンジ!」(デス!)

シヨウ・ロンポー「ガリョウテンセイ!」

6人はスターチェンジし、翼とクリスは歌ってギアを纏った。

リュウコマンダー「ドラゴンマスター、リュウコマンダー!」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ！」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー！」

カメレオングリーン（切歌）「デスデススター、カメレオングリーンデース！」

ワシピंक（調）「スピンスター、ワシピंक！」

クリス「イチイバル、雪音クリス、ちよせー！」

翼「アメノハバキリの装、風鳴翼！」

リュウコマンダー「究極の救世主と装、宇宙戦隊！」

全員「キューレンジャー！」

翼「お前の運命、試して見せるぞ、はあ！」

翼達が一斉にかかると。

ダークシシレッド「よお、俺たちの相手をまたやろうぜ！」

ダークキューレンジャーがまた現れた。

クリス「ダークキューレンジャー？また来やがったな！」

リュウコマンダー「よし、ダークキューレンジャーの方はボクチンと翼ちゃん達に任

せたまえ！」

サソリオレンジ「ああ、俺と切歌と調はあのワームをやる、行くぞ2人とも！」

カメレオングリーン（切歌）「はいデース！」

ワシピンク（調）「はい！」

全員「うおー！」

全員は一斉にかかり。

ダークカジキイエロー「ケへへへ、テメーらまとめてぶっ飛ばすぜ！」

ダークシシレッド「ああ、行くぞテメーら！」

ダークキュウレンジャーとワームも即刻かかった。

クリス「この野郎、落ちやがれ！」

クリスはアームドギアのクロスボウでダークワシピンクに攻撃するがそれを避け。

ダークワシピンク「アハハ、どこ狙ってるのかしら？きやつ?!」

シヨウ総司令がリュウツエーダの狙撃モードで狙い撃ち。

クリス「シヨウのじっちゃん、サンキューな！」

リュウコマンダー「なんのなんの、おっと！」

ダークカジキイエロー「ジジイ、テメーは俺がぶっ潰す！」

ダークカジキイエローがダークキュウスラッシュャーでシヨウに攻撃をするがシヨウ

総司令はリュウツエーダで攻撃を防ぎ。

翼「さっきの用にはいかなぞ！」

ダークシシレット「へっ、やれるもんならやってみな！」

翼の剣とダークシシレットのダークキューソードの弾きあいをし。

ダークシシレット「もらった！」

翼「そうはしませんぞ！」

タテキュータマ！

セイザアタック！

翼はタテキュータマを使って防ぎ。

翼「はあー！」

ダークシシレット「ぐわあああ！」

油断大敵に翼はダークシシレットに剣攻撃。

ヘビツカイシルバー「おりや！」

テンビンゴールド「そりや！」

蓮司と功太はダークオオカミブルーとダークカメレオングリーンと対決。

ダークオオカミブルー「テメーら、切り刻んでやるぜ！」

ダークカメレオングリーン「ヒヤハハ、あたいの武器で串刺しにしてやる！」

テンビンゴールド「そうはいかへんで！」

イテキュータマ！



セイザアタック!

蓮司はイテキュータマを使ってダークオオカミブルーとダークカメレオングリーンに向かって無数の矢を放ち。

スレイブ「ハハハ、俺も参加してもらおうぜ！」

スレイブが突然と乱入し。

シシレッド「お前の相手は俺だ！」

和斗はスレイブを見つけて戦う。

翼「獅子野、あまり無理はするな！」

ダークシシレッド「へっ、今のうちに俺達のあれを出すぞ！」

ダークキュウレンジャー全員「おうよ！」

ダークゴー!

ダークシシボイジャー!

ダークオオカミボイジャー!

ダークワシボイジャー!

ダークカメレオンボイジャー!

ダークカジキボイジャー!

ダークキューレンジャー達が黒いキューボージャーを出し。

リュウコマンダー「あれは？キューボージャー？色が黒いぞ?!」

ダークシシレッド「へへへ、これだけじゃないぜ！」

ダークドツキング！

キューレンオー！

何とキューレンオーに合体。

リュウコマンダー「よし、蓮司君、功太君、ボクチン達でリュウテイオーで行こう！」

ヘビツカイシルバー「よっしゃ、任せろ！」

クリス「よっしゃ、あたしと先輩は和斗を援護するぜ！」

テンビンゴールド「先輩、任せたで！」

セイザドツキング！

リュウテイオー！

ダークシシレッド「行くぞテメーら！」

リュウコマンダー「来い！」

カメレオングリーン（切歌）「デース！」

ワシピンク（調）「えい！」

サソリオレンジ「はあー！」

祐一は切歌と調と一緒にワームと戦い。

ワーム「キシヤアアア！」

シシレッド「おりや、くそ、また足で防ぎやがって！」

スレイブ「ハハハ、どうした？シシレッド？お前の力はその程度か?！」

翼「はあー！」

クリス「くらいやがれ！」

翼さんとクリス先輩が俺の援護に入り。

翼「獅子野？サイコーキュータマを使うんだ！」

クリス「こいつの足止めはあたしと先輩に任せろ！」

シシレッド「わかった、よし！」

和斗はサイコーキュータマを出して押すと。

シシレッド「なっ？起動しないぞ?！」

翼「なんだと?！」

クリス「どうしちまったんだ？おい！」

玄十郎「サイコーキュータマが起動しないだ?!」

玄十郎は和斗のサイコーキュータマが起動しない事に驚き。

ギヤラクシー!

3人「オールスタークラッシュユ!」(デース!)

スーパージヤラクシー!

祐一達はセイザブラスターの必殺技でワームを撃破すると。

ワシピンク(調)「はっ?切ちゃん、アメノハバキリキュータマが出てきた!」

調と切歌はワームから出てきたアメノハバキリキュータマを取ろうとすると。

スレイブ「さっせんで、はあー!」

カメレオングリーン(切歌)「デース!」

スレイブは高速に切歌と調の所に向かい直ぐ様蹴り技をしてアメノハバキリキュータマを手に取り。

シシレッド「返せ、それはネオジャークマターに対抗する物だ!」

スレイブ「ぶっ、甘いぞ、ジャンピングローキック!」

シシレッド「ぐわあああ!」

スレイブは和斗にジャンピングローキックをし、和斗は倒れて変身解除。

翼「獅子野?!」

響・未来「[和斗君?!]」

響と未来はモニターで和斗を心配し。

スレイブ「ハハハ、その程度に俺に勝とうなんて10年早いぞ!」

和斗「そんなことない、俺はまだ、負けるわけにはいかねえ!」

スレイブ「威勢だけはいいが、もうお前もおしまいだな、あばよ、シシレットを受け継ぐ獅子野和斗!」

スレイブは倒れてる和斗に向かってかかと落としをしようとする。

翼「そうはさせんぞ!」

スレイブ「ん?足が動かんぞ?!」

翼は影縫いを使ってスレイブを動きを防ぎ。

リュウコマンダー「皆、潜水基地に帰還だ!」

クリス「おい、アメノハバキリキュータマはどうするんだ?!」

翼「いずれ取り返すぞ、暁、月読、獅子野を!」

カメレオングリーン(切歌)「はい、デース!」

ワシピンク（調）「和斗先輩？しっかり！」

調と切歌は和斗を支えて歩き。

サソリオレンジ「よし、逃げるぞ！」

セイザゴー！

サソリボイジャー！

祐一はサソリボイジャーを出して和斗と翼達を回収し。

リュウコマンダー「よし、引き上げるぞ、玄十郎司令、ボクチン達を回収したらすぐに全速力で潜水を頼む！」

玄十郎「了解だ！」

シヨウ総司令はリュウテイオーを分離し潜水基地に向かう。

ダークシシレッド「ヒヤハハ、ナイスだスレイブ、アメノハバキリキュータマをゲットするとは！」

スレイブ「ああ、奴ら、これをまた取り戻すに違いない！」

ダークオオカミブルー「まあその時は俺達がやるぜ！」

夕方、東京リベリオン本部

司令室

シヨウ・ロンポー「ボクチン達がない間にお留守番、ご苦労だったね！」  
奏「それにしても和斗がヤギ野郎に負けちまうなんてよ！」

マリア「ええ、それにサイコーキュータマが起動しないなんて！」  
未来「和斗君！」

公園

和斗はブランコに乗って落ち込み。

和斗「そうだよな、俺はラツキーじゃない、小学生の頃、俺は未来を怪我しちまったからな！」

10年前の山辺

和斗（未来？未来？しっかり?!）

響（和斗君、お母さんと呼ばう！）

和斗は10年前を思いだす。

和斗「あれは俺がいけなかったからな……！」

NEWSSTORY

# スペース29、11人の救世主と4人の装束のオールスター!

木星ネオジャークマター要塞

ブリーフィングループ

グリズラー「へー、それでスレイブは素早くアメノハバキリキュータマを手に入れたんだね?!

スレイブ「ああ、それを取り戻そうとしたシシレットに向けて必殺の蹴りを決めただぜ!」

スレイブはグリズラーと話をし。

グリズラー「それでアメノハバキリキュータマはダークキュウレンジャー達が持っているのか?!」

スレイブ「ああ、東京に行って奴らに挑発しに行ってるぞ!」

グリズラー「フフフ、それは面白そうだね!」

リベリオン本部ブリーフィングループ



和斗「はあく！」

和斗は一人でため息をついて座り込み。

セレナ「和斗さん、昨日の事でちよつと落ち込んでます！」

小太郎「無理もないよ、和斗がアンラッキーじゃあ！」

ビービービー

小太郎「サイレンが鳴ってる？ 司令室へ行こう！」

セレナ「はい！」

リベリオン本部司令室

全員は集合し。

ショウ・ロンポー「全員、揃ったようだね、ラフタ、モニターを！」

ラフタ「了解です！」

ピッ

ラフタがモニターを写すとダークキュウレンジャー達が街を襲撃しに来了。

翼「あれは？ ダークキュウレンジャー?!」

クリス「あのやろう、ここに来やがったのか！」

玄十郎「よし、奏、頼めるか?!」

奏「よっしゃ任せとけよ旦那！」

シヨウ・ロンポー「よし、残りはキューレットで決めよう、では、キューレット。ザ、チャンス!」

ポン、ポン、ポン、ポン、ポン

シヨウ総司令が当たったのはエンブテイシシ、コグマ、カジキ、ワシ、カメレオンだった。

アミ「あれ? 和斗先輩が外れました?!」

セレナ「マリア姉さんが当たりました!」

和斗「……そうか、俺、外れたのか……マリアさん、セレナ、小太郎、皆頼む!」  
ウイーン

和斗は司令室を出る。

小太郎「おい、和斗?!」

マリア「とにかく、現場に行きましょう、セレナ、皆、行くわよ!」

エリ「はい!」

マリア達は現場に向かった。

響「和斗君!」

東京現場

「きゃー！」

「逃げろー！」

逃げる市民の声が聞こえ。

「ダークオオカミブルー」「ヒヤハハ、逃げろ逃げろ！」

「ダークカメレオングリーン」「街をめちやくちやにしてやるわ！」

「マリア」「見つけたわよダークキュウレンジャー！」

現場に着いたマリア達。

小太郎「これ以上、お前達の好きにはさせない！」

奏「よし、行こうぜ皆！」

アミ・エリ・セレナ「「はい！」」

セイザチェンジ！

5人「スターチェンジ！」

マリア達は変身し、奏も歌を歌ってギアを装着。

シシレッド（マリア）「これがエンプティキュータマを使って変身した私なのね?！」

コグマスカイブルー「よし行こう！」

カジキイエロー「はい！」

セレナ達はキューウエボンとアームドギアを構え進み。

ダークシシレッド「へへへ、お前らをぶっ飛ばしてやるぜ!」

同時にダークキュウレンジャー達も専用の武器を構えて進んだ。

シシレッド(マリア)「はあー!」

奏「おりや!」

マリアと奏は2人でダークシシレッドと対決。

ダークシシレッド「へっ、あの翼という奴は今日はいないのか?!」

奏「こいつ? 翼と対決した奴か? 相手にとつて不足ないぜ!」

シシレッド(マリア)「奏、油断しないで、相手は..!」

奏「わかってる!」

セレナ達はダークオオカミブルー達と対決。

ワシピンク「やー!」

ダークワシピンク「飛んで戦う戦法にあたしに勝てるか?!」

エリはダークワシピンクと空中に対決。

ダークカジキイエロー「ヒヤハハ、女のくせになかなかやるな!」

カジキイエロー「私だって和斗さんや皆さんのお陰で迷わず戦えます!」

セレナはキュースラツシャーでダークカジキイエローとの武器の弾きあいをし。

コグマスカイブルー「負けるか！」

カメレオングリーン「アメノハバキリキュータマを返して貰います！」

ダークオオカミブルー「ヒヤハハ、これの事か？欲しければ！」

ダークカメレオングリーン「あたいらに勝つてから手に入れるんだな！」

ダークオオカミブルーは小太郎達にアメノハバキリキュータマを見せながら対決。

玄十郎「妙だな！」

翼「ん？どうしました？司令?!」

シヨウ・ロンポー「ダークキュウレンジャー達の動きについてだよ！」

響「ん？動きがどうしたのですか?!」

響はシヨウ総司令の言つてたダークキュウレンジャー達の動きについて聞き。

シヨウ・ロンポー「ああ、ダークキュウレンジャーがなんか動きが少し早くなつてるに違いない、奏ちゃん、ダークシシレッドに向けてビーム攻撃してみて！」

奏「こうか?!」

奏はダークシシレッドに向けてセイザブラスタのビーム攻撃をしてみると。

ダークオオカミブルー「させるかよ！」

ダークオオカミブルーが高速で駆けつけ奏のビーム攻撃を切り裂き。

ショウ・ロンポー「やはりグリズラーがダークキュウレンジャー達の性能を上げたのか?!」

玄十郎「確かにあの高速は厄介だが！」

ショウ・ロンポー「よし、マリアちゃん、小太郎達、一旦撤退だ作戦をたてよう！」

コグマスカイブルー「よし、マリアさん、皆、撤退しよう！」

シシレッド（マリア）「解ったわ！」

カメレオングリーン「はい！」

セイザゴー!

小太郎達はキュウボイジャーを出してマリアと奏を乗せて本部に撤退。

ダークカジキイエロー「あいつら、しっぽを巻いて逃げたな！」

ダークシシレッド「ああ、また何か作戦をたてるつもりだぞ！」

ダークオオカミブルー「ヒヤハハ、次は絶対に仕留めようぜ！」

リベリオン本部司令室

シヨウ・ロンポー「お帰りマリアちゃん達、ご苦労だったね！」

マリア「それにしても、ダークキュウレンジャーの高速移動、奏のビーム攻撃に駆けつけて防ぐなんて！」

ステインガー「ああ、分析がもうまもなく完了する！」

ラフタ「はい、分析結果が出ました、ダークキュウレンジャー5人は残ったLincolnを投与しました。」

玄十郎「やはりな、何か早いと思えばLincolnの残りを投与するとは！」

シヨウ・ロンポー「これは全員で行くしかない、エルフナインちゃん、キューレットを回してみてください！」

エルフナイン「はい、それ！」

エルフナインが回すと白色のキュータマが入った、これはアタリキュータマだった。

アタリ

シヨウ・ロンポー「このキュータマはキュウレンジャー全員出動と装 $\square$ 4人の出動だ！」

切歌「アタシ達も出動デース！」

玄十郎「マリア君達は待機だ！」

切歌「なんデスと?!」

ステインガー「アルカノイズとオートスコアラが現れたら大変だからな、待機はその為だ!」

すると

和斗「悪い、皆、俺は行かない!」

ウイーン

和斗は司令室を出る。

壮汰「おい、和斗兄貴?!」

翼「大丈夫だ、私が行く!」

響「翼さん?!」

翼も司令室を出て和斗を探す。

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

和斗「はあー!」

ウイーン

翼「入るぞ獅子野!」

翼がブリーフィングルームに入ってきた。

和斗「翼さん? どうしてここに来たんだ?!」



翼「君が心配で探したぞ、何故皆と一緒に出勤しないんだ?!」

和斗「それは：：解つたよ、翼さんに教えるよ、もし俺のせいで皆に迷惑かけるかも知れないんだ、あの頃のように!」

翼「あの頃?!」

和斗「ああ、10年前、俺と響と未来がまだ小学二年生の頃、俺達は両親と一緒に山辺でピクニックに行つてたんだ!」

和斗は10年前を思いだし語る。

和斗（やつほー、木に登つていけるぜ!）

響（和斗君すごい!）

未来（和斗君、危ないよ!）

和斗（だったら未来も一緒に登るぜ!）

俺は未来を連れて木に登った、すると。

バキバキ

和斗（えっ? うわあああ!）

未来（きやあああ!）

ドスン

和斗（痛てて、はっ? 未来? 未来? しっかり未来?!）

響（和斗君、お母さん呼んでくる!）

俺と未来は木が折れて倒れて未来が頭を怪我して親父が包帯と消毒液を使って何とかなった。

和斗「分かるだろ?俺がアンラッキーになったのは未来を怪我してしまったせいなんだ!」

翼「そんなことはないぞ、君は立花や雪音や私と奏、シヨウ総司令達と一緒に戦ってる仲間だ、君はあのラッキーを受け継ぐシシレッドだぞ!」

ウイーン

奏「……!」

翼「奏?どうしてここに来たの?!」

奏「和斗、歯を食い縛りやがれ!」

奏は和斗の顔に向かって右ストレートし。

未来「和斗君?!」

クリス「おいおい、奏先輩?!」

未来達もモニターで和斗を見る。

和斗「何をするんだ奏さん?!」

奏「あたしと翼達はあんたが来るのを信じてるぞ！」

翼「奏、行きましょう！」

ウイーン

翼は奏を連れてブリーフィングルームを出る。

シヨウ・ロンポー「よし、皆、和斗君は絶対に立ち直つて来る、それまではボクチン達で行こう！」

響「はい！」

祐一「行くぞクリス！」

クリス「あ、ああ！」

シヨウ総司令達も司令室を出て出動。

未来「和斗君！」

市街地

「きゃー！」

「助けて！」

ダークオオカミブルー「ヒヤハハ、逃げろ逃げろ！」

ダークカジキイエロー「俺達から逃げきれるかな?!

リュウコマンダー「そうはさせないぞ!」

現場についたシヨウ総司令達。

ダークシシレッド「来たかキュウレンジャー、あれ?シシレッドはどうしたんだ?!」  
響「和斗君は必ず来るよ!」

クリス「お前らぶつ倒してキュータマを取り返す!」

翼「よし、行くぞ皆!」

全員「うおー!」

シヨウ総司令と響達は一斉にかかり、すると

ミカ「キャハハ、アタシ達も参加だゾ!」

レイア「派手に加勢するぞ!」

レイアとミカがダークキュウレンジャーの加勢に来た。

サソリオレンジ「あいつらは?オートスコアラ?ダークキュウレンジャーの加勢に  
来たのか?!」

奏「よし、まとめて倒すぞ!」

ダークカジキイエロー「やれるもんならやってみな?!」

司令室のモニターで響達の戦いを見る未来達。

切歌「功太、クリス先輩！」

未来「……！」

ウイーン

玄十郎「未来君？どこに行くんだ?！」

未来「バトルオリオンシップのブリーフィングルームです、和斗君を見に行つてきます！」

未来は和斗がいる格納庫に行つてバトルオリオンシップにいる和斗の所へ向かった。

テンビンゴールド「うわー！」

カメレオングリーン「きゃあ！」

調「アミ？蓮司?！」

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

シーザー「ガウ？ガウガウ！」

シーザーは和斗を心配して叫び。

和斗「シーザー、俺が行っても足手まといになるだけだ、俺はラッキーさんのようなラッキーにはなれないよ!」

ウィーン

未来がブリーフィングルームに入ってきた。

未来「和斗君!」

和斗「未来? どうしてここに来たんだ?!」

未来「和斗君? どうして行かないの? 響達も出動して戦ってるよ!」

和斗「俺が行ったらアンラッキーでダークキュウレンジャーにやられる、俺はラッキーさんのような運じゃない!」

すると。

パチン

未来が和斗の右頬にビンタし。

和斗「未来?!」

未来「和斗君? 小さい頃、私が怪我したことで落ち込んでるでしょ? 和斗君は小さい頃、私や響は和斗君は運勢は悪くなかった、私は和斗君がいたから響を守れたのよ!」

シーザー「ガウガウ!」

シーザーも和斗を慰めるように叫び。

和斗「シーザー？ 未来？ でも俺は！」

未来「和斗君はアンラッキーじゃない、それでも和斗君は私と響の運を信じる大切な人よ！」

和斗「……！」

カジキイエロー「きゃあ！」

オウシブラック「ごわすー！」

オオカミブルー「うわー！」

ダークキュウレンジャーとミカとレイアに苦戦するシヨウ総司令達。

ダークシシレッド「ヒヤハハ、もう終わりか？ 飽き飽きしてきたぜ！」

ダークオオカミブルー「よし、とどめといこうぜ！」

ダークキュウレンジャー達はシヨウ総司令達に向けてダークセイザブラスターの必殺技を構え。

コグマスカイブルー「俺達はまだ諦めない！」

ヘビツカイシルバー「ああ、和斗先輩は絶対に来る！」

奏「あたしたちは諦めねえ！」

？「そうだな、俺達は絶対に諦めねえ！」

翼「その声は?!」

和斗がやつと来たのだ。

響「和斗君?来てたんだ?!」

クリス「来るのがおせーぞ、バカやろう!」

和斗「心配かけてごめんな、響、皆!」

リュウコマンダー「和斗君?もう大丈夫なのかね?!」

和斗「ああ、未来とシーザーが俺に元気つけてくれたんだ!」

ワッツア!

サイコーキュータマ!

スーパーセイザエンジ!

和斗「スターチェンジ!」

和斗はシシレッドオリオンに変身し。

「**ダークシシレッド**」「ヒヤハハ、最悪の運勢にしてやるぜ、おら!」

「**ダークシシレッド**は和斗に向かって進行。

「**シシレッドオリオン**」「はっ、ふっ!」

「**ダークシシレッド**」「うわあああ!」

和斗は一瞬で**ダークシシレッド**の動きをよんでパンチした。



ダークシシレッド「なっ？バカな？お前？俺の攻撃を一瞬でよんだだど?!」  
ダークオオカミブルー「てめえ、アンラッキーじゃなかったのか?!」

シシレッドオリオン「確かに俺はアンラッキーだった、けど俺は小学5年の頃、子供をかばって事故にあつて、俺はラッキーさんに命を救われて運が良くなった、だけど俺は響と未来や皆がいるから最高の運を信じる、よっしやラッキーとな!」

リュウコマンダー「良く言つたよ、和斗君!」

コグマスカイブルー「それでこそラッキーを受け継ぐシシレッドだ!」

小太郎達も和斗と合流。

シシレッドオリオン「奏さん、さっきはありがとな、おかげですっかりしたぜ!」

奏「おうよ、悪いな殴つて!」

響「よし、和斗君が来たから皆さんで行きましょう!」

シシレッドオリオン「よし行くぞ!」

シシレッドオリオン「ミラクルスター、シシレッドオリオン!」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ!」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー!」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや!」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックごわす!」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー!」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーンです!」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク!」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエローです!」

リュウコマンダー「ドラゴンマスター、リュウコマンダー!」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー!」

響「ガングニール、立花響!」

翼「アメノハバキリ、風鳴翼!」

クリス「イチイバル、雪音クリス!」

奏「ガングニール、天羽奏!」

シシレッドオリオン「究極の救世主と装束、宇宙戦隊!」

全員「キュウレンジャー!」

全員でポーズして決めた。

ミカ「へー、15人が相手だな!」

レイア「ならば、派手に加勢だ!」

レイアとミカはジェムを割ってアルカノイズを数十体出し。

シシレッドオリオン「お前らの運、試してもらうぜ！」

全員「うおー！」

俺達は一斉にかかり。

ダークシシレッド「返り討ちにしてやるテメーら！」

ダークキュウレンジャーとミカとレイア達も一斉にかかった。

シシレッドオリオン「よし、シヨウ総司令、響と一緒にダークシシレッドとアルカノイズを倒すぞ！」

リュウコマンダー「了解した、よし、翼ちゃん達は残りのアルカノイズ及びダークキュウレンジャーとオートスコアラを頼む！」

和斗はシヨウ総司令と響と一緒にダークシシレッドの相手をし、翼達はダークキュウレンジャー達、アルカノイズ及びミカ達の相手をする。

シシレッドオリオン「おりゃ！」

響「おりゃ！」

リュウコマンダー「それ！」

俺はキュウソードでダークシシレッドと剣同士の対決し、響とシヨウ総司令はアルカ

ノイズを迎撃。

ダークシシレッド「ヒヤハハ、テメエとの決着つけてやる！」  
シシレッドオリオン「ああ、お前とケリをつける！」

コグマスカイブルー「おりや！」

オオカミブルー「せい！」

奏「おりや！」

ダークオオカミブルー「ぐは！」

壮汰と小太郎と奏はアルカノイズを迎撃しダークオオカミブルーに形勢逆転。

レイア「やるな、ならば派手にコインで！」

奏「させるか！」

ヘビキュータマ！

セイザアタック！

奏はヘビキュータマを使ってレイアのコイン攻撃を当たり。

奏「おりや！」

レイア「ぐは！」

奏はアームドギアでレイアに攻撃。

カジキイエロー「えい！」

翼「はあー！」

サソリオレンジ「くらえ！」

祐一とセレナと翼はダークカジキイエローとアルカノイズの相手し。

ダークカジキイエロー「やりやがったな、テメーら、これでもくらいやがれ！」

ダークカジキイエローは翼達に向けてビーム攻撃すると。

翼「ふっ！」

翼はアームドギアの剣でビーム攻撃を弾き。

ギヤラクシー！

サソリオレンジ「アンタレスインパクト！」

カジキイエロー「ドラドインパクト！」

ダークカジキイエロー「ぐわああ！」

ワシピンク「えい！」

カメレオングリーン「それ！」

クリス「ちよせー！」

オウシブブラック「ごわす！」

テンビンゴールド「そいや！」

ヘビツカイシルバー「おりや！」

クリス達はダークワシピンク、ダークカメレオングリーン、ミカの相手をし。

ミカ「オマエラ、燃やしてやるゾ！」

クリス「こいつは冷やしやがれ！」

ミズガメキュータマ！

セイザアタック！

クリスはミズガメキュータマを出してミカを浴び。

ミカ「あれ？なんだか体がギシギシなったゾ?!」

テンビンゴールド「よっしや今や！」

ギヤラクシー！

全員「オールスタークラッシュュー！」

スーパーギヤラクシー！

ミカ「オマエラ、覚えてろヨー！」

キラン

蓮司達はセイザプラスターの必殺技でダークカメレオングリーンとダークワシピン

クを吹き飛ばし、ミカは空へと吹き飛ばす。

ダークシシレッド「ちくしょう、こーなったら！」

ダークゴー!

ダークシシボイジャー!

ダークシシレッド「テメーら、どうせ最後かも知れねえからな、合体だ！」

ダークセイザドツキング!

ダークキュウレンオー!

シシレッドオリオン「よし、キュウレンオーで行くぞ、祐一、小太郎、壮汰、剛！」

コグマスカイブルー「よし行こう！」

セイザドツキング!

キュウレンオー!

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、行くぞ！」

ダークシシレッド「ぶっ潰してやる！」

キュウレンオーとダークキュウレンオーの戦いは激しくなり。

レイア「私が相手になろう、派手に！」

レイアはアメノハバキリキュータマを出してシヨウ総司令達に見せ。

リュウコマンダー「それは?アメノハバキリキュータマ?持ってたのか?!

レイア「フフ、派手にこれで、貴様らを餌食にする!」  
すると

? 「そうはさせない!」

ズバツ

レイア「ぐわああ!」

突然とホウオウソルジャーが現れアメノハバキリキュータマを持つてるレイアの腕を切り落とす!

リユウコマンダー「あれは? ホウオウソルジャー?!」

翼「知ってるのですか?!」

リユウコマンダー「ああ、7年前のジャークマターの頃、一緒に戦った人物だ!」  
シヨウ総司令は翼達にホウオウソルジャーの事を説明し。

ホウオウソルジャー? 「……!」

ホウオウソルジャーは黙ってレイアの切り落とした腕からアメノハバキリキュータマを手に取り去った。

響「あっ、待って下さい!」

レイア「派手に腕が取れて似合わん、引く!」



レイアはレポートジェムを出して撤退。

リュウコマンダー「あのホウオウソルジャー？ 一体誰なんだ?!」

ダークオオカミブルー「くらえ！」

ビー

コグマスカイブルー「ぐわああ！」

ダークキュウレンオーに苦戦する和斗達。

奏「和斗達が苦戦してるぞ?!」

リュウコマンダー「よし、セレナちゃん、アミちゃん、ボクチンと一緒にリュウテイ

オーで加勢に行こう！」

カジキイエロー「はい！」

セイザドツキング!

リュウテイオー!

リュウコマンダー「よし、和斗君、合体して一気に決めよう！」

シシレッドオリオン「合体?!」

リュウコマンダー「うん、リュウテイオーとキュウレンオーが合体してリュウテイ

キュウレンオーになるんだよ！」

シシレッドオリオン「よーしやってみるぜ!」

セイザドツキング!

リュウテイオーがキュウレンオーの背中につけ、金の龍を胸につける、そうこれが、リュウテイキュウレンオー!

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、これがリュウテイキュウレンオーか!」  
リュウコマンダー「よーし行こうか皆!」

全員「オツキュウ!」

ダークカジキイエロー「合体していい気になるなよ、これでもくらいやがれ!」

ダークカジキイエローはレバーを引いて攻撃。

ダークシシレッド「なっ?効かないだど?!」

ダークカメレオングリーン「だったらこれでもくらいなさい!」

ダークカメレオングリーンもレバーを引いて攻撃。

ダークオオカミブルー「これも効かないのかよ?!」

シシレッドオリオン「次はこっちの番だ、おりや!」

和斗達もレバーを引いて攻撃するとダークキュウレンオーに攻撃が効いた。

ダークワシピンク「くそ、あたしらも終わりなのかよ?!」

ダークシシレッド「まだだ、必殺ビームで一気に決めてやる!」

カジキイエロー「これであなた達を終わらせます！」

リユウコマンダー「よし、一気に決めるぞ！」

ギヤラクシー！

全員「リユウテイキュウレンオー、ファイナルブレイク！」

スーパーギヤラクシー！

リユウテイキュウレンオーが必殺ビームを放ち。

ダークシシレッド「なめるなー！」

ダークギヤラクシー！

全員「ダークキュウレンオー、ダークブレイク！」

ダークギヤラクシー！

ダークキュウレンオーもビームを放った。

全員「うおー！」

ダークキュウレンジャー全員「負けるかー！」

玄十郎「頑張るんだ！」

切歌「負けるなデース！」

調「勝って！」

マリア「セレナ、和斗、皆!」

ステインガー「和斗、小太郎、総司令!」

未来「和斗君、諦めないで!」

玄十郎達はモニターで和斗達を応援し。

響「和斗くん、負けるな!」

響は叫んで和斗を応援し。

シシレッドオリオン「うおー、諦めねえー、俺達は絶対に負けるか!」

ビームはリュウティキュウレンオーが上だった。

ダークキュウレンジャー達「くっ、うわあああ!」

ドーン

ダークキュウレンオーはリュウティキュウレンオーのビームを浴び、爆破。

響「勝った、和斗君達が勝ったよクリスちゃん!」

クリス「ああ、やったなあいつら!」

奏「リュウティキュウレンオー、かっこ良かったぞ!」

全員「地球は俺達が救う!」

木星ネオジャークマター要塞研究室

ドーン

グリズラーは怒って研究室のモニターを壊れるほど叩く。

グリズラー「くそ、ダークキュウレンジャー、散ったか、まあいい、お陰で僕たちもパワーアップ出来る。データがまもなく完成するククク、次は僕らが相手だよ！」

リベリオン司令室

翼とマリアはあのホウオウソルジャーが誰なのかを悩む。

翼「あのホウオウソルジャーは誰なんだ?！」

マリア「ええ、それにアメノハバキリを持って去ったわね!」

玄十郎「ああ、問題は場所はどこにいたかが問題だが!」

シヨウ・ロンポー「そうだな、今度は全員で彼に会いに行つて話してみよう!」

エルフナイン「彼とは誰なんですか?！」

ステインガー「ああ、俺達の仲間、銀河連邦の地球代表の大統領、鳳ツルギだ!」

ステインガーはエルフナインに彼の名前を言った。

獅子野家

2階、和斗の部屋

ラジオアナウンス「88星座占い、今日の最高の運勢は獅子座です！」

和斗「よっしゃラッキー、運勢が良くなったぜ！」

和斗は獅子座の最高の運勢に聞こえ喜び。

響「良かったね和斗君！」

切歌「運勢があつて嬉しそうデース！」

和斗「ありがとな、響、切歌、それにしても珍しいな切歌とセレナと調が俺の家に泊まってきた！」

切歌「エへへ、一度でいいから泊まりに来たかったデース！」

和斗の母「皆、ご飯よー！」

和斗「はい、今行く、響、切歌、行こうぜ！」

響「あつ、待つて和斗君！」

和斗と切歌と響は下に降りる。

リビング

和斗「うおー、どうしたんだ？この料理は?!」

和斗の母「ウッフ、今日はね未来ちゃんと調ちゃんとセレナちゃんと一緒に作ったの

よ！」

そうテーブルには未来と母さんと調とセレナが作ったハンバーグやサラダ、スパゲツティやらが並べていた。

未来「和斗君達の為だと思って一緒に作ってみたの！」

調「味の方は和斗さんのお母さんと一緒に見てみました！」

セレナ「美味しく出来ました！」

響「美味しそう！」

ガチャ

和斗の父「ただいまー！」

和斗「おっ、親父が帰ってきた！」

響「グツトタイミング！」

和斗の父「おっ？響ちゃんと未来ちゃん、来てたのか?！」

切歌「お邪魔しますデース！」

和斗「親父、今日の晩飯はすげーぞ！」

そして全員が座り。

和斗「よーし、それじゃ皆！」

全員「いただきまーす！」（デース！）

俺達はいいただきますを言い、賑やかに飯を食べていた、やっぱ皆で飯を食うとラツキーだぜ。

NEWS  
STORY



スペース30、鳳ツルギのハウオウソルジャーを受け継ぐ青年スバル！

大統領宮廷

奏「へー、ここが大統領宮廷なんだ案外スゲー広いな！」

あたしたちは今、和斗とシヨウ総司令達と一緒に大統領宮廷に行つてある人に会いに来た、和斗と響達はリベリオンのジャケットを着ていき、あたしと翼とマリアは私服で来た。

ロイ「宇宙連邦本部大統領宮廷は全惑星代表の方々がお住みなり、国家会議やお食事、会、対策を考えておられます！」

響「なんか凄いねここの宮廷！」

和斗「ああ、トイレに行くとき迷うかも知れねえ！」

蓮司「すんまへーん、他の設備についてどれくらいあるんでつか?!」

鳳ツルギ直属の部下のロイに設備の質問すると。

ロイ「ええ、大体大統領室から国家会議室、業務室ならびにそれぞれ合わせて88ぐらひはあります！」

クリス「はあ? 88? どれくらいあるんだ?!」

クリスはロイの話しにツツコミ。

調「何だかいいところだね切ちゃん!」

切歌「ホントデス、パソコンやらいっぱい並べてるデース!」

ロイ「では、お次は展示室へご案内致します!」

展示室

マリア「ここが展示室ね、あら? 赤いロングコートジャケットやら並べてるね!」

マリアは展示室のショーケースにかけてある赤いロングコートジャケットに気付き。

シヨウ・ロンポー「そのロングコートジャケットはボクチン達の仲間のツルギ君が着てたものなんだ、後はオライオンとの写真や仲間達の大切なものを展示してるんだよ!」

ステインガー「ああ、ツルギは散った仲間を大切に思ってるからな!」

玄十郎「ウム、そうだな!」

ロイ「ではシヨウ総司令、ステインガー司令、皆様そろそろ大統領室へご案内致します、ツルギ大統領がお待ちしてます!」

シヨウ・ロンポー「ウム、頼むよロイ君!」

和斗達はロイについていって大統領室に行く。

大統領室

ウイーン

ロイ「ツルギ大統領、お待たせしました！」

大統領室に入るロイと和斗達。

？「刮目せよ、良く来てくれたな、久しぶりだな、シヨウ総司令、ステインガー、小太郎！」

翼「あなたは鳳大統領？お久しぶりです！」

翼が赤いスーツを着た男の名前を言う、そう彼が鳳ツルギ大統領、彼は過去でドンアルマゲを打ち倒し、コールドスリープで数年間眠りにつき、そして初代宇宙連邦大統領、7年前のジャークマターの頃、ラッキー達と一緒にドンアルマゲを今度こそ打ち倒し、今も地球代表の大統領を務めてる。

ツルギ「おお、翼、大きくなったな、凄く美人だぞ！」

未来「えええええ？翼さん？この人とどんな関係なのですか?！」

未来達は翼とツルギ大統領とどんな関係で驚き。玄十郎「ああ、俺が説明しよう、6年前、翼と奏がまだ13歳の頃、八紘兄貴に会いに風鳴家の合同食事で来てたんだ！」

ツルギ「ああ、その時はシヨウ総司令も誘って行ったんだ！」

ツルギはそう答えた。

マリア「初めまして、私は……!」

ツルギ「マリア、カデンツァヴナ、イヴだな? 知ってるぞ、確かスターとS・O・N・G所属の装束だ!」

エルフナイン「スゴいです、マリアさんの事、知っていますか?!」

ツルギ「ああ、俺様は何でもお見通しだぞ、例えばな!」

ウイーン

? 「失礼します、鳳大統領!」

ツルギ「おお、スバル、来てたのか? ちょうどいい、皆に自己紹介だ、こいつの名は市原スバル、俺様のホウオウソルジャーを受け継ぐ戦士だ!」

ツルギは大統領室に入ってきた青い髪の二十歳の青年を和斗達の前に自己紹介した。

スバル「初めまして、俺は市原スバルです、鳳大統領のご名答でホウオウソルジャーを受け継ぐ戦士です!」

スバルは和斗達の前で礼儀正しく自己紹介した。

未来「初めまして、私は和斗君と響の幼なじみの小日向未来です、あの時、響を助けていただいてありがとうございました!」

未来はスバルに助けたことをお礼し。

スバル「ああ、あの時の事か、無事で良かったよ本当に!」

玄十郎「ああ、響君達を救出してくれてありがとう！」

スバル「いえ、そんな、それより、鳳大統領、前回のオートスコアラークから手に入れたアメノハバキリキュータマの分析が完了いたしました、これが分析資料です！」

スバルはツルギにアメノハバキリキュータマを分析資料を渡し。

セレナ「鳳大統領は何でも出来てスゴいですね！」

ステインガー「ああ、アイツはラツキー達といった頃は仲間の事を大切にしてる！」

切歌「あのくアタシと調の意見デース！」

調「スバルさんをS・O・N・G及びリベリオンにスカウトしてはどうでしょうか?!」

調と切歌はスバルをS・O・N・G及びリベリオンにスカウトの意見し。

功太「おお、切歌、調、それナイスグーだぜ！」

エリ「スバルさんがいけば百人力ね！」

アミ「12人いたらネオジャークマターやキャロルの野望も倒せるね！」

クリス「良いじゃんか、それ、おいスバルの兄貴、あたし達の仲間になっ！」

スバル「申し訳ありません、俺は装束達と一緒に戦うキュウレンジャーの仲間にはな

りません!」

スバルは切歌と調達の意見を拒否。

奏「おい? どういう事だ? あたしたちと一緒に戦うキュウレンジャーの仲間にならない理由があるのか?!」

スバル「: : . あなた達と一緒に戦っては足手纏いになります、失礼いたしました!」  
ウイーン

スバルは奏達に理由を言い、大統領室を出る。

ツルギ「おい? スバル?、はあくあいつはまだあの事に引きずってるのか?!」  
響「あの頃とはどういう事ですか? 鳳さん?!」

シヨウ・ロンポー「それはボクチンが教えよう、玄十郎司令は彼の事を知っているのかね?!」

玄十郎「ああ、翼の兄で俺の甥っ子の風鳴刃の事だな? 勿論知ってるぞ!」

ツルギ「ああ、6年前にあつたあの事故で刃はスバルを守って死んでしまった報いがあつたんだ!」

ツルギはその事を皆の前に言い。

マリア「翼にお兄さんがいたなんて知らなかったわ?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、マリアちゃん達は初めてだねこの話しは、今から教えよう、あれはボクチンが総司令になったばかりでツルギ君のいる宇宙連邦大統領宮廷にお邪魔しに行つてたんだ！」

シヨウ総司令は皆の前に話をし、6年前の事を思い出す。

6年前の宇宙連邦大統領宮廷

シヨウ・ロンポー（ツルギ君、お邪魔するよ！）

ツルギ（ああ、シヨウ司令、久しぶりだな！）

シヨウ・ロンポー（ツルギ君、ボクチンは総司令だよ！）

ツルギ（ああ、そうだったな、そうだ、総司令に紹介する人たちがいるぞ！）

シヨウ・ロンポー（紹介する人?!）

あの時は翼の父、八紘も一緒に来てたな。

そうだったね、1つ年の上の翼ちゃんの兄、刃とその友達のスバルをボクチンの前で紹介したね。

6年前のスバル（初めまして、市原スバルです、ホウオウソルジャー候補生の1人目です！）

刃（同じく、ホウオウソルジャー候補生の風鳴刃です！）

二人は初めて選ばれたホウオウソルジャー候補生だぞ。

だけど、数ヶ月後にあった皆神山の遺跡発掘場所にノイズが現れて奏ちゃんの両親と妹は救えなかったが奏ちゃんを助けて彼は命を落としてしまったんだよ。

数ヶ月後の発掘場所

ホウオウソルジャー（スバル）（刃、一人だけ救出したぞ！）

ホウオウソルジャー（刃）（よし、二課の方へ急ぐぞスバル！）

スバル君達が奏だけ残って救出し、玄十郎司令の二課の方へ急こうとすると。

ホウオウソルジャー（スバル）（…？ノイズ?!）

ホウオウソルジャー（刃）（はっ？危ない、スバルウウ！）

刃は奏を抱えたスバルをかばってノイズの攻撃を受けてしまい、酸化しかけ。

ホウオウソルジャー（スバル）（はっ？刃？刃？しっかりしろ?!）

ホウオウソルジャー（刃）（がはっ、スバル、俺はもう駄目かもしれん、お前は奏を連

れて逃げる！）

ホウオウソルジャー（スバル）（でも、刃、お前を置いて逃げない！）

ホウオウソルジャー（刃）（バカなことばよせ、お前が一緒に行ったら奏がノイズの餌

食になるだろ！）

ホウオウソルジャー（スバル）（刃、お前！）

ホウオウソルジャー（刃）（スバル、最後にお前と一緒に戦えて本当に良かったぞ、翼



と父上の事を頼む！)

ホウオウソルジャー(スバル)(刃……！)

ホウオウソルジャー(刃)(さらばだ、スバル……うおおおおお！)

ギヤラクシー！

ドーン

ホウオウソルジャー(スバル)(刃ああああ！)

ボクチンとツルギ君が心配で駆けつけたが、スバル君と奏ちゃんは無事だった刃君はもう。

マリア「そうだったのね、翼のお兄さんがスバルと同じホウオウソルジャー候補生ね！」

シヨウ・ロンポー「ウム、奏ちゃんを玄十郎司令のいる二課の方へ輸送してボクチンは刃君のホウオウソルジャーのヘルメットを翼ちゃんと八紘さんの所へ持っていったよ！」

ツルギ「ああ、その後、俺様はホウオウソルジャー候補生を廃止し、翼と八紘司令と一緒に刃の葬式を行った！」

奏「あたしのせいで翼の兄貴を！」

翼「奏、あれはあなたのせいじゃないわ!」

ツルギ「それから、あれ以来は、スバルは俺様のホウオウソルジャーを受け継ぎ、  
人でノイズを倒してる!」

すると

ビービービー

ツルギ「ん? どうした?!

ロイ「緊急事態です、宮廷近くにオートスコアラが現れた模様です、映像を写しま  
す!」

ピッ

和斗達は映像を見ると現れたのはガリイと多数のアルカノイズが現れた。

響「あれは? ガリイ!」

和斗「アルカノイズを多数連れてきたのか?!

玄十郎「よし、出動だ!」

シヨウ、ロンポー「ん? スバル君が一人で出てきたぞ?!

## 宮廷門前

ガリイ「あらく、たった一人で私や多数のアルカノイズに勝てるのかなく！」

スバル「お前達なんか、俺一人で十分だ！」

スバルは剣と盾の物を出す、そう、鳳ツルギが使ったハウオウブレードとハウオウシールド。

スバル「マワースライド！」

ハウオウキュータマ!

カモン・ザ・チェンジ!

スバル「スターチェンジ！」

スバルはハウオウシールドに付けてるハウオウブレードを引き抜くと変身、そうハウオウソルジャーだ。

ハウオウソルジャー「スペースバスター、ハウオウソルジャー！」

マリア「あれが？ハウオウソルジャー！」

クリス「何だかこいつ、色的にスゲーぞ！」

ガリイ「あらくその姿はキュウレンジャー？さあ行きなさい！」

アルカノイズは一斉にかかり。

ハウオウソルジャー「刮目せよ、新たな受け継ぐ伝説を!」

伝説のハウオウソルジャーの曲に流れ、スバルはハウオウブレードを持ってかかる。

ハウオウソルジャー「はあー、せい!」

スバルはハウオウブレードの一振りや切れのない動きでアルカノイズを切り裂き。

ガリイ「これでもくらいなさい!」

ハウオウソルジャー「ふっ、はっ!」

ガリイはすかさず氷攻撃を発射し、スバルはそれを避ける。

壮汰「あの人、切れのない動きでアルカノイズを切り裂き、ガリイの攻撃をよけたぞ?!」

剛「ごわす、それに多数のアルカノイズを次々と倒していくでござす!」

壮汰達はスバルの動きに要チェック。

ツルギ「ああ、アイツはこのところ、厳しい特訓をしてたぞ、俺様との剣の太刀打ち、訓練やら多数な!」

ステインガー「アイツは今でも頑張ってるな!」

和斗「一人で戦うなんて無茶だぞ、玄十郎司令、シヨウ総司令、俺も行くぜ！」

シヨウ・ロンポー「そうだな、見てられないから翼ちゃん、一緒にお願いしてもいいかな?!」

翼「勿論です、行くぞ獅子野！」

和斗「よっしゃラッキー、行くぜ！」

ウイーン

和斗と翼は大統領室を出てスバルの所へ向かう。

玄十郎「頼むぞ、2人とも！」

ホウオウソルジャー「ふっ、はあー！」

ガリイ「あらくなかなかやるわね、お次はこれよ！」

ガリイは魔方陣を使って飛行型アルカノイズを出した。

ホウオウソルジャー「面白い、受けて立とう！」

翼「私たちも援護するぞ！」

スバルの所へ来た翼と和斗。

ホウオウソルジャー「何故助けに来たんだ？俺一人で十分だ！」

和斗「見てられないから来てたんだ!」

セイザチエンジ!

和斗「スターチエンジ!」

和斗は変身し、翼も歌ってギアを纏った。

ガリイ「あらゝアメノハバキリのハズレ装束にシシレッド、来てたの、それじゃああなた達の相手はこつちよ!」

ウイーン

ガリイはさらに魔方陣を使って0号を出す。

翼「0号、相手にとって不足はないぞ!」

シシレッド「ああ、行くぜ、うおー!」

ホウオウソルジャー「はあー!」

スバルは次々と多数のアルカノイズを切りまくり。

カキン

ガリイ「あら?やるわねあんた、それじゃあ次は私が相手よ」

ホウオウソルジャー「望むところだ!」

スバルとガリイは剣の弾き合をしていた。

翼「はあー！」

シシレッド「おりゃ！」

俺と翼さんは0号の相手に逆転。

シシレッド「よし、決めるぞ翼さん！」

翼「うむ、心得た！」

ギャラクシー！

シシレッド「くらえ、レグルスインパクト！」

翼「一刀両断、受けるが良い！」

和斗と翼は剣技で0号を粉碎。

翼「よし、次は市原を駆けつけるぞ！」

バキン

ガリイの氷の剣が折れてスバルのハウオウブレードが勝つ。

ガリイ「なっ？ 私の氷の剣を折るなんてやるわねあんた！」

ハウオウソルジャー「当たり前だ、お前の氷では俺のハウオウブレードの炎には勝てないぞ！」

ギャラクシー！

ホウオウソルジャー「フエニックスエンド!」

スバルはホウオウブレードの炎の必殺技でガリイに攻撃するとガリイは氷の防御で防ぐ。

ガリイ「ウフフフ、そんな攻撃なんか私の氷で、えっ?溶けてる?きゃあ!」  
ガリイの氷の防御がスバルの炎の必殺技で溶かし、ガリイは倒れる。

シシレッド「アイツ?一人でアルカノイズのガリイを相手に太刀打ちとは?!」

翼「ああ、確かにツルギ大統領が言った通り一人でやるなんて?!」

ガリイ「あんた、よくも私を傷つけたわね、覚えてなさい、この借りはいつか返すわ!」

ガリイはテレポートジェムを使って逃げ、0号は巨大化し同時に巨大アルカノイズが2体現れる。

翼「0号?巨大化して巨大アルカノイズも2体現れるなんて!」

シシレッド「よし、キュウレンオーで行くぜ!」

ラフタ「申し訳ありません和斗、皆さんのボイジャーは本部で潜水基地とバトルオリオンシップとメンテナンス中です!」

ラフタが通信で和斗に連絡。



シシレッド「何だって？どうしたら良いんだ?!」

ホウオウソルジャー「ここからは俺が行こう、あれを使う！」  
カモン・ザ・ゴー!

ウイーン

宮廷から何か赤と白のベースのスペースシャトルみたいなのが出現、そうこれは鳳ツルギが使ってたキュウボイジャー、ホウオウボイジャーだ。

クリス「え？おい、宮廷からシャトルみたいなのが出たぞ?!」

シヨウ・ロンポー「あれはホウオウボイジャー、ツルギ君が使ってたキュウボイジャーだよ！」

シヨウ総司令が皆にホウオウボイジャーを教え。

ホウオウソルジャー「俺の力を見せてやる！」

スバルはホウオウボイジャーに飛び乗り。

ホウオウソルジャー「よし、ホウオウボイジャー発進！」

ブオー!

スバルはレバーを引いてホウオウボイジャーを発進した。

ホウオウソルジャー「先ずはアルカノイズの1体目を迎撃、これでもくらえ!」

スバルはトリガーを引いてアルカノイズに向かってビーム攻撃し撃破。

ビー

ホウオウソルジャー「うわっ?危ない!」

0号が放ったビームをスバルはすかさず回転して避ける。

切歌「アルカノイズを撃破したデース?!」

調「あの人?意外に操縦がすごい?!」

マリア「ええ、それにあのビームを避けるなんて案外やるわね!」

ホウオウソルジャー「よし、次は合体だ!」

カモン・ザ・ドッキング!

スバルは宇宙まで操縦すると宇宙から赤い宇宙衛星が現れた。

響「今度は赤い宇宙衛星?!」

未来「何をするのかな?！」

エルフナイン「まさか?合体します!」

ホウオウボイジャーが赤い宇宙衛星と合体し、ロボットになる、そうこれが。  
ギガントホウオウ!

奏「ホントに合体しやがった?！」

祐一「ああ、まさか宇宙でやるとは?！」

祐一と奏は宇宙で合体したホウオウボイジャーを見てちよつと驚き。

ホウオウソルジャー「よし、行くぞ!」

ギガントホウオウは地上に降りて二刀流剣を構え。

ウイーン

ポポポポ

0号はミサイルは出し。

ホウオウソルジャー「当たるか、これなら!」

スバルはレバーを引いてミサイルを切り刻み。

ホウオウソルジャー「はっ!」

スバルはレバーを動かして最後の一体の巨大アルカノイズを切り。シシレッド「あいつ? 巨大アルカノイズと0号を相手にやるな!」

ホウオウソルジャー「よし、とどめだ!」

ギヤラクシー!

ホウオウソルジャー「ギガントホウオウ、ギガントホウオウブレイジング!」

スーパーギヤラクシー!

スバルはホウオウブレードのトリガーを押して決め技を言い、二刀流の剣の炎の技で0号を斬った。

ドーン

ホウオウソルジャー「勝ったな、ほっ!」

スバルは翼と和斗のいる所へ飛び降り、変身解除、同時に和斗と翼も変身とギアを解除。

和斗「ツルギさんから話を聞いたぞ、翼さんの兄貴の刃さんが死んだのは自分のせいだと一人で背負ってるのか?!」

スバル「.:.:!」

スバルは黙って宮廷の中に入ろうとすると。

翼「市原、お前は私の兄さんが亡くなったのは自分が弱かったのが許せなかったのか？ 答えるんだ?!」

ピタ

スバル「すまない、風鳴、君には何も話せない！」

スバルは宮廷に入った。

翼「市原……！」

翼はスバルの事を少し心配。

NEWS STORY

# スペース31、和斗VSスバル、2人の戦い!

木星、ネオジャークマター要塞

研究所

ホウオウソルジャー「フェニックスエンド!」

グリズラーはガリイと対決してるホウオウソルジャーの映像を見る。

グリズラー「へー、ガリイが苦戦してた赤い奴はホウオウソルジャーなんだ!」

ウイーン

レイヴォルグ「邪魔するぞグリズラー!」

グリズラーの研究所に入ってきたレイヴォルグ。

グリズラー「ああ、レイヴォルグ?ここにきてどうしたんだ?!」

レイヴォルグ「ちよつとお前の事を見に来たんだ、どうした映像を見て?!」

グリズラー「ああ、ガリイが苦戦してたホウオウソルジャーの戦いを見てたんだよ、僕のスキヤニング機能を見たらホウオウソルジャーは7年前のジャークマター時代、鳳ツルギという奴が変身し、現在はその市原スバルという青年が受け継いでるよ!」

グリズラーはレイヴォルグにホウオウソルジャーの事を話し。

レイヴォオルグ「へー、こいつが今のハウオウソルジャーなんだ、じゃあ俺は行つてくるぜ！」

グリズラー「どこに行くんだ?!」

レイヴォオルグ「自室だ、ついでに明日は地球に行つてあいつらの下見に行く！」

ウィーン

レイヴォオルグはグリズラーにそう伝えて研究所を出る。

銀河連邦大統領宮廷トレーニング室

スバル「ふっ、はっ、せい！」

スバルはトレーニングアルカノイズを相手に練習していた。

翼（待つてくれ、市原、私の兄が亡くなったのは自分が弱かったから許せなかったのか?!）

スバル（悪いが、君には話せない！）

スバルは先日の翼の言葉を思いだし。

スバル「確かに俺は刃を失ってから一人で戦えるように強くなったんだ、俺はシンフォギア装☒と一緒に戦う彼らとは違う！」

ギヤラクシー!

スバル「フエニックスエンド!」

最後のアルカノイズに向けて必殺技を放ち、トレーニングを終了した。

ロイ「お疲れ様ですスバルさん、トレーニングの結果は90%でした、調子はいかがでしょう?」

スバル「ああ、今のところは体の方は安定でしたよ、じゃあ俺は風呂に入ってきます!」

ウイーン

スバルはトレーニング室を出て浴室に向かった。

一方、真昼、リディアン音楽院廊下

和斗「はあく!」

和斗は先日のでため息をついた。

小太郎「和斗?先日のホウオウソルジャーの事を気になってる?」

和斗「ああ、あいつ、多数のアルカノイズを1人で切り裂いたぞ!」

祐一「ああ、それにホウオウソルジャーのボイジャーが赤い衛星と合体してロボットになるとは!」



クリス「あのやろう、切歌と調のスカウトを拒否しやがって！」  
ピピピピピピ

和斗「ん？電話だ、何々？シヨウ総司令からだ！」  
ピッ

和斗はシヨウ総司令の連絡を出す。

和斗「はい、シヨウ総司令？連絡してどうしたんだ？ん？えええ？スバルと対決?!」

夕方

リベリオン本部シミュレーション室

和斗とスバルはシミュレーション室でスタンバイ。

響「和斗君対スバルさんの戦い、誰が勝つのかな?!」

未来「私は和斗君に勝ってほしい！」

セレナ「でも、あの人の戦い、真面目ですよ！」

翼「ああ、獅子野、負けるな！」

翼は和斗に勝ってほしいと応援し。

玄十郎「よし、これより和斗君対スバル君のシミュレーション対決を行う、2人とも準備はいいか?」

和斗「勿論だぜ!」

スバル「お願いします!」

ショウ・ロンポー「では、始め!」

セイザチエンジ!

カモン・ザ・チエンジ!

二人「スターチエンジ!」

和斗とスバルは変身し武器を構え。

シシレッド「先手必勝、行くぜ、うおー!」

和斗は走ってスバルに向けてキューソードを振ると。

カキーン

シシレッド「なっ?俺の先手必勝を防いだ?!」

ホウオウソルジャー「今度はこっちの反撃だ、せい!」

シシレッド「うわああ!」

和斗はスバルの剣攻撃で斬られ。

セレナ「和斗さん?!」

翼「あの剣の太刀打ち？ブレもなくやるなんて?!」

シシレッド「やるじゃねえかスバル、まだまだ俺は倒れねえぞ！」

一方、市街地

フアラ「フフフ、思い出がいつばいねえ、さて誰からいただこうかしら?!」

ホウオウソルジャー「ふっ！」

シシレッド「隙が見えた今だ！」

ギヤラクシー！」

シシレッド「くらえ、レグルスインプクト！」

ホウオウソルジャー「うわああ！」

和斗は必殺技でスバルの隙が見えて攻撃を決めた。

響「おっ、和斗君の攻撃が決まりました！」

翼「そうだな、隙について必殺技をやるとはやるな獅子野！」

シシレッド「さあまだまだやるぞスバル、俺達の事を認めるまでは!」

ビービービー

翼「なんだ?!」

ピッ

玄十郎「どうした?!」

友里「市街地にオートスコアラーとアルカノイズ反応です現在、小太郎君と祐一君が現場に向かって交戦、マリアさんが奏ちゃんと逃げ遅れた人の救出に行ってます!」

シヨウ・ロンポー「やはり来たか、ん? 2人ともどこに行く?!」

シシレッド「このまま出てスバルより先にアルカノイズ共を倒す!」

ホウオウソルジャー「なんの、お前より先に倒してやる!」

ウイーン

和斗とスバルは変身したまま現場に向かい。

翼「そ… 総司令? 私と立花が加勢に行ってきます!」

シヨウ・ロンポー「そうだね、2人ともお願いね!」

響「はい、それじゃあ行ってきます!」

ウイーン

響と翼も本部を出て現場に向かった。

コグマスカイブルー「おりゃ！」

サソリオレンジ「はあー！」

祐一と小太郎はアルカノイズとフアラを相手に住民の避難をし。

マリア「さあ早く逃げなさいここは危ないわよ！」

「ありがとうございます！」

マリアは逃げ遅れた人を救出し、マリアの周辺のアカノイズを奏が倒す。

フアラ「おや？あなた達だけ来てたのね?!」

サソリオレンジ「小太郎、和斗が来るまで凌ぐぞ！」

コグマスカイブルー「おう！」

すると

シン

レイヴォオルグ「俺も参加させてもらうぞ！」

レイヴォオルグがフアラの加勢に来た。

フアラ「あらくレイヴォオルグ、来てたのね?!」

レイヴオルグ「ああ、下見のついでに加勢に来たぞ！」  
そして

シシレッド「よし、ついたぞ、俺の勝ちだ！」

ホウオウソルジャー「いや、俺の勝ちだ！」

和斗とスバルは走って現場につき。

響「和斗君達、今日は早いよ〜！」

翼「今回は2人ともまだ勝負をしてるぞ！」

翼と響も現場に着く。

コグマスカイブルー「和斗、来たんだ！」

サソリオレンジ「ホウオウソルジャー？ 奴も来たのか?!」

響「なにやら2人ともまだ対決してるよ！」

シシレッド「よし、俺が先にあいつらを倒すぜ、うおー！」

ホウオウソルジャー「今度は絶対に勝つ！」

和斗とスバルは勝負しながらファラとレイヴオルグと対決し。

シシレッド「おりゃ、どりゃー！」

フアラ「あら、ちよつとはやるわねシシレッド、その剣は耐えられるかな?!」  
ミシ

キューソードから亀裂が出た。

シシレッド「それならこれだ!」

ガングニールキュータマ!

セイザアタック!

フアラ「きゃあ!」

和斗はガングニールキュータマを使ってセイザアタックするとセイザブラスターから響の纏ったガングニールの右こぶしのオーラが現れフアラに命中。

響「ああいう使い方も出来るねガングニールキュータマ!」

翼「立花、今のうちに私と佐久間と桐山と一緒にマリアと奏の護衛に行くぞ!」

響「あ、はい!」

響と翼は小太郎と祐一連れてマリアと奏のいるところに向かい。

ホウオウソルジャー「はあー!」

スバルはレイヴオルグと対決。

レイヴオルグ「お前、なかなかやるな、だけどこれはどうだ?!」

ドドドドド

ホウオウソルジャー「…?!」

スバルはレイヴォオルグ放つのマシンガン攻撃をホウオウシルドでガツチリ防ぐ。

ホウオウソルジャー「その程度のマシンガン、効かないぞ!」

レイヴォオルグ「へー、俺のマシンガン攻撃の動きを予測して防ぐとはやるな!」

ホウオウソルジャー「俺はお前らなんかには負けない!」

スバルはそう言つてキューバツクルからキュータマを出す、そうレイアから奪つたア

メノハバキリキュータマだった。

アメノハバキリキュータマ!

カモン・ザ・アタック!

ホウオウソルジャー「せいやー!」

スバルはアメノハバキリキュータマを使ってセイザアタックするとホウオウソードの剣先から青い光が放ちレイヴォオルグに向けて攻撃。

レイヴォオルグ「うわっ?、そんな攻撃、効いたぜ!」

しかし、レイヴォオルグはマシンガンでその攻撃を耐える。

ホウオウソルジャー「なっ?!」

レイヴォオルグ「お前、なかなかやるな、だけど今のお前は心が戸惑つてるな、腕を磨



くんだな！」

レイヴォルグはワープ装置を使って逃げ。

ファアラ「あら、レイヴォルグが帰ったのね？それじゃあ私も引き上げね！」

ファアラも同時にテレポトジェムを使って逃げる。

シシレッド「待て、くそ、逃げられたか?!」

響「和斗君！」

響達も終わって合流。

サソリオレンジ「レイヴォルグはまた逃げたか?!」

シシレッド「ああ、下見でスバルと戦って逃げた！」

ホウオウソルジャー「∴∴ 今回の対決は無かったことだ、やつぱり装束達と一緒に戦

うのはお断りだ！」

スバルは和斗にそう告げて宮廷に帰ろうとすると。

シシレッド「スバル？お前？レイヴォルグの戦いの時に心が戸惑ったのか?!」

ホウオウソルジャー「悪いが、それは言えない、俺はノイズとネオジャークマターが許せなかったただけだ！」

スバルはジャンプして宮廷に向かった。

翼「……市原!」

リベリオン本部司令室

シヨウ・ロンポー「そっかー、スバル君との対決は無かったことにしたんだね!」

和斗「ああ、あいつ、まだ自分が許せなかっただろう、翼さんの兄貴が死んだことを!」

宇宙連邦大統領宮廷、スバルの部屋

スバルは6年前の写真を見る。

スバル「……刃、俺は刃の妹の翼と一緒に戦えるかな?!」

ツルギ「……スバル!」

NEWSSTORY

スペース32、スバルの決意、覚醒のアメノハバキリ  
キキュータマ!

リディアン音楽院2年A組教室

和斗（スバル、あいつはどうしたんだ?!）

授業中、和斗は教室の窓で黄昏る。

響「和斗君、窓を見て黄昏てるよ!」

小太郎「きつとスバルが戸惑ってるかもしれないよ!」

未来「和斗君: : !」

先生「ではこの問題を: : 獅子野君、答えて下さい!」

先生が俺を指名。

和斗「は、はい、すみませんよそ見をしました!」

先生「はあく、次からはよそ見をしないようにしてください!」

先生に注意され怒られた。

リベリオン本部ブリーフィングルーム

翼「……!」

翼は一人で悩んでいた。

奏「翼の奴、やっぱりスバルの野郎を心配してやがるな!」

マリア「そうね、彼も戸惑わないように覚悟を決めないかね!」

マリアと奏は隠れて翼を心配し。

ステインガー「奏、マリア、2人に頼みがあるんだ、いいか?!」

マリア、奏「頼み?!」

市街地

レイア「ここなら派手にやれるぞ!」

?「よし、人をたくさん吸い込んでやる!」

市街地にはレイアと右腕に掃除機のノズルをつけたネオツヨインダバーが現れた。

「おい?なんだよアイツは?!」

?「ダバダバ、俺はネオジャークマターのダイカーン、ソウジキインダバー、お前達

を吸い込んでやる、バキューム!」

ソウジキインダバーは右腕を構え、一般人を吸い込む。

「何だ?アイツは?!」

「助けてー!」

リベリオン本部司令室

ビービービー

シヨウ・ロンポー「どうした?!

藤高「市街地にオートスコアラー及びネオジャークマター反応、人を吸い込んでいます!」

玄十郎「よし、和斗君と響君達に連絡だ!」

同時刻、宇宙連邦大統領宮廷スバルの部屋

ビービービー

ピッ

ツルギ「スバル、市街地にオートスコアラーとネオジャークマターが現れた、直ちに  
出動してくれ!」

スバル「了解、すぐに向かいます!」

ソウジキインダバー「ムヒョヒョヒョ、大量、大量、人がたつぷり吸い込めるなんて

嬉しい!」

レイア「派手にやり過ぎるな、これじゃあ思い出が回収出来んからな!」

? 「これ以上、お前らの好きにはさせないぞ!」

ソウジキインダベー「ん?なんだ?うわっ?!」

スバルはホウオウソルジャーになってソウジキインダベーを剣攻撃。

レイア「貴様は?ガリイを追い求めたホウオウソルジャー?!」

ホウオウソルジャー「その通りだ、人々を吸い込んで許せない、はあー!」

スバルはレイアとソウジキインダベーの相手をし。

和斗「あれは?スバル、人足先に来てたか!」

現場についた和斗達!

壮太「あの人また一人で戦ってるぞ!」

翼「とにかく私達は市原の援護をする、暁と月読は一般人の避難誘導してる、立花、2人を守ってくれ!」

響「わかりました翼さん!」

セイザチェンジ!

全員「スターチェンジ!」

和斗達は変身し、響と翼とクリスは歌ってギアを纏い響は切歌と調のいるところに向

かった。

コグマスカイブルー「おりゃ！」

オウシブラック「ごわす！」

レイア「なっ？ キュウレンジャー？ 派手に来たのか?!」

クリス「スバルの兄貴、援護に来たぜ！」

ホウオウソルジャー「なぜ来たんだ?!」

テンピンゴールド「決まってるで、助太刀や！」

蓮司はそう言い。

ホウオウソルジャー「断る、シンフォギア装束達と一緒に戦うキュウレンジャーとは

戦わないと！」

クリス「おい、あたし達はな助太刀してんのに断んのかよ、おい！」

翼「雪音、今は目の前の敵に集中しろ！」

クリス「わかってる先輩！」

ソウジキインダバー「よし、今だ、吸引バキューム！」

クリス「ん？ なんだ？ うわあああ！」

クリスはソウジキインダバーの吸引バキュームに吸われてしまい。

サソリオレンジ「なっ？ クリス！」

へびツカイシルバー「この野郎!」

コグマスカイブルー「許さない!」

小太郎達はソウジキインダベーに向けて攻撃しようとする。

ソウジキインダベー「ホコリシールド!」

ソウジキインダベーはホコリのシールドで小太郎達の攻撃を防ぐ。

サソリオレンジ「なっ?!」

コグマスカイブルー「俺達の攻撃をホコリで防いだ?!」

ソウジキインダベー「くらえ、ゴミバキュームビーム!」

ビー

へびツカイシルバー「うわああ!」

ソウジキインダベー「今だ、吸引バキューム!」

コグマスカイブルー「うわああ!」

テンビンゴールド「ワイも吸われるー!」

小太郎、祐一、功太、蓮司はソウジキインダベーの吸引バキュームに吸われてしまう。

オオカミブルー「蓮司、祐一さん? 功太、小太郎兄貴!」

カジキイエロー「今助けます!」

レイア「派手にやらせんで!」



レイアはコイン射撃でセレナ達に攻撃。

オオカミブルー「うわああ！」

オウシブラック「ごわすー！」

カジキイエロー「きゃあああ！」

カメレオングリーン「セレナちゃん、壮太君！」

ワシピンク「剛君！」

ソウジキインダバー「ムヒヨヒヨヒヨ、次はあいつらを吸い込んで！」

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「フェニックスエンド！」

ソウジキインダバー「ぎやああ、アツチい！」

セレナ達を吸い込もうとしたソウジキインダバーに向けて必殺技を放ったスバル。

レイア「派手にやってくれるな、引くぞ！」

ソウジキインダバー「待つ、待ってくれレイア！」

レイアとソウジキインダバーは撤退した。

シシレッド「待て、クリス先輩達を返せ、くそ！」

和斗達は変身解除し、響と調と切歌は和斗達の所に合流した。

響「あれ？クリスちゃん達はどこ?!」

翼「すまない、雪音と佐久間達はネオジャークマターとレイアに連れ去られた!」

調「クリス先輩、功太、蓮司!」

切歌「今すぐ助けに行くデス!」

ホウオウソルジャー「……!」

スバルは変身解除して和斗達のいるところを離れようとする。

翼「ん？市原？どこに行くんだ?!」

スバル「……今からネオジャークマターとオートスコアラを突き止める、君達は帰るんだ、シンフォギア装束と一緒には戦っても足手まといだぞ!」

和斗「スバル!」

スバル「ん？ぐは!」

和斗はスバルの右頬に向けて殴る。

響「和斗君?!」

和斗「スバル、お前、また俺達と一緒に戦わないでやるのかよ？お前、まだ自分が許せなくて一人で落ち込んでるのか？だから迷うな、翼さんの兄貴が死んだことを迷うな、翼さんの兄貴の刃が天国でお前の事、望んでるぞ!」

和斗はスバルの服を掴んでスバルを怒り。

刃（スバル、最後までお前と一緒に戦えて俺は嬉しいぞ、翼と父上を頼む、さらばだ！）

ドーン

スバル（刃？刃ああああ！）

スバル「……俺は、俺は迷わず一人で戦ってる、俺は刃に誓って翼や八紘さんを守っているんだ！」

スバルは一人でソウジキインダベーとレイアがいる場所に向かった。

和斗「スバル！」

響「和斗君、セレナちゃん達は私と切歌ちゃんと調ちゃんに任せて、翼さん、和斗君とお願います！」

翼「ああ、承知した、獅子野、行くぞ！」

和斗「ああ！」

和斗と翼さんはスバルの後を追った。

ネオジャークマターモライマーズの中

レイア「これだけ吸い込んで満足になったなソウジキインダバー!」

ソウジキインダバー「ああ、それにシンフォギア装束一人とキュウレンジャー4人も吸い込んで楽しいぜ、ムヒヨヒヨヒヨ!」

ソウジキインダバーの掃除機の中

クリス「ゲホゲホ、すげーホコリだぞ!」

祐一「ああ、ソウジキインダバーに吸われてこんなことには!」

蓮司「人だけじゃなく車や機械まで吸い込んでるで!」

功太「やべーなこりゃ!」

「俺達はここから出られないのか?!」

「怖いよー!」

小太郎「皆、心配しないで必ず助けるから!」

クリス「ああ、和斗と先輩達が何とかしてくれる!」

リベリオン本部司令室

響「あれ? 師匠? ショウウさんはどこに行っただのですか?!」

玄十郎「ああ、和斗君と翼のいるところへ向かってる、2人だけじゃ心配だからな!」

モライマーズ周辺の街

現場についたスバル。

スバル「……！」

和斗「待てよスバル！」

スバルと合流した和斗と翼。

スバル「獅子野？翼?！」

翼「市原、獅子野はお前の事を思ってる、私は、市原が仲間だと信じて心配してたぞ！」

和斗「ああ、さっきはごめんな、殴って！」

和斗はスバルに謝り。

スバル「いや、いいんだよそんなことは、でも、おかげで目が覚めたぜ！」

シヨウ・ロンポー「スバル君、やっと覚悟を決めたそうだね！」

シヨウ総司令が和斗達と合流。

翼「シヨウ総司令？来たのですか?！」

シヨウ・ロンポー「ああ、和斗君と翼ちゃんが心配だから来たんだよ！」

スバル「シヨウ総司令、俺は覚悟を決めました、俺はシンフォギア装束と一緒に戦う、

ツルギ大統領や獅子野いや和斗が俺の事を思ってたんだ、俺は翼や皆と戦うと決めた！」

和斗「スバル、よし行こうぜ！」

スバル「ああ、行こう和斗、翼、総司令！」

レイア「現れたかキューレンジャーと装束、今度こそ派手に散らしてくれ！」

ソウジキンダバー「ムヒヨヒヨヒヨ、お前らまとめて吸い込んでやるぞ！」

モライマーズから出てきたレイアとソウジキンダバー。

和斗「ようやく来たかお前ら、よし行こうぜ、3人とも！」

セイザチエンジ！

カモン・ザ・チエンジ！

和斗・スバル「スターチエンジ！」

シヨウ・ロンポー「ガリヨウテンセイ！」

和斗とスバルとシヨウ総司令は変身し翼は歌ってギアを纏う。

シシレッド「スーパースターシシレッド！」

リュウコマンダー「ドラゴンマスタ、リュウコマンダー！」

ホウオウソルジャー「スペースバスター、ホウオウソルジャー！」

翼「アメノハバキリの装束、風鳴翼！」

シシレッド「究極の救世主と装束、宇宙戦隊！」

4人「キュウレンジャー！」

レイア「ほう、ならば奴らも出して相手にしよう！」

レイアは魔方陣使ってアルカノイズを数十体出しかかり。

シシレッド「お前らの運！」

ホウオウソルジャー「試してもらおうぞ！」

リュウコマンダー「では行こうか！」

翼「はい！」

4人「うおー！」（はあー！）

和斗達も一斉にかかる。

シシレッド「おりや、どりや！」

リュウコマンダー「それ、くらえ！」

翼「せい、はあ！」

ホウオウソルジャー「せりや！」

和斗達はキューウエボンとアームドギア、ホウオウソードを使ってアルカノイズを次々と倒し、アルカノイズは全滅。

レイア「やるではないか、私は紫の奴を派手に仕留める！」

ソウジキインダバー「ならば俺はシシレット達を吸い込んでやる!」

レイアはシヨウ総司令の相手をし、ソウジキインダバーは和斗と翼とスバルの相手をした。

レイア「私は地味に時間をかける暇なんてない、即刻派手に終わらせる!」

レイアはすぐに数枚のコインを出してシヨウ総司令に向けて乱射攻撃。

リュウコマンダー「おっと、そんな攻撃は跳ね返すよ!」

キインキイン

シヨウ総司令はリュウツエーダでレイアのコイン攻撃を数々弾き飛ばした。

レイア「なっ? 私のコインを弾き飛ばした?!」

リュウコマンダー「さあ勝負はこれからだよ!」

ソウジキインダバー「くらえ、ホコリマシガン!」

翼「ふっ、はあー!」

翼はソウジキインダバーのホコリマシガンの弾を切り裂き。

シシレット「今がチャンス!」

ホウオウソルジャー「もらった!」

ソウジキインダバー「うわああ!」



和斗とスバルはチャンスでソウジキインダベーに剣攻撃。

響「和斗君達の連携攻撃、凄いね！」

切歌「はい、チャンスで攻撃はやるデス！」

調「うん、3人の剣の連携、息ピッタリ！」

ソウジキインダベー「えーい、だったら中にいるこいつらを人質にしてやる！」

？「へっ、させるかよ！」

ドドドドドド

ソウジキインダベー「ぎゃああ、俺の吸引バキュームが穴が開いて中にいる奴らが出てきた?!」

クリス達はソウジキインダベーの吸引バキュームの穴から出てきた元通りに戻った。

シシレッド「よっしやラッキー、クリス先輩？小太郎ナイスだ！」

クリス「よっしや、和斗、スバル、先輩、一般人達はあたし達に任せろ！」

功太「とどめは3人に任せました！」

クリスと小太郎達はソウジキインダベーに吸われた一般人達を安全な所へ案内した。

翼「よし、これで心置きなく戦えるぞ、獅子野、市原、行くぞ!」

シシレッド「よっしゃ、決めるぞ!」

ホウオウソルジャー「よし、これで!」

スバルはキューバツクルからアメノハバキリキュータマを出してホウオウソードに  
装填。

アメノハバキリキュータマ!

カモン・ザ・チェンジ!

するとホウオウソルジャーのボディが青くなり、両足にアームドギアの剣の装備、そ  
して翼の愛用したアームドギアの剣を持つ。

ホウオウソルジャー「ムラマサスター、ホウオウソルジャーアメノハバキリ!」

シシレッド「スバル、覚醒したな!」

翼「よし、行くぞ!」

ソウジキインダベ「おのれ、くらえホコリマシンガン!」

翼「その同じ攻撃など、これで防ぐ!」

タテキュータマ!

セイザアタック!

翼はタテキュータマを出してソウジキインダベのホコリマシンガンを防ぎ。

ソウジキインダベ―「なっ？防いだ?!」

シシレッド「今だ！」

ギヤラクシー！

シシレッド「レグルスインプクト！」

翼「我が剣の切れ、受けるがいい！」

和斗と翼は剣の連携必殺技でソウジキインダベ―を切り裂き。

シシレッド「今だ、スバル！」

ホウオウソルジャー「ああ、任せろ！」

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「くらえ、フェニックス一刀両断！」

ソウジキインダベ―「ぎゃあああああ！」

最後にスバルの必殺技で決まった。

翼「さすがだ、市原！」

ホウオウソルジャー「ああ、お前の剣さばきは見事だぞ翼！」

すると。

ソウジキインダベ―「控えおろー！」

ソウジキインダバーが巨大化し。

レイア「ほう、ならば私も加勢するぞ!」

ポチ

レイアはスイッチを押すとモライマーズがロボになりそれに乗る。

ホウオウソルジャー「よし、ギガントホウオウで行く!」

シシレッド「よし、あいつらが来るまでボイジャーで援護するぞ!」

すると。

キラン

シシレッド「ん? シシキュータマが光ったぞ?!」

ホウオウソルジャー「俺のホウオウキュータマも光ってるぞ?!」

和斗とスバルは光ったシシキュータマとホウオウキュータマに気づき。

リュウコマンダー「もしかすると… スバル君、スーパークモン・ザ・ドッキングを  
してみるんだ、してみると12個のキュータマとギガントホウオウとシシボイジャーが  
合体するとキュータマジンになるぞ!」

とシヨウ総司令が俺とスバルに説明し。

ホウオウソルジャー「なるほど、それじゃあやってみます!」

スーパークモン・ザ・ドッキング!

すると

セレナ「あれ？ 私達のキュータマが飛び出してきました?！」

壮太「俺のも?！」

セレナ達のキュータマが本部から飛び出し。

ヘビツカイシルバー「ん？ キュータマが俺達を包んでるぞ?！」

コグマスカイブルー「もしかして合体するよ！」

それと同時に小太郎達はキュータマに包みと斗達のいるところへ向かい、すると。

シシボイジャーとギガントハウオウが合体し、12個のキュータマと合体し最後、シ

シボイジャーの顔部分が星のエンブレムを装備、そうこれが。

キュウタマジン！

翼「なっ? シシボイジャーとギガントハウオウ? キュータマと合体するとは?！」

クリス「なんちゆうロボットだ? おい！」

クリスは翼の所に戻ってキュウタマジンに驚く。

シシレッド「よっしやラツキー、これがキュウタマジンだな?！」

リュウコマンダー「そうだよ、これがボクチンとラツキー達がジャークマターを倒し

たロボットだよ！」

コグマスカイブルー「久しぶりだね、これに乗るのを!」

テンビンゴールド「そうなんや、ワイは初めてや!」

ソウジキインダバー「なんじゃあのデカさ?!」

レイア「ソウジキインダバー、見た目はでかいが早めに派手に倒すぞ!」

ソウジキインダバー「そうだな、くらえホコリマシンガン!」

ソウジキインダバーは油断もせずホコリマシンガンを発射。

ソウジキインダバー「へへ、なっ? 攻撃が効かない?!」

シシレッド「すげー、これがキュウタマジンの力か?!」

リュウコマンダー「よーし、反撃だ祐一君、レバーを引いて!」

サソリオレンジ「ああ!」

祐一はレバーを引いてモライマーズロボに向けてパンチ。

レイア「くっ、なんて威力だ?!」

ソウジキインダバー「ちくしよう、ならば最大の吸引バキュームをくらえ!」

ソウジキインダバーはキュウタマジンに向けて吸引バキュームをしようとすると。

ヘビツカイシルバー「そうはさせるかよ!」

テンビンゴールド「今度はワイらの番や!」

蓮司と功太はキュウタマジンのキュータマを分離してボイジャーと合体。

二人「くらえ、コンビネーションアタック！」

ソウジキインダバー「ぎゃああ！」

ソウジキインダバーはヘビツカイボイジャーとテンビンボイジャーのコンビネーション攻撃で苦戦。

レイア「なっ？分離して攻撃できるだど?!」

切歌「すごいデース、キュウタマジン！」

調「大きいけどスゴい！」

エルフナイン「分離して攻撃も出来るとはスゴいです！」

切歌達はモニターでキュウタマジンの戦いを見て驚き。

リュウコマンダー「よし、一気に止めとこうか！」

シシレッド「ああ、決めるぞ！」

ホウオウソルジャー「わかった！」

ギヤラクシー！

全員「キュウタマジン、ファイナルブレイク！」

スーパーギヤラクシー！

キュータマジンの両腕のバーニアから点火してソウジキインダバーとモライマーズロボに向けて必殺攻撃。

レイア「派手に脱出！」

レイアは爆発する前にテレポートジェムを使って脱出。

ドーン

ソウジキインダバーとまとめて爆発。

全員「地球は俺達を守る！」

数10分後、リベリオン本部宴会場

シヨウ・ロンポー「ようこそスバル君、リベリオンとS・O・N・Gへ、ボクチン達

は君を歓迎するよ！」

スバル「ありがとうございます、シヨウ総司令、玄十郎司令、そして皆、よろしく頼むよ！」

シヨウ総司令達は宴会場でスバルの歓迎会をし、スバルは鳳ツルギが着てた赤いロングコート着ていた。

玄十郎「分からないことがあったら俺達に聞いてくれ、君は俺達の仲間だ！」

和斗「よっしゃラッキー、よろしくなスバル！」

響「大歓迎です！」



未来「私と調ちゃんとセレナちゃんのお料理、たくさん食べてください！」

スバル「ああ、ありがとう！」

和斗とスバル達は料理を食べ。

翼「市原！」

スバル「なんだ？翼?!」

翼「ありがとう、さつきは助けてくれて、私も本当に感謝するぞ！」

翼はスバルにお礼の感謝し。

スバル「いや、いいんだよ翼、翼の仲間や和斗達と一緒に戦うのはやっぱり悪くないよ！」

クリス「あの野郎、素直だな！」

祐一「そうだな！」

響「よし、この調子で残りの聖遺物キュータマを手に入れましょう！」

切歌「デース！」

セレナ「あれ？そういえばマリア姉さんと奏さんはどこに行ったのですか？さつきから見当たらないです！」

セレナはマリアと奏がないことに気づき。

ステインガー「ああ、あの2人なら緒川さん連れて鹿児島に用事行ってる!」

玄十郎「ああ、3人には鹿児島の研究所であるキュータマを取りに行ってる!」

調「あるキュータマとは何ですか?!」

スバル「ああ、教えるよ、ツルギ大統領の知り合いが響達7人の装束の為にイグナイトキュータマを開発してたんだよ!」

響「イグナイトキュータマ?!」

響はスバルのイグナイトキュータマの言葉でちよつと驚く。

NEWS STORY

スペース33、鹿児島を守れ、発揮のイグナイトキュータマ！

休日、バトルオリオンシッププリーフィングルーム

俺達は鹿児島までゆっくりしていた。

和斗「なあスバル？その響達が使うイグナイトキュータマはどんな効果を持つてる?!」

スバル「ああ、詳しく説明するよ、イグナイトキュータマはイグナイトモジュールを制御できるキュータマ、イグナイトモジュール抜剣と同時にセイザブラスターに装填すると制御でき、更に力が発揮するんだ！」

スバルは和斗達にイグナイトキュータマの説明し。

エルフナイン「つまりマリアさんと奏さんと緒川さんが現在、鹿児島の研究所に行つて取りに来たのですね?!」

スバル「ああ、昨日歓迎会を終わった後、マリアさんと奏から連絡が来て、ホテルで泊まって今から研究所に行ってる！」

すると

ビービービー

ラフタ「鹿児島にネオジャークマターが現れました、救援信号を出しています!」

セレナ「鹿児島に襲撃?まさかマリア姉さん達が危ない?!

剛「大変でござす、おいどんのおつ母とおつ父、ニヤンコ流星人の皆も危ないでござす!」

壮太「ああ、助けに行こう!」

シヨウ・ロンポー「よし、出撃メンバーをキューレットで決めよう、決めた5人は一足先に鹿児島に向かってくれ、玄十郎君!」

玄十郎「ウム、キューレット・ザ・チャンス!」

ポン、ポン、ポン、ポン、ポン

玄十郎が当てたのは和斗と剛、セレナ、アミ、エリだ。

玄十郎「よし、響君、君も和斗君達と一緒に鹿児島に行ってくれ!」

響「わかりました師匠!」

和斗「剛、行くぞ、お前の故郷の鹿児島と両親と皆を守るぞ!」

剛「合点でござす!」

鹿児島市街地

「きゃー!」

「助けてー!」

人々の叫び声が聞こえ、ネオジャークマターが鹿児島を襲撃。

「ヒヤヒヤヒヤ、ニヨロニヨロしてやるぜ!」

鹿児島を襲撃するヘビのネオジャークマター。

「誰なんだお前は?!」

? 「俺はヘビツカイ座系カロー、スネークラ、鹿児島を制圧してお前達をジエミニス様とキヤロル様の奴隷にしてやる!」

すると

奏 「おりや!」

奏が駆けつけて攻撃を仕掛ける。

スネークラ 「シャー、お前はシンフォギア装束? 何故ここにいる?!」

奏 「へへ、鹿児島に用事があったついでにお前を倒す!」

ニヤンコロ星人子供 「シンフォギアお姉ちゃんにや!」

ニヤンコロ星人父親 「頑張ってくれ!」

スネークラ 「シャー、てめーらは動かなくしてやる、くらえしびれサンダー!」

スネークラはサンダー攻撃でニヤンコロ星人の家族に向けて浴び。

奏「てめー、ニャンコロ星人の家族に何しやがる?!」

スネークラ「シヤシヤシヤ、お前もしびれさせてやるぞ!」  
すると。

?「うおおお、鹿児島の皆に何しやがる!」

スネークラ「シヤ、いってー!」

牛型ロボットが駆けつけてスネークラに向けてタックル攻撃。

和斗「ん?ネオジャークマターと戦ってる牛ロボット?!」

現場についた和斗と響達は牛型ロボットと対決してるスネークラに気づき。

響「奏さんと一緒に戦ってるよ!」

剛「あれは?チャンプ殿?鹿児島の皆を守ってるでござす!」

アミ「剛君?あの牛のロボットを知ってるの?!」

剛「ごわす、おいどんがここにいた頃、一緒に畑や猫のお世話や皆のためにロボレスを勝ち続けたでござす!」

剛はアミ達にチャンプの事を説明する。

エリ「とにかく、奏さんの援護に行くわよ！」

セレナ「はい、鹿児島を制圧するわけにはいきません！」

和斗「よし、行くぞ！」

セイザチエンジ！

全員「スターチエンジ！」（ごわす！）

和斗達は変身し響も歌ってギアを纏って奏とチャンプを援護。

奏「和斗？響？来てたんだな?！」

響「駆けつけてきました奏さん！」

ワシピンク「はい、他の皆さんはもうすぐ来ます！」

オウシブラック「チャンプ殿、助けに来たでござす！」

チャンプ「おお剛、戻ってきたのか?！」

スネークラ「シャシャシャ、来たかキュウレンジャー、待ちわびたぞ！」

シシレッド「ネオジャークマター？ヘビの奴か！」

スネークラ「シャシャシャ、行くぞ！」

「ダベ、ダベ、ダベ！」

スネークラとネオインダベーがかかってきて。

カジキイエロー「チャンプさんは他の皆さんの避難をお願いします！」

カメレオングリーン「ここは私達に任せてください!」

チャンプ「ああ、任せたぞ!」

チャンプは住民の避難をしに行き。

シシレッド「よし、行くぞ!」

全員「うおー!」

和斗達はスネークラ達と対決。

奏「おりゃ!」

ワシピンク「それ!」

カメレオングリーン「えい!」

奏とアミとエリはネオインダベアの相手をし。

シシレッド「おりゃ!」

響「どりゃ!」

オウシブラック「ごわす!」

和斗と響と剛はスネークラの相手をする。

スネークラ「シヤ、俺の餌食にしてやる!」

シシレッド「やれるものならやってみる!」

スネークラ「シヤ、くらえポイズンニードル!」



スネークラの口から放つ毒の牙攻撃、和斗達は避けると。

響「うわ？ネオインダバーに当たったら毒まみれで溶けちゃってるよ?!」  
響はポイズンニードルに当たったネオインダバーを見て驚き。

スネークラ「シャシャシャ、くらえ！」

オウシブラック「なんのでごわす！」

剛はキューアックスで響達に向かってきたポイズンニードルを切り裂く。

響「剛君？キューアックスが溶けてきたよ！」

スネークラ「隙あり、スネークパンチ！」

オウシブラック「ごわす！」

シシレッド「剛？このやろう！」

ギヤラクシー！

シシレッド「くらえ、レグルスインプクト！」

スネークラ「ぎゃー！」

和斗はキューソードの必殺技を使ってスネークラに攻撃。

奏「和斗、こっちは終わったぞ！」

奏達はネオインダバーを倒して和斗達と合流。

スネークラ「シャ、数が多いか、仕方ない一旦退くシャ！」

スネークラは一旦撤退した。

シシレッド「あつ、逃げたぞ!」

スネークラが逃げた後、和斗達は変身解除。

奏「ふう、助かったぞ響、和斗達、それにしてもどうしてここに来たんだ?!」

和斗「ああ、鹿児島に救援信号があつたから俺達は先に来たんだ!」

エリ「あれ? マリアさんは何処ですか?!」

奏「ああ、マリアなら鹿児島の研究所でイグナイトキュータマを取りに行ってるがま

だ研究所の中なんだ、あの研究員は頑固なんだ!」

アミ「あつ、バトルオリオンシップが来ました!」

バトルオリオンシップが鹿児島に着いた。

数分後、鹿児島のレストラン

店長「鹿児島の皆を守って本当にありがとう、どうぞ召し上がって!」

和斗達が座ってる机には鹿児島の料理が沢山並べてある。

全員「いただきます!」

全員は料理を食べる。

壮太「あれ? 剛はどうした?!」

功太「ああ、久しぶりの故郷に帰ってきたから両親やニャンコロ星人の皆に会いに

行つてる！」

和斗「小太郎もステインガーさんと一緒に行つてる、チャンプに会いに！」

切歌「このさつま揚げ、美味しいデース！」

調「おうどんチュルチュル！」

響「鹿児島の料理は美味しい！」

未来「響、あんまりはしやがないでね！」

シヨウ・ロンポー「今日は貸しきりだからゆつくりしよう！」

シヨウ総司令はそう言いながらウーロン茶を飲む。

セレナ「あれ？奏さんは何処ですか?!」

クリス「ああ、奏先輩なら風鳴先輩とおっさんとスバル連れてマリアのいる研究所に

行つてる、スバルなら説得出来るかもな！」

響「和斗君、せっかく鹿児島に来たから一緒に観光に行こう?!」

和斗「ああ、飯を食ったら行こうぜ！」

未来「響ずるい、私も一緒に行きたい！」

和斗「わかったよ、未来も一緒に行こう！」

未来「やった、ありがとう和斗君！」

未来は和斗と一緒にに行くことを喜んだ。

一方鹿児島研究所

翼「何故ですか? イグナイトキュータマを使ったら制御できるのでに渡さないのですか?!」

研究所長「イグナイトキュータマを使いすぎると制御がひどくなり体が壊れるかもしれないキュータマだ、例えばシンフォギア装束が使うとしても渡さんぞ!」

緒川「しかし、今は錬金術師とネオジャークマターに対抗するにはイグナイトモジュールの制御が出来るためにイグナイトキュータマがどうしても必要です!」

翼と緒川達は所長にどうしてもイグナイトキュータマを貰いに説得。

数10分後、鹿児島の町

和斗と響と未来は昼御飯を食べた後、鹿児島の町を観光に行く。

響「うわあ、鹿児島の町は風景が凄いいよ未来!」

未来「響、海も綺麗ね!」

和斗「そうだな、観光に良い感じだな、シシストライカーが2人乗りだから仕方ないけど!」

？「フフフ、あのリボンの女の子の血を吸わせてもらうよ、行け！」

響と和斗達に気づかず隠れてるのはグリズラー、グリズラーは未来に向けてロボット蚊を出し。

チュー

未来はロボット蚊に気づかず右腕の血が少し吸われた。

未来「響、和斗、次は…痛い！」

和斗「ん？未来？大丈夫か?!」

未来「…ええ、大丈夫？少し痒いだけだから！」

響「良かったくおどかさないでよ未来！」

和斗「まあまあ、次行こうぜ！」

和斗と響と未来はグリズラーに気づかず次の観光に行った。

グリズラー「フフフ、シシレッドと立花響に気づかず小日向未来の血液をGET、フフフ！」

グリズラーはワープ装置を使って去った。

研究所所長室

マリア「所長、そこをなんとかお願いします、イグナイトキュータマを私達に譲って下さい!」

所長「駄目なもんは駄目だ、イグナイトキュータマを譲るわけにはいかん!」  
すると。

スバル「所長?もしかして所長のお兄さんが研究の事故で亡くなった原因でしょうか?!」

玄十郎「どういうことなんだ?スバル君?!」

スバル「ツルギ大統領からお話を聞きました、ジャークマターが壊滅して5年後、ツルギ大統領がここに訪ねてキュータマの研究を見に来ました!」

研究所所長「スバル?それは?!」

スバルは翼達に所長と所長と一緒に写真を撮ってる男の写真を見せる。

マリア「この人が?!」

スバル「ええ、研究所長のお兄さんなんだ、あの人はツルギ大統領に認められてキュータマの研究や開発を進んでたんだ、だがあの爆破事故であの人は……!」

ピピピ

スバル「はい、エルフナイン? どうした?!」

エルフナイン「大変です、鹿児島市街地にスネーククラが現れました、現在、和斗さん達が戦ってます!」

ピッ

玄十郎「スバル君、君は和斗君達の援護に向かつてくれ、ここは俺達任せろ!」

翼「スバル、私達も後で来るぞ、お前は獅子野達と頼む!」

スバル「わかった、行ってくる!」

スバルはすぐ現場に向かった。

玄十郎「所长、スバル君は今俺達と一緒に戦ってる、それでも彼は翼やマリア君を支えてる!」

鹿児島市街地

和斗達は市街地でスネーククラと多数のネオインダバーとネオツヨインダバーと対決中。

スネークラ「シャシャシャ、ニャンコロ屋人の様にビリビリしてやる!」

カメレオングリーン「ビリビリはやめてください!」

ワシピンク「厄介ね、しびれるのは！」

シシレッド「ああ、剛、良いのか？家族やニャンコロ星人の皆に会えてゆつくり出来たのに！」

オウシブラック「仕方がないでござす、家にはチャンプ殿達がいるでござす、この任務が終わったらまたゆつくり出来るでござす！」

カジキイエロー「それじゃ、お礼に私達の手料理もご馳走します！」

響「よし未来もいるから頑張るよ和斗君！」

シシレッド「おう！」

和斗達はスネークラに向けて攻撃すると。

スネークラ「しやくくらえスネークロングアーム！」

響「うわ！」

シシレッド「危な！」

スネークラの伸びた両腕の攻撃が出て響と和斗は避ける。

ワシピンク「それなら空中で！」

スネークラ「しやくロングアーム+ビリビリーブーム！」

ワシピンク「きやあ！」

カメレオングリーン「エリ?!」



オウシブラック「大変でござす！」

カジキイエロー「今助けます！」

スネークラ「シャシャシャ、先ずはお前を食ってやる！」

ワシピンク「まずい！」

すると

ギャラクシー！

ホウオウソルジャー「フェニックスエンド！」

スネークラ「ぎゃー！」

スバルが良いタイミングに駆けつけてスネークラに向けて攻撃。

響「あれ？スバルさん？翼さん達は?！」

ホウオウソルジャー「ああ、後で来るみたいだ、それまでは……！」

? 「待たせたな立花、獅子野、皆！」

ホウオウソルジャー「えっ？翼？奏?！」

市街地に駆けつけたのはギアを纏った奏と翼。

シシレッド「イグナイトキュータマの方は?！」

奏「ああ、この通りじゃーん！」

奏と翼は和斗達にイグナイトキュータマを見せる。

翼「所長が認められてイグナイトキュータマを譲って貰ったぞ、どうやらスバルの掛け声でわかったみたいだ!」

ホウオウソルジャー「そうか、よし、イグナイトモジュール抜剣と同時に今こそイグナイトキュータマを使うんだ!」

奏「おうよ、行くぞ翼、イグナイトモジュール!」

2人「抜剣、そして!」

イグナイトキュータマ!

セイザアタック!

翼と奏はイグナイトモジュール抜剣と同時にイグナイトキュータマをセイザプラスタワーに装填。

スネークラ「しやく、そうはさせねえ、くらえスネークロングアーム!」

シユン

スネークラのロングアームを一瞬で避け。

スネークラ「シヤ? 奴ら? 何処に行った?!」

奏「ここだ!」

翼「はあ!」

翼と奏はスネークラの背後に攻撃。

スネークラ「しやく？いつの間に?!」

響「凄い、これがイグナイトキュータマなんですね?!」

ホウオウソルジャー「ああ、イグナイトキュータマは抜剣と同時にセイザブラスターに装填すると制御が出来ると同時に相手の動きを予測、速く出来るんだ!」

スバルは戦いながら響達にイグナイトキュータマの説明をする。

シシレッド「よし、俺も翼さん達の援護に行ってくる!」

ワツツア、サイコーキュータマ!

スーパーセイザエンジ!

シシレッドオリオン「援護するぜ2人とも!」

和斗はシシレッドオリオンに変わって翼と奏の援護につき。

翼「獅子野、助かるぞ!」

奏「よし、やるぞ!」

ホウオウソルジャー「そりゃ!」

響「どりゃ!」

カジキイエロー「それ!」

ワシピンク「くらいなさい!」

カメレオン「えい!」

スバルと響達はネオインダバーとネオツヨインダバーの相手をし、圧倒。

ギャラクシー!

スバル「フェニックスエンド!」

最後にスバルが残り2体のネオツヨインダバーに向けて必殺技を放った。

シシレッドオリオン「どりゃ!」

奏「おりゃ!」

翼「せいやー!」

和斗と翼と奏はスネークラの相手に互角に戦い。

スネークラ「あの二人の装束は厄介だな。くらえロングアーム!」

奏「翼!」

翼「ええ、奏!」

翼と奏は高速にスネークラのロングアームの動きを予測して動き回り。

シシレッドオリオン「翼さん? 奏さん? 何を動き回ってるんだ?!」

スネークラ「シャシャシャ、逃がしは。あれ? 絡まって動けんぞ?!」

スネークラは奏と翼の動き回った腕に体ごと巻かれた。

シシレッドオリオン「なるほど、スネークラのロングアームの動きを予測して奴が巻かれるのか、やるな2人とも！」

翼「奏、決めるわよ！」

奏「おう、これでもくらえへび野郎！」

奏と翼はアームドギアでスネークラに向けて必殺技を放ち。

奏「最後は和斗、決めろ！」

シシレッドオリオン「おう、任せろ奏さん！」

ギヤラクシー！

シシレッド「インフィニツシユブラスト！」

最後に俺が必殺技で決めた。

スーパージヤラクシー！

スネークラ「ぎゃー！」

ドーン

シシレッドオリオン「グッドラック、翼さんと奏さん、イグナイトキュータマを使つてよっしゃラッキー！」

奏「おうよ、所長の奴、あたし達のこと信用したかもな！」

すると

スネークラ「控えオロ〜!」

翼「巨大化とは?!」

ピピピ

シシレッドオリオン「シヨウ総司令? どうしたんだ?!」

シヨウ・ロンポー「和斗君、せつかくボクチン達がいるからキュータマジンでいって  
みよう!」

シシレッドオリオン「よっしやラツキー、わかった、スバル!」

ホウオウソルジャー「了解、じゃあ行こうか!」

オウシブラック「ごわす!」

スーパー・カモン・ザ・ドツキング!

キュータマジン!

ホウオウソルジャー「おっ、12人全員が乗れば軽くなるのか?!」

リュウコマンダー「そうだよ、キュータマジンは12人全員が乗ると動きが軽くなる  
よ!」

スネークラ「み、見た目が大きくてもなめるなよ、くらえロングアームパンチ！」  
スネークラはロングアームパンチでキュウタマジンの左腕に捕まり。

サソリオレンジ「くっ、絡みついたか！」

オオカミブルー「それなら！」

へびツカイシルバー「左足の俺達に任せろ！」

壮太と功太はキューボイジャーにし、左腕に捕まったスネークラのロングアームに向けて攻撃。

スネークラ「ぎゃー、よくもやったな、くらえシビレビーム！」

？「させるかよ、おりゃ！」

リュウコマンダー「えっ？オリオンバトラー？誰が乗ってるの?!」

奏「あたしだよ、一度で良いから乗ってみたかったぜ！」

なんと奏がオリオンバトラーに乗っていた。

シシレッド「まあ良いか、行cule奏さん！」

奏「おうよ、行cule！」

オリオン

和斗達と奏は操縦してスネークラに向けてパンチやハンマー攻撃し、スネークラはフ

ラフラになる。

シシレッドオリオン「よし、一気にとどめだ!」

奏「おう!」

ギヤラクシー!

全員「キュウタマジン、アルティメットメテオブレイク!」

12個のキュータマの必殺技でスネークラに攻撃し。

奏「とどめは決めるぜ、オリオンバトラー、ハンマーブレイク!」

スパーギヤラクシー!

最後に奏がオリオンバトラーの必殺技で決めた。

スネークラ「によるによる、にゆるにゆる、キュウレンジャーと装 $\square$ を巻きたかった

〜!」

ドーン

全員「地球は俺達（私達）（あたし達）が守る!」

数時間後の夕方、剛の実家南野家

チャンプ「よし、剛達が鹿兒島を救ったからな、盛大に盛り上がるぞ、1、2、3、

モ〜!」

全員「いただきま〜す!」（デース!）



和斗達は剛の実家で夕飯を食べていた、ちなみに料理はセレナと調と未来、戻ってきたマリアが剛の母親の料理を手伝った。

和斗「さっきの奏さんと翼さんのイグナイトキュータマ、イグナイトモジュールの制御が出来て高速に動けるなんてスゲーな！」

奏「ナハハ、実はよイグナイトキュータマを使うのはあたしと翼、初めてだったんだぜ！」

アミ「えっ？奏、イグナイトキュータマを使うの初めてですか？、痛みとかないのですか?!」

奏「痛みがないというより体の感覚やらに研ぎ澄ませて慣れてきたよ！」

奏はアミ達にイグナイトキュータマの事を話。

響「じゃあ、私達が使ったら痛くないかもしれない：！」

クリス「てっ、んな訳あるか、あたしも次は使ってみるかな?!」

切歌「あたしもギアが修復したら使ってみたいデース！」

蓮司「ほんじゃあワイも！」

翼「お前達キュウレンジャーの方は使っても意味が無いぞ！」

蓮司「あつ、やつぱり！」

全員「ワハハハハ！」

全員は豊かに楽しんでご飯を食べながら笑った。

マリア「スバル!」

スバル「ん? マリアさん? どうしたんだ?!」

マリア「あの時はありがとう、所長を説得してくれて、もし私や奏と緒川さんだけじゃ不安だったから!」

マリアはスバルに感謝のお礼を伝え。

スバル「いや、良いんですよそんなことは、所長もきつと俺達の事、わかってくれたみたいですよ!」

マリア「ふふ、そうね、今度は私の家にいらつしやい、お礼に料理を食わせるわ!」  
スバル「はい、是非!」

ネオジャークマター要塞研究室

グリズラーは小日向未来の血液を研究。

グリズラー「成る程、小日向未来の体のデータ、これは実に使えるよ、この血液を使って解析して、ん?!」

グリズラーは小日向未来の血液を分析してなにかに気づいた。

グリズラー「ククク、ハハハハ、そうか、小日向未来の血液でクローンを作ればジェニミスを超える僕だけの最強の兵器が完成できる、さて、完成するまでは、こいつを何とかしないとね！」

グリズラーがもう一つ見ているのは改造中の0号を見つめチップをさわる、英語でウエルと書いてあった。

### 首領室

首領室にはジェニミスとレイヴォオルグとレオルス、そしてキャロルがお邪魔した。

ジェニミス「ほお、スネークラがやられたのか?！」

レイヴォオルグ「ああ、鹿児島を制圧しようとシンフォギア装☒とキュウレンジャーにやられたみたいだ、それとシンフォギア装☒、新しいキュータマを使って！」

レオルス「ガハハハ、こりや相手になりそうだな！」

キャロル「悔るな、奴らは残り3つの聖遺物キュータマを見つけに行くぞ！」

ジェニミス「そうだな、その事なら残りのカローに任せてある、フフフ！」

### NEWSSTORY

スペース34、脅威のダンス対決、乙女座系カローのナルシスト!

リベリオン本部司令室

シヨウ、ロンポー「よし、ではこれより残りの聖遺物キュータマを手に入れる作戦会議を行う!」

ラフタ「はい、それではモニターをお見せします!」

ラフタは和斗達に残りの聖遺物キュータマの情報を見せる。

玄十郎「現在、手に入れたのはガングニールキュータマ、イチイバルキュータマ、アメノハバキリキュータマの3つ!」

ステインガー「残りのキュータマはアガートラム、イガリマ、シユルシャガナキュータマの3つのありかが博多、埼玉、千葉にある!」

シヨウ、ロンポー「今回は2チームに別れてイガリマキュータマ、シユルシャガナキュータマを手に入れる、先ずは博多のシユルシャガナキュータマを手に入れるチームはアミちゃん、エリちゃん、功太君、蓮司君、ボクチンとスバル君で行こう!」

玄十郎「ウム、それじゃあ埼玉のイガリマキュータマの方は和斗君、壮汰君、小太郎

君、剛君、祐一君、セレナ君で行く、響君とクリス君は和斗君のチームに行く！」

ステインガー「よし、こっちの方は翼と奏で行こう！」

シヨウ総司令達は残りの聖遺物キュータマを手に入れるチームに分ける人員を決め。

マリア「私達はどうしたら良いのかな?！」

シヨウ・ロンポー「そうだね、本部の方は候補生達が防衛するからね…。マリアちゃんにはボクチン達と一緒に博多、切歌ちゃんと調ちゃんは和斗君達と一緒に埼玉に行こう！」

切歌「やったー、ありがとうデース！」

セレナ「切歌さん、調さん、一緒をお願いします！」

未来「あの、私も和斗君達と一緒に埼玉に行つて良いですか?！」

未来はシヨウ総司令に和斗達と一緒に行くお願いをし。

玄十郎「…：。そうだな、未来君も一緒に行こう、シヨウ総司令?良いんだな?！」

シヨウ・ロンポー「そうだね、響ちゃんと和斗君が心配するからね、未来ちゃんも同行だよ！」

未来「ありがとうございます！」

シヨウ・ロンポー「皆、離れていても心は1つだ、それを忘れるんじゃないよ！」

全員「オツキユウ!」

S・O・N・Gの潜水基地で埼玉に行った。  
シヨウ総司令達のチームはバトルオリオンシップで博多まで行き、和斗達のチームは

博多

蓮司「ここが博多かいな? 良い観光やな!」

功太「おつ、あそこにトンコツラーメン店があるぞ、行こうぜ!」

スバル「こら、待て、観光に来たんじゃないぞ!」

シヨウ・ロンポー「まあまあスバル君、今、博多のリベリオン本部の人が現在シユル

シャガナキュータマを探しに行ってるからね!」

アミ「じゃあ? それまでは自由行動ですか?!」

ステインガー「ああ、それまでラーメンとか食べに行つて良いぞ!」

奏「マジかよ? じゃあ功太、蓮司、ラーメン食いに行こうぜ!」

功太「よし来た!」

奏は功太と蓮司を連れてラーメン

奏は功太と蓮司を連れてラーメン屋に行き。

シヨウ・ロンポー「じゃあボクチン達は博多の町を観光に行こうかアミちゃん、エリ

ちゃん！」

エリ「はい、そうだステインガー司令さんも行こうよ、おいしいスイーツも食べに！」  
ステインガー「あ：： ああ、あんまり俺の手を引つ張るなよ！」

シヨウ総司令はアミとエリとステインガーを連れて博多の町を観光やスイーツを食べに行く。

マリア「ねえ翼、せっかく博多に来たんだから一緒に行きましょう！」

翼「あ： ああ、そうだな、行こうかマリア！」

マリア「ほら、スバルも行きましょう♡！」

マリアはスバルの左腕を胸元に挟み。

スバル「えっ？ マリアさん?!」

マリア「ほらデート風に行きましょう、翼と一緒に！」

翼「スバル：： 覚悟するんだぞ！」

スバル「えっ？ ええええ?!」

翼はスバルの右腕を掴んで一緒に歩いた。

それから1時間後。

マリア「博多のタワー、風景もきれいだったわね！」

翼「ああ、私も案外見ていたら美しかったぞ!」

翼とマリアは顔を赤くなりながら話題を話し。

スバル「翼とマリアさんとのデート風は悪くないな、俺も楽しいよ!」

マリア「でしょ、スバルは誰かに行った事はあるの?!」

スバル「そうですね、俺は2人の女子と一緒に行った事はないんだ、初めてですよ!」  
すると

? 「フツ、私の華麗なダンスに敵うものはいるか?!」

観光スポットに現れたナルシストの乙女座のネオジャークマター。

翼「ネオジャークマター? 女装になった奴は誰だ?!」

? 「私は乙女座系カロー、ヴェイエル、私の美しいダンスに散るがいい!」

スバル「なめんなよ!」

カモン・ザ・チェンジ!

スバル「スターチェンジ!」

スバルはホウオウソルジャーに変身してヴェイエルに向けて剣攻撃すると。

ヴェイエル「はっ、ほっ!」

ヴェイエルはスバルの剣攻撃を華麗な踊りで避け。

ヴェイエル「これでもくらいなさい!」



ホウオウソルジャー「ぐあああ！」

ヴェイエルは回転しながらスバルに向けてキックダンス攻撃をした。

マリア「スバル?!」

翼「今、助けるぞ！」

翼は歌ってギアを纏ってスバルの加勢に向かい。

博多スイーツ店

ヒビビ

シヨウ・ロンポー「ん?どうした?ラフタ?!」

ラフタ「マリアから通信でスバルと翼が博多のデートスポットにネオジャークマター反応が現れました！」

シヨウ・ロンポー「よし、すぐに向かう、ステインガー、ラーメン屋にいる功太君達にも連絡を頼む！」

ステインガー「オツキュウ！」

ホウオウソルジャー「くっ、ダンスで攻撃するとは！」

シシレッド(マリア)「ええ、オカマなのに何て動きなの?!」

翼「ああ、私達が攻撃しても避け、華麗なダンス攻撃するとは思えんぞ!」

ホウオウソルジャー「だったら!」

スバルは急にダンスをし始めた、そうDJのようなダンスをする。

翼「ス?スバル?何を踊っているんだ?!」

シシレッド(マリア)「もしかして?ヴィエルに対抗するためにダンスをしてるわね

!」

ヴィエル「フン、そのダンス、華麗ではない、汚らわしい、ヴィーナススワンスピン

!」

ホウオウソルジャー「ぐあああ!」

ヴィエルは白鳥のような美しいダンス攻撃でスバルに命中。

シシレッド(マリア)「スバル?!」

翼「白鳥のようなダンス攻撃もするとは?!」

リュウコマンダー「待たせたね、翼ちゃん、マリアちゃん、スバル君!」

シヨウ総司令とアミとエリが翼達と合流。

ヴィエル「オホホホ、このキュータマのお陰で私は華麗にダンス攻撃出来たわ！」  
ヴィエルはスバル達に調の絵が描かれたピンク色のキュータマを見せる。

リュウコマンダー「それは？シウルシャガナキュータマ？何故それを持つてる?!」

ヴィエル「これはね、博多の発掘地でリベリオン本部の人から私が奪ったのよ！」

翼「なっ、それを使っていたとは？渡してもらうぞ！」

ヴィエル「お断りよ、くられ、バルゴスピン！」

ヴィエルはシウルシャガナキュータマを直し、翼に向けて華麗なダンス攻撃し。

ホウオウソルジャー「翼、危ない、ぐあああ！」

スバルは翼を庇って攻撃を受けた。

カメレオングリーン「スバルさん?!」

ワシピンク「しっかりしてください！」

ヴィエル「まあいいわ、このシウルシャガナキュータマを返して欲しかったら明日の昼間、私とダンス対決をしてみらうわ、あなた達が勝ったらこれを渡す、もし私が勝ったら博多はネオジャークマターが占拠よ、それじゃあせいぜい頑張りなさい、オホホホ！」

ヴィエルはワープ装置を使い、去った。

バトルオリオンシツプブリーフィングルーム

奏「つまり、ヴェエルとのダンス対決に勝ったらシウルシャガナキュータマが手に入るのか?!」

翼「ええ、でもヴェエルは白鳥の湖の様なダンスをしてたぞ!」

マリア「そうね、こつちも何か考えないとね!」

すると

? 「それならワイに任せとけや!」

奏のポケットのキュータマから青い光が現れマリアに包むと。

マリア「ん? 何よこれ?!」

マリアの体にペガサスみたいなアーマーを纏った。

シヨウ・ロンポー「ペガさん、お久しぶりです!」

ペガさん「おお、シヨウ総司令、久しぶりやな、何かワイが手伝いまひようか?!」

シヨウ・ロンポー「実は頼みたいことがあるんだが良いですか?!」

シミュレーション室

シミュレーション室にはジャージ姿のスバルと翼と奏と功太と蓮司とアミとエリが並んでいた。

シヨウ・ロンポー「さあヴィエルに対抗するためダンスの特訓しよう！」

ペガさん「ほな、先ずはお前らの踊りを見せてもらおうで！」

翼「それじゃ、やるぞ！」

スバル「ああ、やってみるか！」

皆はそれぞれシヨウ総司令にダンスを見せる、スバルはラップみたいなダンス、翼と奏は切れの良いダンス、蓮司は盆踊り、功太は激しいダンス、アミは下手なダンス、エリは元気の良いダンスをしていた。

ペガさん「あかんあかん、皆はバラバラなダンスや、特に蓮司、お前は何で盆踊りをするねん?！」

蓮司「ワイはな盆踊りしか踊れへん！」

シヨウ・ロンポー「まあまあ、落ち着いて2人とも、そうだ、ボクチンとマリアちゃんがお手本を見せるから皆で合わせて踊ろう、ラフタ！」

ラフタ「はい、ミュージック、スタートです！」

ラフタが曲を流し、シヨウ総司令とマリアは奏達の前に手本を見せるように踊る、曲はキュータマダンシングだった。

シヨウ・ロンポー「はいはい、それぞれ！」

マリア「はいはい、ペガさんをつけたままはちよつと！」

ペガさん「大丈夫や、ワシはフォロウ出来るで！」

シヨウ・ロンポー「1、2、3、1、2、3、よし、ストップ！」

最後にポーズを決め、曲が止まった。

スバル「なるほど、キュータマダンスングを見本にダンス特訓をするんですね?！」

シヨウ・ロンポー「そうだよ、振り付け踊りやら簡単だからアミちゃん達も簡単に覚えることが出来るよ！」

奏「よし、早速やろうぜ！」

そして

マリア「エリ、もうちよつと振り付けは軽くね、アミはもう少し踊りを頑張りなさい！」

翼「マリア、ペガさんをつけたままコーチをしてるな！」

奏「ああ、あの二人は切歌と調の友達だから当たり前前に優しくコーチするな！」

ピー

シヨウ・ロンポー「その2人、踊りが乱れてるよ、集中して！」

シヨウ総司令は2人を注意。

翼「すみません、総司令！」

スバル「ほら、2人とも、もうちよつと頑張ろう、明日まではマスターしないといけ

ないから！」

奏「おう、悪いなスバル！」

それから数時間後、スバル達はダンスが終わって夕食を食べに行き、風呂に入り、皆は部屋に入って明日に備えて眠る。

夜中

夜中に起きたマリアと翼。

翼「……ん？シミュレーション室、誰が入ってるのか?！」

2人は覗いてみると。

功太「1、2、1、2！」

蓮司「1、2、1、2！」

スバル「よし、まだまだ！」

スバルと蓮司と功太がダンスの特訓をまたやっていた！

マリア「スバル？功太と蓮司？3人とも寝ずに練習してるね?！」

翼「ああ、遠堂と新井の踊りを見ながら頑張ってるぞ！」

功太「よし、まだまだ!」

スバル「なあ、功太達は何で切歌と調の為に戦ってる?!」

スバルは功太達に切歌と調の為に戦ってる理由を質問。

蓮司「そうやな、ワイらは切歌と調に声をかけられて友達になつてくれた初めての人や、アミやエリ、壮汰とセレナ、剛にも声をかけて友達になつてくれたんや!」

功太「ああ、俺は切歌とアミが好きで守りたいんだ!」

蓮司「そうやな、ワイも調とエリが好きなんや、壮汰もセレナが好きや!」

功太と蓮司はそう答え、スバルは。

スバル「そうだったんだ、お前らも切歌と調達の為に一緒に戦ってるな、俺は…翼とマリアさんが好きなんだ、翼は、奏と一緒にツヴァイウイングとしての活動を頑張る姿と一緒に戦って仲間の大切さを教え、マリアさんは翼や奏、切歌、調、妹のセレナの事を大切な家族や仲間だと思ってる、俺は翼とマリアさんを幸せにしようと決めた!」

スバルも蓮司と功太に翼とマリアが好きだと言い。

功太「よし、この練習を一回やったら寝ようぜ、ヴェル対抗のダンスに向けて!」

蓮司「そうやな、今度は成功するで!」



翼とマリアは部屋に戻り。

翼「スバル、私とマリアの事、大切なのか？ん？マリア？どうした?!」

マリア「うう… ひつく、スバル、翼だけでなく私の事… 幸せにしようと決めたのね?!」

マリアはスバルの言葉を思い出して涙がたくさん流れ。

翼「マリア、スバルや遠堂、新井達に感謝しないとな！」

マリア「ええ、切歌や調、セレナの事を思ってくれたから、私も感謝しないとね！」  
マリアは涙を拭いて眠りについた。

翼「そうだな、私もスバルの事、大切な人だぞ！」

翼もすぐに眠りにつく。

奏（… 翼、マリア、あたし、応援するぜ！）

そして次の日

ヴェイエル「…！」

デートスポットに構えて待つてるヴェイエル。

ヴェイエル「… 来たね！」

シヨウ・総司令達が歩いてここに来た。

シヨウ・ロンポー「待たせたね、ヴェイエル、さあやろうか！」

スバル「特訓した俺達の力、見せてやる！」

全員「マワースライド！」

セイザチェンジ!

6人「スターチェンジ！」

シヨウ・ロンポー「ガリョウテンセイ！」

シヨウ総司令達は変身し、翼と奏は歌ってギアを纏った。

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー！」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーンです！」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク！」

リュウコマンダー「ドラゴンマスター、リュウコマンダー！」

ホウオウソルジャー「スペースバスター、ホウオウソルジャー！」

シシレッド(マリア)「ダンシングスター、シシレッドペガサス！」

奏「ガングニールの装束、天羽奏！」

翼「アメノハバキリの装束、風鳴翼！」

リュウコマンダー「究極の救世主と装束、宇宙戦隊！」

全員「キュウレンジャー！」(ほい！)

最後にダンシングにかっこ良くポーズを決めた。

ヴィエル「ほお、野蛮なダンスだな、ならこっちはネオインダバアのダンス部隊、私と共に華麗に踊って戦うぞ！」

ネオインダバア「ダバ！」

ヴィエルはネオインダバアと共にダンスをし始め。

奏「おっ、踊り始めたな？よし、こっちも行くぞ！」

コトキュータマ！

セイザアタック！

奏はコトキュータマを使ってキュータマダンシングを流し。

リュウコマンダー「よし、ダンスだ皆！」

シヨウ総司令達も曲に流れてダンスし。

カメレオングリーン「それぞれ！」

ワシピンク「1、2、1、2！」

アミとエリは合図と曲についていきながらダンスし。

ヘビツカイシルバー「ふんふん！」

テンピンゴールド「ホイホイ！」

リュウコマンダー「ほれほれ！」

奏「1、2、1、2!」

蓮司達もブレもないダンス。

ホウオウソルジャー「はっ、ほっ!」

スバルもちゃんとダンスし、翼とマリアもスバルに合わせてダンス。

全員「3、2、1、オツキュウ!」

最後にポーズを決め、ネオインダバーを撃破。

ヴィエル「おのれ、ホウオウソルジャー、私とダンス対決よ!」

ホウオウソルジャー「良いだろう、行くぞ!」

スバルとヴィエルは1対1のダンス対決を初める。

ヴィエル「見なさい、これが私の華麗なダンスよ!」

ホウオウソルジャー「負けるか、俺は炎の様なダンスだ!」

ヴィエルは華麗なダンスし、スバルも負けずに炎の様なダンスをする。

ヴィエル「負けないわ、白鳥のスワンダンスよ!」

ホウオウソルジャー「ならば、フェニックスダンスを見せてやる!」

ヘビツカイシルバー「スバルさん、互角にダンス対決についてきやがる?!」

テンビンゴールド「そうやな？スバルさんに勝ってほしいでワイらは！」

翼「スバル！」

シシレッド（マリア）「頑張つて！」

すると

ヴィエル（あら？ホウオウソルジャーとダンス対決したら、なんだか胸がキュンとしてる？まさか？私はあの人に恋したの?!）

ヴィエルはスバルの顔つきを見るとかつこ良く見え踊りが乱れてきた。

リュウコマンダー「ん？奴の踊りがなんか乱れたよう？これはチャンスだよスバル君  
！」

ホウオウソルジャー「何だか良くわからないけど、わかりました！」

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「必殺ダンス、フェニックスファイニッシュダンススピン！」

スーパーギヤラクシー！

最後にスバルはフィニッシュダンスを決め。

ヴィエル「あう、はう、イヤーン、LOVEですわ〜！」

ドーン

ヴェイエルはスバルのフィニッシュダンスを火傷して空へ飛んで爆発。

キラン

ホウオウソルジャー「よっと!」

スバルは空からシウルシヤガナキュータマをキャッチ。

リュウコマンダー「良くやったよスバル君!」

奏「やったな!」

チフオージュシャトー

キャロル「あのオカマ乙女、ホウオウソルジャーのダンスにやられるとは!」

キャロルはモニターを見て怒る。

レイア「情けない、派手に散るとは!」

ファアラ「いいお友達になろうと思ったのにな!」

バトルオリオンシップブリーフィングルーム

シヨウ・ロンポー「ペガさん、ダンスの特訓を指導していただき、ありがとうござい

ました!」

ペガ「おうよ、気にせんといええで総司令、久しぶりに出てワシは嬉しかったで、

じゃあ!」

マリアの体につけたペガさんは光になり、キュータマに戻った。

奏「しかし、今回のネオジャークマターの野郎はオカマだったな、乙女座のな!」

蓮司「そうやな、まあシユルシャガナキュータマが手に入れて何よりやな!」

マリア「ねえ、シヨウ総司令、シミュレーション室、お借りして良いかしら?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、構わんが? どうしたのかね? マリアちゃん?!」

バトルオリオンシツプシミュレーション室

マリア「お待たせスバル!」

スバル「ん? マリアさん? 翼?!」

マリアと翼は綺麗なダンスのドレスを着てシミュレーション室に入り。

マリア「実はこのドレス、緒川さんが私と翼の為に用意してくれたのよ!」

翼「スバル? 似合うのか? 私のドレス姿は?!」

スバル「あ: : ああ、2人とも、良く見たら綺麗だよ!」

マリア「ありがとうスバル♡!」

スバルはマリアと翼を交互に華麗なダンスをする。

マリア「スバル、私と翼の事を好きになってありがとうね!」

スバル「何の話ですか?!」

翼「お前が遠堂と新井との練習の時に覗いたぞ、スバル、私とマリアの事、大切な人だと話したんだな?!」

スバル「えっ? 見てたのか?!」

マリア「ふふふ、ありがとう、スバル♡私と翼を幸せにしよう決めて、私も翼も絶対にスバルの事、好きになるからね!」

そういつてマリアはスバルの唇と合わせてキスをし。

マリア「翼!」

次にマリアはスバルから離れて翼がスバルと唇キスをしていた。

スバル「つ…翼? マリアさん?!」

マリア「私と翼からの感謝のキスよ、私と翼の事、大切な人と思ってくれてありがとう!」

翼とマリアは顔が赤くなりながらスバルに感謝。

緒川「うう…翼さん、マリアさん、僕や司令がお二人の幸せを見守ります!」

ショウ、ロンポー「緒川君、ボクチン達が絶対にスバル君と翼ちゃんとマリアちゃんの幸せを叶えよう、それと2人のためにドレスを用意してくれてありがとう!」



緒川「いえ、このドレスは僕が翼さんとマリアさんの為に製作したドレスです、喜んでくれて嬉しいです！」

ステインガー「ああ、こちらこそ感謝するぞ！」

シヨウ総司令と緒川とステインガーはシミュレーション室で翼とマリアとスバルのダンスを見守っていた。

一方、埼玉は。

「きゃ〜！」

「助けてくれー！」

和斗「ネオジャークマターめ、俺がいた頃の埼玉を襲撃しやがって！」

小太郎「とにかく市民の避難の方はセレナと切歌と調と壮汰と剛に任せてる！」

祐一「よし、行くぞー！」

セイザチェンジ！

3人「スターチェンジ！」

和斗達3人は変身し、響とクリスは歌ってギアを纏った。

シシレッド「やめろ、ネオジャークマター！」

襲撃したのはスレイブと左腕の部分の色が違う0号だった。

響「何?あの0号は?!」

クリス「左腕が不気味だぞ?誰だてめえは?!」

0号?「フッフ、僕の事、ご存知ですか?!」

クリス「なっ?てめえはまさか?!」

クリスが驚いたのは何処かで聞き覚えた奴だった。

NEW STORY

## スペース35、対決、爆走バイクレース！

埼玉市街地

前回俺達是不気味な声をした0号に驚いた。

響「あの0号？不気味な声をしてるよクリスちゃん！」

クリス「ああ、この声はまさか?!」

0号？「その通り、僕の名はドクターウエルだよ、ゲヘヘヘ！」

不気味な声をした0号が自らを名乗る、そうドクターウエルと、フロンティア事変の頃、2課にも協力し、セレナをシエンシヨウシンを無理矢理纏わせ操り、左腕にネフィリムを纏い、フロンティアを浮上した英雄気取りの男、だけど彼は牢獄にいたはずだが。

クリス「てめえ？何故その姿になりやがる?!」

0号ウエル「ゲヘヘヘ、牢獄で僕はレオルスに殺されて僕は死にそうになり、その時、グリズラー様が僕の脳をチップに搭載し、改造中の0号に僕の人工頭脳が入ったチップを使って復活したんだよ！」

ウエルは自分がどうしてその姿になった理由を話し。

シシレッド「自分の体を捨てて0号に搭載しやがって！」

0号ウエル「ゲへへへへ、僕はネオジャークマターの兵器として、僕の名は0号ネフィムウエルだ!」

0号になったウエルは自ら自分の新しい名前を言い。

シシレッド「何がわからねえけど倒してやる、行くぞ響!」

響「うん、行こう!」

和斗と響はキューソードとパンチを構え、0号ネフィリムウエルと対決し。

0号ネフィリムウエル「ゲへへへへ、これでもくらえ、ネフィリムバルカン!」

ドドドドド

シシレッド・響「うわあああ!」

サソリオレンジ「和斗、響!」

クリス「今助けるぜ!」

スレイブ「おっと、お前らの相手は俺だ、一度でいいからイチイバルとサソリオレンジとコグマスカイブルーと対決したかったぜ!」

祐一とクリスと小太郎はスレイブの相手にされ。

コグマスカイブルー「邪魔をするな!」

スレイブ「へへ、俺の蹴り技の餌食にしてやる!」

S・O・N・G 潜水基地

藤高「和斗と響ちゃん、クリスちゃんと小太郎、祐一がネオジャークマターに苦戦している模様です！」

玄十郎「壮汰君達の避難状況はどうだ?！」

友里「先ほど住民を埼玉本部に収納完了、間もなく和斗君達と合流します！」

オペレーターの2人は状況を知らせ。

玄十郎「シヨウ総司令達の方は?！」

ピッ

シヨウ・ロンポー「すまない、こちらは埼玉に着くのは少しかかりそうだよ、大体2時間ぐらいはかかるよ！」

切歌「和斗先輩、響さん、避難の誘導終わったです！」

調「あの0号は何なの?！」

セレナ「あの左腕の色?まさかドクターウエル?！」

セレナは0号ネフィリムウエルの姿に驚き。

0号ネフィリムウエル「ゲへへへ、久しぶりだね切歌君、調君、セレナ君！」

切歌「デデデース? やつぱりその声はドクターデスと?!」

壮汰「とにかく響先輩と和斗兄貴達の援護に向かうぞ!」

調「うん!」

0号ネフィリムウエル「ゲヘヘヘ、そうはさせないよ!」

0号ネフィリムウエルは左腕を長く伸ばして切歌と調を縛り捕まり。

シシレッド「切歌? 調?!」

クリス「今助けるぜ!」

? 「お前も捕まってもらうぞ!」

ドドドドド

クリス「ぐあああ!」

レイヴオルグも乱入してクリスを襲撃。

シシレッド「クリス先輩?!」

0号ネフィリムウエル「この3人は人質としてもらうよ、返してほしかったら爆走バ

イクレースで勝負だ!」

レイヴオルグ「明日の昼間まで埼玉レース場で待ってるぞ!」

スレイブ「但し、バイクの乗れる装束も参加だ、俺達もマシンを用意して行くぞ!」

0号ネフィリムウエル「それじゃ、楽しみにしてるよ!」

レイヴォルグ達はクリスと切歌と調を縛って去り。

響「クリスちゃん？切歌ちゃん？調ちゃん?!」

サソリオレンジ「くそ、絶対に助ける!」

ちようどの所、バトルオリオンシップが和斗達と合流する。

埼玉リベリオン本部ブリーフィングルーム

翼「何？暁と月読と雪音を返して欲しければ爆走バイクレースに参加だ?!」

セレナ「はい、明日の昼間のレース場で勝負しようとレイヴォルグとドクターとスレイブが言いました!」

マリア「それであるドクターは?!」

壮汰「はい、俺達が和斗兄貴達と合流した時、あの左腕の色違いの0号は間違いなくドクターウエルでしたよ!」

壮汰はマリア達に0号のドクターウエルの事を話し。

アミ「あれ？和斗さんは何処に行ったのですか?!」

セレナ「和斗さんなら祐一さんと小太郎さんと一緒にS・O・N・Gの潜水本部の格納庫で自分のバイクの調整をしています、響さんと未来さんは後からお手伝いに行ってくださいました!」

奏「よし、翼、マリア、あたし達も爆走バイクレースに参加しようぜ!」

翼「そうだな、緒川さんに頼んで調達しよう!」

マリア「ええ、切歌と調とクリスを必ず助けましょう!」

スバル「よし、俺も行くぞ!」

翼「スバル? バイクは乗れるのか?!」

スバル「ああ、高校生の頃、鳳大統領の所で免許を取ってるぞ!」

奏「よっしゃ、スバルもいたら大逆転、やろうぜ!」

埼玉リベリオン本部司令室

シヨウ・ロンポー「そうか、イガリマキュータマの方は何とか回収出来たんだね!」

? 「はい、イガリマキュータマの発掘は和斗達も手伝ってくれて感謝します、ここに

おいてます!」

シヨウ総司令と話してる黄色い司令のロングコートを着てるキリンの顔をした人物、彼の名はジュラーフ司令、埼玉のリベリオン本部司令を着任したキリン座系出身の人である。

ステインガー「それで、埼玉の方はどうなっているんだ?!」

ジュラーフ「現在の所、候補生達が人命救助、並びに町の修復を継続しております!」



玄十郎「ウム、ジューラフ君の所の候補生達は勇敢にやっているね！」

### 潜水基地格納庫

和斗と小太郎と祐一は繋ぎ服を着て自分のバイクの機械調整をしていた。

和斗「このエンジンの所の部分の所、ちよつと悪いな、小太郎、スパナを取ってくれ！」

小太郎「はい！」

和斗「サンキュー！」

響「和斗君、ガソリンを持ってきたよ！」

和斗「サンキュー、響、未来、えっ？2人とも？いつの間に?!」

和斗はいつの間に来てた響と未来に驚き。

未来「私と響も和斗君達のお手伝いに来たよ！」

響「エヘヘ、私と未来も繋ぎ服を着て来たよ！」

未来「あれ？祐一さんは何処?!」

和斗「ああ、祐一なら調整と整備が終わってそこに座ってる！」

祐一「クリス、切歌、調、必ず絶対に助けるから待っている！」

祐一は繋ぎ服のポケットからハーモニカを出し。

祐一「♪♪♪!」

祐一は一人でハーモニカを吹いて一人で演奏した、曲はステインガーが歌ってたサソリ座の歌に音色が聞こえた。

響「良い音色が聞こえるね和斗君!」

和斗「ああ、祐一はハーモニカを吹いて趣味なのか?!」

未来「でも、演奏するの上手いよ!」

ステインガー「あいつはクリスを探す旅の時、森や街のスポットでハーモニカを吹くんだ!」

格納庫に入ってきたステインガー。

小太郎「あれ? 兄貴? そっちの方は?!」

ステインガー「ああ、シヨウ総司令と玄十郎司令とジュラーフ司令に任せてる、格納庫を見に来たら懐かしい音色が聞こえてきたぞ!」

響「えっ? あの音色、ステインガーさん知ってるのですか?!」

ステインガー「ああ、俺が教えただ、3年前にあいつの家にお邪魔してあいつの趣味はバイクの機械いじりだけじゃなくハーモニカを吹くのも趣味なんだ、俺は祐一に俺が歌った歌をハーモニカで教えた!」

未来「それでハーモニカの演奏の音色が綺麗になったのですね！」

ステインガー「ああ、あいつは小さい頃、クリスマスやクリスマスの両親にも演奏を聞かせてあげたことあったからな！」

ウィーン

セレナ「和斗さん、お客さんが来ました、和斗さんのお友達です！」

セレナと一緒に入ってきた和斗と同じ身長少女と少年、西野亜希と高橋凌、2人は和斗が埼玉にいた頃の友達だった。

和斗「おお、亜希？ 凌？ 久しぶりだな、何でここに?!」

ステインガー「ああ、俺が連絡したんだ、和斗が来たから会いに来いと伝えて本部の場所も案内した！」

凌「俺達も何か手伝えることあるか?!」

和斗「よし、じゃあ凌は小太郎のバイクの調整の手伝い、亜希はそうだな！」

セレナ「それなら私と一緒に夕飯のお手伝いに行ってきます、アミさんとエリさんと壮汰君達も食堂で料理のお手伝いします！」

セレナは亜希を連れて食堂に行き夕飯の手伝いに。

翼「獅子野、私達も自分のバイクの調整をするぞ!」

格納庫に入ってきた翼達。

小太郎「あれ?翼さん達も参加するのか?!」

奏「ああ、小太郎達が爆走バイクレースに参加するからあたし達も参加するぞ!」

小太郎「よし、奏さんの方のバイク調整は俺が手伝うよ!」

緒川「それじゃ僕は翼さんのバイクとスバルさんのバイクの調整をお手伝いします  
!」

祐一「よし、マリアのバイクは俺が手伝う!」

小太郎は奏のバイク、緒川はスバルと翼のバイク、祐一はマリアのバイク調整をすぐ  
する。

和斗「こんだけいれば明日のバイクレース、絶対に勝つな、ん?!」

響「和斗君?私と未来を見てるの?!」

和斗「何だか、響と未来の繋ぎ服を見てたら似合ってると思ってたよ!」

和斗は響と未来の繋ぎ服姿を見て似合っていると伝え。

未来「ポツ、やだ、和斗君、そういうこと言ってる嬉しい!」

未来は頬を赤くなり嬉しいと言い。

響「エへへ、和斗君、ありがとう、絶対にクリスちゃん達を助けるために頑張ろう！」  
和斗「ああ、絶対に勝とうぜ！」

マリア「あの子達の為に頑張るわね、祐一もありがとう、私のバイクの整備を手伝ってくれて！」

祐一「良いさ、切歌と調とクリスを助けたい気持ちは俺や皆も同じだからな！」

祐一とマリアは話しながらバイクの整備をし、パーツやガソリンの調整をしていた。そして次の日。

埼玉レース場

和斗達はバイクに乗る準備をし。

クリス「和斗、祐一！」

切歌「助けて欲しいデース！」

レース場の時計台に十字架にはりつけた切歌と調とクリスが叫び。

祐一「クリス、絶対に助けてやるぞ！」

スレイブ「来たか、キュウレンジャーと装☒！」

ブーン

スレイブとレイヴォルグは観客席からバイクに乗ってレース場まで飛び降り。

セレナ「あれ?ドクターウエルがいません?!

剛「何処に行ったでござす?!

セレナ達はピットイン場でドクターウエルがないのに気づくと。

? 「ハハハ、僕ならここだよ、とう!」

0号ネフィリムウエルが観客席から飛び降りると。

0号ネフィリムウエル「変形、バイクモード!」

ウイーン、ガシヤ

0号ネフィリムウエルが変形してバイクになり。

0号ネフィリムウエル「ゲへへへへ、0号ネフィリムウエルになった僕はバイクに変

形すること出来るんだよ!」

翼「そういう機能があつたのか?!

奏「けど乗る奴は居ねえぞ?!

? 「ならば俺が行こう!」

シユン

キャロルがいつの間にも現れバイクになった0号ネフイリムウエルに乗り。

響「キャロルちゃん?!」

和斗「あいつも参加するのca?!」

キャロル「オレだけじゃないぞ!」

ブルン

レイアとフアラも現れ。

レイア「私達も派手に参加させてもらおうぞ!」

フアラ「フフフ、私達はバイクじゃなく、足についてるローラーを使ってレースよ!」

スバル「オートスコアラにそういう機能があるとは!」

マリア「ええ、だけど油断はしないとね!」

キャロル「よし、生中継&観客セットだ!」

ポチ

キャロルはバイクになった0号ネフイリムウエルの真ん中にある赤いボタンを押すと。

「ワアアアアア!」

観客席から観客が現れ。

響「えっ? 観客さん達が現れたよ?!」

未来「どういう事?!」

響と未来は観客席から観客が現れたのに驚き。

キャロル「フフフ、0号ネフイリムウエルにはボタンを押すとホログラムの観客やMCが現れる機能が発動する、観客にはギャラリイという奴らもいないと面白くないぞ!」

ホログラムMC「いえ、いえ、皆、盛り上がってるか?!」

「いえ、いえ、いえ!」

ホログラムMC「さあただ今より、雪音クリス達の救出をかけた爆走バイクレースが始まるぜ、ルールは埼玉のサーキット場を使ってレース、2周走ってゴールした一人が勝者だ、キュウレンジャーと装束が勝てば雪音クリス達は解放、ネオジャークマターとキャロルが勝てば埼玉はネオジャークマターに制圧される、このサーキット場を今から起動、スイッチオン!」

ポチ



MCがスイッチを押すとサーキット場が変形して超ロングなスーパーサーキット場と変わる。

翼「なっ？サーキット場が超ロングなスーパーサーキット場になるのか?!」

レイヴォルグ「0号ネフィリムウエルが昨日ネオインダバー達と一緒にここの改造した、こうでなくちゃ面白くないからな、覚悟しろよキュウレンジャーと装 $\square$ ！」

ブルルン

全員がエンジン音を起動し動き出し、ヘルメットを着け。

ホログラムMC「さあ信号の合図で今からスタートするぜ！」

ピッ、ピッ、ピッ、ピー

全員「うおー！」

信号の合図が青になり全員が一斉に走り出す。

ホログラムMC「さあスタートしました、現在の先頭はレイヴォルグ、後ろにはキャロル、その後ろには風鳴翼、天羽奏が走ってます！」

キャロル「ふん、来たか

、最初の餌食はお前達からしてやる！」

ピッ

キャロルがバイクモードの0号ネフィリムウエルのボタンを押すと、後ろのエンジン

部分からミサイルが発射。

翼「ミサイルか?ならば!」

ドドドドド

翼と奏のバイクの前面からバルカン砲が発射しミサイルに命中しまくる。

奏「ん?翼?残り一個がそつちに...!」

ドーン

0号ネフイリムウエル「ゲへへへへ、命中したよ、さあ行こうか!」

レイヴォオルグ「ん?まだだぞ!」

煙が消えると翼と奏は間一髪、ギアを纏った姿でセーフ。

奏「さあ、ここからがあたし達の本場だ!」

翼「見せてやるぞ、防人の走りを!」

翼と奏はレイヴォオルグとキャロルに追い抜き、並べる。

和斗「よっしやラッキー、やるじゃないか翼さん、奏さん、さすがはツヴァイウィン  
グだぜ!」

祐一「ああ、俺達も遅れを取らずに行くぞ!」

小太郎「よっしや!」

和斗達も翼と奏に遅れを取らずについていき、すると。

スレイブ「ハハハ、お先に！」

スレイブは和斗達を抜いて翼と奏の後方に。

和斗「くそ、何としても追い抜いてやる！」

マリア「和斗、翼達は私達に任せて！」

スバル「ああ、スレイブが蹴り攻撃で邪魔するから先に行くぞ！」

スバルとマリアは和斗達を抜いて翼達の後方に向かうとすると。

スレイブ「ん？俺が蹴り攻撃をするってのか？甘いな、レイア、フアラ！」

レイア「任せろ！」

レイアは走りながらコインを出して攻撃しスバルとマリアの走りを妨害。

響「ああ、スバルさんとマリアさんが?!」

セレナ「卑怯です、妨害するなんて！」

ホログラムMC「ノーノー、このレースは妨害ありのレース、武器を使っても可能で  
す！」

マリア「それを早く言いなさい、それなら！」

トビウオキュータマ!

セイザアタック!

マリアはトビウオキュータマを使ってトビウオでファラとレイアに攻撃。

レイア「なっ?このトビウオ?派手に飛ぶぞ?!」

ファラ「私達をどうするの〜!」

レイアとファラはマリアが出したトビウオに巻き込まれて場外に飛ばされ。

キラン

ホログラムMC「おーっと、レイアとファラ、マリアの出したトビウオキュータマの攻撃に捕まり場外になり失格!」

和斗「よっしやラッキー、マリアさんナイス、後は俺達も行くぜ!」

和斗達も安心してマリア達の所についていくと。

0号ネフィリムウエル「ゲへへへへ、追いかけてきたか、ならばこれでもくらえマリア!」

0号ネフィリムウエルは後ろからビームが発射した。

マリア「はっ?危ない、和斗達、避けて!」

和斗達はマリアの指示にいわれて避け。

小太郎「今度はビームが出てきた?!」

キャロル「さっきのお返しだ、くらえ!」

キャロルは水の魔法攻撃でマリアのバイクを浴びると。

マリア「えっ? ショートしてきてる?!」

スバル「マリアさん?!」

マリア「私の事はいいいから、和斗達と先に行つて!」

奏「翼? マリアのバイクがショートしたぞ!」

スレイブ「隙あり、くらえジャンピングソバット」

スレイブは奏に向けてバイクを降りてジャンピングソバットをし。

奏「ぐあああ!」

翼「奏?!」

奏「あたしの事はいいい、それより早く行け!」

和斗「よし、後は俺達に任せろ奏さん!」

マリアと奏のバイクが動けなくなりリタイア。

ホログラムMC「あーつと、キャロルとスレイブの攻撃でマリアと奏のバイクがリタイアになったぞ、これで装束とキュウレンジャーは合計残り五人だ、さあどうなる?!」

クリス「祐一、先輩、和斗!」

調「スバルさん、小太郎さん!」

十字架にはりつけたままのクリス達は和斗達の事を心配する。

ホログラムMC「さあ、2周になる前にピットインをしよう、ピットインした方が先に進んで、おっと先頭のレイヴオルグ、ネオインダバー達がピットイン、キャロルも同じネオインダバー、スレイブも同じネオインダバーです、翼とスバルの方は緒川さんが分身してやってますさすがは忍者、祐一はエルフナインと蓮司と功太がやってます!」

祐一「お前ら?大丈夫か3人だけで?」

蓮司「平気やワイとエルフナインの手先は器用や、こんなのチョロいで!」

エルフナイン「はい、クリスさん達を助けましょう!」

祐一「お前ら!」

そういつてエルフナインと蓮司はてきばき整備を完璧にする。

功太「よっしゃ祐一さん、出来たぜ!」

祐一「助かるぞ!」

祐一はすぐにバイクに乗る準備し。

レイヴオルグ「ほう、出来たか、ならば俺と勝負だ!」

ホログラムMC「ん?獅子野和斗の方のピットが遅れてる?立花響と小日向未来が何

だか下手になっていきます?!」

響「えっと? タイヤはここにつけて? 次に何かな? わからないよ!」

未来「ごめんね和斗君、私と響、ピットするの初めてなの!」  
すると

凌「和斗、俺達も手伝うぞ!」

亜希「ピットなら凌と私に任せて!」

凌と亜希が駆けつけて和斗のシシストライカーのピットをすぐにする。

和斗「サンキュー、凌、亜希、助かったぜ、でも何で来たんだ?!」

凌「和斗達が地球を救うために頑張ってるからな、俺達も見ていられないぜ!」

響「ありがとう、凌君、亜希ちゃん、手伝ってあげて!」

亜希「いいのよ、2人とも和斗の幼なじみだから感謝しないとね!」

リタイアになってセレナ達がいる観客席に座ってるマリアと奏。

シヨウ・ロンポー「マリアちゃん? 大丈夫かね?!」

マリア「ええ、バイクの方はシヨートして怪我はなかったけど奏の方は軽い怪我で良かったわ!」

セレナ「マリア姉さん? 大丈夫?!」

マリア「ええ、心配かけてごめんねセレナ、もう大丈夫よ!」

ホログラムMC「さあ、ピットが終わった祐一とレイヴオルグ、キャロルとスレイブ、風鳴翼と市原スバルがスタート、佐久間小太郎の方はちよつと遅れてスタート!」

未来「和斗君、終わったわよ!」

和斗「サンキュー、じゃあ行ってくるぜ!」

和斗もバイクを起動。

レイヴオルグ「祐一、勝負と行こうか?!」

祐一「挑むところだ、行くぞ!」

0号ネフィリムウエル「ならば、こっちは!」

キャロル「俺とスレイブが邪魔をしてやる!」

カモン・ザ・チェンジ!

スバル「スターチェンジ!」

和斗「よし、小太郎、俺達も!」

小太郎「おう、スターチェンジ!」



和斗達は変身し、走りだし。

ホウオウソルジャー「翼、油断せずに抜くぞ！」

翼「御意！」

スレイブ「天羽奏のようにリタイヤしてやるぜ！」

スレイブは翼に向けてバイクを降りてジャンピンググソバットをしようとすると。

ホウオウソルジャー「させないぞ！」

スバルはスレイブの邪魔をし、バイクでぶつけ合いした。

翼「スバル?!」

ホウオウソルジャー「俺の心配しないでいい、お前はレースに集中しろ！」

翼「しかし！」

シシレッド「スバル?!」

和斗と小太郎も追い抜き。

ホウオウソルジャー「和斗、お前らは祐一達のフォローしてやってくれ、頼む！」

コグマスカイブルー「スバル……わかったよ任せて！」

和斗と小太郎は翼の後ろについていきスバルはバイクを降りてリタイヤしスレイブもバイクを降りて爆発。

ホログラムMC「あーっと、スバル、スレイブと同時にリタイヤ、バイクが爆発した

ぞー!」

シシレッド「くつ、スバルすまない!」

翼「後は私達に任せろ!」

キャロル「さて、スレイブの代わりにオレ達が相手になってやる!」  
すると

シシレッド「よし、ならばこれで突破してやる!」

ガングニールキュータマ!

セイザアタック!

キャロル「うわあ!」

和斗はガングニールキュータマを使ってキャロルと0号ネフィリムウエルに攻撃し。

翼「獅子野、お前は先に行って桐山のフォロ―頼む!」

シシレッド「ああ、任せてくれ、けど2人だけ大丈夫か?!」

コグマスカイブルー「心配しないで、俺達はキャロルの足止めするから!」

シシレッド「小太郎、翼さん、任せてくれ、必ず勝ってみせる!」

和斗はキャロルを抜いて祐一の後ろにつき。

ホログラムMC「さあいよいよゴール間近、先頭はレイヴォルグ、後ろには桐山祐一、その後ろにシシレッドの獅子野和斗だ、さあゴールするのは誰だ?!」

レイヴオルグ「ちっ、キャロルとウエルの奴、しくじったか、ならば！」  
レイヴオルグは銃を構えて後ろにいる祐一に向け。

祐一「レイ？ならば！」

イチイバルキュータマ！

セイザチエンジ！

祐一「スターチエンジ！」

祐一もサソリオレンジイチイバルに変身して銃を向け、銃乱射。

レイヴオルグ「勝つのは俺だ、祐一！」

サソリオレンジ「いや、俺だ！」

2人は揃って走り、すると。

サソリオレンジ「なっ？オーバヒート?!」

レイヴオルグ「バカめ、俺の勝ちだ！」

シシレッド「祐一、ウサギキュータマを使い！」

サソリオレンジ「よし！」

ウサギキュータマ！

セイザアタック！

ピョン

祐一はウサギキュータマを使ってバイクごとゴール前まで飛び越え。

レイヴォルグ「何?!」

サソリオレンジ「うおおおお!」

ホログラムMC「ゴール、桐山祐一、最後にウサギキュータマを使って飛び越えてゴールした!」

「ワアアアア!」

歓声と同時にクリス達の拘束を解除。

切歌「やったデース、祐一さんが勝ったデース!」

調「やったね切ちゃん!」

クリス「やったな、祐一!」

ホログラムが解除し元に戻り。

0号ネフィリムウエル「バカな?、僕たちがこんな奴に負けるなんて? えーいもう一度勝負だ!」

すると

ドン

レイヴォルグは銃でウエルに向けて銃を放ち。

0号ネフィリムウエル「えっ? どういう事ですか? レイヴォルグ様?!」

レイヴォルグ「貴様はもう用済みだ、グリズラーの頼みでお前を破壊する！」

0号ネフィリムウエル「貴様く英雄である僕を破壊するだど？ふざけるなー！」

0号ネフィリムウエルは腕を構えレイヴォルグに向けて撃とうとすると。

レイヴォルグ「ガアアアア、ガルルル！」

レイヴォルグは高速に近づいてウエルに向けて爪攻撃で粉々に切り裂いた。

0号ネフィリムウエル「なぜ？撃とうとしたのに早いんだ？嫌だ、僕はまだ死にたく

ない、嫌だく！」

ドーン

ウエルは粉々になり爆発。

レイヴォルグ「祐一、次に会ったらお前を倒す、覚悟してろ！」

レイヴォルグはワープ装置を使ってキャロルとスレイブ連れて去る。

数時間後、リベリオン本部食堂

和斗「さっきのピットイン、手先が器用で助かったぞ、凌、亜希！」

凌「ああ、機械の組み立てやバイク整備は久しぶりだよ！」

亜希「そうね、凌君、中学時代、機械いじってたね、マシンが壊れたときは驚いたわ、

あつという間に分解して直すなんて！」

未来「そうなの?、和斗君がここにいる頃は凌君は機械いじりが得意なの?!」

響と未来は和斗と亜希と凌と一緒に中学時代やらの話をし。

響「あれ?そういうえばクリスちゃんは何処?!」

和斗「ああ、クリス先輩なら祐一と一緒に外に行ってるぞ!」

祐一「♪♪!」

祐一はクリスに向けてハーモニカを吹き、クリスはその声を聞き。

クリス「懐かしいな、お前のハーモニカの音は、腕を磨いたな!」

祐一「ああ、ありがとうクリス、聞いてくれて、クリスの為に吹くのは小さい頃以来だ!」

クリス「なあ、祐一?!」

祐一「ん?どうした?クリス?ん?!」

クリスは何も言わずに祐一の唇とキスをする。

クリス「さつきはありがとな、あたしと切歌と調の為に助けてくれて、これはお礼だ!」

祐一「... ああ!」

クリスは祐一の横に座り、手を握った。

ネオジヤークマター要塞研究室

グリズラー「へー、あの0号ネファイリウムウエルを粉々にしたんだね?!」

レイヴォルグ「ああ、あいつはキャロル達の役にたたないからな、チツプごと俺が破壊した!」

グリズラー「スレイブ、パワーアップしたいか?!」

スレイブ「ああ、頼む、シンフォギアとキュウレンジャーも強くなってるからな!」

グリズラー「いいよ、レオルスまとめて僕がパワーアップしてあげるよ、フッフフ!」

NEWSSTORY

スペース36、千葉のサッカー試合、セレナのシュート!

えっ? 何で私達がサッカーでPK戦をしてるかって? それは数時間前に振り返りま  
す。

S. O. N. G 潜水艦基地

この時、和斗達は食堂で昼飯を食べていた、料理は調と未来が作った焼きそばだった。  
マリア「美味しい、これが日本の定番の焼きそばね!」

翼「ああ、焼きそばは祭りの定番やらで食べる麺料理だ、麺にソースを絡めて野菜と  
豚肉を入れて炒めるんだ!」

奏「ああ、あたしと翼も翼の親父さんと一緒に食いに行った事あったからな!」

和斗「よっしやラッキー、未来と調の作る焼きそばはウマイぜ!」

調「ありがとうございます、和斗先輩、誉めていただいて!」

セレナ「お待ちせしました、追加で私の作つたいか焼きと!」

蓮司「ワイの作つたたこ焼き蓮司スペシャルやで!」

セレナと蓮司が次に持ってきた料理はセレナ特製のイカ焼きと蓮司の作つたたこ焼



きスペシャル。

切歌「ん？このイカ焼き美味しいデース、どうやって作ったデスカ？セレナ?!」

セレナ「実はこのイカ焼きは壮汰君に教えて作った屋台の味です！」

蓮司「んでもってワイの作ったたこ焼きはワイが自分で作った家の味や、客の皆はこれを食って喜んでたで！」

響「ん？美味しいたこ焼きだよ！」

功太「だろ？俺も蓮司の家にお邪魔に来たときはめっちゃ旨かったぞ！」

シヨウ・ロンポー「それぞれ料理が旨くて楽しいよ、さて残りのキュータマは後一つ！」

和斗「ああ、千葉にあるアガートラームキュータマだな?!」

和斗達は手に入れた聖遺物キュータマを机に並び。

玄十郎「現在手に入れた聖遺物キュータマは5コ、ガングニール、イチイバル、アメノハバキリ、シウルシャガナ、そして埼玉本部が回収したイガリマ！」

緒川「そして今、千葉に行ってアガートラームキュータマを手に入れます！」

ピッ

? 「フッフ、シンフォギア装束とキュウレンジャー、聖遺物キュータマを手に入れて良かったな、ほめてやろう!」

通信が入ってきたカメレオンのネオジャークマター。

クリス「誰だよてめえは?!」

? 「私はカメレオン座系カロリーのレオンル、つまり千葉を制圧した番人!」

レオンルは通信で自己紹介し。

マリア「それで私達に何のようかしら?!」

レオンル「貴様らに果たし状を伝える、貴様らが最後に手に入れようとするアガートラムキュータマは私達ネオジャークマターが貰いうける、手に入れたきや私達のチームと千葉サッカー場でサッカー対決をうけて貰おうか?!」

レオンルは和斗達に果たし状を伝え。

セレナ「えっ? それじゃ? サッカーに勝たないとアガートラムキュータマを手に入らなくなるってことですね?!」

レオンル「その通り、どうする? うけてたつか?!」

シヨウ・ロンポー「……いいだろう、うけて貰うよその挑戦!」

シヨウ総司令はレオナルの挑戦をうけると伝え。

レオナル「フッフ、そう来なくては面白いからね、では千葉サッカー場で待つてゝ、勿論観客も観戦するぞ、では！」

ピッ

レオナルは通信を切った。

和斗「よつしやラツキー、サッカーで勝てばアガートラムキュータマが手に入れるな？燃えてきたぜ、サッカーなら俺得意だぜ！」

玄十郎「皆はやったことあるか?！」

エリ「私とアミは体育でやったことはありません！」

壮汰「サッカーなら俺と功太も蓮司も剛も得意です！」

翼「私と奏はルールは覚えてます！」

マリア「私もやった覚えはあるわ！」

シヨウ・ロンポー「よし、皆にユニフォームを着させよう、これで！」

シヨウ総司令はサッカーボールの絵が書かれたキュータマを出し、リュウツエーダに装填すると。

サッカーキュータマ！

セイザアタック！

サッカーキュータマの力で和斗、翼、奏、マリア達はサッカーのユニフォームに変わり。

響「わあ、私と未来達はチアガールだよ!」

未来「可愛いね響!」

何故か響と未来と切歌と調とクリスはチアガールに変わり。

クリス「てっ? なんじゃこりゃ?!」

シヨウ・ロンポー「何って? チアガールだよ、響ちゃん達には和斗君達の応援を頼むよ、それにエルフナインちゃんにはこれを着て応援してもらおうよ!」

エルフナイン「はい!」

シヨウ総司令は紙袋をエルフナインに渡し、それを受け取る、中を見ると男子が着る学生服が入っていた。

エルフナイン「これは?!」

シヨウ・ロンポー「応援には団長が必要だからねエルフナインちゃんは応援団長としてお願いするよ!」

エルフナイン「ありがとうございます、僕、頑張ります!」

スバル「よし、次はポジションですが? どうやって決めますか?!」

シヨウ・ロンポー「それは、キューレットで決めよう、監督のボクチンとコーチの玄

十郎君が回して決めるよ、翼ちゃんと奏ちゃんはボクチンが決めるよ、では、キューレツト・ザ・チャンス！」

ポンポン

シヨウ総司令と玄十郎がキューレツトし。

スバル「ん？どうしたんだセレナ?！」

セレナ「ちよつと、心配です！」

セレナはたこ焼きをつまみながら心配そうな顔で心配していた、そして。

剛「一番キーパー、南野剛ごわす！」

蓮司「2番DF、新井蓮司や！」

アミ「3番DF、緑川アミ！」

エリ「4番DF、織野エリ！」

小太郎「5番MF、佐久間小太郎！」

壮汰「6番MF、青野壮汰！」

功太「7番MF、遠堂功太！」

祐一「8番MF、桐山祐一！」

翼「9番FW、風鳴翼、参る！」

和斗「10番、FW、獅子野和斗、よっしゃラッキー!」

奏「11番FW、天羽奏!」

和斗「究極の救世主と装束、サッカー戦隊!」

全員「キュウレンジャー!」

全員はポーズを決めポジション配置、ベンチにはシヨウ監督、ステインガーコーチ、十郎コーチ、ラフタマネージャ、緒川さん、セレナとマリアとスバルが座り。

響「フレイフレ、和斗君!」

未来「頑張れ、頑張れ、和斗君!」

響達は観客席で和斗達をチアダンスで応援。

クリス「てっ?、何であたしもやるんだ?!」

切歌「仕方がないデス、アタシ達はシヨウ総司令達に頼まれて応援デース!」

調「応援しないと和斗先輩達が負けますよ!」

クリス「うぬぬぬ、フレフレフレ祐一!」

クリスは顔を赤くなりながらやけくそでチアダンス。

ピッ、ピッ、ピッ

エルフナインは笛を吹きながら応援団長のような腕を振り応援。

MC「さあいよいよ始まる千葉サッカー場のサッカー試合、勝つのはキュウレンジャーか？それともネオジャークマター？俺はキュウレンジャーに勝ってほしい、頑張ってくれ！」

「ワアアアア！」

観客も大勢に盛り上がる。

レオンル「フッフ、貴様らをボロボロにしてやるぞ！」

ピー

笛がなつたと同時に試合開始となり和斗と翼はキックオフし走る。

翼「よし、獅子野、奏にパスしてくれ！」

ポン

和斗は奏に向けてパス。

ネオインダバー「ダベ！」

ネオインダバーが和斗の蹴ったボールを奪い、ドリブル。

レオンル「よし、私にパスだ、決めてやる！」

ネオインダバーはレオンルにパスし、ゴールに向かってシュートすると。

エリ「そうはさせない！」

セイザチェンジ！

エリ「スターチェンジ!」

エリは変身してゴールに向かって来るボールまで飛んで止める。  
ワシピンク「よし、止めました!」

奏「よし、エリ、あたしの所にパスしてくれ!」

エリは指示通りに奏の所へ蹴り。

奏「よし、くらえオーバーシュート!」

ネオインダバーGK「ダメ!」

ピー

1-0、キウレンジャーが先制点。

切歌「やったデース、奏さんが決めたデスよ調!」

調「やったね切ちゃん!」

クリス「やるじゃん奏先輩!」

切歌達は奏がシュートを決めて喜び。

和斗「行くぜ、くらえレグルスシュート!」

ピー

和斗も決め。



功太「くらえスケボーシュート！」

功太はスケボーしながら決め。

翼「はあー！」

翼も決めた。

レオンル「くらえ、ペロシュート！」

剛「ごわす、キャッチ出来なかつたごわす！」

和斗「ドンマイ、あせるなよ！」

4ー1、キュウレンジャーが点数が有利。

響「やった、和斗君達が勝ってるよ未来！」

未来「うん、この調子で楽だね！」

レオンル「又又又、ならば選手交替だ！」

ミカとガリイが乱入し、ミカはGK、ガリイがFWに配置。

MC「あつと、ネオジャークマターチーム選手交替したぞ、ガリイがFW、ミカがG  
K?!」

翼「なっ？オートスコアラー?!」

奏「ネオジャークマターチームに加入しやがって！」

ガリイ「フッフ、私達が来たら逆転よ!」

ミカ「キャキャキャ、オマエラ、覚悟するんだゾ!」

पीー

ポン

ガリイ「行くわよ、それ!」

シュン

ガリイは蹴ったと同時にロングシュートすると祐一の胴体に命中しぶつかる。

ガリイ「あら〜ごめんなさい、わざとかしら?!」

祐一「俺にぶつけるとは、望むところだ!」

セイザチェンジ!

祐一「スターチェンジ!」

祐一は変身してガリイと乱闘し始め。

和斗「スターチェンジ!」

和斗も変身して乱闘し、翼達はやめさせようと必死に止めに来た。

ミカ「捕まえろ!」

ミカは和斗を捕まり両腕を押さえ。

レオンル「良くやったぞミカ…… シシレッド、貴様はいいシユートを蹴ったな、フン！」

シシレッド「ぎゃああー！」

レオンルは和斗を右足を踏み。

セレナ「和斗さん？ スターチェンジです！」

セレナも変身して和斗を助ける。

カジキイエロー「和斗さん？ 大丈夫ですか?!」

シシレッド「ああ、すまないセレナ！」

ネオジャークマター審判「そこまで、ストップだ、審判の判断結果、桐山祐一選手はガリイに暴力行為でレッドカード退場、前半終了します！」

全員「えー?!」

審判が判断、祐一が退場。

MC「あつと、シンフォギアキュウレンジャーチーム、祐一選手、暴力行為でレッドカード退場！」

サソリオレンジ「いや、ガリイが手を出したんだぞ!」

ミカ「キヤキヤキヤ、ざま〜みるダゾ!」

サソリオレンジ「黙れ〜審判!」

翼達は祐一をベンチまで取り押さえ連れていく。

シシレッド「お前らがそう来るなら、こっちは正々堂々とサッカーするぞ!」

4-1、シンフォギアキユウレンジャーが圧倒的に有利になり、前半が終了。

和斗「よし、前半は俺と翼さんと奏さんと功太のお陰で点差は俺達が勝ってる、この調子で、痛っ!」

和斗は立ち上がると右足が痛み。

玄十郎「和斗君? 足を見せてみる? ん? 右足の方が赤くなってるぞ?!」

翼「もしかして? さっきのレオンルに足を踏まれたんだ!」

セレナ「ごめんなさい、私が和斗さんを助けなかったら…!」

マリア「セレナのせいじゃないわ!」

緒川「シヨウ監督、玄十郎コーチ、和斗さんを休ませましょう!」

シヨウ、ロンポー「ウム、そうだね、和斗君のポジションはスバル君、退場になった祐一君に変わってセレナちゃんにしよう!」

玄十郎「ウム、その方がいいな、頼めるか?!」

スバル「任せてください、俺が皆を支えます!」

セレナ「……!」

セレナは不安そうな顔をする。

後半

MC「さあ、後半が始まります、おつと……獅子野和斗が足を怪我して代わりに市原スバルが入り、退場になった桐山祐一に変わってセレナ・カデンツァヴナ・イヴです!」

ネオジャークマターチームのガリイとレオンルがキックオフしセレナのいるポジションまで前進。

アミ「セレナちゃん、頑張つて!」

セレナ「は……はい、きやつ!」

セレナはボールを奪おうとすると下手だった。

シヨウ・ロンポー「あれ?セレナちゃん?ボールを奪うの下手だよ?どうしたんだね?!」

マリア「シヨウ監督、実はセレナは料理とスポーツは得意だけどサッカーだけは苦手

なのよ!」

シヨウ・ロンポー「えー? そうなの? 大変だ!」  
すると。

壮汰「おりや、セレナのフォロワーは俺に任せろ!」

壮汰はスライディングしてボールを奪い直ぐ様スバルにロングパス。

スバル「ナイスだ壮汰、くらえフェニックスオーバーヘッドシュート!」

ミカ「キヤキヤキヤ、そんなの止めてやる... アチャチャチャ、熱いゾ!」

スバルは必殺シュートを決めた。

5-1

切歌「やったデース、スバルさんがカツコいいシュート決めたデース!」

未来「怪我してる和斗君の分まで頑張ってるね、すごい!」

スバル「翼、奏、決めろ!」

奏「よし、二人で決めるぞ翼!」

翼「ええ、行くわよ奏!」

スバルは翼と奏がゴールに向かってる所へロングパスし、2人はゴールを決める。

6-1

MC 「ワオ、翼と奏のダブルシュートは決まったぞ！」

「ワアアアア！」

響 「やったー、翼さんと奏のダブルシュートはすごいねクリスちゃん！」

クリス 「ああ、先輩達の連携サッカー、スバルの兄ちゃんが繋げてくれたからな！」

功太 「セレナ、パスするぞ！」

セレナ 「えい、あれ?!」

セレナはまたパスを失敗。

壮汰 「小太郎の兄貴、決めてくれ！」

壮汰がセレナのフォローをまたしていた。

セレナ 「壮汰君、またすみません！」

壮汰 「気にするなよ、セレナが失敗するとき俺がフォローしてやるから！」

セレナ 「ありがとうございます！」

小太郎 「行くぞ、ボラリスシュート！」

小太郎がゴールを決めた。

7-1

MC 「ワオ、キュウレンジャー、7点、圧勝だああ！」

和斗「よっしやラッキー、やるな皆!」

マリア「その調子よ、皆!」

ガリイ「このあんぽんたんカメレオン、負けそうじゃないの?!」

レオンル「まあ待て、私にいい考えがあるぞ、ククク!」

レオンルは何か企んだ顔をしていた。

壮汰「アミ、エリ、止めてくれ、来たぞ!」

アミ「うん、行くよエリ!」

エリ「うん、止めて和斗さん達に繋げよう!」

すると。

レオンル「そうはさせんぞ、くらえベロムチ!」

アミ「えっ? きゃ!」

エリ「うわっ?!」

レオンルはベロをムチのようにしアミとエリに向けて叩いた。

スバル「なんて事を?!」

翼「卑劣な?!」



レオンル「ルールは私達が決める、なぜならこの観客とMCは私が操ってるぞ、ハハハ！」

そしてネオジャークマターチームは次々と卑劣な行動をしていた。

功太「よし、翼さんにパスだ！」

? 「させんぞ！」

功太「えっ? うわっ?!」

レオンルは透明になって功太を後ろから蹴りボールを奪う。

奏「功太? 大丈夫か?!」

蓮司「おいて待て、今透明になってズルしてたで、見てたやろ?!」

ネオジャークマター審判「ノー、ノー！」

ガリイ「お黙り、氷を食らいなさい！」

ゴール

レオンル「フッフ、1点は貰ったぞ！」

7-2

シヨウ、ロンポー「まだ点差は5点ある、気を抜くんじやないよ！」

ピー

スバル「翼、奏、上がってくれ、俺がロングパスで……！」

すると

レオンル「私と蹴りの力比べで勝負だ!」

レオンルはスバルと足の力比べ対決。

スバル「負けるか!」

レオンル「ふっ、力を出してやるな、だが!」

スバル「うわああ!」

スバルは蹴りの力比べに負けそのままレオンルがロングシュートで決めた。

全員「スバル?!」(さん?!)

ゴール

7-3

レオンル「ふっ、甘いな私の力比べ、伊達じゃないぞ!」

スバル「貴様!」

ピーー

剛「あんなシュートなどおいどんが次こそ止めてみるでござす!」

レオンル「同じシュートなどやらんぞ、くらえロケットシュート!」

剛「ござす!」

レオンルの必殺シュートで剛ごとゴールに入り、ゴール。

7-4

ピー

剛「次こそ！」

ガリイ「今度は私よ、イナバウアーシュート！」

剛「ごわすく今度はガリイ?!」

ガリイがイナバウアーシュートで決め剛ごとゴール。

7-5

シヨウ・ロンポー「よし、交代だよ剛君に変わってマリアちゃんがGK！」

マリア「はい！」

マリアが剛に代わってキーパーに、すると。

ガリイ「くらえ、必殺アイスシュートトリプル！」

ガリイが必殺シュートし、ボールが3つになりマリアはそれを取れなかった。

7-8

翼「なんだと?!」

和斗「何でガリイのシュートしたボールを3つ点数に入る？卑怯だぞ！」

奏「てめえ、駄目だろ?!」

和斗達3人はレオンルに文句言い。

レオンル「黙れ、ルールは私が決める、これが地獄のサッカーだぞハハハ！」

818

ここまでは何とか翼さんと奏さんのシュートで同点に追いつき、PK戦になり、ネオジャークマターが私を指名してPKすることになってますが……。

セレナ「それ、きやつ?!」

セレナはまた転けてシュートを失敗。

奏「やべーぞ、セレナがゴールを決めなかつたらあたし達のスタミナがもたなくなるぞ！」

セレナ「あなた? どうしてPK戦に私を指名したのですか?!」

レオンル「フッフ、貴様はサッカーするのは苦手そうだから私が指名したぞ、さあシュートをして貰おうか?!」

シヨウ・ロンポー「タイム、セレナちゃんを焦らせたら困るからね、ここは明日にしよう!」

シヨウ総司令は明日までを言い。

レオンル「ふっ、良いだろう、そう来なくては面白くないぞ、それまでヘタレ女の

シュートをどんなものか楽しみにするぞ、ハハハ！」  
レオンル達はそう言ってサッカー場を出た。

S・O・N・G潜水艦基地

和斗達はブリーフィングルームで作戦会議中。

玄十郎「うーん、PK戦の戦術、どうすれば良いのか?！」

シヨウ・ロンポー「そうだね、よしボクチンが出よう！」

翼「総司令は駄目です、出ては！」

和斗「何とかなる、このPK戦俺達の一回のシュートを決めれば逆転、勝てるさ！」

クリス「でもよ、PK戦はセレナがやるぞ！」

奏「そうだな、どうすりゃいいんだ?！」

翼達はPK戦のセレナに心配。

セレナ「私は、確かにサッカーは苦手ですけど、私は、弱くなんかありません！」

ウイーン

セレナはブリーフィングルームを出て外に。

マリア「セレナ?！」

壮汰「心配だから見えます！」

和斗「俺も行ってくる!」

ウーン

和斗と壮汰もセレナを追う。

千葉市街地

セレナは体育座りで落ち込んだ。

セレナ(私は、お料理とスポーツは得意ですけど、サッカーは苦手、私はどうしたらいいのかな?)

壮汰「セレナ!」

セレナ「えっ? 和斗さん? 壮汰君?!」

和斗「お前の事が心配だから壮汰と一緒に後を追った!」

壮汰「セレナ、サッカーが苦手なのは俺もわかるぞお前の気持ち、俺も幼稚園の頃はサッカーが苦手だったんだ!」

壮汰はセレナに自分が幼稚園の頃はサッカーが苦手だと話し。

セレナ「えっ? 壮汰君サッカーは昔苦手だったのですか?!」

そして次の日

サッカー場でキーパーの準備してるミカ、だけどセレナがまだ来ない。

響「セレナちゃん？どうしたのかな?!」

未来「もしかして？昨日の事で落ち込んでるかもしれない?!」

レオンル「おい、昨日のヘタレ女はどこだ？来てないぞ!」

翼「監督、コーチ、私が行きましょう!」

シヨウ・ロンポー「ウム、そうだな翼ちゃんで…!」

アミ「来た、セレナちゃんが来たよ!」

セレナが和斗と壮汰と一緒にサッカー場に着いた、何故かセレナ達のユニフォームはボロボロ。

レオンル「来たかヘタレ女、待ってたぞ!」

セレナ「私はヘタレ女じゃありません、私は昨日の私じゃないです!」

レオンル「よし、G K交代、ミカ、私と代われ!」

そう言つてレオンルはミカと代わつてG K。

奏「おいセレナ、よせ、翼に任せろ!」

マリア「大丈夫よ、昨日は私とエルフナインが練習を見に行ったのよ!」

昨日グラウンド

エルフナインとマリアはグラウンドで和斗達の声が聞こえて見に行き。

壮汰（よし、セレナその調子だ、シュートはその蹴りで良いぞ!）

セレナ（壮汰君、和斗さん、もう一度お願いします!）

和斗（よし、わかった、最後までつき合おうぜ!）

マリア（セレナ、頑張つて!）

エルフナイン（青春です!）

セレナ「私は和斗さんと壮汰君のおかげでうまく練習出来ました、私は負けません!」

セイザチエンジ!

セレナ「スターチエンジです!」

レオンル「さあ来い、ヘタレ女!」

カジキイエロー「行きます…… たー!」

セレナは勢い良くシュート。

レオンル「フフフ、こんなシュート私のペロで…… なっ? ボールが曲がって入っただと?!」

レオンルがペロでキャッチしようとするするとセレナの蹴ったボールがカジキのオーラが出て曲がってゴールに入った。



MC「決まったああ、シンフォギアキュウレンジャーチーム、セレナちゃんのゴールを決めて、勝利！」

「ワアアアア！」

切歌「やったデース、セレナが決まったデス調！」

調「やったね切ちゃん！」

レオンル「バカな？ 貴様はサッカーが苦手なのに何故出来たんだ?!」

カジキイエロー「確かに私はサッカーが苦手でした、昨日は壮汰君と練習して私は強くなりました、私達はあなた達に負けません！」

すると

バリン

ショーケースにあるアガートラームキュータマが光って飛び出してセレナの手元に。

奏「アガートラームキュータマがセレナの手元に?!」

ショウ、ロンポー「きつとアガートラームキュータマがセレナちゃんに共鳴してたんだよ！」

カジキイエロー「アガートラームキュータマ？ では行きます！」

アガートラームキュータマ!

セイザチェンジ!

カジキイエロー「スターチェンジです!」

セレナはアガートラームキュータマを使うと体の部分に白いアーマーを纏った、そのあ  
あの形はセレナがかつて纏ったシンフォギア、アガートラームだった。

和斗「よし、行くぜ、キュウレンジャーシンフォギアシュート、全員連結決めるぞ!」  
全員「おう!」(ええ!)

和斗は色々な色のサッカーボールを出してキックオフし出し、パスする。

和斗「蓮司!」

蓮司「よし来たで、アミ!」

アミ「はい、エリ!」

エリ「任せて、剛!」

剛「任せるでござす、祐一殿!」

祐一「よし、ん?!」

ネオインダバー達は祐一の前に立ち邪魔をし出し。

功太「祐一さん!」

祐一「よし頼む、功太!」

祐一は功太のところにパスして功太はドリブル。

功太「よしスバルさん頼む！」

スバル「よし、小太郎！」

ネオインダバー「ダベ！」

ネオインダバーがボールを奪い。

奏「させるかー！」

奏がスライディングして取り返し。

奏「翼、マリア、あたしと小太郎から繋ぐボールだ、セレナと壮汰に頼む！」

翼「参るぞマリア！」

マリア「ええ、セレナ、壮汰！」

二人はダブルシュートし、壮汰とセレナに繋ぎ。

セイザチェンジ！

壮汰「スターチェンジ！」

壮汰は変身しセレナとジャンプしてダブルパス。

オオカミブルー「和斗兄貴決めてくれ！」

カジキイエロー「私達全員のシュートです！」

スーパーセイザチェンジ！

和斗「スターチェンジ!」

和斗はシシレッドオリオンに変身しシュート。

シシレッドオリオン「くられ、キュウレンジャーシュート!」

レオンル「そんなもの私のベロで…… なっ? ビッグバンすぎるぞ? なんて威力だ!」  
ドーン

全員「グッドラック!」

ガリイ「レオンル、しくじったわね!」

ミカ「もう帰るゾ!」

ガリイとミカはテレポートして去り。

レオンル「控えオロ、さあサッカーバトルをするぞ!」

シシレッドオリオン「サッカーバトル、俺達全員で相手になる!」

セイザゴー!

カモン・ザ・ゴー!

スーパー・カモン・ザ・ドッキング!

キュウタマジン!

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、行くぞ!」

全員で動かしてレオンルと対決。

レオンル「くらえ、カメレオンシユート！」

レオンルはカメレオンシユートでキュウタマジンに攻撃。

シシレッドオリオン「やるな、ならばこっちはこれだ！」

サッカーキュータマ！

セイザアタック！

和斗はサッカーキュータマを使って巨大サッカーボールを出してシユート攻撃。

レオンル「ぬほ〜！」

カジキイエロー「一気に決めましょう！」

ギヤラクシー！

全員「キュウタマジン、メテオブースター！」

スーパーギヤラクシー！

レオンル「バカな？この私が？この私がー！」

ドーン

全員「地球は俺達（私達が）取り戻す！」

数時間後、蓮司の家のたこ焼き屋

全員は勝利を祝して蓮司の家のたこ焼き屋でたこ焼き祝勝会。

セレナ「皆さん、ありがとうございます、私がお陰で勝つて良かったです、私からの感謝でたこ焼きセレナスペシャルを作りました!」

セレナが皆に出来たたこ焼きを見せる、そうカルパッチョ風なたこ焼き。

和斗「うめー、セレナいけるなこの味!」

和斗達は試食すると旨いと言います。

壮汰「良かったなセレナ、俺も一緒に作ったからな!」

響「よーし、これで聖遺物キュータマが全部揃ったね和斗君!」

和斗「ああ、後は木屋でいよいよネオジャークマターの要塞でジェミニス達との決戦だ!」

シヨウ・ロンポー「よーし、その前に何か忘れたことはあるかね? そう胴上げだよ、サッカーに勝てたのは監督のボクチンとコーチの玄十郎君達のお陰だよ!」

奏「そうだな、よし胴上げしようぜ皆!」

和斗「よーし、2人に胴上げだー!」

和斗達はそう言つてセレナと壮汰に胴上げした。

全員「ワツシヨイ、ワツシヨイ!」

マリア「壮汰、セレナを支えてありがとう、感謝するわ!」

切歌「セレナ、頑張ったデース!」

調「うん、2人に感謝！」

全員「ワツシヨイ、ワツシヨイ！」

シヨウ・ロンポー「ボクチン達じゃないのかく寂しいよ〜！」

玄十郎「まあ今回は2人に感謝だぞ！」

緒川「そうですね！」

ポン

玄十郎司令と緒川さんはシヨウ総司令の肩をポンと叩く。

NEWSSTORY

# スペース37、行くぜ木星へ、ネオジャークマターとの決戦、前編!

木星ネオジャークマター要塞

首領室

首領室にはレイヴォオルグとジェミニスとグリズラーが座り。

ジェミニス「ほう、キュウレンジャーとシンフォギア装束がここに?!

グリズラー「ああ、情報によると聖遺物キュータマが揃って攻撃を仕掛けてくるよだけど安心して、データを解析して僕がレオルスとスレイブをパワーアップしといたから!」

ウイーン

グリズラーは首領室を出る。

ジェミニス「それはそうと要塞の方はどうか?!」

レイヴォオルグ「ああ、今のところは第一要塞から第四までの要塞の以上はないがバリアシステム搭載の第一要塞は順調に起動してる!」

グリズラー「ククク、僕の計画はもう少しの辛抱、プロジェクトゾディアックの為、ネ



オジャークマターは……フッフ！」

グリズラーは研究室まで歩いて企むそんな顔をする。

一方、宇宙

バトルオリオンシップ艦内

響「わあ、凄い、ここが宇宙なんだね？和斗君！」

和斗「ああ、惑星ダカオに行くまでは俺達は宇宙の景色を眺めたからな！」

和斗達は木星のネオジャークマター要塞までの間、宇宙を眺めていた。

響「未来も連れて見せたかったな〜！」

クリス「仕方ねえだろ、未来を危ない所に連れていくわけにはいかねえからな、地球

の方は切歌と調達が守るからな！」

翼「そうだな、今回の任務はネオジャークマターの要塞に攻撃を仕掛けるぞ！」

スバル「ああ、いよいよネオジャークマターとの最後の戦いだからな！」

ピピピピピピ

ラフタ「まもなく木星のネオジャークマター要塞に着きます、キュウレンジャーとシ

ンフォギア装束はブリーフィングルームに集合してください！」

ラフタのアナウンスが聞こえ。

和斗「よし、行こうか！」

響「うん！」

クリス「おい祐一、行くぞ！」

祐一「…… ああ、今行く！」

和斗達はアナウンスに従ってブリーフィングルームに向かった。

ブリーフィングルーム

シヨウ・ロンポー「全員、揃ったようだね、それじゃ任務の説明をしよう、ラフタ！」

ラフタ「それでは映像をお見せします！」

ピッ

ラフタは和斗達に木星のネオジャークマター要塞の映像を見せる。

マリア「これが？ネオジャークマターの要塞なのね？でも木星全体が要塞みたいね！」

シヨウ・ロンポー「リベリオン星のパトロール隊から送った情報によると木星全体がネオジャークマター要塞になってるんだよ！」

ラフタ「はい、それでは先ず最初の任務の説明をします、先ずは第一要塞を破壊するのが先です、第一要塞にはバリアシステムという機能が搭載しています！」

ラフタが皆に最初の任務の説明を教え。

セレナ「あのお聞きしたいですが？ネオジャークマター要塞はどれくらいあるので

すか?!」

シヨウ・ロンポー「そうだね…大体4つぐらいはあるよ!」

シヨウ総司令はセレナ達にネオジャークマター要塞は何個かを教え。

壮汰「それぐらいあるのですか? 要塞は?!」

小太郎「それでもやるしかないよ!」

奏「ああ、絶対に成功させようぜ!」

シヨウ・ロンポー「よし、まずは第一要塞のバリアシステムを壊して中の要塞を叩き壊そう、ボクチンと小太郎と祐一君がリュウテイオーで行って死守してるモライマーズロボと0号の迎撃するよ!」

スバル「ならば俺はギガントホウオウで援護します!」

和斗「よし俺もオリオンバトラーに乗って援護する、誰かシンフォギア装☒でシーザーを使ってくれる人は…?!」

クリス「じゃあ、あたしが使うぜ、射撃はあたしの先発必中だからな!」

クリスは自分で名乗りあげ。

シーザー「ガウ、ガウ!」

クリス「よろしくな、シーザー!」

マリア「それじゃ、私とセレナはここで待機して何か簡単な料理を作るわ!」

蓮司「ほんじゃ、ワイは残って和斗リーダー達のストライカーの整備や皆の武器の整備しとくで！」

功太「俺も手伝うぜ蓮司！」

シヨウ・ロンポー「よし、絶対にこの作戦を必ず成功しよう！」

翼「はい、地球と宇宙の人類と命運を掛けた最後の戦い！」

和斗「ああ、必ず勝つぞ！」

和斗達は右腕を前に出して号令を言う準備をし。

和斗「よし、絶対に勝つぞ、皆！」

全員「オツキユウ！」（はい！）（御意！）

ネオジャークマター第一要塞周辺

セイザドツキング！

リュウテイオー！

リュウコマンダー「龍に翼を得たる如し！」

カモン・ザ・ドツキング！

ギガントホウオウ！

ホウオウソルジャー「刮目せよ、伝説が始まる！」

セイザドツキング!

キュウレンオー!

クリス「よつしやラツキー、今日はあたし達がスーパーキュウレンオーだぜ!」

オリオンバトラー!

シシレッドオリオン「よつしやラツキー、先ずは要塞に張り付いてるバリアシステム

を壊すぞ!」

全機は攻撃の構えをし。

0号「ウーン!」

ドドドドド

3体の0号と2体のモライマーズロボが攻撃を始め。

ホウオウソルジャー「厄介だな、あの5体は!」

リュウコマンダー「よし、スバル君、ボクチン達はモライマーズロボの2体の相手をしてしよう!」

シシレッドオリオン「よし、だったら俺達は3体の0号の相手をするぞ!」

クリス「ああ、それぐらいあたし達はやってやるぞ!」

スバルとシヨウ総司令達はモライマーズロボの2体を相手に、和斗とクリス達は0号の3体を相手にした。

クリス「おりや、食らいやがれ！」

クリスは無茶な操縦し暴れる。

ワシピンク「ちよつとクリス先輩？無茶な操縦はやめてください！」

オオカミブルー「俺達がいまずよ！」

クリス「和斗がシーザーを託されたからな、あたしの先手必勝でやってやる！」

シシレッドオリオン「クリス先輩、やるな、じゃあ俺も行くぜ！」

和斗もレバーを動かして0号の2体に向けて攻撃。

リュウコマンダー「さてボクチン達は決めるよ！」

コグマスカイブルー「決めるよ祐一さん！」

サソリオレンジ「ああ！」

ギヤラクシー！

3人「リュウテイオー、メテオブレイク！」

スーパージヤラクシー！

シヨウ総司令達は必殺技でモライマーズロボに攻撃し撃破し。

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「ギガントホウオウ、ホウオウブレイジング！」

スーパージヤラクシー！

スバルも続いて必殺技でモライマーズロボを撃破。  
ギヤラクシー！

シシレッドオリオン「オリオンダイナミックストライク！」  
スーパーギヤラクシー！

和斗もオリオンバトラーの必殺技で2体の0号に攻撃し撃破。  
ギヤラクシー！

全員「スーパーキュウレンオー、ファイナルブレイク！」  
スーパーギヤラクシー！

最後にクリス達の乗るスーパーキュウレンオーが砲撃の必殺技で最後の0号を撃破。  
ラフタ「第一要塞のバリアシステムは中心にあります、そこを狙ってください！」

クリス「よし、射撃のあたし達に任せておけ、食らいやがれ！」

クリス達の乗ってるスーパーキュウレンオーは第一要塞の中心にあるバリアシステムに向けて連続射撃攻撃すると、バリアシステムが壊れて解除。

リュウコマンダー「よし、バリアシステムが壊れた、一先ずは撤退しよう！」  
シシレッドオリオン「オッキキュウ！」

全員は分離や変形して宇宙に撤退。

第一要塞の動力部

？「バリアシステムを破壊したか？まあいい、グリズラーにパワーアップした俺の力を試すときだ！」

数分後、皆はブリーフィングルームで食事を取っていた、机にはマリアとセレナが作ったサンドイッチが多数ある。

セレナ「簡単な物でごめんなさい！」

和斗「ああ、次に備えての戦いだからな、腹ごしらえをしないと！」

響「うん！」

スバル「よし、先ずはそうだな、俺と和斗と響と小太郎、祐一と功太と蓮司が第一要塞の内部に侵入して動力部を破壊する！」

翼「よし、私と雪音と奏と青野、南野、セレナは獅子野とスバル達の援護をする！」  
シヨウ・ロンポー「よし、私とアミちゃんとエリちゃんはラフタとマリアちゃんとバトルオリオンシップに残ろう、万が一に備えて待機するよ！」

和斗「よし、第一要塞を破壊して残りの要塞も破壊してジェミニスのいる要塞まで行こうぜ！」

ネオジャークマター第一要塞周辺



ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

ネオインダバー、ネオツヨインダバーが多数要塞から出現し。

翼「よし、行くぞ！」

全員「おうよ！」（はい！）（ごわす！）

セイザチエンジ！

3人「スターチエンジ！」

セレナ、壮汰、剛は変身し、翼とクリスと奏はギアを纏い、多数のネオインダバーとネオツヨインダバーの相手をし。

奏「和斗、響、あたし達が何とかこいつらを倒して後から来るぜ！」

カジキイエロー「私達の事は心配しないでください！」

翼「無論だ、獅子野、立花、行け！」

和斗「翼さん、わかった、第一要塞が破壊次第そっちに戻ってくる！」

和斗達は第一要塞の中に入った。

第一要塞の中

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

響「うわっ？中にもネオインダバーがいるよ！」

スバル「俺に任せろ！」

ギャラクシー!

スバル「フェニックスエンド!」

スバルはホウオウソードの必殺技を使って中にいるネオインダバーを一掃。  
スバル「よし、動力部まで一気に行くぞ!」

動力部

響「ここが?!」

和斗「ああ、敵の動力部に違いない!」

功太「ここを破壊すれば……!」  
すると

? 「動力部の破壊はさせんぞ!」

小太郎「誰だ? お前はスレイブ?!」

和斗達の前に現れたのはサイボーグの姿したスレイブ。

蓮司「何や? その姿?!」

スレイブ「フッフ、俺はグリズラーに改造しパワーアップした、今の俺はサイボーグ  
スレイブ!」

和斗「ならば倒してやる!」

セイザチェンジ!

カモン・ザ・チェンジ!

全員「スターチェンジ!」

和斗達は変身し、響もギアを纏い、スレイブと対決。

奏「おりゃ!」

カジキイエロー「それ!」

クリス「持ってけダブルだ、くらいやがれ!」

翼「はあー!」

オオカミブルー「おりゃ!」

オウシブラック「ごわっす!」

壮汰達は残りのネオインダバー、ネオツヨインダバーを撃破。

翼「よし、私達も中に入って獅子野の援護をするぞ!」

すると

ドーン

奏「ん? 翼? 危ねえ!」

キイン

奏は翼の所に駆けつけて飛んで来た銃弾をアームドギアの槍でガード。

オオカミブルー「どこから銃弾が出てる?!」

カジキイエロー「見当たりません!」

クリス「誰だ?出てきやがれ!」

?「言われなくても出てきてやるよ!」

要塞の扉からレイヴォオルグが現れ。

翼「ネオジャークマター?カローか?!」

レイヴォオルグ「その通り、俺はオオカミ座系カローのレイヴォオルグ、貴様らまとめて銃弾の餌食にしてやる!」

クリス「おもしろー、やってやる、くらいやがれ!」

クリスは直ぐ様クロスボウの攻撃をしようとすると。

レイヴォオルグ「: : : 甘いぞ!」

クリス「ぐあああ!」

レイヴォオルグは速打ちでクリスに攻撃した。

翼「雪音?!」

奏「何で早い撃ち方向だ?!」

レイヴォオルグ「お前らも俺の銃弾の餌食にしてやる!」

翼「くっ！」

シシレッド「ぐあああ！」

響「きやつ！」

へびツカイシルバー「うわっ！」

和斗達はスレイブに苦戦。

ギヤラクシー！

コグマスカイブルー「ボラリスインパクト！」

テンビンゴールド「くらえや、リブラインパクト！」

スレイブ「ふっ、そんな攻撃など、はあー！」

スレイブは小太郎と蓮司の放った必殺技を機械化した右足の蹴りで止めた。

コグマスカイブルー「なっ？俺達の放った必殺技を足で防いだ?!」

スレイブ「今度はこっちの番だ、くらえ！」

2人「うわー！」

スレイブは蹴り技で蓮司と小太郎に攻撃し2人は倒れ。

スレイブ「ハハハ、俺の蹴り技は更に威力を発揮できる、お前らは俺には勝てない！」

響「諦めない、私達は絶対に負けない！」

シシレッド「ああ、俺達全員が何度だって立ち上がればどんな困難も乗り越える！」  
和斗と響は立ち上がり。

へビツカイシルバー「そうさ、俺達は皆のいる地球をネオジャークマターの好きにはさせねえ！」

ホウオウソルジャー「その通りだよ、皆だって辛い気持ちを捨てて未来へ進むと！」

コグマスカイブルー「俺達は絶対に諦めない！」

テンビンゴールド「そうや、地球は皆の星や、お前らのもんやないで！」

功太達も和斗と響に続いて立ち上がる。

ワツツア、サイコーキュータマ!

スーパーセイザチェンジ!

ガングニールキュータマ!

アメノハバキリキュータマ!

イガリマキュータマ!

シウルシャガナキュータマ!

イチイバルキュータマ!

セイザチェンジ!

カモン・ザ・チェンジ!

和斗はサイコーキュータマでシシレッドオリオンに変わり、小太郎とスバルと祐一はガングニールキュータマ、アメノハバキリキュータマ、イチイバルキュータマを使ってパワーアップし、功太の使うイガリマキュータマは切歌が纏ったイガリマの肩パーツ、帽子のパーツをコピーし装備しイガリマの鎌を持つ、そして蓮司の使うシウルシャガナキュータマは調が纏ったシウルシャガナのヨーヨー、肩に調のツインテールのギアを装備、これが。

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバーイガリマ！」

テンビンゴールド「トリツクスター、テンビンゴールドシウルシャガナや！」

響「2人とも凄いね、じゃあ私も、イグナイトモジュール抜剣&！」

イグナイトキュータマ！

セイザアタック！

響もイグナイトモジュール抜剣と同時にイグナイトキュータマをセイザプラスターに装填。

スレイブ「ほお、ならばかかってこい！」

シシレッドオリオン「よし、行くぞ！」

全員「うおー！」

ミラクルスターシシレッドオリオンの曲に流れて和斗達はスレイブと対決。

シシレッドオリオン「おりや!」

響「どりやー!」

響と和斗の連携攻撃が効き。

ホウオウソルジャー「せい!」

コグマスカイブルー「おりや!」

続いて小太郎とスバルもパンチや剣攻撃。

スレイブ「ぐはっ、何故だ?サイボーグ化した俺の攻撃が効くとは何故だ?!!」

シシレッドオリオン「当たり前だ、俺達はどんな敵でも負けない力がある!」

サソリオレンジ「ああ、何度だって、諦めない限り、俺達は大切な人がいたから頑張

れるんだ!」

ドドドドド

祐一も言いながらガトリング攻撃。

ヘビツカイシルバー「くらえ!」

テンビンゴールド「そこや!」

功太と蓮司も祐一に続いて鎌とヨーヨー攻撃。

スレイブ「ぐわああ!」

スレイブは動力部まで飛ばされ倒れ。



シシレッドオリオン「よし、響、最後は俺達2人だけで決めるぞ！」

響「うん！」

ギヤラクシー！

シシレッドオリオン「インフィニツシユブラスト！」

和斗は必殺技をスレイブに向けて放ち。

響「最後は私だよ、おりゃー！」

響が最後にスレイブに一直線のパンチをして動力部に命中。

スレイブ「ギヤハハネオジャークマターに栄光あれー！」

ドーン

スレイブは動力部まとめて爆発した。

ピピピ

シシレッドオリオン「シヨウ総司令、終わったぞ！」

シヨウ・ロンポー「よし、次は第二要塞に向かおう！」

シシレッドオリオン「オツキキュウ、バトルオリオンシップに向かう！」

一方

クリス「うわああ！」

クリスはレイヴオルグの射撃攻撃にやられまくり。

翼「雪音?!」

奏「この野郎!」

レイヴオルグ「ふん、バカが!」

ドドドド

2人「うわああ!」

翼と奏もレイヴオルグのマシガン攻撃に撃たれ。

カジキイエロー「翼さん? 奏さん?!」

レイヴオルグ「次は貴様らだ!」

ジャキ

祐一「やめろレイ!」

和斗達も要塞を出てセレナ達と合流。

レイヴオルグ「ほお、スレイブを倒すとはやるじゃないか!」

祐一「もうよせ、レイヴオルグ、いやクリスの双子の兄、雪音レイ!」

奏「えっ?!」

響「まさか? このオオカミ座系カラーが? クリスちゃんの子のお兄さん?!」

和斗達は祐一がレイヴオルグの真実の名を聞いて驚き。

シヨウ・ロンポー「和斗君、皆、負傷したクリスちやんと翼ちやんと奏ちやん連れてバトルオリオンシップに戻ろう、次の要塞の迎撃に向かう！」

和斗「くっ、オツキュウ！」

和斗達はクリスと翼と奏を抱えてバトルオリオンシップに撤退。

レイヴオルグ「ふん、祐一、次こそ決着をつけるぞ、妹のクリスとまとめて！」

NEWS STORY

## スペース38、行くぜ木星へ、ネオジャークマターとの決戦、後編!

バトルオリオンシッププリーフィングルーム

和斗達は翼と奏の治療の手伝いをしていた。

翼「すまない立花、獅子野、私と奏が苦戦しなかったらこんなことには!」

和斗「いいんだよ翼さん、あまり自分を攻めるなよ!」

響「そうですね、翼さんと奏さんは皆さんの為に一緒に戦ってます!」

奏「それにしてもマリア、クリスの方はどうだ?!」

マリア「一命は取り止めたけどしばらくは安静にした方がいいわ!」

小太郎「あれ?祐一さんは?!」

壮汰「廊下で一人で何か迷ってる!」

蓮司「無理もないで、レイヴオルグの正体がクリス先輩の兄貴やった!」

和斗「……俺ちよつと様子を見てくる!」

ウイーン

和斗は祐一のいる廊下に向かい。

響「待って和斗君、私も行く！」

響も和斗についていく。

ラフタ「今のところ、クリスの方は致命傷でしたけど！」

シヨウ・ロンポー「そうだね、問題なのはネオジャークマターの残りの要塞だが！」

ピッ

玄十郎「シヨウ総司令、通信に入るぞ！」

玄十郎達が通信に入り。

シヨウ・ロンポー「おお、玄十郎司令、ステインガー、地球の方は何か以上は無いのかね?!」

ステインガー「ああ、地球の方は変わったことは何も無いがエルフナインが今、切歌と調のギアペンダントの改修とアガートラムの改修してる、木星の方はどうなった?!」

シヨウ・ロンポー「木星の方は第一要塞を破壊したが奏ちゃんと翼ちゃんの方は軽傷で助かったがクリスちゃんの方は重症になってしまったよ！」

玄十郎「クリス君が? いったい誰にやられたんだ?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、ネオジャークマターに入って改造したクリスちゃんの双子の兄、雪音レイ！」

バトルオリオンシップ廊下

祐一は一人で黄昏。

和斗「祐一！」

祐一「和斗か? どうした?!」

和斗と響が祐一を見つけて声をかけ。

響「祐一さん…… 本当何ですか? あのオオカミのネオジャークマターがクリスちゃん  
の双子のお兄さんだと?!」

祐一「ああ、本当だ、俺と和斗達が北海道のリベリオン本部防衛の時にあいつが現れ  
たんだ!」

祐一は響に本当の事を話し。

和斗「それで、あのレイヴオルグが現れたときは一人で戦ってたのか?!」

祐一「ああ、クリスに言わずに一人で戦ってる、俺は…… あんな姿になったクリスの  
兄貴を決着つけるか迷ってる、だけど俺はクリスの為にレイをどうしたらいいんだ?!」  
すると。

和斗「このバカ野郎!」

祐一「がは!」

和斗は戸惑ってる祐一に向かって殴り。

響「和斗君?!」

和斗「祐一、お前、あんまり戸惑うな、お前はどうか決着をつけるか自分らしいやり方でやれ、そしたらあいつをレイヴオルグになったクリス先輩の兄貴を安心させるようにしような!」

祐一「和斗: : すまない、俺は迷わない、クリスの為にレイを助ける!」

数分後、祐一達はブリーフィングルームに戻り覚悟を決め。

ネオジャークマター第二要塞周辺

和斗「よし、第二要塞に着いたぞ!」

すると。

ピッ

レイヴオルグが通信に入り。

レイヴオルグ「シンフォギア装者とキュウレンジャー、祐一を出せ、俺は祐一と決着をつける!」

レイヴオルグが祐一と決着をつけると脅迫し。

祐一「良いだろう、レイ、決着をつけるぞ!」

翼「桐山?!」

祐一「心配するな、俺はもう覚悟を決めた、クリスを頼む！」

ウイーン

祐一はレイヴォオルグと決着をつけに行く。

? 「ガハハハ、俺の相手もして貰おうか? キュウレンジャー!」

ドーン

和斗達の前に現れたのは巨大化レオルス、けど体がサイボーグ化。

和斗「レオルス? まさかお前もグリズラーに?!」

レオルス「ハハハ、その通り、俺の爪がお前に砕かれグリズラーに頼んで俺を機械改

造した!」

レオルスは和斗達の前にサイボーグ化した事を話し。

和斗「俺達の相手にするんだな? よし良いだろう!」

レイヴォオルグ「祐一、決着をつけるときが来たな!」

祐一「ああ、お前を楽にしてやる!」

レイヴォオルグ「やれるものならやってみろ、俺はお前とクリスと違って強いからな!」

ジャキ

レイヴォオルグは祐一に向けて銃口を立ち。



イチイバルキュータマ!

セイザチェンジ!

祐一「スターチェンジ!」

祐一もサソリオレンジイチイバルになって銃口を向け。

ジャキ

ドドドドド

2人「うおー!」

2人は対決を始め。

シシレッド「おりや!」

祐一とレイヴオルグが対決を始めたの続いて和斗達はサイボーグ化したレオルスとの対決、和斗は蓮司、功太、セレナ、壮汰でスーパークュウレンオーで行った。

レオルス「へっ、俺だけじゃないぜ、こいつも参加だ!」

ウーイン

もう一人現れたのは左腕の色が違う0号、まさか?!

0号ネフィリムウエル「ゲへへへへ、僕も参加するよ、グリズラー様がまたチャンス

を与えて復活!」

カジキイエロー「また復活したのですか?!」

オオカミブルー「懲りない奴だな!」

シシレッド「よし、響、そっちは頼む!」

セイザドツキング!

ウエイクアップオリオン、オリオンバトラー!

響「よし、任せて和斗君、おりや!」

響がオリオンバトラーを操縦して0号ネフィリムウエルと対決。

0号ネフィリムウエル「ゲへへへへ、響ちゃんか? 僕に勝てるかな?!」

響「そんなの、やってみなきゃわかりません!」

ドドドドド

サソリオレンジ「はあー!」

レイヴォルグ「ふっ、銃弾戦で俺に勝てると思うなよ?!」

サソリオレンジ「舐めるな、ならば接近だ!」

キーン

祐一は接近戦に変わり、レイヴオルグは爪攻撃で防ぎ。

サソリオレンジ「レイ、お前はこんなことをして何になる？昔のお前は俺やクリスに優しかったぞ、何故クリスと兄妹の縁を切って俺との友情の縁を切った？何故なんだ?!」

レイヴオルグ「……悪いな、それは言えないな、だけど俺は死んだ親父や母さんの無念をはらしてバルベルデに復讐を誓って小さい頃、俺はクリスと離れ離れになり俺はネオジャークマターに拾われ、数年後、奴隷にされてる妹を救い、フィーネに預からせて代償として俺はお前との友情の縁や兄妹の縁を切ってしまった!」

レイヴオルグは戦いながら理由を話し。

サソリオレンジ「それでお前は、俺が中学三年の頃にクリスをバルベルデで奴隷にされてるクリスを助けてフィーネという奴に預かってお前はネオジャークマターになったのか？そんなの間違ってる、お前は俺やクリスにとつての親友と兄妹、けどお前はネオジャークマターになって縁を切るのはお前の両親は天国で悲しむ!」

バトルオリオンシップ病室

クリス「ん？ここは?!」

目が覚めたクリス。

翼「気がついたか雪音?!」

クリス「風鳴先輩? あたしは、いてて!」

翼「まだ動くな、傷口が痛むぞ!」

クリス「あれ? 他の皆は何処だ?!」

翼「ああ、獅子野達はサイボーグ化したレオルスと0号ネフィリムウエルと対決し、桐山はレイヴオルグとの決着をつけにいつてる!」

翼はクリスに状況を話し。

クリス「祐一、あいつレイヴオルグとの決着して何か理由があんのかよ?!」

翼「すまない、雪音に話すときがきた、あのレイヴオルグの正体はグリズラーに改造されたお前の兄、雪音レイだった!」

クリス「えっ?!」

レオルス「おりや、くらえサイバーレオクロー!」

シシレッド「うわっ?!」

レオルスはサイボーグ化した爪攻撃でスーパーキュウレンオーに攻撃。

オオカミブルー「やってくれたな、くらえオオカミパンチ!」

カキン

レオルスは左腕の爪でオオカミ、ボイジャーのパンチをガード。カジキイエロー「えっ？オオカミパンチを防ぎました?!」

レオルス「ガハハハ、俺様の爪は防御できるぞ！」

シシレッド「なら、これはどうだ、シーザーキャノン！」

レオルス「なっ？ぐあああ！」

和斗達は至近距離でレオルスにキャノン攻撃。

0号ネフィリムウエル「ゲへへへへ、響ちゃん、僕の攻撃で餌食にしてあげるよ！」

響「お断りします！」

ミズガメキュータマ！

セイザアタック！

響はミズガメキュータマを使って0号ネフィリムウエルに浴び。

0号ネフィリムウエル「あれ？動けない？関節が？ギシギシしてる?!」

響「えへへ、機械は水に浴びると動けなくなるよ、和斗君に教えて貰って良かった、よしとドメ行くよ！」

ギャラクシー！

響「オリオンバトラー、響ブレイク！」

スーパーギャラクシー！

0号ネファイリムウエル「せっかく甦ったのにまたこのやられるシーン?ギャー!」

0号ネファイリムウエルは響のオリオンバトラーの攻撃で飛ばされ爆破。

響「やったー和斗君、決まったよ!」

シシレット「よし、こっちも終わらせるぞ!」

テンビンゴールド「それならこれで行くで!」

シユルシャガナキュータマ!

セイザアタック!

蓮司はシユルシャガナキュータマを使ってスーパーキュウレンオーのヨーヨー攻撃。

レオルス「くらえ、サイバーレオクロー!」

バリーン

レオルス「なっ?俺の爪が砕けただど?!」

テンビンゴールド「ナハハ、シユルシャガナキュータマは装甲が固いで、何せノイズを切り裂くで!」

ヘビツカイシルバー「よし、次は俺だ!」

イガリマキュータマ!

セイザアタック!

功太はイガリマキュータマを使って切歌が装備した鎌を出して飛び出し攻撃。

レオルス「ぐはっ、俺のサイボーグ装甲が傷ついただど?!」  
シシレッド「よし、トドメだ!」

ギヤラクシー!

5人「スーパーキユウレンオー、ファイナルブレイク!」

スーパーギヤラクシー!

レオルス「お前ら、案外楽しかったぞ、あばよ!」

最後にスーパーキユウレンオーの必殺技でレオルスごと第二要塞を破壊。

小太郎「やった、和斗達が勝ったよ!」

ラフタ「あつ? 総司令? 大変です、クリスが病室からいません?!」

ピッ

翼から通信が入り。

翼「総司令、雪音を病室に抜けさせてすみません、でも桐山とレイヴオルグとの決着を私と雪音で見届けさせて下さい!」

シヨウ・ロンポー「バトルオリオンシップから出てたんだね? よし、わかった、翼ちゃん、クリスちゃんの付き添いを頼むよ!」

クリス「助かるぜシヨウのおっちゃん!」

ピッ

通信を切り。

ピッピッ

ラフタ「総司令、今度はキャロルから通信が入りました?!」

ピッ

キャロル「キュウレンジャーとシンフォギア装者に告ぐ、オレは市原スバルと話したい、場所は第4要塞の中にいる、ただし一人で来い、話は以上だ!」

キャロルは通信を切り。

スバル「やはり、これは罠かもしれません!」

ショウ・ロンポー「そうだね、どうしたらいいか!」

マリア「総司令、私がスバルと一緒にについていくわ、私なら問題ないわ!」

サソリオレンジ「うおおお!」

レイヴォルグ「お前には負けんぞ!」

すると

クリス「祐一、レイ兄貴、こんな戦いやめろよ!」

翼がクリスを抱えて祐一とレイヴォルグとの戦いの場所に来て、二人は動きを止め。

サソリオレンジ「ん?クリス?何故来たんだ?!」



翼「すまない桐山、私が真実を言ってしまつてつい！」

レイヴオルグ「邪魔をするなクリス、俺達は決着をつけるためにやつてる！」

サソリオレンジ「翼さん、悪いが邪魔しないで見ててくれ、これは俺と奴の因縁の決着をつけたい、行くぞレイ！」

レイヴオルグ「そこなくては面白くない、来い！」

祐一とレイヴオルグと戦いが再開し、銃弾戦を続ける。

クリス「祐一、レイ兄貴！」

翼「雪音、ここは私達は見守るしかない！」

サソリオレンジ「うおおおお！」

祐一はレイヴオルグの銃弾に当たりながらイチイバルアーマーの外装が次々と外れ。

レイヴオルグ「負けねえぞ、お前なんかに！」

レイヴオルグも祐一の銃弾に当て、身体中が傷だらけになり。

サソリオレンジ「がはっ！」

祐一はスタミナがなくなりかけ、足がふらつき倒れかける。

レイヴオルグ「これで終わりにしてやる、祐一いいい！」

レイヴオルグは倒れかけてる祐一に向けて銃弾の必殺技を放とうとすると。

レイヴオルグ「?がはっ!」

レイヴオルグは突然口から血を吐いてトリガーを引いてしまい、何故か攻撃を外れた。

翼「ん?外れた?!」

クリス「どうしてだ?!」

クリスと翼は攻撃を外れたレイヴオルグの動きを見て驚き。

サソリオレンジ「はっ、うおおお!」

ギヤラクシー!

祐一は倒れかける前に唯一残ったイチイバルアーマーのクロスボウの必殺技を放ち。

レイヴオルグ「ふっ!」

レイヴオルグはちよつと笑い、祐一の攻撃を受け、倒れた。

サソリオレンジ「はっ、レイ?!」

祐一は変身を解除し倒れたレイヴオルグの所へ駆けつけ、翼もクリスを抱えてレイ

ヴオルグの所へ向かった。

祐一「レイ?レイ?お前?どうして外したんだ?それに何で血を吐いてんだ?まさか

?!」

祐一はレイヴオルグの胸のあたりを見る、すると血が流れた傷跡が痛み、流血。

レイヴオルグ「見たのか、俺の傷跡、実はなこの傷はネオジャークマターに入った頃、俺はジェミニスに攻撃しようとしてグリズラーに攻撃で切られた跡なんだ！」

祐一「お前、傷跡がまだ痛む時に俺と対決したのか？ 何で？ 何でお前はそこまでして俺に倒されたいんだ?!」

祐一は涙を流しながらレイヴオルグに怒って言い。

レイヴオルグ「クリスに……こんな姿になった俺は憎んでいるに違いないからなだから俺は妹に何も言わずお前に……倒したかったんだ！」

レイヴオルグは体全体が光りだしてきた。

レイヴオルグ「クリス……さっきはすまなかつたな、お前を撃って、俺はお前を戦わせないため重症にしてしまった！」

そして

クリス「バカ兄貴、お前は、とんでもないバカ野郎だ、あたしに何も言わずに黙って、祐一と対決して、あたしを怪我させて戦わせなくし、それだけじゃなくあたしや天国のパパやママを悲しませんなよ、あたし達は双子の兄妹だろ?!」

クリスも祐一に続いてレイヴオルグに怒って涙を流す。

レイヴオルグ「そうだったな……俺とクリスは双子の兄妹、そして！」

祐一「俺はレイとクリスの大切な幼なじみだろ?!」

レイヴオルグは言葉を伝え、続いて祐一も言葉を繋いで伝え。

レイヴオルグ「もう俺は親父と母さんの所へ行くぞ、祐一、最後に頼みがあるがいいか?!」

祐一「ああ、頼みとは何だ?!」

レイヴオルグ「妹を……クリスを幸せにしてやってくれ、幼なじみのお前ならきつと幸せにしてくれる!」

祐一「ああ、任せてくれ、クリスの事は俺に任せろ!」

レイヴオルグ「ありがとな、祐一、これがお前に伝える約束だ……!」

レイヴオルグは祐一にクリスを幸せにする頼みを伝え、光りとなって散った。

クリス「兄貴、あたしは今も祐一と皆と一緒にいて幸せだぞ、バカ野郎!」

クリスは微笑みながら泣いた。

ネオジャークマター第三要塞

グリズラー「レイヴオルグ、最後になってご苦労様、天国で君のパパとママの所で楽になってね、さて僕はここを爆破してチフォーシューシャトーの所に行くか、もう僕はネオジャークマターを裏切るよ、ジェミニスには悪いけど、僕にはプロジェクトゾディアックの計画があるのだよフフフ!」

グリズラーは第三要塞の中に時限爆弾をセットしスイッチを押し。

ミカ「よいしょよ、このカプセル重いゾ！」

ガリイ「我慢しなさい、このカプセルにはグリズラーの為に計画なのよ！」

来てたガリイとミカは人が入ってるカプセルを二人で持ち上げ。

グリズラー「さて、0号ネフイリムウエルもシンフォギア装者にやられて用済み、量

産した0号はもうチフォーシュシャトーで50体置いてるじゃあねジェミス！」

グリズラーは腕の機械部分からテレポトジェムを割り、カプセルを持ち上げてるガリイとミカと共に去り。

バトルオリオンシップ

ピピピ

ラフタ「……総司令？今入った情報によると第3要塞が爆破しました！」

シヨウ・ロンポー「何だと？一体誰が?!」

#### 第4要塞辺り

キヤロル「……来たか！」

ホウオウボーイジャーが着陸し、スバルはマリアと降り、キャロルがいる所まで歩き。  
キャロル「ん? 1人多いが? 何故?!」

スバル「お前が何かするかもしれないからマリアさんをお願いして一緒に来た!」

マリア「そうね、スバルに話したいことは何?!」

キャロル「スバル、俺と一緒に組まないか?!」

スバル「? どういうことだ?!」

NEWS STORY

スペース39、ジエミニスとの決戦、ネオジャークマターの最期！

バトルオリオンシッブブリーフィングルーム

和斗「えっ？ 第三要塞が爆破しただと?！」

シヨウ・ロンポー「うん、君達がレオルスとレイヴオルグとの戦う最中に第三要塞が爆破したんだよ！」

翼「それで誰がやったのですか?！」

ラフタ「情報によると不明ですが爆破した跡が見えます!」

そう、和斗達が戦ってる最中、グリズラーが爆弾を仕掛けて去った。

蓮司「ん？ スバルさんは何処に行ったんや?！」

アミ「マリアさんもない?！」

蓮司とアミはスバルとマリアがいないのに気付き。

シヨウ・ロンポー「スバル君ならマリアちゃんと一緒に一足先に第四要塞に向かってるよ、キャロルと何か話があるみたいだよ！」

響「キャロルちゃんが?!」

和斗「どういう事だ?!」

シヨウ・ロンポー「詳しい事はわからない、でも第一から第三要塞が消滅した今、第四要塞に向かうことが出来る!」

功太「よっしゃ、いよいよ最後の戦いだ!」

エリ「そうね、先ずはマリアさん達の方へ向かわないと!」

シヨウ・ロンポー「よし、では向かおう、ラフタ、目標第四要塞まで向かうぞ!」

ラフタ「オツキユウ、では向かいます!」

ラフタが操縦し第四要塞まで向かう。

#### 第四要塞辺り

スバル「お前と一緒に組むだと?どういう事なんだ?何か理由があるのか?!」

キャロル「教えてやる、世界中の奇跡を殺し、世界を壊しまた新たな世界を生み出す事だ、オレのパパはかつて錬金術師としての誇りを持って世界中の全てを知って人々の世界をわかり会えるような目標とし、錬金術を人々の為に使った、だが、人々はパパの力を恐れ異端者としてオレの目の前に火刑され、オレは誓った、奇跡という者を壊して世界を壊し、新たな世界を生み出す事だ!」



キャロルはスバル達に理由を話した。

マリア「それでお前はスバルと手を組もうと誘ったのね?!」

キャロル「そうだ、あの日、オレは一時、ジェミニスと組んでキュウレンジャーとシンフォギア装者の戦いを見てホウオウボイジャーの戦いをオートスコアラが気づかず見てたぞ!」

スバル「俺を見てたのか? 一体どうして?!」

キャロル「お前がシンフォギアとキュウレンジャーを裏切ってオレの仲間になれば前に何でも願いを叶えてやる、例えばお前の親友を甦らす事が出来るぞ!」

キャロルはスバルに仲間になれば何でも願いを叶えると伝え。

スバル「… 悪いけど、俺はお前の仲間と手を組む事は断らせてもらおうぞ!」

だがスバルはそのキャロルの仲間になるのを拒否するように断る。

キャロル「何故だ? オレと手を組んでキセキを壊して新しい世界を生み出せばお前の親友やたくさんの方が甦るぞ、何故?!」

スバル「確かに俺は6年前に翼の兄だった俺の親友は奏と俺を救うために犠牲になっ

てしまい俺は今まで一人で戦った、けど今の俺は和斗の言葉で仲間を大切に思う気持ちを知った、俺はマリアさんや翼、和斗達を裏切れることは出来ない!」

スバルはキャロルに怒るように仲間を大切に思うことを言い。

マリア「そうよ、スバルは私と翼、和斗達がいて今も大切に思ってるわ、お前にもわかるでしょ?人の気持ちや父親の気持ちを!」

キャロル「.:.: はっ?!」

キャロルはマリアの声で昔の事を思い出す、そうあの日キャロルの父親が火刑された悲しい思い出、キャロルは少し涙を流し。

キャロル「.:.: お前らにオレの気持ち何が解る?オレはキセキを壊せば新たな世界を生み出してパパにも再開出来る!」

キャロルはダウルダブラを纏い。

キャロル「交渉決別だなスバル、お前らはやはり敵だ!」

スバル「キャロル?俺達の話を知ってくれ?俺達はお前のために思ってる!」

マリア「スバル、戦うしかないわキャロルを止めましょう!」

マリアはエンプティシシキュータマを構え変身しようとすると。

? 「そうはさせんぞ!」

マリア「えっ？きやあ！」  
バリー

第四要塞の中からビームが発射しマリアの持つてるエンプティシシキュータマに命中し破壊。

スバル「はっ？マリアさん?！」

キャロル「ジエミニス? どういう事だ?！」

そう放ったのはジエミニスだった。

ジエミニス「お前の邪魔したくないから奴のキュータマだけ破壊しただけだ、さて2人の戦い、どれだけ見ものか楽しみだ！」

ジエミニスは最上階まで瞬間移動した。

スバル「くっ！」

カモン・ザ・チェンジ!

スバル「スターチェンジ！」

スバルは変身し剣を構え。

キャロル「さあ行くぞ！」

ホウオウソルジャー「うおー！」

スバルとキャロルは要塞の中に入りながら対決し始めた。

ピピピ

ラフタ「総司令、マリアがいました、ホウオウボーイジャーの近くです!」

シヨウ・ロンポー「よし、降りて第四要塞の中に突入!」

全員「オツキュウ!」

クリス「よし、行くぜ!」

シヨウ・ロンポー「クリスちゃんは祐一君とここで待機だ、怪我してるからね、ボク

チンが残る!」

翼「シヨウ総司令、お願いします!」

奏「よっしゃ、行くぜ皆!」

セレナ「はい!」

奏の号令で和斗達は地上に降りる。

#### 第四要塞最上階

ジェミニス「ほお、キュウレンジャーとシンフォギア装者? 何故ここに来た? 第三要塞は破壊されたのか? ならばネオインダバールとネオツヨインダバール全投入で防衛だ!」

和斗「マリアさん!」

地上に降りて俺達はマリアさんと合流。

翼「ん？スバルがいないぞ？何処に行ったんだ?!」

マリア「スバルならキャロルと対決してるわ、交渉決別して！」

和斗「よし俺達も中に入るぞ！」

ネオインダバー「ダベ、ダベ！」

第四要塞の中から多数のネオインダバーとネオツヨインダバーが現れた。

剛「多数のネオインダバーとネオツヨインダバーが現れたぞわす！」

和斗「よし、こいつらを倒して突入するぞ！」

セイザチェンジ！

全員「スターチェンジ！」

和斗と響達は変身とギアを纏って多数のネオインダバーとネオツヨインダバーと対

決し始め。

シシレッド「どりゃ！」

響「おりゃ！」

コグマスカイブルー「そりゃ、奏さん体は大丈夫?!」

奏「どりゃ、心配するな、あたしと翼は怪我がなあってピンピンしてるぜ！」

翼「はあー、もう、奏、あんまり無理しないで！」

オオカミブルー「そうですよ、俺達がフォローしてますよ、そりゃー!」

カジキイエロー「それ、えい!」

ワシピंक「はあー!」

カメレオングリーン「えい!」

ヘビツカイシルバー「おら!」

オウシブラック「ごわす!」

テンピンゴールド「そいや!」

和斗達は次々とネオツヨインダベーとネオインダベーを撃破し。

シシレット「マリアさんはバトルオリオンシップに戻ってくれ、スバルの事は俺達に

任せてくれ!」

マリア「ええ、お願いするね!」

マリアはホウオウボーイジャーの所に止まってるバトルオリオンシップまで行き、和斗達は第四要塞の中に入る。

一方スバルは

ホウオウソルジャー「はっ、せいや!」

キャロルと剣と絃攻撃の弾きあいし互角に戦う。

キャロル「なかなかやるな！」

ホウオウソルジャー「そつちこそ、負けるわけにはいかない！」

キャロル「ならばこれでもくらえ！」

キャロルは右の掌から炎の魔法を出してスバルに向けて放ち。

アメノハバキリキュータマ！

カモン・ザ・チエンジ！

ホウオウソルジャー「はあ！」

スバルは当たる寸前アメノハバキリキュータマで変わり、足の剣技でキャロルの炎を真つ二つに切る。

ホウオウソルジャー「俺を甘くみるなよ！」

キャロル「ほう、やるな！」

スバルとキャロルは最上階まで進みながら対決続け。

最上階首領室

ジェミニス「ん？キュウレンジジャーとシンフォギア装者が中に入ったか？キャロルは市原スバルと対決、グリズラーはいないか？ならば私自ら出る！」

シシレッド「ここが第四要塞の中?!」

和斗達は第四要塞の中に入る。

響「でもここ、不気味だよ!」

翼「そうだな警戒してスバルと合流するぞ!」

すると。

? 「ハハハハハ、良く来たな、キュウレンジャーとシンフォギア装者!」

ジェミニスが瞬間移動して和斗と響達のいる場所に来た。

シシレッド「?ジェミニス?!」

コグマスカイブルー「瞬間移動して来たのか?!」

ジェミニス「ネオジャークマターのカロー達を倒したことはほめてやろう、だがここ

が貴様らの墓場にしてやる!」

ジェミニスにフードのマントを脱ぎ捨てる、体には黒と白が混ざった皇帝の鎧が纏

い、背中は黒きマントをつけ最後に白と黒が合わせた剣を持った。

翼「その姿?シンフォギアなのか?!」

ジェミニス「ふん、私のは違うぞ、ネオジャークマターが保管した聖遺物、皇帝の双

子、つまり私だけの聖遺物だ!」

奏「あんなもんまでありやがって?!」

シシレッド「とにかく倒すぞ!」



全員「うおおお！」（はあ！）

ジェミニス「ふっ、バカめ！」

シュン

翼と奏が攻撃しようとするどジェミニスが消え。

翼「なっ？消えた?!」

奏「何処に行きやがった?!」

？「ふっ、ここだ！」

翼「なっ？うわああ！」

奏「うわあああ！」

いつの間に翼と奏の後ろにいて攻撃。

響「えっ？いつの間に?!」

ジェミニス「フハハハハ、この聖遺物を纏った私は相手が攻撃しようど瞬間移動し敵の後ろにつき攻撃することが可能だ！」

シシレッド「ならば！」

ワツツア、サイコーキュータマ！

スーパーセイザエンジ！

シシレッドオリオンに変身した俺はジェミニスに向けてマント攻撃で動きを止め、

キューソードを出して攻撃しようとする。

ジェミニス「ふん、そんな攻撃などと思うか、はっ!」

ジェミニスは攻撃される瞬間、目をはつきり開くと和斗の振るキューソードの動きを止め、縛られたマントを外れ攻撃。

シシレッドオリオン「ぐわあああ!」

響「和斗君?!」

オオカミブルー「動きを止めて攻撃もするのかよ?!」

テンビンゴールド「なんやアイツは?!」

最上階

キャロル「はあはあ!」

ホウオウソルジャー「ゼーゼー!」

二人の体はボロボロになりかけ、スタミナが切れそうとなり。

キャロル「これで終わりにしてやる、覚悟しろ!」

ホウオウソルジャー「ああ、お前を倒してやる!」

ギヤラクシー!

キャロル「くらえ、俺の4つの魔法攻撃!」

ホウオウソルジャー「フェニックス一刀両断、せい！」  
スバルとキヤロルはお互いに必殺技出して互角にやり。

キヤロル「うわああ！」

ホウオウソルジャー「ぐわああああ！」

お互いに必殺技を受け倒れかけ。

ホウオウソルジャー「くっ、ここまでやるな！」

キヤロル「お前の力、確かに互角だったぞ、決着はまたどこかで会うぞ、その時は貴様らの最後だ！」

キヤロルは立ち上がって魔方阵を出して逃げる。

ホウオウソルジャー「キヤロル！」

スバルは立ち上がって和斗達の下まで行く。

オオカミブルー「ぐわああああ！」

ヘビツカイシルバー「うわああ！」

カジキイエロー「きやああ！」

和斗達はジェミニスに苦戦中。

ジェミニス「フフフ、次は貴様らだ！」

テンビンゴールド「くらえやリブラインパクトや!」

ワシピンク「アルマイルインパクト!」

蓮司とエリは必殺技を放つとジェミニスはそれを弾き。

コグマスカイブルー「ならば、ボラリスインパクト!」

カメレオングリーン「カメレオンインパクト!」

オウシブラック「アルデバラインパクトごわす!」

ジェミニス「ふん、甘いわそんな攻撃!」

ジェミニスは小太郎達が放った必殺技を腕で弾いた。

響「どりゃー!」

響はジェミニスに向かって右ストレートするが防いだ。

ジェミニス「バカめ、何度も言っただはすだ、聖遺物を纏った私は貴様らの攻撃を無意

味だと!」

響「うわっ、きやあ!」

響はジェミニスのパンチや蹴り攻撃にやられ倒れる。

翼「立花?!」

シシレッドオリオン「響?!」

ジェミニス「さあ貴様らの最後だ!」

？「いや、俺達は絶対に諦めない！」

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「フェニックス一刀両断！」

ジェミニス「ぐわあああ！」

ジェミニスが攻撃しようと瞬間スバルがタイミング良く来てジェミニスに向けて攻撃し和斗達と合流。

シシレッドオリオン「スバル?!」

響「戻ってきたのですか、キャロルちゃんは?!」

ホウオウソルジャー「すまない、キャロルは逃げられた！」

翼「良く戻ってきたなスバル、お帰り！」

ホウオウソルジャー「ああ、ただいま！」

ジェミニス「フッフ、ハハハハ！」

シシレッドオリオン「何がおかしい？ジェミニス?!」

ジェミニス「貴様らの地球を粉々にしてやる、これで！」

ポチ

ジェミニスはスイッチを押すと木屋からビーム兵器が現れ地球に向ける。

奏「なっ？ビームみたいなのが出てきたぞ？まさか?!」

ジェミニス「その通り、ネオジャークマターが開発したビームレーザーキャノン、これを地球に向けて攻撃すれば粉々になる、止めなければ私を倒してみるんだな?!」

響「そんなことさせない、地球には未来や切歌ちゃんや調ちゃんや師匠、皆が住んでる!」

シシレッドオリオン「ああ、響の言う通りだ、未来や皆の住んでる地球を破壊してたまるかあああ!」

すると。

カジキイエロー「ん? 私のアガートラムキュータマが?!」  
テンビンゴールド「ワイのシウルシャガナキュータマも?!」  
ヘビツカイシルバー「俺のイガリマキュータマも?!」

和斗達の聖遺物キュータマが突然と光りだし。

クリス「ん? 祐一?!」

祐一「イチイバルキュータマが光って共鳴した?!」

シヨウ・ロンポー「もしかしたら? よし2人とも、ボクチンが和斗君達の所へつれていってあげるよ!」

ホウオウソルジャー「これは?!」

シシレッドオリオン「俺達の持つてる聖遺物キュータマが光りだした?!」

響「和斗君?もしかして?!」

(キュウレンジャー、頑張れ!)

(負けるな!)

未来(和斗君、響、負けないで!)

切歌(功太、アミ、頑張るデス!)

調(蓮司、エリ、頑張つて!)

エルフナイン(セレナさん、スバルさん皆さん!)

玄十郎(奏、翼!)

聖遺物キュータマから未来達の応援の声が聞こえ、俺達を応援。

シシレッドオリオン「そうだ、未来や皆が俺達の為に応援してるんだ、俺達は負けるわけにはいかない!」

響「うん、私達は最後まで諦めない、和斗君や皆がいるから負けない!」

ジェミニス「ほざけ、貴様らなど我の手で葬り去ってくれる!」

シシレッドオリオン「俺達は諦めねえ!」

ガングニールキュータマ!

イガリマキュータマ!

シウルシャガナキュータマ!

アガートラームキュータマ!

セイザチエンジ!

4人「スターチエンジ!」(です!)

俺と功太、蓮司とセレナはガングニールからアガートラームキュータマを使って姿を  
変わり。

響「翼さん、奏さん!」

翼「ああ、私達も行くぞ奏、立花!」

奏「おっしやあ、行こうぜ、翼、響!」

響「イグナイトモジュール!」

3人「抜剣!」

イグナイトキュータマ!

セイザアタック!

響達もイグナイトモジュールを抜剣してすぐにイグナイトキュータマを装填。

シシレッド「皆、行くぞ!」



全員「おう！」（うん！）（はい！）（御意！）

シシレッド「ファイティングスター、シシレッドガングニール！」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー！」

テンビンゴールド「スピニングスター、テンビンゴールドシユルシャガナや！」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックごわす！」

ヘビツカイシルバー「デスデススター、ヘビツカイシルバーイガリマ！」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーンです！」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク！」

カジキイエロー「シルバリオスター、カジキイエローアガートラムです！」

コグマスカイブルー「ビツクスター、コグマスカイブルー！」

ホウオウソルジャー「ムラサメスター、ホウオウソルジャーアメノハバキリ！」

響「ガングニール、立花響！」

翼「アメノハバキリ、風鳴翼！」

奏「ガングニール、天羽奏！」

シシレッド「究極の救世主、装者、宇宙戦隊！」

全員「キュウレンジャー！」

俺達はポーズを決まり。

シシレッド「お前の運、試して貰うぜ！」

ジェミニス「ほぎげ、貴様らの最後にしてやる！」

シシレッド「皆、行くぞ！」

全員「うおー！」（はあああ！）

LUCKYSTARの曲に流れながら和斗達はジェミニスと対決し始める。

オオカミブルー「おりゃ！」

コグマスカイブルー「そりゃ！」

オウシブラック「ごわす！」

ジェミニス「バカめ、私の能力を忘れたか？相手の動きを止める事や瞬間移動、相手

の攻撃を防ぐぞ！」

ヘビツカイシルバー「もうその手は！」

テンビンゴールド「のる前にやるで！」

蓮司と功太はアームドギアの武器でジェミニスに向けて攻撃。

奏「よし、次はあたし達だ、行くぞ、セレナ、アミ、エリ！」

カジキイエロー「はい！」

カメレオングリーン「行くよ、エリ！」

ワシピンク「ええ！」

ジェミニス「ならば、止めてやる、はあ！」

ジェミニスは能力を使って奏達の動きを止めるが。

ジェミニス「ん？なんだ?!」

奏「おりゃ！」

カメレオングリーン「えい！」

ワシピンク「そりゃ！」

カジキイエロー「それ！」

ジェミニス「がはっ！」

止まっただけのセレナ達が動きだし攻撃。

ジェミニス「おのれ、皇帝の剣で切り裂いてやる！」

ホウオウソルジャー「次は俺と！」

翼「私が相手だ！」

続いてスバルと翼はジェミニスと剣対決。

ジェミニス「おのれ、ならばこれでもくらえ、皇帝の裁きの剣を…！」

？「そうはさせないよ！」

ギヤラクシー！

リュウコマンダー「ドラゴインパクト！」

サソリオレンジ「ガトリングブラスト！」

クリス「くらえ、二連続ガトリングだ！」

ジェミニス「ぐわあああ！」

ジェミニスが必殺の剣を使おうとするとシヨウ総司令とクリスと祐一が駆けつけて必殺技を放って援護。

翼「雪音、桐山、動いて大丈夫なのか?！」

クリス「ああ、ちよつと痛むけどよ！」

サソリオレンジ「ああ、シヨウ総司令がつれていってくれたからな！」

リュウコマンダー「ウム、何とか間に合ってよかったよ！」

ジェミニス「ならば、雷撃の裁きを受け：！」

シシレッド「次は俺達が相手だ！」

響「うん、行こう和斗君！」

ジェミニス「面白い、受けてたとう！」

俺と響はパンチやキックでジェミニスと対決し互角に対決。

ジェミニス「やるではないか、ならばくえ双子の鉄槌、何?！」

響が両腕のアームドギアでジェミニスの必殺パンチを防ぎ。

シシレッド「ナイスだ響、任せろ！」

ギヤラクシー！

シシレッド「くらえナツクルインパクト！」

ジェミニス「があああ！」

和斗は必殺技を使ってジェミニスを吹き飛ばす。

ジェミニス「バカな？ ドン・アルマゲの遺志を受け継いだ私の力は負けるはずがない？ 何故貴様らは強いんだ?！」

シシレッド「俺達は響達や地球にいる未来達がいたからここまでこれたんだ、俺達は辛いことや悲しいこともあった、でも響達がいたから俺達はどんな敵でも負けない！」

響「うん、和斗君や皆がいるから私達は諦めなかった、私達は絶対に負けない！」

ジェミニス「おのれ、こうなったら私の最大の技をくらえ、双子の雷撃波！」

ジェミニスは最大の技を放ち。

シシレッド「響、皆、決めるぞ！」

全員「おう！」（はい！）（うん！）（御意！）

ギヤラクシー！

全員「オールスタークラッシュ！」

スーパージヤラクシー！

和斗達も必殺技を放ってジェミニスの技と互角に。

全員「うおー!」

ジェミニス「ぬおおおお!」

だがジェミニスの方が互角に上になり。

ジェミニス「フハハハハ、私の勝ちだ、雷撃の餌食になって散れ!」

? 「いや、俺達の勝ちだ!」

ジェミニス「ん?何?!」

響「どりゃー!」

シシレット「これで終わりだー!」

ジェミニス「なっ?ぐわあああ!」

最後に俺と響がブーストアタックしてジェミニスに向けて貫くように殴った。

ドーン

2人「グッドラック!」

ジェミニス「がはっ!」

だがジェミニスはまだ生きていた。

ジェミニス「ならば今からビームレーザーキャノンを使って地球を破壊してやる!」

すると

ドーン

ジェミニス「なっ？ビームレーザーキャノンが破壊したと?!」  
発射しようとしたビームレーザーキャノンが突然と爆破、すると。

グリズラー（フフフ、地球を壊したらゲームにならないよ!）

第四要塞の中からグリズラーのホログラムが現れた。

ジェミニス「どういうことだ？グリズラー？何故お前がそこにいる?!」

グリズラー（僕、ネオジャークマターを裏切ることにしたから、プロジェクトゾディアックの為にキャロルの所に行ったんだ!）

ジェミニス「グリズラー貴様ああ!」

ドーン

ジェミニスは爆破とともに散った。

グリズラー（キュウレンジャーとシンフォギア装者、キャロルの為に次は確実に仕留めるよ、フフフ、楽しみだよ!）

グリズラーのホログラムが消えた。

シシレッド「プロジェクトゾディアック? いったい何を言ってるんだ?!」

ジェミニスを倒して数時間後、祐一はS・O・N・Gのマンションのクリスの部屋にお邪魔して仏壇のクリスの家族に向かってお参り、間には雪音レイの名前が描かれた。

クリス「祐一、ありがとな、兄貴もきつとパパとママと一緒にあたし達を見守ってる！」

祐一「ああ、俺もそう思ってるよ、あいつに頼まれてお前を幸せにすると！」

クリス「祐一！」

祐一「なんだ？クリス、ん?!」

クリスは両頬を赤くなりながら祐一と唇キスをすぐした。

クリス「あのさ、あたしもお前の事、幸せにしたい、お前はあたしにとっての大切な人だからな！」

祐一「クリス、俺もクリスにとっての大切な人だ、俺はお前の事、ずっと大切な人だからな！」

クリス「祐一、そうだりべりオン本部の宴会場に行こうぜ、シヨウのおっちゃんと玄十郎のおっさん達が祝勝パーティーをやると！」

祐一「仕方ないな、たまには皆といえるのも悪くないな！」

クリスは祐一を連れてりべりオン本部に行った。

レイ（クリス、祐一と幸せにな！）

NEW STORY



スペース40、和斗と響と未来のプールデート、和斗が二人?!

リベリオン本部総司令室

総司令室ではシヨウ総司令とステインガー司令、玄十郎司令、エルフナインが座ってお茶を飲んでいた、ステインガー司令と玄十郎司令はコーヒー、エルフナインはオレングジユース、シヨウ総司令はウーロン茶だった。

シヨウ・ロンポー「いや、ネオジャークマターが壊滅して一時は平和になってよかったですよ！」

玄十郎「うむ、そうだな、平和が何よりだな、所で木星の方はどうなってる?!」

ラフタ「現在、木星の方はリベリオン星の宇宙隊が第四要塞の解体や破壊跡の第一から第三だった場所の跡地の復興をおこなっています！」

ステインガー「木星の方は何とか修復できるが問題なのは錬金術師のキャロルの事だ……！」

玄十郎「ああ、それにネオジャークマターを裏切ったグリズラーの企みも何かあるかもしれない……！」

ショウ・ロンポー「そうだね、警戒しないと、エルフナインちゃんの方のイガリマとシウルシヤガナとアガートラームギアペンダントの修復の方はどうなのかね?!」

エルフナイン「はい、和斗さん達が木星に行ってる間は修復しました、後はイグナイトモジュールを組み込みだけです!」

玄十郎「錬金術師とグリズラーが動き出すかもしれんからな警戒せねば、所で他の皆はどうしたんだね?!」

ショウ・ロンポー「ああ、翼ちゃんは緒川さんの所で花嫁修行で奏ちゃんは小太郎とデート、功太君の方は蓮司君とアミちゃんとエリちゃんと切歌ちゃんと調ちゃんと一緒にボウリングに行ってる、壮汰君は剛くん連れてサッカー部の助っ人、祐一君はクリスマスちゃんと友達と一緒に遊びに行ってるよ!」

ステインガー「ああ、マリアの方はセレナと一緒にナスターシャ教授の墓参り、スバルは翼の兄貴の墓参り、和斗と響と未来は……!」

響「わーいプール楽しい!」

そう響は和斗と未来と弓美達3人と一緒に遊園地のプールを満喫していた、響の水着は黄色がベースのビキニ。

創世「ビツキー楽しそうだね！」

詩織「ええ、ネオジャークマターを倒してすっかりお遊びになってました！」

弓美「アニメみたいにヒーローはカッコいいよ獅子野君達！」

未来「ねえ……和斗君、新しい水着、似合うかな?！」

未来は和斗に水着を見せびらかす、今日の未来の水着は白がモチーフのレオタード水着だった。

和斗「あ……ああ、すっごく似合うぞ！」

和斗は顔を赤くなって未来の水着姿を似合うと誉め、未来は両頬が真っ赤になる。

響「和斗くん、こっち来て一緒に遊ぼうよ！」

和斗「あ……ああ、今行く！」

和斗(?)（フッフ、立花響、僕がグリズラーだと気づいていないね?フッフ、立花響と合流する前に本物の獅子野和斗を縛ってスキヤニングで変装して立花響達がいる遊園地に来たってことフッフ!）

おや、何だか和斗が企んだ顔をしてる、そう、この和斗はグリズラーがスキヤニングで変装した、話は一時間半前に戻そう。

一時間半前、市街地

和斗（よっしやラツキー、今日は響と未来と弓美達と一緒にプールだ、急ぐぜ!）

和斗は走って響達がいる遊園地に向かうすると。

グリズラー（フッフ!）

和斗の前にグリズラーが現れ。

和斗（グリズラー?今お前に構ってる暇は…!）

グリズラー（くらえサイバーロープ!）

和斗（えっ?うわああ!）

グリズラーは腕から金属のロープを出して和斗を縛り、墓場の所まで連れてかれ。

グリズラー（へー、立花響とプールデートに行くのか、だったら僕が変わりに行って

あげるよ、立花響を暗殺にね、スキヤニング!）

グリズラーは左目の電子眼帯で和斗をスキヤンするとグリズラーが和斗になる。

和斗（んゝ、んゝ!）

和斗（グリズラー）（フッフ、君の姿になって立花響とそのお友達を抹殺するよ、クク

ク、どんなものか楽しみだよ!）

そして現在。

和斗（グリズラー）「やつほ、楽しいよ!」

和斗の姿でプールを満喫で楽しくしてる。

響「あはは、楽しいね和斗君！」  
響も和斗がグリズラーと気づかずに遊んでた。

### 墓場

マリアはセレナを連れてナスターシャ教授の墓参りに来た。

セレナ「ママ、お久しぶりです、マリア姉さんと一緒に会いに来ました！」

セレナはナスターシャ教授の墓に花を供え。

マリア「ママ、セレナはキュウレンジャーになつて地球の皆や平和を守るために戦つてゐるわ、今も皆を守るために和斗や立花響達と一緒に頑張つてる！」

マリアもセレナと一緒にナスターシャ教授の墓にお参り。

スバル「あれ？マリアさん、セレナもここに来たのか?！」

セレナ「スバルさん?！」

スバルはマリアとセレナの墓参りに気付き声をかけ。

マリア「スバル?ここにきてどうしたの?！」

スバル「ここで刃の墓参りに来て、そしたらセレナとマリアさんが見かけました、俺もナスターシャ教授の墓参りします！」

スバルもナスターシャ教授の墓にお参りの祈りをした。

マリア「ありがとうスバル、ママもきつと喜ぶと思うわ！」

スバル「いえ、刃の墓参りのついでです、ナスターシャ教授の墓にお参りはしないといけません！」

セレナ「スバルさん、ありがとうございます！」

セレナはスバルにナスターシャ教授の墓参りしたことをお礼した。

スバル「いいよ、そんなことは、そうだレストランに行こう、2人にはお礼に奢ってあげます！」

マリア「ありがとう、でもいいの？スバルの奢りで？お金は大丈夫かしら?!」

スバル「シヨウ総司令がボーナスをくれました！」

マリア「じゃあ、御言葉に甘えて！」  
すると。

？「んゝ、んゝ！」

セレナ「ん？マリア姉さん？今、お墓から誰かの声が聞こえました?!」

スバル「ん？あれは？和斗？大丈夫か?!」

スバルは金属のロープに縛られた和斗を見え、マリアとセレナは和斗を助ける。

セレナ「和斗さん？しっかりしてください、何かあったのですか?!」

和斗「グリズラーが：俺に変装して響達を襲うつもりだ、響と未来達が危ねー！」

マリア「何ですって?!」

ピピピピピピ

ラフタ「はいもしもし? マリア? どうしたのですか? ええ? グリズラーが和斗に変装して響と未来を襲う?!」

ラフタはマリアからの連絡に驚き。

ラフタ「わかりました、総司令にはご報告します!」

ピッ

シヨウ・ロンポー「ラフタ、どうしたんだね? 大声出して?!」

ラフタ「マリアからの連絡です、グリズラーが和斗に変装してプールに行ってます、現在、スバルさんとセレナ、マリア、和斗と一緒に現場に向かっています!」

玄十郎「まさかと思いきや、大変だな!」

ステインガー「ああ、翼達を呼ぶわけにはいかない!」

シヨウ・ロンポー「ウム、今は彼らに任せよう!」

一方

響「イヤッホー、ウォーターライダー楽しい!」

和斗（グリズラー）「ひえええ、目が回る〜!」

和斗に変装したグリズラーは響と未来に誘われてウォータースライダーを楽しんでいた。

未来「きゃ〜!」

バシャーン

響「あはは、楽しいね和斗君!」

創世「ねえ、次は流れるプールに入ろう!」

詩織「ナイスです、行きましょう!」

和斗（グリズラー）「えっ? ええ?!」

創世達3人はグリズラーを流れるプールに連れていく。

弓美「いや〜、流れるプールは波にのるね!」

創世「波が良いよここ!」

和斗（グリズラー）「あはは（何で僕がこんな奴らの付き合いになるんだ?!）」

未来「えい、和斗君を後ろから抱きしめて、好きになっちゃおう♡!」

未来はグリズラーの後ろから抱きしめ。

和斗（グリズラー）（これは、チャンス、小日向未来を襲うか!）

グリズラーは企む顔をする。



響「あく未来が和斗君を抱きしめるなら私も！」

響も未来の後ろから抱きしめ。

バシャーン

グリズラーは2人の重さで沈みかけ。

和斗（グリズラー）（ゴボゴボゴボ、立花響、何て重さだ？いつまで続けたら僕の体が持

つか心配だ！）

すると

セレナ「響さん、未来さん、皆さん！」

セレナとマリアさんとスバルと俺が私服姿にプールに来た。

未来「えっ？マリアさん？セレナちゃん？スバルさん？えっ？和斗君がもう一人?!」

未来はマリア達の所にいる和斗に驚き。

マリア「そいつは和斗じゃないわ、グリズラーよ！」

和斗「そうだ、俺を縛って変装したんだ！」

マリアさんと俺は響達の所にいる俺に指を指し、伝え。

和斗（グリズラー）「何を言ってるんだ、俺は本物だよ偽物君、疑うんじゃない！」

グリズラーはマリアさん達の所にいる俺の事を疑って指差し。

スバル「マリアさん、やはり響達のいるのがグリズラーです！」

マリア「ええ……そうだ、良い方法があるわ、スバル、私に任せて!」

マリアは良い提案を考えた。

和斗「何だと? 偽物はお前だ!」

マリア「ストップ、ここで喧嘩したらお客さんの迷惑になるわ、それならこの対決でいきましょう!」

流れるプール

和斗「ええ、ここでダンス対決?!

スバル「ああ、マリアさんの提案で本物か偽物をはつきりさせるためにダンス対決をする!」

マリア「ええ、勝った方が本物、負けた方が偽物にしましょう!」

マリアが勝った方と負けた方の説明をし。

セレナ「なるほど、マリア姉さん、本物か偽物の和斗さんの動きを知るために提案なんてさすがです!」

「おっ? 何か始まるのか?!

「あれ? トップアーティストのマリアがいる!」

「ホントだ、マリアだ!」

客全員がマリアがいたことに気づいて集まり、監視員も気になって見る。

和斗「よし、ダンスならやってやる！」

和斗（グリズラー）（ククク、和斗のダンスならインプットしてあるもんね、派手に踊ってあげるよ！）

マリア「さあ曲を流すわ、監視員お願い！」

監視員「あつ、はい！」

♪♪♪♪

監視員が曲を流す、曲はキュータマダンスング。

弓美「おっ？この曲、キュータマダンスング！」

詩織「弓美さん知ってるのですか？この曲?!」

弓美「うん、聞いたことある、人気アーティストのホシミナトさんが振り付けして踊った曲！」

創世「へー、ホシミナトが振り付けした曲なんだ、あたしも聞いたことある！」

和斗「行くぞ！」

和斗（グリズラー）「そっちこそ行くぞ！」

和斗と和斗に変装したグリズラーが踊り始め、振り付けとダンスも2人とも同じ動きをする。

響「おっ?二人の和斗君のダンス、同じ動きするよ未来!」

未来「うん、なんか動きが同じに見える!」

和斗(グリズラー)(フッフ、僕のインプットの性能を甘く見るなよ、動きを読み取って踊るのさ、更に!)

グリズラーは途中ブレイクダンスやラッパーをし出し。

マリア「ん?あの動き?何だか違うわね?!」

マリアはグリズラーがブレイクダンスやラッパーをするのに気付く。

和斗「ブレイクダンスをし始めた?俺こんなのやったことないぞ?くっそ負けるか!」

最後に曲が終わったとたん二人はかつこよくポーズ決める、和斗はいつものよっしやラッキーポーズ、グリズラーはナルシストのポーズを決めた。

響「どっちが勝つのかな?!」

未来「響、どうなるのかな?!」

スバル「さあ、判定を言う、勝者…ジャケットを着てる和斗の方が本物!」

スバルが判定でジャケットを着てる和斗の方に手を上げ本物と認めた。

和斗(グリズラー)「何で?俺はかつこよくダンスやブレイクダンスを披露してんのに

何でなんだ?!」

スバル「確かにお前の方は自分が本物だとかっこよくダンスやブレイクダンスを披露した、だが俺の目は節穴ではない、二人の和斗のダンスを見る途中、水着を着てる和斗の方から機械の音がしていた、よってお前は偽物だ!」

スバルは水着を着てる和斗を偽物と判定し。

和斗(グリズラー)「クククク、ハハハハ、よく僕の事偽物だと気づいたなホウオウソルジャー!」

グリズラーは和斗の変装解除して元の姿に戻った。

マリア「お前は?グリズラー?和斗に変装したなんて?!」

グリズラー「ちっ、獅子野和斗に変装して立花響を抹殺しようと思ったのに計画が失敗だけど襲撃はするよ!」

グリズラーはすぐにサイバークローを構え。

和斗「マリアさん、ここは俺とセレナとスバルに任せろ、響と未来達を頼む!」

マリア「ええ、任せて、セレナもスバルも気をつけてね!」

マリアは響と未来達と監視員達を連れて安全なところへ行く。

和斗「グリズラー、よくも俺に変装して響と未来を襲うつもりだな?絶対に許さねえ!」

セレナ「それだけじゃありません、私達F・I・Sの子供達の血液を使ってダークキュウレンジャーのクローンをお造り弄ぶなんて許せません!」

スバル「ここでお前を倒す!」

俺達はグリズラーに怒り。

グリズラー「へー、やれるものならやってみなよ?!」

和斗「セレナ、スバル、行くぞ!」

セレナ「はい!」

スバル「ああ、行こう!」

3人「マワースライド!」(です!)

ガングニールキュータマ!

アガートラムキュータマ!

アメノハバキリキュータマ!

セイザチェンジ!

カモン・ザ・チェンジ!

3人「スターチェンジ!」(です!)

俺達は聖遺物キュータマを装填して変身。

シシレッド「ナツクルスター、シシレッドガングニール!」

カジキイエロー「シルバリオスター、カジキイエローアガートラムです！」

ホウオウソルジャー「ムラマサスター、ホウオウソルジャーアメノハバキリ！」

シシレッド「究極の救世主、宇宙戦隊！」

3人「キュウレンジャー！」

グリズラー「じゃあ君たちをあの世に送るよ僕の手で！」

シシレッド「お前の運、試してもらうぜ、うおー！」

和斗達はグリズラーに向かって駆け。

カジキイエロー「くらいなさい、シルバーダガー！」

グリズラー「サイバークロー！」

ホウオウソルジャー「うおおお！」

スバルとセレナはグリズラーと剣と短剣と爪の弾きあいの対決し。

グリズラー「隙あり、くらえグリズリーバルカン！」

ドドドドド

グリズラーは隙を見せて2人に向けて左腕のバルカン攻撃するがスバルがシールドで防いだ。

ホウオウソルジャー「その攻撃、俺達には効かない！」

シシレッド「そうだ、俺達はどんな攻撃でも負けねえ！」

和斗はグリズラーに向けてアームドギアの右ストレートでパンチ。

グリズラー「ぐわあああ!」

グリズラーは倒れかける。

グリズラー「バカな? 電子頭脳とIQ1000%を持つてる僕がこんなお前らに負けるはずなのに? 何故強くなったんだ?!」

シシレッド「当たり前だ、俺達は響と未来や皆がいたからネオジャークマターに勝てたんだ!」

ホウオウソルジャー「ああ、俺達は大切な人や仲間の事思つて強くなり前に進んだ、どんな敵でも負けない!」

カジキイエロー「命を弄ぶ貴方とは違います!」

ギヤラクシー!

ホウオウソルジャー「フェニックス一刀両断!」

シシレッド「ナツクルインパクト!」

俺とスバルは必殺技を放つてグリズラーに攻撃するがグリズラーはサイバークローをガードモードで防ぎきり。

グリズラー「ハハハハ、惜しかったね!」

ホウオウソルジャー「それはどうかな?!」



グリズラー「ん？何?!」

最後はセレナが高く飛んでいき。

シシレッド「セレナ、決める！」

カジキイエロー「はい！」

ギヤラクシー！

カジキイエロー「マリア姉さんや私達の仲間のかたき、討たせてもらいます、アガートスラツシユフィニツシユ！」

グリズラー「ぐわあああ！」

最後にセレナが必殺技を使ってグリズラーを真つ二つのように切り裂いた。

グリズラー「ハハハハ、僕に勝ったことは誉めて上げるよキュウレンジャー！」

シシレッド「何がおかしい?!」

グリズラー「僕がやられても計画は間もなく完了する！」

ホウオウソルジャー「プロジェクトゾディアックの事だろ？何なんだそれは?!」

グリズラー「さあね、僕が造った最高のクローンだよ、その素顔は……フフフ、自分で見るんだな！」

シシレッド「それでも俺達は勝つてみせる！」

グリズラー「フフフ、せいぜいキャロル達にやられるんだな、お前達はククク……！」

ドーン

グリズラーは爆破に散った。

カジキイエロー「グリズラーが企んだ計画?何なのでしょうか?!」

シシレッド「ああ、とにかくグリズラーを倒してよかったな!」

響「和斗くん!」

未来「和斗君!」

シシレッド「おう、響、未来!」

グリズラーを倒して数十分後。

和斗「待たせたな、響、未来、創世達!」

和斗達は水着を着てきた、和斗は獅子のモチーフの赤い海水パンツ、マリアは黒とオレンジの派手なビキニ、セレナはピンクのハイレグ水着、スバルは何故か赤い海パンブーメランを着ていた。

未来「マリアさん、凄い水着ですね!」

マリア「ええ、せっかくプールに来たから戻って水着を持ってきたわよ!」

創世「セレちゃん、可愛い水着を着てるね!」

セレナ「はい、似合います?!」

響「うん、似合うよセレナちゃん！」

響はセレナの着てた水着を誉め。

スバル「さて泳ぐか！」

和斗達はプールに入り楽しんでいる。

響「かーずとくん！」

和斗「ん？響？どうした?！」

響「一緒にウォータースライダーに行こう、楽しいよ！」

響は和斗の右腕を掴んでウォータースライダーに行こうとし。

未来「響、和斗君は私と一緒にウォータースライダーに行く！」

未来も和斗の左腕を掴んで引っ張ろうとすると。

ムニユ

和斗はとつさに未来の胸を触った。

和斗「あつ、ごめん未来！」

未来「えっ、エッチ！」

バチン

和斗「うわああ、ごめんよ未来！」

バシャーン

和斗は未来にビンタされバシャーンと落ちた。

響「あわわ？和斗君?!」

チフォーージュシャトー

キャロル「フン、グリズラー、最後になって散ったか、まあいい、お前の言うゾディアックは間もなく完了する、覚悟しろ、キュウレンジャーとシンフォギア!」

キャロルはチフォーージュシャトーに保管してある人が入ったカプセルを見て眺めていた。

NEWS STORY

# スぺース41、海での特訓、マリアの強くなりたい迷い前編！

スバル「フェニックスサーフィン、俺のサーフは伝説が行く！」

俺達は特訓で海に来てる、何故海に来たのは数週間前。

数週間前のリベリオン本部司令室

切歌「壊れたイガリマとシウルシャガナ、アガートラームの修復して良かったデース！」

エルフナイン「修復のもう一つ、イグナイトモジュール機能もつけておきました！」

マリア「セレナ！」

マリアはアガートラームのギアペンダントをセレナに返そうと。

セレナ「マリア姉さんがアガートラームを使ってください、私にはセイザブラスターとキュータマがあります！」

マリア「そうだったわね、私がセレナが使ってたアガートラームを使わせて頂くわ！」

マリアはアガートラームの装者になることを覚悟を決め。

シヨウ・ロンポー「おお？これで装者7人はイグナイトモジュール機能を使えるよう

になったようだね!」

玄十郎「ウム、新しい力を手に入れた事だ、皆に特訓といこうか!」

全員「特訓?!」

そう俺達はS・O・N・Gが用意した海で特訓、響達のイグナイトモジュールを使いこなせるための特訓並びに何故か和斗達も遊びながら特訓を楽しんでいた。

和斗「よっしゃラッキー、楽しいぜ海は!」

響「和斗くん、こっちに來て一緒に泳ごう!」

和斗「ああ、今行くぜ!」

未来「もう響ったら、和斗君、私もエルフナインちゃんとこっちに行くよ!」  
響と和斗と未来とエルフナインは海に入って楽しみ。

切歌「エヘヘ、アタシと調とアミとエリと作った砂の城です!」

功太「ヘヘくん、こっちは蓮司と二人で作ったバランスさんの砂の像だぜ!」

功太と蓮司と切歌と調とアミとエリは砂浜で砂の城を作る。

クリス「♪♪♪!」

クリスは浮き輪にのって海を楽しみ祐一はクリスについていって泳いでいた。

奏「うおりやああ！」

小太郎「ああ、また負けた！」

壮汰「奏さん、やっぱり強すぎるぜ！」

剛「おいどん達には追いつけない走りでごわすよ！」

セレナ「やりますね奏さん、私達にはとても敵えません！」

奏と小太郎と壮汰と剛とセレナは向こうの砂浜でビーチフラッグ。

スバル「フェニックスブレイクサーフィン！」

翼「私にも慣れない動きだぞスバル！」

スバルは波のある海でサーフィンし、翼とマリアはスバルのサーフィンを眺めていた。

ピピピ

シヨウ・ロンポー「はいもしもし？緒川君、どうしたのかね?!」

シヨウ総司令はのんびりしてスマホの画像を見て緒川から連絡が入り電話中。

緒川「皆さんの特訓の方はどうですか?!」

シヨウ・ロンポー「ああ、今のところは順調だよ、緒川君達の方は何か調査は進んでいるのかね?!」

緒川「はい、今の所は司令とステインガー司令とラフタさんで進んでいます!」

シヨウ・ロンポー「そうか、そっちの方はボクチンが何とかするよ、終わり次第宿舎で報告頼むよ!」

ピッ

一方チフォージユシャトー

キャロル「ほお、キュウレンジャーとシンフォギア装者が海に?!」

ファアラ「ええ、何やら海で特訓してる模様です!」

レイア「派手に油断はするな、ネオジャークマターが壊滅した相手だからな!」

キャロル「そうだな、ジェミニスとグリズラーを倒してしまってもういない!」

ミカ「キャキャキャ、アイツラは絶対倒すゾ!」

ガリイ「私が行くわ、奴らがどんな力をつけたか試してみる!」

ガリイは自ら指名し。

キャロル「ガリイ? お前だけで大丈夫か?!」



クリス「おーい、来いよマリア！」

マリア「ええ、行くわよ2人とも！」

翼「来い、マリア！」

マリアとエルフナインと翼とクリスはビーチバレーをし、翼はクリスとペアを組み、マリアはエルフナインと組んで対決、何故かシヨウ総司令が審判をつとめ。

エルフナイン「行きます、え、えい！」

エルフナインがサーブすると外れる。

クリス「おいおい、何外してんだよおい！」

翼「もつと力を抜いてサーブするんだ！」

エルフナイン「はい、ごめんなさい！」

マリア「こうやって、こうするのよ、やってみなさい！」

マリアはエルフナインにサーブの仕方を教え。

エルフナイン「こうですね？やってみます、それ！」

エルフナインはマリアの言う通りに力を抜いてサーブを成功した。

エルフナイン「ありがとうございますマリアさん！」

マリア「良いのよエルフナイン、貴方はやれば出来るわよ！」

シヨウ・ロンポー「うんうん、それじゃ試合再開！」

和斗「よつしやラッキー、ビーチサッカーだぜ！」

和斗達はクリス達グビーチバレーをしてる間はビーチサッカーをしている、和斗のチームは和斗、壮汰、アミ、エリ、剛、セレナ、小太郎のチームは小太郎、祐一、スバル、功太、蓮司、奏のチームで対決、響と未来は和斗達のサッカーを観戦。

アミ「エリ、行くよ、それ！」

エリ「よし、セレナにパス？えっ?!」

エリはセレナにパスしようとするがセレナの方は蓮司と功太がマーク。

蓮司「パスはさせへんでエリ！」

壮汰「エリ、こっちにパスだ！」

エリ「壮汰、お願い！」

エリは壮汰にパスしゴールまで向かってシュートしようと。

奏「おっと、ここを通りたかったら！」

小太郎「俺達を越えていこう！」

小太郎と奏がゴール前を死守。

和斗「壮汰、俺にパスだ！」

壮汰「よし、和斗兄貴、頼む！」

壮汰はゴール前まで走ってる和斗に向けてシュートし。

和斗「行くぜレグルスヘディング！」

スバル「甘いぞ！」

スバルは和斗のヘディングシュートをキヤッチ。

響「ああ、惜しい！」

未来「うん、でもまだ大丈夫！」

スバル「よし、行くぞ！」

スバルはゴールからロングシュートすると。

祐一「うおおお！」

祐一はスバルのロングシュートに向かって走り。

和斗「なっ？しまった?！」

祐一「行くぞ、アンタレスシュート！」

剛「行くでござす、えっ？ござつすー！」

祐一は必殺シュートし、剛はキャッチするがゴールされた。

奏「ゴール、よっしや1点、ナイスだ祐一！」

和斗「やるじゃねえか祐一！」

祐一「ああ、お前と比べたらまだまだ！」

功太「よっしや、まだ続くぞ〜！」

数十分後。

和斗と響と未来と小太郎と祐一とクリスとビーチサッカー、奏は審判、シヨウ総司令とマリアとエルフナインとスバルとセレナと壮汰と剛はパラソルのある日陰で休憩し、翼と切歌と調とアミとエリと功太と蓮司は皆の昼食の買い出しにコンビニに行った、数分前、和斗達は昼食を掛けた買い出しジャンケンをし、翼と切歌と調は負けたが3人が心配だからアミとエリと功太と蓮司もついて行った。

和斗「行かぜ、レグルスシュート！」

未来「きやつ?!」

クリス「うわっ?危な！」

奏「ゴール！」

和斗はシュートを決めてゴール。

響「和斗君達強すぎ、手加減してよ〜！」

和斗「あつ、悪い！」

未来「それにしても和斗君達、ネオジャークマターを倒してからたくましくなったね！」

和斗「ん？ああ、皆がいたから俺達は地球の皆を守ったんだ！」

小太郎「そうだね、それにセレナとマリア達の仲間の仇も取れてよかったよ！」

クリス「ああ、兄貴の仇もとれたな祐一！」

祐一「そうだな！」

和斗達は海の景色を眺め。

？「あらく？誰かと思えばハズレ装者とキュウレンジャーじゃないの?!」

和斗「お前は？ガリイ?!」

和斗達の前に現れたのはオートスコアラのガリイ。

小太郎「何故ここに?!」

ガリイ「決まってるわよ、ネオジャークマターの仇をとりにきたわ、あんた達もまとめて！」

マリア「和斗！」

和斗「マリアさん、シヨウ総司令、未来とエルフナインを頼む！」

シヨウ・ロンポー「よし、翼ちゃん達の方はボクチンが連絡する、任せて！」

シヨウ総司令とマリアは未来とエルフナインを連れて安全な所へ行つた。

ガリイ「あらゝあんた達の相手はこつちよ!」

ガリイは魔方陣からアルカノイズ多数と0号を2体出した。

セレナ「あれは? 0号? ネオジャークマターは壊滅したはずです!」

ガリイ「グリズラーからくれたものよ、私達のアシストよ!」

クリス「何度でもぶつとばしてやる!」

和斗「よし、行くぞ皆!」

セイザチエンジ!

カモン・ザ・チエンジ!

7人「スターチエンジ!」(ですー)(ごわす!)

和斗達はチエンジして響とクリスと奏は歌ってギアを纏つた。

一方、翼達は。

翼「オートスコアラーが現れたのですか?!」

シヨウ・ロンポー「そうなんだ、現在0号とアルカノイズが現れて和斗君と響ちゃん

達が応戦してる、ん？ガリイがこっちに来た？とにかく翼ちゃん達は一般人の避難誘導をお願いする、ボクチンとマリアちゃんは未来ちゃんとエルフナインちゃんを守りながら戦うよ！」

翼「わかりました！」

ピッ

翼「すみません、ここはアルカノイズが襲撃しにきます、子供達を安全な所へお願いします！」

男性「冗談じゃない、何で俺が?!」

ガソリンスタンドの男性が翼の言葉を無視して逃げた。

蓮司「なんや？あのおっさん？自分だけ逃げるやなんて！」

アミ「アルカノイズが来ます！」

功太「よし、翼さんは子供達を安全な所へたのんます、ここは俺達がやる！」

翼「すまない、私も済ませたらすぐに合流する！」

蓮司「切歌と調も翼さんと一緒に頼むで！」

エリ「私も援護するわ！」

切歌「合点デース！」

調「お願い！」

翼と切歌と調とエリは子供達を連れて安全な所へ、功太と蓮司とアミはこの場を残る。

蓮司「よっしゃ、翼さん達が子供達を安全な所へ連れていつてる間はワイらが死守するで！」

功太「よし、行くぞ！」

セイザチエンジ!

3人「スターチエンジ！」

功太達はチエンジしてアルカノイズを迎撃。

響「どりやあああ！」

シシレッド「おりや！」

オオカミブルー「そいや！」

カジキイエロー「えい！」

オウシブラック「ごわす！」

和斗と響達はアルカノイズと0号の相手をし。



奏「ん？ガリイがいねえぞ?!」

クリス「なに？まさか?!」

響「マリアさんとシヨウ総司令さんの所に?!」

シシレッド「確か未来とエルフナインがいる!」

サソリオレンジ「和斗、お前はシヨウ総司令達の所に行ってくれ!」

コグマスカイブルー「ああ、アルカノイズと0号の相手は俺達だけで十分だよ!」

シシレッド「すまない、行ってくる!」

シシストライカー!」

セイザゴ!」

和斗はシシストライカーを出して乗ると。

ホウオウソルジャー「和斗、俺も一緒に行く、心配だからな!」

シシレッド「わかった、スバル乗れ!」

スバルは和斗の後ろに乗って和斗はエンジンを起動してマリア達の所に向かった。

響「和斗君、お願い!」

マリア「はあ、せあ!」

マリアはギアを纏ってガリイと対決し、シヨウ総司令は未来とエルフナインを守りながら援護射撃した。

ガリイ「あのハズレ装者が、強くなるなんて?やるわね!」

マリア「はあー!」

リユウコマンダー「よし、良いよマリアちゃん、シミュレーションの頃より慣れてきたよ!」

シヨウ総司令はマリアに感心しながらアルカノイズに向けて射撃攻撃、マリアはガリイに攻撃するが避け、更に連続攻撃しても避けてしまう。

ガリイ「いやーん、ガリイちゃん負けちゃうわ、なーんてね!」

マリア「くっ!」

ガリイの攻撃を当たってしまったマリア、マリアは何か考えた。

マリア（弱い自分を越えるためにこの力を!）

イグナイトモジュールを使おうと構え。

ガリイ「ほお!」

マリア「行くわよ、イグナイトモジュール抜剣!」

ダインスレイフ

マリアのギアのペンダントが十字型に変わり、マリアに刺さり、マリア「がはっ！」

マリアはイグナイトモジュール抜剣するがイグナイトキュータマは使っていない、する  
と。

マリア「グルル、グルル、ガアア！」

マリアは暴走してしまった。

リュウコマンダー「マ？マリアちゃん?！」

マリア「ガアアアア！」

リュウコマンダー「うわっ！」

暴走状態のマリアはシヨウ総司令に攻撃。

シシレッド「何だ？もしかしてあれは?！」

ホウオウソルジャー「マリアさん?！」

マリアたちの所にたどり着いた和斗とスバルが見たのは、暴走状態のマリア。

リュウコマンダー「マリアちゃん、イグナイトモジュール抜剣と同時にイグナイト

キュータマを使つてなくて暴走状態になってしまったんだ！」

エルフナイン「お願いします、マリアさんを助けてください！」

ホウオウソルジャー「わかった、任せてくれ！」

ガリイ「あらく、そんな姿になって！」

シシレッド「よし、ストライカーモード！」

セイザドツキングモード

和斗はすぐにシシストライカーと合体してシシレッドストライカーになる。

シシレッド「スバル、何としても止めるぞ！」

ホウオウソルジャー「ああ、行こう！」

NEWS STORY

# スペース42、海での特訓、マリアの強くなりたい迷い後編！

シシレッド「おりゃー！」

ホウオウソルジャー「はあー！」

和斗とスバルは暴走状態のマリアを必死に止めようと戦う。

未来「あれが？和斗君がバイクと合体した姿?!」

エルフナイン「大丈夫なですか?!」

リュウコマンダー「心配ないよ、ストライカーと合体した姿はどんな敵の攻撃やら防げるよ！」

マリア「ガアアアア！」

シシレッド「マリアさん、落ち着け、うわっ?!」

ガリイが後ろから攻撃する。

ガリイ「あら〜ごめんなさい、後ろから攻撃して！」

ホウオウソルジャー「ならば俺が相手になろう！」

スバルは和斗の援護のためガリイと対決。

マリア「ガアアアア！」

シシレッド「落ち着けてマリアさん、俺達は助けに来たんだ！」

リュウコマンダー「和斗君、こうなったら暴走を止めるまでは耐えるしかない！」

ガリイ「ふん、いつまで耐えるかしら?!」

リュウコマンダー「させんぞ！」

ギヤラクシー！

リュウコマンダー「ドラゴインパクト！」

シヨウ総司令は必殺技でガリイに向けて放ったがガリイはそれを避ける。

ガリイ「ちっ、相手が悪かったわね、こうなったら引き上げ、バイナラ！」

ガリイはレポートジェムを使って逃げた。

ホウオウソルジャー「待て、逃げられたか！」

マリア「ガアアアア！」

シシレッド「マリアさん、こうなれば力全開に暴走を止めてやる、シヨウ総司令、ス

バル、レグルスバーストを使う、未来とエルフナインを連れて安全な所へ！」

リュウコマンダー「和斗君、あの技は駄目だ、至近距離で使ったら体がもたないぞ！」

シシレッド「それしか止める方法がないんだ、頼む！」

ホウオウソルジャー「総司令、和斗に掛けるしかありません！」

リュウコマンダー「……わかった、だが無理はしないでよ！」  
シシレッド「オツキュウ！」

シヨウ総司令とスバルは未来とエルフナインを連れて安全なところへ行き。

マリア「ガアアアア！」

シシレッド「マリアさん、我慢してくれよ、止める為だからな！」

ギヤラクシー！

和斗はキュータマを2回引くとシシストライカーの口部分からビームが発射する準備し。

シシレッド「行かぜ至近距離のレグルスバースト！」

和斗はビームを放ち爆破、マリアの暴走を止め、ギアを解除するが和斗は変身解除し倒れ、シシストライカーはボロボロ。

響「はっ？和斗君？しっかりして和斗君！」

カジキイエロー「マリア姉さん？しっかりしてください！」

響とセレナ達は駆けつけて和斗とマリアを起こすが気を失った。

和斗「ん?ここは?何処だ?!」

翼「政府が用意した宿だ、倒れた獅子野を立花が運んだぞ!」

和斗「すまねえ、俺は!」

翼「謝ることなんてない、全くマリアを止めるために無茶をするなんて、君のバイクが壊れかけだぞ!」

和斗「そういえばマリアさんは?!」

翼「マリアなら君より先に起きてたぞ、君が寝てる間は立花と小日向が付き添いしてたぞ!」

和斗「そうだったんだ、響と未来、俺の事を心配してたのか!」

ガチャ

響「あつ、和斗君、起きてたんだ、良かった!」

和斗「あつ、いてて!」

響と未来が入ってきて響はいきなり和斗を力一杯抱きしめ。

未来「響、和斗君まだ怪我してる!」

響「あつ、ごめん!」



玄十郎「何？オートスコアラーが自分で来てだだと?!」

シヨウ・ロンポー「そうなんだよ、玄十郎司令とステインガー達が調査をしてる間、ガリイがボクチン達の前に現れて襲ってきたんだよ!」

シヨウ総司令は玄十郎司令達にガリイが現れたことを話し。

ステインガー「どういう事だ？確かオートスコアラーは主の命令で動くはずだが?!」  
シヨウ・ロンポー「もしかすると、自ら動いてる可能性がある!」

マリア「……!」

マリアは海を眺めてた。

マリア（私は強くなりたいのに、衝動に負けて、妹と仲間、大切な人に迷惑をかけてしまった、弱いままいられないのに!」

エルフナイン「あっ!」

セレナ「マリア姉さん?!」

マリア「あら？エルフナイン？セレナ？壮汰？3人とも何やってるの?!」

エルフナイン「えっと、セレナさんと壮汰さんとバレエの練習です、ボクに知識があっても最初から出来たわけじゃないから練習して皆さんと楽しみたいです!」

マリア「ふふ、ねえ? エルフナイン?!」

エルフナイン「はい? 何ですか?!」

マリア「どうしたら私は強くなれるのかしら?!」

エルフナイン「それは... マリアさんが教えてくれたじゃないですか!」

マリア「えっ?!」

スバル「マリアさん、エルフナイン、壮汰、セレナ!」

スバルがマリアとエルフナイン達の所に来た。

マリア「スバル!」

スバル「マリアさん、お体の方は?!」

マリア「もう大丈夫よ、心配してくれてありがとう!」

セレナ「スバルさん、どうしたのですか?!」

スバル「ああ、マリアさんとエルフナインと壮汰とセレナがいなかったから探してたんだ!」

マリア「スバル、私!」

マリアはスバルに何か伝えようとすると。

ガリイ「あら？またあんた達いるのね！」

ガリイがまた現れた。

壮汰「ガリイ?!」

マリア「また現れたわね、もう昼のようにはいかないわ！」

ガリイ「ふーん、じゃあこいつらの相手をやってみな！」

ガリイはジエムを出してアルカノイズ多数と0号を2体出現。

スバル「行こう、マリアさん、セレナ、壮汰！」

マリア「ええ、行きましょう！」

翼「オートスコアラーがまた現れただ?!」

ラフタ「はい、現在、アルカノイズ多数と0号が2体現れてスバルさんとマリアとセレナと壮汰が戦闘をおこなってます！」

切歌「マリア！」

調「急いで行こう！」

シヨウ・ロンポー「よし、和斗君と功太君と祐一君と蓮司君、出撃だ！」

5人「オツキユウ!」

和斗達は響達装者と部屋を出たその時。

緒川「: : ?!」

未来「どうしたのですか?!」

緒川「今、誰かいるような気がします!」

ホウオウソルジャー「はあー、せい!」

マリア「せい、やあ!」

カジキイエロー「それ、たあ!」

オオカミブルー「おりや!」

スバル達はチェンジしてキューウエポンでアルカノイズに攻撃、マリアは短剣で切り裂き。

ガリイ「あらさつきよりやるわねあんた!」

マリア「当たり前よ、私はもう迷わない!」

和斗「マリアさん？スバル?!」

和斗達が駆けつけてきた。

ガリイ「シシレッド達、来たわね、あんた達の相手はこつちよ!」

和斗達の前に0号2体。

翼「0号？オートスコアラーはこんなものまで残ってたのか?!」

オオカミブルー「和斗兄貴!」

カジキイエロー「和斗さん!」

壮汰とセレナが和斗達と合流。

カジキイエロー「和斗さん、お体の方は大丈夫ですか?!」

和斗「ああ、ちよつと痛いが大丈夫だぜ!」

クリス「あんまり無理すんなよ、バカと未来が悲しむからな!」

和斗「解つてる、心配するな、壮汰!」

和斗が壮汰に渡したキュータマはガングニールキュータマ。

オオカミブルー「これって？ガングニールキュータマ？俺が使つて良いのか?!」

和斗「ああ、今回はお前が使え!」

蓮司「よし、行くで!」

祐一「ああ!」

5人「マワースライド!」

ワツツア!サイコーキュータマ!

ガングニールキュータマ!

イチイバルキュータマ!

イガリマキュータマ!

シユルシャガナキュータマ!

アガートラムキュータマ!

セイザチエンジ!

スーパーセイザチエンジ!

6人「スターチエンジ!」

和斗はサイコーキュータマを使ってチエンジ、壮汰、功太、蓮司、祐一、セレナは聖遺物キュータマを使ってチエンジ、響達はギアを纏った。

シシレッドオリオン「ミラクルスター、シシレッドオリオン!」

サソリオレンジ「ブラストスター、サソリオレンジイチイバル!」

オオカミブルー「ナツクルスター、オオカミブルーガングニール!」

テンビンゴールド「スピニングスター、テンビンゴールドシユルシャガナや!」

ヘビツカイシルバー「デスデススター、ヘビツカイシルバリーガリマ!」

カジキイエロー「シルバリオスター、カジキイエローアガートラムです！」

響「ガングニール、立花響！」

翼「アメノハバキリ、風鳴翼！」

クリス「イチイバル、雪音クリス！」

切歌「イガリマ、暁切歌デース！」

調「シユルシヤガナ、月読調！」

奏「ガングニール！天羽奏！」

シシレットオリオン「究極の救世主と装者、宇宙戦隊！」

全員「キュウレンジャー！」

カジキイエロー「和斗さん、私はスバルさんとマリア姉さんの援護にいきます！」

シシレットオリオン「よし、わかった、こっちは俺達に任せろ、お前らの運、試して

もらうぜ！」

和斗達はアルカノイズと0号2体と対決し、セレナはマリアとスバルの方へ駆けつけ。

ガリイ「アハハハハ、2人だけで私に勝てないわ！」

マリア「くっ、ならば！」

ホウオウソルジャー「マリアさん?!」

マリアはギアペンダントを持ってイグナイトモジュールを抜剣を構え。

マリア「それでも、強くなるために！」

エルフナイン「マリアさん！」

エルフナインがマリアに向かって喋る。

マリア「エルフナイン?!」

エルフナイン「ボクに教えてくれましたよね、大事なものは自分らしくあることって！」

マリア（そうか、私はもう知っていたのね！）

マリア「エルフナイン、見ていてほしい、私の自分らしさを！」

カジキイエロー「マリア姉さん！」

セレナはスバルとマリアと合流。

マリア「行くわよ、イグナイトモジュール、抜剣！」

ダインスレイフ

ペンダントが十字架に変わり、マリアの体に刺さる。

マリア「ぐっ、ぐああああ！」

エルフナイン「マリアさん?!」

ホウオウソルジャー「ならば！」

カジキイエロー「私達で！」



スバルとセレナはイグナイトモジュールに苦しんでるマリアを支える。

マリア「スバル？セレナ?!」

カジキイエロー「マリア姉さんだけ苦しい思いはさせません!」

ホウオウソルジャー「ああ、マリアさんは俺と翼の事を大切な人にしてくれた、今度は俺達がマリアさんを支える!」

マリア「スバル、セレナ!」

ガリイ「あら?いつまで待たせるの?!」

マリア（そうだ、私は弱いままでもいいんだ、だからこの衝動に負けてたまるかー!）

イグナイトキュータマ!

セイザアタック!

勢いでイグナイトキュータマを装填し、イグナイトモジュールが成功した。

ホウオウソルジャー「マリアさん、よし俺も!」

アメノハバキリキュータマ!

カモン・ザ・チエンジ!

ホウオウソルジャー「スターチエンジ!」

スバルはアメノハバキリキュータマを使ってパワーアップ。

ホウオウソルジャー「ムラマサスター、ホウオウソルジャーアメノハバキリ!」

マリア「アガートラーム、マリア。カデンツァヴナ。イヴ！」  
スバルとマリアはポーズを決め。

ホウオウソルジャー「刮目せよ、新たな伝説が始まる！」

ガリイ「あつそ、あんたらまとめて凍り付けにしてあげるわ！」

マリア「行くわよ、スバル、セレナ！」

カジキイエロー「はい！」

シシレッドオリオン「おりゃ！」

響「どりゃ！」

クリス「ちよせー！」

サソリオレンジ「くらえ！」

翼「はあー！」

ヘビツカイシルバー「そいや！」

テンビンゴールド「そりゃ！」

和斗達はアルカノイズを多数倒し。

調「数が多すぎる！」

切歌「シンフォギアを纏ったアタシ達のセイザブラスターを使うデース！」  
イテキュータマ！

セイザアタック！

切歌はイテキュータマを出してアルカノイズに向けて光の弓矢攻撃。

ヘビツカイシルバー「ナイス切歌！」

テンビンゴールド「よっしゃ一気に決めるで！」

ギャラクシー！

ヘビツカイシルバー「イガリマブレイク！」

テンビンゴールド「スピニンググループ！」

功太と蓮司が残りのアルカノイズに向けて必殺技し。

ギャラクシー！

オオカミブルー「ナックルインパクト！」

サソリオレンジ「ブラストインパクト！」

シシレッドオリオン「インフィニッシュブラスト！」

和斗と壮汰と祐一は0号2体に向けて必殺技し。

響「どりゃ！」

奏「おりゃ！」

翼「せい！」

クリス「くらいやがれ！」

最後に響達が決まった。

シシレッドオリオン「よし、後はガリイだけだ！」

響「行こう、和斗君、皆！」

ホウオウソルジャー「はあー、せい！」

カジキイエロー「それ、えい！」

マリア「はあー、せあー！」

鉄腕アガートラムの曲が流れ、スバルとマリアとセレナはガリイと対決。

ガリイ「へー、ハズレ装者とキュウレンジャーのくせになかなかやるわね！」

ホウオウソルジャー「俺達の力を甘く見るなよ！」

カジキイエロー「私達はネオジャークマターを倒して強くなりました！」

マリア「今の私達なら皆と強くなってやれる！」

マリアは短剣を左腕に装着して腕から短剣型ビームを発射。

ガリイ「ぎゃあああ！」

命中したがガリイは泡になり。

ホウオウソルジャー「ん？そこだ！」

ガリイ「ぎゃあああ！」

スバルは後ろに感を感じて剣を振ってガリイに命中。

ガリイ「お前？何故私が後ろにいると気づいた?!」

ホウオウソルジャー「感覚を研ぎ澄ませた、お前の足音の声がかすかに感じてた！」

ガリイ「おのれ〜！」

ホウオウソルジャー「今だ、マリアさん、セレナ！」

マリア「ええ、はあー！」

カジキイエロー「任せてください、それ！」

マリアとセレナは短剣で連携攻撃し。

ガリイ「ぎゃあああ！」

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「くらえ、ハバキリ両断！」

ガリイ「ぐええええ！」

スバルはガリイに向けて剣の必殺技し、ガリイは倒れかける。

ホウオウソルジャー「マリアさん、セレナ、最後は3人で決めるぞ!」  
カジキイエロー「はい!」

マリア「これで決めましょう!」

ギヤラクシー!

カジキイエロー「シルバリオスラッシュ!」

マリア「イグナイトブレイク!」

ホウオウソルジャー「フェニックス一刀両断!」

ガリイ「私が、私が一番乗りだから!」

ガリイはスバル達の攻撃で爆発。

3人「グツドラック!」(です!)

シシレッドオリオン「スバル、マリアさん!」

オオカミブルー「セレナー!」

和斗達も戦いが終わってスバル達と合流。

翼「マリア、スバル、勝ったんだな?!」

マリア「ええ、スバルとセレナのお陰よ...!」

マリアは倒れてギアを解除。

エルフナイン「マリアさん?!」

ホウオウソルジャー「大丈夫だ、気をうしなただけだ！」

？「ほお、ガリイを倒すとはやるなキュウレンジャーとシンフォギア！」

砂浜から魔方阵が現れたのはキャロルとキャロルの隣にいる顔を隠した黒いフードの女性。

ホウオウソルジャー「キャロル？何しに来た?！」

キャロル「見ての通りだ、お前達に見せるものだ、見ろ！」

黒いフードの女性がフードを脱ぎ捨てるとその素顔は未来そっくりの人物。

シシレッドオリオン「なっ？未来?！」

響「えっ？未来がもう一人?！」

シヨウ・ロンポー「どういう事だ?！」

未来「えっ？私かもう一人?！」

未来はモニターに写したもう一人の自分の素顔に驚く。

？「私の名はゾディアック、ネオジャークマターが作った最強のクローン！」

キャロル「そう、鹿児島に来た時グリズラーがロボット蚊で小日向未来の血をすって

製造したプロジェクトゾディアックの最強兵器!」

シシレッドオリオン「あんなものまで作るなんて!」

キャロル「じゃあなキュウレンジャー、シンフォギア、次にあった時は貴様らの最後だ!」

キャロルは魔方陣を使つてゾディアックと共に消え。

ガリイ「控えオロ、リベンジよ!」

ガリイが巨大化と共に0号2体も巨大化。

シシレッドオリオン「響、翼さんとセレナ達はマリアさんとエルフナインを頼む!」

響「うん、任せて和斗君!」

セイザドツキング!

スーパーキュウレンオー!

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー!」

カモン・ザ・ドツキング!

ホウオウソルジャー「ギガントホウオウ!」

ウエイクアップオリオン!



オリオンバトラー！

クリス「よっしや、今日はあたしがオリオンバトラーで行くぜ！」

和斗達はガリイの相手をし、スバルとクリスは0号2体の相手をする。

シシレッドオリオン「おりや、くらえ！」

ガリイ「ぎやあ、やってくれたな、これでもくらえ！」

へびツカイシルバー「うわっ！」

ガリイは氷攻撃でスーパーキュウレンオーに向けて命中。

サソリオレンジ「これでもくらえ！」

イチイバルキュータマ！

セイザアタック！

祐一はイチイバルキュータマを使ってミサイル攻撃しガリイに命中。

ガリイ「ぎやあああ！」

シシレッドオリオン「よし、一気に決めるぞ！」

ギヤラクシー！

5人「スーパーキュウレンオー、ファイナルブレイク！」

スーパーギヤラクシー！

和斗達はスーパーキュウレンオーの必殺技でガリイに攻撃し撃破。

クリス「よっしや、あたしも続くぜ！」

ギヤラクシー！」

クリス「オリオンバトラー、ハンマーブレイク！」

ギヤラクシー！」

ホウオウソルジャー「ギガントホウオウ、ブレイジングスラッシュュ！」

クリスとスバルも続いてオリオンバトラーとギガントホウオウの必殺技で0号2体に攻撃し撃破。

全員「地球は俺達が（あたし達が）守る！」

ガリイを倒して数時間後、和斗達は夜の楽しみに花火をしていた。

和斗「よっしやラツキー、花火楽しいぜ！」

響「これが夏の楽しみだね和斗君！」

功太「よっしや、切歌と調とアミとエリの為に俺と蓮司が特大打ち上げ花火を点火！」

切歌「おおお、スゴいデース！」

蓮司「たまやぐやで！」

調「迫力！」

クリス「ロケット花火行くぜ、うわっ?!」

祐一「おいおい危ないぞ！」

奏「小太郎、あたしと花火は楽しいか?!」

小太郎「うん、皆でやると楽しい！」

スバル「……！」

スバルは一人で海を眺め。

マリア「隣いいかな?!」

スバル「ん? マリアさん?!」

マリアはスバルと隣に座る。

マリア「スバル、あの時はセレナと一緒に私を支えてくれてありがとう、とても感謝するわ！」

スバル「いや、良いですよ、そんなことは、マリアさんがイグナイトモジュールを成  
功して良かったですよ！」

マリア「フフ、ありがとうスバル！」

マリアはスバルの顔を近づいてキスをし。

セレナ「マリア姉さん、スバルさん！」

壮汰「花火無くなりますよ！」

マリア「ふふ、じゃあ行こうかスバル！」

スバル「あつ、はい！」

切歌「あれ？花火が無くなりそうデース！」

響「じゃあやろうか？あれ！」

和斗「よっしゃラツキー、やるぞ！」

全員「買い出しじゃんけん、じゃんけんポン！」

負けたのは響だけだった。

響「あく負けた！」

和斗「仕方ない、俺も行くか！」

未来「じゃあ私も！」

響「わあ、和斗君、未来、ありがとう！」

コンビニに着いた和斗と響と未来。

？「あれ？未来ちゃん？和斗君?！」

和斗「えっ？響の親父さん?！」

未来と和斗を知ってる響と髪の色そっくりの男性。

響「お．．お父さん?！」

? 「おお? 響? 大きくなっとな!」

響 「……!」

響は父親の顔を見て離れて走った。

未来 「響?!」

和斗 「おい、響?!」

NEWSSTORY

## スペース43、ザババの犬猿の仲!

ガリイを倒して数日後

和斗は未来と一緒に下校中。

和斗「なあ未来、響はどうしたんだ?一緒に帰ろうと用事だなんて!」

未来「確かお父さんに会いに喫茶店なの、響はお父さんからメールが来てて!」

「おい、赤い機械と青い機械と全力全開なお兄さんがいるぜ!」

「マジで?行こうぜ!」

和斗「赤い機械と青い機械と全力全開?まさか?!」

未来「あつ、待って和斗君!」

和斗と未来は子供が聞こえた声についていき。

東京市街地

? 「おいおい、お前らあんまり俺達を見つめちゃいけないぜ!」

? 「いやはや私達の事お気になったのですか?!」

？「あはは、そうかもしれないよ！」

和斗「えっ？えええええ？介人？ジュラン？ブルーン?!」

和斗と未来は市街地に着いて和斗は知ってる人達に驚く。

ジュラン「おおお？和斗じゃないか？久しぶりだな！」

未来「えっ？和斗君？この人達と知り合い?!」

和斗「ああ、俺と響と小太郎とクリス先輩と一緒にこいつらの世界に行ってたんだ！」

ブルーン「私達、和斗さんの世界に迷ったみたいですよ！」

和斗「ここについてはまずいな、介人、ここは俺の家に来い！」

介人「うん！」

和斗と未来は介人とジュランとブルーンを連れて家に行く。

獅子野家

ガチャ

母「あら和斗？お帰り、えっ？誰この人達?!」

介人「お邪魔します！」

ジュラン「おおお、和斗パイセンの家にお邪魔！」

ブルー「良い家ですね!」

介人達に驚いた和斗の母。

和斗「俺の知ってる人達なんだ!」

未来「すみません和斗君のお母さん驚いて!」

和斗「じゃあ俺達は介人達を部屋に案内するよ、さあ行くぞ介人!」

介人「うん、行こうジュラン、ブルー!」

和斗は未来と介人とジュランとブルーを自分の部屋に連れていく。

和斗の部屋

和斗「さて、話しに戻ろう、介人達は何で俺達の世界に来たんだ?!」

介人「ああ、実は俺達はトジテンドを追うと罠にはまってたんだ!」

そう話は数時間前、和斗と響達がリディアンで勉強中の話しに振り返ります。

介人達のいる世界

ゼンカイザー「ちよわ!」

ゼンカイジュラン「ちよいや!」



ゼンカイブルー「ブルーン！」

介人達は市街地でトジテンドと対決している、今回の相手はイジゲンワールドだった。イジゲンワールド「やっべー、このまま負ける、どうすんだ?!」

ゼンカイザー「さあ、とどめ全開！」

イジゲンワールド「ウソでーす、なんつって！」

イジゲンワールドは異次元の扉を開いて逃げるが。

ゼンカイジュラン「おい待て逃がすかよ！」

ゼンカイブルー「ジュラン？待ってください！」

ゼンカイザー「よーし俺も行くぞ！」

介人達は異次元に入りイジゲンワールドを追うが扉は閉まる。

セツちゃん「介人？ジュラン？ブルーン?!」

ゼンカイザー「ここって異次元?!」

ゼンカイジュラン「マジかよ？俺達どこかに飛ばされてんじやねえのか?!」

ゼンカイブルー「どこに行くかは解りません！」

3人「うわああああ！」

介人達は異次元に迷い込んだ。

ジュラン「んで現在はお前らのいる世界に着いて介人とブルーンと一緒に買い物に行ってた!」

和斗「その買い物袋は?まさかガオーン達にあげるお土産か?!」

介人「うん、ヤツちゃんとマジメ達にあげようと買ってんだ、ツヴァイウィングのCDとか!」

ブルーン「マリア・カデンツァヴァ・イヴさんのCDや写真集を買いました、いい買い物して良かったです!」

和斗「それで、お前から帰れるのか?異次元トネルスイッチはあるのか?!」

介人「それが、カラフルに置いていったんだよ、トジテンドが現れた時は部屋に置いたまま!」

ブルーン「ゾックスさんやガオーン達とセツちゃんに連絡しようとしたんですが電波が悪いですよ!」

ジュラン「ぶっちゃけマジで最悪だぞこれは!」

和斗「そうだ?介人達は俺とのLINEは登録してる?!」

介人「俺達はまだなんだよ、和斗君、君達と初めて会った時は登録してないよ!」

和斗「じゃあ俺と登録しようぜ、ジユランとブルーも一緒に！」

ブルー「ええ、是非お願いします！」

未来「じゃあ響のLINEも一緒にいいですか?!」

ジユラン「サンキューじゃあヨロシコ！」

和斗と未来は介人とブルーとジユランとスマホのLINE登録し、響のLINEは未来が介人達に教え。

介人「あれ? 面白いえば響ちゃんは?!」

和斗「ああ、響なら！」

一方、響は。

響「……！」

? 「いや、またここで会えるとは思わなかったよ、お母さんは元気にしてる?!」

響「お父さんには関係ないよ！」

喫茶店で響と話をしてる男性の名は響の父親、立花洗、和斗の父親とは昔の知り合いである、和斗達、獅子野家が小学四年生の3学期が終わり、埼玉に転勤の時は未来の両親と見送りに来てた、それから響と未来が中学2年になり、響は一人でツヴァイウィン

グのライブに行き、会場は盛り上がったがその途中、S・O・N・Gの誕生前の二課が実験に使ったネフシユタンの鎧の研究が暴走し、会場にノイズが現れ、翼と奏はギアを纏って戦うが逃げ遅れた響は飛んで来た奏のガングニールの欠片が体に貫き重症、奏はLincornが切れてピンチに絶唱を使おうとしたがキュウレンジャーに変身した小太郎と仲間のバランスとナーガが駆けつけてノイズを迎撃、重症になった響は搬送し生存、ライブ事変が終わった後、巻き込まれた人達に政府から大量の資金が来た、勿論、響の所にも来たが事態は最悪になる、響の通う中学校が響を憎む、ライブに来た生徒がノイズに巻き込まれて死んでいった事を恨み、クラスからは（どうしてアンタが生きてるのよ?この人殺し!）と言われ響はいじめられる、それと同時に響の父親も会社の社長にリストラされ我慢できなくなり家族から逃げた。

これがライブ事変だった。

市街地

切歌「あつ、功太、こつちデース!」

功太「おうよ、待たせたな切歌、調、蓮司とアミとエリと来たぜ!」

調「ジューズ飲もう!」

蓮司「そうやな、ほな自販機で買うで！」

調達は自販機でジュースを買う、調はフルーツジュース、アミは緑茶、エリはオレングジューズ、功太は蓮司とコーラ、さて切歌は。

切歌「決めたデス、アタシも功太と一緒にのコーラデース、あっ！」

何と切歌は功太と蓮司と同じコーラを買おうと間違えてブラックコーヒーを押してしまつた。

切歌「デデデース？間違えてブラックコーヒーを押したデース！」

功太「仕方ねえな、俺のコーラと交換してやるよ、ほら！」

切歌「いいデスカ？ありがとうデース、功太は優しいデス！」

功太「へへ、良かったな！」

功太は切歌が間違えて買ったブラックコーヒーとコーラと交換して皆は飲んだ。

蓮司「功太も優しいところあるやん、ワイもちよつぱり良かったで！」

功太「てっ？切歌が間違えてブラックコーヒー買ったから交換しただけだぞ！」

調「功太、切ちゃんが好き?!」

功太「そうだな……俺にとつては切歌と調は俺にとつての大切な人かな?!」

蓮司「何やったらワイはアミとエリが好きやな！」

アミ「蓮司君の家のたこ焼き屋さんはずごく美味しかったね!」

エリ「切歌と調も私達も蓮司と両親が作ったあの味が大好きよ!」

功太と切歌達はジュースを飲みながら話題を話すと。

ミカ「キャハハハ、オマエラ楽しく話してるな?!」

イジゲンワルド「今回はコイツとコンピを組んで異次元に飛ばしてやるぜヒャハハ  
!」

切歌達の所にミカとイジゲンワルドが現れ。

リベリオン本部司令室

シヨウ・ロンポー「ん?どうした?!」

藤高「市街地にオートスコアラ―反応ともうひとつは?機械みたいな生命体です!」

玄十郎「あおい君は響君に連絡を、ラフタ君は和斗に連絡を頼む!」

ラフタ「わかりました!」

ステインガー「機械みたいな敵?また新たな敵かもしれん!」

玄十郎「ああ、今は和斗君達に任せよう!」

響の端末から通信が入る

響「はい、わかりました！」

響は立ち上がり。

洗「あつ、響！」

響「?!」

洗「出る時にお金を出してくれ、父さん金欠だから！」

響「くっ！」

響は洗から注文書を取ってお金を払って行った。

和斗の部屋

和斗「ラフタ？オートスコアラが現れた？わかったすぐに行く！」

ピッ

未来「ラフタから?!」

和斗「ああ、切歌と調達のいる所にオートスコアラが現れたんだ、行ってくる！」

未来「気をつけてね！」

ブルーン「あの？私達も一緒に行つてよろしいですか?!」

ジュラン「ああ、もしかしたらアイツがいるかもしれないぞ！」

和斗「いや、お前らは未来と一緒にいろ、邪魔になるぞ!」  
和斗はジャケツトを着て現場に向かった。

ブルーン「私達は人助けするために言ったんですよ!」  
ジユラン「仕方ねえだろ、アイツにも仲間がいるから!」

現場

アミ「あつ、和斗さん!」

和斗「待たせたな!」

エリ「あおいさんから連絡で響先輩もそつちに来ます!」

調「あつ、響さんが来ました!」

響「……!」

響が来たがなんか元気がなかった。

和斗「響?大丈夫か?!」

響「大丈夫だよ、さあ行こう!」

切歌「はいデース!」

ミカ「ギャハハ、来たかオマエラ、まとめてバラバラにしてやるゾ!」



ミカはジエムを砕いてアルカノイズを出し、イジゲンワールドも戦闘準備する。

和斗「あいつがイジゲンワールドか？とにかく倒すぞ！」

功太「おうよ！」

セイザチエンジ！

5人「スターチエンジ！」

和斗達と響と切歌と調はチエンジと歌ってギアを纏って戦う。

シシレット「おりゃ！」

響「どりゃああ！」

和斗はキューソードでアルカノイズを切り裂き、響は殴って撃破。

ヘビツカイシルバー「そりゃ！」

切歌「デース！」

カメレオングリーン「それ！」

功太はキューシツクル、アミはキューレイピア、切歌はアームドギアの鎌で切り裂き。

調「それ、えい！」

テンビンゴールド「そいや！」

ワシピンク「えい、そりゃ！」

調もアームドギアのヨーヨー攻撃、蓮司とエリはキュークロスボウとキューシヨット

で調の掩護射撃する。

ミカ「くらえダゾ！」

ミカは赤い棒を出して響達に向けて攻撃。

響「うわああ！」

切歌・調「うわああ！」

シシレット「響?!」

へびツカイシルバー「切歌?調?!」

イジゲンワルド「よそ見をするな、お前らの相手は俺だぞ！」

イジゲンワルドが和斗達の相手をし出し。

響「くっ、うおおお！」

響が1人で突っ走って立ち向かうがミカが攻撃を防いだ。

ミカ「今度はこっちの番ダゾ！」

ミカは赤い棒を持って響に攻撃。

響「ぐあ、まだまだ！」

ミカ「しつこいなくこれで倒してやるゾ！」

? 「させねえぞ！」

ミカが赤い棒を響に向かって放とうとするとピンチに駆けつけたのはジュランだつ

た。

響「えっ？ジュランさん？どうしてここに?！」

ゼンカイジュラン「話は後だ、何かと思つて来てたらイジゲンワールドが見つかった！」

ミカ「オマエ？同じ赤だな？オートスコアラーカー?！」

ゼンカイジュラン「お前の相手をしねえ、俺は和斗達を加勢するぜ！」

ジュランはミカの相手を無視してイジゲンワールドと対決。

切歌「響さーん、援護しますデース！」

切歌が響の所に援護しようとミカに攻撃するがミカは切歌の攻撃を避ける。

ミカ「キャハハ、これでもくらえゾ！」

切歌「うわああ！」

へびツカイシルバー「切歌?！」

ミカは避けてすぐ切歌に向けて爪攻撃。

響「うっ！」

響も巻き込まれ倒れて気を失う。

シシレッド「響?！」

切歌「響さん?！」

ミカ「さあ、トドメだゾ！」

ミカは切歌と響に向けて赤い棒を発射しようとすると。

調「させない!」

調はヨーヨー攻撃で切歌と響を守った。

切歌「調?!」

調「切ちゃん?大丈夫?!」

調は切歌を心配しようと声をかけ、切歌はこう答える。

切歌「こんなの、大丈夫じゃないデス!」

調「えっ?!」

ミカ「あー、もう飽きたから帰るゾ、これでもくらえゾ!」

ミカは調に攻撃しダメージを負う。

調「うわっ?!」

エリ「調?!」

ミカ「イジゲンワールド、来い、帰るゾ!」

イジゲンワールド「オツケー、じゃあ異次元を開けて逃げるヨー!」

ゼンカイジュラン「てっ?おい?逃げるのか?!」

イジゲンワールド「へへくん、ミカが飽きたと言ったから帰るよーん、じゃあね!」

イジゲンワールドはミカの所に行つて異次元の扉を開けてミカを連れて去った。

！」 シシレッド「くそ、逃げられたか、ジュラン、響達を本部に連れていくから手伝って

！」 ゼンカイジュラン「よっしゃ、任せろ！」

和斗と功太達とジュランと一緒に響と切歌と調を連れて本部に行った。

NEWSTORY

## スペース44、仲直りのイグナイトモジュール!

ミカとの対決から数時間後、俺とジユランと功太と蓮司とアミとエリは負傷した響と切歌と調をメデイカルルームに連れていった。

リベリオン本部メデイカルルーム

エルフナイン「皆さん、大丈夫ですか?!」

和斗「ああ、俺と功太達は大丈夫だけど!」

功太「ああ、問題なのはあの二人だ!」

切歌「……!」

調「……!」

切歌と調は何だか怒ってる。

切歌「調が悪いデス!」

調「切ちゃんが悪い!」

功太「お前ら喧嘩なんかしてるじゃないぞ!」

響「ごめん、私を取り乱したせいで!」

和斗「響は悪くなんかないぞ、それに何でお前は突っ走ってんだ?!」

響「実はお父さんに会いに行つて迷つたんだ、それで！」

響は和斗達に父親に会つたことを話すと玄十郎司令とシヨウ総司令がメデイカルルームに入つてくる。

玄十郎「和斗君、ジュランという人はいるか?!」

和斗「ここにいるぞ！」

ジュラン「俺に何のようだ? やつさん?!」

シヨウ・ロンポー「君に話したいことがあるけどいいかな?!」

ジュラン「ああ、別に構わねえぞ！」

数分後

シヨウ・ロンポー「成る程、話は大体わかつたよ、君たちのいる世界でボクチン達の所にいるイジゲンワールドを追つてここに來たつて事だね?!」

ジュラン「ああ、イジゲンワールドの異次元空間に入つて追つたらここに來て和斗の家でかくまつた、心配して見てたら和斗達がオートスコアラとやらと戦つてる所を見たらイジゲンワールドが現れたから加勢に行つたんだ！」

ジュランはシヨウ総司令に話を伝え。

玄十郎「それで、君の仲間は何処へ?!」

ジユラン「ああ、介人とブルーンは和斗の家にゆっくりしてるぞ、未来も一緒に!」

夕方

一方獅子野家

2階、和斗の部屋

未来「あの? 介人さんは自分たちの世界や並行世界の皆さんの為に戦ってるのですか?!」

介人「うん、ジユランとブルーンとガオーンとマジヌ、仲間みたいなゾックスとフリントとリツキーとカッターと一緒に世界を解放するために戦ってるよ!」

ブルーン「ええ、トジテンドに閉じ込められた並行世界の皆様の為に戦っています!」  
ガチャ

和斗「ただいま〜!」

ジユランと一緒に帰ってきた和斗。

未来「あつ? お帰り和斗君、あれ? 響は?!」

和斗「響ならメデイカルルームで治療して入院してる!」

ジユラン「ああ、ちよつと外を見てたらイジゲンワールドが現れてミカというオートスコアラーと組んだみたいだぞ!」



介人「えっ？イジゲンワールドがここに?!」

数10分後、和斗は両親と未来と一緒にリビングで夕飯、ジュランと介人とブルーも一緒に食べてる。

和斗の父「ほお、和斗と一緒に戦ったことがあったんだな?!」

ブルー「ええ、和斗さん達が私達がいる世界に来た頃は確かコイノポリインダベとホノオワルドと一緒に倒しました!」

ジュラン「おうよ、響とキネクリちゃんと一緒にだったぜ!」

和斗の父はジュランとビールを飲みながら話で盛り上がり、ブルーはお茶を飲んで話題を話す。

未来「ジュランさん、和斗君のお父さんとお酒を飲んで話題にのってるね?!」

和斗「あ：．ああ、親父？ジュランと酒飲み仲間になるかもしれんな!」

介人「多分なるよ、ジュランの年齢は確か：：！」

ジュラン「介人、年齢の話はいい、親父さん、ともかく飲みましょう、ちよつとくらい!」

和斗の父「ああ、明日は仕事だからな、ちよつとくらい付き合うぞ!」

ジユラン「そう来なくちゃ面白いぜ、日本酒ちよつと飲もう！」

親父は冷蔵庫から日本酒を取って開けてジユランのコップに少し入れ、親父は普通に  
入れて飲んだ。

和斗の母「あなた、飲みすぎないでね！」

和斗の父「わかつてる、ちよつとくらいだけだからな！」

ジユラン「ぶっちゃけ親父さんとパーリーだぞ！」

数10分後、皆は夕食を終え、和斗は介人とブルーンと一緒に浴場に行き風呂に入り、  
入った後は未来が入ってる間は空き部屋に布団をしいて介人とジユランとブルーンを  
連れて寝る準備し、ジユランはすぐに爆睡。

和斗「じゃあ俺は自分の部屋に戻るよ、明日は未来と学校だから！」

介人「うん、今日はありがとう和斗君！」

ブルーン「ジユランを起こしてリベリオン本部に行ってみます！」

和斗「でも、明日は学校に来ないでね、来たら大騒ぎになるから！」

ガチャ

和斗は介人達に明日の事を忠告し自分の部屋に入る。

和斗「響は大丈夫なのかな?！」

未来「和斗君?、入っていい?！」

和斗「ん?ああ、いいぞ!」

未来はドアを開けて和斗の部屋に入る。

未来「和斗君、今日は一緒に寝ていいかな?！」

和斗「えっ?ええ?響いないけど?良いのか?俺と一緒に寝て?！」

未来「今日は響がいないと寂しいの、だからお願い!」

和斗「ああ?俺でも構わないぞ!」

数10分後、電気を暗くして和斗は未来と一緒にベッドに寝る。

未来「ねえ?和斗君?私と響の事?好き?！」

和斗「えっ?好きに決まってるだろ?どうしたんだ急にそんなこと言ってる?！」

未来「私ね、和斗君と再開してから考えたの、私と響、和斗君の事、大切な人だと思ってるの!」

和斗「未来……俺も未来と響の事、大切な人だと思ってる、響と未来が俺にキスをし

てから俺は幼なじみの響と未来の事ずっと大切な人だと!」

未来「ありがとう和斗君、私も響も和斗君の事が好き!」

未来は和斗を抱きしめて唇と重なってキスをした。

未来「和斗君とキスをするの久しぶりだね!」

和斗「ああ、俺がジエミニスの攻撃で意識不明の頃は響の所に行く前にしてたな、俺

からもありがとな、じゃあお休み!」

未来「うん、お休み!」

和斗は未来を抱きながら昏睡して眠りにつき。

介人「和斗君……大切な人がいてたから頑張れるんだ、よし俺も頑張るぞ!」

介人はトイレに行こうと和斗の部屋から声が少し聞こえて自分も頑張ろうと思ひ、トイレに行った。

次の日の朝

リディアン音楽院校門

和斗「おつ、祐一、小太郎、功太、蓮司、壮汰、剛、おはよう!」

小太郎「和斗おはよう！」

未来「セレナちゃん、アミちゃん、エリちゃん、クリスおはよう！」

和斗「よう、切歌、調おはよう、あれ?！」

切歌「……!」

調「……!」

和斗は2人に挨拶するがなにも言わず。

和斗「なあ?もしかして昨日の事、怒ってるのか?！」

アミ「え?ええ、エリとクリス先輩とセレナと壮汰君と一緒に来た時は2人ともいつ

も手を繋いでません！」

エリ「もしかして昨日の事まだ怒ってるかもしれない！」

セレナ「昨日、私が夕飯を作って一緒に食べましたがお二人は何も言わずまだ！」

クリス「たく、どうすんだよ?!」

和斗と未来達がリディアンに通学して数時間後、介人はジュランとブルーンをつれて  
リベリオン本部に行く。

リベリオン本部研究室

介人「お邪魔全開！」

エルフナインがいる研究室にお邪魔する介人とブルーンとジュラン。

エルフナイン「うわっ？ジュランさん？もしかして貴方達が?!」

介人「ゼンカイザーの五色田介人！」

ブルーン「同じくゼンカイブルーンのブルーンです！」

介人「響ちゃんは何処に？お見舞いに来たんだけど?!」

エルフナイン「響さんならメデイカルルームにいます、ボクがご案内します！」

介人「ありがとうございます！」

ブルーン「ん？エルフナインさん、このキュータマは何をしておられるのですか？気になります！」

ブルーンはエルフナインの研究室で光を浴びてる4つのキュータマを保管してる機械に気になる。

エルフナイン「それは聖遺物キュータマのメンテナンススチエックマシンです、ネオジャークマターやキャロル達のオートスコアラアの戦いで使った聖遺物キュータマをメンテチエックしています！」

ジュラン「ほえー、すごい機械を持つてるなオイ！」

エルフナイン「それじゃあ響さんのいるメデイカルルームにご案内します！」

メデイカルルーム

響はスマホのゲームをしている。

ウイーン

介人「ヤッホー、響ちゃん、お見舞いに来たよ！」

響「あっ？介人さん？どうしてここに?!」

介人「和斗君と未来ちゃんの前で来たよ、ブルーンとジュランと一緒に！」

ブルーン「お見舞いのコンビニのおにぎり4つ買いました、響さんの好物はご飯です

から味は色々見つけましたよ！」

ジュラン「ぶっちゃけマジで大丈夫か昨日？未来も心配してたぞ！」

響「はい、今のところは大丈夫です！」

介人「そうか、良かったね！」

ウイーン

メデイカルルームからステインガーが入ってくる。

エルフナイン「あっ、ステインガー司令？どうしたのですか?!」

ステインガー「エルフナイン、介人達はいるか?!」

エルフナイン「はい、ここにいますが?!」

ステインガー「3人を司令室に連れていく、翼とマリアとスバルと奏が海賊みたいな奴らを連行したんだ!」

ジユラン「海賊みたいな奴? おい介人まさか?!」

介人「もしかして?!」

司令室

ウイーン

ステインガー「ショウ総司令、玄十郎司令、連れてきたぞ!」

玄十郎「ああステインガー司令、来たか、介人君達に会わせる人がいる!」

介人「ええええ? ゾックス? 来てたんだ?!」

ブルー「フrintトさん? カッタナー? リッキー?!」

介人とブルーは司令室に連行したゾックス達と再会。

ゾックス「介人? お前からここにいたのか?!」

ジユラン「界賊のあんちゃん? どうしてここに?!」



プリント「実はよあたしと兄貴達はお前らを探しに行ったんだぞ！」

カッター「ああ、ガオンもマジーヌもお前らの事心配だから探してたぞ！」

リッキー「まさかこんなところにいたなんて良かったぞ！」

マリア「五色田介人とか言ったね？貴方？この人達の知り合い?!」

介人「うん、世界海賊、略して界賊、俺達の仲間みたいなものだよ！」

介人はマリア達にそう答え。

翼「そういう世界もあるというのか?!」

スバル「ああ、見たことない世界もあるかも知れんな！」

奏「驚いたな、こんな小さい奴もいるな！」

カッター「てっ、おい俺に触るなよ！」

奏はカッターに触る。

玄十郎「とにかく、君達の仲間を見つけて良かったな、後は帰れるのか?!」

介人「その前に俺達はやることがある！」

ゾックス「ああ、イジゲンワールドを倒さねえとな！」

プリント「あのオートスコアラーという奴も気になるからな！」

夕方になりリディアン音楽院校門

未来「和斗君、帰りに一緒にリベリオン本部に行こう!」

和斗「ああ、響のお見舞いに行こうぜ、介人達も行ってる!」  
すると。

和斗「ん? 玄十郎司令から連絡?、はい!」

玄十郎「市街地にオートスコアラ―反応が現れ同時にイジゲンワールドも現れた、今、切歌君と調君と功太君と蓮司君とアミ君とエリ君が現場に向かつて戦闘を始めてる、今、介人達も向かつてる!」

和斗「わかった、今向かう!」

和斗は通信を切る。

未来「玄十郎さんから?!」

和斗「ああ、切歌達が今オートスコアラ―と対決してる、イジゲンワールドも現れたから介人達も応戦してる、行ってくる!」

未来「気をつけてね和斗君!」

小太郎「俺が未来を連れて本部に行くよ!」

和斗「ありがとう小太郎、じゃあ行ってくる!」

和斗は現場に向かう。

切歌「デース！」

調「はあああ！」

ヘビツカイシルバー「おりやあ！」

テンビンゴールド「そいや！」

カメレオングリーン「えい！」

ワシピンク「やあああ！」

現場についた切歌と調と功太達は市民を守りながらアルカノイズを排除。

ミカ「キャハハ、お前ラの相手は！」

イジゲンワルド「俺達ウエイ！」

ヘビツカイシルバー「えっ？何処だ？うわっ?!」

功太の真下からイジゲンワルドが現れ、ミカと一緒に攻撃を受けてしまい。

切歌「功太?!」

テンビンゴールド「今行くで！」

ミカ「おっと、オマエラの相手はこっちダゾ！」

ミカは魔方陣を出すと数10体のアルカノイズと0号が2体現れ、蓮司達の邪魔をする。

ワシピンク「くっ、邪魔よ!」

カメレオングリーン「これじゃあ功太君と切歌ちゃんと調ちゃんのところに行けない!」

すると

? 「俺に任せろ!」

《32バアアン!》

《ババン、ババン、ババン、ババババン!》

《ゴオオオンジャー!》

ゼンカイザー「マッハで全開、サーベルストレート!」

ゴーオンジャーギアを使ってマッハで駆けつけてロードサーベルで数10体のアルカノイズを仕留める介人、ブルーンとジユラン、ゾックスも駆けつけ。

ゼンカイブルー「見つけましたよ、イジゲンワールド!」

ツーカーイザー「今度は俺も相手にしてやる、痛快に行くぜ!」

介人達はイジゲンワールドの相手をしだし。

切歌「デデデ? 何デスか? あの金は?!」

和斗「待たせたな、俺も行くぞ!」

セイザチエンジ!

和斗「スターチェンジ！」

和斗もチェンジして0号とミカの相手しだし。

ミカ「キャハハ、ミカの相手してるんじゃないゾ、2人はこれでもくらえ！」

ミカは炎の棒を出して切歌と調に向けて攻撃するが2人はそれを避け。

切歌「これでもくらえデース！」

切歌は遠距離のアームドギアの鎌をしようとするが。

ミカ「0号！」

0号はミカの命令で切歌に向けてビーム攻撃すると。

ヘビツカイシルバー「切歌はやらせねえ！」

調と功太が切歌の前に立ってキューシツクルで0号の攻撃を防いだ。

調「切ちゃん、大丈夫?!」

切歌「何で後先考えずにアタシを守るデース?!」

調「やっぱり私は足手まとい?!」

すると

ヘビツカイシルバー「この、バカ野郎ー！」

切歌「デース?!」

調「えっ? 功太?!」

功太が切歌の前に来て右頬を殴る。

ヘビツカイシルバー「調はな、お前の事が心配で声をかけてる、調は足手まといじゃない、調はお前の為に心配してる、俺も調は切歌の事が好きなんだぞ!」

シシレット「功太、良いこと言うな!」

テンビンゴールド「切歌の為に言ったんやな!」

切歌「調: : ごめんデス、アタシは調が好きだから怒ってるデス、アタシは調に心配をかけたくないデス!」

調「切ちゃん!」

切歌は調に好きと心配をかけたくない為に謝った。

ミカ「キヤハハ、オマエラバラバラにしてやるゾ!」

テンビンゴールド「そうはさせへんで!」

ギヤラクシー!

テンビンゴールド「リブラインパクトや!」

ワシピンク「アルtailインパクト!」

蓮司とエリはキューウエポンの必殺技でミカに狙って攻撃したがそれを避け。

テンビンゴールド「功太、切歌と調のイグナイトモジュールのアシストをやるんや!」

ヘビツカイシルバー「でも、お前らはどうするんだ?!」

カメレオングリーン「私達は3人のアシストをやるね!」

ワシピンク「絶対に切歌と調の為に成功させて!」

ヘビツカイシルバー「蓮司、アミ、エリ、わかった俺やるよ!」

切歌「功太がやるなら!」

調「私達は変えられる!」

調と切歌はギアペンダントを持って構える。

調「イグナイトモジュール!」

切歌「抜剣デース!」

ダインスレイフ

2人のギアペンダントがダインスレイフになり体に突き刺さる。

調・切歌「ぐああああ!」

ヘビツカイシルバー「俺が支えてやるからな!」

功太は2人の体を支え。

ミカ「おっ?何かやるのか?0号1と2、こいつらに向けて攻撃ダゾ!」

シシレッド「させるか!」

ワッツア、サイコーキュータマ!

スーパーセイザチェンジ!

シシレッド「スターチェンジ!」

和斗はシシレッドオリオンに変わり、調達に向けて攻撃しようとする0号2体にキユーウエポンの連続攻撃。

ゼンカイジュラン「おっ? あいつら、頑張ってるな!」

ゼンカイザー「よし、俺達も負けずにやるぞ!」

ゼンカイブルー「ええ!」

ツーカーイザー「ヨホホイ!」

介人達も負けずにイジゲンワールドに立ち向かい。

切歌「負けたくないデス、この力で!」

調「今までの事、皆に謝らないと、私達は功太や皆がいるから強くなる!」

ヘビツカイシルバー「くっ、絶対に俺は2人を守ってやる!」

功太の叫びが聞こえ、切歌と調のギアの形状が変わり、イグナイトモジュール成功した。

テンビンゴールド「おっ? やったで!」



カメレオングリーン「功太君が支えたから上手くいったね！」  
ワシピンク「うん！」

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、やったな！」

ゼンカイザー「よし俺もパワーアップ全開！」

ツーカーイザー「そういうと思って持ってきたぞ、ほらよ！」

ゾックスは小さい恐竜の形した物を介人に渡してもう1つ出した。

ゼンカイザー「えっ？ゼンカイジユウギア？ゾックス持ってきてくれたの？ありがとう！」

ツーカーイザー「お前らを探す前にガオンがゼンカイジユウギアを介人に渡してくれと頼んで持ってきたぞ！」

ゼンカイザー「よしゾックス行くよ、パワーアップして和斗と一緒に倒そう！」

ツーカーイザー「オツケー、行くぜ！」

介人とゾックスはゼンカイジユウギアを變形してギアトリンガーとギアダリンガーのギア部分に装填。

ゼンカイザー「スーパージェンジン全開！」

ツーカーイザー「スーパージェンジン全開！」

《スーパージェンジン全開！》

ギアを回転し曲が流れて2人は激しいダンスし始め。

シシレッドオリオン「おっ? 2人ともダンスか?!」

そして2人はトリガー引き、ゼンカイザーの全体にジュウレンジャーのドラゴンシージャーをモチーフしたアーマーを装備しドリルを持つ、ツーカイザーはタイムレンジャーのブイレックスをモチーフしたアーマーを装備し最後に金色のマントを装備、そうこれが。

ゼンカイザー「秘密のパワーアップ、スーパーゼンカイザー!」

ツーカイザー「界賊のパワーアップ、スーパーツーカイザー!」

玄十郎「スーパーゼンカイザーとスーパーツーカイザーだと?!」

シヨウ・ロンポー「こりや、オツタマげだ!」

シヨウ総司令達はモニターでパワーアップした介人達の姿に驚き。

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、さあここからが反撃だ!」

NEWS STORY

## スペース45、切歌と調とみんなの力！

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、介人達がいるから皆であれをやるか?!」

切歌「合点デース！」

和斗達はミカ達の前に向いて並び。

シシレッドオリオン「ミラクルスター、シシレッドオリオン！」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー！」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーンです！」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク！」

切歌「イガリマの装者、暁切歌デース！」

調「シウルシャガナの装者、月読調！」

シシレッドオリオン「究極の救世主と装者、宇宙戦隊！」

7人「キュウレンジャー（デース！」

和斗達はポーズを決め。

スーパーゼンカイザー「秘密のパワーアップ、スーパーゼンカイザー！」

ゼンカイジュラン「恐竜パワー、ゼンカイジュラン!」

ゼンカイブルーン「轟轟パワー、ゼンカイブルーン!」

スーパーゼンカイザー「3人揃って、機界戦隊!」

3人「ゼンカイジャー!」

介人達もポーズを決め。

スーパーツーカーイザー「界賊のパワーアップ、スーパーツーカーイザー!」

シシレッドオリオン「俺達は!」

全員「スーパー戦隊! (デース!)」

最後に全員がポーズを決め、爆発。

未来「和斗君と介人さん達のポーズ、カッコいい♡!」

響「うん、ゼンカイザーとツーカーイザーのパワーアップが凄い!」

響と未来はメデイカルルームのモニターで和斗達のポーズを見た。

ミカ「オマエラ、まとめてバラバラにしてやるゾ、行くゾ!」

イジゲンワルド「よっしゃ、行くぜ!」

ミカとイジゲンワールドと0号2体はかかり。

シシレッドオリオン「お前らの運、試してもらうぜ！」

スーパージェンカイザー「全力全開！」

スーパーツーカイザー「ツーカーイに行くぜ！」

和斗と介人達も一斉にかかり。

シシレッドオリオン「よっしゃ、イジゲンワールドは俺と介人とゾックスに任せろ！」

ヘビツカイシルバー「よし、俺達は0号2体とミカは任せろ！」

切歌「行くデース！」

イグナイトキュータマ！

セイザアタック！

切歌と調はイグナイトキュータマを使うとユニゾンの曲が流れ、戦い始める。

ミカ「オマエラの相手はミカダゾ！」

ミカは切歌と調と対決し始め。

ヘビツカイシルバー「俺も相手にしてもらうぜ！」

功太も切歌と調の加勢してミカと対決。

テンビンゴールド「そいや！」

カメレオングリーン「えい！」

ワシピンク「それ!」

蓮司とアミとエリは0号2体の相手しキューウエポンを使って攻撃し、0号はやり返してレーザーで攻撃する。

ワシピンク「うわっ?危ないわね?!」

テンピンゴールド「よっしやアミ、これを使うんや!」

蓮司はキューバツクルからシウルシャガナキュータマを出してアミに渡す。

カメレオングリーン「えっ?私が使つて良いの?!」

テンピンゴールド「それをキューレイピアに装填して攻撃や!」

カメレオングリーン「とりあえずやってみるね蓮司君!」

ギヤラクシー!

カメレオングリーン「うわっ?剣先からシウルシャガナのヨーヨーが出てきてる?!」

アミがキューレイピアにシウルシャガナキュータマを装填すると剣先からシウルシャガナのヨーヨーが出て来て振ると0号に命中。

ワシピンク「キューウエポンに装填してヨーヨーが出てくるなんて?!」

カメレオングリーン「次はエリ、使つて!」

ワシピンク「成る程、オツケー!」

ギヤラクシー!

ワシピンク「くらいなさい、ヨーヨーインパクト！」

次にエリがシウルシャガナキュータマをキューシヨットに装填してヨーヨー攻撃の必殺技を放ち、0号の1体目を撃破。

テンビンゴールド「よっしゃ、後はワイに任せとけ、エリ！」

ワシピンク「オツケー、蓮司！」

シウルシャガナキュータマ！

セイザチエンジ！

蓮司はセイザプラスターにシウルシャガナキュータマを装填してテンビンゴールドシウルシャガナに変わり。

ギヤラクシー！

テンビンゴールド「トドメや、ヨーヨースピニングブレイクや！」

スーパーギヤラクシー！

蓮司がシウルシャガナキュータマの必殺技を使って最後の0号を撃破。

ゼンカイジュラン「どりゃ！」

ゼンカイブルーン「ブルーン！」

ジュランとブルーンは功太と切歌と調の所にいるアルカノイズの相手し。

ゼンカイジュラン「よっしや、残りはオートスコアラーのアイツただだ、行くぞブルーン！」

? 「ならば我輩も相手にしてもらおうぞ！」

ゼンカイジュラン「何だ? うわっ?!」

ゼンカイブルーン「ジュラン? 大丈夫ですか? 貴方は?!」

ジュランに攻撃したのは、異次元の扉から現れた戦車のトジテンド。

ゼンカイジュラン「てめえはバラシタラ? 何でここに?!」

バラシタラ「退屈しのぎで新しい並行世界を制圧しようと思ったらゼンカイジャーと界賊が何故ここに?!」

ゼンカイブルーン「私達はイジゲンワールドを追ってこの世界に来ました!」

バラシタラ「ならば貴様らをここで排除する!」

スーパーツーカイザー「俺も参加するぞ!」

ゾックスがジュラン達とバラシタラの所に来る。

ゼンカイブルーン「ゾックスさん、介人達の方は?!」



スーパードライバー「バラシタラが現れたからな加勢するぜ！」  
ゼンカイジユラン「サンキュー、助かったぜ！」

切歌「デース！」

調「やああ！」

ヘビツカイシルバー「そりゃ！」

ミカ「ぐわあああ！」

ミカは3人の攻撃を受けて倒れ。

ミカ「オマエラよくも怒らせたな、ぶつ飛ばしてやるゾ！」

ミカは本気を出して燃え上がり力を出す。

ヘビツカイシルバー「そんなもの、俺達は負けねえ！」

切歌・調「今の（アタシ）私達3人なら乗り越えられる！」

ミカ「ならば、これでもくらえゾ！」

ミカは赤い棒をたくさん出して拡散するように発射し切歌はそれを避け。

ミカ「避けてるだけじゃ意味ないゾ！」

切歌「わかつてるデース、だからこうするデース！」

切歌はミカに向けて鎌を投げると縛るように捕まり。

ヘビツカイシルバー「行くぜ調！」

調「うん、功太!」

ミカ「ぐわああ!」

そのチャンスに功太はスケボーに乗りながらミカに向けてキューシツクルで切り裂き、調もスケボーに乗りながらアームドギアで攻撃しミカは倒れかけ。

ヘビツカイシルバー「よっしゃ、トドメは3人で決めるぞ」

調・切歌「うん! (デス!)」

ギヤラクシー!

ヘビツカイシルバー「くらえスケボーしながらのオフユーカーサインパクト!」

切歌・調「イグナイトブレイク (デス!)」

功太はスケボーしながらキューシツクルの必殺技を放ち、切歌と調はイグナイトキュータマを使つての必殺技でミカに向けて放つた。

ミカ「ヘビの銀のスケボーしながらの攻撃は危なすぎダゾ〜!」

ミカは倒れ爆破。

切歌「やったデース、響さんの仇を取れたデース!」

調「うん、功太、私と切ちゃんの為にありがとう!」

ヘビツカイシルバー「ああ、良かったな、お前ら!」

シシレッドオリオン「おりゃ！」

スーパーゼンカイザー「ちよわー！」

POWERUPスーパーゼンカイザーの曲に流れながら和斗と介人はイジゲンワールドと対決。

イジゲンワールド「ひやは、異次元の中に逃げ込む！」

イジゲンワールドは直ぐ様異次元の中に入り和斗の後ろの方に現れようとする。

スーパーゼンカイザー「和斗君、避けて！」

シシレッドオリオン「おう！」

イジゲンワールド「なに〜?!」

介人は和斗の後ろにいるイジゲンワールドに向けて武器のゼンカイテンランスの先を伸ばして攻撃し命中、和斗はそれを避ける。

シシレッドオリオン「ナイスだ介人！」

スーパーゼンカイザー「危なかったね、さあ行こう！」

シシレッドオリオン「よっしやラツキー、行くぜ介人!」

イジゲンワールド「えーい、こうならやけど、お前らを異次元の底まで落としてやる!」  
イジゲンワールドは和斗に介人に向けて両腕の異次元ビームを放ち。

スーパージェンカイザー「その攻撃は当たらないぞ!」

介人と和斗は連携してイジゲンワールドの異次元ビームを避けまくり。

シシレッドオリオン「くらえ、キューソードとキュースパアの二刀流攻撃!」

スーパージェンカイザー「そりゃ!」

イジゲンワールド「うわっ!」

イジゲンワールドは2人の攻撃を受けて倒れかけ。

スーパージェンカイザー「よーし和斗君、最後は2人で全開に決めよう!」

シシレッドオリオン「よっしや、必殺技で決めるぜ!」

ギヤラクシー!

《バンバーン、大全開!》

シシレッドオリオン「インフィニッシュユブラスト!」

スーパージェンカイザー「超ゼンカイファイニッシュユバスター!」

和斗は必殺技を放ち、介人もゼンカイテンランスを使った必殺技で最後イジゲンワールドに向かって放った。

イジゲンワールド「ちくしょー、俺はバラシタラ様のために目立ちたかったのに何故か負けた〜!」

イジゲンワールドは爆破しトジルギアが落ちた。

バラシタラ「イジゲンワールドめ、しくじったか!」

スーパーツーカイザー「これでもくらえ!」

《超全速前進!》

スーパーツーカイザー「ツーカーイザー、レックスデイフリーザー!」

ゾックスも必殺技を放つがバラシタラはその攻撃を受けるが防いだ。

バラシタラ「この世界の制圧は諦める、クダイテスト!」

クダイテスト「お呼びで来ました!」

異次元の扉が開きクダイテストが現れると同時にバラシタラはこの場を去る。

イジゲンワールド「ひやはー、こうなったら俺がここを制圧してやるぜ〜!」

クダイテストはイジゲンワールドの力の入ったトジルギアを踏みパワーアップし。

ミカ「控えオロ〜ダゾ!」

ミカと0号2体も巨大化。

切歌「デデデス? 4体も大きくなったデース?!」

切歌達は和斗と介人のいるところに合流。

シシレッドオリオン「よし、功太、皆行くぞ!」

セイザドツキング!

スーパーキュウレンオー!

シシレッドオリオン「よっしゃラッキー、行くぞ皆!」

4人「おう(はいな!)(はい!)」

和斗達はスーパーキュウレンオーで巨大化のミカと0号2体とイジゲンワルドの相手し。

ゼンカイジュラン「ちくしょう、マジメ達がいれば合体出来るのによ!」

フrintト「兄貴、援護に来たぜ!」

フrintトがクロコダイオーを操縦してゾックス達のところに来た。

スーパーツーカーイザー「よしナイスタイミングだ、介人、あれやるぞ!」

スーパーゼンカイザー「あれだね?切歌と調の為によし行こう!」

介人とゾックスはギアトリンガーとギアダリンガーに装填したままのゼンカイジュウギアの口元を開いて閉じると。

スーパーゼンカイザー「巨体全開!」

スーパーツーカーイザー「OK、カモンベイビー!」

介人がゼンカイマークに入ると巨大化しゾックスはリッキーとカタナーと同じS

D化になり巨大化する。

切歌「デデデ？スーパーゼンカイザーが巨大化デース?!」

調「あつちはかわいい!」

切歌は巨大化した介人に驚き調はSD化になったゾックスをかわいいと思った。

スーパーゼンカイザー「ブルーン、今回は俺と合体しよう!」

ゼンカイブルーン「私と合体で良いですか?やりましょう!」

スーパーツーカーイザー「リツキー、俺と合体行くぞ!」

リツキー「よっしや兄貴、待ってました!」

ゼンカイブルーン「機界変形ブルーンダンプ!」

ブルーンは巨大化しブルーンダンプになりそして。

スーパーゼンカイザー「今回はブルーンと合体だブルーン!」

ゼンカイブルーン「ええ、行きましょう!」

介人とブルーンは曲に流れながら合体体制になり合体。

《スーパーガッシーン!》

《1、2、345、1、2、345!》

《ゼンカイオースーパーブルーーン!》

2人「ゼンカイオースーパーブルーーン!」

最後に顔が開きポーズをした。

スーパーツーカーイザー「リツキー、行くぞ!」

リツキー「兄貴と合体は二回目だ!」

SD化巨大化したゾックスはクロコダイオーにゴックンしクロコダイオーが変形、リツキーは左腕の部分につけ頭に剣のパーツを装備し胸の部分の変わり最後は顔の部分が変わり右手にドリルを持った。

スーパーツーカーイザー「ツーカーイに行くぜスーパーツーカーイオー!」

クリス「なんじゃありや?!」

シヨウ・ロンポー「こりやスゴいね、ボクチンも驚きだよ!」

クリス達はモニターで介人達の合体に驚き。

切歌「デデデス?!」



調「切ちゃん？えっ?!」

突然切歌と調が転送しついた場所は。

切歌「デデデース？スーパーゼンカイオーのコックピットデスと?!」

調「こっちはスーパーツーカーイオーのコックピット?!」

切歌はスーパーゼンカイオーのコックピット、調はスーパーツーカーイオーのコックピットに着く。

ゼンカイオースーパーブルーン（ゼンカイブルーン）「切歌さん、今回は私達と一緒に戦ってください!」

切歌「えええ？アタシとデスか?!」

ゼンカイオースーパーブルーン（スーパーゼンカイザー）「大丈夫、俺達がフォローするから!」

スーパーツーカーイオー（スーパーツーカーイザー）「調、俺とリッキーがお前のフォローするぞ!」

調「お願いします!」

? 「俺も援護に来たぞ!」

カモン・ザ・ドツキング!

ギガントホウオウ!

スバルがギガントホウオウで援護に駆けつけ。

ホウオウソルジャー「よし行くぞ!」

スバルは0号の1体目の相手をし、切歌を乗せたスーパーゼンカイオーブロンはイジゲンワルドの相手し、調を乗せたスーパーツーカーイオーは0号の2体目の相手をする。

シシレッドオリオン「よっしやラツキー、サンキュー介人、ゾックス、スバル!」

和斗達はミカの相手する。

ミカ「キャハハ、お前から五人まとめてバラバラにしてやるゾ!」

ヘビツカイシルバー「うわっ、やりやがったな!」

ワシピンク「これでもくらいなさい!」

ミカは爪でスーパーキューレンオーに攻撃し、和斗達はやり返してエリが操縦して勢い良くパンチし。

ミカ「オマエラ棒で投げてやるゾ!」

カメレオングリーン「そうはさせない!」

ウミヘビキュータマ!

セイザアタック!

ミカ「うえええ、目が回るゾ〜！」

アミはウミヘビキュータマを使ってミカの目を混乱させ。

シシレッドオリオン「よし、とどめだ！」

ギヤラクシー！

5人「スーパーキュウレンオー、ファイナルブレイク！」

スーパーギヤラクシー！

ミカ「オマエラ、絶対に覚えてろダゾ！」

ミカはスーパーキュウレンオーの攻撃を受けて爆破。

ホウオウソルジャー「ミカを倒したな、じゃあ俺も！」

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「ギガントホウオウ、ホウオウブレイジング！」

スーパーギヤラクシー！

スバルもギガントホウオウの技で0号を切り裂き。

スーパーゼンカイオーブローン「ちよわー、ブローン！」

切歌「デース！」

イジゲンワールド「ぐわっ！」

切歌は勢い良く操縦して介人達と一緒にイジゲンワールドに攻撃。

イジゲンワールド「こうなったらお前らを異次元に飛ばしてやる、イジゲンビーム！」

スーパーゼンカイオーブローン（スーパーゼンカイザー）「その攻撃は当たらないぞ、ゼンカイスーパーミサイル！」

イジゲンワールドの異次元ビームを右腕のミサイル攻撃で防ぎ。

切歌「これでマキマキデース！」

ミズヘビキュータマ！

セイザアタック！

イジゲンワールド「なっ？巻かれて動けん?!」

切歌はミズヘビキュータマを使ってイジゲンワールドの動きを封じた。

スーパーゼンカイオーブローン（ゼンカイブローン）「やりますね、切歌さん、さあトドメと行きましょう！」

切歌「はいデース、回せばいいデスね?!」

スーパーゼンカイオーブローンはブローンピッカーを持ち、切歌はギアトリンガアのレバー部分を勢い良く回し。

《超大全開!》

スーパーゼンカイオーブルーン「ブルーンピッカー、スーパーストライク！」  
イジゲンワルド「ちくしよー、また俺の負けかよバカヤロー！」

介人達の必殺技をうけたイジゲンワルドはそういつて倒れて爆破。

スーパーツーカーイオー「おりゃ！」

調「それ、えい！」

スーパーツーカーイオーは0号の相手に勢い良く武器のドリル攻撃、調もギアダリン  
ガアの操縦をしつかりし。

ビー

調「きやつ?!」

0号はスーパーツーカーイオーに向けてビームとミサイル攻撃し、命中。

スーパーツーカーイオー「いてっ、やりやがったな！」

0号はまた調とスーパーツーカーイオーに向けてミサイル攻撃し。

スーパーツーカーイオー「そのミサイル、一度食らった物は切り裂くぜ！」

スーパーツーカーイオーは0号の放ったミサイル攻撃を左腕の剣で目にも止まらない  
剣裁きで切り裂き。

調「それならこれで！」

カニキュータマ！

セイザアタック!

調はカニキュータマを使って0号の動きをハサミで動きを封じる。

スーパーツーカーイオー「よし、調とどめだ!」

調「はい、回します!」

調は操縦のギアダリッガーを勢い良く回して。

《超全速前進!》

スーパーツーカーイオー「スーパーツーカーイオー、ドリルブレイカー!」

スーパーツーカーイオーはドリルの必殺技で0号の体を貫いて撃破した。

スーパーゼンカイオーブルーン「世界全開、オールオツケー!」

スーパーツーカーイオー「ヨホホーイ!」

6人「地球は俺達(私達が)守る!」

ミカとイジゲンワールドを倒して数10分後、リベリオン本部の外で和斗とクリスと玄一郎達は介人達の見送りに来た。

和斗「介人、また一緒に戦ってありがとな!」

介人「良いんだよ今回はイジゲンワールドと一緒に倒してありがとう!」

クリス「たく、和斗や功太達を心配しやがって!」

切歌「ごめんなさいデース！」

玄十郎「まあクリス君、今回は許してやれ、ゾックス君、君達も協力してくれて感謝するぞー！」

ゾックス「良いつてことよ介人達が見つかって良かっただけだ！」

フロント「おうよ、お陰であたしもオートスコアラアの部品も手に入れたことだし、感謝、感謝！」

奏「また来いよ、今度はあたし達もそっちに来るぜ！」

カッター「おうよ、今度は一緒にカツ丼食おうぜ！」

リッキー「おうよ、うんまい土産もありがとな！」

ブルーン「切歌さん、調さん、皆様と一緒に戦ってくれてありがとうございます、私達もスゴく嬉しかったです！」

ブルーンは切歌達に感謝の挨拶し。

ジュラン「おうよ、2人ともあんまりケンカはすんなよ、功太もお前らの事が好きだからな！」

功太「ありがとなジュラン、俺は切歌と調の事、絶対に幸せにするぜ！」

調「功太！」

功太は切歌と調と一緒に手を繋ぎながらジュランに感謝。

シヨウ・ロンポー「良かったね介人君、ゾックス君達が出来てくれたから帰れるね!」

介人「うん、イジゲンワルドのお陰でここに来てたからスゴく楽しかったよ!」

翼「五色田、これを受け取れ!」

翼達が介人に渡したのは自分の書いたサイン色紙とマリアと奏が書いたサイン色紙だった。

介人「えっ?これって?翼と奏とマリアさんのサイン色紙?貰っていいの?!」

マリア「ええ、貴方たちには切歌と調を仲良くしてくれたからそのお礼よ!」

介人「ありがとう、大事に飾るよ!」

スバル「ゾックス、さっきは連行して悪かったな、俺達はお前らの事がなんか気になつてつい!」

ゾックス「いや、案外お前らのいる世界も基地もスゴく良かったぜスバル!」

エルフナイン「プリントさん、今度はボクと一緒にロボットを作りましょう!」

プリント「おっ?良いなそれ、今度は2人で共同してスツゴいもん作ろうぜ!」

介人「じゃあ俺達も帰るよ、2日間過ごしてありがとう!」

和斗「ああ、また来いよ、今度は俺、響と未来を幸せにしてみるぜ!」

和斗は介人と握手をし、ジユランとゾックス達とクロコダイオーに乗って浮上し和斗



達は手を振り、異次元の扉が開き介人達は元の世界に帰った。

チフオージユシヤトー

レイア「ミカ、派手に散るとは情けない！」

ファアラ「そうね、トジテンドのイジゲンワルドもやられて損したわね！」

ゾディアアツク「面白そうだねキュウレンジャー、さて私が自ら動くとしよう！」

ゾディアアツクは和斗達の戦いを見て企んだ顔をしていた。

NEWSSTORY

## スペース46、襲撃惑星ダグー?ゾディアックの力!

ミカを倒し介入人と一緒にイジゲンワールドを倒して2日たち。

リディアン音楽院では

切歌「功太、あーんデス！」

調「私のもあーん！」

功太「あーん、切歌と調のおかずはうめえ〜！」

功太は蓮司と切歌と調とアミとエリとクリスと祐一と一緒にリディアンの外でお弁当を食べてる。

蓮司「なはは、功太も切歌と調にモテモテやな、ワイなんかアミとエリとモテモテやで！」

アミ「モテモテというより私達にたこ焼きをあげてる！」

エリ「そうね、でも蓮司のたこ焼きはいつもうまいからね！」

クリス「お前からあんまり学院でイチヤイチャしすぎんなよ！」

祐一「そうは言ってもクリスほんとは羨ましがってるだろ?！」

クリス「おい祐一お前なく！」

祐一はクリスをからかってクリスは祐一を追いかける。

調「それにしても今日は和斗先輩と響さん達はお休みだね！」

切歌「壮汰君とセレナと剛君もお休みデース、アタシ達も宇宙に行きたかったデース！」

蓮司「そうやな、和斗先輩、響先輩と未来先輩と小太郎先輩と剛と一緒にバトルオリオンシップに乗って惑星ダグーに用事や、なんかチャンプのロボレスチャンピオンを応援に！」

蓮司はそう言いながら紙にバズーカみたいな武器の設計図を書いていた。

クリス「ん？なに書いてんだそのバズーカ?!」

蓮司「ん？これでつか？ワイが徹夜で設計図書いたキュウレンジャー専用バズーカ、キュウレンランチャー、これにキュータマを装填して放つ武器や現在エルフナインに頼んで開発してるで！」

リベリオン本部研究室

エルフナイン「えくと、ここの機械部分はこうで、こっちはここに付きますと！」

エルフナインは蓮司の設計したバズーカの開発しスバルとマリアと翼と奏もエルフナインを手伝う。

翼「これが新井が設計した武器なのか? エルフナイン回線は大丈夫か?!

エルフナイン「はい、蓮司さんから聞いてた設計だところこの所の回線を繋げば何とか  
なります!」

奏「ん? ちょっと煙が出てきたぞ?!」

エルフナイン「ん? あわわ、止めます!」

エルフナインは煙が出たとたんすぐに止める。

マリア「ちよつと回線が違ってるわね、右の方の部分の色が違うわ!」

奏「たくラフタがいれば完璧なると思ったのによ!」

マリア「仕方ないわよラフタは和斗達の用事で惑星ダグーに行ってるわ!」

奏「あたしも行きたかったのによロボレスチャンピオン!」

スバル「仕方ないさ奏、剛が持ってきた人数分のチケットしかないぞ!」

ヘラクレス座系惑星ダグー

ロボレスチャンピオン会場

ワアアア

観客の歓声が大勢に聞こえ大迫力。

響「わあスゴいねロボレスチャンピオン会場、大勢にも上がってるね!」

未来「うん、響が退院してて良かったね！」

和斗「ああ、学院休んでよっしゃラッキー！」

そう俺と壮汰とセレナと小太郎と剛は響と未来とステインガーさんと一緒に惑星ダグーに行つてチャンプさんのロボレスチャンピオン会場の応援に行った、話は昨日に戻る。

昨日リベリオン本部ブリーフィングルーム

和斗「響、退院して良かったな！」

響「うん、和斗君と未来がお見舞いに来てたお陰ですっかり元気！」

未来「響はいつも元気すぎ！」

和斗・響・未来「ワハハハ！」

そう響が退院して俺と未来と3人でブリーフィングルームでひとときにお茶を飲み。

ステインガー「和斗？ちよつと一緒にいいか?！」

ステインガーさんと小太郎と剛が俺と未来と響の座つてる所に一緒に座りこ言う。

和斗「ん？ステインガーさん？俺に声をかけてどうしたんだ?！」

ステインガー「実は相棒のチャンプが地球鹿児島代表として惑星ダグーでロボレスチャンピオン会場に出ることになったんだ！」

響「えっ？チャンプさん？ロボレスチャンピオンに出るのですか?！」

小太郎「平日にやることになったから学院休んで応援に行こうと思ってるけどいいかな?!」

未来「えっ?学院は?!」

ステインガー「その件なら俺が教師に頼んで休むことをしたんだ、そうだ!」

ステインガーさんは俺と未来と響にロボレスチャンピオン会場に行くチケットを渡す。

響「これがロボレスチャンピオン会場に行くチケット?!」

剛「そうでごわす、実は昨日チャンプ殿から手紙が来て開けたらチケットが7つ入ったでごわす、セレナ殿や壮汰殿にも渡したのでごわす!」

響「未来は宇宙に行くの初めてだから一緒にに行けるね!」

未来「うん、宇宙は綺麗かな?!」

和斗「ああ、綺麗だぜ!」

そして現在、惑星ダグーでロボレスチャンピオン会場で俺達は盛り上がっていた。

セレナ「ロボットのプロレスがあるなんてめったに見れません!」

壮汰「ああ、これは最高の戦いだぜ!」

?「おりゃあ!」

サイのロボットが突進で相手のロボの体を貫きKO。

カンカンカン!

ロボレフェリー「KO、勝者はヘビィライノス!」

「ワアアア!」

実況「おっと勝者はヘビィライノス選手、ライノス選手最後にフィニッシュのタックル攻撃で相手ロボットの体を重症だ!」

ヘビィライノス「だあー、俺は誰にも止められねえ!」

ライノスのセコンド「よくやったぞライノスこれであのチャンプに挑戦できるぞ!」

ヘビィライノス「ガハハ、アイツからチャンピオンベルトを手に入れば俺のチャンピオンベルトコレクシオンは10個目、優勝は俺の物だ!」

ヘビィライノスはセコンドと一緒に控え室に向かい。

和斗「チャンプ?勝てるのか?!

小太郎「心配ないよ、セコンドにはラフタがついてるよ!」

ステインガー「そうだな、励ましに行ってくる、行くぞ小太郎!」

剛「おいどんも行くぞござす!」

ステインガーと小太郎と剛はチャンプとラフタがいる控え室に行き。

響「和斗君、ちよつと時間あるからジュース買おう!」

和斗「たく、しょうがねえ、未来も行くか?!

未来「うん、セレナちゃんと壮汰君は?!」

セレナ「じゃあ私はリングサイダーをお願いします!」

壮汰「じゃあ俺も同じのをお願いします!」

未来「OK、じゃあ行ってくるね!」

和斗は響と未来を連れてジューズを買いに行く。

チャンプ控え室

チャンプ「おいつき、どいつき、おいつき!」

チャンプは控え室で何やらダンベルでトレーニングだし。

ラフタ「チャンプ、次は決勝戦です、相手はサイ型ロボのヘビーライノスです!」

チャンプ「相手は突進するの?!」

ラフタ「ええ、解析によると9つの惑星で開催してるロボレスチャンピオンに参加し突進攻撃が特徴の技を持っています、突進を受けた選手はボロボロになり壊れる可能性  
があります!」

ガチャ

ステインガー「入るぞ相棒!」

チャンプ「おお?相棒?小太郎に剛?来てくれたの?!」



ステインガー達がチャンプとラフタがいる控え室に入ってきた。

小太郎「決勝まで残ったねチャンプさすが！」

チャンプ「おうよ、我輩は地球の鹿児島代表としてニヤンコロ星人の皆と地球の皆の為に勝ち上がったんだお前らも応援してくれて感謝するぞ！」

剛「チャンプ殿！」

チャンプ「剛、お前さんもオウシブラックとして頑張ってるな！」

剛「はい、おいどんは皆がいてくれたから強くなれたでござす！」

チャンプ「ガハハ、そうかすっかり頑張ったな！」

数分後、和斗と響と未来はジュースを買って席に戻り、ステインガー達は控え室の話が終わって席に戻る。

実況「さあ間もなく始まります決勝戦、決勝に残った駒は地球代表ロボット、チャンプ、相手は9つの惑星で開催してるロボレスチャンピオンに挑み9つのチャンピオンベルトを持った突進王、ヘビーライノス！」

「ワアアア！」

「チャンプ、チャンプ！」

「ライノス、ライノス！」

ヘビーライノス「テメーら、チャンプのベルトを取れば俺は10個目のチャンピオンだー!」

観客のコールが聞こえ入場門からライノスとセコンドが出て。

チャンプ「なんの、正義があれば何でも出来る、いいか皆? 1、2、3!」

「モー!」

同時にチャンプとセコンドのラフタが出て全員はモーのコール。

剛「チャンプ殿、ファイトでござす!」

響「頑張つてチャンプさん、私達がついてます!」

和斗「よっしゃ、応援するぜ皆!」

小太郎「よし、頑張れチャンプ!」

小太郎達は入場門から出たチャンプを目一杯応援し選手2人はリングの中に入った。

実況「さあいよいよ決勝は惑星アフリー代表ロボット、ヘビーライノスVS地球代表ロボット、チャンプの対決です、チャンプが勝てばライノスのチャンピオンベルトは全てチャンプの物に、ライノスが勝てばチャンプのチャンピオンベルトはライノスの物になる、さあいよいよゴングをなります!」

「ワアアア!」

観客全員がまだ大勢に盛り上がる。

ヘビーライノス「チャンプ、テメーに勝てば俺は十連勝つまりチャンピオンベルトは俺の物になる、覚悟しな！」

チャンプ「ぬかせ、お前なんぞに正義のチャンピオンにふさわしくないぞ、我輩がその根性を叩き直してやるぞ！」

実況「それじゃあ始めるよ、レディー、ゴー！」

カーン

実況のゴングが鳴りチャンプとライノスは試合を開始した。

実況「さあ始まりました決勝戦の試合、動き出すのは誰だ？おっと最初に動き出したのはライノスだ、チャンプに向けて突進するがチャンプはその攻撃を受けたぞ大丈夫か?!」

チャンプ「ガハハ、何のこれしき、こっちはお返しだぬん！」

ヘビーライノス「うわあ！」

ライノスの突進を受け止めたチャンプはお返しにアップア攻撃した。

ラフタ「チャンプ、ナイスですその攻撃！」

ステインガー「良いぞ相棒！」

小太郎「その調子だよチャンプ！」

ヘビーライノス「やるではないかならば!」

実況「ん?あつと今度はライノス選手、突進するが今度はドロップキックしたぞ!」

チャンプ「やりやがったな、お返しだー!」

実況「おつと今度はチャンプ選手仕返しのリリアット&威力のエルボードロップ、これは亀裂に痛い!」

響「チャンプさんスゴい!」

和斗「ああ、これは激しい戦いになるぞ!」

そして40分後。

チャンプ「ゼーゼーゼー!」

ヘビーライノス「はあ、はあ、はあ!」

お互いの体はボロボロになりそろそろ倒れかけリングもボロボロになる。

実況「あーつと、お互いの体がボロボロになり、力がつきそうになります、さあ残り

20分は誰が勝つんだ?!」

ヘビーライノス「チャンプ、オメエと対決して俺は嬉しいぜ!」

チャンプ「ああ、我輩も、お前さんのこんな戦いは滅多にないぞ!」

ヘビーライノス「さてそろそろ本気出していくぞ!」

チャンプ「よーしこい、我輩が勝つ！」  
すると。

ドーン

未来「きゃあ！」

和斗「未来？大丈夫か?!」

突然爆発音がなり実況がモニターを会場の外には0号が5体及びアルカノイズが数  
10体現れ襲撃。

小太郎「えっ？0号とアルカノイズ？会場に現れたのか?!」

和斗「よし、ここは俺達5人で行くぞ、響は未来とステインガーさん達と一緒に一般  
人達を安全な所へ頼む！」

響「うん任せて！」

和斗と小太郎と剛とセレナと壮汰を連れて会場の外に行く。

チャンプ「ラフタ、我輩達も相棒達の避難の手伝いするぞ！」  
ラフタ「はい！」

会場の外

0号5体とアルカノイズは次々に襲撃し、和斗達は会場を出て風景を見た。

壮汰「ひでえ、会場をボロボロにしやがって!」

剛「せっかくチャンプ殿の決勝をめちやくちやにするなんて許さんでござす!」

和斗「よし、ここを何としても守るぞ!」

セレナ「はい!」

セイザチエンジ!

5人「スターチエンジ!」(です!)

和斗達はチエンジしてキューウエポンを持って会場の外周辺のアルカノイズと0号5体の相手する。

オウシブラック「ごわす、ごわす!」

オオカミブルー「おりや、そりや!」

カジキイエロー「それ、えい!」

コグマスカイブルー「おりやあ、どりや!」

シシレッド「響達がいるんだ、ここを通すわけにはいかねえ!」

?「ならば私の相手をしてもらうぞ!」

シシレッド「なっ?お前はゾディアック?!」

和斗達が戦ってる最中にゾディアックがテレポートして現れた。

コグマスカイブルー「グリズラーが造った未来のクローン？何しに来たんだ?!」

ゾディアック「何って貴様ら私の相手をしてもらうぞ！」

バサツ

ゾディアックは着ていた黒いフードを脱ぎ捨て姿を見せる、キャロルが纏ったダウルダブラと同じだか色が黒と白の交互の色に背中の部分に堕天使のような翼を持つ。

シシレッド「なっ？その姿はキャロルが纏った物か?!」

ゾディアック「フッフ、これはキャロルと同じダウルダブラだが違う、この聖遺物はゾディアックトウエルブ、つまりこれは十二宮の力を宿った聖遺物だ！」

オオカミブルー「十二宮の力を宿っただと？俺達をなめるなー！」

壮汰はゾディアックに向けてキュークローを振ろうとすると。

ゾディアック「ふっ、くらえ天秤波、はあ！」

オオカミブルー「ぐわあああ！」

カジキイエロー「壮汰君?!」

シシレッド「その技はリブラーンの技？何故お前がそれを使えるんだ?!」

ゾディアック「フッフ、教えてやろう、この聖遺物を纏った私はネオジャークマター

やジャークマターのカローの技を使えることが出来る、例えばこれもだ!」

次にゾディアックは右足に黒いサソリの尻尾をつける。

ゾディアック「はー、はっ!」

コグマスカイブルー「うわあああ!」

ゾディアックは小太郎に向けて流星のようなキックをする。

シシレット「小太郎?大丈夫か?!」

コグマスカイブルー「ああ、それにあの技は兄貴のお兄さんのスコルピオの技?これも使えるのか?!」

ゾディアック「フフフ、これだけじゃないぞ!」

シシレット「なんだ?うわああ!」

今度は手の上にかざすと空から金色の矢が多数降り注ぎ和斗とアルカノイズに命中。

カジキイエロー「今度は矢の攻撃?!」

ゾディアック「フフフ、エリードロンの矢の技そしてこれはシザースの技!」

ゾディアックはエリードロンの技を出したついでに両腕がシザースのカニの腕を装備しセレナ達に攻撃。

オオカミブルー「ぐわあああ!」

カジキイエロー「きゃあ!」



オウシブラック「ごわす！」

コグマスカイブルー「うわああ！」

セレナ達はゾディアックの攻撃を受け変身解除。

シシレッド「うおおお！」

ワツツア、サイコーキュータマ！

スーパージェンジン！

和斗は怒りに任せシシレッドオリオンになりゾディアックと互角に戦う。

ゾディアック「ほお？まだ私と戦う力が残ってたのか?！」

シシレッドオリオン「俺達はネオジャークマターを倒したんだ、まだ俺はやれる！」

ゾディアック「ならば？これならどうだ?！」

シシレッドオリオン「ぐわあああ、雷だと?！」

和斗の所から雷が落ち、和斗は倒れる。

小太郎「和斗?！」

ゾディアック「ネオジャークマターを倒したキュウレンジャーとシンフォギア装者の力はその程度か？やれ！」

0号の5体はゾディアックの指示で惑星ダグーの街とロボレス会場に向けてビーム

を放とうとすると。

? 「うおおお、俺とチャンプが対決してる会場に何しやがる!」

ヘビーライノスが会場から突進して0号の一体目を命中し破壊。

剛 「えっ?ヘビーライノス殿?何故来たでござす?!」

ヘビーライノス「会場を守ってるお前らが心配だから来たんだ、てめえらチャンプの仲間は何しやがる!」

ライノスはゾディアックに向けて突進攻撃するが右手で防いだ。

ヘビーライノス「なっ?!」

ゾディアック「そんな攻撃など私に勝てると思うな、くらえ!」

ヘビーライノス「ぐわあああ!」

ゾディアックはレオルスの獅子の爪をつけライノスに向けて攻撃しライノスは倒れる。

ゾディアック「命拾いしたなキュウレンジャー、この次は地球で返す、0号4体やれ!」

ビー

0号4体はダグーの街に向けてビームを放ち街は半壊及びロボレス会場は損害し、ゾディアックは0号4体を連れてワープして去る。

小太郎「待て？逃げられたか?!」

シレットドリオン「畜生、畜生、ちくしょー!」

響「和斗君!」

和斗はゾディアックに負けたことを悔しがり叫び響は会場を出て和斗達の心配していた。

数10分後

小太郎「チャンプ、ごめんよ会場と惑星ダグーの街を守れなくて!」

チャンプ「いや良いんだよそんなことは皆が無事で良かったじゃねえか、我輩は気にせんで!」

剛「良かったでござす、それにしてもヘビーライノス殿は大丈夫でござすか?!」

ステインガー「ああ、その件なら心配するな、ラフタが解析した結果致命的なダメージをおっただけだ何も心配ない!」

チャンプ「よかつたぞ、これで治つたらまた決勝戦は再戦だな、惑星ダグーが復興するまでは鹿児島でニヤンコロ星人の皆と剛の親父さん達と一緒に畑特訓するかモー!」

響「チャンプさん、その時はまた応援します!」

チャンプ「ガハハ、また頼むぞ、ん?おい和斗?ゾディアックに負けて落ち込むな、お前らは確かにネオジャークマターを倒したが怒りに任せてむやみに相手に飲み込むな

!」

和斗「チャンプ!」

チャンプは落ち込んでる和斗を心配して肩をポンと叩く。

和斗「ありがとうチャンプ、チャンプのお陰で俺は落ち込まずにやれるよ!」

未来「和斗君!」

一方地球では。

「ん?なんだ?!」

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

一般の男性が驚いてるのは海の見える景色の海から出てきた要塞だった。

キヤロル「さあオレの野望が間もなく始まる、そうこの要塞になったチフォージュ

シャトーの新たな驚異を、フハハハハ!」

リベリオン本部司令室

シヨウ・ロンポー「なっ?ネオジャークマターの要塞か?!」

友里「いえ、調べた情報によるとこれは？チフォージュシャトーだと思われます！」  
玄十郎「ということは新たなチフォージュシャトーなのか?!」  
シヨウ・ロンポー「これは調査をせねばならないようだね！」

NEWS STORY

## スペース47、防人の流す涙!

ゾディアックが惑星ダグー襲撃してから1日がたち、地球に戻った和斗とステインガー司令達は玄十郎司令とシヨウ総司令と翼達にゾディアックについて話した。

玄十郎「何だど?ゾディアックの纏った聖遺物はジャークマターのカローやネオジャークマターのカローの力を使えるだど?!」

ステインガー「ああ、和斗からの話によると白と黒の聖遺物を纏ったゾディアックは今まで倒したカローの能力を使えるんだ!」

和斗「ああ、スコルピオの能力やエリードロン、シザースやらの能力を使って惑星ダグーを襲撃してきたんだ!」

シヨウ・ロンポー「となるとキャロル達の切り札は厄介な物になるとは、それはそうともう一つ情報がある、あおいちゃん!」

友里「はい、映像を写します!」

ピッ

スバル「これは?!」

あおいは和斗達に海に浮かんだ要塞の映像を見せる。

翼「何なんだ？あの要塞は?!」

シヨウ・ロンポー「和斗君と響ちゃん達が惑星ダグーに行つてる間に海から要塞が出てきたんだよ調査部の報告によるとこれは新たなチフオージュシャトーみたいだよ!」

和斗「新たなチフオージュシャトー? キャロルが出したのか?!」

玄十郎「ああ、もしかするとその可能性があるかもしれんが、ん?!」

玄十郎は調査部の資料を見るとなにやら気づいた事が一つ見つけた。

玄十郎「オートスコアラーの目的は要石だと?!」

玄十郎は資料を見て驚く。

緒川「ええ、調査部がもう一つ見つけた情報によるとオートスコアラーの狙いは深淵の竜宮である物を手に入れる可能性があります!」

シヨウ・ロンポー「現在オペレーターが調べたところ現場に駆けつけた調査部からの報告によると神社区域の所に破壊された跡を見つけたんだ!」

シヨウ総司令は調査部が調べた要石の映像を翼達に見せた。

エルフナイン「もしかしてキャロルの目的は?!」

シヨウ・ロンポー「ウム、何やらオートスコアラーを指示して残りの要石を破壊する可能性があるよ、ん?!」

シヨウ総司令はリーダーに反応した所に何やら気づく。

スバル「風鳴八紘邸?もしかすると?!

シヨウ・ロンポー「ああ要石があるに違いない、よし玄十郎司令、スバル君と翼ちゃんとマリアちゃんとボクチンと緒川君で明日は風鳴邸に向かうよ!」

玄十郎「ウム、ならば深淵の竜宮の方は祐一君を中心にクリス君と功太君と蓮司君、アミ君とエリ君と切歌君と調君で行こう、大勢いれば問題ない!」

シヨウ総司令と玄十郎司令は深淵の竜宮に行くメンバーと風鳴邸に行くメンバーを話で決め。

和斗「てことは俺と小太郎達は?!

シヨウ・ロンポー「ゾディアックとの戦いで疲れてるから和斗君達はゆっくりしよう!」

和斗「よっしやラッキー!」

エルフナイン「僕は研究室に戻って蓮司さんの設計したキュウレンランチャーの開発を続けます!」

ラフタ「キュウレンランチャー?!」

リベリオン研究室



ラフタ「これが蓮司が設計した装備、キュウレンランチャー?!」

エルフナイン「はい、これが完成しかけです!」

バサツ

エルフナインは研究台においてる完成しかけのキュウレンランチャーのシートを取ってラフタに見せる。

ラフタ「これは? スゴいです、キュウレンジャーのマークをモチーフにしたバズーカ?!」

エルフナイン「はい、ボクと翼さんとマリアさんと奏さんとスバルさんで設計通りに造りましたが後は回線とデータを組み込むだけです!」

ラフタ「なるほど、回線とデータの組み込みはこの部分の所の回線が変ね!」

ラフタは早速キュウレンランチャーの回線とデータの確認と調整を整えパソコンでデータを確認。

ラフタ「はい、これで完璧ですエルフナイン!」

エルフナイン「はい、ありがとうございます!」

ラフタ「後は... このキュータマを造れば完了です!」

エルフナイン「はい、キュータマの開発は明日にしましょう!」

次の日

リディアン音楽院

和斗は響と小太郎と響と未来と一緒に教室で昼食を食べる。

響「ねえ和斗君、今日は和斗君の家に泊まって良いかな?！」

和斗「ん? ああ、急にどうしたんだ?！」

響「実は和斗君とお話したいことがあるの!！」

和斗「話し?！」

小太郎「そういえば俺も奏に呼ばれたんだよ、あたしの家に泊まりに来いと!！」

和斗「小太郎もか?！」

風鳴邸

スバル達は風鳴邸に着いて門の前に立ち。

スバル「久しぶりだな、ここに来るのは!！」

シヨウ・ロンポー「ああスバル君は確か小さい頃にお父さんとお母さんと一緒に来た

ことあったね!！」

マリア「初めて来るけどどうやって入れるのかしら！」

すると門が開くと翼の父、八紘とその隣にはツルギ大統領がいた。

スバル「あれ？ツルギ大統領？どうしてここにおられるのですか?!」

ツルギ「ああ、八紘に呼ばれて俺様も来たんだ、スバル達こそここに何しに来たんだ?!」

緒川「はい、八紘様の護衛並びに要石の守護しに来ました！」

八紘「そうか、頼むぞ翼！」

翼「はい！」

八紘「防人の自覚を忘れずにやるのだぞ！」

翼の父、八紘はそう言って中に戻る。

マリア「何なのよ、あの親は、少しは何か褒める事とか言いなさい！」

シヨウ・ロンポー「まあまあマリアちゃん、あの人はそんな冷たい親じゃないよ！」

スバル達も門を通って家の中に入った。

スバル「久しぶりだな、確かここで翼と一緒に遊んだな！」

ツルギ「俺様も時々ここを通った時は2人が遊んでる所を見えたぞ！」

緒川「ここが要石のある場所です！」

緒川がスバル達に要石のある場所を案内して要石を見せ、すると。

フアラ「あらあら、こんなところにいたのね!」

スバル達のいる要石の前にフアラが現れた。

スバル「お前はオートスコアラー?!」

シヨウ・ロンポー「要石を狙いに現れたか!」

スバルとシヨウ総司令はホウオウブレードとリュウツエーダをすぐ構え。

フアラ「私に用があるのは、その劍ちやんよ!」

スバル「なっ? 要石じゃなく目的は翼?!」

翼「あの時のようにはならない、屈辱をはらすとき!」

シヨウ・ロンポー（もしかして翼ちやん、イギリスの時に負けた事があつたね!）

スバル「とにかく守りましょう、ツルギ大統領は緒川さんと下がってください!」

ツルギ「よしわかった、お前らも気を付けろよ!」

カモン・ザ・チェンジ!

セイザチェンジ!

スバル「スターチェンジ!」

シヨウ・ロンポー「ガリヨウテンセイ!」

スバルとシヨウ総司令はチェンジし翼とマリアはギアを纏った。

フアラ「さあ行くわよ！」

翼「はあー！」

スバル達が戦闘を始めようとすると翼がすぐさまフアラに向かって走り剣で戦う。

マリア「ちよつと翼1人で戦つては……！」

すると翼と剣とフアラの剣が弾くと翼の剣が折れた。

ホウオウソルジャー「なっ？翼の剣が折れた?!」

リュウコマンダー「スバル君、エルフナインからの話によるとフアラはソードブレイ

カーという能力を持つてる、剣で触れたら折れる可能性があるんだ！」

ホウオウソルジャー「くっ、ならば！」

スバルはホウオウブレードを直しフアラに向けてホウオウシールドの射撃攻撃する

がフアラはその攻撃を避け。

フアラ「これでもくらいなさい！」

ホウオウソルジャー「なっ？竜巻?!」

マリア「スバル?!」

マリアはアガートラムのバリアでスバルを守るが。

ホウオウソルジャー・マリア「うわあああ！」

2人は要石の所に飛ばされてしまいぶつかって破壊。

フアラ「とりあえずはここら辺にしておきましょう、では、またお会いしましょう！」  
リュウコマンダー「待て、逃がさないよ！」

シヨウ総司令はリュウツエーダの射撃でフアラに向かって撃つが風でふさがれ去った。

夕方になり、和斗は響と未来と一緒に帰る。

未来「そういえばクリスと祐一さん達が見掛けないけど?どうしたのかしら?!」

和斗「ああ、祐一ならクリス先輩と切歌と調と功太と蓮司とアミとエリを連れて任務に行ってる！」

響「セレナちゃんの方は壮汰君と一緒にグラッツェで食事、剛君はふらわーでお手伝いに行くご連絡が来たの！」

和斗「小太郎の方は帰る時間になって校門に奏さんが来て泊まりに行つたな！」

夜になり風鳴邸では。

スバル「ん?何やってんだ翼?マリアさん?!」

スバルが見えたのは片付けながら頬を赤くなつて恥ずかしがる翼と翼の手伝いをしてるマリアの姿だった。

マリア「あら？スバル、今ね私は翼の部屋の片付けの手伝いをしてたのよ、翼は歌は上手いけどどう見えて不器用なのよ！」

翼「マ？マリア？、すまないスバル、みつともない姿を見せてしまった！」

スバル「いや、良いんだよそんなことは、懐かしいな小さい頃ここで翼の部屋に来て遊んでたな！」

緒川「あつ？スバルさん、シヨウ総司令があなたの事を探しました、八紘様の部屋に来てください！」

スバル「シヨウ総司令が?!」

八紘の部屋

ガチャ

シヨウ総司令とツルギがいる八紘の部屋に入ってきたスバルと緒川。

緒川「失礼しますシヨウ総司令、ツルギ大統領、八紘様、スバルさん連れってきました！」

シヨウ・ロンポー「おお？スバル君、翼ちゃんのお父さんが君に会いたがつてるよ！」  
スバル「あつ…：八紘さん、お久しぶりです！」

八紘「ああ、スバル、久しぶりだな、元気にしておったか?!

スバル「ええ、リベリオンの皆とS・O・N・Gの皆と一緒にってから元気でした!」

ツルギ「ああ、最初に和斗と響達に会う前は一人で戦ってたな、装者と一緒に戦うキウレンジャーは拒否して今は翼と和斗が説得して一緒に戦ってたぞ!」

ツルギは八紘にスバルが和斗と翼達と一緒に戦ってる話題を話し。

八紘「翼は歌手として頑張ってるか?!

シヨウ・ロンポー「勿論だよ、八紘さん、ツルギ君がスバル君と一緒にツヴァイウイングのライブを見に行った時は物凄く頑張っていたよ!」

八紘「そうか、良かった、刃にも妻にも見せてあげたかったぞ、娘の舞台を!」

八紘は机に置いてる写真台に写ってる自分と妻と隣にいる青い髪の男性と黒髪の女性を見る。

ツルギ「ああ、風鳴夫婦の隣にいるのはスバルの両親だったな!」

シヨウ・ロンポー「確かジャークマターが壊滅して2年がたった事を!」

一方、深淵の竜宮は。



テンビンゴールド「うわっ？このハッキングはムズいで！」

深淵の竜宮の門の所でセイザブラスターを使ってハッキングで扉を開こうとやっている蓮司、蓮司の成功を待つてる祐一、クリス、功太、切歌、調、アミ、エリ。

クリス「なあ、ホントにハッキングして開けるのかよ？蓮司！」

テンビンゴールド「ちよいと黙ってやクリス先輩、今は集中してやってんや！」

クリス「うわっ？悪い！」

ヘビツカイシルバー「蓮司はハッキングに集中しないと本領発揮出来ないんだクリス先輩、俺が小学5年の頃は壊れた掃除機ロボの机身確認してみたら右の方の調整が壊れかけてパソコンを使ってハッキングして直したんだ！」

切歌「おおお？蓮司君はすごいデース！」

カメレオングリーン「小学5年にして掃除機ロボを直すなんてすごい！」

テンビンゴールド「よし開いたで！」

蓮司はハッキングを成功し扉を開くと。

ワシピンク「えっ？0号?!」

サソリオレンジ「待ち伏せていたのか?!」

そこには0号が10体待ち伏せていた。

調「ここを突破するしかない！」

へびツカイシルバー「ああ、やるしかねえ!」

八紘の部屋

八紘「翼には幸せにいてほしい、こういう父親で申し訳ない!」

スバル「八紘さん、今でも翼は皆さんの為に頑張っています、きつと奥さんも刃も俺の両親もきつと天国から見守っています!」

八紘「スバル、感謝するぞ!」

ドーン

外から爆発音が聞こえ。

ツルギ「何だ?!」

八紘「要石が破壊されてるのに現れたのか?!」

スバル「シヨウ総司令!」

シヨウ・ロンポー「ウム、行こうかスバル君、緒川君、ツルギ君と八紘さんを頼む!」

緒川「はい!」

スバルはシヨウ総司令と一緒に部屋を出て爆発音が聞こえる所に向かう。

風鳴邸庭

マリア「はあ！」

翼とマリアがギアを纏って現れたフアラと対決。

フアラ「あら？赤い不死鳥ちゃんと紫の龍ちゃんはどうしたのかしら?!」

マリア「お前なんかに負けない！」

フアラ「なら？これはどうかしら?!」

フアラは四連撃の剣技を使つてマリアに向けて攻撃、マリアは短剣で防いだが防ぎきれなかった。

マリア「ぐああああ！」

翼「マリア？この！」

翼はフアラに向けて剣を振るがまた砕かれた。

翼「なっ？また砕かれた?!」

フアラ「あなたはその身を剣と言うのでしょうか、私のソードブレイカーであなたを切り裂いてあげますわ！」

フアラは容赦なく10の剣技で翼に攻撃。

翼「ぐわあああ！」

翼が纏うギアが傷に入り、翼の心が壊れかける。

翼（この身は剣、なのに奴に負けんなんで、私の夢はここまでなのか?!）

スバル「諦めるな翼、お前は夢を諦めるな！」

翼「……スバル?!」

スバルとシヨウ総司令が来てスバルは翼に諦めるなと伝え。

シヨウ・ロンポー「八紘さんから聞いたよ、翼ちゃんの事は応援してる、翼ちゃんは誰よりもスバル君にも愛してると思ってるよ！」

翼「お父様が？私の事を?!」

八紘「歌うんだ翼！」

翼「お父様?!」

八紘とツルギ、緒川も来た。

シヨウ・ロンポー「緒川君？何で止めなかった?!」

緒川「すみません、八紘様の頼みで連れてきました！」

ツルギ「八紘の事は俺様と緒川に任せてくれ！」

八紘「もうお前は剣ではない、夢に向かって羽ばたけ！」

ツルギ「翼、俺様もシヨウ総司令もリアもスバルもお前のために思ってたぞ！」

ツルギと八紘もスバルに続けて翼に向かって言葉を伝え、すると。

翼「私は、歌ってもいいのですね、夢を見てもいいのですね！」

八紘は翼の言葉を聞き。

スバル「行くぞ、翼！」

翼「ああ、お父様、聞いてください、私の歌を、イグナイトモジュール抜剣！」  
ダインスレイフ

翼は涙を流しながらイグナイトモジュール抜剣し、ギアの形状が変わり。

スバル「翼のためにこれを使う！」

スバルは上の服を脱いで上半身裸になりアメノハバキリキュータマを出す。

アメノハバキリキュータマ！

カモン・ザ・チェンジ！

スバル「スターチェンジ！」

スバルはアメノハバキリキュータマを使ってホウオウソルジャーアメノハバキリになり。

シヨウ・ロンポー「よしボクチンも！」

セイザチェンジ！

シヨウ・ロンポー「ガリョウテンセイ！」

シヨウ総司令もチェンジすると。

♪♪

翼「ん？この曲は?!」

マリア「私にも聞こえるわ?!」

翼とマリアのギアのヘッドホンから曲が流れる、音の音は不死鳥のような激しい曲が流れる。

ホウオウソルジャー「この曲は?!」

翼（この曲? ツルギ大統領が昔、私の誕生日に歌ってくれた曲!）

ホウオウソルジャー（微かにこの曲が流れると翼と一緒に戦えるように導いていく、そうこれが?!）

ホウオウソルジャー・翼「I・M・LEGEND!」

フアラ「あら? そんな剣ちゃんと同じ格好のよな物で私に勝てるかしら?!」

ホウオウソルジャー「俺達はどんな時でも羽ばたく!」

翼「ああ、今の私たちは飛ぶ!」

曲が流れ、スバルは翼と一緒にフアラに向かって攻撃。

フアラ「そんなものに、はあ!」

フアラはスバルに向けて剣攻撃、スバルは避ける。

翼「隙ありだ!」

翼はスバルの上に飛び、フアラに攻撃。

フアラ「そんなものは碎けてあげますわ！」

フアラはソードブレイカーをもう一本出して二刀流の体制になり。

翼「はあー！」

フアラに向かって攻撃するが碎ける。

フアラ「言ったでしょう、あなたの剣は私には効かないのよ、これでもくらいなさい！」

リュウコマンダー「そうはいかないよ！」

フアラが剣を振ろうとするとシヨウ総司令はフアラの剣に向けてリュウツエーダの

射撃モードで援護射撃。

フアラ「紫の龍ちゃん、邪魔をするわね！」

リュウコマンダー「2人の戦いはボクチンが見守ると決めた！」

マリア「ええ、翼は私とスバルの大切な人、そして！」

翼「夢を持った翼だ！」

翼の足の装備から炎を纏い、同時にスバルもシンクロし足の装備から炎が現れ。

2人「はあー！」

フアラ「そんなものに、えっ?!」

フアラはソードブレイカーで2人の攻撃を防ぐがフアラの二刀流が砕く。

フアラ「そんな？哲学の剣を?!」

翼「それがお前の剣なのか？否！」

ホウオウソルジャー「一気に決めるぞ翼！」

翼「ああ、最後は2人で参るぞ、スバル！」

イグナイトキュータマ！

ギヤラクシー！

翼「喰らえ、イグナイト回転不死鳥斬！」

翼は足の斬激攻撃でフアラを切り裂き。

ギヤラクシー！

ホウオウソルジャー「フェニックスハバキリ抜刀！」

スーパーギヤラクシー！

最後にスバルがホウオウブレードとアメノハバキリソードの二刀流必殺技攻撃で

フアラにトドメをさした。

翼「はあ、はあ、勝ったなスバル！」

ホウオウソルジャー「ああ、俺達の勝ちだ！」

フアラ「オホホホ、やるわね剣ちゃんとホウオウソルジャーちゃん、果たしてあなた



達はマスター達に勝てるかしら?!」

ホウオウソルジャー「ああ、それでも俺達はキャロルとゾディアック、お前達には負けない!」

翼「そうだ、私とマリアにはスバルという大切な人がいる、仲間と共に!」

フアラ「せいぜい頑張りなさい、ぎゃああ!」

空間からゾディアックが現れフアラを顔を粉々に握り潰す。

翼「お前は?ゾディアック?!」

マリア「何をしに来た?!」

ゾディアック「貴様らに宣言を伝えるに来た、戦いに来たわけではない!」

ホウオウソルジャー「何を言いに来た?!」

ゾディアック「貴様らキュウレンジヤーとシンフォギアに宣言する、私達はこれより

貴様ら人類を支配し世界を破壊する、それまではせいぜい生活を安心するがいい!」

ゾディアックはスバルと翼とマリアに宣言を伝え、この場を去る。

翼「ゾディアックの宣言?一体何を企んでいるのか?!」

マリア「ええ、人類を支配し世界を破壊するなんて、何を考えてるのかしら?!」

リュウコマンダー「そうだね、とにかく玄十郎司令に連絡しよう!」



スペース48、深淵の竜宮の対決、完成、キュウレンラン  
チヤー！

深淵の竜宮

へびツカイシルバー「おりゃー！」

切歌「デース！」

調「やあー！」

功太は切歌と調と一緒に右側の0号の3体を相手にし。

テンビンゴールド「そいや！」

カメレオングリーン「それ！」

ワシピンク「えい！」

蓮司とアミとエリは左側の0号3体の相手。

サソリオレンジ「くらえ！」

クリス「ぶっ飛べ！」

祐一はクリスと中心の0号4体と対決。

ギヤラクシー！

テンビンゴールド「行くでリブラインパクトや!」

カメレオングリーン「ハミリオンインパクト!」

ワシピンク「アルマイルインパクト!」

蓮司とアミとエリはキューウエポンの必殺技で0号を3体撃破。

ギヤラクシー!

ヘビツカイシルバー「くらえ、オフューカスインパクト!」

切歌「くらうデース!」

調「えい!」

功太もキューウエポンの必殺技、切歌と調はアームドギアで0号を撃破。

ギヤラクシー!

サソリオレンジ「アンタレスインパクト!」

クリス「お前ら二人まとめて蜂の巣だ!」

最後に祐一は0号を2体まとめてキュースピアードで切り裂き、クリスがアームドギア

のガトリングで0号2体を撃破した。

クリス「ふう〜やつと終わったか!」

サソリオレンジ「ああ、10体倒したぞ!」

ヘビツカイシルバー「切歌、調、ラフタが製造したLincolnの調子はどうか?!」

切歌「バッチリデース、今度はドリンクバージョンになってアタシと調はまだまだいけるデス！」

調「うん、飲んだら何だか動きがスゴくい！」

テンビンゴールド「ナハハ、そうやる？実はこのLincolnはワイがラフタと一緒にアレンジしたんや、切歌と調とマリアさんの為に解析してドリンクバージョンにしたで！」

クリス「へー、案外やるな蓮司！」

サソリオレンジ「ああ、機械だけじゃなく切歌と調とマリアの為にLincolnをアレンジするとは！」

0号を撃破した祐一達は変身とギアを解除して先へと進む。

クリス「それにしてもおっさんに頼んであたし達は何を手にいれんだ?!」

祐一「ああ、出撃前にエルフナインが俺に深淵の竜宮であるものを手に入れると頼まれた！」

切歌「あるものとは何デスか?!」

祐一「ああ、エルフナインからの話によるとこの深淵の竜宮に聖遺物がある、名前はヤンドラ・サルヴァスパ、エルフナインの解析によるとその聖遺物はあらゆる機械を動かす能力を持って操ること出来る！」

調「私達の任務はその聖遺物の回収なんですな?!」

祐一「ああ、あれをキャロル達に奪われるわけにはいかないからエルフナインに頼まれたんだ!」

蓮司「そんなヤバイもんなんや?!」

アミ「何だかちよつと機械を動かすの怖い!」

エリ「そうね!」

功太「なあ?ひよつとしてあれじゃないのか?!」

祐一達が先を進むと功太が指を指して何かを見つける。

蓮司「これってまさか?エルフナインが言つてた聖遺物かいな?!」

クリス「ええ?見つかったのかよ?案外ヤバイ奴だなこれ!」

功太「よっしゃラッキー、和斗先輩にかわつてGET!」

功太は聖遺物を取ろうとすると。

ドーン

蓮司「ん?なんや?!」

祐一「あれは?!」

突然の爆発音となり、現れたのはレイアとキャロルだった。

レイア「派手に爆発、そこに現れたのはシンフォギア装者とキュウレンジャー！」  
キャロル「俺達の行動がよくわかったとは！」

クリス「くっ、錬金術師！」

功太「ん？アイツが持つてるのはまさか？いつの間に?!」

功太が取るうとしたヤンドラ・サルヴァスパがいつの間にキャロルが手に入れる。

祐一「それを渡してもらおうぞ！」

セイザチェンジ！

5人「スターチェンジ！」

祐一達はチェンジし3人はギアを纏った。

グラッツェ9号店

貸し切りで壮汰はセレナと夜景が見えるところでお食事。

セレナ「夜景が見えるグラッツェはステキです壮汰君！」

壮汰「ああ、今回はスパードさんが貸し切りしてくれたんだ！」

スパード「お待たせしました、スパードシェフ特製のアップルパイとスパゲッティカ  
ルボナーラとチキンサラダだよ！」

スパードとシェフ2人がセレナと壮汰の座ってる席に料理を置いた。

セレナ「わあ、私の大好物のアップルパイ? 壮汰君、これどうしたの?!」

壮汰「へへ、スパードシエフに頼んでセレナ的大好物のアップルパイを作ってくれたんだ、俺からのプレゼントだ!」

セレナ「嬉しい、ありがとう!」

セレナは壮汰に感謝して唇を重ねたキスする。

スパード「マンマミーア? セレナちゃん大胆だよ?!」

壮汰「セ? セレナ?!」

セレナ「私は決めました、壮汰君と結婚してグラッツェで皆様の為にお料理を頑張ります!」

セレナは将来の夢を言い。

壮汰「だったら俺はセレナを支える、俺はセレナの事が好きだ!」

奏のマンション

小太郎は外の風景を見てジュースをのみ、奏は小太郎の隣に座る。

奏「なあ? 小太郎? あたし、小太郎の事が好きだ!」

奏は小太郎に好きだと告白。



小太郎「奏? どうしたんだよ? 俺に告白して?!

奏「実はさ、あたし小太郎と一緒にいると何だか胸がキュンとしてきたんだ!」

小太郎「実は、俺もだよ、奏を見てたら悲しいことや辛いことが見えた、両親と妹がいなくなつた思い、俺にも小さい頃、お母さんが次郎を産んで病で亡くなつて泣いたことがあつたんだ!」

小太郎は奏の悲しいこと、辛いことを思い、小さい頃の話と言う。

奏「あんたにも悲しい思いや辛い思いがあつたな、あたしも同じ気持ちだぜ!」

奏は小太郎の顔を近づいて唇と唇を重ねてキスする。

小太郎「えっ? 奏?!

奏「あたしは小太郎と一緒に生きる、あたしは小太郎と幸せになるぜ!」

小太郎「俺は皆と一緒に地球と宇宙を守る、生きるのを諦めない!」

小太郎は奏の体を抱きしめ。

獅子野家2階和斗の部屋

和斗は2階の部屋の窓を開けて響と未来と一緒に外を眺める。

和斗「響? 俺に話とは何だ?!

響「和斗君、私……お父さんともう一度話してみる!」

響は和斗に話を伝え。

和斗「親父さんと話すのか?!」

響「うん、和斗君と一緒にいたら私もお父さんがお母さんともう一度向き合う為に頑張らないといけない!」

未来「響!」

和斗「そうだな、俺も響と未来を支える、2人は俺にとっての陽だまりとお日様、よっしゃラツキー!」

未来「私は響と和斗君のお嫁さんになる、私と響が小さい頃に和斗君との約束!」  
未来は和斗の後ろから抱きしめ、響は和斗を強く抱きしめ。

和斗「ん?未来?響?ん?!」

響は和斗を抱きしめた瞬間、唇キスする。

響「和斗君、私がない時に未来とキスしたでしょ?!」

和斗「ああ、介人達が俺の世界に来た頃、俺の家に泊まった頃、未来とキスしてからな!」

未来「これでお互いにキスしたね!」

## 風鳴邸

スバルは外で夜の夜景を見る。

翼「スバル、隣いいか?!」

スバル「ん? 翼? マリアさん?!」

マリア「私も一緒にいいかしら?!」

スバル「ん? ああ、別に構いません!」

翼はスバルの右側に座り、マリアは左側に座る。

翼「スバル、私とマリアの事、大切な人なのか?!」

スバル「ん? どうしたんだ急にそんなこと言つて? 大切な人に決まってる!」

翼「お前は私の兄を失ってから1人で背負つて戦つてたな、私はお前と再開してから

少し変わったな!」

マリア「そうね、私は初めてあなたに会ったときは冷たく感じたわね!」

スバル「そうだったな、最初にマリアさん達と初めて会ったのは宇宙連邦大統領宮廷で大統領室に入ってきた俺は!」

スバルはマリアと最初に初めて会った話題を話し。

翼「でも、私と再開して、獅子野が説得してくれたお陰でお前は昔の頃に戻ってきたぞ!」

スバル「ん?翼?!」

翼はスバルに何も言わずに唇キスする。

翼「私はスバルの事、大切な仲間じゃなく、大切な人でいたい、私はスバルの背中を見ると赤い翼と青い翼が見えてきた!」

スバル（翼、お前……俺の事?思っているのか?!）

翼はすぐにスバルを抱きしめ。

マリア「私も翼もスバルの事、大切な人でいたいわ、あなたは私と翼と一緒に羽ばたき光よ!」

マリアもスバルに近づいて唇キスした。

スバル「マリアさん?!」

マリア「私、翼と一緒に幸せに羽ばたくわ、だってあなたは私と翼にとっての不死鳥よ!」

ツルギ「うう……刮目せよ、俺様はお前らの幸せを心から見守るぞ!」

翼とマリアとスバルに気づかずツルギは涙を流した。

一方、深淵の竜宮

キャロル「ふん、貴様らの相手はこれでやる！」

キャロルは魔方阵を使ってアルカノイズを数十体出現。

クリス「アルカノイズの野郎を多数出しやがって！」

テンビンゴールド「あのレイアという野郎は厄介やな！」

ヘビツカイシルバー「よっしゃ、あいつは俺に任せろ！」

切歌「アタシと調は功太と蓮司をフォロウするデス！」

調「うん、あのオートスコアラは確かコイン射撃する！」

サソリオレンジ「ああ、それに竜宮に当てたら海に溺れる可能性があるぞ！」

クリス「そうだな、気を付けねえとな！」

話してるときにアルカノイズが祐一達に向かって襲い掛かる。

切歌「来たデス！」

ワシピンク「とにかく竜宮に被害がないようにセイザブラスターのビームで攻撃しよ

う！」

調「うん、竜宮に被害があつたら大変！」

カメレオングリーン「よし行くよ！」

確認してアミ達はアルカノイズに攻撃。

クリス「おらおら!」

サソリオレンジ「はあー!」

クリスはボウガンで竜宮の回りに気を付けてアルカノイズに攻撃し、祐一はキュースピアードで切り裂き。

カメレオングリーン「えい!」

ワシピンク「当たれ!」

アミとエリはセイザブラスターのビームでアルカノイズ目掛けて攻撃。

レイア「派手に相手にする!」

テンビンゴールド「させへんで!」

タテキュータマ!

セイザアタック!

レイアがアミとエリに向けてコイン射撃したところ、蓮司が前に立ってタテキュータマを使って2人を守る。

ピピピ

テンビンゴールド「ん?どうしたんや?エルフナイン?!」

エルフナイン「蓮司さん、お待たせしました、ラフタさんと開発してたキュウレンランチャーが完成しました!」

ラフタ「キューバツクルからキュータマを出してください!」

テンビンゴールド「よっしや来たで!」

蓮司はキューバツクルからキュウレンジャーのマークがついたバズーカのキュータマを出す。

キュウレンランチャーキュータマ!

セイザアタック!

蓮司はキュウレンランチャーキュータマを装填すると空からキュウレンジャーの星のマークしたバズーカが転送し、蓮司とアミとエリは一緒に持つ。

サソリオレンジ「あれが?蓮司が設計したバズーカ?!」

ヘビツカイシルバー「うわあ?スゲーな!」

テンビンゴールド「よっしや、祐一はん、功太、こつちに来るんや、キャロルに向けて攻撃するで!」

クリス「てっ?おい?撃つたら竜宮が吹き飛ぶんだぞ?!」

テンビンゴールド「大丈夫やその時は保証するで!」

祐一と功太は蓮司達の所に合流、祐一が中心になる。

テンビンゴールド「よっしゃ、祐一はん、イチイバルキュータマを中心のパネルにセツトや!」

サソリオレンジ「これか?!」

祐一は蓮司の教えにイチイバルキュータマを中心のパネルにセツトするとエネルギーチャージし始める。

ワシピンク「チャージし始めてる?!」

カメレオングリーン「凄い? エネルギーが上がってる?!」

レイア「奴ら? 派手にためてる? 派手にチャンスだ!」

キャロル「ん? オレの方へ向けて狙ってる? まさか?!」

テンビンゴールド「そう、そのまさかや、切歌、調、クリス先輩、そこから離れるんや、キャロルに向けて放つで!」

切歌「わかったデース!」

調「うん!」

クリス「よっしゃ、こいつらにかけるしかねえ!」

クリスと切歌と調は蓮司の言う通りにキャロルとアルカノイズの場所から離れ、蓮司達のいるところに行き、エネルギーが最大に上がった。



テンビンゴールド「よっしゃ祐一はん、トリガーを引くんや！」  
サソリオレンジ「ああ、行くぞ！」

イチイバルギヤラクシー！」

祐一が引き金のトリガーを引くとランチャーの銃口から赤い粒子のミサイルが発射しキャロルに方へ放った。

キャロル「ミサイル？ そんなものオレが！」

キャロルはバリアを貼るが防ぎきれない程の力があり破れかけ。

レイア「マスター！」

キャロル「レイア？ うわあああ！」

なんとレイアがキャロルを守って身代わりになりキャロルは攻撃の爆破に巻き込まれ倒れ、持った聖遺物は粉々になった。

キャロル「レイア？ お前？ オレを守ってたのか?!」

レイア「マスターを派手に失うわけにはいかない、私は派手に守るのが使命だ！」  
キャロル「バカな？ お前はそうまでしてオレを守って…… お前の体が無惨になったぞ！」

レイア「私はマスターを守れて派手に良かったぞ！」

レイアは無惨な姿で機能停止になり、キャロルは立ち上がる。

「！」  
キャロル「シンフォギア、キュウレンジャー、このかりは必ず復讐する、覚えていろ

キャロルは魔方陣を使って撤退し、同時にレイアが巨大化。

レイア「派手に控えオロー！」

クリス「おい？竜宮が浸水して崩壊するぞ?!」

サソリオレンジ「ここじゃ部が悪い、脱出するぞ！」

セイザゴー！

祐一達はキューボージャーを出してクリス達を乗せて脱出。

東京湾

レイア「待てーキュウレンジャーとハズレ装者！」

ボージャーに乗ってる祐一達は浮かび、巨体レイアはボージャーを追うように立つ。

ヘビツカイシルバー「こいつ、しつこいぞ！」

テンビンゴールド「よっしゃ、キュウレンオーで行くぞ！」

カメレオングリーン「蓮司君？和斗先輩は今日いないよ?!」

テンビンゴールド「あつ？そうやった、ワイはアホや！」

クリス「そう言うと思って和斗があたしに使ってくれとゴジシキュータマを貸したん

だ、久しぶりにあたしが行くぜ！」

コジシキユータマ！

セイザドツキング！

クリス「行くぜ、あたし達のスーパーキュウレンオー！」

サソリオレンジ「あまり乱暴に動きすぎるとなよクリス、俺達の命がかかるかもしれんからな！」

クリス「わかってる、功太、切歌と調は頼むぜ！」

ヘビツカイシルバー「よし、任せてくれクリス先輩！」

レイア「派手に貴様らを散らす！」

スーパーキュウレンオーに合体したクリス達は巨大化レイアと対決し、レバーを強引に動かしアタックする。

レイア「派手に喰らえ、コイン連続射撃！」

クリス「うわっ？ やりやがったな、こうなったら！」

ボウエンキョウキユータマ！

セイザアタック！

クリス「これでも喰らえ！」

レイア「うわああ！」

クリスはボウエンキョウキョウタマを使ってトリガーを引いて強力な射撃攻撃でレイアに一発必中。

クリス「よっしゃ、最後は一気に決めるぜ!」

ワシピンク「はい!」

ギャラクシー!

5人「[[[[スーパーキュウレンオー、ファイナルブレイク!]]]]」

スーパーギャラクシー!

レイア「私は派手に散る、マスター、派手に申し訳ない!」

そう言葉を言い、レイアは海に潜って爆破。

5人「[[[[地球は俺(ワイ)(あたし)達が守る!]]]]」

ヘビツカイシルバー「よっしゃ、任務完了だぜ!」

切歌「やったデース!」

リベリオン研究室

ラフタ「やりましたねエルフナイン、あのキュウレンランチャーの威力は凄すぎです

!」

エルフナイン「はい、他のキュータマをパネルにセットすると更なる力が出ます、うっ?!」

ラフタ「えっ? どうしたのですか? エルフナイン?!」

エルフナインが突然倒れて苦しむ。

ラフタ「玄十郎司令? ステインガー司令? 緊急事態です、エルフナインが倒れました、救護をお願いします!」

ラフタは玄十郎とステインガーにエルフナインの救護を頼むよう連絡する。

NEWS STORY

スペース49、チフォージュシャトーの真の力、響と洗の  
勇気!

祐一達がレイアを倒して聖遺物を破壊して1日が立ち。

リベリオン本部医務室

ステインガー「エルフナインの容態はどうだ?!

ラフタ「あおいが確認したところ命に別状はありませんが、今は鎮痛剤を打って安静にしています!」

ステインガー「エルフナインはキャロルが造ったホムンクルス、何としても助けないとない!」

一方、総司令室では。

ショウ、ロンポー「成る程、クリスちゃんと祐一君達の方の任務は成功したんだね!」  
玄十郎「ああ、エルフナイン君とラフタ君が製造したキュウレンランチャーのお陰でヤンドラ、サルヴァスパの破壊に成功した!」

緒川「こつちの方は要石を破壊したオートスコアラを撃破しました!」

シヨウ総司令達は深淵の竜宮や風鳴邸の要石の任務の報告やら話をする。シヨウ・ロンポー「残る敵は、ゾディアックとキャロルのたった2人！」

緒川「ええ、問題なのはゾディアックの技ですね！」

玄十郎「ああ、和斗君の話によるとゾディアックは今まで和斗君達とステインガー司令達が倒したジャークマターとネオジャークマターのカローの能力が使える聖遺物を纏ってるからな！」

要塞チフォージユシャトー内部

キャロル「いよいよ決戦の時が来たな！」

ゾディアック「ええ、いよいよキャロルの目的が叶えるわね！」

キャロル「ああ、奇跡を壊す目的、それを邪魔をするキュウレンジャーとシンフォギア、邪魔な奴らを完膚なきに倒す！」

ゾディアック（フフフ、せいぜい目的を達しなさいキャロル、野望のためにね！）  
ゾディアックは微笑みながら企んだ顔をした。

一方、響は。

響「……！」

洗「……！」

響は和斗と一緒に洗の連絡でレストランで顔を合わせる、そう、もう一度やり直すために向き合うように。

響「……あのね、お父さん、もう一度お母さんとやり直すつもり?！」

洗「勿論だよ、お前が口添えしてくれたらお母さんも」

響「だったら、初めはお父さんが踏み出してよ、私達を置いて逃げたお父さんじゃないと!！」

洗「響……それは嫌だよ、だって怖いんだ……それに俺にとってのプライドがあるんだ!！」

洗は響の言葉を拒否する。

響「お父さん?!」

和斗「響、ここは俺に任せてくれ!」

和斗「響の親父さん、響はあんたをもう一度やり直すためにここに来たんだ、俺は響



が悲しむ素顔が見たくないんだ……だから！」

？「だからどうした?！」

響「? キャロルちゃん?！」

和斗と響と洗が座つてる席にいつの間にキャロルがいた。

和斗「キャロル? 何しに来た?！」

キャロル「何つて、退屈のぎに貴様らの所に来た！」

響「どういうこと?！」

キャロル「ほお、こいつが立花響の父親か?！」

洗「なっ? なんだ? お前は?！」

パチン

キャロルは右手の指パッチンすると突然と魔方陣が現れ0号を全て出現し街を襲撃。

リベリオン本部司令室

シヨウ・ロンポー「状況はどうだ?！」

朔弥「市街地に0号を全て及びアルカノイズが多数出現して街を襲撃、現在、装者6人とキュウレンジャーの10名が現場に向かって迎撃中です！」

シヨウ・ロンポー「リベリオン本部周辺の街の状況は?！」

あおい「現在、キュウレンジャー候補生達がアルカノイズを迎撃しています!」

シヨウ・ロンポー「よし、ボクチンも行ってくる!ステインガー、ここは頼むぞ!」  
ステインガー「わかった任せてくれ!」

未来「シヨウ総司令さん、私も響の所に行つていいですか?連れてきたい人がいます、お願いします!」

シヨウ・ロンポー「……わかった、だけど危険だからボクチンと緒川君がついていくよ、緒川君、車の準備を頼む!」

緒川「はい!」

未来「シヨウ総司令さん、ありがとうございます!」

一方市街地周辺

翼「はあー!」

ホウオウソルジャー「せい!」

マリア「せやつ!」

スバルと翼とマリアは市街地に現れたアルカノイズと0号を迎撃。

サソリオレンジ「はあー!」

クリス「喰らいやがれ！」

リディアン周辺に現れたアルカノイズと0号は祐一とクリスが迎撃。

クリス「ぜってえにここは守ってやる、ここはあたし達の帰る場所だ！」

サソリオレンジ「ああ、奴らの思惑にはさせん！」

へびツカイシルバー「だりや！」

切歌「デース！」

調「えい！」

海辺の周辺の敵は功太と切歌と調が迎撃。

奏「おりや！」

コグマスカイブルー「そりや！」

シエルター周辺の敵は小太郎と奏が迎撃中。

奏「こいつら？多数に現れやがって？キリがねえ！」

コグマスカイブルー「諦めるな奏、ここを何とか凌ごう！」

テンビンゴールド「そいや！」

カメレオングリーン「それ！」

ワシピンク「当たれ！」

電車の近くの敵は蓮司とアミとエリが迎撃。

テンビンゴールド「危ないから逃げるんや、ここは危険やで！」

カメレオングリーン「こんなにいっぱいいるなんて、ちよつと頑張らないと！」

ワシピンク「ええ、避難してる人達を守りながら戦おう！」

オオカミブルー「おりや！」

カジキイエロー「それ、えい！」

オウシブラック「どすこい、ごわす！」

壮汰とセレナと剛は警備兵達と一緒にツルギ大統領がいる銀河連邦軍大統領邸周辺の敵を撃破した。

ツルギ「助かったぞセレナ、壮汰、剛。お前らにも苦労があつてすまない！」

オウシブラック「いやいや、おいどん達は皆が救えて本当に良かったでござす！」  
カジキイエロー「はい、ツルギさんには色々皆様感謝します！」

オオカミブルー「ええ、ツルギ大統領達が救えて良かったです！」

ツルギ「お前ら……俺様は感謝するぞ！」

響達のいるレストラン

和斗「街が襲撃されてる？何をするんだ?！」

キャロル「見ての通りだ、世界を壊す、それがオレとゾディアックの野望だ！」

和斗「お前は世界を壊して何になる?！」

キャロル「お前らに何がわかる？オレはパパが死んで奇跡を壊そうと決めた！」

キャロルは瞬間移動し何処かに去る。

和斗「キャロル！」

響「あつ？和斗君、私も！」

洗「あつ？おい待ってくれ響！」

和斗と響はレストランを出て市街地に行き、洗も響と和斗についていくように出る

「きゃあー！」

「助けてくれー!」

「怖いよー!」

和斗「何て事を、街を襲撃して人々を襲いかかってきやがって」

洗「ぜーぜー、おっ? 何だ? あれは?!

ピッピ

響「はい? 師匠?!

響の通信機がなり連絡が入る、通信相手は玄十郎だった。

玄十郎「現在、翼達が市街地及び他の街に現れた0号とアルカノイズの迎撃してる、響君は和斗君と一緒に避難誘導を頼む!」

響「わかりました!」

ピッ

響は通信を切る。

響「お父さん、皆に避難誘導をお願い!」

洗「なあ響? この映像、テレビ局にどうやって送れるんだ?」

響「お父さん……」

洗は響の言うことを無視して襲撃してゐる場所を撮る。

要塞チフォージユシャトー内部

キャロルはゾディアックと街の光景を見る

ゾディアック「フフフ、この光景を見たら世界が崩壊しそうになつてゐるわ」

キャロル「ああ、オレの計画がまもなく完了し絶望する、奇跡を壊しオレだけの奇跡の世界を作り替える」

ゾディアック「そうね、あなたの計画は誰にも止められないわ!」

響「いい加減にしてよお父さん、今の状況は……本当にわからないの?!」

和斗「響、ここは俺に任せてくれ、このバカ野郎!」

和斗は響の言うことを無視して自分勝手する洗の右頬に向かっておもいつきり殴つた。

洗「何をするんだ? 和斗君?!」

和斗「いい加減にしろよ、響の親父さん、響はな、あんたに状況を教えて避難するよ  
うに伝えたんだけぞ!それを自分勝手になったなんて情けねえぞ!」

響「和斗君」

? 「ほお、立花響の父親を殴るとは貴様もなかなかやるわね」

和斗の後ろにいつの間にかいたのはゾディアックトウエルブを纏ったゾディアック  
だった。

和斗「ゾディアック?!」

ゾディアック「キャロルが望む世界、貴様らに邪魔するわけにはいかないわ!」

響「和斗君?!」

? 「させんな!」

響「うわっ!」

ギアを纏おうとする響の邪魔をしたのはダウルダブラを纏ったキャロルだった。

洗「響?!」

キャロル「立花響、貴様らにやらせるわけにはいかない、見せてやる、要塞チフォー  
ジュシャトーの真の力を!」



キャロルはスイッチを押すと海辺の見える街の要塞チフォージュシヤトーからエネルギーが発生しビームが発射、発射した座標は東京の自衛基地だった。

切歌「デデデス？ビームが発射したデース?!」

調「一瞬で消滅するなんて?!」

へビツカイシルバー「とにかくここを何とか終わらせて和斗先輩達と合流するぞ!」  
切歌と調と功太は引き続き、海辺の周辺の敵を迎撃する。

キャロル「どうだ？要塞チフォージュシヤトーの力は？要塞からエネルギーが発生してビームが発射する力、この力があれば全世界の制圧や支配できる恐れもない!」

洗「うおおお!」

洗は響の所にいるキャロルに向けて石を投げる。

響「お父さん?!」

洗「響、お前は和斗君と諦めるな、俺は和斗君が殴ったお陰で俺はお母さんとやり直す勇気を貰った、だから平気へっちゃらだ〜!」

和斗「響の親父さん!」

キャロル「ほお？オレに石をぶつけるとはいいい度胸してるな!」

キャロルは石を投げてる洗に向かって進み近づき。

洗「近づくな、娘と娘の幼なじみに!」

和斗「親父さん?!」

すると。

響「どりやあああ!」

洗「響?!」

響は洗に近づくとキャロルに右ストレート。

響「お父さんはやらせない、お父さんがせっかく私達の為に向き合うように前を向いたんだ!」

洗「響……お前!」

キャロル「ほお?父親を守ってオレを殴るとは?ならばこれで散れ!」

和斗「させるか!」

ウサギキュータマ!

セイザアタック!

和斗はウサギキュータマを使って飛び、響のいるところにつき、キャロルが魔法攻撃を放つと。

タテキュータマ!

セイザアタック!

すぐにタテキュータマを使ってキャロルの放つ攻撃から響達を守った。

和斗「キャロル、響と親父さんはやらせねえ、響は親父さんを勇気出させて向き合うようになるんだ!」

ワツア、サイコーキュータマ!

スーパージェンジ!

和斗「スターチェンジ!」

和斗はシシレットオリオンにスーパージェンジしキューソードを構え、キャロルと対決。

ゾディアック「ならばシシレットオリオン、あの時のようにしてあげるわ!」

ゾディアックも右手から剣を出してキャロルを加勢。

響「お父さん、私、和斗君と一緒に皆を守る、だから見てて!」

響は歌ってギアを纏い、和斗の援護する。

洗「響、強くなつたな!」

シシレットオリオン「おりゃ!」

ゾディアック「ふっ、この技を喰らうがいい、喰らえスコルピオの蹴り!」

シシレッドオリオン「そんなものはこれで！」

和斗はゾディアックの相手をし、ゾディアックが和斗に向いてスコルピオの蹴り技をするが和斗はカウンターでキュースピアを出して防ぎ。

響「どりゃあ！」

響はキャロルの相手をし右手のガントレットを起動してキャロルに向けてブーストして殴る。

キャロル「ふん、そんな攻撃など甘い！」

響「うわっ！」

キャロルはバリアで響の攻撃を玄攻撃で弾き返した。

洗「頑張れ、響、和斗君！」

ゾディアック「娘を応援ね、ならば！」

ゾディアックは能力を使って洗周辺にアルカノイズを多数出現。

響「お父さん?!」

シシレッドオリオン「親父さん?!」

ゾディアック「フフフ、立花響の父親を痛め付けるわ！」

? 「響のお父さんはやらせない！」

キャロル「何?!」

ギヤラクシー!

コグマスカイブルー「ボラリスインパクト!」

洗の所に駆けつけて来たのはコグマストライカーに乗った小太郎と奏。

シシレッドオリオン「小太郎? 奏さん? 来てたのか?!」

奏「ああ、あたし達だけじゃねえぞ!」

ギヤラクシー!

サソリオレンジ「アンタレスインパクト!」

ホウオウソルジャー「フェニックスエンド!」

祐一とクリスとスバルと翼とマリアも駆けつけて来た。

クリス「よお? 待たせたな!」

響「翼さん! クリスちゃん! スバルさん! 祐一さん! マリアさん!」

シシレッドオリオン「他のところは大丈夫か?!」

翼「ああ、避難の方はキュウレンジャー候補生達に任せてるぞ!」

? 「お待たせデース!」

功太と切歌と調、蓮司とアミとエリ、壮汰とセレナと剛も和斗達の所に合流。

テンビンゴールド「待たせたで先輩、ワイらも終わったで!」

へびツカイシルバー「ああ、何とか終わらせといたぜ!」

カジキイエロー「ツルギ大統領さんの宮廷も守りました!」

ホウオウソルジャー「ありがとうセレナ、壮汰、剛!」

? 「ボクチンも忘れちゃ駄目だよ!」

洗の所に黒い車が止まる、運転席には緒川、助手席にはリュウコマンダーになったシヨウ総司令、後ろの席には未来が乗っていた。

洗「未来ちゃん?!

未来「おじさん、早く乗って!」

洗「でも響が!」

未来「響なら大丈夫です、和斗君とシヨウ総司令さん達がいます!」

リュウコマンダー「緒川君、響ちゃんのお父さんを乗せたらここを離れるんだ!」

緒川「わかりました!」

シヨウ総司令は降りて洗を助手席に乗せて緒川達が乗った車はここを離れる。

シシレッドオリオン「シヨウ総司令、ありがとう!」

リュウコマンダー「いいんだよ、響ちゃんのお父さんを守れて良かったよ!」

キャロル「ふん、ようやく揃ったな、キュウレンジャーとシンフォギア!」

シシレッドオリオン「キャロル、ゾディアック、響達の世界を壊して奇跡を壊そうと

するなんて絶対に許さねえ！」

リュウコマンダー「この世界は皆の世界だ、お前達の野望はボクチン達が食い止める！」

響「ここで終わらせるよ、キャロルちゃん、ゾディアック！」

キャロル「良いだろう、貴様らまとめて滅ぼしてやる！」

ゾディアック「ここじゃ部が悪いわ、チフオージュシャトーで決着をつけましょう！」  
キャロルとゾディアックは瞬間移動で去り。

ホウオウソルジャー「いよいよ最後の戦いだ、皆の希望がかかっている！」  
シシレッドオリオン「ああ、皆、行くぞー！」

全員「オツキュウ！」

さあいよいよ決戦の時が来た。

NEW STORY

スペース50、突入要塞チフォージュシャトー、ゾディアックの企み!

シシレッドオリオン「おりや!」

響「どりや!」

和斗と響達は海辺の要塞チフォージュシャトーに向かってアルカノイズを倒しながら進む。

翼「よし、もう少しで敵の要塞に着く、遅れをとるな!」

マリア「ええ!」

ホウオウソルジャー「この戦いを終わらせるぞ!」

リベリオン本部司令室

玄十郎「頼んだぞ和斗君、翼、シヨウ総司令、皆!」  
ウイーン

未来と洗が司令室に入ってくる。

緒川「未来さん?ここは一般の方は入れません!」



洗「頼む、娘と和斗君の頑張りから見ていたんだ！」

洗はまつすぐな瞳で緒川に入れるようにお願いする。

未来「緒川さん、今回だけおじさんをお願いを聞いてください！」

ステインガー「……：…… わかった、許可する！」

未来「ステインガーさん、ありがとうございます！」

緒川「ステインガー司令?!」

ステインガー「責任は俺がとる、響の頑張りを見る父親

のまつすぐな目つきをする！」

要塞チフオージュシャトーの近くの海辺に着いた和斗達。

リュウコマンダー「着いた、ここが?!」

シシレッドオリオン「要塞チフオージュシャトー?!」

キャロル「ククク、よく来たなキュウレンジャーとシンフォギア！」

ホウオウソルジャー「キャロル！」

和斗達が来たとき要塞チフオージュシャトーからキャロルの立体映像が写し出し。

キャロル「今日が貴様らの最後だ、貴様らを倒して奇跡を壊す！」

シシレッドオリオン「お前らの野望は俺たちが打ち砕く!」

キヤロル「ほお、その言葉、きっちり返して貰うぞ!」

要塞チフォージュシャトーから光が現れ、和斗達を浴び、エレベーターのように上がり、要塞の中に入る。

要塞チフォージュシャトーの一階

シシレッドオリオン「ここは?!」

ホウオウソルジャー「ここはチフォージュシャトーの中?俺達は中に入ったんだ!」  
リュウコマンダー「皆、油断大敵だよ、何か待ち伏せしてる可能性があるかshれないよ!」

翼「はい!」

すると

ゾディアック「来たわね、キュウレンジャーとシンフォギア!」

シシレッドオリオン「ゾディアック?!」

ゾディアックが和斗達の前に現れる。

リュウコマンダー「ボクチン達に挑む気かね?!」

ゾディアック「ええ、ここだと邪魔だから向こうにいきましょう!」

シシレッドオリオン「ん?何だ?!」

響「うわっ?!」

要塞チフォージュシヤトー最上階

シシレッドオリオン「ここは?!」

マリア「もしかして? 最上階?!」

和斗達はゾディアックの光を浴び、目を開けてついた場所は最上階だった。

テンビンゴールド「何や? ここ? 最上階にしてはえらいもんやな!」

ヘビツカイシルバー「ああ、それに大きな歯車もあるなんて!」

キャロル「よく来たな、シンフォギアとキュウレンジャー!」

響「キャロルちゃん!」

響達が見えたのはチフォージュシヤトーの王の席に座ってるキャロルの姿と隣に立ってるゾディアックだった。

ホウオウソルジャー「キャロル、お前達の野望は俺達で終わらせる!」

翼「皆の未来と希望のためにも絶対に勝つ!」

キャロル「ほお? 全員オレ達に勝てるのか? ならば!」

キャロルが席から立ったとたん彼女が纏ったダウルダブラから黒いオーラが発生す

る。

ウィーン

エルフナインが息を苦しみながら司令室に入ってくる。

エルフナイン「キャロル…… やめてください、世界を壊さないで下さい!」

未来「エルフナインちゃん?!」

ステインガー「無理するな!」

エルフナイン「うう…… うわああああ!」

同時にエルフナインの体から黒いオーラが発生し、苦しんで倒れる。

洗「おい?しつかりするんだ!」

洗は倒れたエルフナインを抱える。

玄十郎「キャロルの分析は?!」

あおい「今、調べています!」

ラフタ「?分析結果が出ました、おそらくキャロルはゾディアックからプラネジウムを与えた影響で黒いオーラが発生する模様です!」

ラフタはすぐに分析結果を玄十郎達に報告する。

玄十郎「聞こえるか?和斗君達?!」

シシレッドオリオン「えっ？ゾディアックがキャロルにプラネジウムを与えて黒い力が発生したと?!」

玄十郎「ああ、ラフタ君が分析した結果、キャロルはどうやらゾディアックからプラネジウムを与え更に力が増大して黒いオーラが発生する…… エルフナイン君が苦しんでる可能性はそれなんだ！」

マリア「エルフナインが?!」

ステインガー「ああ、キャロルとゾディアックを食い止めれば黒いオーラが発生しなくなる、頼む！」

リュウコマンダー「わかった、絶対に任せてくれ！」

ピッ

リュウコマンダー「皆、エルフナインが黒いオーラが発生して苦しんでる、何として

もゾディアックとキャロルを倒そう!」

オオカミブルー「はい、エルフナインを助けないとな!」

クリス「ああ、これ以上、あいつらの好きにはさせねえ!」

サソリオレンジ「奴らを倒すぞ!」

シシレッドオリオン「ああ、行くぞ皆!」

全員「オツキュウ!」

ゾディアック「なら、ここでチリになりなさい!」

キャロル「行くぞ!」

キャロルとゾディアックは戦闘を始め、和斗達と対決し始める。

シシレッドオリオン「お前の相手は!」

響「私達が相手になる!」

キャロル「ほお?じゃあこの力に勝てるか?!」

キャロルは右手をかざすと玄がキャロルの右腕を纏い、形が闘牛の顔の形になる。

キャロル「くらえ、タウラスブレイク!」

シシレッドオリオン「うわああ!」

響「和斗君?!」

ホウオウソルジャー「バカな？ キャロルは玄攻撃じゃない？ まさか?!」  
キャロル「ククク、これだけじゃないぞ！」

今度は右足に玄を纏いヤギの顔の形になる。

翼「なっ？ 今度はヤギ座系カロー？ ぐわあああ！」

マリア「翼?!」

奏「こいつ？ ゾディアックと同じ能力を使ってやがる？ まさか?!」

キャロル「その通り、ゾディアックから与えたプラネジウムの黒いオーラのおかげでオレはゾディアックと同じ能力が使える！」

クリス「この野郎、くらいやがれ！」

クリスはキャロルに向かってボウガン攻撃を放とうとすると。

ゾディアック「甘いわよシザーマシンガン！」

クリス「うわああ！」

切歌「デース！」

調「きやつ！」

ゾディアックが肩からシザーズのカニ爪を出してマシンガンでクリス達に向けて攻撃。

クリス「くそ、邪魔しやがって!」

ワシピンク「それなら、私とアミの連携攻撃で!」

キャロル「ん?させるか!」

カメレオングリーン「えっ?きや!」

オウシブラック「ごわっす!」

ワシピンク「きやあ!」

キャロルは玄を水瓶のような瓶にしアミとエリと剛に向けて水の乱射攻撃。

オオカミブルー「剛?!」

カジキイエロー「アミさん?エリさん?!」

ゾディアック「キャロル!」

キャロル「ああ、行くぞ!」

ゾディアックとキャロルは二人揃って雷の攻撃を放つ。

シシレッドオリオン「うわああ!」

リユウコマンダー「ぐわあああ!」

響「きやあ!」

和斗達はキャロルとゾディアックの雷の攻撃で倒れる。



未来「和斗君？響?!」

玄十郎「何て力を持つてる?!」

ステインガー「ああ、ゾディアックはキャロルに力を与えたから更に増加したに違いない!」

洗「響、和斗君!」

ゾディアック「フフフ、その程度で私達2人に勝とうなんて甘すぎるわ!」

キャロル「ふん、相手にもならんな!」

シシレッドオリオン「いや、まだ諦めねえ、俺達は絶対に諦めてたまるか!」

響「うん、皆がいるから諦めない、お父さんや皆や友達が私達の事を応援してる!」

リュウコマンダー「その通り、私達はどんなものにも負けない力がある!」

ホウオウソルジャー「ええ、俺達は一人で背負って戦っていたが、皆がいるから諦め

ない!」

マリア「ええ、私達は悲しいものや罪を背負っていたけど、今は大切な人がいたから私達は迷わない!」

シシレッドオリオン「それでも、俺達は負けない!」

オオカミブルー「ああ、絶対に勝とうぜ、セレナ!」

カジキイエロー「はい、私達皆さんで終わらせましょう!」

クリス「見てて、パパ、ママ、兄貴、あたしは祐一と皆と世界を守るぜ!」

サソリオレンジ「ああ、俺達は絶対にお前らに負けない!」

和斗達は力を踏ん張って立ち上がった。

キャロル「ほお? まだ立ち上がる力が残っていたのか?!」

ヘビツカイシルバー「当たり前だ、俺達には切歌と調達がいるからまだ戦える!」

切歌「そうデース!」

調「うん、皆がいるから戦える!」

コグマスカイブルー「そうだね、それに大切な人がいるんだ!」

奏「ああ、小太郎の言う通りだな!」

翼「ええ!」

オウシブラック「おいどん達はまだ戦えるでござす!」

テンビンゴールド「そうや、ワイらは皆のすんでる世界を救うで！」

カメレオングリーン「うん、この地球の平和のため！」

ワシピンク「未来のためにも最後まで負けられない！」

ゾディアック「ならば、散りになるが良いわ！」

シシレッドオリオン「小太郎！」

和斗は小太郎にガングニールキュータマを渡す。

響「よし、行きましょう、皆さん！」

ガングニールキュータマ！

アメノハバキリキュータマ！

イチイバルキュータマ！

アガートラームキュータマ！

イガリマキュータマ！

シウルシャガナキュータマ！

セイザチエンジ！

5人「スターチエンジ！」

小太郎、スバル、祐一、セレナ、功太、蓮司はガングニール、アメノハバキリ、イチイバル、アガートラーム、イガリマ、シウルシャガナキュータマを使ってパワーアップ。

響「私達も行きましょう、イグナイトモジュール!」

7人「抜剣!」(ブース!)

イグナイトキュータマ!

セイザアタック!

響達も続いてイグナイトモジュールを抜剣し、イグナイトキュータマを装填してギアの形状を変える。

キャロル「何度やっても結果は同じだ!」

シシレッドオリオン「それはどうかな?俺達は今までとは違う!」

全員「うおおおお!」

和斗達はキャロルとゾディアックと対決。

シシレッドオリオン「おりや!」

響「どりやあ!」

ホウオウソルジャー「はあー!」

キャロル「ふん、効かん!」

翼「まだ私達がいるぞ!」

リュウコマンダー「油断大敵だよ!」

サソリオレンジイチイバル「くらえ!」

クリス「ぶっ飛べ！」

キャロル「くっ！」

和斗と響とクリスと祐一とスバルとシヨウ総司令とマリアと翼はキャロルの相手をし。

ゾディアック「これでもくらいなさい、エリートロンの矢の攻撃！」

テンビンゴールドシユルシャガナ「その攻撃は！」

ワシピンク「もう見抜いたわ！」

蓮司はヨーヨー、エリはキューショットでゾディアックの放つエリートロンの矢の技を防ぎ。

コグマスカイブルーガングニール「おりゃー！」

奏「そりゃ！」

ゾディアック「くっ、きやつ！」

ヘビツカイシルバリーガリマ「そいや！」

切歌「デース！」

調「えい！」

カメレオングリーン「それ！」

その隙に功太と小太郎と奏と切歌と調とアミがゾディアックに向けて接近戦攻撃。

ゾディアック「調子にのらないで、キュウレンジャーとシンフォギア！」

ゾディアックはレオルスの獅子のクローを出して功太達に向けて接近しようとする  
と。

オオカミブルー「その攻撃は！」

カジキイエローアガートラム「私達が相手です！」

オウシブラック「おいどん達もその攻撃はなれたでござす！」

ゾディアック「うわああ！」

壮汰達がゾディアックのレオルスの獅子のクロー攻撃をキューウエボンで防いで、その隙にセレナがキュースラツシャードとダガーでゾディアックに攻撃した。

ゾディアック「何故？何故？貴様らはそんなに強いんだ?！」

オオカミブルー「へへ、皆が一緒に戦って俺達は前に進めた！」

カジキイエローアガートラム「私達はマリア姉さんや皆さんの共に戦って諦めない心があります！」

オウシブラック「おいどんのおつ母とおつ父、故郷の鹿兒島の皆やニャンコロ星人の

皆や地球の皆がおいどん達を応援してらでござす！」

キャラル「貴様らー！」

キャラルは本気を出して更に力が発揮し。

シシレッドオリオン「俺達はエルフナインを為にも負けるわけにはいかない！」

和斗は両手をかざしてエンブレムを出し12のキューウエポンを出す。

キャラル「散れ！」

シシレッドオリオン「うおおおお！」

和斗は出してきたキューウエポンを使いながらキャラルと互角に戦い。

キャラル「ふっ、くられ、ジェニミスの技、双子の雷撃波！」

シシレッドオリオン「ふっ、はあー！」

キャラルはジェニミスの技を出したとたん、和斗は全てのキューウエポンを操り壊れるまでキャラルの攻撃を食い止め。

キャラル「ふん、オレに勝てられないな！」

響「まだ私がいるよー！」

キャラル「なっ？うわああ！」

響は勢いよくキャロルに向かってアームドギアの右ストレートでキャロルを吹き飛ばした。

キャロル「くっ、バカな? オレがこんな奴らに負けるのか?!

シシレッドオリオン「スバル!」

ホウオウソルジャー「ああ!」

キュウレンランチャー!」

カモン・ザ・アタック!

スバルはキュウレンランチャーを出してシヨウ総司令と和斗と祐一とスバルで支え。

シシレッドオリオン「よし、これで行くぜ!」

シシキュータマ!

セイザチャージ!

和斗はキュウレンランチャーのパネルにシシキュータマをセットして最大にチャー

ジ。

リュウコマンダー「よし、一撃で決めよう!」

ホウオウソルジャー「ああ、これで決めるぞ!」

フルチャージ完了!

シシレッドオリオン「よし、決めるぞ、レグルスブラスター!」



和斗はトリガーを引いて放ち、キャロルは最大のバリアで防ぐ。

キャロル「貴様らなどに負けるかああああ！」

響「これで決めるよ！」

ギヤラクシー！

響「イグナイトナツクル！」

翼「イグナイト断ち切り！」

クリス「イグナイトミサイル！」

マリア「イグナイトダガー！」

キャロル「ぐああああ！」

スーパーギヤラクシー！

響達4人がイグナイトの必殺技でキャロルに攻撃し、ダウルダブルが粉々になり倒れる。

キャロル「がはっ、ごはっ！」

コグマスカイブルー「和斗、総司令、響、皆！」

奏「やったな、翼達!」

ゾディアック「ちっ!」

小太郎達はゾディアックとの対決をやめ、和斗と響達と合流。

キャロル「ぐはっ、オレがこんな奴らに負けたのか?!」

ホウオウソルジャー「キャロル、もうやめるんだ、こんなことしてもお前の父さんはこんなこと望んでいない!」

キャロル「黙れ、オレはパパが死んでこう言った、奇跡を壊せと、オレは誓った、パパが望んだ世界のためにも奇跡を壊せと!」

ホウオウソルジャー「バカ野郎、お前はそんなことにしてまで父さんを悲しませるのか?俺達はお前のために思ってるぞ!」

キャロル「えっ?!」

スバル「あの日、木屋でマリアさんと一緒にお前の話を聞いてお前は辛いことがあった、父さんが死んで奇跡を壊そうと望んでた、皆にも辛いことや悲しいことがたくさんあった、勿論、俺にも両親がノイズに殺されて悲しんでいたが今は俺は皆がいるから前に進めた!」

スバルはキャロルに思ってることを少し怒って言った。

リュウコマンダー「スバル君の言う通りだよ、ボクチン達は今の世界で皆、辛いことや悲しいことはあったが強く前に進めたんだ、キャロルちゃん、もうこんなことはやめよう！」

キャロル「オレは……うう、あああああ！」

キャロルはショウ総司令の言葉を聞いて涙を大量に流した。

響「キャロルちゃん！」

すると。

ドス

響「えっ?!」

キャロル「がはっ！」

何とゾディアックがキャロルの背後につき、右手をキャロルの体を貫く。

キャロル「どういう事だ？ゾディアック?!」

ゾディアック「キャロル、あなたにはガツカリだわ、あなたの奇跡を壊そうと手伝わてあげたのに……もういいわ、私とその奇跡を壊すわ、キャロル、あなたの体を貫くわ！」

キャロル「ゾディアック、貴様あああ！うっ！」

ゾディアックは粒子体の光になり、キャロルの体と融合してキャロルの髪が白くなり、ゾディアックが纏った物を装備。

エルフナイン「うう、うわあああ!」

未来「エルフナインちゃん? しつかり?!」

司令室でまたエルフナインの体から黒いオーラがまた発生した。

玄十郎「黒いオーラがまた発生したのか?!」

キャロル? 「この体も悪くないな、私が使ってやるよ!」

シシレッドオリオン「ゾディアック? お前? キャロルに何をした?!」

キャロル「我が名はゾディアックキャロル、私は奇跡を壊す皇帝、はあ!」

キャロルの体と融合したゾディアックは名を名乗る瞬間、右手からビームを発射してチフォージュシャトーを容赦なく破壊し出す。

リュウコマンダー「まづいぞ、要塞チフォージュシヤトーが崩壊する、皆、脱出だ！」  
全員「オツキユウ！」（デース！）

和斗達は要塞チフォージュシヤトーから脱出し、要塞チフォージュシヤトーは崩壊して爆破。

ホウオウソルジャー「何とか脱出したな！」

翼「ああ、ん？あれは?!」

ゾディアックキャロル「ハハハハ、さあ第2ラウンドだ、貴様らはここで敗北する！」

NEWSSTORY

スペース51、ゾディアックキャロルと対決、ピンチをチャンスに?!

ゾディアックキャロル「ハハハハ、第2ラウンドの始まりだ、私の力をみるがいい！」  
ゾディアックキャロルは和斗と響達のいるところに行き、纏った背中の部分から光が輝き出し、何やら12体現れた。

リュウコマンダー「あれは？今までラツキーとボクチン達が倒したジャークマターとネオジャークマターのカロー?！」

シヨウ総司令が驚いたのはゾディアックキャロルが出してきた12人、そうラツキー達と和斗達が今まで倒したジャークマターとネオジャークマターのカローだった。

コグマスカイブルー「スコルピオやエリートロン? マゲラ? 何故甦ったんだ?!」

奏「それだけじゃないぞ、ジェニミスやリブラーン、それにスレイブ達も甦ったぞ?!」  
スコルピオ「……!」

エリートロン「……!」

だが喋らず無感情だった。

ゾディアックキャロル「驚いただろ? 我の力は? キャロルと融合した我は魔法を使っ

て今まで倒したジャークマターとネオジャークマターのカロを甦ることができる！」

玄十郎「ゾディアックはキャロルと融合して今まで倒した敵を甦ることが出来るだど?!」

ステインガー「スコルピオ達を甦らせたのか?!」

未来「響、和斗君、皆！」

エルフナイン「必ずキャロルを救ってください、うっ！」

洗「おい?しつかりするんだ！」

エルフナインがまた突然と苦しみ出す。

ホウオウソルジャー「まさかの展開とは、今まで倒した敵を甦らすなんて！」

ヘビツカイシルバー「しかも牡牛座系カロの奴がいたなんて知らなかったぞ?!」

調「水瓶座系カロや魚座系カロもいたなんて?!」

切歌「ホントデース?!」

調と功太と切歌は現れた牡牛座系カローと水瓶座系カロー、魚座系に驚き。

ゾディアックキャロル「こいつらの名は牡牛座系カローのタウラーン、水瓶座系カローのアクエルア、そして魚座系カローのピスケーン、こいつらはジェニミスが力を吸収して犠牲になったカロー、すなわち人形体だ!」

クリス「あんなもんで甦らせやがって!？」

翼「とにかく倒すぞ!」

マリア「ええ!」

和斗達はゾディアックキャロルが甦ったカロー達の相手をする、スバルは翼とマリアと一緒にエリートロンとスレイブの相手、切歌と調、功太はピスケーンとヴィエルの相手、蓮司とアミとエリはアクエルアとマゲーラ、剛とシヨウ総司令はタウラーンとレオルス、小太郎は奏とシザースとリブラーン、クリスと祐一はスコルピオとリブラーン、壮汰とセレナはジェニミス、和斗と響はゾディアックキャロルの相手をする。

切歌「あれ?このカローの二人?何だか弱そうデース!？」

調「でも?ちよつと黒いオーラが発生してる!？」

ヘビツカイシルバー「よっしやチャンスだ、行くぞ!」



すると。

調「きゃっ！」

切歌「なんだか動きが強いデース!？」

ヘビツカイシルバー「どうなってんだ!？」

ゾディアアツクキャロル「フッフ、我が甦った奴らは少しずつプラネジユウムを与え、力が増加する！」

ゾディアアツクキャロルは甦ったカローが何故力が強くなった理由を説明した。

翼「そんなもの、私達が倒す！」

ホウオウソルジャー「ああ、俺達は負けない！」

だが力が強くなり苦戦に陥る。

マリア「うわああ！」

翼「ぐわああ！」

ホウオウソルジャー「うわっ！」

スバルと翼とマリアはエリートロンとスレイブの増加した攻撃で倒れ。

ホウオウソルジャー「翼、マリアさん……俺は翼とマリアさんと幸せな生活にした

かった!」

マリア「スバル!」

翼「私もだ!」

翼とマリアとスバルは手を繋いで力を尽き。

奏「翼? マリア?!

コグマスカイブルー「スバル? うわっ!」

奏「小太郎? うわああ!」

奏と小太郎もシザースのシザークローとリブラーンの天秤攻撃をうけて倒れ。

へびツカイシルバー「ぐはっ!」

調「きやあ!」

切歌「デース!」

テンビンゴールド「うわっ!」

ワシピンク「きやあ!」

カメレオングリーン「きやつ!」

功太と切歌と調達も攻撃をうけて倒れ力を尽き。

クリス「こいつら!」

サソリオレンジ「許さん!」

イチイバルキュータマ!

セイザチエンジ!

祐一はイチイバルキュータマを使って姿を変え、直ぐ様クリスと一緒にスコルピオに向けてガトリング攻撃を放つがスコルピオはシツポで攻撃を防ぎ、高速の速い攻撃で祐一とクリスに攻撃し、キック技をうけて2人は倒れ。

リュウコマンダー「祐一君?、うわっ!」

オウシブラック「クリス先輩殿?ごわっす!」

オオカミブルー「剛?うわあ!」

カジキイエロー「シヨウ総司令さん?きやあ!」

シヨウ総司令と剛、壮汰とセレナはジェニミス達の最大攻撃をうけ力を尽き。

響「翼さん?皆さん?!」

ゾディアックキャロル「さあ残りは貴様だ、チリになる覚悟は出来たか?!」

シシレッドオリオン「俺達は負けない、お前を倒してキャロルの命を救う!」

和斗はキューソード、響はアームドギアのパンチでゾディアックキャロルと激しい対決。

ゾディアックキャロル「ほお?貴様なかなか強いな、力をつけたか?!」

シシレットオリオン「当たり前だ、俺は皆がいるから希望がある、俺達はお前に負けない!」

ゾディアックキャロル「なら? 絶望をあたえてやる!」

♪♪♪

響「えっ? この曲は? 何?!」

響のヘッドフォンから何やら絶望のような曲が流れると。

「うわああ、吸い込まれる、助けてくれ!」

「いやー、死にたくない!」

「助けてくれ!」

市街地にいる人達は絶望のような曲が流れたとたん、黒い球体になり、ゾディアックキャロルの体内に吸収、力を蓄える。

玄十郎「なっ? 市街地に人達を球体にし、吸収だと?!」

ラフタ「はい、調べた分析によるとゾディアックキャロルは絶望のような曲が流れた瞬間、市街地にいる人達は黒い球体になり、吸収して力を蓄えます!」

ラフタがゾディアックキャロルの分析し玄十郎達に報告。

未来「響……和斗君！」

ゾディアアックキャロル「ハハハハ、市街地にいる人達を吸収して我は更に力を蓄えた、これで貴様らを上回る！」

シシレッドオリオン「ふざけるな、俺達は人々を吸収して力を蓄え、お前を絶対に許さねえ！」

響「うおー！」

響は和斗の背中を押さえながら和斗をフォローするが。

ゾディアアックキャロル「ふん、そんなものなど押し返す！」

だがゾディアアックキャロルの方が力が上だった。

シシレッドオリオン「なっ？うわああ！」

和斗と響は倒れ、和斗はチェンジ解除、和斗の体は傷だらけになる。

ゾディアアックキャロル「ハハハハ、その程度か？シンフォギアとキュウレンジャー！」

和斗「がはっ！」

響「和斗君？無理しないで、私に任せて！」

ゾディアアックキャロル「ふん、貴様の相手はこいつらで十分だ！」

翼達を倒したカロー達が響に襲いかかり、響はカロー達を相手に1人で立ち向かう。  
未来「響? 1人で無理はしないで!」

ステインガー「今のイグナイトのお前ではゾディアックキャロルと復活したカロー全員に敵わない、逃げろ!」

ウイーン

? 「未来?!」

司令室に入ってきたのはバランズとナーガ。

未来「えっ? バランズさん? ナーガさん? どうしてここに?!」

ナーガ「実は俺とバランズは市街地にいる残りの人達を本部へ避難させた!」

バランズ「うん、僕もナーガと候補生達と一緒に本部に入ったよ、和斗君の両親と一緒に!」

未来「ああ? 響?!」

響「うわっ、きゃっ!」

響はスコルピオの蹴り攻撃やスレイブの蹴り攻撃、続いてタウラーンのホーン攻撃で

突進、アクエルアの水攻撃、ピスケーンの魚攻撃で倒れる。

和斗「響？ぐはっ！」

ゾディアアツクキャロル「シシレッド、貴様はここで見てろ、我が立花響にトドメをさす！」

ゾディアアツクキャロルは直ぐ様右手をかざし響に向けて玄攻撃。

響「諦めない、私と和斗君達は……諦めない！」

響は諦めない言葉を言い、ゾディアアツクキャロルの攻撃を耐えようとすると。

ゾディアアツクキャロル「なっ？何だ？あの流星群は？うわああ！」

空から獅子座流星群が振り出し、ゾディアアツクキャロルと響の所にいるカロー達に向けて衝突、カロー達は消滅し、ゾディアアツクキャロルは倒れる、そして煙が消えると。

？「待たせたな、皆！」

響「えっ？あなたは?！」

和斗「まさか?！」

和斗、響「ラッキーさん?！」

そう、響と和斗のピンチに来たのは、白い獅子のエンブレムがモチーフのロングコート、そうかつて7年前、ステインガー達と一緒にジャークマターを壊滅しフロンティア事変で響達と一緒に戦った男、シシレッドのラッキー。

ラッキー「よっしやラッキー、久しぶりに来たぜ地球！」

ステインガー「ラッキー？来てたのか?！」

バランス「お久しぶり〜ラッキー！」

ナーガ「ラッキー！」

ラフタ「ラッキーが来て奇跡です！」

司令室でバランスとナーガとステインガーとラフタもラッキーが和斗と響達のピンチに駆けつけた事に大喜び。

和斗「ラッキーさん？来てたのか?！」

ラッキー「ああ、久しぶりだな、和斗、3年ぶりだな！」

響「ラッキーさん？どうしてここに?！」

ラッキー「ああ、惑星カイエンでピンチの予感がしてな、宇宙バイクに乗って地球に駆けつけてたんだ、そこで獅子座流星群に巻き込まれて着いたってことだ、よっしや



ラッキーとな！」

ラッキーが何故地球に来た理由を話す。

ゾディアックキャロル「おのれ、よくも復活したカロー達を全滅してくれたな、だが  
私の魔法の力で復活してくれる、はあっ！」

だがゾディアックキャロルが魔法で復活するが消滅。

ゾディアックキャロル「なっ？何故だ？魔法を使ったのに何故復活出来ない?！」

ラッキー「わからないのか？お前はキャロルの体を使って奇跡を壊して世界を変えようとした、俺にはわかる、キャロルが心の中でお前を止めてる！」

和斗「ラッキーさん、ん？ガングニールキュータマが?！」

突然和斗のポケットからガングニールキュータマが光り、それと同時に倒れたスバルと功太と蓮司とセレナと祐一の聖遺物キュータマが共鳴して輝き。

翼「う…：うーん！」

ホウオウソルジャー「俺達は？確か？ゾディアックキャロルの攻撃で倒れたのに?！」  
聖遺物キュータマの輝きで倒れた翼とスバル達は意識を甦る。

響「クリスちゃん？翼さん？皆?！」

和斗「小太郎？祐一？壮汰？セレナ？皆?！」

和斗と響は甦った翼達と合流して喜ぶ。

ゾディアックキャロル「バカな？何故倒れたのに甦るんだ?!」

ラッキー「お前にもわかるだろ？これが和斗達の…皆の光だ！」

カジキイエロー「あつ？聖遺物キュータマが?!」

セレナが気づいたのは、6つの聖遺物キュータマが1つになり融合、形はサイコーキュータマと同じ形だが色が赤い。

リュウコマンダー「これはオツたまげだよ、聖遺物キュータマが融合するとは?!」

玄十郎「聖遺物キュータマが融合しただと?!」

ラフタ「あんな聖遺物キュータマはありません！」

ステインガー「ああ、形はサイコーキュータマに似てる?!」

ステインガー達は聖遺物キュータマが融合した者に驚く。

ゾディアックキャロル「貴様らー、私の力を今度こそ思い知らせてやる！」

響「ラッキーさん！」

和斗「受け取ってくれ！」

和斗と響がラツキーに渡したのは、響が着けた黄色いセイザブラスターとサイコーキョータマ。

ラツキー「よし、和斗、行くぞ！」

和斗「ああ、ダブルシシレッドで行こうぜラツキーさん！」

ワツツア、サイコーキョータマ！

スパーセイザチェンジ！

ラツキー「スターチェンジ！」

ザ・グッド、ギャラクシーキョータマ！

ファイナルセイザチェンジ！

和斗「スターチェンジ！」

ラツキーはサイコーキョータマを使ってシシレッドオリオンにチェンジ、和斗は聖遺物キョータマを融合したキョータマ、ギャラクシーキョータマを使ってチェンジ、ボデイはシシレッドオリオンに似てるが色が赤い、最後にシシレッドのヘルメットを装備。

調「シシレッドオリオンと赤いシシレッドオリオン?!」

切歌「でもダブルシシレッドはカッコいいデース！」

クリス「ん？何だか力がわいてきたぞ?!」

玄十郎「ん？これは?！」

あおい「響ちゃん達のバイタル及びフォニックゲインが上昇?！」

朔也「それだけじゃありません、キュウレンジャーのエネルギーも上昇しています！」

ステインガー「まさか？あのキュータマが響や皆に力を与えたのか?！」

玄十郎達は和斗と響達の力が上昇したのに驚く。

翼「感じるぞ、この思いは、獅子野や皆がいるから力になる！」

マリア「ええ、私達の光や力は心や体だけじゃない！」

奏「ああ、あたし達には大切な人がいるから

切歌「アタシ達皆は足手まといじゃないデース！」

調「うん、皆がいるから前に進める！」

クリス「皆の光や和斗達の光があるからあたし達は戦えた！」

響「それでも私達は和斗や未来、皆がいるから救えるんだああああ！」

響の叫びで7人のギアから光が輝き、姿が変わる、そうこれがフォニックゲインが高

まっつて変わる姿エクストライブモードだ。

テンビンゴールド「おおお？切歌と調達のギアが輝いたで?!」

ヘビツカイシルバー「ああ、それだけじゃない、俺達も力があふれてきてたぞ！」

カメレオングリーン「うん、これでまた戦える！」

ワシピンク「ハミイ先生や皆が私達の事を応援してる！」

シシレッド？「行くぞ皆、ゾディアックキャロルを倒して世界を守るぞ！」

シシレッドオリオン「ああ、行こう！」

ゾディアックキャロル「ほざけ、最後に勝つのは我だ！」

さあ、いよいよ本当の最後の戦いだ。

NEW STORY

スペースファイナル、光輝く未来へよっしやラッキー！

響達がエクストライブになって和斗とラッキー達はゾディアックキャロルに向けて並ぶ。

シシレット？「俺達皆はこの世界を守る、俺達は諦めない！」

シシレット？「コスモスター、シシレットギャラクシー！」

サソリオレンジ「ポイズンスター、サソリオレンジ！」

オオカミブルー「ビーストスター、オオカミブルー！」

テンビンゴールド「トリックスター、テンビンゴールドや！」

オウシブラック「リングスター、オウシブラックごわす！」

ヘビツカイシルバー「サイレントスター、ヘビツカイシルバー！」

カメレオングリーン「シノビスター、カメレオングリーンです！」

ワシピンク「スピードスター、ワシピンク！」

カジキイエロー「フードマスター、カジキイエローです！」

リュウコマンダー「ドラゴンマスター、リュウコマンダー！」

コグマスカイブルー「ビッグスター、コグマスカイブルー！」

ホウオウソルジャー「スペースバスター、ホウオウソルジャー！」

響「ガングニール、立花響！」

翼「アメノハバキリ、風鳴翼！」

クリス「イチイバル、雪音クリス！」

マリア「アガートラム、マリア・カデンツァヴナ・イヴ！」

調「シユルシヤガナ、月読調！」

切歌「イガリマ、暁切歌デース！」

奏「ガングニール、天羽奏！」

シシレッドオリオン「ミラクルスター、シシレッドオリオン！」

シシレッドギャラクシー「究極の救世主と装者、宇宙戦隊！」

全員「キュウレンジャー！」（デース！）

全員はポーズを決めた。

ゾディアックキャロル「貴様らああああ、ここで散るがいい！」

ゾディアックキャロルは魔方阵を使つて巨大アルカノイズ多数と幻獣みたいな巨大獅子を出した。

シシレッドギヤラクシー「シヨウ総司令、皆は巨大アルカノイズ多数とあいつを頼む、ゾディアックキャロルは俺とラッキーさんと響に任せてくれ！」

リユウコマンダー「よし、わかつた、キュータマジンでいこう、翼ちゃん達は援護を頼む！」

翼「はい！」

ホウオウソルジャー「よし、行くぞ！」

スーパーカモン・ザ・ドッキング！

キュータマジン！

リユウコマンダー「これが最後の戦いだ、勝つて皆で生きよう！」

全員「オツキュウ！」（です！）

シヨウ総司令達はキュータマジンでゾディアックキャロルの出した幻獣みたいな獅子と多数の巨大アルカノイズの相手をし、翼とマリアと奏、調と切歌とクリスはシヨウ総司令達の援護する。



シシレッドオリオン「ゾディアックキャロル、お前を倒してキャロルの命を救う！」

ゾディアックキャロル「なら？ 我の力を思い知らせてやる！」

響「人と人が分かり合う為にも負けない！」

シシレッドギャラクシー「よし、行くぞー！」

和斗とラツキーはキューソードを構え、響は拳のアームドギアでゾディアックキャロルと対決、迫力的な戦いをする。

シシレッドギャラクシー「うおおおおお！」

シシレッドオリオン「和斗、響、油断するなよ！」

響「はい！」

ゾディアックキャロル「ならば喰らえ、スコルピオの足技を！」

シシレッドオリオン「当たるかよ！」

ゾディアックキャロル「なっ？ いつの間に？ うわああ！」

ゾディアックキャロルはラツキーに向かってスコルピオの蹴り技を放ち、いつの間にか瞬間移動でゾディアックキャロルの後ろにつき、攻撃する。

響「凄い？ ラツキーさん！」

シシレッドギャラクシー「ああ、これが？ ラツキーさんの力?!」

玄十郎「あれがドン・アルマゲを倒した伝説の救世主?!」

朔也「ええ、ゾディアックキャロルと互角に戦ってますね!」

未来「あれ? スティンガーさん達は?!」

未来は司令室でスティンガーとバランスとナーガとラフタがいないのに気づく、まさか?。

クリス「これでも喰らいやがれ!」

翼「はああお!」

マリア「はあっ!」

エクストライブになったクリス達はアームドギアでキュータマジンの援護しながら巨大アルカノイズに攻撃。

奏「くそっ、倒してもキリがねえ!」

? 「援護なら僕たちに任せて!」

? 「オリオン砲、発射します!」

バトルオリオンシップが翼とシヨウ総司令達の援護に駆けつけた。

オオカミブルー「えっ？バトルオリオンシップ?!」

ワシピンク「一体誰が?!」

ステインガー「俺達だ!」

なんとステインガー司令とバランスとナーガとラフタがバトルオリオンシップに乗ってた。

未来「えっ？いつの間に?!」

玄十郎「ステインガー司令達、戦うのか?!」

ステインガー「ああ、ラッキーと和斗達が戦ってる、俺達も援護する!」

バランス「久しぶりの砲撃主砲、発射ポヨ〜!」

ナーガ「ああ、行くぜえええ!」

バランスとナーガはレバーを押して援護射撃、ナーガは狂ったように押しまくる。

切歌「おおおお？巨大アルカノイズが多数撃破デース！」

調「切ちゃん、残りは私達でやろう！」

「ガアアアア！」

ゾディアアックキャロルが出した獅子の幻獣は口から炎を出してキュータマジンに攻撃。

テンビンゴールド「おわつ、あのライオンのポケモン、炎を出して攻撃してきたで！」

リュウコマンダー「よし、反撃だ！」

カジキイエロー「はい！」

セレナ達も負けずにレバーを引いてパンチ攻撃。

シシレッドギヤラクシー「うおおおおお！」

ゾディアアックキャロル「ふん、熱くなつて貴様はこれでも喰らえ！」

ゾディアアックキャロルはカウンターでレオルスの爪を出して隙をついて和斗に攻撃すると。

シシレッドギヤラクシー「そんなのには当たらない！」

ゾディアアックキャロル「なっ？うわああ！」

和斗は左手からもう一つキューソードを出して攻撃を防いで反撃。

響「スゴい、和斗君、剣をもう1つ出せるなんて?!」

シシレットギヤラクシー「へへ、感覚を研ぎ澄ませて出せたんだ!」

ゾディアックキャロル「おのれよくも、これでも喰らえ!」

シシレットオリオン「そんなものは効かない!」

ラツキーは直ぐ様に手を振り、12個のキューウエポンを出して防ぐ。

ゾディアックキャロル「なっ? 我の攻撃を? ならば!」

シシレットオリオン「ん? ならば!」

ラツキーは鏡みたいな物を出して攻撃しようとするゾディアックキャロルに写し、ゾディアックキャロルの攻撃を返す。

マリア「一気に決めるわよ!」

5人「御意! (おうよ!) (デース!)」

マリア達はアームドギアの必殺技で巨大アルカノイズを多数撃破。

「ガアアアア!」

ヘビツカイシルバー「よし、切歌達が巨大アルカノイズを撃破したぜ!」

オウシブラック「おいどん達も決めるでござす！」

カメレオングリーン「先ずは！」

ワシピンク「私達から行くよ！」

カジキイエロー「うん！」

アミとエリとセレナはキューボーイジャーで幻獣に向けてビーム攻撃。

ヘビツカイシルバー「よし、次は！」

テンピンゴールド「ワイらで行くで！」

オオカミブルー「ああ、4人で決めるぜ！」

オウシブラック「合点でござす！」

次に功太と蓮司と壮汰と剛も続いてキューボーイジャーで連続攻撃。

リュウコマンダー「よし、最後は！」

コグマスカイブルー「俺達だ！」

サソリオレンジ「ああ、行くぞ！」

最後にショウ総司令と小太郎と祐一のキューボーイジャーで攻撃。

「ガアアアア！」

幻獣が怒って叫んだ。

ホウオウソルジャー「なっ？怒ったぞ?!」

ピツ

ステインガー「スバル、皆、バトルオリオンシップのキューキョクギャラクシーを撃つ、キュータマジンのエネルギーをこっちにチャージ頼む！」

リュウコマンダー「了解、皆、バトルオリオンシップにエネルギーチャージするぞ！」  
10人「オツキュウ！」

キュータマジンはバトルオリオンシップの背後につきエネルギーをチャージするがチャージが遅い。

翼「マリア、奏、私達も！」

奏「おうよ、小太郎達の為にやるぞ！」

マリア「ええ！」

翼達はバトルオリオンシップに着きチャージ、キュータマジンのエネルギーチャージをサポートする。

ヘビツカイシルバー「切歌、調、サンキュー！」

切歌「アタシ達も功太達の為にやるデス！」

調「うん、私達も皆のために役に立つ！」

テンビンゴールド「助かるぞ！」

ラフタ「エネルギーチャージが完了しました、これなら撃てます！」

ステインガー「よし、キューキョクギヤラクシー砲、発射！」  
バランス「オツケー牧場！」

ナーガ「うおおお！」

キューキョクギヤラクシー！

バランスとナーガはトリガーを引き、レーザーを発射。

「ガアアアア！」

幻獣は攻撃をうけて倒れた。

全員「グッドラック！（デース！）」

キュータマジンはエネルギーをなくなつて機能停止する。

ホウオウソルジャー「幻獣は倒れましたけど、後は！」

リュウコマンダー「ああ、ゾディアックキャロルだけだよ！」

未来「……和斗君！」

洗「響、和斗君、負けるな、俺は最後まで応援するぞ！」



未来と洗は響と和斗とラッキーを心配して見る。

ゾディアックキヤロル「ほお、幻獣を倒すとはやるもんだな、貴様の仲間は！」

シシレッドギヤラクシー「俺達は皆がいるから負けない気持ちがある！」

響「うん、私達には皆がいたから諦めない！」

シシレッドオリオン「ああ、よっしゃラッキーに希望がある！」

ゾディアックキヤロル「ならばその希望を絶望に変えてやる、喰らえ双子の雷撃波！」

3人「うわああ！」

和斗達3人はゾディアックキヤロルのジェミニスの技を喰らって倒れる。

翼「立花？獅子野？ラッキーさん?！」

クリス「今助けるぜ！」

ゾディアックキヤロル「邪魔はさせせん！」

「ガアアアア！」

ゾディアックキヤロルは魔法を使ってさつき倒した幻獣と巨大アルカノイズ多数を復活させ。

奏「なっ？復活しやがった?！」

ゾディアックキヤロル「ハハハ、これで終わりにしてやる、覚悟しろ！」

すると。

ドクン!

ゾディアアックキャロル「なっ? 我の体が痛む?!」

「ガアアアア!」

ゾディアアックキャロルが体が痛むと復活した幻獣と巨大アルカノイズ多数が消滅。

翼「復活した敵が消滅?!」

クリス「どうなつてんだ?!」

マリア「ん? 何かヘッドホンから声が聞こえてるわ?!」

切歌「アタシにもデス?!」

調「これはまさか?!」

調達のヘッドホンから何やら声が聞こえる声が聞こえ。

オオカミブルー「ん? 何か聞こえるか? セレナ?!」

カジキエイエロー「私にも人の声が聞こえます、頑張れと!」

リュウコマンダー「ボクチン達の事? 応援する声が聞こえる?!」

玄十郎「これは?!」

未来「皆が和斗君と響達を応援する声が聞こえる?!」

キュータマジンの中にいるシヨウ総司令達や司令室にいる未来達にも応援する声が聞こえてた。

(頑張れ、キュウレンジャー!)

(頑張れシンフォギアのお姉ちゃん!)

響「和斗君?これって?!」

シシレッドギャラクシー「ああ、ゾディアックキャロルの吸い込まれた人達が俺達の事を応援してるぞ!」

和斗や響にも人達の応援の声が聞こえた。

ゾディアックキャロル「バカな?そんな声が聞こえるのか?貴様らああああ!」

シシレッドオリオン「和斗達は聞こえてる、皆の応援する声が、俺にも感じる!」

ゾディアックキャロル「何だと?貴様にも感じているのか?その声を?!」

シシレッドオリオン「ああ、俺達は運を信じて皆の応援する声が聞こえ力になる事を感ずる、俺達は希望を信じて突き進む!」

3人「よっしゃラッキー!」

和斗とラッキーと響は大声でよっしゃラッキーと叫び体が輝く。

ゾディアックキャロル「なら、その希望を滅ぼしてくれ!」

シシレッドギヤラクシー「お前の運、試して貰うぜ！」

♪♪

LUCKY STARの曲に流れ、和斗と響とラッキーはゾディアックキャロルと再対決。

マリア「翼、私達はもうしたらいいかしら?!」

翼「あ…：あぁ、とにかく見守るしかない！」

クリス「よくわかんねえけど頑張りやがれ！」

シシレッドギヤラクシー「先ずはこれだ！」

和斗は赤いオーラからクリスのギアのイチイバルのガトリングを出した。

響「えっ？クリスちゃんも武器も出せるの?!」

シシレッドギヤラクシー「ああ…：何か何だか出てきたぞ?!」

ゾディアックキャロル「バカにしてるのか？これでも喰らえ！」

シシレッドギヤラクシー「ええーいやケクソだー！」

ゾディアックキャロル「ぐわああ！」

ゾディアアツクキャロルは和斗に向かって攻撃しようとする。すると勝手にガトリングが放ちゾディアアツクキャロルに攻撃。

クリス「あいつ？あたしのガトリングを出しやがった？どうなってんだ?!」

翼「もしかすると獅子野がつけてるキュータマは私達のアームドギアが使えるのか?!」

響「どりゃあ!」

響はゾディアアツクキャロルに向かってアームドギアのパンチするが。

ゾディアアツクキャロル「お前はこれだ、リブラーンの技、天秤波!」

シシレッドギヤラクシー「響の攻撃を止めさせねえ!」

ゾディアアツクキャロル「なっ?うわああ!」

響「おりゃ!」

ゾディアアツクキャロルはリブラーンの技で響の攻撃を止めようと瞬間に調のアームドギアのヨーヨーで攻撃して響がパンチ。

調「あのアームドギアは私の?!」

切歌「スゴいデース!」

ゾディアックキャラル「いい気になるなよ貴様ら、串刺しにしてくれ！」

ゾディアックキャラルは手をかぎして響と和斗のいるところにエリートロンの技の大量の矢を放ち。

シシレッドオリオン「そんなものは当たらない！」

ラッキーは響と和斗のところに行き、リユウツエーダとキュークロスボウを出して放ち、矢を全て破壊。

ゾディアックキャラル「何故だ？何故貴様らは私の力を越えた、我はキャラルの体を使って強いはずだ？何故?!」

シシレッドオリオン「わからないのか？キャラルの体を使って世界を壊しお前は自分だけの世界にしようと企んでた、だからお前は弱くなった！」

シシレッドギャラクシー「ああ、俺達は応援してる皆の声が聞こえ、力が漲る、俺達とは人と人が繋ぐ未来へ進むと決めた！」

響「うん、私達は和斗君達と一緒に繋ぐ未来へ前へ進む、私のアームドギアは人と人が繋ぐ絆！」

3人「だから俺達は（私達は）最後まで諦めない！と決めた！」

ゾディアックキャラル「ほげげ、貴様らなど私の闇の力で消滅してくれる！喰らえ絶望の十二宮！」

和斗と響とラッキーは光に輝きゾディアックキャロルに向かつて突撃するがゾディアックキャロルは十二宮の力の闇の波動で和斗達に向けて放つ。

3人「うおおおおお！」

ゾディアックキャロル「勝つのは我だ、絶望に飲まれて消えろ！」

お互いの攻撃の力比べし、ゾディアックキャロルの方が力が上だったその時。

翼「獅子野、立花、ラッキーさん、私達の力を受け取れ！」

マリア「ええ、あなた達には色々と助けて貰ったわ！」

奏「今度はあたし達が支えるぜ！」

クリス「負けんよ！」

切歌「フアイトデース！」

調「頑張ってください！」

翼達は和斗達3人に光の力を与え。

玄十郎「負けるな、和斗君、響君、ラッキー！」

未来「私も2人を応援してる、諦めないで！」

洗「負けるな!」

リベリオン司令室にいる未来達が光に輝き和斗達に力を与え、同時にブリーフィングルームにいる和斗の両親や他の人達も光を与え。

リュウコマンダー「よし、ボクチン達も和斗君とラツキーに力を与えるぞ!」

全員「オツキュウ!」

キュータマジンにいるショウ総司令達やバトルオリオンシップにいるステインガー達も和斗達に光を与えた。

響「凄い、翼さん達が私達を支えてるよ和斗君!」

シシレッドギャラクシー「ああ、皆が俺達のために力を与えてる!」

ゾディアックキャロル「バカな?力が我を越えるとは?負けんぞー!」

? (貴様の野望はオレと共に散る!)

ゾディアックキャロル「なっ?貴様はキャロル?何をする?!」

なんとゾディアックキャロルの体からキャロルの光体が現れゾディアックキャロルの動きを封じるように抑える。



響「キャロルちゃん?!」

キャロル（今だ、奴の動きを抑えてる間にオレもろとも奴を討てええええ!）

響「キャロルちゃん、うん、わかったよ、和斗君!」

シシレッドギヤラクシー「ああ!」

和斗はギヤラクシーキュータマのボタンを押しして右腕がガングニールの拳を装備。

シシレッドオリオン「決めるぞ2人とも!」

2人「ああ!（はい!）」

ギヤラクシー!

シシレッドオリオン「インフィニツシユアタック!」

ゾディアックキャロル「ぐわああ!」

ラツキーが必殺技で体当たりし。

シシレッドギヤラクシー「行くぞ響!」

響「うん、最後は私達が決める!」

ギヤラクシー!

シシレッドギヤラクシー「シンフォニックブレイク!」

響「どりやあああ!」

ゾディアックキャロル「がはっ!」

最後に和斗と響がダブルパンチでゾディアックキャロルの腹に一撃の右ストレートを決まった。

ゾディアックキャロル「我は消えんぞ、我は世界を壊して支配するものだああ！」  
シシレッドギヤラクシー「まだ生きてたのか？ん？何だ？ギヤラクシーキュータマが?!」

ゾディアックキャロル「なんだ？うわああ！」

和斗のセイザブラスターからギヤラクシーキュータマが離れ、シシレッドに戻り6つの聖遺物キュータマに戻り闇体となったゾディアックキャロルに向けて光を放った。

ゾディアックキャロル「ぐわああ！我は、我はあああ！」

ゾディアックキャロルの闇体は6つの聖遺物キュータマの光を浴びて消滅したと同時にキャロルの光体が現れた。

シシレッド「キャロル?!」

キャロル（キュウレンジャー、シンフォギア、貴様らには感謝するぞ、オレを倒してくれるとはな！）

響「キャロルちゃん、ごめんね命を守れなくて、それでも私達は……！」

キャロル（何も言うな立花響、オレはこれでパパの所に行く、貴様にも例を言うぞ獅子野和斗！）

シシレッド「キャロル！」

キャロルは光に輝くと壊れてた街が全て修復し。

「ん？俺は生きてる?!」

「やったー、生きてるぞー！」

ゾディアックキャロルに吸収された人達も元通りになり喜び。

エルフナイン「う…うーん、僕は一体?!」

未来「エルフナインちゃん?!」

司令室にいるエルフナインが目を覚ました。

玄十郎「エルフナイン君？大丈夫なのか?!」

エルフナイン「はい、キャロルが僕の命を救ってくれました！」

玄十郎「キャロルが?!」

響「あつ？聖遺物キュータマが?!」

シシレッドオリオン「光になったキャロルの所へ?!」

ゾディアックキャロルを消滅した6つの聖遺物キュータマはキャロルの所へ飛んで

いくと消え始める。

キヤロル（獅子野和斗、立花響、貴様と対決してオレは嬉しいぞ、貴様らも幸せにな  
！）

そう言つてキヤロルは6つの聖遺物キュータマと共に消えた。

シシレッド「キヤロル：：俺はきつと響と未来を幸せにするぜ、よっしやラッキー  
！」

和斗は大空に叫んだ、よっしやラッキーと。

響「和斗君、ありがとう！」

こうして魔法少女事変の戦いは幕を閉じ、地球は救われた、12人のキュウレン  
ジャーと7人のシンフォギア装者が皆の命を救った。

あれから7年後

## エピソード！

あれから7年後。

リベリオン本部司令室

「候補生達のパトロールの報告書です、未だ事件はなく平和です、ん？司令？天羽小太郎司令?!」

小太郎「ん？ああ、すまない！」

職員の声で驚いたスカイブルーのロングコートの司令服を着た青年、そう佐久間小太郎だった、小太郎はあの戦いから2年後に19歳になって奏と結婚して天羽小太郎という名前に変わり現在は24歳でリベリオン本部の司令勤務。

ウーーン

奏「よお小太郎、来たぞ！」

? 「パパー！」

司令室に入ってきたのは妻の奏と彼女と髪の色がそっくりの元気な声をした少女は天羽由岐、小太郎と奏の娘、現在は5歳。

小太郎「奏、由岐、来てたんだ！」

奏「ああ、もうとつくに皆来て宴会場でパーティーしてるぞ、玄十郎のダンナと翼の親父さんも待つてるぞ！」

由岐「パパ早く〜！」

小太郎「ああ、今行くよ、あとお願い！」

「わかりました、司令ごゆつくり！」

リベリオン本部宴会場

全員「乾杯！（デース！）」

宴会場ではスバル達と翼達がパーティーを楽しんでる、玄十郎も翼の父、八紘も来てた。

シヨウ・ロンポー「いや〜久しぶりだね皆〜元気にしてた〜?!」

スバル「はい、お陰さまで俺は翼とマリアと結婚することが出来てよかったです！」

翼「ええ、鳳大統領には本当に感謝します！」

そう、ゾディアックキャロルとの戦いが終わって1年後、宇宙連邦にてツルギがあることを発表した。

ツルギ（刮目せよ、2人の女性と結婚することをここに宣言する、皆も大切な人2人を幸せにするんだぞ！）

(ワアアア！)

そう、ツルギが発表した宣言は2人の女性と結婚することが出来る宣言、本来の政治家によると大切な人と1人と結婚するがツルギの宣言で2人の女性と結婚することを許可した、あの戦いから1年後クリスと祐一がリディアンを卒業した後、スバルはマリアと翼と結婚し、スバルとマリアは風鳴家の家族になり、その2年後、2人の子供が産まれた。

マリア「私とスバルも風鳴家の家族として頑張っているわ！」

八紘「ウム、スバルも私の所の仕事と宇宙連邦の国家議員として頑張っておるぞ！」

スバル「はい、お義父さん！」

？「お爺様〜！」

八紘「おおく舞や、可愛いもう！」

八紘の所に行く彼女と同じ青い髪の少女、風鳴舞、隣にいるピンクの髪の少年は風鳴広人、翼とスバルの娘とスバルとマリアの息子、年齢は奏の娘と同じ5歳。

舞「はい、広人お兄ちゃんとお爺様の所に来ました！」

広人「妹の元気さについていただけだ！」

スバル「ははは、広人は妹思いだな！」

広人「父さん！」

クリス「ははは、先輩とマリアの子供は元気だな祐一！」

祐一「ああ、すっかり翼の親父も孫にデレデレだな、なあ駆！」

駆「うん、彩も喜んでるよ父さん！」

彩「きやきやく！」

オレンジの服を着た青年、祐一、銀髪のウェーブヘアの女性、クリス、クリスは響と和斗達がリディアンを卒業して1カ月後、結婚して祐一の桐山が雪音に変わり、1年後に息子の駆を出産、3年後に娘の彩を出産、現在は祐一は妻クリスは息子と娘と一緒に世界中に歌を届けるために活動、息子の駆は4歳、娘の彩は0歳。

玄十郎「おっ？クリス君と祐一君、久しぶりだな！」

祐一「玄十郎司令、久しぶり！」

玄十郎「元気にしてたか?！」

クリス「おうよ、祐一と子供と一緒に世界中に歌を届けるために頑張ってるからな、おっさんの方はどうなんだ?！」

玄十郎「ああ、シヨウ総司令から総司令の座を受け継いで今は総司令として司令になった小太郎の手助けをしてるぞ！」

シヨウ・ロンポー「ボクチンは総司令を引退して今は地球でツルギ君の所で優雅に暮



らしてやるよ、ステインガーの方はリベリオン星の総司令で忙しいからね！」

そうあの戦いから1年後、シヨウ総司令は総司令を引退し玄十郎がリベリオン地球所  
属の総司令に就任、ステインガーはリベリオン星の総司令に就任、シヨウ総司令は引退  
後はツルギのいる銀河連邦の宮廷で優雅に暮らしていた。

セレナ「お待たせしました、セレナ特製のグラッツェスペシャルです！」

壮汰「俺もセレナの手伝いをしてたぜ、食ってくれ！」

料理を持ってきたコックの姿の二人、そう成長した壮汰とセレナ、壮汰とセレナはリ  
ディアンを卒業後、スパードさんの所のグラッツェに就職し料理に励み3年後に結婚、  
1年後に子供が生まれた、娘の名前は由利、2歳。

切歌「セレナと壮汰の料理が来たデース！」

功太「ああ、セレナと壮汰の料理はめっちゃ旨いぜ！」

調「うん、私より少し美味しい！」

蓮司「ワイらも食べに行つたときは壮汰の方は旨かったで！」

アミ「うん、蓮司のたこ焼きも美味しい！」

エリ「そうね！」

そう功太も蓮司もディアンを卒業後、3年後に功太は切歌と調と結婚し現在はスケ  
ボー店を経営、蓮司もアミとエリと結婚し神奈川で不動産及びたこ焼き屋経営、1年後

に功太は切歌と調の子供を出産、蓮司もアミとエリの子供を出産、切歌の息子の名は隼人、調の娘の名は真帆、アミの娘の方は彩花、エリの息子の方は竣、年齢は同じ2歳。クリス「おっ? お前ら久しぶりだな、元気にしてたか?!」

切歌「元気にしたデース、功太と一緒にスケボー店は繁盛デース!」

功太「ああ、子供達も俺のスケボーテクニク見てやりたくなって買ったんだ!」

蓮司「ワイの方はバランスさん直伝の不動産パソコンテクニクやたこ焼きは頑張ってるで!」

? 「お待たせでござす!」

功太「おお剛、ん? ニヤンコロ星人の奥さんと子供と一緒にか?!」

剛「紹介するでござす、おいどんの女房はニヤンコロ星人のアヤノ殿、そして息子の名は郷でござす!」

郷「おいどんは南野郷、2歳でござす!」

剛は来て早々功太達に女房と子供を紹介し、息子は挨拶する。

蓮司「おっ? 頭に猫の耳が生えてるで?!」

アヤノ「実は人間とニヤンコロ星人のハーフですこの子は!」

調「かわいい!」

切歌「猫耳かわいいデース!」

ウイーン

小太郎「皆、遅くなってごめん！」

奏「お待たせ！」

小太郎と奏と由岐も宴会場に入ってきた。

舞「由岐ちゃん！」

由岐「舞ちゃん！」

翼「奏、遅いわよもう！」

奏「いやゝ悪い悪い、小太郎の仕事がちよつと忙しくて部下に任せたから遅くなつち

まった！」

マリア「後は和斗と響と未来ね！」

小太郎「ああ、さつき連絡がきてもうすぐここに着くよ、車で来てる！」

奏「事故にあわなければいいのにな！」

翼「そうね、そう願うぞ！」

スバル「そうだね！」

東京道路

アナウンス「88星座占い、今回の最高の運は獅子座です!」

? 「よっしやラッキー!」

ワゴン車に乗って運転中に信号待ちでラジオの占いでよっしやラッキーと叫ぶ青年、  
そう和斗だった。

? 「もう和斗、あんまり大声を出さないでね、美穂が起きちゃうから!」

? 「あはは、和斗君の運勢よかったね!」

和斗「ああ、息子の和真も俺のよっしやラッキーに喜んでるよ!」

助手席に乗ってる黄色い髪のロングヘアアの女性と後ろに乗ってる黒いロングヘアアにリボンか特徴の女性、そう響と未来だった、ゾディアックキャロルを倒して3年後、和斗は響と未来と結婚し、東京の海が見える景色の一戸建ての家に3人で住み、1年後に響の息子の和真3歳、3年後に未来の娘の美穂を出産、0歳。

和真「父さん、何処に行くの?」

和斗「ああ、父さんと母さんの友達がたくさんいるリベリオン本部、おつ?青に変わった跳ばすぞ!」

和斗はアクセルを踏んで猛スピードに運転する。

響「和斗君、運転早い?」

和斗「もうすぐ着くぞ、掴まってよ!」

キイイイ

ドン

玄十郎「ん？何だ?!」

シヨウ・ロンポー「何やら本部の駐車場周辺から音がなつたよ！」

スバル「行ってみましょう！」

シヨウ総司令達は外に出てみると駐車場の壁にぶつかった車を見る。

奏「おい？あの車って?!」

小太郎「まさか?!」

和斗「おりゃ！」

ぶつかった車からドアを開いて和斗と響と未来と子供達が出てきた。

全員「和斗?!（獅子野?!）（和斗さん?!）（先輩?!）」

響「ゲホゲホ、皆久しぶり〜！」

未来「和斗、もうスピード出しすぎ、美穂が泣いちやつたじゃないの！」

和斗「まあいいじゃん、着いたから、よっしゃラッキー！」

E  
N  
D

## 番外編&amp;トーク！

スペーススペシャル、皆様お疲れ様スペシャルトーク（学生）！

リベリオン本部シミュレーション室

エルフナイン「皆様、最終回お疲れさまでした、最終回を終えた記念にスペシャルな企画を司令とショウ総司令と一緒に作りました、題して、スペシャルトーク、皆様お疲れ様スペシャルトークです！」

和斗「よっしやラッキー！」

響「いえーい！」

調「ドンドンパフパフ！」

そう、エルフナインが玄十郎とショウ総司令と企画したのは最終回を終えたスペシャルトーク、このトークは今まで和斗達が戦った事や色々な事を皆で話して盛り上げるスペシャル企画、今回は学生組なので1年、2年、3年分けに座っていた。

クリス「おい、ちよつと待て！」

エルフナイン「どうしたのですか？クリスさん?!」

クリス「トークやるのは良いけどよ、何で1年だけ多いんだ?…: 和斗とバカと未来と小太郎は良いがあたしと祐一だけだぞ3年は?!」

蓮司「しやらないで、クリス先輩、エルフナインが企画したトークなんや、皆を盛り上げるために我慢や!」

功太「そうそう、蓮司の言うとおりだぜ、盛り上げる為のトークだからな!」

壮汰「うんうん!」

剛「ごわす!」

エルフナイン「す…すみません、けど安心してください、クリスさんと祐一の所には特別ゲストをご招待しました、この人達です!」

エルフナインがゲートを開けると中から人が2人現れた、1人目は赤い海賊の服を着た男と赤い服を着た青年、そうゴーカイジャーからゴーカイレッドのキャプテンマーベラスとジウオウジャーからジウオウイーグルの風切大和だった。

和斗「あれ?マーベラスに大和?どうしてここに?!」

マーベラス「よう、特別ゲストとして俺達も参加するぜ!」

大和「後輩とその仲間達が地球を守ったことを感謝してマーベラスさんと来たよ!」  
エルフナイン「では大和さんとマーベラスさん、クリスさんと祐一さんの席へ!」



マーベラス「おうよ、ありがとよちくわナイン！」

エルフナイン「僕はエルフナインです、間違えないうでください！」

マーベラスと大和は直ぐ様クリスと祐一の座つてる席に座つた。

祐一「あんた達が先輩？ 派手な服着てるな！」

マーベラス「おうよ、俺の時は派手なもん着てるからな！」

大和「ははは…… マーベラスさんは派手にやらないと気が済まないんだよ！」

クリス「大和と声かけてるけど、あんたらは友達か？」

マーベラス「まあ、久々に地球に来て対決した事あるからな！」

大和「ええ、デスガリアンと戦う時は一緒に戦つてましたよ、キューブホエールを俺

に渡して！」

未来「マーベラスさん、いい人を連れてくるわね！」

小太郎「うん、ジュウオウイーグルの大和さんはいい人だよ、俺達の先輩だよ！」

エルフナイン「それでは皆様で笑おうスペシャルトーク、最初の方はこちらです！」

デデン

エルフナインが皆に映像を見せたのは、今まで戦つて何かトラブルがあつたことある？ と書かれたものを見せ。

和斗「あ……俺が1話の頃は響と未来と再開してる途中にバナナの皮に滑つて2人

のスカートと脱がしたことあったな！」

響「もう1つあった、26話の時は和斗君は私と未来が風呂に入ってるのに気づかずに入ってきて手を広げて私と未来の胸を触った！」

未来「40話は私が和斗君とウォータースライダーに乗ろうと左腕を掴んだときに和斗君が私の胸を揉んだの！」

和斗「あ……あれはわざとじゃないぞ、ちゃんと謝ってたぞ！」

和斗と響と未来は頬を赤くなりながらトラブルな事を皆に話した。

功太「あく、和斗先輩、トラブルな事あったな、俺にもあったよ、関係ない話だけど、学校が終わって俺は切歌と調を連れてスケボーの滑る場所に行ってスケボーしたんだ、切歌と調は座って俺のスケボーしてるところを見た！」

切歌「アタシと調は見えたデス！功太がスケボーの決め技の時、ズボンがずれてるところを見えたデス！」

調「そして功太がここに来た時はズボンがずれてパンツが丸見え、恥ずかしい！」

蓮司「ワイの方はエルフナインに頼まれてちよいと機械の修理をしたんや、その途中に何やら物騒なものが挟まってスパナで取ろうとしたんやけど、何やら電気回路が

切つてショートしたんや！」

アミ「そういうえば本部の方が途中停電になったのも蓮司君だったね!？」

蓮司「ホンマすまん、その後はエルフナインとラフタと一緒になるべく早く修理完了や！」

蓮司も功太もトラブルあつたことをみんなの前に話し、二人の顔が赤くなる。

マーベラス「お前らにもあつたんだな、トラブルな事、俺もあつたぞ、確かハカセに怒られて俺とジョーとルカはガレオンの修理とコックピット周りの掃除してたな、確か、ザンギヤツクの小さい奴になる奴が侵入して銃で射つがモニターまで壊してしまつたからな！」

エルフナイン「まあ、ともかく次のトークをしましょう、次はこれです！」

エルフナインが次に映像を見せたのは、良いこととしたことを皆さんの前で話そうだった。

壮汰「あつ、俺は良いこととしたことあるぞ、確か俺はセレナとグラツツエでスパードさんの所で手伝いに行つて料理を皆のために運んでる！」

剛「おいどんの所は市街地に荷物を重たそうなおばあさんの手伝いしてたでござわす！」

和斗「俺は……響と一緒に人助けとかしてたな、未来の手伝いとか色々！」

大和「そうだったんだ、俺は仲間達と一緒にデスガリアンを倒して人間とジューマンの為に戦ってたんだ！」

セレナ「大和さんは仲間と一緒に命を守るために戦ってましたね、私達もわかります！」

クリス「あたし達も皆を守るために戦ってたんだな！」

祐一「ああ、そうだな！」

エルフナイン「うう、大和さん、感動させてありがとうございます、ボクも聞いて嬉しいですよ！」

エルフナインはどうやら大和の話聞いて涙を流す。

マーベラス「そういうえば俺にも良いことあったな、ワルズギルの攻撃で皆を守った所！」

和斗「マーベラスにも良いことあったんだな、海賊なのに!?!」

マーベラス「そうか？俺は案外優しい所もたまにあるからな！」

エルフナイン「さて、お次は最後に皆様の前で印象に良いことを話して下さい、感動な話でも構いません！」

和斗「ん？ああ、俺に印象に良いことは……響と一緒に地球や皆を守れた事だな！」

俺は響と未来と皆と過ごした地球を守るために一生懸命頑張ったんだ！」

小太郎「俺は…… 印象に残ったことは、奏と皆と一緒に戦えたことを誇りに思ってるよ、俺は和斗や響達と一緒にリディアンで過ごした事やS・O・N・Gの皆と楽しんでた事、色々あったよ！」

響「和斗君！」

クリス「ほんとにありがとうな！あたし達も一緒に戦えたことを嬉しいぜ！」

祐一「ああ、俺達もお前らには感謝するぞ！」

エリ「和斗先輩、本当にありがとうございます！」

マーベラス「お前らも良く頑張ったな、俺と大和からこれをくれてやる！」

マーベラスは和斗に花束をプレゼントする。

和斗「皆…… 本当にありがとう、俺は皆と戦えたことを感謝するよ、よっしゃラッキー！」

和斗は涙を流しながらよっしゃラッキーと台詞を決めながら泣いた。

響「和斗君……」

未来「ありがとう、ひっく！」

未来も響も和斗に続いて泣いた。

エルフライン「ボクからも本当にありがとうございます、和斗さん達がキャロルの野

望を打ち砕いて世界を救えたこと感謝します、和斗さん、最後の掛け声をお願いします  
！」

和斗「ああ、皆、本当にありがとう！心から皆にはとても感謝するよ、最後によつしや  
ラツキー、また会おうな！」

響「バイバーイ、皆！」

E N D